東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 14

東京大学本郷構内の遺跡

医学部教育研究棟地点

報告編

2019

東京大学埋蔵文化財調査室

東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 14

東京大学本郷構内の遺跡

医学部教育研究棟地点

報告編

2019

東京大学埋蔵文化財調査室

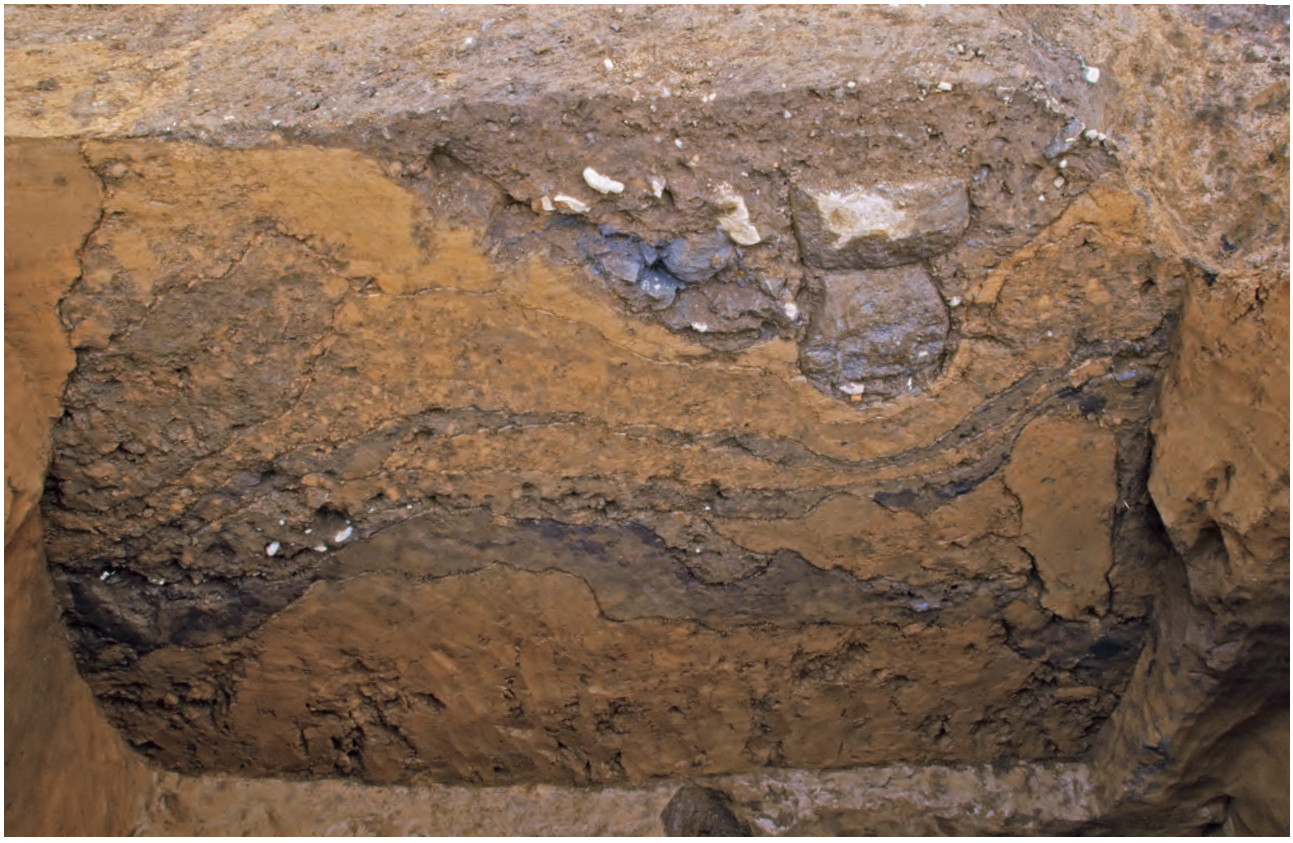
SX555・4059　能舞台

SB250　検出状況

SK4038 根石検出状況（1 段目）

SK4038 根石検出状況（2 段目）

SK4038（右）、SK4039（左）土層堆積状況



SP287（上）、SU279（下）土層堆積状況

SU210　地下室

SX4014 検出状況

SB2　検出状況

医学部教育研究棟地点出土　金泥かわらけ

SK4516　金泥かわらけ出土状況

SK4513　かわらけ出土状況

医学部教育研究棟地点出土　内曇りかわらけ

SK4553 出土かわらけ　刻書「寛十四／丑九月廿日／申時／三度入」

SB246・3100 出土　白磁壺

医学部教育研究棟地点出土　金箔瓦

例　　言

1．本報告は、東京大学本郷構内、医学部教育研究棟新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　報告編である。

2．埋蔵文化財調査室の管理番号は「本郷 24」である。

3．本地点の略称は「HIKN」とした。出土遺物に行った注記は旧略称「イケン」を用いている。

4．本地点は、東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷構内（東経 139 度 45 分 44 秒、北緯 35 度 42 分 35 秒、世界測地系Ⅸ系－ 32136.317 ～－ 32246.114、Y 座標－ 6402.372 ～－ 6451.834）に所在している。

5．本地点は、東京都遺跡地図「文京区 No.47 本郷台遺跡群（本郷七丁目･弥生二丁目、台地、集落･貝塚･大名屋敷、[平] 住居・[近] 礎石・土坑・地下式土坑・庭園・井戸・溝・杭・石垣 [旧][縄][弥][古][平][近])」内に位置している。

6．本地点の調査面積は、2,901 ㎡である。

7．調査期間は以下の通りである。

試掘調査　　1994 年 5 月 18、19 日

事前調査　　Ⅰ次調査：1994 年 11 月 17 日～ 1995 年 4 月 28 日

Ⅱ次調査：1997 年 3 月 10 日～ 4 月 25 日

Ⅲ次調査：1998 年 11 月 2 日～ 12 月 25 日

Ⅳ次調査：2002 年 9 月 3 日～ 12 月 25 日

8．本地点の試掘調査・事前調査は、東京大学埋蔵文化財調査室が行い、試掘調査は、武藤康弘（現、奈良女子大学）、篠原和大（現､静岡大学）､事前調査は堀内秀樹（Ⅰ次調査～Ⅳ次調査）､篠原和大（Ⅰ次調査）､大成可乃（Ⅱ次調査、Ⅳ次調査）が担当した。

9．本報告の編集は、堀内秀樹、小林照子が行った。

10. 執筆分担は以下の通りである

第Ⅰ章　堀内秀樹

第Ⅱ章　堀内秀樹

第Ⅲ章　堀内秀樹、大成可乃、小林照子

第Ⅳ章　大成可乃、大貫浩子、小林照子、堀内秀樹

第Ⅴ章　堀内秀樹

11. 発掘調査に伴う図面、写真、出土遺物は東京大学埋蔵文化財調査室が、駒場Ⅱリサーチキャンパス、茨城県石岡市柿岡 414 東京大学工学部・工学系研究科柿岡教育研究施設内において、運用、保存、管理している。

12. 遺物の実測は、今井雅子、北島くりか、坂野貞子、野々村海が行い、文化財 COM に委託し写真撮影、デジタルトレース、写真合成、図版作成を行った。

13. 本書に付属する CD-ROM には、報告編（PDF 形式）の他に、本文には掲載されていない遺構一覧表（詳細版）、遺物観察表（以上、xlsx 形式）、遺構写真、遺物写真（以上、jpeg 形式）が収録されている。

14. 発掘調査および報告書の作成にあたり、下記の方々からご教示を得た。記して感謝を表したい。（敬称略、五十音順） 安芸毬子、阿部常樹、荒川正明、池田悦夫、石岡智武、今村啓爾、岩淵令治、内野正、大塚達朗、大貫静夫、大橋康二、大八木謙司、小川望、梶原喜世子、梶原勝、加藤元信、金子智、菊池浩幸、木越隆三、木下直之、小池聡、古泉弘、後藤宏樹、小橋一朗、小林克、小林謙一、小松愛子、島﨑とみ子、鈴木裕子、鈴田由起夫、髙島裕之、滝川重徳、田島正和、谷川章雄、寺島孝一、栩木真、長佐古真也、中野雄二、成田涼子、西秋良宏、西田泰民、野上建紀、橋口定志、東中川忠美、藤井恵介、藤田邦雄、藤本強、前田利祐、松田陽、水本和美、宮崎勝美、宮崎博、村上伸之、両角まり、山口剛志

石川県金沢城調査研究所、石川県立美術館、石川県立歴史博物館、金沢市立玉川図書館、東京大学人文社会系研究科考古学研究室、東京大学医学部、東京大学総合研究博物館、東京大学施設部、加藤建設株式会社、パリノサーヴェイ株式会社、文化財 COM、文京区教育委員会、前田育徳会（公益財団法人）、三浦工業株式会社

15. 発掘調査・整理作業参加者

発掘調査

金田将二郎、山田哲、渡部森哉（東京大学）、伊藤大史、中村良和（日本大学）、田中麻子、松崎亜沙子（江戸東京博物館）、大島美智子、坂野貞子、佐藤律子（埋蔵文化財調査室）

飯田浩子、木島文雄、汲田紀男、後関英明、佐藤一男、四家英道、重永政行、清水英二、高根五郎、立川信生、銅家弘道、中村晴信、成田竹夫、西川高雄、野口記子、長谷川一哉、古家正美、細谷哲、松田雅之、三浦大司、三井信義、八木幸夫、山﨑邦雄、吉武耕治、吉野和政（三浦工業株式会社）

芦田高吉、阿部亜星、安部耕治、安部友一、伊早坂龍史、伊藤和人、井原瑞人、岩井理恵、岩田稔久、上原誠、江入俊郎、遠藤康生、大木茂、大原真吾、大山俊聡、岡田哲、落合博、片岸彰、加藤清、加藤隆一、金指真理子、鏑木洋、川里弘之、喜久里兼、河野英二、久保虎一、小村明弘、酒井剛志、塩谷敏夫、島田俊明、神宮秀男、平良悟、高木明、高田昌宏、田中義夫、知久優紀子、寺内聖治、竹内博之、竹中亮太、田村聡太郎、千葉真也、戸賀崎珠穂、冨田倫子、長田宏幸、中村雅美、内藤博隆、中田愛佳、中村敦、西畑太、長谷川泉、花立勝、八田照喜、早川雅史、原啓子、原口智宗、福田知子、藤井茂男、町澤建、松坂有司、丸山哲、宮根伸治、森沢信夫、守屋芳文、柳田利明、矢之貫修、八幡康久、山本由紀子、吉野恵美、吉山知宏、若井理江、渡辺綾（加藤建設株式会社）、

整理作業

青山正昭、安芸毬子、阿部常樹、池田奈津代、石井龍太、今井雅子、遠藤香、大貫浩子、加藤理香、香取祐一、川原良子、小林照子、坂野貞子、佐藤律子、田中美奈子、野村遊、宮本直子、北島くりか、渡辺法彦（埋蔵文化財調査室)、梶原勝、梶原喜世子、片岡直人（文化財 COM）、井戸川勝昭、大泉恵裕、冨田倫子（加藤建設株式会社）

（所属は参加当時）

凡　例

1．本文中に記載した遺構の略号は、以下の通りである。
SA：境（石列）　SB：基礎列　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　SP：ピット
SU：地下室　SX：性格不明、未略号化の遺構

2．本文中に記載した遺構番号は、以下のように調査次別に付した。このため、調査次をまたいで確認・調査された遺構は、別番号で調査を行った関係で、両者を併記した表記にした。
Ⅰ次調査：1 ～ 1000 番台
Ⅱ次調査：2000 番台
Ⅲ次調査：3000 番台
Ⅳ次調査：4000 番台

3．本報告の実測図の縮尺は、それぞれの図版に記した。遺物図版の縮尺は基本的に 1/3 であるが、これと異なる縮尺の場合のみ倍率表記を行った。

4．出土遺物の写真は、基本的に添付した CD-ROM に JPEG 形式に圧縮して記録した。

5．本文、挿図、観察表、CD-ROM の写真で使用した遺物番号は、共通の番号を使用した。

6．遺物図版に使用している記号は、以下のことを示している。
・遺物中心線上下の破線は、それぞれ推定口径、推定底径を表している。
・－ －は、断面を表している。
・▲は、高台、見込みなどの釉際を表している。
・＼――／は、口唇部の口銹を表している。
・擂鉢の↓――↓は、体部擂目の範囲を表している。
・口唇部の＼←→／は、敲打痕を表している。

7．本文中に記載した陶磁器･土器類は、「東京大学構内遺跡出土陶磁器･土器の分類」（いわゆる東大分類）の最新バージョンである『医学部附属病院入院棟 A 地点』で示した分類（東京大学埋蔵文化財調査室 2016）、人形・玩具類は「東京大学構内遺跡出土人形・玩具の分類」（安芸・小林・堀内 2012）、瓦類は「御殿下記念館地点、山上会館地点検出の瓦について」（加藤・金子 1990）に準拠している。
本地点からは、遺物収納箱にして 548 箱の遺物が出土している。これは調査時に必要と判断された出土状況などの記録以外に、遺物の取り上げは行わなかった瓦の細片、礎石や組石などに使用された石やその後込めに使用された割石、壁土、漆喰、炭化物、火山灰あるいは取り上げる際に崩壊するような一部の遺物を除外した出土遺物の総量である。この中には、胎質別に陶磁器・土器類、人形・ミニチュア、瓦、金属製品、石製品、木製品、骨角製品、ガラス製品、自然遺物等が含まれる。人工遺物については遺構別に遺構番号降順に記載した。
遺物実測図は、出土遺物全てを行うことは量的に不可能であり、本報告では出土遺構ごとにその年代や性格などを代表すると判断される遺物を中心に、完形率、希少性などを含めて図化選択を行った。
遺物観察表は、全て添付の CD-ROM に xls ファイルにて、保存・記録している。
遺物写真は、掲載遺物各個について写真撮影を行い、これを 1280×850 ピクセルで jpeg 形式に圧縮し、添付の CD-ROM に保存・記録している。

8．本地点の調査では、調査区の形状に適した任意のグリッドを設定して行ったが、その後に作成した東京大学構内遺跡グリッド（東京大学埋蔵文化財調査室 2017）を用いて表記した。

○胎質

J（磁器）　T（陶器）　D（土器）

○生産地

A－輸入陶磁器

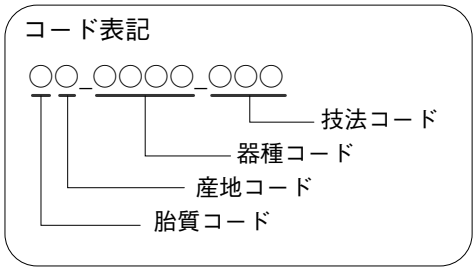
- A1　景徳鎮窯系
- A2　漳州窯系
- A3　徳化窯系
- A4　龍泉窯系
- A5　宜興窯系
- A6　朝鮮
- A7　ベトナム
- A8　ヨーロッパ
- A9　福建・広東系
- A10 西アジア

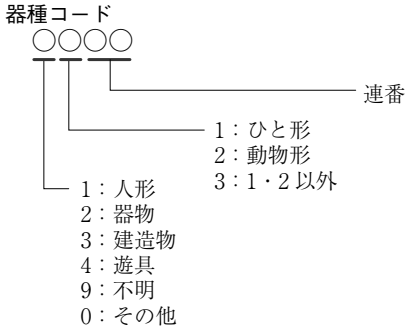
B－肥前系
C－瀬戸・美濃系
D－京都・信楽系
E－備前系
F－志戸呂系
G－常滑系
H－萩系
I－万古系
J－大堀・相馬系
K－丹波系
L－堺系
M－益子・笠間系
N－九谷系
O－壺屋系
P－淡路系
Q－薩摩系
R－三田系
S－飯能系
Z－不明

○器種

1.碗	2.皿･平鉢	3.大皿･大平鉢	4.燗徳利	5.鉢
6.坏	7.猪口	8.仏飯器	9.香炉･火入れ	10.瓶
11.御神酒徳利	12.油壺	13.蓋物	14.筆立て	15.壺･甕
16.急須	17.燗鍋	18.合子	19.水滴	20.蓮華
21.植木鉢	22.花生	23.片口鉢	24.灰落し	25.鬢水入れ
26.茶入れ	27.水注	28.漱瓶	29.擂鉢	30.餌入れ
31.火鉢	32.柄杓	33.鍋	34.土瓶	35.戸車
36.ちろり	37.薬研	38.手焙り	39.おろし皿	40.油受け皿
41.油徳利	42.行平鍋	43.十能	44.ひょうそく	45.瓦燈
46.カンテラ	47.ほうろく	48.七輪	49.涼炉	50.五徳
51.塩壺	52.燭台	53.蒸し器	54.懐炉	
63.あんか	64.煙硝擂鉢	65.乳棒	66.硯屏	67.釜

東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類



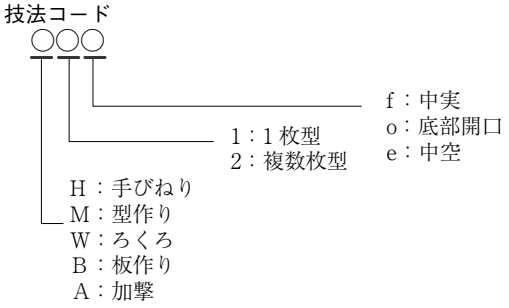


胎質コード

J：磁器（磁質）
T：陶器（陶質）
D：土器（土師質）
R：瓦　（瓦質）

産地コード

A：輸入陶磁
B：肥前系
C：瀬戸･美濃系
D：京都･信楽系
E：備前系
Q：江戸在地系
Z：不明

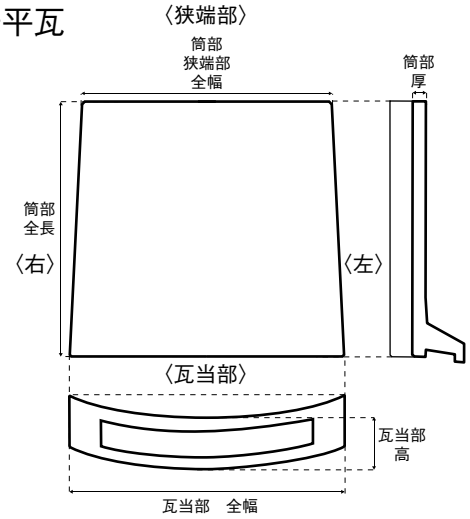


器種コード（詳細）

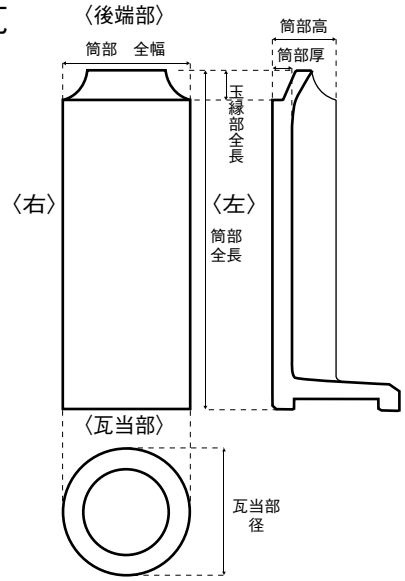
1000	人形												
	1100	ひと形											
		1101	天神	1102	恵比寿	1103	大黒	1104	福禄寿・寿老人	1105	布袋
		1106	不動明王	1107	地蔵菩薩	1108	猩々	1109	西行	1110	衿人形
		1111	力士	1112	朝鮮通信使	1113	蹴鞠人形	1114	坊主人形	1115	虚無僧
		1116	猟師	1117	猿曳き	1118	福助	1119	笛吹き	1120	若衆
		1121	姉様	1122	太夫（花魁）	1123	お多福	1124	三味線弾き	1125	裸婦
		1126	おぼこ・禿	1127	唐子	1128	ぶら人形	1129	這子	1130	狆抱き童子
		1131	亀乗り童子	1132	狆乗り童子	1133	面持ち童子	1134	金太郎	1135	桃持ち童子
		1136	獅子舞	1137	鯛抱き童子						
	1200	動物形									
		1201	狛犬	1202	獅子	1203	猿	1204	犬	1205	馬
		1206	狐	1207	牛	1208	猫	1209	兎	1210	鼠
		1211	狸	1212	虎	1213	象	1214	鳩	1215	鶏
		1216	鴛鴦	1217	木菟	1218	亀	1219	蛙	1220	鯉
		1221	鯛・鯛車	1222	金魚	1223	蝉				
	1300	その他（1100･1200以外）									
		1301	達磨	1302	首人形	1303	獅子頭	1304	面	1305	陽物
2000	器物										
		2001	碗	2002	皿	2003	鉢	2004	銚子	2005	瓶
		2006	壺	2007	片口鉢	2008	急須	2009	土瓶	2010	鍋
		2011	釜･茶釜	2012	擂鉢	2013	蓋	2014	七厘・焜炉	2015	石臼
		2016	竈	2017	器台	2018	硯	2019	水滴	2020	銭貨
		2021	五鈷鈴	2022	柚でんぼ	2023	香炉・風炉				
3000	建造物										
		3001	祠	3002	塔	3003	城郭	3004	橋	3005	塀・袖垣・石段
		3006	民家・庵	3007	灯籠	3008	鳥居	3009	御輿	3010	舟
		3011	庭園・背景	3012	仕切り盤						
4000	遊具										
		4001	土鈴	4002	独楽	4003	笛	4004	碁石状製品	4005	面模
		4006	泥面子・芥子面	4007	土玉	4008	円盤状製品	4009	車輪状製品		
9000	不明										
0000	その他										

人形・玩具分類コード

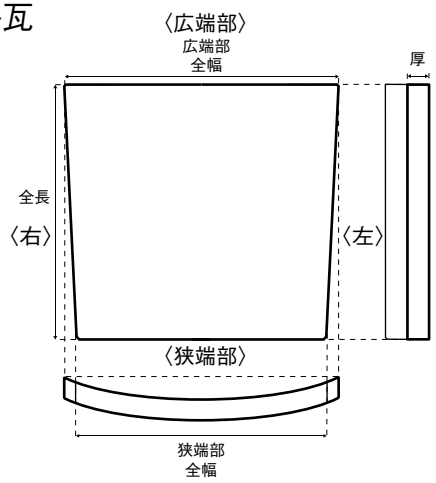
軒平瓦



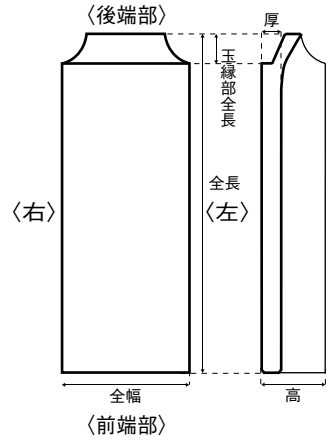
軒丸瓦



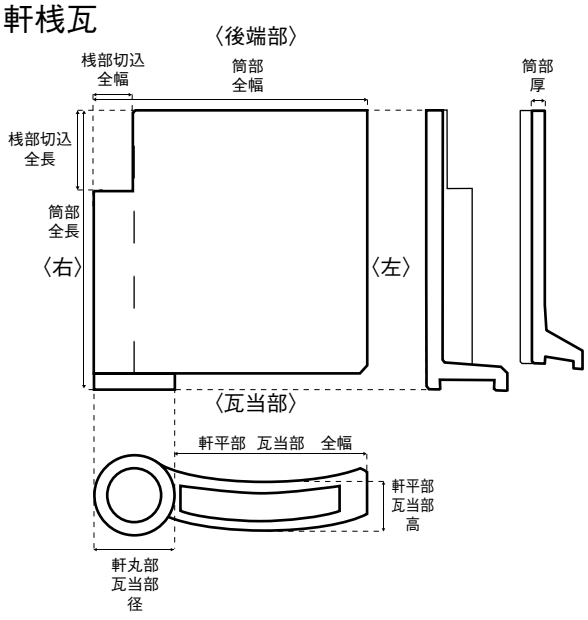
平瓦



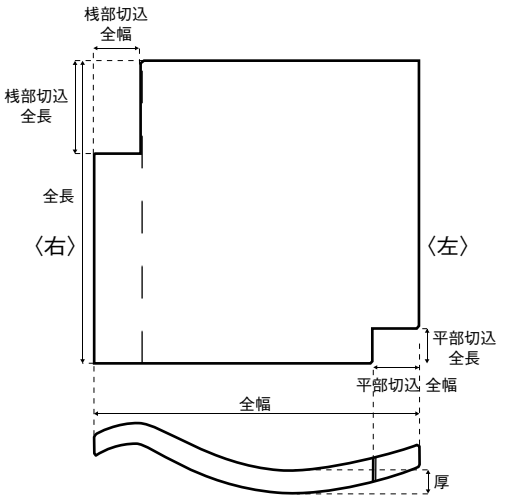
丸瓦



軒桟瓦

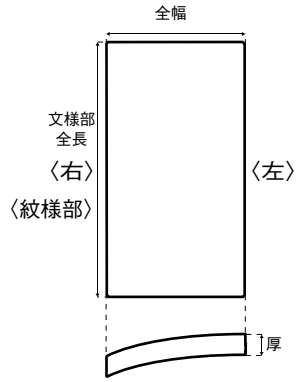


桟瓦

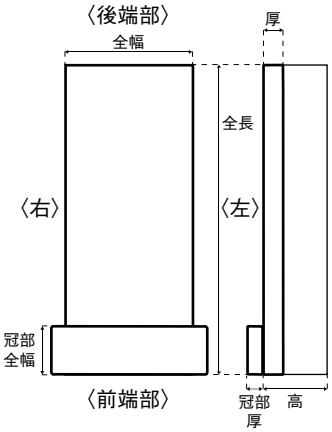


瓦凡例(1)　軒平瓦、軒丸瓦、平瓦、丸瓦、軒桟瓦、桟瓦

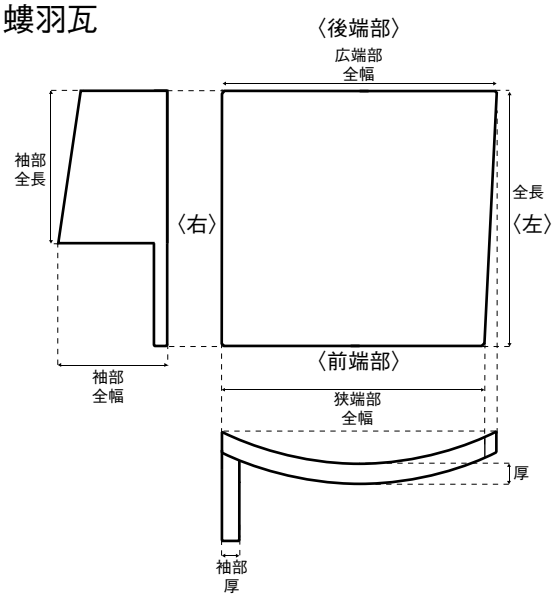
熨斗瓦



冠瓦



螻羽瓦



瓦凡例(2)　熨斗瓦、冠瓦、螻羽(けらば)瓦

東京大学本郷構内の遺跡
医学部教育研究棟地点発掘調査報告書
報告編

目　　次

口　　絵
例　　言
凡　　例
目　　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置 …… 1
第２節　遺跡の地理的・歴史的環境 …… 1
(1)　地理的環境
(2)　歴史的環境

第Ⅱ章　調査の経緯と概要

第１節　調査に至る経緯 …… 5
第２節　調査の方法と経過 …… 5
第３節　調査の概要 …… 8
第４節　基本層序 …… 9

第Ⅲ章　遺構

第１節　確認された遺構の概要 ……57
第２節　江戸時代より前の遺構 ……57
第３節　江戸時代以降の遺構 ……57

第Ⅳ章　遺物

第１節　人工遺物 …… 319

第Ⅴ章　おわりに

引用・参考文献
報 告 書 抄 録

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置

調査地点は、東京都文京区本郷 7-3-1、東京大学本郷キャンパス南側にある医学部１号館と医学部生命科学実験棟、薬学部棟の間に位置している（2019 年１月現在）。

東京大学本郷構内は、全域を「文京区 No.47 本郷台遺跡群」、一部を「文京区 No.28 弥生町遺跡群」として周知の遺跡として登録されている。埋蔵文化財調査室では 1983 年以降、事前調査、試掘調査、立会調査など含め、継続的に埋蔵文化財調査を行っている。本地点が位置する本郷キャンパス南側周辺では、15 薬学部新館（東京大学埋蔵文化財調査室 1997）、20 総合研究博物館新館（同 2012b）、22 山上会館龍岡門別館（同 2004）、28 薬学部資料館（同 1997）、54･169 総合研究棟（文･経･教･社研）（同 2002）、66 薬学系総合研究棟（同 2004、同 2006a）、68 インキュベーション施設（同 2004）、76 ベンチャープラザ（同 2008）、81 経済学研究科学術交流棟（同 2011b）、93 伊藤国際学術交流センター（同 2012a）、103 春日門横教育研究棟（同 2012a）などの調査が行われ、江戸時代加賀藩本郷邸、本郷六丁目町屋などの状況が次第に明らかになっている（Ⅰ－1 図）。これらについての詳細は上記の報告書、年報を参考にされたい（Ⅰ－1 表）。

調査区は、東京大学本郷構内全域を対象としたグリッド（以降、「東大グリッド」と記す）（東京大学埋蔵文化財調査室 2017）の東西 Dj ～ Dt 区、南北 208 ～ 230 区内（Dj209 ～ 212 区、Dk208 ～ 215 区、Dl208 ～ 220 区、Dm208 ～ 225 区、Dn208 ～ 228 区、Do208 ～ 230 区、Dp209 ～ 230 区、Dq213 ～ 229 区、Dr219 ～ 229 区、Ds221 ～ 229 区、Dt225 ～ 228 区）に位置している（Ⅱ -1 図）。東大グリッドは世界測地系Ⅸ系に準拠して設定しており、調査区内に位置する Dn211 杭は、世界測地系Ⅸ系 X=−32150m、Y=−6435m に、Dn221 杭は同 X=−32200 m、Y ＝−6435 mに該当する。調査区の経度は、東経 139 度 45 分 44 秒、緯度は北緯 35 度 42 分 35 秒に位置する。

第２節　遺跡の地理的・歴史的環境

（１）地理的環境

本郷キャンパスの地理的様相については、これまで理学部７号館地点の報告（鈴木 1989）、浅野地区Ⅰの報告（橋本 2009）などに触れられており、詳細は参照されたい。これらと江戸期における改変を略述すると本郷キャンパス内は武蔵野台地の東端、南北に延びる本郷台地（神田台）上の M2 面上に存在する。このうち標高約 20 ～ 22 mの上位面と 15 ～ 17 mの下位面とが存在するが、このうち本地点は上位面に位置する。本郷台地の東は上野台地を挟んで、滝野川、千駄木、根津、湯島と南流する旧石神井川によって開折された谷が存在する。旧石神井川は、従来不忍池からさらに南流して江戸湾に注ぐものであったが、江戸幕府の水利政策により加賀藩下屋敷のある滝野川付近より人為的に東流させ、隅田川に流入するように改変されている。また、台地東斜面は小河川による谷が複雑に入り込んでおり、この状況は、東京大学本郷構内の発掘調査によっても確認されている（東京大学遺跡調査室 1990b、東京大学埋蔵文化財調査室 2005a など）。

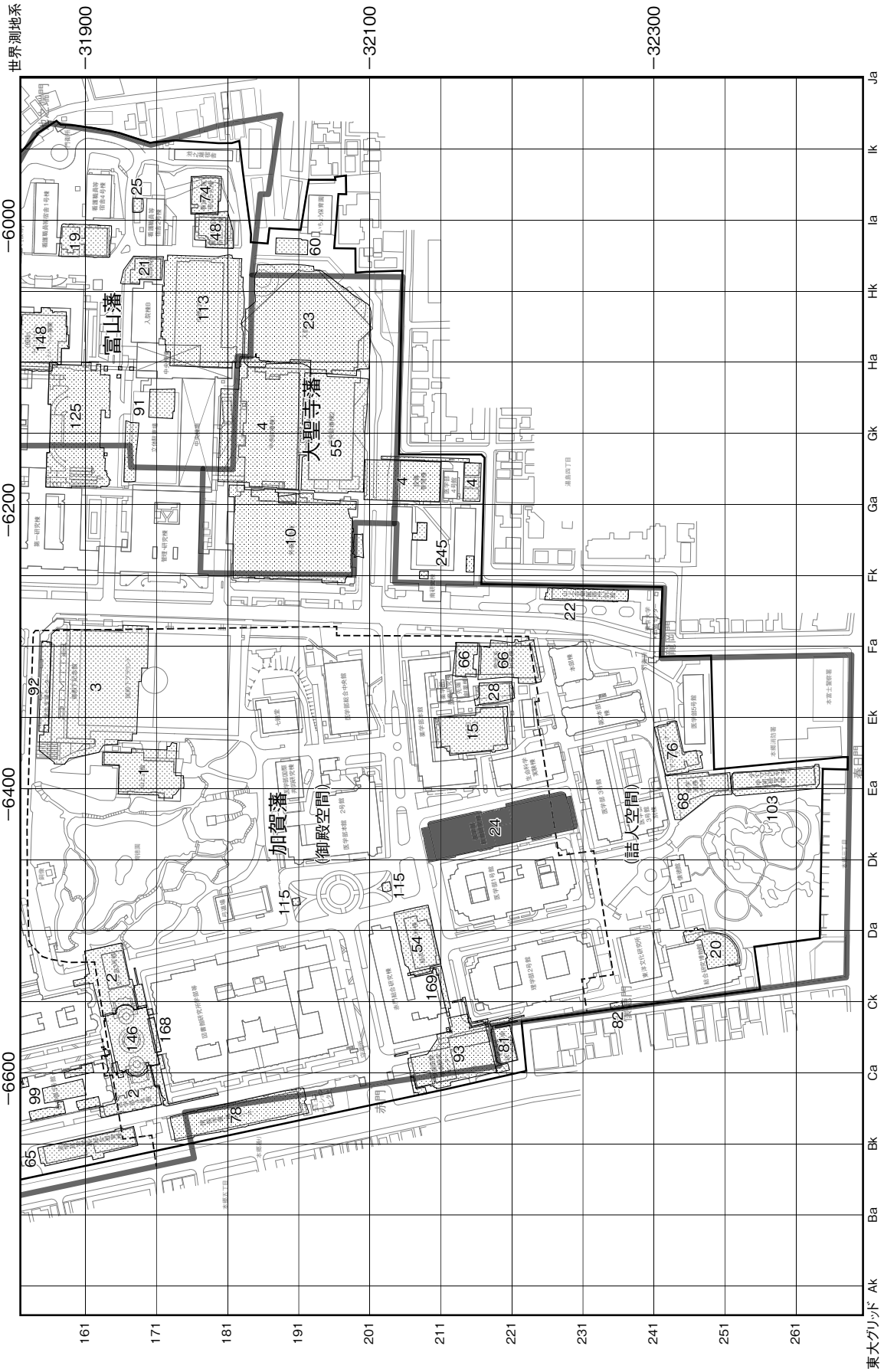
調査区付近は、本郷台地のほぼ中央に位置しており、調査地点内の立川ローム層上面はわずかに南に向かって傾斜しているもののほぼフラットであった。しかし、近隣の地形を俯瞰すると本郷通りは、82 懐徳門地点、20 総合研究博物館地点より南側、現在の菊坂上付近が最も標高が低い。明治 16 年陸軍参謀本部による「東京府武藏國本郷區本郷本冨士町近傍」では、本郷四丁目（西側町）裏は現在の菊坂に沿って西流する小河川が存在し、等高線も本郷四丁目町屋付近が最も低くなっていることが判る。

（２）歴史的環境

発掘調査で出土した遺構、遺物のほとんどは、江戸時代から近代にかけて構築、使用、廃棄されたものであったため、当該期における本地点の歴史的環境について略説したい。詳細は＜研究編＞を参照されたい。

江戸時代

これまでの発掘調査で出土した成果では、東京大学本郷キャンパス内から、加賀藩邸より前の近世の遺構や遺物は、確認されていない。「東邸沿革図譜」によると当該期は大久保忠隣の屋敷地であったとされる。大久保忠隣は慶長 19（1614）年に改易されるが、その後、元和２～３（1616 ～ 17）年頃、加賀藩前田家が拝領し、下屋敷として利用をする事になる。藩邸の開発はやや遅れて、寛永３（1626）年のこととされる（石川県図書館協会 1938）。寛永前半に比定される井戸などの生活遺構は、本地点、54・169 総合研究棟地点（文・経・教・社研）、15 薬学部新館、28 薬学部資料館など三四郎池南側から多く確認されており、藩邸当初の居住空間がこの周辺で



I-1図　本郷地区南側調査地点

番号	年度	略称	調査名(旧略称)	調査期間	面積(㎡)
1	1983	−	山上会館(U)	1984.3.7～1986.7.17	1500
2	1984	HHB	法学部4号館(法)・文学部3号館(文)	1984.4.1～1985.3.31	2500
3	1985	HGS	御殿下記念館(G)	1985.7.29～1987.6.30	6000
4	1984	HHC	医学部附属病院中央診療棟(病中)・設備管理棟(エネセン)・給水設備棟(給水)・共同溝(共同溝)	1984.10.1～1987.3.31	7700
10	1990	HG	医学部附属病院外来診療棟	1990.6.27～1991.2.21	5500
15	1992	YS	薬学部新館	1992.10.21～12.18	1300
19	1993	HN	医学部附属病院看護師宿舎	1993.8.4～1994.1.17	746
20	1993	TUM	総合研究博物館新館	1994.2.14～4.8	600
21	1993	MRI	医学部附属病院MRI-CT棟	1994.1.18～3.12	400
22	1994	HF	山上会館龍岡門別館	1994.8.17～10.17	593
23	1994	HW	医学部附属病院入院棟A (医学部附属病院病棟)	1994.4.21～11.16 1995.1.31～1996.6.6	6096
24	1994	HIKN	医学部教育研究棟(HIKN)	Ⅰ次 1994.11.17～1995.4.28 Ⅱ次 1997.3.10～4.25 Ⅲ次 1998.11.2～12.25 Ⅳ次 2002.9.3～12.25	2901
25	1994	HND	医学部附属病院看護師宿舎ゴミ置き場	1995.1.30～3.3	45
28	1995	FPS	薬学部資料館	1995.7.24～9.1	600
48	1996	HNⅡ	医学部附属病院看護師宿舎Ⅱ期	1996.11.5～1997.1.31	525
54	1999	HES99	総合研究棟(文・経・教・社研)	1999.5.24～11.2	1000
55	1999	HHC299	医学部附属病院第2中央診療棟(2中)	1999.10.12～2000. 2.25 2001. 7.23～2002.12.19	4017
60	2000	HWK6	医学部附属病院基幹整備外構施設等	2000.9.21～11.14	200
65	2002	LS03	法学系総合研究棟	2003.2.17～4.18	946
66	2004	YGS04	薬学系総合研究棟2期	2004. 7.26～8.4 2004.11.17～2005.2.4	540
68	2002	INC	インキュベーション施設	2003.3.6～6.7	1051
74	2008	HHN308	医学部附属病院看護師宿舎Ⅲ期	2008.4.1～8.1	550
76	2005	HVP06	ベンチャープラザ	2006.3.6～5.16	760
78	2006	HJF06	情報学環・福武ホール	2006.6.5～12.8 2007.2.5～23	1766
81	2007	HEA07	経済学研究科学術交流棟	2008.3.17～7.11、9.11～24 2009.2.2～10	451
82	2007	HKM07	懐徳門	2007.6.20～7.20	34
91	2009	HHP09	医学部附属病院立体駐車場	2009.12.13～2010.2.25	3034
92	2009	HGG09	学生支援センター	2009.7.21～7.30	440
93	2009	H7I09	伊藤国際学術研究センター	2009.7.30～2010.2.12、5.17～5.31 2011.7.21～26、9.16～10.28	1710
99	2010	HLS10	法学部3号館増築工事	2010.7.20～8.23 2011.1.18～26、5.16～7.26	734
103	2011	HKK11	春日門横教育研究棟	2011.12.1～2012.7.20	949
113	2011	HHWB12	医学部附属病院入院棟Ⅱ期	2012.3.1～11.30 2013.8.19～10.3 2014.2.5～2015.2.19	4391
115	2012	HTP12	図書館前クスノキ移植に伴う事前調査	2012.5.07～6.18	60
125	2012	HCRA12	クリニカルリサーチセンターA棟Ⅰ期	2012.12.17～2014.9.12	3341
146	2013	HAC13	アカデミックコモンズ	2013.9.10～2014.3.31	1200
148	2013	HIN14	国際科学イノベーション総括棟新営	2014.1.14～7.23 2014.8.18～8.21	1480
168	2014	−	アカデミックコモンズ 2次調査	2014.8.13～10.31、11.25、12.10、12	475
169	2014	−	文系総合研究棟	2014.10.14～11.5	180
245	2017	HCRB17	クリニカルリサーチセンターB棟	2018.1.15～4.4	93

Ⅰ-1表　本郷地区南側調査地点一覧

あったことが窺える。

文献では、寛永 16（1639）年、3 代当主利常が本郷邸に隠居し、慶安 3（1650）年には本郷邸全焼している記事が認められる。ただし、これを裏づける発掘調査事例はこれまでのところ確認されていない。明暦 3（1657）年に起きた明暦の大火を契機に藩邸南側の幕臣地（本地点 7 区、8 区付近も含む）2 万坪が本郷邸に組み入れられる。また、同火災で焼失した上屋敷（辰口邸）が全焼、5 代藩主綱紀が本郷邸に避難し、ここに定住したことで、本郷邸は事実上の上屋敷として機能していたことが推定できる。それを反映するように、17 世紀後半以降になると遺構、遺物の出土量が格段に増加する。

当該地点を描いた最も早い絵図は、寛永 19 ～ 20（1642 ～ 43）年に描かれた「寛永江戸全図」（臼杵市教育委員会蔵）、正保元（1644）年に描かれた「正保江戸図」などである。2 万坪が幕臣地であった時代の藩邸南境付近の様子が知られる。「寛永江戸全図」によると、中山道（現在の本郷通り）より東で、現在の春日通りより北側にあたる場所には、中山道沿いに「町」（本郷四丁目、五丁目町屋）、それ以東は「近藤登之助同心」、「大森半七同心」と書かれた屋敷地が確認できる。

これら同心地は、明暦 3（1657）年の振袖火事を契機に、第 4 代藩主前田光高の正室清泰院の死後、替地として居住していた牛込邸と駒込邸およびここ本郷邸南側同心地 2 万坪を拝領した部分にあたる。以後、加賀藩本郷邸として幕末を迎えるが、この間天和 2（1682）年に起こった八百屋お七の火災を境に本郷邸は下屋敷から上屋敷に変化する。その後は、現存している元禄期（1688 ～ 1703）以降の本郷邸の絵図面からは、当該地が江戸時代を通じて加賀藩本郷邸藩邸内であったことが確認できる。

近代

加賀藩本郷邸は、明治 4（1871）年に明治政府に収公されるが、藩邸の西南隅の 15,078 坪は前田家の私邸として継続して利用している。明治期のこの前田侯爵邸の利用は、明治 16 年陸軍参謀本部による「東京府武藏國本郷區本郷本冨士町近傍」、「本郷御邸惣絵図」（前田育徳会蔵）、「本郷惣絵図」（前田育徳会蔵）などから看取できる。その後、大正 15（1926）年、関東大震災後の東京帝国大学本郷キャンパス拡充のため、その要請に応えた前田家は当該地と駒場にあった農学部および代々木演習林を交換することになり、昭和 3（1928）年に移転が完了した。

この間、当該地には明治天皇の行幸を仰ぐための邸として、後に「懐徳館」と命名される和・洋館の建築が行われた。建築工事は、明治 35（1902）年に開始され、日露戦争時の中断を挟んで、明治 40（1907）年に竣工した。明治 43（1910）年には明治天皇、皇后、皇太子、皇太子妃の来臨が実現した。先述のように関東大震災後に大学用地となるが、本調査区全域は、明治～昭和 3 年までは前田侯爵邸の北東部にあたる。

第Ⅱ章　調査の経緯と概要

第１節　調査に至る経緯

（１）調査の照会と試掘調査

平成５（1993）年度末に東京大学施設部から埋蔵文化財調査室に、医学部基幹整備の一環として既存の１号館東隣の緑地を含む場所に、新校舎の建て替え移転に伴う埋蔵文化財の調査に関する照会があった。新校舎建設予定地は、東京都遺跡地図によると遺跡番号 219（東京都教育委員会 1985）、現文京区 No.47 本郷台遺跡群（本郷七丁目･弥生二丁目、台地、集落･貝塚･大名屋敷、[平] 住居・[近] 礎石・土坑・地下式土坑・庭園・井戸・溝・杭･石垣 [旧][縄][弥][古][平][近]）内に位置しており、周知の遺跡として認知されている。当該地区においても遺跡の遺存状態に即した埋蔵文化財発掘調査を行う必要があった。

調査に先立って、予定範囲内における遺跡の遺存状況を把握し、調査体制などを設計する目的で、試掘調査が 1994 年５月 18、19 日両日に、合計 16.6㎡の面積を対象に行われた。この調査の結果、江戸時代の加賀藩前田家江戸藩邸に関連した埋蔵文化財が良好な状態で遺存していることが確認され、建築予定地域内全域について発掘調査を行うこととなった。

第２節　調査の方法と経過

（1）調査の方法（Ⅱ－1、２図）

発掘調査は、建築予定地域のうち、東側にあった植え込み部分を先行して行い、西側道路部分はライフラインなどの切り回しなどのために後日行うことが協議・確認された（Ⅱ－２図参照）。

発掘調査は、建物予定地域全域を対象にし、４次にわたって行われた。調査面積の合計は 2,901㎡である。調査は、当初調査区の形状に合わせて 10m 四方のグリッドを設定して行ったが、本報告は、その後に設定した東大グリッドおよび遺構や遺跡の土地説明を容易にするための区割りを便宜的に８区（1 区～８区）設定し、表記を行った（東京大学埋蔵文化財調査室 2017）。

（2）調査の経過

①試掘調査（Ⅱ－２図）

試掘調査は、予定範囲内における遺跡の遺存状況を把握し、調査体制などを設計する目的で、最も遺存状況が良好であろうと推定された医学部１号館と薬学部校舎間の植え込み内に、４カ所の試掘トレンチを設定し、合計 16.6㎡の面積を対象に行われた。試掘調査は、1994 年５月 18、19 日両日に埋蔵文化財調査室によって行われ、武藤康弘（現、奈良女子大学）、鮫島和大（現、静岡大学）が担当した。試掘調査の結果、江戸時代の大規模な地業に伴う遺構面が少なくとも３面以上、道と推定される砂利敷の硬化面、建物礎石などとそれに伴う陶磁器、瓦など藩邸の御殿に伴う遺構、遺物が良好な状態で遺存していることが確認された。

②事前調査

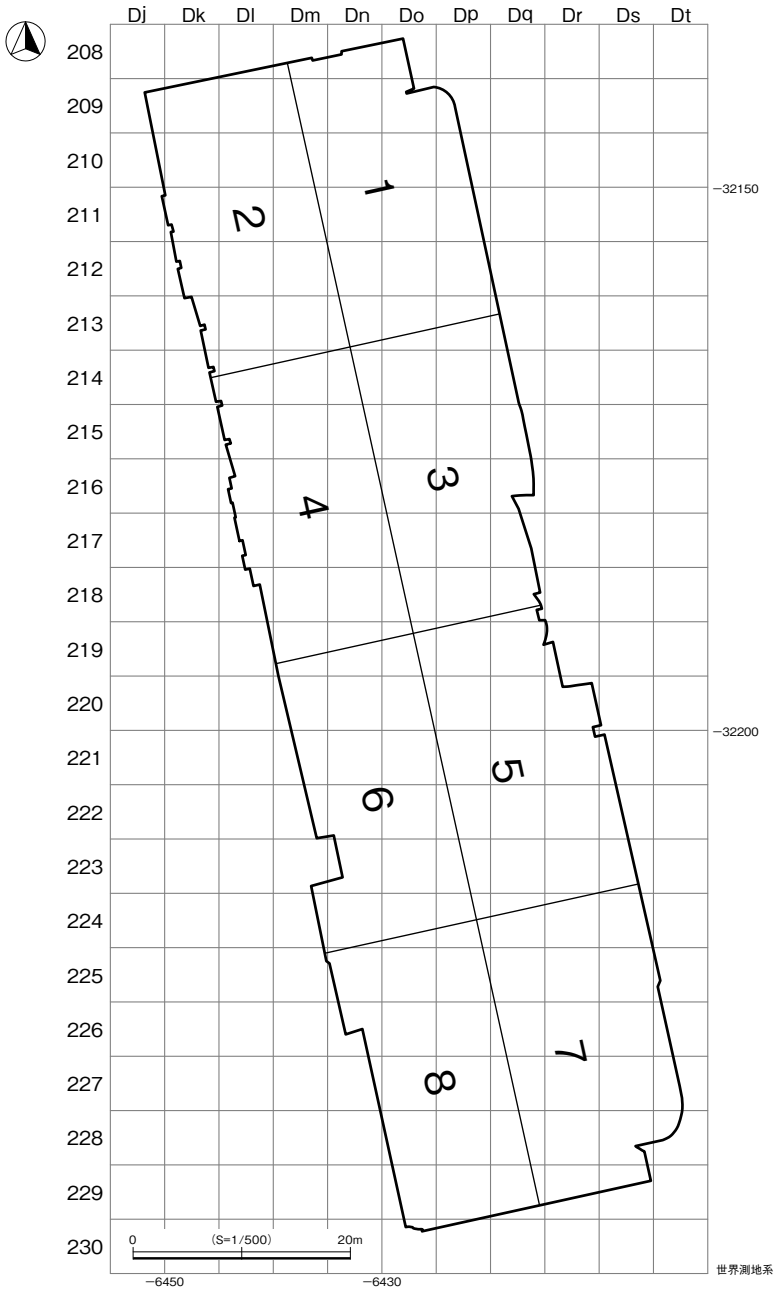
事前調査は、試掘調査より得られた状況を踏まえて、医学部の移転計画や校舎の使用状況、周辺の状況を勘案して、数次に分けて行うことになった。結果的には、使用頻度が低い東側の当時植え込みであったエリアを 1994 年より先行して行い（Ⅰ次調査）、その後の補正予算や建築計画により、以下のように都合９年間で４回に分けた調査にならざるを得なかった。やむを得ない状況であったは言え、調査区を区分けにしたことで種々の困難や不整合が生じたことは残念であった。

Ⅰ次調査：1994 年 11 月 17 日～ 1995 年４月 28 日
Ⅱ次調査：1997 年３月 10 日～４月 25 日
Ⅲ次調査：1998 年 11 月２日～ 12 月 25 日
Ⅳ次調査：2002 年９月３日～ 12 月 25 日

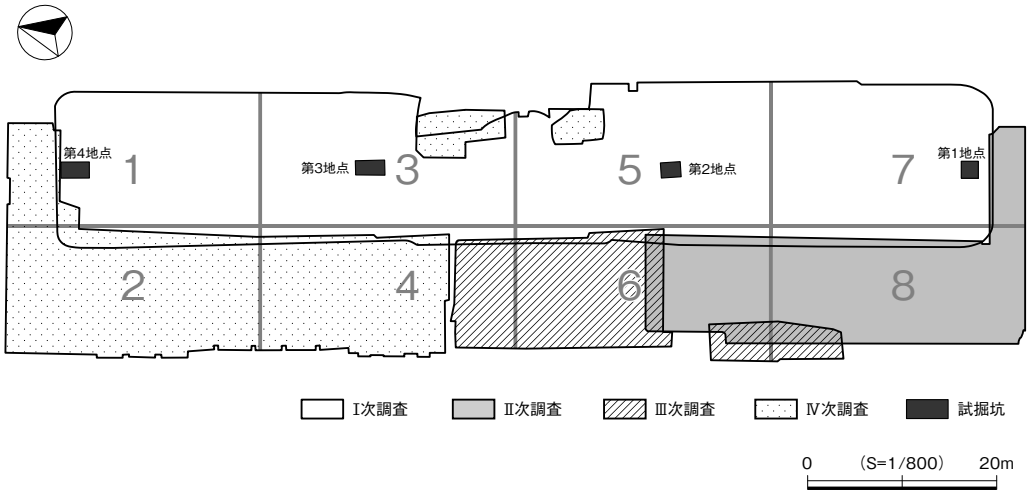
・Ⅰ次調査

開始前の状況は、角柱状の縁石に囲まれた西洋庭園風の植え込み部分が周囲道路部分より 30cm 程度高くなっていた。この植え込みは、東京大学の校舎の変遷では、大学南西部に位置した前田侯爵邸が昭和３（1928）年に移転後に校舎建設が開始され、昭和７（1932）年に調査地点には庭園風植え込みが完成している。これ以降調査が開始される平成６（1994）年までの間、62 年間ほぼ手が加わることがなかったと推定される（Ⅱ－３図）。また、前田侯爵時代には屋敷の北西隅にあたり、絵図などと照射しても大きな建造物は確認されない。こうした経緯によって１次調査は範囲内では、埋蔵文化財の遺存状況はきわめて良好であった。

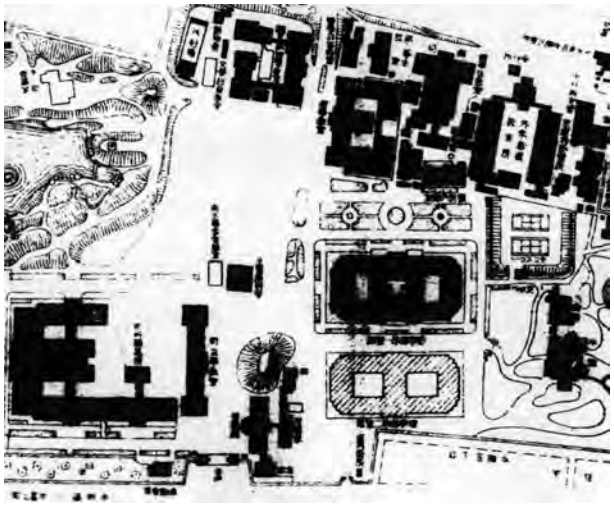
Ⅰ次調査は、植え込み部分 1,578㎡を対象に行った。植え込みの外縁石、道路部分のアスファルト除去後、1994 年 11 月 17 日より調査区南側から重機による掘削を開始した。植え込み部分は、GL 以下 30 ～ 40cm 程で A 面と命名した近代の硬化面が確認され、人力による調査はこの面から開始した。最上面までの深度が浅かったことから、調査発生土の仮置きの制約で調査工程前半



Ⅱ－１図　東京大学本郷地区グリッドと区の設定



Ⅱ-2図　試掘調査と事前調査の位置



Ⅱ-３図「本郷団地変遷図」昭和７年12月１日現在の図より一部抜粋

とした調査区南半（おおむね５～８区）の重機掘削は翌日には終了した。

南半は、南端の７～８区とそれ以北の５～６区の状況が大きく異なっていた。５～６区では浅い位置から人頭大の大形石を配置し、強固に突き固めた礎石（根石）跡が多数検出されたほか、砂利を突き固めたＤ面と命名した硬化面とその上に焼土層が広い範囲で確認された。また、ほぼ1mの江戸時代盛土の中で最下面のローム面を含めて７枚もの遺構面（上位からＡ～Ｇ面と命名）が確認された。特に５、６区北側を横断する溝（SD246）とそれに伴う門跡は、17世紀中葉における大名藩邸境の構造を考える上で重要であった。

他方、７～８区では確認された生活面は少なく、明瞭な硬化面も検出されなかった。江戸時代の遺構の多くは、ローム面（Ｇ面）より確認された。この相違は、後に加賀藩邸境および藩邸内の土地利用および近代初頭の削平によるものと判断された。

北半の調査は、1995年１月31日より重機による掘削を開始し、翌２月１日に終了した。前述のように近代に比定されるＡ、Ｂ面は、調査前植え込みであった部分にのみ遺存していた。江戸時代Ｃ～Ｄ面では、一面に建物礎石が検出され、強固な覆土と石の実測などにより調査は遅滞を余儀なくされた。また、北端からは後に能舞台と判った漆喰で突き固めた下部構造をもつ遺構（SX555）が確認された。

調査時期は、比較的天候にも恵まれるシーズンであったが、上記のようにこれまでの学内調査では認知、経験しなかった遺構が多く検出したことによって調査の進行が遅れ、文学部考古学研究室や埋蔵文化財調査室の応援を借り、４月25日に北半部分の全景写真撮影、翌日から埋め戻しを行い、４月28日に現場での発掘調査を完了した。

Ⅰ次調査の調査担当は、埋蔵文化財調査室員堀内秀樹、篠原和大（現、静岡大学）である。

・Ⅱ次調査

Ⅰ次調査終了後、教育研究棟建築計画が、調査区全体の南側に研究棟の半分を建設し、医学部１号館の機能の一部を移した後に研究棟北半分の建築を行うというものに変更された。Ⅱ次調査はこの計画に沿って行われたが、1997年度の補正予算額では不十分であり、翌年行われることになるⅢ次調査を合わせて、南半部分を完了することとなった。

Ⅱ次調査は、上記のように1997年３月10日～４月25日に６区南半、７区南端、８区のほぼ全域、調査面積480㎡を対象に行った。調査範囲は、既存の道路部分であったため、アスファルトを撤去後、重機による表土掘削を開始した。調査前の道路とⅠ次調査の植え込みとの比高差に加えて、道路アスファルトとその基盤砕石が20～30cmほどの厚さであったことで、Ⅰ次調査で確認されたＡ面（近代面）は部分的にしか検出されなかった。また、旧東京帝国大学、東京大学時代の道路であったことで、電気、上下水、ガスその他の配管やハンドホールが多く埋設されていた。

調査は、Ⅰ次調査と照射しつつ行ったが、上記の状況であったため、近代面の土蔵（SB2）をはじめ、舗装や配管埋設を行う際などに削平を受け、全体が復元できなかった遺構も多かった。３月10日から重機による表土掘削が開始され、３月14日に終了、人力による調査に移行した。調査は、面が少ない地域であることが想定できたため、短期間で行ったが、期間全体を通して比較的天候にも恵まれたことで順調に進行した。４月24日に全景写真を撮影し、翌日撤収作業を終え、野外調査を完了した。

Ⅱ次調査の調査担当は、埋蔵文化財調査室員堀内秀樹、大成可乃である。

・Ⅲ次調査

Ⅲ次調査は、翌1998年11月２日～12月25日にⅡ次調査の北側６区北半、４区南側に加えて、Ⅱ次調査時に医学部１号館の人道路として利用していたⅡ次調査西側部分（６区、８区西側）を対象に行った。調査面積は314㎡で、Ⅱ次調査より小さかったが、Ⅰ次調査の状況から基礎、境など多くの遺構の検出が予想され、当初から効率を求められたタイトな調査となった。調査範囲は、Ⅱ次調査同様既存の道路部分であったため、配管などが多く埋設されており、江戸時代の遺構の多くはこうしたものによって削平を受けている状況であった。

11月2日、アスファルトを撤去後、重機による表土掘削を開始し、翌日終了、人力による調査を開始した。11月6日よりC面検出の遺構調査、12月8日よりD面検出の遺構の調査、12月11日よりE面以下の調査と進行し、12月25日に全ての野外調査が終了した。

Ⅲ次調査は、埋蔵文化財調査室員堀内秀樹が担当した。

・Ⅳ次調査

Ⅳ次調査は、教育研究棟南半分の建築後に行われた。調査は、1区北端、2区ほぼ全域、4区北側大部とⅠ次調査時に消防用避難器具の位置の関係で調査が行えなかった3区及び5区の一部を対象に、2002年9月3日～12月25日に行った。調査面積は711㎡である。21世紀に入りデジタル測量技術が進展したことにより、建造物の位置などの確度が求められる都市遺跡の調査に有効な電子平板を導入した。こうした測量、データ管理が行えたことで屋敷内の土地利用、何枚にも及ぶ生活面の情報などの管理・運用が、明確かつ容易となったことは非常に大きかった。4次にわたる当該地点の平面的、面的把握は、Ⅳ次調査の位置にⅠ次からⅢ次までのデータを落とし込む形で進めていった。

野外調査は、9月3日に道路縁石やアスファルト除去後、翌日から重機による表土掘削を開始した。調査区内には、帝国大学時代のコンクリート桝、配管などが多く確認されたことで、重機掘削は時間がかかったが、9月24日には終了し、部分的に遺存していたB面の調査から開始した。江戸時代中～後期にあたるC～D面には調査区全体に御殿の礎石遺構が複雑に切り合った状態で確認され、これらの調査に12月初旬まで費やした。12月中旬にE面以下の調査に入り、12月20日に全景写真を撮影、最終的に12月25日に本地点の野外調査を全て終了した。

第3節　調査の概要（Ⅱ－4図、Ⅱ－1表）

本地点の発掘調査では、大学より前の時代を対象に地中に遺存している人の活動に伴う遺構、遺物などとそれと関連する情報についての調査および記録を行った。発掘調査の結果、縄文時代、江戸時代、近代の複合遺跡であり、特に江戸時代加賀藩邸時代の痕跡が多く確認された。

・縄文時代

縄文時代の機能が推定できる明確な遺構は、Tピットが2基(SK2390､SK3307･3343)確認されたのみであった。

・江戸時代

これまで行ってきた発掘調査や文献調査によると江戸時代の当該地は、17世紀前半が加賀藩下屋敷とその南側に位置する幕臣地、17世紀後半は、加賀藩下屋敷、天和2（1683）年の火災以降には上屋敷の御殿空間として機能していた地域であった。埋蔵文化財調査室では、これまで加賀藩御殿の発掘調査は、14地点行っている。本地点の他には、1山上会館（庭園跡)、2法学部4号館･文学部3号館（溶姫御殿)、3御殿下記念館（馬場、梅之御殿)、15薬学部新館（奥御殿)、28薬学部資料館（奥御殿)、54・169総合研究棟（文・経・教・社研）（溶姫御殿)、66薬学系総合研究棟（奥御殿)、78情報学環・福武ホール（溶姫御殿)､81経済学研究科学術交流棟（溶姫御殿)、92学術支援センター（梅之御殿)、93伊藤国際学術研究センター（溶姫御殿)、115図書館前クスノキ移植（溶姫御殿)、146アカデミックコモンズ（溶姫御殿）であるが、これらのうち表御殿の広域調査は、本地点のみである。発掘調査により検出された遺構は、江戸時代旗本同心屋敷、加賀藩本郷邸、近代前田侯爵邸に伴うと考えられる能舞台、門、道、井戸、石積遺構、礎石遺構、境遺構、排水遺構、便所遺構、地下室、樹木の移植遺構、廃棄土坑、ピットなどの遺構が2898基と遺物収納箱で548箱の遺物が出土した。

比較的広い範囲で確認された遺構面は、近代面（A～B面)､近世面（C～F面)､ローム面の7枚であった。A～B面とそれに伴う盛土層は、調査区全域から確認されたが、大学に編入された昭和初期以降に、道路やライフラインの埋設によって上位層が削平を受けたため、Ⅱ次～Ⅳ次調査部分の遺存度が悪かった。土層の状況から、前田侯爵邸時代初期に江戸時代の生活面を一旦削平のうえ盛土などの地業を行ったと推定される。前田侯爵邸では、屋敷周辺部にあたっているせいか近代面から確認された遺構数は少ない。

江戸時代はC～F面とそれに伴う盛土層が4枚と南端近辺はローム上面が遺構確認面であった。調査区全体に縄文時代以降の堆積層は確認されていない。江戸時代最初期の段階で大きく土を削平を行った上で都市建設を行ったと考えているが、こうした状況は当該地点のみではない。南側7～8区SD236･2095･3021以南は、17世紀前半ではローム面が遺構の切り込み面であり、地業の痕跡は確認できない。近代初頭に調査区南半が大きく削平されたことによって明確ではないが、おそらく御殿空間の内部は盛土がされ一段高くなっていたが、外側は大きく改変されることはなかったと推定している。

5～6区のSD246･3100とSD236･2095･3021間から確認された硬化面は明暦の大火までは、道（D面）として機能していたと考えられる。その後、1682年の天和の火災の焼土層がD面を覆っていたことから、それまで

は硬化面は維持されていたと推定できる。その後、天和の火災以降は、御殿空間一画として盛土（C 層）が行われ、御殿と詰人空間を区画する中之口御門とそれに続く長屋塀があったと考えられる。この長屋外周には石組みの水路が存在していたことが絵図面などから推定されるが、発掘調査からはその痕跡（あるいは SD233･2160 か？）が明確に確認されていないことから、近代前田侯爵邸初期に御殿内外にあった段差を解消するために調査区南側にあたる御殿空間南側を数十 cm 程度削平し、平坦化が行われたと思われる。

調査区北側 SD246･3100 以北は、加賀藩が本郷邸を拝領した元和 2･3（1616･17）年当初から邸内であった。ローム面上位には黒色土（E ～ F 層）を盛土し、利用されていたが、建物跡より布基礎の区画溝と思われる遺構が多く確認されており、この段階の土地利用は不明な部分が多い。C ～ D 面は、御殿建物の基礎と考えられる根石遺構、敷石、便所、地下通路、能舞台、排水遺構、瓦積地下室など御殿空間の遺構群が多く確認された。特に基礎遺構は複数基切り合った状態で確認されている点、C ～ D 面は調査区全面に確認されているものの、その状況は一様ではなかった。これは、御殿建物の多頻度の増改築によるものと判断される。史料からも享保 15（1730）年の火災後に建築された御殿は、以後、屋敷が全焼するような火災に見舞われなかったことなどにより、基本構成は維持されていた一方、細かい部分が絵図によって異なっていることで、度々の増改築が行われていたことが確認できる。

・近代（前田侯爵邸）

近代昭和 3（1928）年までは、前田侯爵邸の北東部分にあたっている。土蔵基礎、硬化面、排水遺構などが確認できたが、遺構数は多くない。これは調査時に近代以降が、調査の主対象ではなかったことにもよる。また、絵図史料によると主要な建物はより中央部に配置していたため、当該地付近で確認できる構造物は少なかったとも考えられる。

第 4 節　基本層序（Ⅱ－ 5 図）

自然堆積層は、立川ローム層武蔵野標準層位Ⅲ層以上は、おそらく近世初期の人為的な削平によって調査区全域にわたって確認されなかった。したがってローム土より上層－表土まで－は全て人為的な盛土である。ローム土は調査区北から南に向かってわずかに傾斜していたが、その比高差は両端で 20cm 程度である。本地点で確認された埋蔵文化財の中心は江戸時代であり、ここでは江戸時代の層序について触れてみたい。

前節で土地利用と堆積層の概要について記した。最も良好に遺存していたのは、当初から加賀藩邸であったと推定できる北側の 1 ～ 4 区であった。調査成果より明暦の大火の時点（1657 年）では、SD246･3100 が藩邸境として機能しており、藩邸内の生活面はそれ以南に存在した道路面（D 面）より 30cm 程度高くなっていたことが確認されている。拝領当初からこの間の藩邸は、大きく 2 枚の盛土がなされている。

下層の F 層はローム混じりの黒褐色土で、調査区ほぼ全域から確認されている。F 面はローム面と同じ傾斜で数 cm ～ 20cm の厚さで、SD246･3100（Ⅱ－ 5 図⑥）の北側を中心に存在していた。確認域が当初の藩邸域をまたがっているものの SD246･3100 以北で厚く確認されている点、以南では D 面構築時の転圧によって対比ができにくかったため、F 層に伴う事業の範囲は藩邸内のみであったことも考えられる。F 層上面（F 面）からは相当数の遺構が切り込まれており、一時期の生活面であったと思われる。

上層の E 層はロームを主体とする褐色土である。この分布もほぼ、F 層と同様であることから加賀藩邸内の土地利用の変化に伴うものと判断できる。E 層は上面がほぼ 22.3 ～ 22.4m に揃えられており、調査区北端で 10 ～ 20cm（Ⅱ－ 5 図①、②）、SD246･3100（Ⅱ－ 5 図⑥）付近では 30cm 程度盛り、平坦面を作り出していると推定できる。E 層上面（E 面）も相当数の遺構が切り込まれており、一時期の生活面であったと思われる。E 面の年代であるが、E 面の上にある D 面は天和 2（1682）年火災と推定している焼土層に覆われており、藩邸拝領以降天和の火災までの約 60 年の間に少なくとも 3 度の盛土と土地利用の変化が看取されることから、17 世紀中葉頃の短期間であったと思われる。

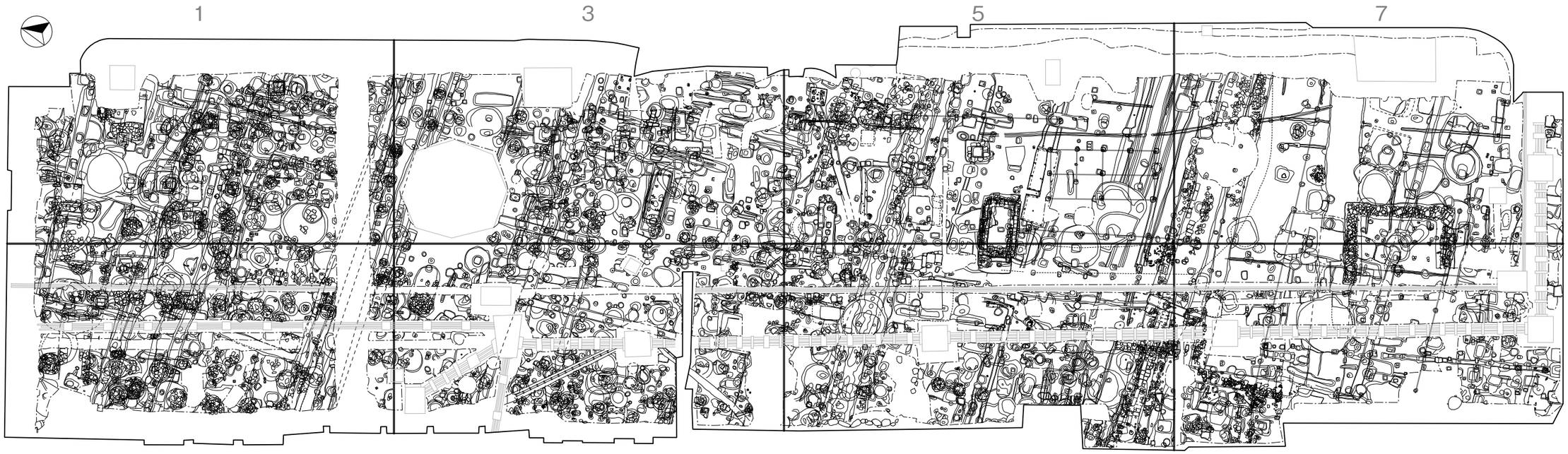
D 層は、砂利を用いて突き固め、広域の硬化面を形成している。確認された範囲は SD246･3100（Ⅱ－ 5 図⑥）から北側と SD246･3100 から SD236･2095･3021（Ⅱ－ 5 図⑧）間で、これらは 2 つの性格の異なる硬化面に分かれる。前者は藩邸内の硬化面、後者は明暦の大火後に藩邸となったそれまでの藩邸と幕臣地間の道路面である。この両者は、機能していた年代的下限は同じであるものの、その性格は異なっている。藩邸 D 層（面）は、標高 22.5m 付近に、10 ～ 20cm 程度の厚さで構築しているのに対し、道路 D 層（面）は、22.1m 付近に数 cm 程度の厚さで構築されている。これらの硬化面上面には、上記のように焼土が覆っており、火災直前まで段差を有した状態で機能していたことが確認された。この焼土層

は、層中から出土した遺物によって天和２（1682）年の火災と判断された。

Ｃ層は、焼土層の上位に堆積していた層である。天和火災以前にはＤ面の段差は存在した状態であったが、火災以降この段差は、盛土Ｃ層によって平坦化される（Ⅱ－５図⑦以南）。その範囲はおそらく新たに御殿空間に組み込まれた調査区南側を含む範囲であったと推定されるが、調査区南側は、近代初頭に行われた前田侯爵邸内の平坦化地業によって盛土が大きく削平されたと考えている。

Ｃ層上面からは、最も多くの遺構が確認されている。特に建物の基礎遺構は複雑に切り合った状態で確認され、建て替えや増改築などが頻繁に行われたことは間違えない。また、Ｃ面から検出された能舞台とその周囲の殿舎は、19世紀前葉に本格的な改築が行われたことが絵図や史料から窺え、Ｃ面上面は天和の火災以降、幕末までの生活面であったと判断できる。

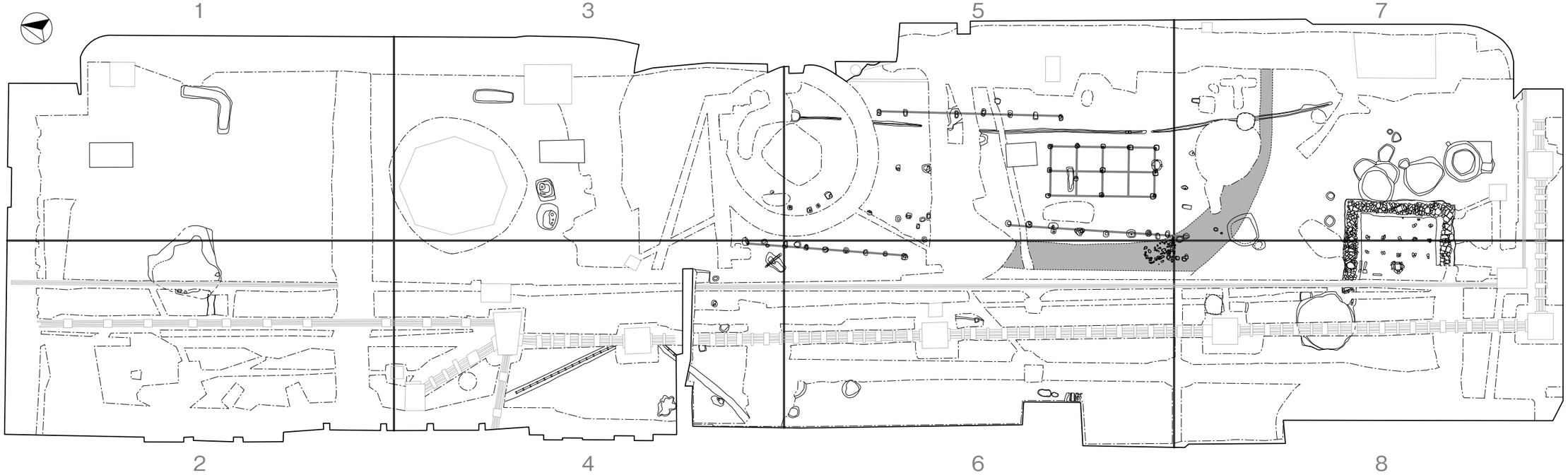
Ａ～Ｂ層は、近代以降の盛土層である。調査前のGLから浅い位置であったこと、近世の盛土の削平が調査区南側を中心に行われたことで、近代層（面）は調査区南半（５～８区、Ⅱ－５図⑦～⑨）では30～40cmほどの厚さで確認された。特に調査区南端は近世の盛土の多くが削平されており、一部はローム土直上に近代層が堆積していた（Ⅱ－５図⑨）。下層のＢ層上面（Ｂ面）からはピット列、５区周辺は、Ｂ面硬化の際の真棒痕が明瞭に確認された。また、上層のＡ層上面からは、植栽痕、土蔵基礎などが確認されたが、両面ともＣ面と比較すると遺構の数は格段に少ない。近代の土地利用度が大きく下がった証左であろう。



Ⅱ-4図(1)　全体図

※全体図の詳細は附図(1/100)参照

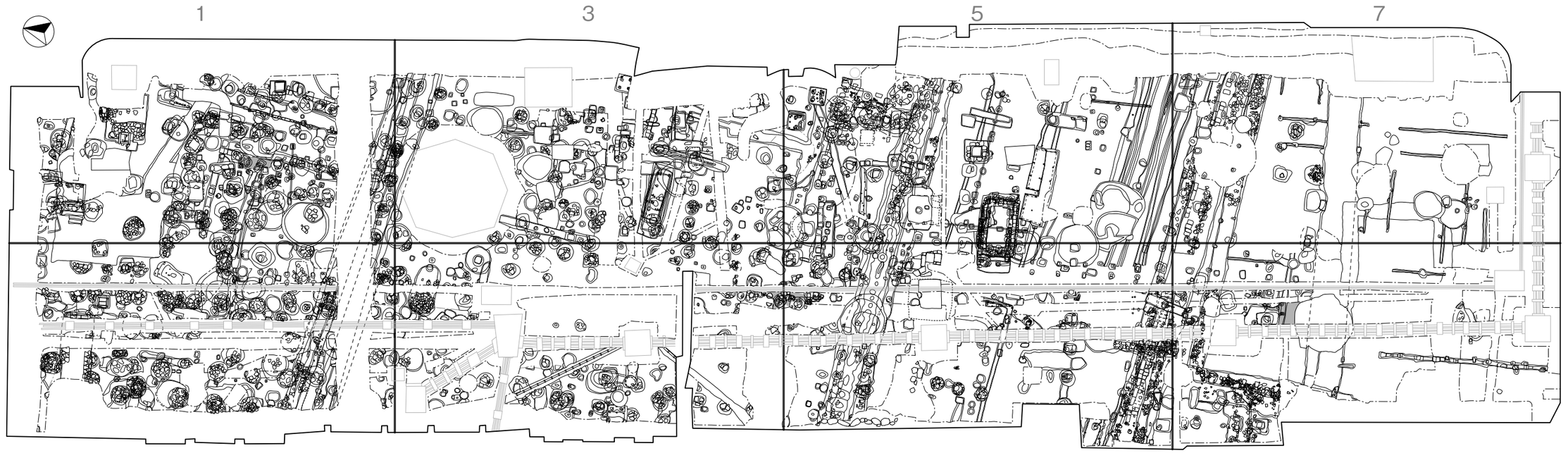
0　(S=1/300)　10m



Ⅱ-4図(2)　A･B面全体図

※全体図の詳細は附図(1/100)参照

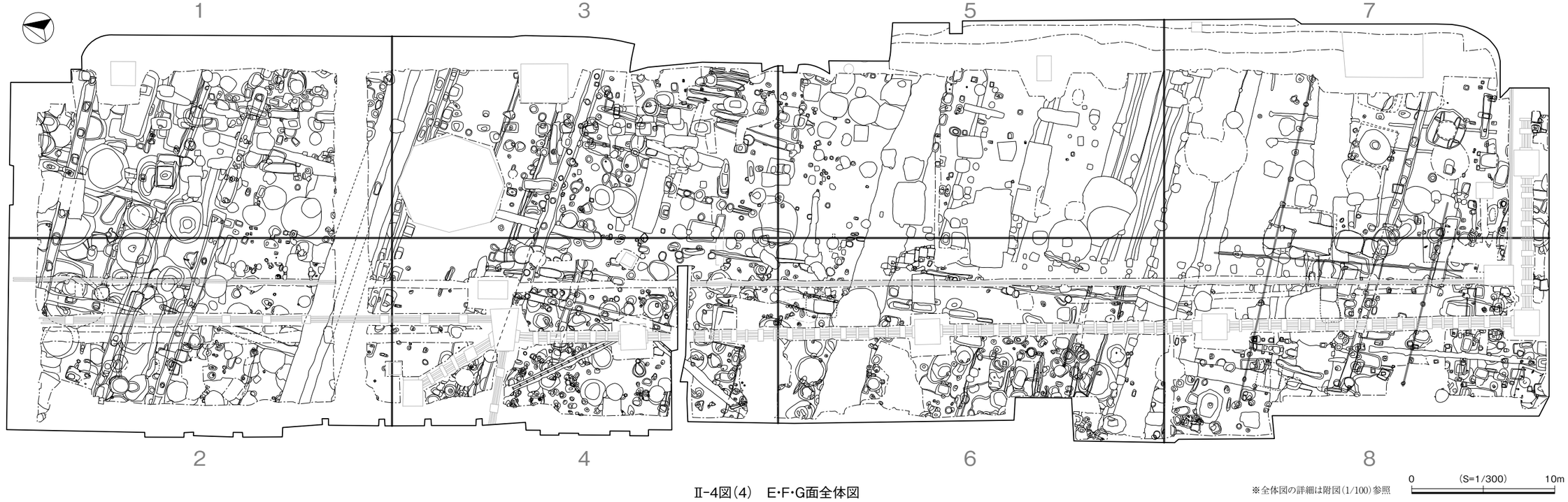
0　(S=1/300)　10m



Ⅱ-4図(3)　C･D面全体図

※全体図の詳細は附図(1/100)参照

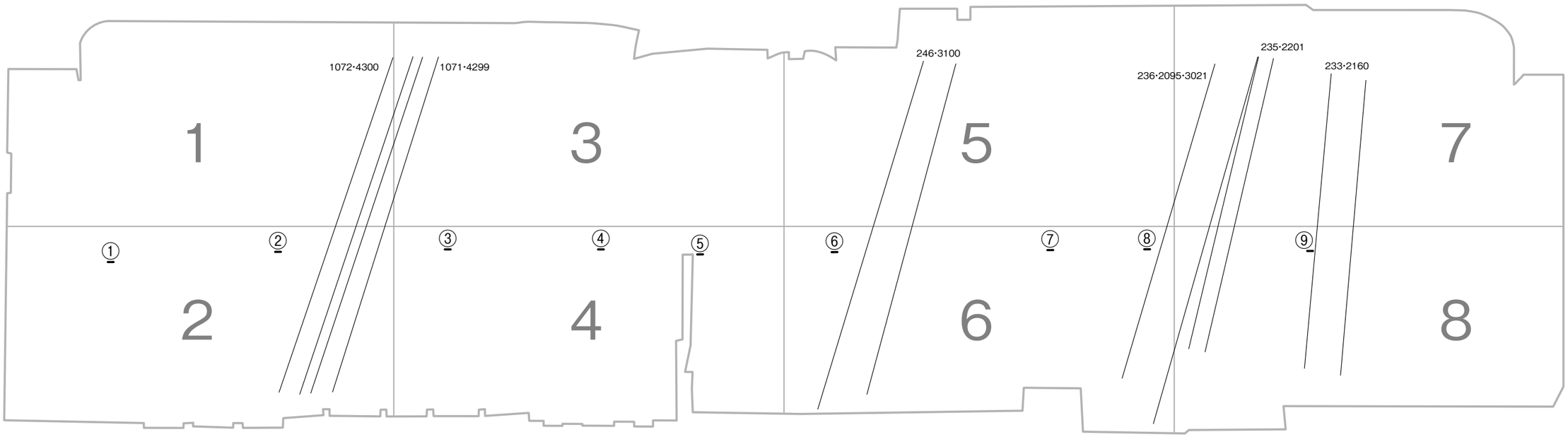
0　(S=1/300)　10m



Ⅱ-4図(4)　E･F･G面全体図

※全体図の詳細は附図(1/100)参照

0　(S=1/300)　10m


1072･4300
1071･4299
246･3100
236･2095･3021
235･2201
233･2160
1
2
3
4
5
6
7
8
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
23.0m
22.5m
22.0m
表土･撹乱
A
B
C
D
E
F
G
F'
E'

Ⅱ-5図　基本層序

Ⅱ－１表　遺構一覧表（１）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SB	1	A	5	1		28～42	－	15～49	明治前半		
SB	2	A	7･8	2	1	(835)	763	52	19～明治		2054>2
SB	3	A	5	3	1	44～53	28～33	12～26	明治前半?		
SK	4	C	5			(165)	56	24	19		120との新旧不明
SP	6	B	7			39	33	40			
SP	7	B	7			48	28	42			
SK	8	A	5･6･7･8			(2690)	(270)	3			8>9、10、13、16、17、18、19、22、39
SP	9	B	7			31	26	47	18?		8>9
SE	10	A	7	4		130	130	(160)			
SP	11	B	6			46	46	30	17末～19		
SP	12	B	3･4	4	1	44	36	28	18末～19		
SP	13	B	7･8			55	44	60	17末	○	8>13
SP	14	B	5			43	32	56	18前?		
SP	15	B	5			44	40	52	18?		
SP	16	B	8			37	(22)	59			8>16>19
SP	17	B	8			29	25	55			8>17
SP	18	B	6			27	24	45			8>18
SP	19	B	8			39	(31)	59			8>16>19
SB	21	B	3･4･6	5		1149	－	－	18?		
SB	21－1	B	6	5		48	46	51	18?		
SB	21－2	B	6	5		34	29	38	18?		
SB	21－3	B	6	5		39	31	37	18?		
SB	21－4	B	6	5		39	39	48	18?		
SB	21－5	B	6	5		39	38	44	18?		
SB	21－6	B	6	5		40	30	37	18?		
SB	21－7	B	4･6	5		50	34	28	18?		
SB	21－8	B	4	5		27	21	37	18?		
SB	21－9	B	3･4	5		55	45	50	18?		
SB	22	B	5･7	6		1277	－	－			
SB	22－1	B	7	6		43	38	67			8>22－1
SB	22－2	B	5	6		42	31	50			
SB	22－3	B	5	6		61	53	72			
SB	22－4	B	5	6		45	40	54			
SB	22－5	B	5	6		69	54	69			
SB	22－6	B	5	6		69	44	45			23との新旧不明
SB	22－7	B	5	6		46	40	81			
SB	22－8	B	5	6		42	40	70			
SP	23	B	5			35	(32)	50	17末		22－6との新旧不明
SP	24	B	5	4		43	36	48	17末	○	
SP	25	B	5			44	42	55	18前		
SP	26	B	5	4		40	29	65	17末	○	
SP	27	B	5			50	(28)	43			
SP	28	B	5･6			37	31	66			
SP	29	B	5			(67)	63	77	17末、明治	○	
SP	31	B	5			36	36	42			
SP	32	B	5			25	25	21			
SP	33	C	3	7		125	108	41			
SP	34	C	3	7		(119)	(88)	(63)			
SP	37	B	5			36	(30)	50			
SK	39－1	B	7･8			231	228	20			8>39－1
SK	39－2	B	7･8			88	70	26			
SP	40	B	5			34	21	52			
SP	41	B	5			42	29	40			
SK	42	A	5			150	93	27			3との新旧不明
SK	43	A	5			86	(58)	16			
SP	44	A	7			(55)	35	49			
SK	45	B	7			64	27	44			
SP	46	B	5			35	35	44			
SK	47	B	7			73	72	53			
SK	48	B	7			57	53	53			
SK	49	A	5			(44)	40	25			
SK	51	B	7			134	100	51	19?		
SK	52	B	7			69	67	45	19		
SK	53	B	7			41	37	138	18～19		
SK	54	B	7			78	(75)	41			
SK	56	B	7			(99)	(87)	34			
SK	57	B	7			170	(88)	50	18後		
SP	58	C	7	7		126	107	58			
SD	59	C	5	7		(680)	59	17	18?		60･439、72、99>59>437、438
SP	60･439	C	5	7		46	37	46	17?、19		439と同一遺構 60･439>59
SP	61･62	C	5			53	50	25			

Ⅱ－１表　遺構一覧表（2）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	63	C	5	8		34	34	74	17後		
SP	66	C	3	8		109	(38)	15			
SP	67	C	5			(78)	47	84			
SP	68	C	6			54	42	97	19		
SP	69	C	6			36	29	72	19		69>87
SP	71	C	5			(78)	47	84	18?		
SK	72	C	5	8		129	(121)	68	19		72>59
SP	73	C	3			40	38	30			
SP	74	C	3			(34)	33	5			75との新旧不明
SP	75	C	3			72	60	16			74との新旧不明
SP	76	C	3			24	20	11			
SP	77	C	3			19	12	9			
SP	78	C	3			24	18	28			
SP	79	C	3			33	21	13			
SP	80	C	3			52	45	10			
SP	81	C	5			40	34	11			81>120
SP	82	C	3	8		101	87	19	18?		82>120
SP	83	C	3	8		91	86	28			
SK	85	C	5·6			235	(113)	38	19前		31>85>86、87
SK	86	C	3·4·5·6			320	305	95	19前		85>86
SK	87	C	5·6	9		411	(89)	100	18後～19初		69、85、112>87
SK	88	C	5	9	1	136	(130)	99	18後		
SP	89	C	5			37	29	59	17～18		
SP	90	C	5			39	36	46			
SP	91	C	5	10		67	58	54	18?		
SK	92	C	5			60	47	62			
SP	93	C	4·6	10		145	119	50			94>93
SK	94	C	6			87	22	14			94>93
SP	95	C	5			41	30	18	17後		
SP	96	C	5			23	17	24	17後		96>437
SP	97	C	5			32	24	8	17末?		
SP	98	C	5			48	45	75	18		
SK	99	C	5·6	10		212	198	24	18		125>99>293、294、296、246·3100、250−15
SK	100	C	4			160	111	34			21、460·3174>100>461
SK	101	C	5	10		169	139	47	17後	○	101>119、246·3100
SK	102	C	5			53	34	18	17後	○	
SP	103	C	5	11		122	104	110			41>103>119、246·3100
SP	104	C	5			34	(28)	18			104>105
SP	105	C	5			55	44	42			104>105
SP	106	C	5			28	22	28			
SP	107	C	5			(87)	54	49			108、109との新旧不明
SP	108	C	5			(34)	(20)	8	17後?		108>109 107との新旧不明
SP	109	C	5			79	45	14			108>109 107との新旧不明
SP	110	C	5			28	22	24			
SP	111	C	3	11		81	72	29			
SD	112	C	5·6	11		460	107	97	18後		112>69、85、87、114·3091>112
SP	113·3372	E	6			69	61	84			3372と同一遺構
SP	114·3091	C	6			131	(64)	53	18?、19前		3091と同一遺構 3107>114·3091>87、112
統合	116	C	4			124	103	29	17後		580−1と同一遺構
SP	118	C	5	12		59	50	59	17後		118>119
SD	119	C	5	12		(361)	43	33	17後		101、103、118>119>246·3100
SK	120	C	3·5	12		200	100	40	19中		81、82>120>247·248 4との新旧不明
SD	121	C	5			(155)	74	8	19前?		
SP	122	C	5			50	48	8			
SP	123	C	5			33	(31)	7			
SP	124	C	5			45	43	34	19?		
SP	125	C	5			62	60	34			125>99、246·3100
SP	126	C	5			38	23	6	17後	○	126>246·3100
SP	127	C	5			45	38	46			128>127
SP	128	C	5			−	−	−			128>127、430
SK	129	C	5	12		2900	1001	92	17末	○	129>338、339 152との新旧不明
SD	130	C	7	13	1	南北(754) 東西435	南北29 東西26	23	18		2>130
SD	131	C	7	13		(290)	22	25			
SK	132	G	7			(103)	63	21			133>132>185
SK	133	G	7	14		130	112	100			133>132、265、267
SP	134	G	7			22	21	16			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（3）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	135	G	7			27	24	36			
SP	136	G	7			37	34	12			
SP	137	G	7			42	26	24			137>196
SK	138	G	7			(85)	(63)	－			
SU	139	G	7	14	1､2	底部280	底部277	273	17末	○	131､141>139
SD	140	C	7･8	13		(301)	31	15			
SP	141	G	7			(51)	42	21			141>139
SP	142	C	6			58	56	77			
統合	143	D	6			－	－	－			SB250－15と同一遺構
SP	144	C	5			34	21	34			144>251
SP	145	G	7			47	9	61			140>146>145
SP	146	G	7			23	21	23			140>146>145
SP	147	C	7			41	28	34			147>230､252
SP	148	C	7			38	36	15			
SP	149	C	7			29	24	11			
SP	150	C	7			32	19	12			
SP	151	C	5	14		75	72	13			151>246･3100
SP	152	C	5	14		104	85	15			129との新旧不明
SK	153	C	5	15	2	301	84	42	17～18後		201>153 154との新旧不明
SK	154	C	5			(52)	26	15			153との新旧不明
SP	155	C	5			50	39	5			155>353
SK	156	C	5			62	40	41			
SP	157	C	5			40	36	14			
SP	158	C	5			47	42	31	17?		
SP	159	C	5			31	25	42			
SP	160	C	5			38	33	22			
SU	161	G	7	15	3	268	(131)	236	17末	○	161>169･2130
SU	162	G	7	15	3	306	(131)	246	17後、 19前		
SP	163	C	7			31	23	10			
SP	164	C	7			30	28	25			164>230
SP	165	G	7			63	59	43			
SK	166	G	7･8			122	103	17			2､182>166>285
SP	167	G	7			27	22	19			
SP	168	G	7			28	26	19			2>168
SD	169･2130	G	7･8	16､17	3	(2160)	76	38	17前		2130と同一遺構 2､130､131､161､177､244､240､2131､2134､2135､2136､2162､2164､2167､2169､2170､2171､2192､2403>169･2130>288､2411､2501
SP	170	G	7			41	(25)	25			176>170
SP	171	C	5			36	(34)	22			
SP	172	C	5			29	26	31			
SP	173	C	5			24	24	20			
SP	174	C	5	18		(573)	－	－	17後	○	
SP	174－1	C	5	18		38	37	42	17後	○	174－1>175､339
SP	174－2	C	5	18		47	32	50	17後	○	174－2>210･3095
SP	174－3	C	5	18		37	36	44	17後	○	174－3>210･3095
SP	174－4	C	5	18		(61)	(29)	15	17後	○	
SK	175	C	5･6			243	238	40	18		174－1>175>210･3095､339､340､373･2236－1､451､452､453
SP	176	G	7			57	28	8			176>170､239
SK	177	G	7			74	65	14			177>169
SP	178	G	7			51	(25)	29			181>178>260
SK	179	G	7			95	39	49			179>260
SK	180	G	7			43	19	11			
SP	181	G	7			54	21	20			181>178､260
SD	182	C	7･8	13		(267)	23	18			2､252>182
SP	183	G	8			43	29	7			2>183
SK	184	G	7			133	(51)	28	17後		
SP	185	G	7			42	28	44			132>185
SP	186	C	5			33	33	56	18?		186>210･3095､224－3
SP	187	C	5			69	(65)	32	17､19		187>188
SP	188	C	5			67	(60)	44			187>188
SP	189	C	5			38	34	9			
SP	190	C	7			32	23	24			190>191､244､252
SK	191	C	7			(79)	67	22			190>191>244､252
SP	192	G	7			33	(15)	32			193>192
SK	193	G	7			104	65	66			193>192
SP	194	C	6			86	56	46	18		194>246･3100
SK	195	G	7･8	18		(110)	(41)	92			
SE	196	G	7	18		277	252	(200)	17後	○	130､137>196
SK	198	C	3			66	(44)	20			198>199､200
SK	199	C	3			(264)	(73)	19	18?		198>199
SD	200	C	3			(73)	32	6			198>200

Ⅱ－1　遺構一覧表表（4）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	201	C	5			97	86	23	17後		201>153
SK	202	C	5·6			(310)	240	32			22−3>202>203、319、326 216との新旧不明
SK	203	C	5			(380)	370	40	17後		202>203>319、326、327、328 205、207、216との新旧不明
SP	204	C	5			62	50	32	18前?		204>319
SP	205	C	5			(60)	60	61			205>319 203との新旧不明
SP	206	C	5			38	36	30			
SP	207	C	5	19		(40)	(30)	14			203との新旧不明
SP	208	C	5			34	(22)	24			208>339 209との新旧不明
SK	209	C	5	19	3、4	548	184	85	17末～18		209>338、339 208との新旧不明
SU	210·3095	C	5·6	20、21	5～14	445 作り替え 550	279 入り口部 473	257	19中	○	3095と同一遺構 174−2、174−3、175、186、309、310、311>210·3095>224−3、 451、452、453
SX	211	C	5	22	14	172	159	117	18後		1303>211>337
SK	212	C	7	22	14	164	128	26	17末		212>320、376
SK	213	C	7	22		150	95	19			213>320、376
SP	214	G	7			30	26	47			
SP	215	G	7			44	20	17			
SK	216	C	5·6	22		341	311	52	18		242·2237、243>216>374·2236−2、375·2236−3 202、203との新旧不明
SK	217	G	7			77	54	20			
SP	220	C	5			46	43	36			
SP	221	G	7	23、24		38	31	52			
SP	222	G	7	23、24		38	31	71			
SP	223	G	7	23、24		45	40	60			
SP	224	C	5·6	25		(634)	−	−	17～19	○	
SP	224−1	C	5			101	96	95	17～19	○	224−1>337
SP	224−2	C	5			104	74	70	17～19	○	224−2>337
SP	224−3	C	5			69	68	92	17～19	○	186、210·3095>224−3
SP	224−4	C	6			(79)	(24)	79	17～19	○	
SP	225	C	7			29	27	17			225>230
SP	226	C	7			36	30	35	19中		226>230
SP	227	C	8	26		132	104	58			227>287 2326との新旧不明
SP	228	G	7			29	13	8			228>269·2315
SP	229	G	7			19	18	(34)			
SD	230	C	7·8	13		(420)	27	9	18		147、164、225、226、252>230
SP	231	C	5			93	(45)	53			
SP	232	C	5			28	25	19			
SD	233·2160	C	7·8	27	15	(2040)	266	32	17～19		2160と同一遺構 2、57、277、279、318、387、405、2054、2096、2133、2173、2195 >233·2160>261、262
SD	235·2201	D	7·8	28、29		(2089)	(128)	52	17前	○	2201と同一遺構 10、2053、2096、2209、2251、2255、2332>235·2201>393、 2182　238との新旧不明
SD	236·2095 ·3021	D	5·6 ·7·8	28、29	15	(2678)	300	45	17前、 17後	○	2095、3021と同一遺構 10、237、386、2058、2094、2097·3082、2207、2208、2210、 2211、2246、2247、2248、2249、2250、2251、2252、2253、2354、 2457>236·2095·3021>377、379、380、381、382、383、384、 2370、2373、2374·3165
SK	237	D	7	26		(170)	(63)	92			237>376、377
SP	238	D	7			(54)	(27)	58			235·2201との新旧不明
SK	239	G	7·8			(231)	(163)	89	18?		176、240>239 169·2130との新旧不明
SK	240	G	7·8			208	179	46	17後～19		240>169·2130、239、288
SK	242·2237	C	6			56	69	58			2237と同一遺構 242·2237>216
SK	243	C	5·6			67	63	86			243>216
SK	244	C	7	26		234	193	50	17中 ～19中		2、190、191>244>252
SD	246·3100	D	5·6	30、31	15～21	(2484)	319	94	17後	○	3100と同一遺構 41、99、101、103、107、108、109、110、119、125、126、144、 151、194、250−10、250−11、251、322、324·3119、3011、3023、 3029、3041、3042、3061、3062、3064、3065、3071、3090、3168、 3169、3171、3190>246·3100
SD	247·248	D	3·5	32		南北方向 (500) 東西方向 (740)	南北方向 (103) 東西方向 (112)	南北方向 32 東西方向 24			4、59、72、85、86、89、98、120>247·248>250−2、250−3、 250−4
SB	250	D	5·6	33～35	21、22	(13000)	(540)	85	17後	○	

Ⅱ－1表　遺構一覧表（5）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SB	250−1	D	5	33～35	21、22	(137)	(134)	81	17後	○	
SB	250−2	D	5	33～35	21、22	199	177	84	17後	○	127、128、247・248、430、433、434>250−2
SB	250−3	D	5	33～35	21、22	132	120	61	17後	○	59、128、247・248、436>250−3
SB	250−4	D	5	33～35	21、22	113	100	64	17後	○	59、60・439、61・62>250−4
SB	250−5	D	5	33～35	21、22	61	48	34	17後	○	
SB	250−6	D	5	33～35	21、22	85	79	27	17後	○	31、85>250−6
SB	250−7	D	5	33～35	21、22	54	(38)	15	17後	○	85、86>250−7
SB	250−8	D	5	33～35	21、22	(210)	208	57	17後	○	122、123、250−12、425、426、427、428、429、430>250−8
SB	250−9	D	5	33～35	21、22	110	100	47	17後	○	97、119>250−9>437
SB	250−10	D	5	33～35	21、22	(216)	(148)	85	17後	○	104、105、106、107、124、246・3100>250−10
SB	250−11	D	5	33～35	21、22	(195)	(180)	59	17後	○	108、109、110、121、122、123、246・3100、250−12>250−11
SB	250−12	D	5	33～35	21、22	130	(113)	345	17後	○	121、122、123、425、426>250−12>250−8、250−11
SB	250−13	D	5	33～35	21、22	115	110	44	17後	○	
SB	250−14	D	5	33～35	21、22	43	36	14	17後	○	
SB	250−15・143	D	6	33～35	21、22	83	(53)	18	17後	○	143と同一遺構 68、99>250−15・143
SU	251	C	5	36		316	226	30			144>251>246・3100
SK	252	G	7			206	(202)	−			2、147、190、191、244>252>182、230
SP	253	G	7	23、24		54	35	70			
SP	254	C	7	26		130	102	25			
SP	257	G	7			65	56	19			
SD	258	C	7	13		117	19	6			
SD	259	C	7	13		173	23	17			
SD	260	G	7	37		316	61	55			130、178、179、181>260
SD	261	C	7	13		633	54	33			261>233
SD	262	C	7	13		277	29	25			345>262
SP	263	G	7			43	32	41			
SP	264	G	7			22	17	15			
SP	265	G	7			31	(20)	31			133>265
SP	266	G	7			26	23	20			
SK	267	G	7			60	35	42			133>267
SK	268	G	7・8			94	(89)	40	18後 ～19前		140>268>283、284
SD	269・2315	G	7・8	37	22	(571)	104	60	17後		2315と同一遺構 147、166、228、252、2168、2314>269・2315>285、286、2047
SK	270	C	5			(110)	(99)	56	17後		
SP	274	G	7			56	43	56			
SP	275	G	7			79	50	36			
SP	277	C	7	37		155	117	38			277>233・2160
SU	279	G	7・8	38	22、23	床450	340	236	17後		2、227、233・2160、280、418>279
SU	280	G	7・8	38	24、25	床209	179	242	17末		391、2185>280>279
SU	281	G	7・8	39	25、26	210	156	182	17後		2>281 288との新旧不明
SP	282	G	7			30	(26)	46			140>282>283
SP	283	G	7・8	39		(64)	(54)	65			140、268、282>283 284との新旧不明
SP	284	G	7			(39)	21	41			140、268>284 283との新旧不明
SP	285	G	7	39		60	58	65			2、166、269・2315>285
SP	286	G	8	39		60	49	80			182、269・2315>286
SP	287	C	7・8	40		157	(79)	80			227>287
SU	288	G	7・8	39	27	185	(175)	153	17後		169・2130、240>288 281との新旧不明
SP	289	E	5			44	40	35			
SP	290	E	5			85	60	38			
SP	291	D	3・5			77	53	14			
SP	292	D	3・5			46	29	28			
SP	293	C～D	5・6			87	79	28	17末?	○	99>293
SP	294	C～D	5			42	18	27			99>294
SP	295	C～D	5			35	20	22			
SP	296	C～D	5			58	50	49			99>296>297
SP	297	C～D	5			76	62	44	17?		296>297
SP	298	C～D	6			38	27	83			
SX	299・3075	C～D	3	40		(247)	(66)	−			3075と同一遺構
SP	300	D	5	41、42		40	38	33			300>303
SP	301	E	5	40		56	45	78			
SP	302	D	5	41、42		44	40	42			
SP	303	D	5	41、42		36	(35)	12			300>303
SP	304	E	5			32	19	11			
SP	305	E	5			35	34	42			
SP	306	E	5	40		30	26	56			
SK	307	D	5・6			103	94	47			307>340
SK	308	D	6			63	57	46			308>340

Ⅱ－１表　遺構一覧表（6）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	309	C	6			35	31	55			309>210･3095
SP	310	C	6			42	(24)	52			310>210･3095
SP	311	C	6			28	24	34			311>210･3095
SP	312	E	5			47	35	50	17?		
SP	313	G	7			60	48	17			
SP	314	G	7			31	30	17			
SP	315	G	7			34	30	17			
SP	316	G	7			35	25	17			2>316
SP	317	G	7			20	18	30			2>317
SP	318	C	7	43		158	(144)	33			318>233･2160､405
SD	319	D	5･6	44		(1390)	93	20			202､203､204､205､2241>319
SD	320	D	5･6･7	44		(1380)	37	23			212､213､2244>320
SK	321	E	5･6			87	59	26	17		
SK	322	D	5			77	(58)	67			322>246･3100
SP	323	D	5･6			62	48	40			
SX	324･3119	D	6	43		(331)	(93)	－	17後		3119と同一遺構 194､3166､3167､3168､3169>324･3119>246･3100
SP	325	D	5			67	61	27			325>328
SD	326	D	5･6･7	44		(1395)	47	33			22､202､203>326
SD	327	D	5･6	44		(763)	38	12			203>327
SD	328	D	5	44		(740)	80	15			202､203､325>328
SP	330	E	5			35	35	53			
SP	331	E	5			76	56	26			
SK	332	E	5			60	33	23			
SP	333	D	5	41､42		44	43	12	17?		
SP	334	D	5	41､42		53	42	12			
SP	335	E	5			41	37	16			
SP	336	E	5			20	13	38			
SD	337	D	5･6	41､42		(1230)	35	16			153､210･3095､211､224－1､224－2､351>337
SD	338	D	5	41､42		(869)	39	12			129､209>338
SD	339	D	5･6	41､42		(1186)	45	11			129､174－1､175､208､209>339>452､453
SD	340	D	5･6			(281)	50	9			307､308､373･2236－1>340
SP	341	G	7			53	50	12			
SP	342	G	7	23､24		45	38	31			259>342
SP	343	G	7	23､24		35	31	48			
SP	344	G	7			29	27	12			
SP	345	C	7	43		77	62	18			345>262
SP	346	C	8			43	38	70			
SK	347	E	3	43		165	116	123			347>355､1128､4031
SP	348	E	3			82	(51)	62			
SP	349	E	3			39	29	36			
SK	350	E	3			(120)	(56)	－			
SK	351	D	5			78	77	14			351>337
SP	352	E	5			36	29	19			
SP	353	D	5	41､42		42	35	9			155>353
SP	354	D	5	41､42		51	43	10			
SP	355	E	3			(50)	42	48			355>4031
SP	356	E	3	43	27	48	34	18			356>4031
SP	357	E	5			(42)	(30)	60			88>357>450､455
SK	358	E	3			(74)	(73)	74			358>412
SK	359	E	3			62	46	54			359>412
SK	360	E	3			240	67	108			859>360>1129
SK	361	E	5			83	(55)	61			246･3100>361
SP	362	G	5			40	(35)	(45)			365との新旧不明
SK	363	E	5			(68)	(43)	56			264･3100>363
SP	364	E	5			(37)	(24)	68			
SK	365	G	5			67	(45)	37	17?		362との新旧不明
SP	366	G	5			22	17	21			
SP	368	D	5	41､42		49	31	25			
SP	369	D	5	41､42		43	(25)	6			210･3095>369
SK	370	E	5			(63)	45	40			370>371､372
SP	371	E	5			44	(38)	94			370､372>371
SK	372	E	5			88	78	51			370>372>371
SP	373､374､375･2236	D	6	111､112		－	－	－			
SP	373･2236－1	D	6	111､112		34	22	61			2236－1と同一遺構 373･2236－1>340
SP	374･2236－2	D	6	111､112		33	29	41			2236－2と同一遺構 216>374･2236－2
SP	375･2236－3	D	6	111､112		35	30	67			2236－3と同一遺構 216>375･2236－3
SD	376	D	5･6･7	44		(1356)	30	31			212､213､237>376
SD	377	D	5･6･7	28､29		(1389)	46	18			236･2095･3021､237､2248>377>379､380､381､382､383､384､2246
SK	379	D	5･6			63	47	58			236･2095･3021､377>379
SK	380	D	5･7			91	60	66			236･2095･3021､377>380

Ⅱ－1表　遺構一覧表（7）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	381	D	5･7			40	36	59			236･2095･3021、377>381
SK	382	D	7			73	64	54			236･2095･3021、377>382
SK	383	D	7			57	38	40			236･2095･3021、377>383
SK	384	D	7			66	(51)	53			236･2095･3021、377>384
SP	385	C	7			38	34	12			386との新旧不明
SD	386	C	7	13		(166)	43	5			2>386 385、387との新旧不明
SK	387	C	7			118	85	26			2>387 386との新旧不明
SK	388	G	7			65	60	18			140>388
SD	390	C	8			(354)	26	17			391との新旧不明
SK	391	C	8			(77)	(58)	52			390との新旧不明
SP	392	G	7			(36)	24	33			
SK	393	D	7･8			110	(35)	25			235･2201>393
SP	394	G	7			14	14	10			
SP	395	E	3･4	45	27	74	71	80	明治前		
SP	397	E	3･5			63	45	33			88>397
SP	398	G	5			19	19	27			
SP	399	G	5			19	18	31			
SK	400	E	3･5			189	(122)	92			120>400
SP	401	G	7			14	13	6			
SP	402	G	7			10	8	10			
SP	403	G	7			(48)	47	10			233>403 419との新旧不明
SK	404･2333	C	8			59	50	21			2333と同一遺構
SK	405	C	7			73	46	25			318>405>233
SK	406･2327	C	8			84	74	53			2327と同一遺構 406>2185
SP	407	G	7			52	20	34			
SP	408	G	7			16	15	29			
SP	409	G	5			37	32	10			
SK	410	G	5			84	33	39			
SP	411	E	3			60	56	71			411>412
SD	412	E	3			(524)	53	34			358、359、411、660、830>412、1042、1130
SP	413	C	3･4	45		82	73	23			413>414
SP	414	E	4			47	(34)	87			413>414
SP	415･629	E	3			26	24	50			629と同一遺構
SP	416	G	7			24	20	16			
SK	417･2413	G	8			177	115	29	17後		2413と同一遺構 2>417･2413
SK	418	G	8			(286)	206	47			2、227、2054>418>279、2161、2190
SP	419	G	7			(40)	28	15			403との新旧不明
SP	420	G	8			67	48	28			346、390>420
SK	421	E	5			92	70	50			72>421
SK	422	E	5			(87)	(36)	42			
SK	423	E	5			(111)	(41)	37			
SP	424	D	5	45		69	68	60			424>250
SP	425	D	5			(37)	30	22			425>250−8、250−12 426との新旧不明
SP	426	D	5			(34)	29	20			426>250−8、250−12 425との新旧不明
SP	427	D	5			−	−	23			427>250−8
SP	428	D	5			42	33	26			428>250−8
SP	429	D	5	45		54	54	31			429>250−8
SK	430	D	5	46	27	82	58	26	19		128、250−2、250−8>430
SP	431	E	5			27	25	29			
SP	433	D	5			(35)	34	15			250−2>433 434との新旧不明
SP	434	D	5			45	(40)	23			250−2>434 433との新旧不明
SP	435	D	5			20	20	11			
SP	436−1	D	5			−	−	20			436−1>443
SP	436−2	D	5			37	24	20			436−2>443
SP	436−3	D	5			26	21	15			
SP	436−4	D	5			33	29	18			
SP	436−5	D	5			−	−	13			56>436−5>250−3
SP	436−6	D	5			63	45	14			436−6>250−3
SP	437	D	5	45	27	69	(43)	48			59、96>437>250−9
SP	438	D	5	45		50	38	64			59>438
統合	439	C	5	7		−	−	−	17?、19		60と同一遺構
SP	440	E	5			50	47	72	17		440>444
SP	441	G	7			33	30	57			
SP	443	D	5	45	27	87	76	53	17?		436−1、436−2>443
SD	444	F	3･5	46		624	70	92			440、447>444>636、687、1128

Ⅱ－1表　遺構一覧表（8）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	445	E	3			(62)	62	90			446>445
SK	446	E	3			100	92	24			446>445、447
SK	447	F	3			(80)	(75)	55			446>447>444
SK	448	E	3			160	44	74	17前		448>630
SK	449	E	3			113	104	91	17後		449>697
SP	450	F	5			(52)	52	38			88、357>450>672
SK	451	D	5			(44)	43	14			174－1、175、210・3095>451
SK	452	D	5・6			89	(65)	64	18?		175、210・3095、339>452 453との新旧不明
SK	453	D	6			(54)	40	26			175、210・3095、339>453 452との新旧不明
SK	454	F	5			81	48	27			
SK	455	F	5	46		98	93	93			88、357>455>641、645
SK	456	F	3・5	46		83	68	28			88>456
SK	457	F	3	46		106	81	100			
SK	458	E	3・4			76	75	61			86、459、461>458>462
SP	459	E	4			50	(40)	45			86>459>458、462
SK	460・3174	B	4・6			163	83	88			3174と同一遺構
SP	461	C	4			108	(90)	25	17後		21、100、460・3174>461
SK	462	E	3・4 ・5・6			285	100	89			86、458、459>462
SK	463	C	1			193	90	37			463>558、559、921、924
SK	464	C	1・2	47	27	330	313	54	17～19		464>531、578、701、957 718との新旧不明
SK	465	A～B	3	47	27～32	157	136	88	大正		465>469、585、623
SK	467	C	3	47		123	(97)	98	18～19		
SK	468	A～B	3	48	32	180	149	70	明治		
SP	469	C	3	48		1000	(77)	67			465、468>469
SK	470	C	1	48		234	91	23	19?		470>518・519、640、681、825、864、868、888、958
SP	471	C	1			37	35	44			471>805
SP	472	C	1			39	39	22	17?		472>805
SP	473	C	1			29	26	23			
SP	474	C	1			－	－	－	17後		
SP	474－1	C	1			53	30	17	17後		474－1>807、956
SP	474－2	C	1			45	44	31	17後		
SP	474－3	C	1			41	36	23	17後		
SP	475	C	1	48	33	51	33	18			475>599、805
SP	476	C	1			－	－	－	19		
SP	476－1	C	1			41	38	12	19		476－1>807、812
SP	476－2	C	1			38	37	31	19		476－2>678
SP	476－3	C	1			40	32	28	19		476－3>958
SP	477	C	1			－	－	－			
SP	477－1	C	1			42	37	23			477－1>888
SP	477－2	C	1			50	47	24			477－2>792
SP	478	C	1			48	36	14			478>479・737
統合	479	C	1			－	－	－			
SP	479・737	C	1			70	60	13			737と同一遺構 478>479・737>806
SK	480	C	1			149	91	41	17?		509>480>805、855
SP	481・754	C	2	48		65	56	41			754と同一遺構 481・754>4301 4218・4250との新旧不明
SP	482	C	1			57	48	18			482>485、779、1071・4299
SP	483	C	1			49	48	36			483>485、1071・4299
SP	484	C	4			33	31	16			
SP	485	C	1	48	33	115	110	1面 43 2面 103	17後		482、483>485>534、1071・4299
SP	486	C	1			(40)	37	37			529との新旧不明
SP	487・507	C	1	49		(183)	151	122	19		507と同一遺構 487・507>847、866、959
SK	488	C	3			263	(213)	65			488>607、693
SP	489	C	4			29	26	34			
SD	490	C	4			23	21	16			
SP	491	C	3・4			47	24	36			491>590
SP	492	C	3			23	20	34			492>589
SP	493	C	3	49		106	91	30			493>609
SP	494	C	3	49		98	86	85			494>523、626、627・724、834、859
SP	495	C	4			21	(16)	19			
SP	496	C	3	49		110	102	48			496>720、834、859
SP	497	C	3	49		109	(79)	51			497>736、834、879
SP	498	C	3	49		56	52	24			498>606
SP	499	C	3	50		71	64	48			566>499
SP	500	C～D	3	50		112	95	51	17後	○	500>906、1071・4299
SP	501	C～D	3	50		(103)	(96)	66			501>906、910、1071・4299、4301

Ⅱ－1表　遺構一覧表（9）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	502	C	3			(77)	(72)	45			502>1071・4299、4301
SK	503	A～B	1	50		(360)	98	82	明治		
SK	504	D	1			65	41	19			742>504>730、810
統合	507	C	1	49		－	－	－	19		487と同一遺構
SP	508	C	1	50		69	65	26			508>521、805
SP	509	C	1			74	73	29	17中～後		509>480、595
SK	510	C	3			321	304	34	19中	○	510>585、617、623、666、671、756、771、776、788、796、802、803、804、808
SP	511	C	3	50		47	40	32			
SP	512	C	3	50		57	44	21			
SP	513	C	3			48	45	67	18後		513>655、658
SP	514	C	3			56	56	13			514>552、554、728、744
SP	515	C	3			52	48	96			646>515
SP	516	C	3			19	16	22			
SP	517－1	C	1			149	(92)	32			517－1>517－2、517－3、537、923、1072・4300、4301
SP	517－2	C	1			(78)	59	28			517－1>517－2>517－3、923、1072・4300、4301
SP	517－3	C	1			(120)	(88)	87			517－1、517－2>517－3>534、537、1072・4300、4301
SK	518・519	C	1	51	33	284	157	161	17後、18後	?	470>518・519>595、888
SK	520	C	1	51		117	103	40	17?		520>810、900・1087
SK	521	D	1			(102)	(79)	18			508、806>521
SP	522	C	3			28	21	12			
SK	523	C	3	51		124	107	95			494>523>834、859、863
SP	524	C	1	52		91	(81)	32			524>729
SP	525	C	1	52		108	92	33			525>599
SP	526	C	1	52		(114)	(80)	57			526>888
SP	527	C	1	52		125	102	29			527>764、888
SP	528	C	1	52		103	79	29			528>956
SP	529	C	1	52		(98)	88	51			486との新旧不明
SP	530	C	1	52		124	114	48			530>556、683、813
SP	531	C	2	53		129	(81)	56			464>531>593
SP	532	C～D	1	53		115	95	31			532>1072・4300、4301
SP	533	C～D	1・3	53		119	(97)	(77)	17後		533>1071・4299、1072・4300
SP	534	C～D	1	53		(81)	(71)	51			485、517－3>534>1071・4299、1072・4300
SP	535	C	3・4	53		105	(96)	53	17後	○	535>577
SP	536	C～D	3・4	53		114	(85)	59			536>1071・4299、4301
SP	537	C～D	1・3	54		115	100	83	17後		517>537>1071・4299、1072・4300、4301
SP	538	C	1・3			84	74	68			538>1071・4299、4301
SK	539・4225・4254	A～B	1・2	55	33	529	490	97	19後、明治前		4225、4254と同一遺構 4103>539・4225・4254
SK	540・4291	C～D	2	55	33	(271)	(114)	38	明治		4291と同一遺構 539・4225・4254>540・4291
SP	541	C～D	1	54		161	157	49			718>541>958
SK	542	A～B	3			278	95	39	明治		
SK	543	C	3			(154)	130	20			543>693、746
SK	544	C	3			122	100	34	17～明治		544>621、710
SP	545	C	3・4	54		130	124	61	18		545>710
SP	546	C	4	54		118	118	49			
SP	547	C	3	54		104	(94)	20			547>618、649
SP	548	C	3			42	42	13			
SP	549	C	3			46	34	15			549>759
SP	550	C	3・4			42	42	11			550>759
SP	551	C	4			29	29	30			
SK	552	C	3			(118)	(34)	45	19		514>552
SK	554	C	3	54	34	147	131	59	19		514>554>567、607、727、728 744との新旧不明
SX	555・4059	C	1・2	56、57	34	舞台 743 橋掛り (1020)	舞台 (486) 橋掛り 104	舞台 58 掘方 70 橋掛り 28 堀方 46	19前		4059と同一遺構 503、539・4225・4254、598、674、823、1301、4048>555・4059>559、591、601、639、685、740、765、817、818、821、822、824・4064、836、837、850、894、899、962、981、1266・4017、4063
SP	556	C	1	58		120	(57)	25	17		530>556>592、958
SP	557	C	2	58		(130)	(109)	90			539・4225・4254、4055>557>592、677、952、958、977、978・4290、4500、4702
SP	558	C	1	58		94	(85)	15			463>558>664、766
SP	559	C	1	58		193	(133)	39			463、555・4059>559>684、924
SP	560	C	1	58		95	(92)	47			560>806、810
SK	561	C	3			(80)	(77)	88			609>561
SP	562	C	3	58		(36)	(36)	93			562>563
SP	563	C	3・4	58		106	(93)	62			562>563

Ⅱ－1表　遺構一覧表（10）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	564･778	C	1･3			72	72	15			778と同一遺構 564･778>800、814、1072･4300、4301
SP	565	C	4	59		195	183	59			4167>565
SP	566	C	3			35	30	51			566>499、568
SP	567	C	3	59		80	(67)	24			554>567
SP	568	C	3			82	69	27			566>568
SK	569	C	3			111	91	57			569>710、759
SP	570	C	1･2	59		175	154	74			
SP	571	C	3	59		104	81	20			
SP	572	C	3			31	28	50			
SP	573	C	3			36	34	78			
SP	574	C～D	3	59		94	91	38			574>1071･4299、4301
SP	575･1014	C～D	3	59		142	105	69	17	○	1014と同一遺構 575･1014>814、1071･4299、1072･4300、4301
SP	576	C～D	1			39	38	25			576>800、1072･4300
SP	577	C～D	1･2 ･3･4	60		177	170	103	17後	○	535>577>1071･4299、4301
SP	578	C	1	60		134	131	26			464>578>957
SP	579	C	1			42	31	68			579>1071･4299、4301
SP	580	C	3･4	61		1692	－	－	17後		
SP	580－1 ･116	C	4	61		124	103	29	17後		116と同一遺構
SP	580－2	C	4	61		97	96	32	17後		
SP	580－3	C	4	61		(108)	(52)	32	17後		
SP	580－4	C	3･4	61		82	(65)	32	17後		
SP	580－5	C	3･4	61		113	71	60	17後		580－5>777、759
SP	580－6	C	3･4	61		91	84	25	17後		580－6>759、827
SP	580－7	C	3･4	61		104	89	28	17後		580－7>622
SP	580－8	C	3･4	61		(93)	(78)	49	17後		
SP	581	C	3	60		86	70	33			581>676
SP	582	C	3	60		(97)	(79)	64			582>790
SP	583	C	3	60		104	100	32			583>616、761、871
SK	584	C	3			92	(74)	26	17末 ～18初		610>584>761、871
SK	585	C	3	60	34	159	(92)	42		○	465、510>585>617、623
SP	586	C	3			22	(18)	26			
SP	587	C	3			42	(20)	不明			587>589
SK	588	C	3			(36) 撹乱下80	(17) 撹乱下62	92			588>590、1131、1134
SK	589	C	3			57	56	12			492、587>589
SP	590	C	3･4	62		106	99	58			588、491>590
SP	591	C	1･2	62		(101)	(67)	56			539･4225･4254、555･4059、684>591>716
SK	592	C～D	1･2			(152)	(150)	31(66)	17～19		556、557>592>677、952、958、977
SK	593	C～D	2			(181)	(135)	29	19		531>593>702･4184、1072･4300、4301
SK	594	C～D	1･2			133	117	17			
SP	595	C～D	1	62		157	(116)	(100)	17後	○	509、518･519、596>595>740
SP	596	C	1	62		93	73	22	17		596>595
SP	597	C	1	62		101	85	60			597>888
SP	598	C	1	56、57		134	82	46			598>555･4059、894
SP	599	C	1	62		80	68	35			475、525>599
SP	600	C～D	1	62		119	101	76			604>600>869
SP	601	C～D	1			151	145	72			555･4059、685、767、1301>601
SP	602	C	1			31	23	21			
SP	603	C	1			27	23	46			
SP	604	C～D	1			(82)	68	15	17?		503>604>600
SX	605	C	1	63	34	347	283	61	17		605>895
SP	606	C	3			77	(39)	20			498>606>607、693
SD	607	C	3			(222)	29	16			488、554、606>607>693
SP	608	C	3			－	－	71			608>676
SK	609	C	3	63	35	245	207	79	17後		493>609>561、725、761、858、871
SP	610	C	3			49	35	26	17?		610>584、761、871
SP	611	C	3			77	72	25			611>614
SK	612	C	4			84	70	23			
SP	613	C	3			(64)	49	55			
SP	614	C	3	63		138	120	44	17後		611>614>783
SP	615	C	4			107	96	64			
SP	616	C	3	63		105	(84)	86			583>616>871
SP	617	D	3	63		103	(90)	32			510、585、623>617>802
SP	618	C～D	3	64		(107)	(67)	24			547>618>649
SP	619	C	3			51	48	28			619>709
SP	620	C	3	64		70	65	30	明治		
SP	621	C	3	64		(70)	(51)	27			544、468>621>710
SP	622	C	3			44	38	38			580－7>622>710
SK	623	C	3			283	(215)	76	19		465、510、585、650>623>617、667、670、694

Ⅱ－1表　遺構一覧表（11）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	624	C	3			68	67	18			
SP	625	G	3			(25)	(18)	(16)			
SD	626	C	3			(70)	51	48	17末～18前		627･724>626
SK	627･724	C	3	64		239	91	119	17		724と同一遺構 494>627･724>626、781、834、859、883
SD	628	G	4･6	65		(659)	40	51	17中、17後		93、114･3091、460･3174、461、1132、3364、3365>628
統合	629	E	3			－	－	－			415と同一遺構
SP	630	G	3			27	(23)	14			448>630
SP	631	G	3			32	30	26			
SP	632	G	5			27	26	29			86>632
SK	633	G	3･5			76	61	62			86>633
SP	634	G	3			54	40	68			
SP	635－1	G	3･5			26	19	16			
SP	635－2	G	5			20	16	20			
SP	636	G	3			(33)	(8)	41			444>636
SP	637	C	1	56、57		128	118	27			
SP	638	C	2	56、57		(100)	(32)	20			750、751、4028>638
SP	639	C	1	56、57		111	98	46	17?		555･4059>639>806、981
SP	640	C～D	1	64		95	89	24	17後		470(被熱範囲)>640>868、888
SK	641	G	5			58	34	10			455>641
SP	642	G	5			42	22	20			
SP	643	G	5			21	16	13			
SP	644	G	5			18	17	18			
SP	645	G	5			(26)	24	19			455>645
SP	646	C	3			(21)	(14)	48			646>515
SP	647	C～D	1	64		70	59	18			
SP	648	C	3			49	34	17			648>880
SP	649	C～D	3	65		(100)	(87)	29	17?		547、618>649
SP	650	C	3			33	33	18			560>623
SK	651	C	3			(80)	(33)	23			651>652、653、655
SK	652	C	3			(57)	(32)	20			651>652>653、691
SK	653	C	3			(105)	(60)	22			651、652>653>691
SP	654	C	3	65		45	43	27			
SK	655	C	3			97	88	58	17		513、651>655>658
SP	656	C～D	1	66		39	34	49			
SP	657	C	1			97	(76)	18			657>862
SK	658	C	3	65		66	53	45	17		513、655>658
SP	660	C	3	65		102	(93)	62	17		
SP	661	C	3	67		92	(78)	25			
SK	662	C～D	1	67		183	81	76	17後		662>663、664、848、849
SP	663	C～D	1	67		(93)	(68)	35			662>663
SD	664	D	1	67		(455)	56	71	17後		539･4225･4254、662、558、766>664
SP	665	C～D	1	66		41	41	43			665>703
SK	666	C	3	67		(66)	(29)	40			510>666>771
SP	667	C	3			(59)	(26)	18			623>667
SP	668	G	3			(21)	(15)	20			
SP	670	D	3			(77)	(65)	21			623>670
SP	671	D	3			(76)	(48)	19			
SP	672	E	5			22	(21)	30			450>672
SP	673	E	5			23	(21)	6			91>673
SP	674	C	1	56、57		144	(114)	36			674>555･4059
SK	676	C	3	68		102	92	47			581、608>676>796
SP	677	C～D	1･2	68		185	166	65	17後		539･4225･4254、557、592>677>952、958、977
SK	678	D	1			66	49	61			476－2>678>679･951、958
SD	679･951	D	1			(130)	53	33			951と同一遺構 678、682、867、958、959>679･951
SP	680	C～D	1	68		109	105	26	17?		680>767
SP	681	D	1	66		35	35	54			470(被熱範囲)>681>868
SP	682	D	1			48	34	22			682>679･951
SP	683	C～D	1			115	(94)	46			530>683>813
SP	684	C～D	1	68		167	(117)	70	17後?		539･4225･4254、559>684>591
SK	685	C～D	1			101	60	25			555･4059>685>601
SP	686	D	1	68		(111)	105	(79)			503、740>686>850、869、962
SP	687	G	5			31	27	28			444>687
SP	688	G	5			24	24	10			
SP	689	G	3			23	18	16			
SP	690	C	4			33	29	13			
SP	691	C	3	68		(128)	(116)	46			652、653>691>692、715、728
SP	692	C	3			55	40	21	17後?		691>692
SK	693	C	3			(187)	105	18			488、543、606、607>693
SK	694	C	3			63	(47)	12			623>694
SP	696	G	5			23	20	20			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（12）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	697	G	3			(36)	(15)	19			449>697
SP	699	C～D	1	69	34	103	103	(47)	17後	○	699>888
SP	701	C～D	1			(55)	(52)	－			464>701
SP	702･4184	D	2	145		180	(173)	57	17後		4184と同一遺構 4182、4183、4211、4236>702･4184
SP	703	C～D	1	68		73	69	59			665>703>767
SK	704	D	3			76	(57)	23			704>763、883
SP	706	C	3			28	26	76			706>710、759
SP	707	C	3			42	34	62			707>710、759
SK	709	C	3			113	95	21			619>709
SK	710	C	3			(354)	(162)	45			465、468、469、544、545、569、621、622、706、709>710>759
SP	711	C	3			30	30	5			
SP	712	C～D	1	69		114	83	41	17		712>733、734
SP	713	E	2			(159)	(143)	43			531、593、702･4184>713
SK	714	C～D	1			(169)	(158)	12			717>714
SK	715	C	3	68		(57)	43	42	17?		691>715
SP	716	C～D	2	69		(75)	(73)	48			539･4225･4254、591>716
SK	717	C	1			86	(57)	42			717>714
SK	718	C	1			209	(190)	25			464>718>541、807
SP	719	C	3			(33)	(10)	87			719>871
SP	720	D	3			41	(28)	15			496>720
SP	721	D	3			37	36	30			721>722
SP	722	D	3			43	(35)	12			721>722>846
SP	723	D	3			41	35	14			723>763、795
統合	724	C	3	64		－	－	－	17		627と同一遺構
SK	725	D	3			(206)	96	39			609>725>761、871
SP	726	C	3			36	(24)	33			
SP	727	C	3			(32)	31	43			554>727>728
SD	728	C	3			(105)	37	17	17?		514、554、691、727>728
SK	729	D	1			84	79	15			524、792>729>805
SK	730	D	1	69		102	88	107	17?		504、742、745･1084>730>810
SP	731･757	D	1			33	26	15			757と同一遺構 731･757>805
SP	732	C～D	1	66		31	27	82	17		
SP	733	D	1			31	27	82			712>733>734
SP	734	D	1			30	(27)	32			712、733>734
SK	736	C	3	69		(61)	(21)	21			497>736>784、834、879
統合	737	C	1			－	－	－			479と同一遺構
SP	738	C～D	3	69		125	106	20			
SP	739	C～D	1	66		36	35	36			
SX	740	D	1	70、71		(610)	－	－			503、555･4059、595、600>740>686、869、892
SP	741	D	1			(35)	(25)	46			888>741
SK	742	D	1	69		70	(49)	90			742>504、730、810
SP	743	D	1	69		97	(88)	44			743>806
SP	744	C	3			(45)	(15)	28	17?		514>744 554との新旧不明
SP	745･1084	C～D	1	72		122	101	36	17後		1084と同一遺構 745･1084>730、806、810
SP	746	C～D	3	72		97	96	30			543>746
SP	747	D	3	72		93	90	39			4301>747>1071･4299、1072･4300、4301
SK	748	D	1			(100)	47	55			748>892、893
SP	750	C	2			－	－	－			750>4028
SP	751	C	2			－	－	－	17?		751>638、4028
SP	752	C	2			－	－	－			
統合	754	C～D	2	48		－	－	－			481と同一遺構
SK	755	D	3			(83)	53	12			756、796>755>760
SP	756	D	3			29	27	26			510>756>755
統合	757	D	1			－	－	－			731と同一遺構
SD	759	D	3･4	72		(714)	74	112	17中～後		468、549、550、569、580－5、580－6、706、707、710、777>759 >799、827
SP	760	D	3	72		42	38	30	17?		755>760
SK	761	D	3			(333)	143	44			583、584、609、610、725>761>871
SK	763	D	3			87	(84)	23			704、723>763>795
SP	764	C	1	73		87	60	27			527>764>888
SP	765	C	2	73		156	(86)	47	17末 ～18初		555･4059>765
SP	766	C～D	1	73		112	71	38			558>766>664
SP	767	C～D	1	73		167	140	73			680、703>767>601、768、769
SP	768	D	1			60	37	62			767、769>768
SK	769	C～D	1	73	35	147	98	233	17後	○	767>769>768、832、935
SK	771	D	3			144	(125)	21	17後		510、666、676、788>771 796との新旧不明
SP	772	C～D	4			39	32	28			4264>772
SP	773	C～D	4			40	37	39			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（13）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	774	C～D	4			36	34	18			
SD	775	D	3	74		(259)	36	19	17～18?		775>835
SP	776	D	3			34	32	33			510>776
SP	777	C	3			42	19	89	17後	○	580－5>777>759
統合	778	C	1･3			－	－	－			564と同一遺構
SP	779	C～D	1			49	(46)	36	17中?		482>779>1071･4299､4301
SP	780	C～D	1			31	19	61	17後?		780>1071･4299､4301
SD	781	D	3	74		(236)	29	31			627･724､793､795>781>809､845､853､883
SP	783	C	3			60	55	44			614>783
SK	784	D	3			72	38	28			736>784>875
SK	785	D	3			83	(38)	25			
SP	786	D	1			50	(41)	31			786>789､800
SP	787	D	1			23	(21)	14			787>800
SK	788	D	3			(93)	(62)	18			510､808>788>771
SP	789	D	1			(63)	(48)	62			786>789>800
SP	790	C	3	74		(94)	(61)	62			582>790
SP	791	D	4	74		100	62	17			
SP	792	C～D	1	74		90	82	92			477－2>792>729
SK	793	D	3			(68)	(16)	55	17後?		793>781
SP	794	D	3			(37)	(11)	36	17後?		794>795
SK	795	D	3			(179)	79	31	17?		723､763､794>795>781､809
SK	796	D	3			(93)	(83)	86			510､676>796>755 771との新旧は不明
SP	797	C	3			(59)	(41)	14			
SP	799	D	3			(28)	26	88			759>799
SK	800	D	1･3			(271)	(206)	(35)	17中～後	○	564･778､576､786､787､789>800>1072･4300､4301
SK	802	D	3			87	(83)	(21)	17?		510､617>802
SK	803	D	3			(35)	(19)	(16)			510>803 808との新旧不明
SK	804	D	3			35	25	75			510>804 808との新旧不明
SX	805	D	1	70､71		(767)	22	10			471､472､475､480､503､508､509､729､731･757>805
SX	806	D	1	70､71		(708)	35	15			479･737､560､639､743､745･1084>806>521､881､ 900･1087､919
SP	807	D	1	74		167	165	63			474－1､476－1､718>807
SK	808	D	3			92	85	30			510>808>788 803､804との新旧不明
SK	809	D	3	75		120	80	82	18?		781､795､845>809>853､882､883
SX	810	D	1	70､71		(499)	(59)	－			504､520､560､730､742､745･1084>810>881､900･1087
SK	811	D	1			75	60	11	17後?		811>958
SK	812	D	1			82	49	8			476－1>812>958
SK	813	D	1			85	73	83	17後		530>813>958
SK	814	D	3			143	103	59			564･778､575･1014､912>814>1072･4300､4301
SX	816	C～D	1	70､71		85	34	－			
SK	817	C～D	1			72	(71)	21			555･4059>817>822
SP	818	D	1	75		170	148	13			555･4059>818
SK	819	E	1･2	75		91	76	12			819>1062･4687､1268
SK	820	E	1			219	109	20			820>1060
SP	821	D	1･2			117	110	30			555･4059>821
SP	822	C～D	1			54	(40)	(32)			555･4059､817>822
SP	823	C	1	75		(125)	(68)	52			4048>823>555･4059､824･4064､1266･4017
SP	824･4064	C	1	75	35	126	(124)	43	18?		4064と同一遺構 555･4059､823､4063>824･4064>1266･4017
SP	825	D	1			53	47	82	17後		470(被熱範囲)>825>958
SP	826	C	2	75	35	63	43	11	17?		
SP	827	D	3			19	(17)	74			580－6､759>827
SP	828	E	4			40	35	12			828>1135
SP	829	E	3			59	49	11			829>1134
SK	830	E	3			83	(77)	91			830>412
SK	831	G	3	76		(140)	112	90			
SP	832	C～D	1			(54)	43	92			769>832>924
SP	833	C～D	1	66		43	40	50			
SD	834	D	3	76		(620)	84	35	17前		494､496､497､523､627･724､736>834>859
SD	835	D	3	76		(218)	77	34			775>835
SK	836	D	1			98	(88)	19			555･4059>836>1266･4017
SP	837	C	1	76		156	138	11			555･4059>837>1266･4017
SD	838･4013	E	1･2	77		(1555)	101	106	17中～後		4013と同一遺構 824､891､1266･4017､4048､4346､4492>838･4013>963､ 1077､1269､1270､4378､4379､4401､4518 4297との新旧不明
SK	842	E	4			(145)	(101)	62			4121>842>1011､1040 915､916との新旧不明
SP	845	D	3	78		66	(43)	101			781>845>809､853
SP	846	D	3			25	20	20			722>846>883

Ⅱ－1表　遺構一覧表（14）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	847	C～D	1			(33)	31	22			487･507>847
SK	848	D	1			(84)	(38)	46			662>848>849
SP	849	D	1			41	36	98			848>849
SP	850	D	1			(137)	(118)	－			555･4059､686>850>962
SP	852	D	3			28	24	36			852>883
SP	853	D	3			(51)	(28)	43			781､809､845>853
SP	857	E	1			51	48	14			857>1029
SK	858	D	3			(76)	(71)	110			609>858>871 859との新旧不明
SD	859	D	3	78		561	70	133	17～19		494､496､523､627･724､834>859 858､863との新旧不明
SP	860	E	1	78		73	54	84			860>1159､1160
SK	861	E	1			57	52	50			861>884
SP	862	D	1	78		101	91	56			657>862
SK	863	D	3			(89)	(69)	56			523>863 859との新旧不明
SP	864	D	1			68	45	51			470､958>864>679･951
SK	865	E	1	78	35	(155)	(111)	65	17前		518､864､888>865>870･980･4498
SP	866	C～D	1			40	(30)	39			487･507>866
SP	867	C～D	1			51	35	22			867>679･951､958､959
SK	868	D	1			80	70	53			470､640､681>868
SK	869	D	1			258	67	88	17?		503､600､686､740>869
SD	870･980 ･4498	F	1･2	79		(2338)	120	154	17前		980､4498と同一遺構 487･507､518､539･4225･4254､595､662､677､813､865､888､984､994､1007､1047､1050､1095､4220､4246､4353､4400､4512､4517､4556､4682､4742>870･980･4498>4388､4533､4579　1100､1102との新旧不明
SK	871	D	3	80	35～37	526	164	120	17中		583､584､609､610､616､719､725､761､858>871
SP	873	E	3			31	29	30			
SP	874	D	3			38	38	20			874>875
SP	875	D	3			(38)	32	34			784､874>875
SP	876	D	3			54	51	11			
SP	877	E	3			55	34	35			
SP	878	D	3			(41)	32	25			879との新旧不明
SK	879	D	3			(159)	66	67			497､880>879 878との新旧不明
SP	880	D	3			58	48	47			648>880>879
SK	881	D	1			79	67	80			806､810>881
SK	882	D	3	81	38	(83)	(78)	46	17前		809>882>883
SK	883	D	3	81		166	(92)	124			627･724､704､781､809､846､852､882>883
SK	884	E	1			240	74	81			825､861､862､890>884>889
SP	885	D	1			61	61	80			480>885>919 886との新旧不明
SP	886	D	1			41	36	87			886>919 885と新旧不明
SP	887	C～D	1			35	33	8			
SD	888	D	1	81		(841)	75	104			477－1､518･519､526､527､597､640､699､764､918>888
SK	889	E	1	81		119	(105)	80	17前		518､865､884､888､890>889
SP	890	E	1			37	(35)	55			890>884､889
SP	891	D	1	82	38	(149)	(133)	56			
SK	892	D	1			247	(65)	114	17前		740､748>892>893
SP	893	D	1			142	(85)	122	17前～中		748､892>893
SP	894	D	1			158	148	22	17前～中		555･4059､598>894
SP	895	D	1	82	38	(101)	67	43(80)	17前～中		605>895
SK	896	D	1			95	(60)	39	17前		
SK	897	D	1			(86)	(40)	46	17中		
SK	898	E	1			(77)	65	92	17?		898>1063
SP	899	D	1	82		(98)	(80)	53	17?		555･4059>899>981
SP	900･1087	D	1	82		96	(84)	24			1087と同一遺構 520､806>900･1087
SK	901	C～D	1･3			97	61	29			901>923､1071･4299､1072･4300､4301
SK	902	F	3			298	71	81	17前		552>902>1028､1040､1054
SP	903	C～D	3			24	22	19			571>903
SP	904	C～D	3			34	28	16			
SP	905	C～D	3			29	25	55	17後	○	905>1071･4299､4301
SK	906	C～D	3			82	67	78	17後		500､501>906>1071･4299､4301
SP	907	E	3			33	26	16			907>1022
SP	908	E	3			38	26	36			
SK	909	E	3			88	60	13			909>1180
SK	910	C～D	3			56	48	51			501>910>1071･4299､4301
SK	911	E	3			82	76	17			911>1002
SP	912	C～D	3			52	46	38	17後?		912>1072･4300､4301
SK	913	E	3			80	72	91			913>1039
SP	914	E	3･4			38	34	44			914>1026

Ⅱ－1表　遺構一覧表（15）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	915	E	4			66	41	31			842との新旧不明
SK	916	E	4			63	34	9			842との新旧不明
SP	917	E	4			26	24	17			
SP	918	D	1	82	38	113	104	54	18?		918>888
SP	919	D	1	82		100	(87)	96	17前		806、885、886>919
SK	920	E	1			74	(67)	107			993>920>1093
SP	921	C～D	1			50	29	35			463>921>924
SK	922	E	3			75	54	88			922>1191
SK	923	C～D	1			89	71	39			517、901>923>1072・4300、4301
SK	924	C～D	1			(104)	70	77			463、559、832、921>924
SK	925	E	4			81	(57)	41			926との新旧不明
SK	926	E	4			(58)	(30)	14			925との新旧不明
SK	927	E	4			(36)	(23)	9			
SK	928	C～D	1			(119)	(46)	36			928＞1072・4300、4301
SK	929	E	3			249	96	99	17～19		465>929>1040、1172、1211・4426
SK	930	E	1			50	47	－			930>1008
SK	931	F	1			(182)	(67)	65	17前		1062・4687>931>938、942
SK	933	E	1	83	38	109	75	76	17		934>933>938、939
SK	934	F	1			(195)	(129)	40	17前		686、962>934>933、935、936、938、939、1069
SP	935	C～D	1			38	(28)	22			769>935
SK	936	F	1			(111)	(91)	78			686、934>936
SK	938	F	1	83	39	(364)	(210)	105	17前		892、931、933、934、940・941、962、1006、1062・4687>938>942、961、1069
SD	939	F	1	84		(553)	65	89	17前		503、899、933、934、954、962、981、995、1006、1068>939 1069との新旧不明
SK	940・941	E	1	83	39、40	(279)	(241)	90	17前		503、892、893、899>940・941>938、961
SK	942	F	1			141	88	141	17前		931、938、1062・4687>942
SP	943	E	3	83		98	44	56			943>1180、1181
SP	944	C	4			(64)	(39)	16			
SK	945	E	1			88	(64)	81			946との新旧不明
SK	946	E	1			123	76	100	17前		969>946 945との新旧不明
SK	949	F	3			90	68	116			1028>949
SK	950	E	1・2	84	40	(294)	(267)	100	17前		539・4225・4254、559、664、924>950
SD	952	D	1・2	85	40	(199)	(52)	33	17前～中		557、592、677、958、4055>952>977、978・4290
SK	953	E	1	85		(190)	165	183	17後	○	953>954、1029
SK	954	E	1	85	41	179	(104)	79	17前		953>954>939、1068、1029
SK	955・4671	G	2	85	41	135	85	28	17前		4671と同一遺構 539・4225・4254>955・4671
SK	956	D	1			84	53	40			474－1、528>956
SK	957	D	1			71	(38)	38			464、578>957
SD	958	D	1・2	86		(684)	74	33			476－3、541、556、557、570、592、677、678、811、812、813、825、867、4259、4260>958>679・951、864、952、977 959との新旧不明
SP	959	D	1			(42)	35	(67)			487・507、867>959>679・951 958との新旧不明
SK	961	F	1	83	40	(254)	203	73	17前		892、893、899、938、940・941>961
SP	962	D	1	85		(87)	75	10			555・4059、686、850>962
SK	963	G	1・2			(472)	(209)	58			821、838・4013、1008、1266・4017、1269>963>1099 1268との新旧不明
SP	966	E	3			35	33	36	17前?		966>967
SK	967	E	3	86		147	101	95			966、975>967>1019、1027、1144
SK	968	E	3			62	48	17			968>1182、1184
SK	969	E	1			219	65	66	17前		1007>969>946、1094、1095
SK	971	E	3			125	(51)	81	17前		609、871>971>972、974
SK	972	E	3			76	(41)	73	17		971>972
SK	973	E	3			74	(47)	50			871>973>1019
SK	974	E	3			49	37	19			971>974
SK	975	E	3			66	46	64			975>967、1027
SK	977	D	1・2			217	51	42	17		557、592、677、952、958、4055>977>978・4290、4500
SK	978・4290	D	2	157	41	(366)	(283)	60	17前		4290と同一遺構 539・4225・4254、557、952、977、4055、4219、4220、4243、4246、4249、4275、4292、4296>978・4290>4262、4500、4702、4703、4704
統合	980	F	1・2	79		－	－	－	17前		870、4498と同一遺構
SP	981	D	1			105	95	81	17?		503、555・4059、639、899>981
SK	982	E	1			144	61	105			503>982>1047、1101 983との新旧不明
SK	983	E	1			(60)	(56)	48			869>983>1101 982との新旧不明
SK	984	E	1	86	41	(111)	(66)	119	17?		686、869>984>870・980・4498
SD	985	F	5			37	35	48	17?		
SD	986	F	5			24	19	16			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（16）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	987	F	5			31	28	39			
SP	988	F	5			28	23	14			
SP	989	F	5			24	23	24			
SE	990	F	5·6	87	41	84(126)	81	(174)	17前		
SP	991	F	5			37	(32)	16			87>991
SK	992	E	1			(92)	81	70	17		745、881>992>1094
SK	993	E	1			89	59	122			745>993>920、1094
SK	994	E	1			92	(65)	70			595、1007>994>870·980·4498
SK	995	E	1			85	82	23			995>939
SK	996	E	1			(132)	84	74			996>1079
SP	997	E	1			39	34	55			998との新旧不明
SP	998	E	1			(44)	(34)	11			997との新旧不明
SP	999	E	1			41	(36)	36			526>999>1167
SP	1000	E	1			(61)	(55)	27			732>1000>1167
SP	1001	F	3			28	26	32			
SP	1002	F	3			49	46	46			911>1002
SP	1003	F	3			53	47	42			
SK	1004	F	3	86		117	67	92			871>1004
SP	1005	E	1·2			52	43	14			
SP	1006	E	1	87	41	55	44	48			1006>938、939
SK	1007	E	1	87	41	179	57	34	17前		1007>870·980·4498、969、994
SK	1008	E	1	87	42	(343)	(327)	131	17前		891、930>1008>1060、1061、1106
SK	1011	G	4	87		152	149	124			842、1012、1040、1211·4426>1011>1248
SK	1012	F	4	87		(117)	(44)	71			1012>1011、1211·4426、1248
SK	1013	F	1·3			85	81	52			1072·4300>1013
統合	1014	C～D	3	59		－	－	－			575と同一遺構
SP	1015	F	3			34	30	14			1015>1211·4426
SK	1016	F	3			59	49	49			877、1211·4426>1016>1019、1051、1226
SP	1017	F	3			90	75	83			1017>1018
SP	1018	F	3			124	76	86			879、1017>1018>1019
SD	1019	F	3	88		812	148	23			523、561、609、858、859、863、877、879、973、1016、1018> 1019>1051、1081、1144、1145、1203、1211·4426、1221、 1222、1223、1224、1226、1249、1251
SK	1020	E	3			90	148	38			1020>1202、1249
SP	1021	F	3	88		55	46	40			1021>1192
SK	1022	F	3	88		179	167	57	17		907>1022>1070
SP	1023	F	3			41	33	38	17前		
SP	1024 ·1142	F	3·4			42	21	38			1142と同一遺構 1024·1142>1025
SP	1025	F	3·4			29	(24)	14			1024·1142>1025
SP	1026	F	3·4	88	42	50	50	33	17前		914>1026
SK	1027	F	3			164	(125)	55			967、975>1027>1180、1128、4004、4036
SK	1028	F	3	88		105	78	93			902>1028>949、1211·4426
SK	1029	E～F	1			(430)	(325)	121	17		857、953、954>1029>1030、1031、1032·4685、1060、1061
SK	1030	E～F	1			118	84	108			1029>1030>1031、1032·4685、1060
SK	1031	E～F	1			(251)	(198)	92			1029、1030、1060、1064>1031>1032·4685、1062·4687
SD	1032 ·4685	F	1·2	89		(1381)	125	119	17前		4685と同一遺構 1030、1031、1064、4297、4535、4554、4560、4569、4571、4672、 4686>1032·4685>4520、4553、4555、4578、4580、4581、4582
SP	1033	E	1			82	51	40	17?		807>1033
SP	1035	E	1	90		38	38	44			1035>1062·4687
SP	1036	F	3			70	58	58			1036>1211·4426 1233との新旧不明
SK	1037	F	3			113	70	116			1039>1037
SK	1038	F	3			85	60	84			1038>1039
SD	1039	F	3			(500)	38	29			1039>1038
SD	1040	F	3·4	90		(1117)	57	50			552、715、759、842、902、929、1052、1054、1200、4121>1040 >1011、1195、1196、1243
SP	1042	F	3			54	46	38			412>1042
SP	1043	F	4	90	42	88	60	36	17		
SP	1044	E	5			(54)	(26)	36			
SP	1045	E	5			37	31	44			
SP	1046	E	5			(56)	41	27			250－10>1046
SK	1047	E	1			(47)	(23)	87			982、1048>1047>870·980·4498
SK	1048	E	1			(94)	(53)	103	17前		1048>1047、1049、1050
SK	1049	E	1			(100)	(82)	39			1048>1049>1050
SK	1050	E	1	90	42	(131)	89	59	17前		1048、1049>1050>870·980·4498、1104
SK	1051	F	3			105	(62)	33			877、1016、1019>1051>1211·4426、1251、1226
SP	1052	F	3			(65)	62	60			1197>1052>1040
SP	1053	F	3			70	68	78			
SK	1054	F	3	90		107	93	66			902>1054>1040、1209
SK	1055	F	3			60	53	45			
SP	1057	E	1			37	25	24			1057>1062·4687

Ⅱ－1表　遺構一覧表（17）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	1058	E	1			(64)	(15)	76	17、明治		
SK	1059	E	1			(100)	(74)	25	17?		895>1059>1063
SD	1060	E	1			(338)	70	87			820、1008、1029、1030>1060>1031、1062・4687
SD	1061	E	1			113	(88)	79			1008、1029>1061
SD	1062・4687	F	1・2			(1358)	49	88			4687と同一遺構 819、892、1031、1035、1057、1060、1064>1062>931、942、1078、1097、4577
SK	1063	E	1	91	42	(490)	183	53	17前		605、892、893、898、1059>1063 1067との新旧不明
SK	1064	E	1・2	91		336	309	129			540・4291>1064>1031、1032・4685、1062・4687、4686
SK	1066	E	1			(168)	129	47			730、742>1066>1083 1085との新旧不明
SK	1067	G	1			(85)	(23)	20			1063との新旧不明
SK	1068	F	1			(97)	(69)	75	17		767、954>1068>939
SK	1069	F	1			(67)	(26)	30			934、938、939、962>1069
SK	1070	F	3	91	43	220	(190)	77	17前		582、1022>1070>1198
SD	1071・4299	D	1・2・3	92・93	43	(2433)	142	65	17前		4299と同一遺構 482、483、485、500、501、502、533、534、536、537、538、574、575・1014、577、579、747、779、780、901、905、906、910、4075、4079、4080、4081、4082、4102、4301、4305、4316>1071・4299
SD	1072・4300	D	1・2・3	92・93	44	(2430)	154	157	17?		4300と同一遺構 517、532、533、534、537、564・778、575・1014、576、593、747、800、814、901、912、923、928、4070、4074、4075、4081、4090、4106、4177、4178、4232、4239、4248、4253、4256、4266、4293、4301、4306>1072・4300
SK	1073	G	1			56	49	29			
SK	1074	G	1			69	41	19			
SP	1075	G	1			92	(53)	96			1072・4300>1075
SK	1076	E	1			47	46	74			503>1076
SK	1077	G	1			(204)	(132)	78			838・4013、891、895>1077
SK	1078	F	2			88	(53)	40			821、1062・4687>1078
SK	1079	F	1			118	(83)	78			996>1079
SK	1081	F	3			79	(48)	17			859、1019>1081
SP	1082	F	3			33	(24)	24			1082>1128
SK	1083	E	1			57	32	24			1066>1083
統合	1084	C～D	1	72		－	－	－	17後		745と同一遺構
SP	1085	E	1			(43)	(21)	44			1066との新旧不明
SK	1086	E	1			79	60	28	17前		1086>1088、1105
統合	1087	D	1	82		－	－	－	17		900と同一遺構
SK	1088	F	1			88	56	35			1086>1088
SK	1091	E	1	91	44	90	45	45	17前?		
SK	1092	E	1			86	47	94			1093>1092
SK	1093	E	1			(105)	84	30			920>1093>1092
SK	1094	E	1			(88)	(39)	60			745、969、992、993>1094
SP	1095	E	1			(46)	43	52			969>1095>870・980・4498
SK	1096	E	1			66	41	40			1062>1097
SK	1097	F	1			(51)	41	19			1062・4687>1097
SK	1099	G	2			107	69	78			821、963>1099
SK	1100	F	1			(77)	(43)	44	17?		662>1100 870・980・4498との新旧不明
SK	1101	E	1			(111)	(64)	40			503、869、982、983>1101
SK	1102	F	1			(58)	(22)	17			888>1102 870・980・4498との新旧不明
SK	1103	E	1・2			96	(57)	35			464、531>1103
SK	1104	F	1	91	45	85	(65)	85	17前		1050>1104>1105
SK	1105	F	1			(96)	58	33	17前		1086、1104>1105
SK	1106	E	1			(163)	(93)	21	17?		605、891、1008>1106
SK	1108	E	2			97	60	33			1110との新旧不明
SK	1109	E	1			61	48	31			
SK	1110	E	1・2			(99)	85	27			1110との新旧不明
SP	1111	G	5			25	(19)	27			250－2>1111
SP	1112	G	5			36	28	61			
SP	1113	G	5			27	26	33			
SP	1114	G	5			25	21	26			
SP	1115	G	5			(24)	19	31			1117との新旧不明
SP	1116	G	5			29	21	35			
SP	1117	G	5			24	20	33			1115との新旧不明
SD	1118	G	5			24	20	16			
SP	1119	G	5			21	17	38			
SP	1120	G	5			38	34	39			
SP	1122	G	5			20	15	8			
SP	1123	G	5			17	(13)	14			112>1123

Ⅱ－1表　遺構一覧表（18）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	1124	G	5			32	19	10			
SP	1126	G	5			29	22	25			
SD	1128	G	3	94		(548)	45	16			347、444、809、883、967、1027>1128>4036
SK	1129	G	3			(148)	81	24			360>1129
SK	1130	E	3			(52)	49	47			412>1130
SK	1131	E	3			(117)	66	74			588>1131 1134との新旧不明
SK	1132	E	4			(56)	48	53	17前		1132>628
SK	1134	E	3･4	94	45	(209)	156	48	17前		562、563、588、829>1134 1131との新旧不明
SP	1135	E	4	94	45	161	69	81	17前		828>1135>1235
SP	1136	E	4			55	(44)	27			1136>1235
SP	1137	E	4			77	50	33			
SD	1138	E	4			(40)	(40)	52			
SD	1139	E	4			24	23	17			
SP	1140	E	3･4			46	39	35			1140>1141
SP	1141	E	4			64	35	19			1140>1141
統合	1142	F	3･4			－	－	－			1024と同一遺構
SP	1143	E	3			24	22	26			1143>1190
SK	1144	F	3			(121)	114	27			967、1019、1224>1144>1222
SP	1145	G	3			34	31	17			1019>1145
SK	1146	G	3			66	48	90			1146>1147
SK	1147	G	3			104	(64)	58			1146>1147>1148･4669･4674
SD	1148 ･4669 ･4674	G	2･3･4	95		(1809)	88	91			4669、4674と同一遺構 573、577、1147、1149、1150、1155>1148･4669･4674 >1264、4755　　1157との新旧不明
SK	1149	G	3			90	(58)	60			4301>1149>1148･4669･4674
SK	1150	G	3	95		91	52	53			4301>1150>1148･4669･4674
SK	1151	G	3			82	70	63			
SK	1152	G	3			86	43	32			
SP	1153	G	3			43	42	25			
SP	1154	G	3			46	46	36			
SP	1155	G	3			54	52	44			1155>1148･4669･4674
SK	1156	G	3			114	43	61			
SK	1157	G	3			(58)	(53)	49			1148と新旧不明
SP	1158	F	1			(76)	(56)	38			
SK	1159	F	1			102	(70)	31			860>1159
SK	1160	F	1			45	(42)	18			860>1160>1161
SK	1161	F	1			30	(28)	8			1160>1161
SK	1163	E	1			77	56	28			733>1163
SK	1164	E	1･2			52	42	16			
SP	1165	E	1			42	32	24			
SK	1166	E	1			54	35	27			
SK	1167	F	1			120	(70)	31			526、733、888、999、1000>1167
SK	1168	E	1			62	39	22			
SP	1169	E	1			26	22	12			
SK	1170	E	1			58	33	15			
SP	1171	F	3			45	33	63			1171>1195、1196
SP	1172	F	3			47	42	67			929>1172
SK	1173	F	3			69	55	29			1174との新旧不明
SP	1174	F	3			(37)	32	59			1173との新旧不明
SK	1175	F	3			80	74	51			1176>1175
SP	1176	F	3			26	24	17			1176>1175
SP	1177	F	3			27	22	13			
SK	1178	F	3			(38)	26	19	17?		
SP	1179	F	3			42	41	63			
SD	1180	F	3	94		328	50	37			909、943、1027、1181>1180
SK	1181	F	3			77	(49)	19			943>1181>1180
SP	1182	F	3			22	(16)	19			968、1184>1182
SK	1183	F	3			60	(48)	30			1183>1184
SP	1184	F	3			(44)	(34)	70			968、1183>1184>1182
SP	1185	F	3			32	27	41			
SP	1186	F	3			43	43	85			1186>1211･4426
SK	1187	F	4			(64)	(39)	18			925>1187 1247との新旧不明
SK	1188	F	3			(132)	124	34			759、799>1188
SP	1189	F	4			61	43	30			
SK	1190	F	3･4			133	(112)	20			759、1143、1191>1190
SK	1191	F	3			98	88	20			759、922>1191>1190
SK	1192	E	3			108	103	48			1021>1192>1221
SP	1194	E	3			27	22	51			
SK	1195	F	3			(53)	(35)	16			1040、1171>1195 1196との新旧不明

Ⅱ－1表　遺構一覧表（19）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	1196	F	3			(71)	(28)	20			1040、1171>1196 1195との新旧不明
SK	1197	F	3			51	(34)	20			1197>1052
SK	1198	F	3			(106)	103	17			1070>1198>1234 1201との新旧不明
SP	1199	F	3			44	26	14			
SP	1200	F	3			62	45	27			1200>1040
SK	1201	F	3			118	70	14			1198との新旧不明
SD	1202	F	3			(247)	75	14			879、880、1020、1203>1202>1223
SP	1203	F	3			29	27	43			1203>1202
SP	1204	F	3			29	27	43			
SP	1205	F	3			52	42	44			
SP	1207	F	3			30	27	26			
SP	1208	F	3			40	35	12			
SP	1209	F	3			59	(47)	71			1054>1209
SP	1210	F	3			63	55	61	17?		
SD	1211 ·4426	F	3·4	96	45	(2380)	103	82	17前		4426と同一遺構 759、929、1012、1015、1016、1019、1028、1036、1051、1186、1226、1227、1228、1240、1244、1246、1247、4278、4460>1211·4426>1011、1248、4624、4634、4644、4646、4655、4705、4736
SK	1212	E	6			(49)	40	9			68>1212
SK	1213	E	5·6			63	25	8			
SK	1214	E	5			56	24	24			
SK	1215	E	5·6			(60)	31	9			246>1215
SP	1216	E	5			34	30	10			
SP	1217	E	5			37	20	41			
SP	1218	F	3			49	35	14			
SK	1219	F	3			49	40	29			
SP	1220	F	3			34	31	43			
SK	1221	F	3			(148)	133	24			1019、1192、1222>1221>1238
SP	1222	F	3			54	54	47			1019、1144>1222>1221
SK	1223	F	3			(83)	25	27			879、1019、1202>1223
SP	1224	F	3			36	32	39			1019>1224>1144
SP	1226	F	3			(51)	(25)	49			1016、1019、1051>1226>1211·4426
SP	1227	F	3			(51)	(35)	45			1227>1211·4426
SP	1228	F	3			(39)	(34)	47			1228>1211·4426
SK	1231	F	3			(89)	77	13			1231>1263 1232との新旧不明
SP	1232	F	3			(30)	29	16			1231との新旧不明
SP	1233	F	3			(28)	(12)	10			1036との新旧不明
SP	1234	F	3			22	22	30			1198>1234
SK	1235	F	4			61	57	44			1135、1136>1235
SK	1236	G	3			43	(32)	12			
SP	1237	F	3			24	24	51			
SP	1238	F	3			26	23	22			1221>1238
SP	1239	F	3			32	29	30			
SP	1240	F	3			32	(27)	－			1240>1211·4426
SK	1241	F	3			24	22	9			
SK	1242	F	3			46	20	11			
SK	1243	F	3			107	48	20			1040>1243
SK	1244	F	3			72	(50)	29			1244>1211·4426
SK	1246	F	3·4			(70)	(21)	21			1246>1211·4426、1248
SK	1247	F	3·4			(164)	(115)	31	17前		759>1247>1211·4426 1187との新旧不明
SK	1248	G	3·4			(75)	(53)	20			1011、1012、1211·4426、1246>1248
SP	1249	F	3			51	38	69			1019、1020>1249 1202との新旧不明
SK	1250	G	3			54	22	15			
SP	1251	F	3			31	28	62			1051>1251
SP	1261	G	4			66	54	40	17前		
SP	1262	E	4			36	29	11			
SP	1263	F	3			44	37	51			1231>1263
SP	1264	G	3			112	(46)	58			1148·4669·4674、4301>1264
SK	1265	E	1			53	29	36			503>1265
SU	1266 ·4017	C	1	97		(300)	297	153	18後	○	4017と同一遺構 555·4059、823、824·4064、837、4016、4063、4048>1266·4017
SD	1268	G	1			(1019)	(31)	13			819、821>1268 963との新旧不明
SK	1269	G	2			(253)	(104)	24			838·4013>1269>963、4401 1270との新旧不明
SK	1270	G	2			(206)	(125)	17			838·4013>1270、4401 1269、1271、1272との新旧不明

Ⅱ－1表　遺構一覧表（20）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	1271	G	2			(97)	(22)	27			1271>4401 1270との新旧不明
SK	1272	G	2			(54)	(14)	13			1272>4401 1270との新旧不明
SP	1301	C	1	56、57		93	85	47			1301>555･4059、601
SP	1303	C	5			81	46	31			1303>211
SE	2001	G	8	97	45、46	98	88	170	17前～中		
SD	2002	C～D	8	98		(1174)	79	85	17、19中		
SK	2003	C～D	8			(92)	(34)	29			2003>2012
SK	2004	G	8			97	74	16	18		2004>2005、2045
SK	2005	G	8	98		76	72	28			2004>2005>2035･2323、2045
SK	2006	G	8			74	(70)	16			2006>2010、2016
SK	2007	G	8	98		(104)	91	83	17		2007>2045
SK	2008	C～D	8			(165)	(142)	36	19		2008>2011
SP	2009	G	8			53	38	107			2009>2015、2049、2318
SP	2010	G	8			49	46	27	17		2006>2010
SK	2011	C～D	8			111	(82)	27			2008>2011
SK	2012	C～D	8			34	24	57			2003>2012
SK	2013	G	8			72	(57)	26			2013>2030、2046
SK	2014	G	8	98	46	(149)	70	36	19前		2014>2028、2305、2321
SD	2015	G	8	99		(193)	62	31	17		2009>2015>2041、2049
SK	2016	G	8			89	39	21	17		
SP	2017	G	8			36	35	76			2017>2018、2049
SP	2018	G	8	99		115	79	80	17後		2017>2018>2049、2302、2309、2443
SK	2019	G	8	99		101	74	88			2019>2305、2306 2029との新旧不明
SK	2020	G	8			(107)	(102)	25			2021>2020 2444との新旧不明
SP	2021	G	8			(35)	(22)	27			2021>2020
SP	2022	G	8			33	30	69			2022>2313、2507
SP	2023	G	8			37	27	75			2023>2033、2313、2507
SP	2024	G	8			64	54	66			2024>2025
SK	2025	G	8			97	54	65			2024>2025>2306、2307、2308
SK	2026	G	8	99		(103)	(69)	86			2002、2027>2026>2045
SK	2027	G	8	99	46	(98)	(97)	137	17中		2027>2026
SP	2028	G	8			45	29	42			2014>2028
SK	2029	G	8			(50)	(48)	20			2029>2305 2019との新旧不明
SP	2030	G	8			(37)	35	34			2013>2030>2046、2305、2441
SK	2031	G	8	99	46	(213)	(106)	144	17後		2031>2302
SP	2032	G	8			38	24	26			
SP	2033	G	8			39	(24)	50	17?		2023>2033>2507
SK	2034	G	8	100	46	77	(43)	25	17前		2034>2050、2303 2038との新旧不明
SP	2035 ･2323	G	8			40	36	61			2323と同一遺構 2005>2035･2323>2045
SK	2036	G	8	100		115	74	78			2036>2050、2303、2304
SP	2037	G	8	100		(82)	(48)	20			2002>2037
SP	2038	G	8			41	(23)	85			2034との新旧不明
SP	2039	G	8			40	31	40			2039>2049
SP	2040	G	8			38	22	29			2303、2304>2040
SK	2041	G	8			84	74	55			2015>2041
SP	2042	G	8			(45)	(25)	64			2042>2043
SK	2043	G	8			(112)	(58)	62			2042>2043
SP	2044	G	8			32	25	37			2044>2045
SK	2045	G	8	100	46、47	278	197	56	17前		2004、2005、2007、2026、2035･2323、2044>2045
SK	2046	G	8			(260)	(76)	33	17前		2013、2030>2046
SK	2047	G	8			(270)	(102)	51			269･2315>2047
SK	2048	G	8			(61)	58	16	17?		2048>2050
SK	2049	G	8	100	47	(407)	(143)	87	17前～中		2009、2015、2017、2018、2039、2443>2049
SK	2050	G	8			(189)	(135)	69	17		2012、2034、2036、2048、2301、2303、2304>2050
SU	2051	G	8	101		(315)	(157)	166			233･2160、2173>2051>2052、2486
SU	2052	G	8	101	47	(114)	(90)	211	17中		2051>2052
SE	2053	B	8	101		142	127	(300)			
SK	2054	A	8			400	400	129	明治		2054>2
SD	2055	B	6			(90)	(57)	35			2055>2056
SK	2056	B	6			(55)	38	21			2055>2056
SD	2057	C	6			(118)	53	49			2220－2･2065、2220－1>2057
SD	2058	C	6･8	102	48	(913)	(109)	54	17、19	○	2058>236･2095･3021、2075、2220－4、2370－2、2373
SK	2059	C	6			464	141	21	19		2220－2･2065>2059>2100
SD	2060	C	6			(175)	68	27	19		2082>2060>2219･2230･3140、2233
SD	2061	C	6	101	48	(187)	(404)	20	19		2061>2219･2230･3140
SD	2062 ･2085 ･3012	C	8	103	49	(355)	196	54	17～19		2085、3012と同一遺構 3005>2062･2085･3012>2205、2404･3001、3035、3037、3039

Ⅱ－1表　遺構一覧表（21）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	2063	C	8			51	48	22			2063>2205
SK	2064	C	6			87	50	55			
統合	2065	C	6			－	－	－	17～18前		2220－2と同一遺構
SP	2066	C	6			57	28	13			
SP	2067	C	6			51	32	16			2067>2219･2230･3140
SP	2068	C	6			44	(43)	5			
SP	2069	C	6			33	(24)	13			3014･3072>2069>2227－2
SX	2070	C	6			(66)	(39)	16			2070>2219･2230･3140､2227－2､2232
SP	2071－1	C	6			32	28	32			2071－1>2071－2､2219･2230･3140
SP	2071－2	C	6			(44)	37	33			2071－1>2071－2>2219･2230･3140
SP	2072	C	6			32	31	17			
SK	2073	C	6			98	(35)	22			2074との新旧不明
SK	2074	C	6			(51)	46	4			2073との新旧不明
SK	2075	C	6			151	(82)	15			2058>2075>2220－3
SK	2076	B	6			95	51	22	17?		
SK	2077	B	6			47	30	12	18?		
SP	2078	C	6			16	14	14	18～19?		
SK	2079	C	6			(145)	(77)	54	17～18		
SK	2080	C	8			155	65	31			2080>2090､2205
SK	2081	C	8			151	77	22			2090>2081>2205
SP	2082	C	6	101		(32)	(22)	21			2082>2060
SK	2083 ･3003	C～D	8			(75)	74	10	18?		3003と同一遺構 2084>2083･3003
SP	2084	C～D	8			39	34	40			2084>2083･3003
統合	2085	C	8	103	49	－	－	－	17～19		2062､3012と同一遺構
SK	2087	B	8			(129)	(66)	24			
SP	2088	C	8			25	16	22.5			2088>2185､2186 破砕瓦集中出土範囲を切っている
SP	2089	C	8	101		(97)	77	42	17～19		2089>2091､2204
SD	2090	C	8			(170)	69	9	17		2080>2090>2081､2205
SK	2091	C	8	103		156	(111)	125	17中～後		2089､2204>2091>2185 南側の破砕瓦集中出土部は2091に切られている
SP	2093 ･3086	C	6	103	49	57	38	32	17末		3086と同一遺構 2093･3086>2227－1､2228･3161
SP	2094	D	6			84	59	15			2094>236･2095･3021､2354
統合	2095	D	5･6 ･7･8	28､29	15	－	－	－	17前、17後	○	236､3021と同一遺構
SD	2096	C	8	104	49	(1206)	130	62	17前		2173>2096>233･2160､235･2201､2205
SK	2097 ･3082	C	6･8	103	49	128	98	90	17前		3082と同一遺構 2097･3082>236･2095･3021
SP	2100	C	6			55	43	10			2059>2100
SX	2101 ･2114	G	7･8			(240)	(64)	79	17?		2114と同一遺構 2104>2101･2114
SP	2102	G	7			44	38	18			2102>2115､2117
SX	2103	G	8			(196)	(75)	26	17?		2103>2111､2112
SK	2104	G	7･8	103		202	(108)	51	17後		2104>2101･2114
SP	2105	G	7			(38)	(21)	25			
SP	2106	G	7	103		77	(74)	87	17後 ～18初		2106>2107､2108､2122､2123
SX	2107	G	7			(41)	(25)	71			2106>2107
SD	2108	G	7			(84)	(82)	64			2106>2108>2123
SX	2109	G	8			(57)	(23)	17			2109>2110､2116､2117
SK	2110	G	8			(69)	(32)	31			2109>2110
SP	2111	G	8			84	(60)	55			2103>2111>112
SK	2112	G	8			(110)	(56)	51	17後		2103､2111>2112
SK	2113	G	7			97	41	47			2113>2124
統合	2114	G	7･8			－	－	－	17?		2101と同一遺構
SK	2115	G	7			102	(50)	69	17		2102>2115>2117
SP	2116	G	8			(34)	(27)	30			2109､2118>2116
SD	2117	G	7･8			(234)	(77)	69	17後		2102､2109､2110､2115､2116､2118>2117
SP	2118	G	8			44	(30)	30			2118>2116､2117
SP	2119	G	7			(46)	40	35			
SP	2120	G	7			(80)	(12)	43			
SK	2121	G	7	105	50	189	89	94	17後		
SK	2122	G	7			(37)	28	33			2106>2122
SP	2123	G	7			34	26	18			2106､2108>2123
SD	2124	G	7			(96)	72	38			2113､2125>2124
SX	2125	G	7			(125)	(40)	66	17?		2125>2124
SP	2126	G	7			77	(49)	41			2126>2127､2128
SP	2127	G	7			52	13	15			2126>2127
SP	2128	G	7			63	(23)	34			2126>2128
SP	2129	G	8			68	63	61	18～19		2129>2199
統合	2130	G	7･8	16､17	3	－	－	－	17前		169と同一遺構
SP	2131	G	8			(41)	(17)	65			2131>169･2130

Ⅱ－1表　遺構一覧表（22）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	2132	G	8			49	46	61			2132>2425、2502
SP	2133	C	8			32	22	43			2133>233・2160
SP	2134	G	8			44	29	59			2134>169・2130、2135、2425
SP	2135	G	8			(64)	42	79			2134>2135>169・2130、2136
SP	2136	G	8			41	26	85	18～19		2135>2136>169・2130、2411
SP	2137	G	8			58	33	45			
SP	2138	G	8			35	32	46			
SP	2139	G	8			45	27	23	18後?		2139>2174、2180
SP	2140	G	8			41	29	81	18後～19		
SP	2141	G	8			37	(29)	33			2141>2342
SP	2142	G	8			28	(19)	41	17?		2002>2142>2174、2180
SK	2143	G	8	105	50	74	70	29			2143>2341、2427
SP	2144	G	8			34	33	64			2144>2472
SP	2145	G	8			44	35	96	19?		
SP	2146	G	8			45	44	14	17前		2146>2501、2502
SP	2147	G	8			(57)	(24)	73			
SP	2148	G	8			60	(25)	20	18～19		
SP	2149	G	8			(49)	(12)	82			
SP	2151	G	8	105		43	41	70	19?		2151>2155
SD	2152	G	8	105	51	(241)	71	51	17後		2178>2152>2414、2415、2505
SP	2154	G	8			32	25	37	17と19		2154>2505
SP	2155	G	8			47	(24)	14			2151>2155
SP	2156	G	8			36	25	34			
SP	2157	G	8			41	32	106	18後～19		
SU	2159	G	8	106		入り口 117 ハング 254	入り口 102 ハング 138	352	17後	○	2054>2159>2190、2472
統合	2160	C	7・8	27		－	－	－	17前、19		233と同一遺構
SK	2161	G	8			101	41	73			418>2161>2190
SP	2162	G	8			87	61	15			2162>169・2130、2166
SP	2163	G	8			33	27	45			
SP	2164	G	8			71	70	15			2164>169・2130、2196、2197
SP	2165	G	8			36	32	22	18?		
SP	2166	G	8			64	33	24			2162>2166
SP	2167	G	8			61	(50)	22	17前		2167>169・2130、2342
SD	2168	C	8			(368)	62	23			
SP	2169	G	8			53	46	13	18後～19		2169>169・2130
SP	2170	G	8			41	33	64	18後～19		2170>169・2130、2341
SP	2171	G	8			52	48	10			2171>169・2130、2486
SP	2172	G	8			31	27	17			2172>2192、2486
SK	2173	C	8			(87)	37	30	17前		2173>233・2160、2096
SK	2174	G	8	105	51	(183)	(128)	44	17前～中		2139、2142、2181>2174>2180
SP	2175	G	8			38	36	73			
SP	2178	G	8			56	30	18	19?		2178>2152
SP	2179	G	8			29	24	25			
SP	2180	G	8			47	45	16			2139、2142、2174>2180
SP	2181	G	8	105		32	28	58			2181>2174
SK	2182	D	8			132	101	18	17前?		235・2201、2053>2182
SP	2183	D	8			27	22	4			
SP	2184	G	8	23、24		(51)	(42)	70	17前?		2091>2184
SD	2185	D	8			(498)	55	36	17前		406・2327、2088、2091、2186、2188>2185
SP	2186	C～D	8			24	19	17			2088>2186>2185
SP	2187	D	8			34	(31)	21			2204>2187
SP	2188	C～D	8			(32)	(25)	31			2188>2185
SP	2189	D	8			43	(37)	22			
SU	2190	G	8	106	51	246	196	208	17中		2、418、2159、2161>2190>2472
SP	2191	D	8			28	24	7			
SK	2192	G	8	107	52	118	87	45	17前～中		2172>2192>169・2130、2427、2486 2200との新旧不明
SK	2193	G	8	107		98	(67)	67	17後		2193>2335、2483、2484
SD	2195	C	8			117	34	59			2195>233・2160
SP	2196	G	8			55	34	66			2164>2196>2197
SK	2197	G	8			102	55	30	17後		2164、2196>2197>2341
SP	2198	G	8			27	18	16			2198>2341
SK	2199	G	8			89	66	28			2129>2199>2472
SD	2200	G	8			115	23	67	17、19		2173>2200>2486 2192との新旧不明
統合	2201	D	7・8	28、29		－	－	－	17前		235と同一遺構
SP	2202 ・2214	C～D	8	107		(59)	(50)	28			2214と同一遺構 2213、2203>2202・2214
SP	2203	C	8	107		112	(62)	32	17後～18		2203>2202・2214
SK	2204	C	8			(156)	(108)	32	17前		2204>2091 、2187、2218

Ⅱ－1表　遺構一覧表（23）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SD	2205	C	8	104		(687)	(139)	40	17前～中		2062・2085・3012、2063、2080、2081、2090、2096>2205
SP	2206	C～D	8	108		57	41	14			2209との新旧不明
SP	2207	C～D	8	108		43	42	22			2207>236・2095・3021、2210
SP	2208	C～D	8	108		50	(37)	20			2207>236・2095・3021、2210
SP	2209	C～D	8	108		59	42	15			2209>235・2201 2206との新旧不明
SK	2210	D	6・8	108	15	281	77	74	17～18		2207、2208、2211>2210>236・2095・3021
SK	2211	D	6			(69)	66	29			2211>236・2095・3021、2210、2370－3
SK	2212	C	8			(123)	(29)	21	17後		破砕瓦集中範囲を切っている
SK	2213	C～D	8			(63)	(19)	18	19?		2203>2213
統合	2214	C～D	8	107		－	－	－			2202と同一遺構
SP	2215	D	6			(35)	(11)	27			
SP	2216	C～D	8			(44)	－	12			
SP	2218	D	8			31	(29)	10			2204>2218
SD	2219 ・2230 ・3140	D	6	108		東西(839) 南北(216)	幅 43	10			2230、3140と同一遺構 2060、2061、2067、2070、2071、2232、3078・3138・3139> 2219・2230・3140
SP	2220	C	6	109		(790)	－	－	17～18前		
SP	2220－1	C	6	109		106	(41)	73	17～18前		2220－1>2057
SP	2220－2 ・2065	C	6	109		123	98	71	17～18前		2065と同一遺構 2220－2・2065>2057、2059
SP	2220－3	C	6	109		92	81	88	17～18前		
SP	2220－4	C	6	109		96	88	104	17～18前		2058>2220－4
SP	2220－5	C	6	109		(83)	(54)	100	17～18前		2234との新旧不明
SP	2221	D	6			75	(73)	11			
SP	2222	E	6			26	16	2			2222>2288、2289
SD	2223	E	6			218	28	13	17?		2223>2279、2280、2289、2375
SP	2224	E	6			64	53	8			2224>2277、2353
SD	2225	E	6			(787)	40	20	17?		2225>2260、2293、2359、2360、2395
SD	2226	E	6	110		(458)	31	18			2226>2295、2296、2381
SP	2227	D	6	109		－	－	－			
SP	2227－1	D	6	109		43	(35)	10			2093・3086>2227－1
SP	2227－2	D	6	109		(51)	(37)	12			2069、2070>2227－2
SP	2227－3	D	6	109		(45)	(34)	6			2219・2130・3140>2227－3
SK	2228 ・3161	D	6			(64)	44	13			3161と同一遺構 2093・3086>2228・3161
SP	2229	D	6			59	51	15			
統合	2230	D	6	108		－	－	－			2219、3140と同一遺構
SP	2231	D	6			20	18	6			
SP	2232	D	6			38	27	6			2070>2232>2219・2230・3140
SD	2233	C	6			35	20	10			2060>2233
SP	2234	C	6			32	28	16	19?		2220－5との新旧不明
SP	2235	D	6	111、112		－	－	－			
SP	2235－1	D	6	111、112		35	29	50		○	
SP	2235－2	D	6	111、112		36	25	45			
SP	2235－3	D	6	111、112		42	27	39			
統合	2236	D	6	111、112		－	－	－			2236－1は373と、2236－2は374と、2236－3は375と同一遺構
統合	2237	C	6			－	－	－			242と同一遺構
SP	2238	D	6			58	44	25			
SP	2239	D	6			75	49	34	17後 ～18前		
SP	2240	C	6			45	29	18			
SP	2241	C	6	111、112		49	41	64			2241>319
SP	2242	C	6	111、112		49	41	73	17後?		
SP	2244	C	6	111、112		59	44	58			2244>320
SP	2245	C	6	111、112		34	33	68			
SP	2246	D	6	111、112		70	(45)	43	17後	○?	2247>2246>236・2095・3021
SP	2247	C	6	111、112		69	36	64	17後	○?	2247>236・2095・3021、2246
SP	2248	C	6	111、112		57	47	42	17末		2249>2248>236・2095・3021
SP	2249	C	6	111、112		36	29	63			2249>236・2095・3021、2248
SP	2250	C	8	111、112		55	45	18			2250>236・2095・3021
SK	2251	C	8	113	52	147	93	45	17前		2251>235・2201、236・2095・3021
SP	2252	C	8	111、112		29	23	32			2252>236・2095・3021
SP	2253	C	8			27	26	11			2253>236・2095・3021
SP	2254	C	6			35	27	37			
SP	2255	D	8			40	28	48			2255>235・2201
SD	2256	F	6			(139)	37	4			
SD	2257	F	6			(211)	29	2			2257>2290、2299
SK	2258	G	6	113		46	46	37			2260>2258>2259・2396
SX	2259 ・2396	G	6			96	(43)	20			2396と同一遺構 2258>2259・2396
SD	2260	G	6	113	52	(1082)	65	37	17前		2079、2220、2225、2262、2364、2371、2372>2260>2258、2388
SP	2261	G	6			42	30	11			
SP	2262	G	6			54	47	31			2262>2260、2364

Ⅱ－1表　遺構一覧表（24）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	2263	G	6			27	20	13			
SD	2264	G	6			112	27	12			3270>2264
SP	2265	G	6			(41)	28	55			2266・3243との新旧不明
SK	2266 ・3243	G	6	114	52	170	(82)	29	17前		3243と同一遺構 2265、3180との新旧不明
SP	2267	G	6			75	47	50			
SK	2268	G	6			(77)	(65)	16			
SK	2269	G	6			(54)	(41)	18			2269>2270、2271
SK	2270	G	6			68	46	19			2269、2272>2270
SP	2271	G	6			(23)	(17)	6			2269>2271
SP	2272	G	6			17	15	20			2272>2270
SK	2273	G	6			(100)	(55)	31			2220−3、2290>2273
SP	2274	G	6			30	26	10			
SP	2275	G	6			40	25	36			2361との新旧不明
SP	2276	G	6			10	9	13			
SK	2277	G	6	113		80	76	39	17前		2224、2353>2277
SP	2278	G	6			37	29	41			2352、2353>2278 2279との新旧不明
SD	2279	G	6			260	40	44			2223、2280、2352、2382>2279>2289、2375 2278との新旧不明
SP	2280	G	6			(37)	(15)	15			2223>2280>2279
SP	2281	G	6			(33)	(10)	14			2361との新旧不明
SP	2282	G	6			52	(38)	16			2283>2282
SP	2283	G	6			70	47	24	17		2283>2282、2284、2379・3341
SK	2284	G	6			175	126	44	17?		2283、2285、2379・3341>2284
SK	2285	G	6			(120)	(110)	43	17		2285>2284、2380、3341
SK	2286 ・3257	F	6			(134)	(122)	24			3257と同一遺構 2286・3257>2365、3246、3256
SK	2287	F	6			(123)	(42)	23			2287>2362
SK	2288	G	6	114	53	152	84	129	17前		2222>2288>2289、2362、2367、2379
SK	2289	G	6			(87)	77	24			2222、2223、2279、2288>2289
SK	2290	G	6			104	99	16			2257>2290>2273 2291との新旧不明
SK	2291	G	6			91	(75)	53			2220−2>2291 2290との新旧不明
SK	2292	G	6			113	(62)	15			2220−2>2292 2291との新旧不明
SK	2293	G	6			105	77	66	17前		2225、2295>2293>2381
SP	2294	G	6			50	(37)	23			2220−2>2294
SK	2295	G	6			129	84	41			2226>2295>2293、2381
SK	2296	G	6			(84)	(37)	8			2226>2296>2381
SK	2297	G	6			91	84	13			2298>2297
SK	2298	G	6			61	(47)	12			2299>2298>2297 2300との新旧不明
SK	2299	G	6			72	(47)	14			2257>2299>2298、2300
SP	2300	G	6			24	22	27			2299>2300 2298との新旧不明
SP	2301	G	8			37	35	32			
SK	2302	G	8			(125)	(30)	49	17前?		2018、2031>2302
SK	2303	G	8			(61)	(19)	27			2034、2036>2303>2040、2050、2304
SP	2304	G	8			(26)	24	40			2036、2303>2304>2040、2050
SX	2305	G	8			(113)	(95)	15	17?		2014、2019、2029、2030>2305
SD	2306	G	8			(84)	24	11	17前?		2019、2025>2306
SP	2307	G	8			42	40	64	17?		2025>2307>2308
SP	2308	G	8			(41)	(28)	32			2025、2307>2308
SP	2309	G	8			46	43	61			2018>2309
SK	2310	G	8			(66)	(34)	17			
SK	2311	G	8			(120)	(59)	32			
SK	2312	G	8			(57)	53	35	17前?		
SK	2313	G	8			77	71	54			2022、2023、2507>2313
SP	2314	G	8			(45)	(17)	84			2314>269・2315
統合	2315	G	7・8	37		−	−	−			269と同一遺構
SK	2316	G	8			(96)	(26)	66			
SP	2317	G	8			47	35	99			
SP	2318	G	8			23	12	27			2009>2318
SP	2319	G	8			33	24	48			
SP	2320	G	8			19	17	26			2002>2320
SK	2321	G	8			100	77	71			2014>2321
統合	2323	G	8			−	−	−			2035と同一遺構
SP	2324	G	8			41	34	62			2002>2324
SP	2325	G	8			49	38	73			2002>2325
SP	2326	C	8			(69)	62	17			227>2326
統合	2327	C	8			−	−	−			406と同一遺構
SP	2328	C	8	111、112		50	41	53			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（25）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	2329	C	8	111、112		47	39	72			
SP	2330 ・2331	C	8	111、112		61	42	70			
SP	2332	C	8	111、112		41	39	43			2255>235・2201
統合	2333	C	8			－	－	－			404と同一遺構
SP	2334	G	8			(40)	(29)	31			
SK	2335	G	8	107		132	79	99	17?		2096、2193>2335
SK	2341	G	8			(271)	96	23	17後?		169・2130、2164、2170、2197>2341
SK	2342	G	8			(158)	(57)	22	17前		2141、2167>2342
SP	2343	G	8			46	32	14			233・2160、2054>2343
SP	2344	G	8			17	16	26			233・2160、2054>2344
SP	2345	G	8			32	26	27			233・2160>2345
SK	2351	G	6			(155)	(79)	33	17前		
SP	2352	G	6			22	(15)	30			2352>2278、2279
SP	2353	G	6			－	－	5			2224>2353>2277、2278
SP	2354	D	6			(47)	43	11			2094>2354>236・2095・3021
SP	2355	G	6			39	28	17	17前		
SP	2356	G	6			48	36	31			2228・3161>2356>2379・3341
SP	2357	G	6			72	(47)	12			2220－1>2357
SP	2358	G	6			50	33	22			
SP	2359	G	6			52	40	12			2225>2359>2360
SP	2360	G	6			49	27	8			2225、2359>2360
SP	2361	G	6			58	(51)	8			2275、2281との新旧不明
SK	2362	G	6			76	(40)	15			2287、2288>2362
SK	2363	G	6			(179)	(95)	15			236・2095・3021、2097・3082、2457>2363
SP	2364	G	6			64	60	31	17?		2262>2364>2260、2388
SD	2365	G	6			(164)	(37)	12			2286・3257>2365 2367との新旧不明
SP	2366	G	6			30	20	11			
SK	2367	G	6			(63)	(16)	15			2288>2367 2365との新旧不明
SP	2368	G	6			37	14	23			
SP	2369	G	6			29	28	11			
SP	2370	D	6	114		(602)	－	－			
SP	2370－1	D	6	114		64	60	64			236・2095・3021、2373>2370－1
SP	2370－2	D	6	114		57	52	67			236・2095・3021、2058>2370－2
SP	2370－3	D	6	114		62	54	63			236・2095・3021、2211>2370－3
SD	2371	E	6			(239)	17	8			2371>2260、2391、2398
SD	2372	E	6	110		(75)	30	10			2372>2260、2392
SP	2373	D	6	115	53	41 (30) 74 57 69	(29) 19 38 57 38	70 26 31 28 30	17前?		236・2095・3021、2374・3165>2373>2370－1 規模は東側から西側への順番
SD	2374 ・3165	D	6	28、29		(382)	36	8			3165と同一遺構 236・2095・3021>2374・3165>2373
SK	2375	G	6			(53)	(30)	39			2223、2279>2375
SK	2376	G	8			(95)	71	33	17前?		235・2201、236・2095・3021、2378>2376
SP	2378	G	8			34	28	65	18～19?		235・2201>2378>2376
SK	2379	G	6			(62)	(16)	15			2288>2379
SK	2380	G	6			(79)	(26)	24			2285>2380
SK	2381	G	6	116	53	285	268	45	17?		2226、2293、2295、2296、2370、2373、2451、2452>2381
SX	2382	G	6			(68)	(59)	11	17		2382>2279
SP	2383	G	6			19	15	9			
SP	2384	G	6			38	34	26			
SP	2386	G	6			36	31	18			
SD	2387	G	6			(77)	26	11			
SP	2388	G	6			(60)	(45)	13			2260、2364>2388
SP	2389－1	G	6			71	49	13			
SP	2389－2	G	6			33	23	13			
SK	2390	G	6	116		285	59	70			216、242・2237、2235、2238、2239>2390
SP	2391	G	6			64	(21)	16			2371>2391
SP	2392	G	6			(42)	(27)	16			2372>2392
SP	2393	G	6			48	25	23			236・2095・3021>2393
SP	2394	G	6			29	20	22			236・2095・3021>2394
SP	2395	G	6			22	(13)	7			2225>2395
統合	2396	G	6			－	－	－			2259と同一遺構
SX	2397	G	6			(74)	(9)	11			2211>2397
SP	2398	G	6			48	27	15			2371>2398
SP	2399	G	6			26	26	29			236・2095・3021>2399
SK	2400	G	6			(72)	(27)	19			236・2095・3021>2400
SP	2403	G	8			33	(20)	33			2403>169・2130
SK	2404 ・3001	C～D	8	116		140	114	136	17前		3001と同一遺構 2062・2085・3012>2404・3001>2405

Ⅱ－1表　遺構一覧表（26）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	2405	C～D	8			(22)	(29)	13			2404･3001>2405
SP	2406	C～D	8			28	18	11	17前		
SP	2408	G	8			(43)	(43)	62	17前?		
SP	2409	G	8			37	23	10			
SK	2410	G	8			104	86	29	17		2410>2477
SK	2411	G	8			51	(41)	64	17		169･2130､2136>2411
SP	2412	G	8			34	33	54			
統合	2413	G	8			－	－	－	17後		417と同一遺構
SP	2414	G	8			21	(15)	23			2152>2414
SP	2415	G	8			22	(19)	10			2152>2415
SK	2416 ･3097	G	8	116	54	238	176	83	17前		3097と同一遺構 3077>2416･3097>2439､3120
SP	2417	G	8			28	26	9			2417>2490
SK	2419	G	8	117	54	84	67	102	17前		2096>2419>2420
SK	2420	G	8			(76)	(55)	15			2096､2419>2420
SP	2421	G	8	23､24		39	32	52			
SU	2422	G	8	117		開口部 126 オーバー ハング部 184	開口部 112 オーバー ハング部 167	176			2096>2422>2484
SP	2423	G	8			26	24	45			233･2160>2423
SP	2424	G	8			42	35	56			
SK	2425	G	8	117	54	(99)	93	28	17前		169･2130､233･2160､2132､2133､2134､2195>2425
SP	2426	G	8			29	28	46			
SX	2427	G	8			(253)	(149)	36			2143､2192､2485>2427
SP	2428	G	8			55	54	24	17前?		
SP	2429	G	8			65	65	26			2096>2429
SD	2430	G	8			105	25	12			
SP	2431	G	8			49	40	25	17?		
SK	2432	G	8			(45)	(30)	10			235･2201､2096>2432>2433
SP	2433	G	8			47	46	19	17前?		2096､2432>2433
SP	2434	G	8			39	31	37			
SP	2435	G	8			53	38	25			
SK	2436	G	8			96	26	20			
SP	2437	G	8			46	(30)	27			2437>2438
SP	2438	G	8	23､24		55	42	55			2437>2438
SK	2439	G	8			(82)	78	22	17前		2416･3097>2439
SP	2440	G	8			48	40	67			
SP	2441	G	8			(26)	(18)	39			2030>2441
SP	2442	G	8			24	20	44			
SP	2443	G	8			(34)	(31)	24			2018､2302>2443>2049
SK	2444	G	8			64	55	42			2020との新旧不明
SK	2451	G	6			(70)	42	17			236･2095･3021､2373､2452>2451>2381
SK	2452	G	6			75	54	14	17?		236･2095･3021>2452
SX	2453	G	6			(70)	(60)	11			2373>2453
SP	2454	G	6			28	27	18			236･2095･3021>2454
SK	2455	G	6			158	129	32			236･2095･3021>2455
SP	2456	G	6			24	21	6			236･2095･3021>2456
SK	2457	C～D	6･8			97	(86)	45			2457>2095､2363
SP	2459	G	6･8			31	24	14			
SP	2471	G	8	23､24		34	23	39	17前?		2096>2471
SK	2472	G	8	117	54､55	272	(150)	82	17後		2､417･2413､2144､2159､2190､2199>2472
SP	2473	G	8			29	24	16			2096>2473
SP	2474	G	8			24	18	28			2096>2474
SP	2475	G	8			21	19	18			2096>2475
SP	2476	G	8			45	34	29			
SP	2477	G	8			39	28	28			2410>2477
SK	2478	G	8			126	64	31			2478>2493､3110
SP	2479	G	8			19	15	22			2096>2479
SP	2481	G	8			36	32	65			235･2201>2481
SK	2482	G	8			53	26	17	19		
SP	2483	G	8			22	22	52			2193､2484､2503>2483
SK	2484	G	8			(94)	(48)	34			2193､2422､2503>2484>2483
SP	2485	G	8			44	(31)	61			2485>2427､2486
SK	2486	G	8	117	55	(214)	(68)	41	17前		169･2130､2051､2171､2172､2173､2192､2200､2485>2486
SK	2490	G	8			(91)	(30)	11			2417>2490
SP	2493	G	8			39	24	63			2478>2493
SD	2496	G	8	118	55	347	51	64			233･2160>2496
SK	2501	G	8			(96)	(59)	19			169･2130､2146>2501>2502
SK	2502	G	8			(92)	(84)	56			233･2160､2054､2132､2146､2501>2502
SP	2503	G	8			45	(27)	28			2503>2483､2484
SP	2504	G	8			45	32	60			2504>2505
SK	2505	G	8			(151)	121	27			233･2160､2054､2152､2154､2504>2505

Ⅱ－1表　遺構一覧表（27）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	2506	D	8			(90)	(38)	22			2054>2506
SK	2507	G	8			89	85	20			2022、2023、2033>2507>2313
統合	3001	C～D	8	116		－	－	－	17前		2404と同一遺構
SP	3002	C～D	8			30	(25)	20			
統合	3003	C～D	8			－	－	－	18?		2083と同一遺構
SK	3004	C～D	8			(61)	(55)	29			
SP	3005	C	8			26	19	36			3005>2062·2085·3012
SK	3006	B	6			130	110	24	17～明治		
SK	3007	B	6			87	(68)	23			
SK	3008	B	6			(120)	(65)	33	17～19		
SK	3009	B	4			48	(45)	19			
SK	3010	B	4			(70)	(53)	17			
SK	3011	C	6	118		345	(270)	142	17末、18後	○	3011>246·3100、3032
統合	3012	C	8	103	49	－	－	－			2062、2085と同一遺構
SK	3014 ·3072	A～B	6	118	56	(193)	(81)	54	18前、大正		3072と同一遺構
SK	3015	C	6			76	61	24			3015>3170
SK	3016	C	4			(96)	(38)	96	18～19		
SK	3017	C	4			(105)	(102)	19			
SK	3018	B	4			48	40	57			
SK	3019	B	4			43	33	7			
SP	3020	C	4			34	32	50			
統合	3021	D	5·6 ·7·8	28、29	15	－	－	－	17前、17後	○	236、2095と同一遺構
SK	3022	B	4			98	53	43			
SK	3023	C	6			66	29	16			3023>246·3100、3042
SP	3024	C	6	118		118	91	66	19		3024>3108、3109、3242
SP	3025	C	4	119		106	(87)	42	17?		
SP	3026	C	4	119		78	60	58	17前		
SP	3027	C	4	119		(97)	(64)	20			
SK	3028	C	4·6			(57)	(27)	18			3028>3088
SK	3029	C	6			75	66	26			3029>246·3100
SK	3030	C	8			37	(32)	48			2062·2085·3012>3030
SP	3031	C	6			31	(19)	57			3038>3031
SK	3032	C	6			(100)	(62)	45			3011>3032
SK	3033	A～B	4			(109)	(100)	69	明治		
SK	3035	C	8			101	30	32			2062·2085·3012>3035
SK	3036	C	8			40	30	11			
SP	3037	C	8			38	37	22			2062·2085·3012>3037
SK	3038	C	6			(85)	41	60			3038>3031
SP	3039	C	8			50	(42)	51			2062·2085·3012>3039
SP	3040	C	4	119		(115)	(53)	60			4800>3040
SP	3041	C	6	119		96	96	48	17?		3041>246·3100
SP	3042	C	6	119		105	102	56			3023>3042>246·3100
SX	3044	C	6			－	－	－	17後、明治		3044>246·3100
SK	3045	C	6	120	57	(137)	(90)	40	17?		3058>3045
SK	3046	F	6	120	57	165	140	180	17前		236·2095·3021、2373、2374·3165>3046
SK	3047	C	6			(160)	(50)	26	18後～19前		
SK	3048	C	6			(101)	(40)	49			
SP	3049	C	4·6	120		94	82	51	17後	○	3051>3049>3152、3242
SP	3050	C	4	120		110	(70)	62	17前～中		4800>3050
SP	3051	C	4·6			(70)	(29)	66	19		3051>3049、3089、3242
SP	3052	C	4	120		128	(48)	60	17?		
SP	3053	C	4	121		101	(86)	47			
SK	3054	C	6			(66)	(33)	38			
SK	3055	C	4·6			(76)	(51)	62			
SP	3056	C	4			36	31	44			3056>3057
SP	3057	C	4			41	39	46			3056>3057
SK	3058	C	6	120		(73)	(70)	60			3058>3045
SX	3059	C	6			－	－	－			
SP	3060	C	6	121		60	(40)	24			
SK	3061	C	6			78	70	15			3061>246·3100
SK	3062	C	6			63	59	10			3062>246·3100
SK	3063	C	6			79	54	6			
SP	3064	C	6			35	33	13			3064>246·3100
SK	3065	C	6			40	30	19			3065>246·3100
SK	3066 ·3068	C	6			76	49	55	19		3068と同一遺構
SK	3067	C	6			(54)	(15)	18			
統合	3068	C	6			－	－	－	19		3066と同一遺構
SK	3069	C	4			52	37	28			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（28）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	3070	C	6			39	37	12	17		
SK	3071	C	6			(54)	44	22			3071>246･3100
統合	3072	B	6	118		－	－	－	18前、大正		3014と同一遺構
SK	3073	C	6			(73)	60	17			3073>3083
SP	3074	C	6	121		97	87	49			
統合	3075	C～D	3	40		－	－	－			299と同一遺構
SP	3076	C	6	121		45	(32)	37			3076>3143、3242
SP	3077	G	8			31	28	14	17前?		3077>3120
SP	3078 ･3138 ･3139	C	6	121		96	91	50	17後?		3138、3139と同一遺構 3078･3138･3139>2219･2230･3140、3155
SP	3079	G	8			38	38	68			
SP	3081	G	8			29	26	14			
統合	3082	C	6･8	103	49	－	－	－	17前		2097と同一遺構
SP	3083	C	6	121		87	82	50			3073>3083
SK	3084	C	6			60	47	27			3085との新旧不明
SK	3085	C	6			(140)	60	10			3084との新旧不明
統合	3086	C	6		49	－	－	－	17末		2093と同一遺構
SP	3087	C	6			(30)	(25)	18			
SP	3088	C～D	6	122		(75)	(35)	32			3028>3088
SK	3089	C	6			(48)	(25)	46			3051>3089>3109、3242
SP	3090	C	6	122		43	39	39			3090>246･3100
統合	3091	C	6			－	－	－	18?、19前		114と同一遺構
SK	3092	C	6	122		148	77	110	18後		114･3091、3107>3092>3093
SK	3093	C	6			(157)	66	17	17～19		3092>3093>3124、3125
SP	3094	G	6･8			110	(71)	36			3094>3101
統合	3095	C	5･6	20、21		－	－	－		○	210と同一遺構
SK	3096	G	8			85	77	31	17前?		
統合	3097	G	8	116	54	－	－	－	17前		2416と同一遺構
SP	3098	C	6			37	15	25			3099との新旧不明
SK	3099	C	6			(82)	(77)	18			3098との新旧不明
統合	3100	D	5･6	30、31		－	－	－		○	246と同一遺構
SK	3101	G	8			(49)	(28)	17			3094>3101
SP	3102	C	6			38	34	37			3103との新旧不明
SK	3103	C	6			64	39	27			3102との新旧不明
SK	3104	C	6			67	53	40			3104>3146
SK	3106	C	4			70	28	47			3106>3129、3130
SK	3107	C	6			50	44	75			3107>114･3091、3092
SK	3108	C	6			(26)	(18)	76			3024、3109>3108、3242
SP	3109	C	6			40	29	98			3024、3089>3109>3108、3242
SK	3110	G	8			(76)	64	56			2478>3110>3120
SP	3111	C	6	122		(65)	(52)	71			3112･3145、3132>3111>3143、3242
SK	3112 ･3145	C	6	122		(55)	(51)	71	19?		3145と同一遺構 3113、3131>3112･3145>3111、3142
SP	3113	C	6	122		27	26	35	19?		3131>3113>3112･3145
SD	3114	E	6	110		(115)	19	11			
SD	3115	D	6			(187)	30	8			
SP	3116	C	6			39	31	70	17～18		3116>3146
統合	3119	D	6	43		－	－	－	17後		324と同一遺構
SK	3120	G	8	122	57	144	90	13	17前		2416･3097、3110>3120 3121との新旧不明
SK	3121	G	8			70	54	18	17前?		3120との新旧不明
SE	3122	E～	6	123		111	109	－			3122>3227･3228、3229、3230、3232、3248
SK	3123	C	6			53	33	82	19?		3123>3124、3125
SP	3124	C	6	123		94	92	36	17?		3093、3123、3125>3124
SD	3125	C	6			(168)	51	16	17?		3093、3123>3125>3124
SP	3126	D	6			51	47	57			
SK	3127	G	6			47	36	26	17		
SK	3128	G	6			58	47	16			3128>3164、3178、3219
SP	3129	C	4			(30)	(19)	30			3106>3129
SP	3130	C	4			(29)	(28)	30			3106>3130
SP	3131	C	6			18	(12)	45			3131>3112･3145、3113
SP	3132	C	6			16	12	34			3132>3111、3143
SD	3133	E	4	123		(488)	96	17			4800>3133>3149･3205、3206、3207、3208、3209、3280、3283、3284、3286、3287、3288、3289、3290、3291、3294、3297、3298、3306、3307･3343、3323
SK	3134	E～	4･6			36	31	18	17?		3134>3135、3400－1
SK	3135	E～	4･6			(50)	40	73			3134>3135>3383、3400－1
SP	3136	E～	6			15	13	7			3136>3384
統合	3138	C	6	121		－	－	－	17後?		3078、3139と同一遺構 3078の抜石痕

Ⅱ－1表　遺構一覧表（29）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
統合	3139	C	6	121		－	－	－			3078、3138と同一遺構 3078の抜石痕
統合	3140	D	6	108		－	－	－			2219、2230と同一遺構
SK	3141	C	4	124	57	(71)	65	27	17～18?、19		3141>3152、3187・3188
SP	3142	C	6			20	(12)	32			3112・3145>3142
SK	3143	C	6			69	(20)	53			3076、3111、3112・3145、3132>3143>3242
SP	3144	G	6			32	(14)	22			3114>3144
統合	3145	C	6	122		－	－	－	19?		3112と同一遺構
SU	3146	C	6	124	57、58	303	288	382	17後～18前		3104、3116>3146
SP	3147	E～	4			34	23	29			3147>3305
SK	3148	E～	4			(62)	12	30			
SK	3149・3205	E～	4	124	58	278	(224)	110	17後	○	3205と同一遺構 3133>3149・3205>3206、3213、3278、3280、3322、3366、3367
SP	3150	D	6			31	21	8			
SP	3151	C～D	4			35	(21)	26			3151>3152、3189
SK	3152	C	4			214	(82)	24	19		3049、3141、3151>3152>3187・3188、3189、3201、3241、3242
SP	3153	E	4			31	24	35			3153>3175
SK	3155	D	6			59	44	15			3078・3138・3139、3156>3155
SK	3156	D	6			62	59	14			3156>3155
SK	3157	D	6			47	46	90			3158>3157
SK	3158	D	6			48	46	12			3158>3157
SK	3159	D	6			55	24	14			
SK	3160	D	6			(81)	50	11	17?		
統合	3161	D	6			－	－	－			2228と同一遺構
SP	3162	G	6			40	40	40	17前		3162>3163
SK	3163	G	6			62	49	26			3162>3163
SK	3164	G	6			39	20	18			3128>3164
統合	3165	D	6	28、29		－	－	－	17?		2374と同一遺構
SK	3166	C	6			56	44	－			3166>246・3100、324・3119、3167
SK	3167	C	6			75	53	48			3166>3167>324・3119
SK	3168	C	6			67	36	10			3168>246・3100
SK	3169	C	6			(55)	(53)	46			3169>246・3100
SK	3170	C～D	6			40	33	17	17後?		3015>3170
SK	3171	C～D	6			87	71	50	17前		3171>246・3100
統合	3174	B	4・6			－	－	－			460と同一遺構
SK	3175	E	4			73	36	6			460・3174、3153>3175
SK	3176	E	6			(185)	(148)	52			3191、3192>3176
SK	3177	G	6			37	32	38			2374・3165>3177>3178
SP	3178	G	6			(123)	56	23			2374・3165、3128、3177>3178
SK	3179	G	6	125	58	(72)	69	55	17前		3114>3179
SD	3180	G	6			(520)	45	8			2228・3161、3155、3156>3180>3332、3341 2266・3243との新旧不明
SK	3182	C	6			59	44	18	18後		3182>3183
SP	3183	C	6			37	(33)	47			3182>3183
SK	3184	F	6			44	27	20			
SP	3185	F	6			38	34	50			
SP	3186	F	6			36	28	21			
SP	3187・3188	C～D	4	125		(84)	82	42	17後	○	3141、3152>3187・3188>3189
SP	3189	C～D	4			38	34	18			3151、3152、3187・3188>3189
SK	3190	C	6			(64)	56	32			3190>246・3100
SP	3191	E～	6			21	17	10			3191>3176
SP	3192	E～	6			13	12	6			3192>3176
SP	3193	E～	6			28	24	12			3193>3240、3245
SP	3194	E～	6			22	19	6			
SP	3195	E～	6			21	21	11			3195>3216
SP	3196	G	6			(37)	(20)	10			
SK	3197	G	6			(70)	(34)	73			
SK	3198	G	6	125		53	46	26			3199>3198
SP	3199	G	6			37	30	10	19		3199>3198
SK	3201	C	4			41	36	26	18		3152>3201>3242
SK	3203	E～	6			(55)	(49)	60			3203>3204、3247
SP	3204	E～	6			(15)	(7)	22	18～19		3203>3204
統合	3205	E～	4	124		－	－	－	17後	○	3149と同一遺構
SK	3206	E～	4			(59)	(29)	42			3133、3149・3205>3206>3280
SK	3207	E～	4			90	55	42			3133>3207>3280、3283、3323
SP	3208	E～	4			31	27	29			3133>3208>3283、3284、3323
SK	3209	E～	4			63	52	42	17		3133>3209>3284、3294
SK	3210	F	4			59	(34)	48			4800>3210>3292
SK	3211	F	4			50	(37)	33			4800>3211>3293、3294

Ⅱ－1表　遺構一覧表（30）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	3212 ·3295	F	4			(139)	(110)	35	17前		3295と同一遺構 4800>3212·3295
SK	3213	F	4			152	(113)	37	17前		3149·3205、3215>3213>3214
SP	3214	F	4			37	29	58			3213>3214
SP	3215	F	4			36	27	50			3215>3213
SK	3216	F	4			(78)	(41)	20	17前		
SK	3217	F	4	125	58	(67)	(25)	13			
SK	3218	G	6			(53)	(17)	32			2374·3165>3218
SP	3219	G	6			(39)	(25)	36			3128>3219
SP	3220	E～	6			24	23	17			246·3110>3220
SP	3221	E～	6			(34)	33	18			246·3110>3221 3223との新旧不明
SP	3223	E～	6			37	29	34			246·3110>3223 3221との新旧不明
SK	3224	E～	6			71	60	65	17前		3224>3330
SK	3225	E～	6			41	41	30			3225>3330
SP	3226	E～	6			28	25	39			246·3110>3226>3249
SP	3227 ·3228	E～	6	123		64	(47)	16	17		3122>3227·3228>3248
SP	3229	E～	6	123		34	31	17	17		3122>3229
SP	3230	E～	6	123		54	(51)	31			3122>3230
SK	3231	E～	6			(41)	32	20			
SP	3232	E～	6	123		(62)	44	62			3122>3232
SK	3234	E～	6			30	15	20			3234>3328、3333
SP	3235	E～	6			33	(17)	10			3183>3235
SK	3237	G	4·6			(60)	(32)	14			
SK	3238	G	6			42	(38)	13			
SK	3239	G	6			(72)	(29)	14			
SK	3240	G	6			(73)	(35)	15			
SP	3241	C～D	4			33	(24)	6			3152>3241>3242
SK	3242	D	4·6	125	58	(280)	(117)	16	17後	○	3024、3049、3051、3076、3089、3108、3109、3111、3143、 3152、3201、3241>3242
統合	3243	G	6	114	52	－	－	－	17前		2266と同一遺構
SD	3244	G	6			149	32	7	17?		3244>3245、3321
SK	3245	G	6			218	206	40			3193、3244>3245>3316、3317、3318、3319、3320、3321
SK	3246	G	6			(180)	(126)	22			2286·3257、3254>3246>3255、3256、3258、3259
SP	3247	E～	6			(17)	(9)	16			3203>3247
SK	3248	E～	6			44	27	48			3122、3227·3228>3248
SP	3249	E～	6			11	(9)	36			
SP	3251	G	6			33	18	8			
SK	3252	G	6			(94)	(80)	40			3316との新旧不明
SK	3253	E～	6			50	(26)	46		○	3143>3253>3314、3328
SK	3254	G	6			47	(42)	34	17前?		3254>3246
SK	3255	G	6			(44)	(17)	12			3246、3258、3259>3255
SK	3256	G	6			(54)	(52)	27			2286·3257、3246、3258>3256
統合	3257	F	6			－	－	－			2286と同一遺構
SK	3258	G	6			(58)	(31)	11			3246>3258>3255、3256
SP	3259	G	6			(38)	(18)	10			3246>3259>3255
SP	3260	E～	6			(39)	(35)	19			3146>3260>3267 3308との新旧不明
SK	3261	G	6			54	(52)	39			3261>3262、3275
SK	3262	G	6			33	(27)	32			3261、3275>3262
SP	3263	G	6			26	2.5	54			
SP	3264	G	6			20	20	60			
SK	3265	G	6			(78)	(32)	27			
SK	3266	E～	6			41	36	14			3266>3374
SD	3267	E～	6	125	58	(176)	77	58	17前		3260>3267 3308との新旧不明
SK	3268	E～	6	125		73	65	53			
SK	3269	E～	6			(89)	(42)	53			
SK	3270	E～	6			244	72	50	17		3271>3270>2264
SK	3271	E～	6	126	58	115	76	30	17前～中		3271>3270
SX	3273	D	4·6			(166)	(51)	17			3049、3051、3089、3151、3152、3201、3242>3273
SK	3275	G	6			58	(46)	40			3261>3275>3262
SP	3276	E～	6			(37)	38	22			3146>3276
SK	3278	G	4			97	(73)	30			3149·3205>3278
SK	3279	E～	4			30	19	10			
SK	3280	G	4			102	94	38			3149·3205、3206、3207、3133、3222>3280>3323
SP	3281	G	4			28	21	30	17前?		
SK	3282	G	4			48	36	12			
SP	3283	G	4			27	26	41			3133、3207、3208、3284、3323>3283

Ⅱ－1表　遺構一覧表（31）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	3284	G	4			37	(28)	20			3133、3208、3209、3284>3283 3294との新旧不明
SP	3285－1	G	4			14	13	18			
SP	3285－2	G	4			11	9	41			
SP	3286	G	4			(24)	(19)	14			3133>3286
SP	3287	G	4			33	26	22			3133>3287
SK	3288	G	4			48	45	36			3133>3288
SP	3289	G	4			24	17	18			3133>3289
SK	3290	G	4			48	(39)	32			3133>3290>3307・3343
SP	3291	G	4			26	14	18			3133>3291
SP	3292	G	4			(24)	(14)	31			3210、4800>3292
SP	3293	G	4			29	(18)	22			3211、4800>3293
SK	3294	G	4			149	76	40	17前		3133、3209、3211>3294 3284との新旧不明
統合	3295	F	4			－	－	－	17前		3212と同一遺構
SK	3296	G	4			170	(94)	40			3148>3296
SK	3297	G	4			(28)	(15)	28			3133>3297
SK	3298	G	4			48	29	44			3133>3298
SK	3299	G	4			70	(34)	18			3299>3300
SK	3300	G	4			41	39	56			3299>3300
SK	3301	G	4			(84)	70	58			
SK	3302	E～	6			(91)	(27)	15			
SP	3303	C～D	4			41	(32)	35			
SK	3304	G	4			42	26	30			
SK	3305	G	4	126	58	100	96	14			3147、3327>3305
SK	3306	G	4			(17)	(8)	16			3133、4800>3306>3307・3343
SK	3307 ・3343	G	4	126		(138)	41	72			3343と同一遺構 縄文Tピット 3133、3290、3306、4800>3307・3343
SK	3308	E～	6			(169)	(66)	25	17前～中		3146>3308 3260、3267との新旧不明
SK	3309	E	4			(56)	(16)	22			3151>3309>3395
SK	3310	E	4			(98)	(21)	65			3310>3394、3395
SK	3312 ・3315	G	6	126		134	132	34			3315と同一遺構 イルカ頭骨出土 3345>3312・3315>3341
SP	3313	G	4			23	16	7			
SK	3314	E～	6			(90)	(30)	22	17		3253>3314>3328、3333
統合	3315	G	6	126		－	－	－			3312と同一遺構
SK	3316	G	6			(160)	(120)	28			3195、3245>3316>3317 3252との新旧不明
SK	3317	G	6			44	34	40			3316、3245>3317
SP	3318	G	6			28	23	59	17前?		3245>3318
SP	3319	G	6			33	27	52	17～18		3245>3319
SP	3320	G	6			35	30	38			3245、3321>3320
SK	3321	G	6			(116)	116	24			3244、3245>3321>3320
SK	3322	G	4			(19)	(7)	42			3149・3205>3322
SK	3323	G	4			(42)	(37)	16	17後?		3133、3207、3208、3280>3323>3283
SP	3324	E～	6			39	15	11			3324>3336
SP	3325	G	6			(37)	(29)	24			3146>3325
SP	3327	G	4			29	23	46			3327>3305
SD	3328	E～	4・6	126		(442)	124	42			3011、3049、3051、3111、3132、3142、3143、3234、3253、3314 >3328>3333、3377・3378、3381、3390
SK	3330	E～	6			(47)	(39)	16			3224、3225>3330
SK	3331	E～	6	127	59	117	101	72	17前～中		3331>3341
SK	3332	G	6			83	63	14			3180>3332 3341との新旧不明
SU	3333	E～	6	127	59	215	149	184	17末 ～18初		3011、3142、3143、3234、3253、3314、3328、3409>3333 >3390
SK	3335	G	6			66	50	31			
SK	3336	G	6			(315)	(116)	13			3269、3324>3336
SK	3341	G	6			(429)	394	30			2228・3161、2283、2285、2356、3078・3138・3139、3130、 3155、3156、3180、3312・3315、3331、3345>3341>2284 3332との新旧不明
統合	3343	G	4	126		－	－	－			3307と同一遺構
SK	3345	G	6			25	21	50			3345>3312・3315、3341
SK	3352	E～	4			(47)	(22)	30			3352>3360
SK	3353	F	4			(70)	47	16			3360との新旧不明
SK	3354－1	F	4			27	24	50			3354－1>3354－2
SK	3354－2	F	4			(53)	(30)	14			3354－1、3354－3>3354－2>3373
SK	3354－3	F	4			114	69	30			3354－3>3354－2、3373
SP	3356	E～	4			33	16	12			
SP	3357	E～	6			35	25	9			
SK	3358	E～	6			(45)	(18)	7			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（32）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	3359	E～	4			23	18	3			
SK	3360	E～	4			180	176	76			3352>3360 3353、3401との新旧不明
SP	3361	E～	4			(31)	(16)	12			
SK	3362	E～	6	127		60	57	38	17		3092>3362
SP	3364	F	6			37	(31)	16			3364>628
SK	3365	F	6			(86)	(51)	28	17前?		114・3091、3092、3107>3365>628
SK	3366	E～	4			(35)	(29)	26			3149・3205>3366 3370との新旧不明
SK	3367	E～	4			(103)	(13)	32			3149・3205>3367 3370との新旧不明
SP	3369	E～	4			39	21	8			
SK	3370	E～	4			(98)	26	8			3366、3367との新旧不明
SP	3371	E～	4			(20)	(9)	7			
統合	3372	E	6			－	－	－			113と同一遺構
SK	3373	E～	4			53	51	20			3354－2、3354－3>3373
SK	3374	G	6			(149)	(73)	30	17前		3266>3374
SP	3376	E～	4			23	8	13			
SK	3377 ・3378	E～	6	127	59	(65)	34	16	17前?		3328>3377・3378
SK	3379	E～	6			46	17	9			
SK	3381	E～	6			69	43	29	17前?		3328>3381
SK	3382	E～	4			58	50	18			
SP	3383	E～	6			35	24	31			3135>3383>3400－1
SP	3384	E～	6			28	27	7			3136>3384
SP	3386	E～	4			27	22	20			
SP	3387	E～	4			20	17	14			
SP	3388	E～	6			27	23	10			
SK	3390	E～	6			(99)	97	12			3328、3333、3391>3390
SK	3391	E～	6			44	40	20			3391>3390
SP	3392	E～	6			35	25	41			
SK	3393	E～	6			42	(18)	12			
SK	3394	E～	4			(61)	(37)	39			3310、3395>3394
SK	3395	E～	4			127	(78)	20			3309、3310>3395>3394
SK	3396	E～	6			(37)	(15)	26			
SP	3399	E～	6			(34)	(19)	25			
SK	3400－1	E～	4・6			219	59	62			3134、3135、3383、3400－2>3400－1>3404
SK	3400－2	E～	4			(115)	(15)	14			3400－2>3400－1>3404
SK	3401	E～	4			140	25	12			3360との新旧不明
SK	3404	E～	4			(30)	18	7			3400－1、3400－2>3404
SK	3405	E～	4			(50)	(32)	17			
SP	3406	E～	6			34	30	10			
SP	3407	E～	6			21	14	40			3408との新旧不明
SP	3408	E～	6			28	24	28			3407との新旧不明
SP	3409	E～	6			23	19	27			3409>3333
SP	4001	C	2	56、57		90	(65)	44			4001>4347
SK	4002	F	3			95	92	27	17		4002>4023、4031、4043
SK	4004	G	3			121	110	20			1027>4004>4036
SP	4005	G	3			58	48	44			
SK	4006	C	2			(38)	(23)	22			
SK	4008	C	2			(101)	(34)	49			4008>4047、4096、4097
SK	4009	G	2			(68)	(52)	17			4009>4012
SK	4012	G	2			(313)	(147)	73			4009>4012
統合	4013	E	1・2	77		－	－	－			838と同一遺構
SX	4014	C	2	128	59	(489)	216	116	17末、 18～	○	4014>4050、4056、4096、4311、4421、4332・4550
SP	4016	C	1	56、57		(161)	101	114	18後		4048>4016>1266・4017
統合	4017	D	1	97		－	－	－	18後	○	1266と同一遺構
SK	4018	G	1			(110)	(61)	24			4019、4095、4391、4514>4018
SK	4019	G	1			(174)	129	60			4095、4339、4391、4514>4019>4018
SP	4021	C	1			(56)	(37)	41			
SK	4022	G	3			(132)	(68)	11			
SP	4023	G	6			34	28	27			4002>4023>4031
SP	4024	E	3			20	14	12			
SP	4025	E	3			(20)	(20)	3			
SP	4026	G	3			26	26	54			
SK	4027	G	3			(58)	55	29			
SP	4028	C	2	129		(118)	(68)	22			750、751>4028
SP	4029	C	2	129		(127)	(69)	32			4029>4346、4492
SK	4030	C	2	129	60	119	109	52	18後		4030>4037、4311、4664
SD	4031	G	3	94		(296)	28	20			347、350、355、356、4002、4023>4031>4041、4043
SP	4032	C	2	129		135	123	75	17後	○	4032>4335、4336、4357・4381、4380、4535
SP	4033	C	2	130		131	(76)	56	18後～19		4033>4421

Ⅱ－1表　遺構一覧表（33）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4034	G	3			22	17	30			
SK	4036	G	3	130		138	121	45			縄文 809、1128、4004>4036
SP	4037	C	2	130		(109)	(86)	70	18?		4030>4037
SP	4038	C	2	130		(120)	(96)	62	17末		4039>4038>4664、4708
SP	4039	C	2	130		119	(106)	76	17後		4039>4038
SP	4040	C	2	130		69	63	15			
SP	4041	G	3			25	22	39			4031>4041
SP	4042	G	3			23	20	20			
SK	4043	G	3			89	62	35			4002、4031>4043
SP	4044	G	3			31	24	18			
SP	4046	D	2			(38)	(36)	59			
SK	4047	C	2			(290)	(106)	34	17後	○	4008>4047>4091、4096、4097、4098
SK	4048	C	1	131		(368)	(157)	110	18後～19		4048>823、824・4064、1266・4017、4016、555・4059、4063、4071、4088、4339
SP	4049	C	2	131		(128)	118	58	17後		4049>4228、4335、4349、4354、4356
SP	4050	D	2	131		(113)	(51)	30	17後	○	4014>4050
SP	4051	C	2	132		181	(75)	71	17後 ～18前		4053>4051
SK	4052	C	2			(65)	(26)	23			
SP	4053	C	2	132		(83)	(39)	42			4053>4051
SP	4055	C	2	132		(67)	(47)	10			4055>557、952、977、978・4290、4500、4702
SP	4056	D	2	132		109	(78)	77	17		4014>4056
SK	4057	C	2			(132)	(94)	146	18?		4057>4332・4550
SP	4058	C	2	132		155	146	74	17後		4058>4334、4400
統合	4059	C	1・2	56、57	34	－	－	－			555と同一遺構
SP	4060	D	2			32	24	18			
SP	4061	D	2	133		133	128	69			
SK	4063	C	1			(97)	(81)	49			555・4059、4048>4063>824・4064、1266・4017
統合	4064	C	1	75	35	－	－	－	18?		824と同一遺構
SP	4065	D	2			44	37	55			
SP	4066	C	2	133		195	137	50	明治		4066>4092、4394
SP	4067	C	2	133		159	146	22	17?		4067>4320、4340、4351、4353、4400
SP	4068	C	2	133		149	(124)	43			4068>4318、4328、4384
SP	4069	C	2	133		(113)	(95)	39			
SP	4070	C	2	134		136	(131)	31	18?		4070>1072・4300、4077、4301
SP	4071	C	1			14	11	11			4071>4084、4308
SP	4072	C	2	134		110	104	18	17?		4072>4304、4344
SP	4073	C	1			(29)	(27)	38			4088との新旧不明
SP	4074	C	2	134		(104)	(69)	64			4074>1072・4300
SE	4075	C	2	134	60	(120)	(67)	(190)	明治		4075>4082、1071・4229、4301
SP	4076 ・4302	C	2	135		140	(98)	69			4302と同一遺構 4076・4302>4330、4338、4352
SP	4077	D	2	135		(184)	(182)	75	17		4070>4077
SP	4078	C	2	135		103	(71)	59	17後	○	4078>4353
SP	4079	C	2			(41)	(38)	47			4080>4079
SP	4080	C	2			(41)	(40)	8	17後	○	
SP	4081	C	2	135		(142)	135	68			4090>4081>1072・4300、1071・4299、4301、4306
SP	4082	C	2	135		(77)	(65)	48			4075>4082>1071・4299、4301
SX	4083	C	1	136		43	32	12			4084>4083>4308
SP	4084	C	1			38	31	22			4071>4084>4083、4308
SP	4087	C	1			47	42	19			4087>4088、4339
SD	4088	C	1			(262)	54	13			4071、4087>4088>4089、4308、4339 4073との新旧不明
SP	4089	C	1			(40)	(25)	7			4088>4089
SP	4090	C	2	136		87	77	29	17末 ～18前		4090>1072・4300、4081、4301
SP	4091	D	2			46	39	5	17～18?		4047>4091>4096
SP	4092	C	2	133		(118)	(114)	46			4066>4092>4387
SP	4093	C	1			23	21	21			
SP	4094	C	1			22	15	17			4094>4339
SP	4095	C	1			72	54	71	17?		
SP	4096	C	2	136		146	(141)	29			4008、4014、4047、4091、4097、4098>4096
SP	4097	C	2			(96)	(25)	16			4008、4047>4097>4096
SP	4098	C	2			(16)	(9)	30			4047>4098>4096
SP	4101	C	2	136		(176)	(83)	98			4101>4343
SP	4102	C	2	136		(71)	(35)	27			4102>1071・4299、4301
SD	4103	B	2			145	53	14			4103>539・4225・4254
SP	4104	C	4	137		164	124	87	17後	○	4800>4104>4128、4197、4198
SP	4106	C	2	137		110	108	66	17末		4106>1072・4300、4239、4301
SP	4107	C	4	137		88	69	8			
SP	4108	C	4			110	74	23			
SP	4109	C	4	137		65	61	28	17?		
SP	4110	C	4			100	40	12			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（34）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4111	C	4	137		(103)	86	66	17?		4111>4282
SK	4112	C	4			(67)	(39)	24			
SK	4113	C	4			99	(83)	13			4800>4113
SP	4114	C	4	137		(87)	(70)	45	17後?		4800>4114>4207
SP	4115	C	4	138		(85)	(38)	38	17～18		4800>4115>4206
SP	4116	C	4	138		51	(39)	28	18前?		4800>4116
SP	4118	C	4	138		(104)	(61)	30			4119>4118
SK	4119	C	4			(79)	(28)	40	17?		
SK	4120	C	4			(61)	(30)	20			
SP	4121	C	4	138		131	104	37	18?		
SP	4123	C	4			167	127	27	18		4123>4144、4279、4280
SK	4124	C	4	139	60	102	89	98	19	○	4124>4131、4169、4193
SP	4125	C	4	138		102	98	29			4138>4125>4132、4168
SP	4128	C	4			(57)	(32)	30			4104>4128>4196
SP	4129	C	4			117	101	18			4129>4207、4226・4255
SP	4130	C	4	139		120	98	58	17後	○	4130>4230、4231
SP	4131	C	4	139		105	(95)	55	19		4124、4193>4131
SP	4132	C	4	138		81	58	86	18		4125、4138>4132
SP	4133	C	4	139		(116)	106	51	17末		
SP	4134	C	4	140		(112)	(68)	47			
SP	4135	C	4	140		(73)	(31)	27			4135>4147
SP	4136	C	4	140		(119)	(35)	45			4136>4160
SP	4137	C	4	140		(98)	(50)	42			4137>4160
SK	4138	C	4			218	169	43			4138>4125、4132、4168、4169、4204、4229
SK	4139	C	4	140		(58)	58	36	17?		4139>4181、4189
SP	4140	C	4			41	35	21			
SP	4141	C	4	140		(117)	(111)	77			
SP	4142	C	4			(68)	(28)	35			
SP	4143	C	4	141		169	(74)	55			
SP	4144	C	4	141		(87)	(85)	49	17末 ～18前		4123>4144
SP	4145	C	4			(25)	(12)	39			
SP	4146	C	4			(59)	(21)	13			
SP	4147	C	4	141		73	(35)	95			4135>4147
SP	4148	C	2			(29)	(27)	7			
SP	4149	C	2	141		(126)	(57)	32			4158>4149
SP	4150	C	2・4	141		80	(42)	11			
SP	4151	C	2・4	141		120	99	46	17?		4151>4205、4218・4250
SP	4152	C	4	142		(75)	(40)	14			
SP	4154	C	4			32	29	17			
SP	4155	C	4	142		61	60	10			4155>4264
SP	4156	C	4			50	48	10			4156>4185・4234
SP	4157	C	4	142		89	82	30	17?		4157>4179、4233
SP	4158	C	2	142		38	(37)	20	17後?		4158>4149
SP	4159	C	4	142		(85)	(49)	81	17後?		4179>4159>4185・4234
SX	4160	D	4			(85)	46	35			4136、4137>4160
SP	4161	C	2・4	142		84	54	13			4161>4172
SP	4162	C	4	143		59	40	70			
SP	4163	C	4			41	29	49			
SP	4164	C	2・4	143		98	(78)	48			4164>4265
SP	4165	C	2			(87)	(16)	57			
SP	4166	C	4			42	33	27			4166>4212
SD	4167	C	4	143		(146)	60	81			4167>565
SK	4168	C	4			97	(43)	19			4125、4138>4168
SD	4169	C	4	143		(57)	68	22			4124、4138、4193>4169
SP	4170	C	2・4	143		(83)	80	58	17後?	○	4170>4233
SP	4171	C	4			(46)	(14)	12			
SK	4172	C	2・4			110	(107)	13			4161>4172>4187、4188
SP	4173	C	4			(46)	40	19	17?		
SP	4174	C	2			(27)	(19)	50			4218・4250>4174
SP	4175	C	2			(30)	(16)	44			4175>4218・4250
SP	4176	D	2	144		(124)	(91)	93	17後		4176>4235、4275、4277
SP	4177	C	2	144		(88)	(66)	32			4177>1072・4300、4301
SP	4178	D	2			(37)	(10)	21			4178>1072・4300、4301
SP	4179	C	4			(85)	(64)	26	17?		4157>4179>4185・4234、4159
SP	4180	C	4			(41)	(19)	16			
SP	4181	C	4			(95)	(26)	21			4139>4181
SP	4182	D	2	146、147		(41)	31	101			4182>702・4184
SP	4183	D	2	146、147		(35)	33	115			4183>702・4184
統合	4184	D	2	145		－	－	－	17後		702と同一遺構
SP	4185 ・4234	C	4	144		354	200	54	17後、 17?		4234と同一遺構 4156、4159、4179>4185・4234
SP	4186	C	2	145		108	88	18			4186>4187
SP	4187	C	2			(47)	(38)	23			4186>4187

Ⅱ－1表　遺構一覧表（35）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4188	C	4	145		170	(160)	18			4161>4188
SK	4189	C	4			64	37	20			4139>4189
SP	4190	C	4			(36)	20	41			4190>4191、4205
SP	4191	C	4			(24)	(12)	7			4190、4192>4191>4205
SP	4192	C	4			37	30	54			4192>4191、4205
SK	4193	C	4	139		(105)	84	79	19～明治		4124>4193>4131、4169
SP	4194	C	4			49	43	35			
SP	4195	C	4			87	84	16			
SP	4196	D	4			45	(36)	10			4128>4196>4197
SP	4197	D	4			(36)	(26)	32			4104、4128、4196、4800>4197
SP	4198	C	4	145		(97)	(58)	53	17後	○	4104、4199、4800>4198
SK	4199	C	4	145		(150)	89	42	17後		4800>4199>4198
SP	4201	C	2			49	(41)	22			
SP	4202	C	4	148		(91)	(84)	47	17?、18後		
SU	4203	C	4	148	60、61	141	(119)	108	17後		4212>4203>4202、4231
SK	4204	C	4	148		63	43	9			4138>4204
SP	4205	C	4	148		(82)	(44)	16			4151、4190、4191、4192>4205
SP	4206	D	4			43	42	30	17?		4115>4206
SP	4207	D	4			(78)	67	21			4114、4129>4207>4226･4255
SP	4209	E	4			60	(45)	58	17後	○	4209、4800>4431、4707
SP	4210	D	4			64	34	82			4210>4224、4242
SP	4211	D	2	146、147		38	29	77			4211>702･4148
SE	4212	C	4	149	61	120	113	(138)	19中		4166>4212>4203、4229、4230
SP	4213	C	2	149		90	82	30			
SP	4214	C	2	149		(115)	(64)	41	17?		
SP	4215	C	2	149		117	112	20	19		4215>4245、4261、4268、4275
SP	4216	C	2	149		122	96	41	17後?		4216>4237
SP	4217	C	2			33	28	62			4217>4218･4250
SP	4218･4250	C	2･4	150		160	(133)	36	17?		4250と同一遺構 4151、4175、4217>4218･4250>481･754、1071･4299、4174、4301
SP	4219	C	2	150		136	127	30	17後?		4219>978･4290、4296、4243、4703、4704
SP	4220	C	2	150		(152)	(106)	38			539･4225･4254、4227>4220>978･4290、4246、4271
SP	4221	C	2	150		(128)	97	30	19		4221>4227、4247、4258
SP	4222	C	2	151		87	(68)	84			
SP	4223	D	4			54	37	57	17?		
SP	4224	D	4			96	(56)	66			4210>4224>4242
統合	4225	A～B	1･2	55	33	－	－	－	19後、明治前		539、4254と同一遺構
SP	4226･4255	D	4	151		137	127	36	17?、19中		4255と同一遺構 4129、4207>4226･4255
SP	4227	C	2	151		(114)	(88)	37			4221>4227>4220、4221、4246、4247、4271
SP	4228	C	2			100	(85)	47			4049>4228>4335、4349、4356
SK	4229	C	4			(46)	(31)	21			4138、4212>4229
SP	4230	C	4			48	47	83			4130、4212>4230
SP	4231	C	4			(68)	(40)	84			4203、4130>4231
SK	4232	C	2	151	61	102	(78)	77	17前?		4232>1072･4300、4248、4256、4301
SK	4233	C	2･4	152		(78)	(52)	79			4170、4157>4233
統合	4234	C	4	144		－	－	－	17後、17?		4185と同一遺構
SP	4235	D	2			40	38	32			4176>4235
SP	4236	D	2	146、147		41	39	78			702･4184>4236
SP	4237	C	2	152		(103)	41	29	17後?		4216>4237>4238
SK	4238	C	2			(74)	(23)	68	17?		4237>4238
SP	4239	C	2			(34)	25	50			4106>4239>1072･4300、4301
SK	4240	C	2	152		129	99	22	19?		4240>4268
SP	4241	C	2	152		(134)	(60)	32	18?		4241>4245、4261
SP	4242	D	4			(49)	(37)	40			4210、4224>4242
SP	4243	C	2			(23)	19	30			4219>4243>978･4290、4262
SP	4245	C	2			(102)	(94)	45			4215、4241>4245>4261、4262、4292
SK	4246	C	2	153	62	267	(90)	95	17後		4220、4227、4247>4246>978･4290
SP	4247	C	2	153		(77)	(73)	23	17?		4221、4227>4247>4246
SP	4248	C	2	153		(82)	41	82	17前?		4232>4248>1072･4300、4256、4301
SP	4249	D	2	146		49	43	37			4249>978･4290、4260、4275、4702
統合	4250	C	2･4	150		－	－	－	17?		4218と同一遺構
SP	4251	C	2			27	(17)	62			
SP	4252	C	4	153		93	58	19	17?		4252>4280
SP	4253	D	2	146		51	41	87	17後		4253>1072･4300、4301
統合	4254	A～B	1･2	55	33	－	－	－	19後、明治前		539、4225と同一遺構
統合	4255	D	4	151		－	－	－			4226と同一遺構
SP	4256	C	2			18	14	36			4248>4256>1072･4300、4301

Ⅱ－1表　遺構一覧表（36）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4257	C	2			20	(12)	14			
SP	4258	C	2			(61)	(33)	42	17?		4221>4258
SP	4259	D	2	146、147		36	26	77	17～18		4260>4259>958
SK	4260	D	2			(111)	(107)	85			4249>4260>958、4259、4275
SP	4261	D	2	154		187	(74)	65			4215、4241、4245>4261>4262
SP	4262	D	2			(130)	(58)	22			978·4290、4243、4245、4261>4262
SP	4263	C	4			42	28	7			4263>4264
SP	4264	C	4	154		(122)	76	6			4155、4263>4264>772
SK	4265	D	2·4			(112)	(99)	22			4164>4265
SP	4266	C	2			62	47	20			4266>1072·4300、4301
SP	4267	D	2			(47)	(19)	30			4268>4267
SP	4268	D	2			71	65	21			4215、4240>4268>4267
SP	4269	C	4			20	(13)	18			
SP	4270	C	2			(41)	(23)	47			
SP	4271	C	2	154		(114)	(63)	7			539·4225·4254、4220、4227>4271
SK	4272	E	4			(72)	56	14			4800>4272
SP	4273	E	4			35	34	18			4273>4489、4601
SP	4274	E	4			64	59	58	17前?		4274>4606
SP	4275	D	2	154		209	151	47	17前～中		4176、4215、4249、4260>4275>978·4290、4277、4292、4702
SP	4277	D	2	146、147		30	24	90			4176>4277>4275
SD	4278	E	4	155		(1131)	64	60	17前		4278>1211·4426、4410、4411、4450、4612、4614、4616、4627、4634、4640、4641、4644、4645、4655、4709、4713
SP	4279	D	4	155		(101)	93	31			4123>4279
SP	4280	D	4	155		113	99	20	17後?		4123、4252>4280
SP	4281	E	4			76	(43)	50			4280、4610>4281>4606、4622
SP	4282	D	4			69	(54)	24	17～19		4111、4800>4282
SP	4283	E	4			32	28	35			
SP	4284	E	4			61	(36)	6			4284>4286、4440、4441、4476
SP	4285	E	4			(51)	28	28			
SP	4286	E	4			54	35	30			4284>4286>4440、4441、4476
SP	4287	E	4			19	17	16			4287>4434
SP	4288	E	4			74	47	34			4288>4435、4436、4479、4697、4698
SK	4289	E	4	156	61	93	(50)	29			4199>4289>4424、4425、4430
統合	4290	D	2	157	41	－	－	－	17前		978と同一遺構
統合	4291	C～D	2	55	33	－	－	－	明治		540と同一遺構
SP	4292	D	2			(70)	(59)	43	17		4245、4275>4292>978·4290
SP	4293	D	2	156		(82)	(30)	14			4293>1072·4300、4301
SP	4294	E	4			37	31	14			
SP	4295	E	4	156	62	(79)	(32)	25			4112、4282、4800>4295>4432
SE	4296	D	2	157	62	158	151	(240)	17後		539·4225·4254、4219>4296>978·4290、4702、4703
SD	4297	E	2	158		(691)	100	146	17後		4030、4346、4492>4297>1032·4685、4298、4401、4553、4569、4578、4582、4672、4673 838·4013との新旧不明
SK	4298	E	2			165	(112)	117	17後		4297>4298>4401、4673
統合	4299	D	1·2·3	92·93	43	－	－	－	17前		1071と同一遺構
統合	4300	D	1·2·3	92·93	44	－	－	－	17?		1072と同一遺構
SD	4301	D	1·2·3	92·93	63、64	(2444)	(326)	127	17中		482、483、485、481·754、500、501、502、517、532、533、534、536、537、538、564·778、574、575·1014、577、579、747、779、780、800、814、901、905、906、910、912、923、928、4070、4074、4075、4079、4080、4081、4082、4090、4102、4106、4165、4174、4175、4177、4178、4218·4250、4232、4239、4248、4253、4256、4266、4293、4305、4306、4316>4301>1071·4299、1072·4300
統合	4302	C	2	135		－	－	－			4076と同一遺構
SP	4304	C	2	156		131	(108)	68	17後		4072>4304>4344
SP	4305	C	2	158	65	28	28	14			4305>1071·4299、4301
SD	4306	C	2	159		(134)	52	70			4081、1072·4300、1071·4299>4306
SK	4307	C	2			(43)	(19)	29	17?		
SK	4308	D	1			(74)	53	12			4048、4071、4083、4084、4088>4308
SK	4309	D	1			(56)	48	30			
SK	4311	D	2	159	65	102	73	94			4014、4030>4311>4331
SP	4312	D	2			37	30	26			
SP	4313	D	2	159		153	(130)	72	17後		4328>4313
SK	4314	D	2			(140)	78	16			4346、4421、4492>4314
SP	4315	D	2			(42)	(16)	64			4317>4315
SP	4316	C	2			43	40	42	18		4316>1071·4229、4301
SP	4317	D	2			50	41	25			4317>4315、4350
SP	4318	D	2			29	22	33			4068>4318>4384
SP	4319	D	2			30	27	85	17末?		
SP	4320	D	2			(23)	22	28			4067>4320
SP	4321	D	2			42	38	35			
SP	4322	D	2			17	14	8			
SP	4323	D	2			18	18	21			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（37）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4324	D	2			40	30	10			
SK	4325	D	2	160		108	50	41			
SK	4326	D	1･2	160		116	(69)	41	18?		
SK	4327	D	1	160		(134)	(55)	42			4327>1266･4017
SP	4328	D	2			73	(66)	13	17後?		4068>4328>4313
SK	4329	D	2			200	(131)	26			4076･4302>4329>4330、4338
SK	4330	D	2			134	(58)	70			4076･4302、4329>4330>4338
SK	4331	D	2			(161)	(42)	42	18?		4311>4331
SP	4332 ･4550	C	2			57	(25)	26			4550と同一遺構 4014、4057>4332･4550
SP	4333	D	2	160		(117)	(51)	27	17		4333>4358
SK	4334	D	2			(164)	(51)	32			4058、4400>4334
SK	4335	D	2			344	(235)	43	17後	○	4032、4049、4228>4335>4336、4348、4349、4354、4356、4357･4381、4380
SK	4336	D	2			(157)	128	85	17後	○	4032、4335>4336>4349、4357･4381、4380
SP	4337	D	2			50	38	22			
SK	4338	D	2			(83)	(56)	18			4076･4302、4329、4330>4338
SP	4339	D	1	160		162	154	55	17後?		4048、4087、4088、4094>4339
SP	4340	D	2	161		54	53	36			4067>4340>4353、4359
SD	4341	E	2	161	65	(578)	82	61	17前?		1072･4300、4061、4077>4341>4342、4371、4515、4516
SK	4342	E	2			(257)	(76)	36	17～18前		4070、4341>4342
SP	4343	D	2	161		(98)	(39)	78			4101>4343
SK	4344	D	2	161	65	(196)	(121)	60	17後		4072、4304>4344>4384
SU	4346	D	2	162		(163)	(85)	(172)	17後、19		4029、4314>4346>4492
SK	4347	D	2			(138)	(55)	38			4001>4347
SP	4348	D	2			(41)	(35)	62			4335>4338
SP	4349	D	2	162		154	134	81	17後		4032、4049、4335、4336、4356、4357･4381、4380、4428>4349
SK	4350	D	2			104	85	39	17?		4317>4350
SP	4351	D	2			87	75	62	17後?		4067>4351
SK	4352	D	2			(52)	(48)	11			4076･4302>4352
SK	4353	D	2	162		(232)	(67)	87	17後		4067、4078、4340>4353
SP	4354	D	2			45	(27)	19	17前?		4049、4335>4354
SP	4355	F	2			7	6	13			4355との新旧不明
SP	4356	D	2	162		85	(60)	22			4049、4228、4335>4356>4349
SP	4357 ･4381	D	2			71	62	90	17後		4381と同一遺構 4032、4335、4336、4380>4357･4381>4349
SK	4358	D	2			(85)	(39)	44			4333>4358
SD	4359	D	2			(122)	54	21	17前?		4340>4359>4387
SP	4361	F	2			46	25	10			4361>4506
SP	4362	F	2	162		38	(32)	9			
SP	4363	F	2			46	29	7			4355との新旧不明
SP	4364	F	2			19	17	11			4364>4501
SP	4365	F	2			21	19	10			
SP	4366	F	2			48	(14)	19			4212>4366
SP	4367	F	2			24	22	17			4367>4522
SP	4368	F	2			15	14	5			4368>4522
SP	4369	G	2			(44)	(26)	25			
SP	4370	F	2			27	(22)	20			4061>4370>4511
SP	4371	G	2			(26)	(24)	18			4341>4371
SP	4372	F	2			17	15	13			4372>4515
SP	4373	F	2			76	(66)	8			4069、4330>4373>4515、4527
SP	4374	F	2			42	37	13			4076･4302>4374>4515
SP	4375	F	2			56	(47)	9			4375>4515、4526、4529
SP	4376	F	2			22	18	5			4376>4515
SK	4378	E	1･2	163		215	100	40			838･4013>4378
SD	4379	E	1	163		(329)	(89)	122			838･4013、1008、1266･4017、4048>4379
SP	4380	D	2			(53)	(35)	43			4032、4335、4336>4380>4357･4381
統合	4381	D	2			－	－	－	17後		4357と同一遺構
SP	4382	F	2			(27)	22	16			4344>4382
SP	4383	F	2			47	(31)	47			4304、4344>4383
SP	4384	D	2			71	(53)	10			4068、4318、4344>4384
SP	4385	F	2			(92)	(53)	20			4313、4328>4385
SP	4386 ･4393	F	2			(61)	(34)	75			4393と同一遺構 4386･4393>4541
SP	4387	D	2			73	(29)	23			4092、4359>4387
SP	4388	F	2			(75)	(54)	7			870･980･4498>4388
SP	4389 ･4392	F	2	163		(151)	(37)	37	17前?		4392と同一遺構 4389･4392>4513、4516、4519、4532
SK	4391	F	1			(291)	(84)	31			4095>4391>4018、4019、4399、4514
統合	4392	F	2	163		－	－	－	17前?		4389と同一遺構
統合	4393	F	2			－	－	－			4386と同一遺構
SK	4394	D	2			110	58	43	17後?		4066>4394

Ⅱ－1表　遺構一覧表（38）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4395	G	1			42	(39)	30			4048>4395>4518
SK	4396	G	1			(58)	(47)	25			4339、4397>4396
SK	4397	G	1			(100)	(25)	44			4397>4396、4398
SP	4398	G	1			(52)	(40)	20			4397>4398
SK	4399	G	1	163		156	(116)	79			4339、4391、4514>4399>4518
SK	4400	D	2			(226)	(188)	70	17		4058、4067>4400>4334
SK	4401	G	2			(388)	(368)	91	17前～後		838・4013、1269、1270、1271、1272、4030、4297、4298、4346、4492、4570、4577、4673>4401 4531との新旧不明
SP	4402	G	4			65	55	22			
SK	4403	G	4			160	140	32			
SP	4404	D	4			69	57	1			
SK	4405	G	4	164	65	(115)	(58)	75	17前		4405>4623
SP	4406	G	4			31	29	40	17前		
SP	4407	G	4			40	40	33			
SP	4408	G	4			29	26	45			
SP	4409	G	4			31	30	44			
SK	4410	G	4			(81)	(69)	22	17後	○	4278、4411>4410>4629
SD	4411	E	4	164		(717)	63	78			4278>4411>4410、4444、4621、4623、4628、4629、4635、4637、4640、4653
SP	4412	F	4			30	23	49	18?		4412>4612
SP	4413	F	4			55	40	10			4413>4639
SP	4414	E	4			(33)	(7)	48			
SP	4415	E	4			61	48	48			4415>4416、4482
SD	4416	E	4			(178)	26	12			4279、4415>4416>4482
SP	4417	E	4			21	20	11			4417>4483
SP	4418	E	4			66	46	23			
SP	4419	D	2	146、147		39	39	80	17?		
SK	4421	D	2			(116)	(101)	55			4014、4033、4314>4421
SP	4422	G	4			(44)	(28)	29			
SP	4423	F	4			(46)	30	20			4423>4468
SP	4424	F	4			(44)	(17)	14			4199、4298>4424
SP	4425	F	4			30	23	12			4199、4298>4425
統合	4426	F	3・4	96	45	－	－	－	17前		1211と同一遺構
SP	4427	G	4			33	31	11			4199>4427
SP	4428	G	4			(45)	(27)	17			4428>4429、4472
SP	4429	G	4			123	55	33	17前?		4428>4429>4447、4472
SP	4430	F	4			32	30	18			4199、4289>4430
SK	4431	F	4			141	(100)	43			4198、4199、4209、4294、4800>4431>4442、4707
SK	4432	F	4	165	65	86	(67)	35	17前		4112、4282、4295、4800>4432
SP	4433	G	4			39	(29)	53			4210>4433
SP	4434	G	4			36	26	33			4287>4434
SP	4435	G	4			37	29	9			4288>4435
SK	4436	G	4			68	53	69			4288>4436>4479、4480
SP	4437	G	4			36	28	10			
SP	4438	G	4			(83)	(28)	65			4800>4438
SP	4439	G	4			23	(16)	10			
SP	4440	G	4			152	(88)	58			4284、4286、4800>4440>4441
SP	4441	G	4			(59)	(45)	56	17前?		4284、4286、4440、4800>4441
SP	4442	G	4			43	39	17			4431>4442 4443との新旧不明
SP	4443	G	4			51	36	11			4442との新旧不明
SK	4444	F	4			117	(51)	41			4411>4444
SP	4446	G	4			57	(54)	31			4800>4446>4699
SP	4447	G	4			31	30	62			4429>4447
SP	4448	F	4			37	24	11			
SP	4449	F	4			(90)	(51)	68	19?		4800>4449>4691
SP	4450	F	4			26	(21)	20			4278>4450>4641
SP	4451	F	4	165		44	37	11	17前?		
SP	4452	G	2			60	19	25			
SD	4453	F	4			106	38	16			4167>4453>4739、4740
SP	4454	G	2			15	15	8			
SP	4455	G	4			32	(28)	47			
SP	4456	G	2			(32)	(14)	60			
SP	4457	F	4			19	19	14			
SD	4458	F	4			227	38	15			
SP	4459	F	4			63	38	46			4459>4607、4622
SK	4460	F	4	165	65	(138)	35	34	17前		4460>1211・4426
SP	4461	G	4			50	19	21			
SP	4462	G	4			(29)	(13)	31			
SP	4463	G	4			33	27	16			
SP	4464	G	4			31	29	46			
SP	4466	G	4			56	(48)	44			4800>4466
SP	4467	G	4			35	(15)	7			4800>4467

Ⅱ－1表　遺構一覧表（39）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4468	G	4			(64)	56	62			4423>4468>4636
SP	4470	G	4			44	29	25			4470>4692
SP	4471	G	4			46	43	49			
SP	4472	G	4			(41)	38	8			4428、4429>4472
SP	4474	F	4			35	33	50	17前?		4474>4475
SP	4475	G	4			26	25	55			4474、4476>4475
SP	4476	G	4			50	35	37			4284、4286>4476>4475
SP	4477	G	4			34	30	72			4477>4478、4698
SP	4478	G	4			(20)	17	37			4477>4478
SP	4479	G	4			43	(36)	47			4288、4436、4480>4479
SP	4480	G	4			22	(16)	7			4288、4436>4480>4479
SK	4482	G	4			(107)	(67)	50			4280、4415、4416>4482
SP	4483	G	4			34	(26)	11			4212、4417>4483
SP	4485	G	4			31	26	37			
SP	4487	G	4			40	27	9			
SP	4489	G	4			(49)	(12)	38			4273>4489
SP	4490	G	4			28	25	16			
SP	4491	G	2			31	(20)	42			
SP	4492	D	2			(97)	(70)	95			4029、4314、4346>4492
SP	4493	G	4			36	24	28			
SP	4494	G	2･4			(14)	13	20			
SD	4495	G	2			(102)	(70)	56			
SP	4496	G	4			18	15	28			
SP	4497	G	4			30	27	36			
統合	4498	F	1･2	79		－	－	－	17前～後		870、980と同一遺構
SP	4499	G	2･4			53	30	12			
SP	4500	D	2			(48)	(27)	84	17後	○	539･4225･4254、557、977、4055>4500>978･4290、4702
SP	4501	G	2			56	(30)	26			4260、4364>4501
SP	4502	G	2			20	17	31			4419>4502
SP	4503	G	2			27	22	27			
SP	4504	G	2			21	21	13			4504>4505
SP	4505	G	2			(41)	31	14			4504>4505
SP	4506	G	2			(55)	(24)	13			4361>4506
SP	4507	G	2			(22)	20	11			4128、4236>4507
SP	4508	G	2			(31)	(30)	14			593>4508
SP	4509	G	2			51	(45)	15			4183、4211>4509
SP	4510	G	2			17	11	5			
SK	4511	G	2			201	(54)	23			4061、4370>4511
SK	4512	F	2			94	84	61			4353>4512>870･980･4498 4519との新旧不明
SK	4513	F	2	165	66	(110)	72	53	17前		4389･4392、4516、4532>4513>4566
SK	4514	F	1			(215)	(32)	45			4391>4514>4018、4019、4399
SX	4515	F	2			(433)	(260)	17	17前		1072･4300、4069、4070、4076･4302、4077、4077、4330、4337、4338、4341、4342、4372、4373、4374、4375、4376>4515>4526、4528、4540
SK	4516	F	2	166	66	(163)	(125)	77	17前		4341、4358、4389･4392>4516>4513
SP	4517	F	2			(43)	28	31			4353>4517>870･980･4498>4585
SD	4518	G	1			(181)	104	61			4048、4339、4391、4395、4399、4514>4518
SP	4519	F	2	166		72	51	79	17前?		4389･4392、4532>4519 4512との新旧不明
SK	4520	G	2			133	(107)	60			1032･4685、4014>4520>4555
SP	4521	G	2			49	17	13			4014>4521
SP	4522	G	2			80	67	21			4367、4368>4522
SP	4523	G	2			15	(11)	7			4213>4523
SP	4524	G	2			(42)	(17)	11			1072･4300>4524
SP	4525	G	2			(36)	(11)	9			4232>4525
SP	4526	G	2			(15)	(12)	14			4375、4515>4526>4529
SP	4527	G	2			21	19	6			4373>4527
SP	4528	G	2			(80)	(29)	9			1072･4300、4515>4528>4540
SP	4529	G	2			32	22	17			4375、4526>4529
SK	4531	G	2			(267)	(258)	67			4014、4096>4531 4401との新旧不明
SK	4532	F	2	166	66	(111)	(91)	62	17前		4389･4392>4532>4513、4519
SP	4533	G	2			(48)	47	15			870･980･4498、4573>4533
SK	4535	D	2	166	66	141	125	89	17		4032、4335、4336、4349、4357･4381、4380>4535
SK	4536	G	2			(155)	(45)	22			4536>4580、4590
SP	4540	G	2			(28)	(23)	19			4528>4540
SP	4541	G	2			63	40	17			4386･4393>4541
SP	4542	G	2			23	16	23			
SP	4543	G	2			55	54	37			
SP	4544	G	2			(18)	(13)	12			4304>4544
SP	4545	G	2			26	21	58			
SP	4546	G	2			22	(18)	5	17?		4304>4546
SP	4547	G	2			35	(23)	44			4548との新旧不明

Ⅱ－1表　遺構一覧表（40）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SP	4548	G	2			(30)	29	46			4547との新旧不明
SP	4549	G	2			(24)	18	17	17?		
統合	4550	C	2			－	－	－			4332と同一遺構
SP	4551	G	2			16	13	29			
SP	4552	G	2			23	16	20			
SK	4553	F	2	167	67、68	(642)	253	120	17前		1032・4685、4297、4535、4554、4569、4571、4573、4581、4683、4743>4553>4533、4582、4587、4589
SK	4554	F	2	167		(196)	(80)	58	17前		4554>1032・4685、4553
SP	4555	G	2			(61)	(31)	43			1032・4685、4520>4555
SK	4556	F	2	167		85	73	72	19		4556>870・980・4498
SK	4558	G	2			(167)	94	27			4014>4558>4559、4561
SK	4559	G	2			96	57	29			4014、4558>4559
SK	4560	G	2			(83)	(16)	9			4535>4560>1032・4685
SK	4561	G	2			(39)	27	25			4558>4561
SK	4562	G	2			(85)	34	41			4014>4562
SK	4565	G	2			26	22	17			
SP	4566	G	2			(38)	36	27			4513>4566
SP	4567	G	2			(28)	(14)	9			4261>4567
SP	4568	G	2			(30)	20	23			4275>4568
SK	4569	F	2	167	69	(118)	102	60	17前～中		4297>4569>1032・4685、4553、4581、4582
SP	4570	G	2	168		(77)	(33)	34			4346、4570>4401
SK	4571	F	2			129	96	55	17前		4571>1032・4685、4553
SK	4573	F	2			(210)	(162)	77	17前		4535>4573>4533、4553
SP	4574	G	2			39	(25)	11			
SP	4575	G	2			67	61	67			
SE	4577	G	2	168	69、70	105	103	(222)			1062・4687、4030、4672>4577>4401、4578
SK	4578	G	2			(101)	(70)	59			1032・4685、4297、4030、4577、4672>4578
SP	4579	G	2			(43)	37	36			870・980・4498>4579
SP	4580	G	2			(86)	(29)	11			1032・4685、4535、4536>4580>4590
SE	4581	G	2	168		89	86	(126)			1032・4685、4553、4569、4582>4581
SK	4582	G	2			217	(112)	33			1032・4685、4297、4553、4569、4683>4582>4581
SP	4583	G	2			(65)	(63)	9			540・4291、4683>4583
SP	4584	G	2			13	13	13			
SP	4585	G	2			(35)	(15)	12			4353、4517>4585
SP	4586	G	2			13	10	15			
SP	4587	G	2			(14)	(10)	37			4553>4587
SP	4589	G	2			(17)	14	10			4553>4589
SP	4590	G	2			21	15	31			4536、4580>4590
SK	4601	G	4			109	98	22	17前?		4273>4601
SP	4604	G	4			34	25	39			
SP	4605	G	4			47	33	46			
SP	4606	G	4			35	(29)	7			4274、4281>4606>4622
SP	4607	G	4			(35)	15	21			4459>4607
SP	4608	G	4			(70)	45	58	17?		
SP	4609	G	4			(37)	20	36			4203>4609
SE	4610	F	4	169	70	116	109	(260)	17前		4279、4280>4610
SP	4611	G	4			(80)	78	31			4612>4611
SK	4612	G	4	168	70	(196)	178	46	17前		4278、4412>4612>4611、4613、4657
SP	4613	G	4			48	40	53	17前?		4612>4613
SK	4614	G	4			(90)	87	17			4278>4614>4615
SK	4615	G	4			74	(58)	14			4614>4615
SP	4616	G	4			(34)	(14)	11			4278>4616
SP	4617	G	4			(107)	(50)	15			
SP	4618	G	4			37	27	6			
SP	4619	G	4			34	(30)	24			
SP	4620	G	4			43	41	46			4620>4621
SK	4621	G	4			128	(57)	21			4411、4620、4800>4621>4751
SP	4622	G	4			22	20	22			4281、4459、4606>4622
SK	4623	G	4	169		211	67	98			4405、4411、4635>4623>4733
SP	4624	F	4	96		47	46	32			1211・4426>4624
SP	4625	G	4			24	19	16			4626>4625
SP	4626	G	4			22	(16)	5			4626>4625
SP	4627	G	4			32	(30)	50			4278>4627>4630
SK	4628	G	4	169	70	(94)	64	57	17前～中		4411>4628>4650
SP	4629	G	4			40	36	33			4410、4411>4629
SK	4630	G	4			164	94	13			4627>4630>4632
SP	4631	G	4			28	22	27			
SP	4632	G	4			52	22	11			4630>4632
SP	4633	G	4			(63)	51	8			
SP	4634	F	4	96		56	44	48			1211・4426、4278>4634
SK	4635	G	4			(130)	101	52	17中?		4411>4635>4623
SP	4636	G	4			37	(17)	14			4468>4636
SP	4637	G	4			44	(22)	6			4411>4637
SP	4638	G	4			(31)	27	10			4639>4638

Ⅱ－1表　遺構一覧表（41）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	4639	G	4			122	108	24	17		4413>4639>4638、4715
SK	4640	G	4			(164)	(62)	18			4278、4411>4640
SK	4641	G	4			133	(74)	19			4278、4450>4641>4649、4719
SP	4642	G	4			(50)	40	52			4642>4645
SK	4644	G	4			(112)	(80)	18			1211・4426、4278>4644>4645
SP	4645	G	4			(47)	(37)	18			4642、4644>4645
SP	4646	G	4			(31)	(29)	12			1211・4426>4646
SP	4647	G	4			30	(21)	11			
SP	4649	G	4			(31)	31	50			4641>4649
SK	4650	G	4	170		188	64	66			4628>4650>4736
SP	4651	G	4			25	25	8			
SP	4653	G	4			(30)	26	10			4411>4653
SP	4654	G	4			(46)	(25)	7			4654>4655
SP	4655	G	4			51	43	54			1211・4426、4278、4654>4655
SK	4656	G	4			35	31	15			
SK	4657	G	4			105	24	14			4612>4657
SP	4659	G	4			20	17	15			
SP	4660	G	4			21	14	7			
SX	4661	G	2			(66)	(48)	57			
SK	4663	G	2・4	170		163	88	57			
SP	4664	D	2			(85)	(35)	31			4030、4038>4664
SP	4665	F	4			(60)	(53)	64			4655>4728、4729
SK	4666	F	4			(90)	(85)	60			4666>4722、4723
SK	4667	G	4			124	(88)	49	17?		
SK	4668	G	4			59	(44)	18			
統合	4669	G	2・3・4	95		－	－	－			1148、4674と同一遺構
SP	4670	G	2			36	(19)	8			1148・4669・4674>4670
統合	4671	G	2	85	41	－	－	－	17前		955と同一遺構
SP	4672	E	2			(120)	(38)	92			4030、4297>4672>4578
SK	4673	E	2			(124)	(87)	57			4297、4298、4492>4673>4401
統合	4674	G	2・3・4	95		－	－	－			1148、4669は同一遺構
SK	4675	G	2・4	170		(100)	73	68			
SP	4676	G	4			33	29	9			
SP	4677	G	4			(34)	(33)	35			
SP	4678	G	4			36	(25)	17			
SP	4679	G	4			30	23	10			
SP	4680	G	4			(32)	(24)	17			
SP	4681	G	4			(38)	(22)	12			
SK	4682	F	2			(68)	27	46	17?		4682>870・980・4498、4683、4706
SK	4683	F	2	170		279	169	102	17前?		540・4291、4682、4706>4683>4553、4582、4583
統合	4685	F	1・2	89		－	－	－	17前		1032と同一遺構
SK	4686	G	2			144	138	64			1064>4686>1032・4685、4741
統合	4687	F	1・2			－	－	－			1062と同一遺構
SP	4688	G	2			(18)	(14)	25			
SP	4689	G	4			25	19	16			
SP	4690	G	4			32	20	13			
SP	4691	G	4			41	38	39			4449>4691
SP	4692	G	4			(49)	(35)	71	17?		4470>4692
SP	4693	G	4			30	26	10			
SP	4694	G	4			(42)	41	4			4231>4694
SP	4695	G	4		35	46	41	41			4696>4695
SK	4696	G	4			175	172	58			4230>4696>4695
SP	4697	G	4			63	34	31			4288>4697
SP	4698	G	4			28	28	63			4288、4477>4698
SP	4699	G	4			(46)	25	16			4446>4699
SK	4700	G	4			163	(130)	56	17後?		4800>4700>4701
SP	4701	G	4			37	35	66	17前		4700>4701
SK	4702	D	2			165	(87)	104	17前		539・4225・4254、557、977、978・4290、4055、4249、4275、4296、4500>4702
SP	4703	D	2			(78)	46	15			978・4290、4219、4296>4703
SP	4704	D	2			69	53	20	17前		978・4290、4219>4704
SE	4705	G	4	171	70	(97)	(84)	(157)	17前		1211・4426>4705
SE	4706	F	2	171	71	85	83	(94)			4682>4706>4683、4742、4744
SP	4707	G	4			30	26	17			4209、4431>4707
SK	4708	D	2			67	(35)	16	17前?		4038>4708
SK	4709	G	4			156	144	41			4278>4709>4710、4754
SP	4710	G	4			24	(22)	8			4709>4710
SP	4711	G	4			35	35	21			4711>4754
SK	4713	G	4			(165)	(64)	26	17前		
SK	4714	G	4			(159)	(56)	20			
SP	4715	G	4			(37)	(21)	54			4639>4715
SP	4716	G	4			35	34	56			4641>4716
SP	4717	G	4	171		36	26	46			4198、4199>4717
SP	4718	G	4			31	25	41			

Ⅱ－1表　遺構一覧表（42）

種別	遺構No.	面	区	遺構図版	遺物図版	規模			遺物年代	火災	備考
				Ⅲ－@	Ⅳ－@	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)			
SK	4719	G	4			(103)	(49)	17			
SP	4720	G	4			84	47	14			4162>4720
SP	4721	G	4			(41)	(13)	9			
SK	4722	G	4			89	84	36			4666、4723>4722
SK	4723	G	4			89	(87)	12			4666>4723>4722、4724
SK	4724	G	4			(76)	(54)	8	17前?		4723>4724
SK	4725	G	4	171		(92)	(46)	20			
SP	4726	G	4			(44)	(15)	25			
SK	4727	G	4			(123)	(54)	24			
SP	4728	G	4			(70)	55	45			4665>4728>4729
SP	4729	G	4			(41)	(35)	14			4665、4728>4729
SK	4730	G	4			(68)	(24)	7			
SK	4731	G	4			(125)	(62)	39	17前?		4731>4732
SK	4732	G	4			(138)	(77)	33			4731>4732
SP	4733	G	4			(35)	(18)	13			4623>4733
SP	4736	G	4			(36)	35	14			1211・4426、4650>4736
SP	4739	G	4			(40)	37	16			4121、4453>4739
SP	4740	G	4			(62)	(18)	21			4167、4453>4740
SP	4741	G	2			45	(14)	32			4686>4741
SK	4742	F	2			(127)	(85)	62	17?		870・980・4498、4743>4742>4744
SD	4743	F	2	171		(147)	40	27			4743>4553、4742、4744
SD	4744	F	2			(117)	(34)	25			4706、4742、4743>4744
SP	4751	G	4			36	21	51			4621>4751
SP	4752	G	4			(55)	(47)	22			4167>4752
SP	4753	G	4			38	32	34			
SP	4754	G	4			(31)	(18)	23			4709、4711>4754
SP	4755	G	2			(49)	(35)	48			1148・4669・4674>4755
SP	4756	G	4			30	29	12			
SD	4800	B	4			北側 (853) 南側 (788)	北側 55 南側 52	－			

第Ⅲ章　遺構

第１節　確認された遺構の概要

本地点は、南側において近代初頭に行われた前田侯爵邸の邸内整備による地ならし造成および西側道路部分を中心に南北に走る帝国大学時代の埋設管やハンドホールなどライフラインを埋設する際に掘られた設備によって、江戸時代以前の遺構や層は削平を受けていた。

本地点からは、江戸時代御殿建物に関連する遺構が非常に密に確認されている一方、遺物の出土量が東京大学本郷構内の遺跡他地点と比べると極端に少なく、大名江戸藩邸の御殿空間の特徴が窺える。確認された遺構数は2,898基で、縄文時代と推定される３基以外は、全て江戸時代以降に比定される。

前章でも触れたが、最下面ローム面を含めて７枚の遺構検出面が確認され、上面からＡ～Ｇ（ローム）面と命名した。そのうち上位２面（層）は、おおむね調査区全域から確認されたが、特に東側を中心に面の硬化が認められた。確認された遺構・遺物の状況から近代前田侯爵邸の生活面と盛土層と推定された。

Ｃ面は、広域には硬化は認められなかったものの、近代初頭に削平された南端を除く調査区全域から確認されている加賀藩上屋敷時代の盛土層と生活面である。建物基礎遺構、能舞台、瓦積地下室をはじめ、この段階の遺構が最も多い。

Ｄ面は、加賀藩邸下屋敷、道路などに伴う硬化面と盛土層で、その下限は天和２（1682）年である。この面以下は、北側（加賀藩邸）、南側（明暦の大火までは幕臣地）とその間に道路が構築され、エリアによって土地利用が大きく異なっていた。詳細は、第Ⅱ章第３節調査の概要、第Ⅱ章第４節基本層序を参照されたい。遺構の内訳は、地下室19基、塀状遺構143基、井戸15基、土坑・ピット2,293基などであった。

第２節　江戸時代より前の遺構

SK2390（遺構Ⅲ－116図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	G	285	59	70

切合　SK216、SK242･2237、SP2235、SP2238、SP2239>**SK2390**

長楕円形を呈する縄文時代のいわゆるＴピットである。遺構の上部を撹乱されている。確認面は、武蔵野標準層位Ⅲ層下部になるが、遺構の深度が浅く上部が削平されていることが想定される。坑底から壁は、若干開きながら立ち上がっている。覆土は３層に分層される。

遺物は出土していない。

SK3307･3343（遺構Ⅲ－126図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	G	(138)	41	72

切合　SD3133、SP3290、SK3306、SD4800>**SK3307･3343**

長楕円形を呈する縄文時代のいわゆるＴピットである。遺構の南側を大学時代の撹乱、中央を管埋設溝によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。確認面は、武蔵野標準層位Ⅲ層になるが、遺構の深度が浅く上部が削平されていることが想定される。坑底から壁は、若干開きながら立ち上がっている。覆土は３層に分層される。

遺物は出土していない。

SK4036（遺構Ⅲ－130図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	G	138	121	45

切合　SK809、SD1128、SK4004>**SK4036**

ほぼ円形を呈する土坑で、坑底、壁は凹凸を有し、壁は鍋底状の坑底から緩やかに立ち上がっている。覆土は３層に分層され、中央が凹むレンズ状に堆積している。遺構の切り合い、覆土の状況などから縄文時代の遺構と推定される。

遺物は出土していない。

第３節　江戸時代以降の遺構

SB1（遺構Ⅲ－１図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	A	28～42	－	15～49

５区西に位置するピット列である。東西に長軸をもち、南北に３列、東西に５列ピットが確認される。主軸方位はＮ－12°－Ｗを測る。全体の規模は南北に762cm、東西に378cmを測る。各ピットの平面形は隅丸方形で、１辺が約30～40cm、深さは15～50cm、中心に柱痕と思われる円形の硬化部が確認される。柱痕の径は14～16cmである。ピット間隔は心々で東側が約180cm、中央、西側が約360cmを測る。中央部北側および南東中央部に

土坑が確認されているが、本遺構に帰属するものかは不明である。

遺物は明治前半の陶磁器類が出土している。

SB2（遺構Ⅲ−2図、遺物Ⅳ−1図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7·8	A	(835)	763	52

切合　SK2054>SB2

布掘の建物基礎である。平面形は方形を呈しており、主軸方位はN − 12° − Wを測る。西側は撹乱されているため、東側のみコの字状に残存している。幅は約120cm、深さは約50cm、内部は切石や破砕石で充填されている。布掘基礎の内側には、床柱基礎と考えられる切石を敷いた浅いピットが180cm間隔で並んでおり、南北5列、東西は残存する東側に3列確認められる。中央部には基礎石検出レベルより約20cm下から、長方形の切石および方形の石を円形に囲った施設が確認されている。構造から土蔵の基礎と考えられる。

遺物は19世紀中頃から明治にかけての陶磁器類が遺物収納箱2箱分出土している。

SB3（遺構Ⅲ−3図、遺物Ⅳ−1図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	A	44 〜 53	28 〜 33	12 〜 26

5区中央に位置するピット列である。南北に長軸を持ち、主軸方位はN − 12° − Wを測る。全体の規模は南北に1,260cm、各ピットの平面形は隅丸長方形が主体で、土層観察から中央部には幅10 〜 18cmの柱痕が認められる。各ピットの間隔は約180cmを測る。

遺物は、19世紀中頃から明治期にかけての陶磁器類、金属製品が出土している。

SE10（遺構Ⅲ−4図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	A	130	130	(160)

7区北側中央に位置する井戸である。平面形は円形を呈し、西側上部は植栽痕に破壊されている。安全面を考慮し、確認面から深さ1m付近で調査を中止した。

遺物は確認されていない。

SP12（遺構Ⅲ−4図、遺物Ⅳ−1図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3·4	B	44	36	28

ピットである。平面形は楕円形で断面は逆台形状を呈している。覆土は2層に分層される。

遺物は、18世紀末〜19世紀の瓦と碁石が出土している。

SB21（遺構Ⅲ−5図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3·4·6	B	1149	−	−

ピット列である。南北に長軸をもち主軸方位はN − 8° − Wである。確認されているピットは9基で、各ピットの平面形は隅丸長方形、規模は長軸約45cm、短軸約35cm、深さ約60cmのものが主体をなす。各ピットの間隔は心々で約120cmを測る。

SB21−2、3、5、7、9は土層観察で柱痕が確認されている。

遺物は、18 〜 19世紀の陶磁器類が出土している。

SB22（遺構Ⅲ−6図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5・7	B	1277	−	−

切合　SK8>SB22−1

ピット列である。南北に長軸をもち主軸方位はN − 8° − Wを測る。確認されているピットは8基で、ピットの平面形は概ね円形で、規模は長軸35 〜 60cm、短軸30 〜 50cm、深さは約50cmである。各ピットの間隔は心々で約180cmを測る。SB22−1、3、7は土層観察で柱痕が確認される。SB22−5は礫が底部に深くめり込んだ状態で確認されており、上部から強い力が加わったことを窺わせる。

遺物は、18世紀末〜19世紀の陶磁器類が出土している。

SP24（遺構Ⅲ−4図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	B	43	36	48

ピットである。平面形は円形で、断面はU字状を呈する。土層は2層に分層される。1層は焼土、炭を多量に含んでいる。

遺物は、17世紀末の陶磁器類が出土しているが、混入の可能性が高い。

SP26（遺構Ⅲ−4図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	B	40	29	65

ピットである。平面形は円形で、断面はU字状を呈する。土層は単層で、覆土に炭、灰を多く含んでいる。

遺物は、17世紀末の陶磁器類が出土しているが、混入の可能性が高い。

SP33（遺構Ⅲ−7図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	125	108	41

建物基礎遺構である。ピットの平面形はほぼ円形で南側上部を撹乱されている。中央に径約50cmの礫を有しており、礫は底部にめり込んでいる。覆土は2層に分層され、1層は玉砂利を多く含み、1、2層とも非常にしまりが強い。覆土、礫の状態から地固めの根石と考えられる。

遺物は出土していない。

SP34（遺構Ⅲ−7図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	(119)	(88)	(63)

SP33の北に位置する建物基礎遺構である。北側を撹乱されているため平面形は不明である。断面形は鍋底状を呈しており、底部に径20～50cmの礫を多数配している。覆土はSP33と同様に玉砂利を多く含み、非常にしまりが強い。覆土、礫の状態から地固めの根石と考えられる。

遺物は出土していない。

SP58（遺構Ⅲ−7図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	C	126	107	58

建物基礎遺構である。平面形は不整円形で、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に長軸30～60cm大の長方形の切石が5個配されており、覆土には砂利が多く含まれているがしまりは弱い。地固めの根石と考えられる。

年代の特定できる遺物は確認されていない。

SD59（遺構Ⅲ−7図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	(680)	59	17

切合　SP60･439、SK72、SK99>**SD59**>SP437、SP438

東西に主軸をもつ溝である。主軸方位はN－60°－Eを測る。東端はSK72に切られ、西側は撹乱されているため全長は不明である。断面は浅い箱状を呈しており、深さは17cmと浅く、溝底の標高は22.27mである。

年代の特定できる遺物は確認されていない。

SP60・439（遺構Ⅲ−7図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	46	37	46

切合　**SP60･439**>SD59

ピットである。平面形は楕円形、断面形はV字状を呈する。覆土は3層に分層され、2、3層は柱痕と考えられる。

遺物は確認されていない。

SP63（遺構Ⅲ−8図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	34	34	74

ピットである。平面形は正方形で断面形はU字状を呈する。覆土は2層に分層され､粘性･しまりともに弱い。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP66（遺構Ⅲ−8図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	109	(38)	15

建物基礎遺構である。北側を撹乱され全体は窺えないが残存部は半円形、断面形は浅い皿状を呈する。土層は2層に分層され、1層は玉砂利、2層は焼土を含む茶褐色土で非常にしまりが強い。東寄りに底部にめり込んだ人頭大の石が確認されており、地固めの根石と考えられる。

SK72（遺構Ⅲ−8図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	129	(121)	68

切合　**SK72**>SD59

土坑である。平面形は正方形で、断面形は箱状を呈している。確認面からの深さは68cm、覆土は5層に分層され、壁面付近には木枠の痕跡と推定される暗褐色土層（5層）が垂直に堆積しており、内部は水性堆積物を想定させる粘性の強い灰褐色土、その上に円礫や焼土を含む暗褐色土、最上部は焼土、炭化物、瓦を含む褐色土が堆積している。底部には四隅に径30cm、深さ約70cmのピットを有しており、ピットの中心には幅8cmほどの炭化材が認められる。また南側のピットは深さ約10cmの溝で連結されている。覆土の堆積状況と合わせると木杭で木枠を支えている構造が想定される。

西壁には坑底から約50cmの位置に、SD59が接続したような形で確認されており、同時期に機能していたと推定できる。

遺物は19世紀の陶磁器類が遺物収納箱1箱分出土している。

SP82（遺構Ⅲ−8図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	101	87	19

切合　SP82>SK120

ピットである。平面形は隅丸方形、断面形は皿状を呈している。覆土は単層で浅くしまりがない。焼土、炭化物を多く含んでいる。中心に径約 20cmの礫が数点確認されている。

遺物は確認されていない。

SP83（遺構Ⅲ−8 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	91	86	28

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈している。覆土は 2 層に分層され、1 層は砂利主体、2 層は暗褐色土で非常にしまりが強い。内部に一辺約 40cmの礫を複数有しており、礫の下部は硬化している。地固めの根石と考えられる。

年代のわかる遺物は確認されていない。

SK87（遺構Ⅲ −9 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5·6	C	411	(89)	100

切合　SP69、SK85、SD112>SK87

土坑である。平面形は東西に長軸をもつ長方形、断面形は箱状を呈している。主軸はＮ − 79 − Ｅを測る。覆土は 2 層に分層され、焼土、炭が多量に検出された。坑底からは東西に並ぶ方形のピットが 5 基検出されており、東側 2 基は断面に柱痕が確認されている。ピットは本遺構を切る SD112 と平行して並んでおり、底面標高は 21.46m と SD112 に伴うピットと殆ど同じであるため、SD112 に伴うピットである可能性もある。

遺物は、17 〜 19 世紀の陶磁器類が出土している。

SK88（遺構Ⅲ−9 図、遺物Ⅳ − 1 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	136	(130)	99

土坑である。平面形は正方形､断面形は箱状を呈する。規模は 1 辺約 135cm、確認面からの深さ 99cmを測る。東壁に幅 10cm程の浅いテラスを 2 段有している。断面には木枠が観察されており、木枠の規模は 1 辺が約 90cm、深さは残存部で約 60cmを測る。木枠内部には水性堆積物を想定させるシルト質の灰褐色土を主体とする土が、木枠の外部には焼土と大量の砂利が堆積している。底部には 8 基のピットが確認されており、木枠の内側にそって一辺に等間隔で 3 基ずつ配されている。ピットの規模は約 10cm、深さ 50 〜 80cmである。木枠を固定する杭跡と思われる。

遺物は、18 世紀後半の陶磁器類が遺物収納箱 1 箱分出土している。

SP91（遺構Ⅲ−10 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	67	58	54

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形は浅いＵ字状を呈している。底部に人頭大の礫と小礫を配する。地固めの根石と考えられる。

遺物は確認されていない。

SP93（遺構Ⅲ−10 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4·6	C	145	119	50

切合　SK94>SP93

建物基礎遺構である。平面形は隅丸方形、断面形は浅いＵ字状を呈し、覆土は 3 層に分層され、2 層は多量の円礫が含まれる。3 層は一辺 20 〜 50cmの礫を多数含んでいる。底部は平坦であるが礫がめり込んだ痕跡が著しい。また礫の下部は非常に引き締まった黒土で大きな加重がかかっていたことが窺える。地固めの根石と考えられる。遺物は出土していない。

SK99（遺構Ⅲ−10 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5·6	C	212	198	24

切合　SP125>SK99>SP293、SP294、SP296、SD246·3100、SP250−15

土坑である。平面形はドーナツ形、断面形は皿状を呈する。覆土は単層の焼土を多く含む暗茶褐色土でしまりがない。植栽痕と考えられる。

遺物は、18 世紀の陶磁器類が少量出土している。

SK101（遺構Ⅲ−10 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	169	139	47

切合　SK101>SD119、SD246·3100

土坑である。平面形は不整四角形で、断面形は箱状を呈している。坑底には長方形のピットを 2 基有している。西側ピットの規模は長軸約 80cm、短軸約 50cm、深さ約 20cm。東側ピットの規模は長軸 55cm、短軸 40cm、深さ約 50cmを測る。覆土は 17 層に分層され、全体に焼土粒が確認されており、6 層は特に焼土粒が顕著である。

遺物は、被熱した 17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP103（遺構Ⅲ−11図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	122	104	110

切合　SP41>**SP103**>SD119、SD246･3100

SK101の北側に位置する土坑である。平面形は不整方形、底部に方形のピットを有しており、断面形は逆凸状を呈する。覆土は4層に分層され、中央に径約20cmの柱痕が確認される。重複しているSK119との関連は不明である。

遺物は出土していない。

SP111（遺構Ⅲ−11図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	81	72	29

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は浅い鍋底状を呈する。底部中央に一辺50cmの礫を配する。地固めの根石と考えられる。

遺物は出土していない。

SD112（遺構Ⅲ−11図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5･6	C	460	107	97

切合　SP114･3091>**SD112**>SP69、SK85、SK87

溝である。東西に主軸をもち、主軸方位はN − 82° − Eを測る。断面形は箱状を呈しており、溝底には2基単位の方形のピットを6基有している。ピットの規模は1辺約40cm、底部からの深さは約20 〜 30cm、ピット間の距離は心々で180cmである。ピットの覆土は2層に分層され、中央に柱痕が確認される。ピットの底面標高は21.5 〜 21.7mで、南側のSK87の底部で確認されているピットとほぼ同じであるため、同一の機能をもつ遺構の可能性も考えられる。

遺物は、18世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP118（遺構Ⅲ−12図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	59	50	59

切合　**SP118**>SD119

ピットである。平面形は長方形、断面形はU字状を呈する。底部中央に1辺約40cmの礫を有する。覆土は2層に分層され､中央に約10cmの柱痕が確認される(1層)。覆土中には焼土、炭を多量に含んでいる。礎石と考えられる。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SD119（遺構Ⅲ−12図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	(361)	43	33

切合　SK101、SP103、SP118>**SD119**>SD246･3100

溝である。南北に主軸をもち、主軸方位はN − 12° − Wを測る。断面形は浅いU字状を呈しており、覆土は単層で焼土と礫を多量に含んでいる。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SK120（遺構Ⅲ−12図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3･5	C	200	100	40

切合　SP81、SP82>**SK120**>SD247･248

土坑である。平面形は南北に長軸をもつ長方形で、主軸方位はN − 14° − Wを測る。断面形は箱状を呈し、底部東側にピットが2基検出される。ピットの規模は径45cm、坑底からの深さ45cmである。覆土は3層に分層され、1層、3層は焼土を多量に含んでおり、2層は灰褐色土が主体で礫を多量に含んでいる。

遺物は、19世紀中頃の陶磁器類が出土している。

SK129（遺構Ⅲ−12図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	2900	1001	92

切合　**SK129**>SD338、SD339

便所と推定される土坑である。平面形は南北に長軸をもつ長方形で、断面形は箱状を呈している。主軸方位はN − 4° − Wを測る。南側1/3はテラス状に平坦になっており、北側より20cmほど高くなっている。テラスの東南角と北側の一段下がった坑底東南角に、一辺20cmの切石が確認される。坑底は平坦だが、中央には径約60cmの円形の硬化面が2カ所確認される。また坑底東側には明瞭な工具痕がみられる。覆土は13層に分層され、2層および4層からは焼けた瓦が出土している。さらに円形の窪みの上部にあたる6 〜 9層、10 〜 13層中には大量の焼土が認められる。以上の状況から本遺構は火災により廃絶し、内部には上部が開口している円形の容器が存在していたことが推察される。

遺物は、17世紀末に2次的に火熱を受けた陶磁器類が出土している。

SD130、SD131、SD140、SD182、SD230、SD258、SD259、SD261、SD262、SD386
（遺構Ⅲ−13図、遺物Ⅳ − 1図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7･8	C	−	−	−

切合　SB2>**SD130**
SB2、SK252>**SD182**
SP147、SP164、SP225、SP226、SK252>**SD230**
SD261>SD233･2160
SP345>**SD262**
SB2>**SD386**

溝群である。南北に長軸をもつSD131、SD261、SD261と東西に長軸をもつSD140、SD182、SD230、SD258、SD259、SD386が存在する。SD130は南北軸と東西軸を主軸にもつ2本の溝だが、形状、覆土などから同一遺構と理解されている。規模は幅約10cm、深さは15～20cmである。覆土は単層で灰褐色粘土を多く含む褐色土である。各溝間の距離は南北軸のSD261－SD262間、SD130－SD131間は約180cm、東西軸のSD386－SD130、SD182－SD230－SD140間は約150cmである。類似の遺構として8区北に位置するSD390があげられる。

遺物は、18世紀の陶磁器類が出土している。

SK133（遺構Ⅲ－14図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	130	112	100

切合　**SK133**>SK132、SP265、SK267

土坑である。平面形は方形を呈し、断面形は箱状で壁は垂直に立ち上がる。覆土は5層に分層され、褐色土と茶褐色土が縞状に堆積している。

遺物は出土していない。

SU139（遺構Ⅲ－14図、遺物Ⅳ－1、2図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	底部280	底部277	273

切合　SD131、SP141>**SU139**

地下室である。開口部の形状は円形で、垂直に室部につながっている。室部の平面形は方形を呈しており、壁は垂直に立ち上がる。坑底中央に径約60cm、深さ20cmのピットが検出されている。壁と天井部の境に径4cm程の小穴が確認されており、板留のための釘痕の可能性も考えられる。

遺物は、17世紀末の陶磁器、土製品、石製品が遺物収納箱1箱分出土している。

SP151（遺構Ⅲ－14図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	75	72	13

切合　**SP151**>SD246･3100

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は皿状を呈する。覆土は単層で石、砂利を主体としており、しまりが強い。底部に1辺40cmの礫が存在している。地固めの根石と考えられる。

遺物は出土していない。

SP152（遺構Ⅲ－14図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	104	85	15

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。覆土は石、砂利を主体としており、しまりが強い。内部に一辺40cmの礫が4点確認されている。いずれも底部にめり込んでおり、強い力が加わったことを窺わせる。地固めの根石と考えられる。

遺物は、陶磁器類が数点出土しているが、時期は不明である。

SK153（遺構Ⅲ－15図、遺物Ⅳ－2図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	301	84	42

切合　SK201>**SK153**

土坑である。平面形は南北に長軸をもつ長方形、主軸方位はN－2°－Eである。断面形は東側に下がる階段状で、覆土の堆積状況から、上端を共有する2基の土坑と考えられ、西側の土坑が新である。2基とも覆土中には多量の焼土、炭が観察されるため、火災で廃絶した土坑と思われる。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。年代は17世紀か。

SU161（遺構Ⅲ－15図、遺物Ⅳ－3図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	268	(131)	236

切合　**SU161**>SD169･2130

地下室である。東側が撹乱されているため、全体の形状は不明である。遺構の主軸方位はN－5°－Wを測る。遺存している開口部は楕円形を半割にした形で幅110cmの縦坑から南側に室部が接続する。室部床面は南北約200cm、東西は残存値で130cm、天井部までの高さは約100cmを測る。床面、壁面とも工具痕が明瞭である。覆土は全体に焼土、炭化材を含んでいる。3層に多くロームブロックが含まれていることから、火災前後の天井部の崩落土と考えられる。

SU162（遺構Ⅲ−15図、遺物Ⅳ−3図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	306	(131)	246

SU161の北側に位置する地下室である。東側が撹乱されているため、全体の形状は不明である。遺構の主軸方位はN−4°−Eを測る。断面形は袋状を呈しており、南側に階段を有しているが開口部は室部上面に確認されていることから、東へ屈曲する階段の可能性がある。覆土は2層、4層に炭化材を含んでおり、その上に天井部の崩落土と思われるームブロックを主体とする黄褐色土が150cmの厚さで堆積している。

遺物は、17世紀後半と19世紀の陶磁器が出土しており、新しいものは天井部が崩落した際に混入したと推測される。

SD169・2130（遺構Ⅲ−16、17図、遺物Ⅳ−3図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7·8	G	(2160)	76	38

切合　SB2、SD130、SD131、SU161、SK177、SK244、SK240、2SD131、SP2134、SP2135、SP2136、SP2162、SP2164、SP2167、SP2169、SP2170、SK2171、SK2192、SP2403>**SD169·2130**>SU288、SK2411、SK2501

溝である。東西に長軸を持ち、主軸方位はN−86°−Wを測る。断面形は鍋底状を呈している。溝底には概ね150cm間隔でピットが6基検出されている。ピットの形状は楕円形で長径60cm、深さは25cmである。覆土はローム粒を含む褐色土が主体で、東側では焼土、炭化物が観察される。

遺物は出土していない。

SP174（遺構Ⅲ−18図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	(573)	−	−

切合　**SP174−1**>SK175、SD339
SP174−2>SU210·3095
SP174−3>SU210·3095

ピット列である。南北に4基確認されており、最も北側のSP174−4は北半分を撹乱されている。各ピットの平面形は四角形で、SP174−1〜3の規模は一辺35〜60cm、確認面からの深さは約40〜50cm、SP174−4は残存部で東西61cm、南北29cm、確認面からの深さ15cmである。ピットの間隔は心々で約180cmを測る。覆土は焼土と灰を含んでおり、中心に幅約10cmの柱痕がみられる。火災で廃絶した柱穴列と考えられる。

遺物は、SP174−4から被熱した17世紀後半の陶磁器類が出土している

SK195（遺構Ⅲ−18図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7·8	G	(110)	(41)	92

土坑である。南北を撹乱されているため、平面形は不明である。断面形はU字状を呈しており、覆土は4層に分層される。底部は工具痕が明瞭に残っている。

遺物は出土していない。

SE196（遺構Ⅲ−18図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	277	252	(200)

切合　SD130、SP137>**SE196**

井戸である。井戸本体の平面形は円形で、周囲に隅丸方形の掘方があり、掘方の坑底には井桁の溝が確認されている。掘方の規模は一辺約260cm、深さは70cm、井戸本体の直径は約140cm、井戸の壁は垂直に立ち上がる。確認面より2m掘り下げたところで、安全のため調査を中止した。井戸本体の覆土は焼土、炭を多量に含む暗茶褐色土で覆われており、掘方内の井戸本体脇には柱痕と思われる垂直に堆積する層（6層）が確認される。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP207（遺構Ⅲ−19図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	(40)	(30)	14

ピットである。南側はSK203と重複しているため全体の形状は不明である。覆土は単層の黄褐色土でしまりが強い。

遺物は、陶磁器類が少量出土しているが、年代は不明である。

SK209（遺構Ⅲ−19図、遺物Ⅳ−3、4）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	548	184	85

切合　**SK209**>SD338、SD339

土坑である。南西側一部が撹乱されている。平面形は東西に長軸をもつ長方形で、主軸方位はN−90°−Eを測る。壁は垂直に立ち上がり、断面形は階段状を呈している。覆土中にみられる木枠の痕跡から南北に2基の木枠を伴う構造物が設置されていたことがわかる。北側中央やや西よりに分離帯が見られるため、東西に2基、

南側に1基の合計3基の構造物が存在したと考えられる。坑底には2個1組の杭跡が70cm間隔で検出されており、木枠を支えた杭痕と考えられる。杭痕は一辺約6cm、深さは約40cmである。工具痕が明瞭に残っている。覆土は14層に分層され、全体的に焼土、炭を含んでいる。火災で廃絶した収蔵施設か。

遺物は、17世紀末から18世紀の陶磁器、釘、瓦が出土している。

SU210・3095（遺構Ⅲ−20、21図、遺物Ⅳ−5〜14図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5・6	C	445 作り替え 550	279 入口部 473	257

切合　SK174−2、SK174−3、SK175、SP186、SP309、SP310、SP311>**SU210・3095**>SP224−3、SK451、SK452、SK453

四方壁面が瓦積みされた地下室で、東西方向に長軸を有す長方形の室部と、不整楕円形部分からなる（Ⅲ−20図上）。この不整楕円形部分は土層観察（aライン）で北辺の瓦積みを壊す状況が確認されており、廃絶段階はSU210・3095と同時であるが、本来はSU210・3095とは別遺構である可能性が高い。室部内側の壁面には40段以上の平瓦が側面を内側に向け、瓦壁面が逆台形を呈すように積まれ、その直下の坑底には硬化面が検出された。室部覆土の上位1/3（b、cライン1〜5層）はローム粒やブロック、礫などを多く含むしまりの弱い層が、それより下位（6層以下）はほぼ焼瓦で埋められている状況が観察された。壁面の瓦積みの状況を確認すると、南壁面よりやや内側に東西壁面が、東西壁面のやや内側に北壁面が位置する状況であったことから、南壁、東西壁、北壁の順に構築された事が推測された（模式図）。瓦は完形の平瓦1枚に縦に分割した平瓦2枚を1単位として裏込めを入れ、積まれていることが明らかとなった。さらに裏込めも分割した平瓦を並べる際にはローム土、暗褐色土を主体とする暗黄褐色土を、完形の平瓦を並べる際には割れた瓦を敷き詰めるという違いがあることが確認された。掘方坑底の硬化面は、北東隅と西、南壁面に沿って犬走り状には認められず（Ⅲ−21図上、硬化面範囲）、掘方坑底から15〜20cm版築状に盛土、構築された面であることが明らかとなった。また掘方の西側立ち上がりは、南西隅で30cm程内側に入り込み、瓦積み壁面から約160cmほど西側にさらに拡がっており、坑底には方形の柱穴が検出された（Ⅲ−21図下、柱穴検出状況）。柱穴の坑底には根石と思われる割石が確認されたものが多いが、硬化面下検出の柱穴と西側坑底で検出された柱穴は規模が異なり、西側の方が一回りほど小さく、浅い。硬化面下検出の柱穴は室部掘方坑底より10cmほど低い位置で検出され、また、硬化面上で部分的に検出されていた板材の痕跡は、この柱穴列に平行して検出されており、柱穴列はこの板材を支える柱であったと推測された。北側柱穴列の東側3基は西側柱筋より少し南側に位置し、これら3基の柱穴を取り囲むような掘り込みも確認された。

以上のような状況から本遺構は規模を変更し、板または木組から瓦積みに作り替え行われた事が推測された。なお柱穴の構造や数の多さから瓦積みの地下室の前身は、地下構造を有す蔵のような建物であった可能性も考えられる。

出土遺物の大半は、遺物図版にも提示した瓦であるが、陶磁器は見込みに型押しした瀬戸・美濃（JC）の磁器皿や紐状把手がついた山水土瓶などの19世紀中葉に比定される陶磁器類が出土している。これら遺物の年代観から覆土中に確認された焼土は慶應4（1868）年の火災に伴うものであろう。

SX211（遺構Ⅲ−22図、遺物Ⅳ−14図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	C	172	159	117

切合　SP1303>**SX211**>SD337

石組遺構である。平面形は正方形、断面形は逆凸状を呈する。主軸方位はN−8°−Eを測る。掘方内側には1辺30〜40cmの切石を2〜4段枡状に積んでいる。石組みの高さは60〜80cmである。切石は平坦面を内側に揃えており、石組みの内側中央を1辺約70cmの正方形に掘り窪めている。石組み内の覆土はシルト質の灰色土で水性堆積物の存在を窺わせる。全体に焼土と炭が多量に含まれており、火災で廃絶したと考えられる。類似遺構に竹橋門遺跡の第1号石組み遺構があり、第1号石組みは絵図との比較から便所遺構とされている。

遺物は、18世紀後半の陶磁器類、金属製品が出土している。

SK212（遺構Ⅲ−22図、遺物Ⅳ−14図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	C	164	128	26

切合　**SK212**>SD320、SD376

焼土溜である。平面形は不整方形、断面形は皿状を呈する。覆土はほぼ焼土と炭化物で構成されている。

遺物は、被熱したかわらけが出土している。

SK213（遺構Ⅲ−22図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	C	150	95	19

切合　**SK213**>SD320、SD376

SK212と同じ形状の焼土溜である。平面形は不整方形、断面形は皿状を呈する。覆土はほぼ焼土と炭化物で構成されている。

遺物は出土していない。

SK216（遺構Ⅲ−22図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5·6	C	341	311	52

切合　SK242·2237、SK243>**SK216**>SB374·2236−2、SB375·2236−3

土坑である。西側を撹乱されている。平面形は円形、断面形は逆台形状を呈する。植栽痕か。

遺物は、18世紀の陶磁器類が出土している。

SP221、SP222、SP223、SP253、SP342、SP343、SP2184、SP2421、SP2438、SP2471
（遺構Ⅲ−23、24図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7・8	G	−	−	−

切合　SD259>**SP342**
SU2091>**SP2184**
SP2437>**SP2438**
SD2096>**SP2471**

ピット列である。調査区の東西を縦断し調査区外へ延びる。ピット列の長さは22.3m、主軸方位はN−90°−Eを測る。確認されているピットは10基で、各ピットの平面形は円形、規模は径約40cm、深さは50〜70cm、ピット間の距離は約180cmである。

遺物は出土していない。

SP224（遺構Ⅲ−25図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5・6	C	(634)	−	−

ピット列である。東西方向に4基確認されており、主軸方位はN−82°−Eである。各ピットの平面形は四角形、規模は1辺60〜100cm、確認面からの深さは50〜70cm、ピット間の距離は心々で約200cmである。SP224−1では柱痕が確認されている。

遺物は、SP224−4から17〜19世紀の陶磁器が確認されている。

SP227（遺構Ⅲ−26図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	C	132	104	58

切合　**SP227**>SP287

ピットである。平面形は不整楕円形、断面形はU字状を呈している。中央に柱痕が確認されている。柱痕の径は約10cmである。

遺物は出土していない。

SD233・2160（遺構Ⅲ−27図、遺物Ⅳ−15図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7·8	C	(2040)	266	32

切合　SB2、SK57、SP277、SU279、SP318、SK387、SK405、SK2054、SD2096、SP2133、SK2173、SD2195>**SD233·2160**>SD261、SD262

溝である。調査区南側を東西に横断しており、主軸方位はN−83°−Eを測る。ローム直上で確認されており、断面形は皿状を呈している。中央部から西側は大学時代の管理設備などに破壊されており、遺存状態は悪い。覆土は3層に分層され、全体的に焼土、円礫を含んでいる。

遺物は、17世紀から19世紀の陶磁器類が少量出土している。

SD235・2201（遺構Ⅲ−28、29図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7·8	D	(2089)	(128)	52

切合　SE10、SE2053、SD2096、SP2209、SK2251、SP2255、SP2332>**SD235·2201**>SK393、SK2182

溝である。東西に長軸をもち、主軸方位はN−90°−Eを測る。北側には同様の主軸をもつSD236・2095・3021が平行して走る。この両溝とSD246・3100の間は非常に硬化した面が確認されている。断面形は箱状で、溝底は平坦で壁は比較的垂直に立ち上がる。北側の溝底には東西に並ぶピットが6基検出されている。ピットの径は約30cm、深さは30〜40cm、ピット間の距離は心々で180cmである。覆土は4層に分層され、北側に60cm程の幅で破砕礫と砂利を多量に含む暗褐色土が溝状に堆積している。

遺物は、17世紀前半の陶磁類が少量出土している。

SD236·2095·3021（遺構Ⅲ−28、29図、遺物Ⅳ−15図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5·6·7·8	D	(2678)	300	45

切合　SE10、SK237、SD386、SD2058、SP2094、

SK2097·3082、SP2207、SP2208、SK2211、SP2246、SK2247、SP2248、SP2249、SP2250、SK2251、SP2252、SP2253、SP2354、SK2457>**SD236·2095·3021**>SD377、SK379、SK380、SK381、SK382、SK383、SK384、SK2210、SP2370、SP2373、SD2374·3165

調査区を東西に貫く溝である。主軸方位はＮ－86°－Ｗである。遺構の東側一部を大学時代の樹木の移植坑、西側一部を管埋設溝によって削平されている。溝には石が全体的に確認され、本来は石組溝であったと推定できるが、廃棄時に石を抜去したために使用時の様子は復元できない。石は、溝底付近から検出されている安山岩の剥片礫と坑底から 20 ～ 30cm 浮いた状態で溝北側に 2 列に並べられている方形あるいは長方形の凝灰岩の平石が確認されている。凝灰岩の切石は、北側が東西方向、南側が南北に長軸を持つように配されていたが、南側列の石の多くは南半が切断されている状態であった。これらはその配置から溝の底石として機能していたと推定されるが、廃絶時に石の南側を切断して抜去したものと考えられる。一方、溝底付近には間知石積みの後込めに多く利用される調整時に出される薄い剥片が多く確認された。これら 2 つの溝は、土層の観察から安山岩の石を用いた溝を新たに凝灰岩切石を用いた石組溝に作り替えた可能性もある。断面形は箱状を呈しており、溝底は平坦で壁は比較的垂直に立ち上がる。溝底中央にはピットが 6 基検出されている。各ピットの平面形は円形で径は約 30㎝、深さは 30 ～ 40㎝、ピット間の距離は心々で約 250㎝である。柱痕は確認されていない。切石表面の高さは概ね 21.9m である。

遺物は、17 世紀後半の陶器、土器、金属製品、瓦が出土している。

SK237（遺構Ⅲ－26 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	D	(170)	(63)	92

切合　**SK237**>SD376、SD377

方形を呈すると推定される土坑である。遺構の東側を大学の共同溝埋設溝によって遺構の過半が削平され、全体の様子は復元できない。壁や坑底は凹凸が激しく、平刃の工具痕が明瞭に観察される。壁は坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 3 層に分層され､最下層（3 層）には灰褐色粘土が多く混入している。

遺物は出土していない。

SK244（遺構Ⅲ－26 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	C	234	193	50

切合　SB2、SP190、SK191>**SK244**>SK252

円形を呈する土坑である。壁や坑底は凹凸が確認され、壁は坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 3 層に分層される。しまりが強い 1 層、2' 層は上層に構築された SB2 基礎の転圧によるものと判断される。

遺物は、17 世紀中葉から 19 世紀中葉の陶磁器が少量出土している。

SD246·3100（遺構Ⅲ－30､31 図､遺物Ⅳ－ 15 ～ 21 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5·6	D	(2484)	319	93.5

切合　SP41、SK99、SK101、SP103、SP107、SP108、SP109、SP110、SD119、SP125、SP126、SP144、SP151、SP194、SP250－10、SP250－11、SU251、SK322、SX324·3119、SK3011、SK3023、SK3029、SP3041、SP3042、SK3061、SK3062、SP3064、SK3065、SK3071、SP3090、SK3168、SK3169、SK3171、SK3190>**SD246·3100**

調査区を東西に横断する溝である。主軸方位はＮ－85°－Ｗである。溝内には安山岩製の間知石とその剥片、長方形の平石などが多く確認されており、本来は間知石を用いた石組み溝として機能していたと考えられる。本溝北側には長屋構造の基礎と門と推定できる硬化面（SB250）が､南側には北側より一段下がって硬化面（D 面）が SD236・2095・3021 までの約 20m 間で確認されている。本遺構を含めてこれらの遺構や面の上面には焼土が数～ 10 数 cm 厚さで被っており（Ⅲ－ 31 図）、これらの遺構､面は同時期に機能していたと推定している。切石上面の標高は 21.9 ～ 22.1m である。溝は中央が一段低く、南側に約 50 ～ 60cm 高い位置に幅 50 ～ 60cm の段を有している。また、北側にも幅 30cm 程度の小さいテラス状の段が確認されたが、遺構廃棄時に行われたと推定される石の抜去によって、本来の構造の復元が困難になっている。溝底中央には約 30cm の深さの円形のくぼみが連続して検出されている。覆土は上層に焼土が多量に含まれる層（1 層とその上層、6 層）が確認されている。以上の点より、本遺構は屋敷境の石組溝で、北側に加賀藩邸、南側には門の前の道であろうと推定された。

SD247・248（遺構Ⅲ−32図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3·5	D	南北方向 (500) 東西方向 (740)	南北方向 (103) 東西方向 (112)	南北方向 32 東西方向 24

切合　SK4、SD59、SK72、SK85、SK86、SP89、SP98、SK120>**SD247·248**>SP250−2、SP250−3、SP250−4

溝である。東西方向に主軸をもつ溝の中央に、南北方向に主軸をもつ溝が接続してT字状を呈している。少なくとも廃棄は同時期である。溝の主軸は東西がN−88°−E、南北はN−2°−Eを測る。断面形は浅いU字状である。覆土は10〜25cmの礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SB250（遺構Ⅲ−33〜35図、遺物Ⅳ−21、22図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5·6	D	(13000)	(540)	85

切合　SP127、SP128、SD247·248、SK430、SP433、SP434>**SB250−2**
SD59、SP128、SD247·248、SP436>**SB250−3**
SD59、SP60·439、SP61·62>**SB250−4**
SP31、SK85>**SB250−6**
SK85、SK86>**SB250−7**
SP122、SP123、**SB250−12**、SP425、SP426、SP427、SP428、SP429、SK430>**SB250−8**
SP97、SD119>**SB250−9**>437
SP104、SP105、SP106、SP107、SP124、SD246·3100>**SB250−10**
SP108、SP109、SP110、SD121、SP122、SP123、SD246·3100、**SP250−12**>**SB250−11**
SD121、SP122、SP123、SP425、SP426>**SB250−12**>**SB250−8**、**SB250−11**

建物基礎遺構と思われるピット列である。東西3列、南北2列で計14基のピットが確認されている。主軸方位は東西にN−87°−Wを測る。SB250−1〜4、9、13は中央にほぼ正方形の石を配しており、SB250−2〜5、SB250−1〜10の礎石間をつなぐように15×90cmの長方形の石が確認される。また検出面全体は天和2（1682）年の火災に伴うと思われる数cmの焼土に覆われ、SB250−1、2とSB250−10、11間には長さ2.3mの炭化した板材が検出されている。ピット列に関連する施設の木材と考えられる。SB250−1と10を結んだラインより東側は強固な硬化面が認められた。覆土は非常に硬化しており、破砕礫を多量に含んでいる。ピット内の石には相当な転圧がかかっていたことが推察されることから、おそらく当遺構は藩邸の門跡とそれに連続する長屋塀であったと考えられる。

SB250−1の礎石の形状は、上面が正方形で1辺60cm、高さは50cmで、上面から約10cm下がった位置に幅10cmの段を持つ。この段の上にピット間の石をつなぐ縁石が乗っている状態で検出されている。石は平坦面を上に向け、縁石外側は丁寧に石を方形に整えているが、内側の調整は明らかに粗雑である。

遺物は、17世紀後半の被熱した陶磁器が遺物収納箱1箱分出土している。SD246、SP97、SK102、SB118、SD119と接合がみられる

SU251（遺構Ⅲ−36図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	C	316	226	29.5

切合　SP144>**SU251**>SD246·3100

地下室である。開口部は平面形が長方形を呈する土坑状の付帯施設が伴っている。土坑状の施設は長軸（東西）295cm、短軸（南北）225cm、深さ最大60cmを計測する。地下室入口はこの施設南壁を共有し、南北方向に室部を作っている。南北に井桁状の枠の痕跡が確認された。室部は南北に主軸を持つ長方形を呈し、規模は底部で長軸316cm、短軸226cm、確認面からの深さ292cmを測る。底部中央部に深さ10cm程のピットが検出されている。断面形は袋状を呈しており、北側は天井部までの高さが45cm、南側は48cmである。坑底、壁には明瞭な平刃の工具痕が残る。覆土は全体的に焼土と礫を多く含んでおり、天井部は一部崩落している。火災により廃絶した地下室と考えられる。

遺物は、17世紀後半から18世紀前半の陶磁器類、瓦などが遺物収納箱1箱出土している。

SP254（遺構Ⅲ−26図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	C	130	102	25

ピットである。平面形は方形、断面形は鍋底状を呈する。内部に礫はないが、坑底にめり込んだ石痕がみられるため、建物基礎遺構と考えられる。

遺物は出土していない。

SD260（遺構Ⅲ−37図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	316	61	55

切合　SD130、SP178、SK179、SP181>**SD260**

溝である。東西に長軸をもち、主軸方位はＮ－84°－Ｅを測る。断面形は箱状を呈しており、溝底は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。西南壁よりと東壁際に方形のピットを有しており、ピットの規模は一辺約20cm、深さは約20cmである。東に向かってゆるやかに傾斜している。覆土の上部はほぼ焼土で構成されており、火災で廃棄された溝と考えられる。

遺物は出土していない。

SD269・2315（遺構Ⅲ－37図、遺物Ⅳ－22図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7･8	G	(571)	104	60

切合　SP147、SK166、SP228、SK252、SD2168、SP2314>**SD269･2315**>SP285、SP286、SK2047

東西に長軸をもつ溝である。断面形は箱状を呈しており、溝底の壁際には小ピットが数基確認される。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物は17世紀後半の陶磁器片とキセルが1点出土している。

SP277（遺構Ⅲ－37図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	C	155	117	38

切合　**SP277**>233･2160

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は皿状を呈する。内部には一辺10～30cmの割石が多数確認されている。覆土は単層で瓦片、礫片を含み、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SU279（遺構Ⅲ－38図、遺物Ⅳ－22、23図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7･8	G	床450	340	236

切合　SB2、SP227、SD233･2160、SU280、SK418>**SU279**

地下室である。平面形は南北に長軸を持つカギ形で、主軸方位はＮ－4°－Ｅを測る。南東隅にはテラスがあり、規模は1辺70cm、高さ約25cmを測る。坑底は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。坑底と壁面には工具痕が明瞭に残っている。SU279の覆土は10層に分層されるが、ほぼロームで構成されている。10層は坑底から90cm堆積しており、天井部の崩落土と思われる。SP287と重複する西側上層では強い転圧のため土層が大きく褶曲している。北西隅で切り合うSU280の西壁と東壁には80cm間隔でピットが5基検出されている。SU279とSU280の境にのみピットがあることから、SU280を掘り進める段階で既に廃絶していたSU279にぶつかり、土留めの処理のため壁を構築した際のピットである可能性が考えられる。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SU280（遺構Ⅲ－38図、遺物Ⅳ－24、25図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7･8	G	床209	179	242

切合　SK391、SD2185>**SU280**>SU279

平面形方形を呈する地下室である。当初にSU279と同一遺構と判断して調査を開始したことから土層の観察が十分に行えなかった。遺構の東、南側でSU279と重複しているが、重複部分の土留め構造からSU279構築時には埋められた本遺構の場所情報が伝達されていなかったと判断される。坑底はSU279より15cm程低く作られているが、重複部分には土留め板を支える杭穴と思われる径15～35cmの4基の小ピットが壁面外周を巡っている。坑底から壁面は垂直に立ち上がっているが、壁面には工具痕が明瞭に残っている。

遺物は、内ぐもりのかわらけ、瓦、金属製品のほか17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SU281（遺構Ⅲ－39図、遺物Ⅳ－25、26図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7･8	G	210	156	182

切合　SB2>**SU281**

SU279の南側に位置する地下室である。坑底平面形は南北に長軸をもつ長方形で、主軸方位はＮ－4°－Ｅを測る。上部は削平されているため開口部の形状は不明である。断面形は箱状を呈しており、坑底は平坦で壁は垂直に立ち上がる。坑底及び壁面下部は工具痕が著しい。覆土は8層に分層され、5層は破砕瓦を多量に含んでいる。南側に厚さ10cm程の壁を隔てSU288と接している。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が遺物収納箱2箱分出土している。

SP283（遺構Ⅲ－39図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7･8	G	(64)	(54)	65

切合　SD140、SK268、SP282>**SP283**

ピットである。平面形は円形で、断面形はＵ字状を呈している。覆土は4層に分層されるが、いずれもしまりがない。

遺物は出土していない。

SP285（遺構Ⅲ−39図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7	G	60	58	65

切合　SB2、SK166、SD269·2315>**SP285**

ピットである。平面形は隅丸方形、断面形はU字状を呈している。本ピットの西側には形態、覆土の状況が近似したSP286があり、ピット間の距離は心々で約180cm、主軸方位はN−89°−Wである。2基は覆土中に焼土、礫を多量に含んでおり、火災により廃絶した遺構と考えられる。

遺物は出土していない。

SP286（遺構Ⅲ−39図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	60	49	80

切合　SD182、SD269·2315>**SP286**

隅丸長方形を呈するピットである。断面形はU字状を呈している。本ピットの東側には形態、覆土の状況が近似したSP255があり、両ビット間の距離は心々で約180cm、主軸はN−89°−Wである。2基は覆土中に焼土、礫を多量に含んでおり、火災により廃絶した遺構と考えられる。

遺物は出土していない。

SP287（遺構Ⅲ−40図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7·8	C	157	(79)	80

切合　SP227>**SP287**

ピットである。当初本遺構を確認できず、切り合っているSU279に合わせて北半分を調査したために、平面形は不明である。断面形はU字状を呈している。中央に3段切石を積み重ねている。石は最大一辺約40cmを測る。底部は石がめり込んでおり、転圧がかかっていたことを窺わせる。覆土は2層に分層され、礫を多量に含みしまりが強い。建物基礎遺構と考えられる。

遺物は出土していない。

SU288（遺構Ⅲ−39図、遺物Ⅳ−27図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
7·8	G	185	(175)	153

切合　SD169·2130、SU240>**SU288**

SU281の南側に位置する地下室である。SU281とは10cm隔てて近接している。長方形の入口部の南側に10cmほど上がり半円形の入口部が接続している。規模は北側長方形の入口部が南北約80cm、東西120cm、南側半円形の室部が東西140cm、南北80cmを測る。長方形の入口部坑底は平坦で西端に径7cmのピットが1基確認される。昇降施設の痕跡か。壁は垂直に立ち上がる。半円形の室部坑底は凹凸があり、奥に行くほど工具痕が目立つ。壁は坑底西側に40cm程ハングしながら立ち上がる。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SX299・3075（遺構Ⅲ−40図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C〜D	(247)	(66)	−

礫群である。一辺10〜16cmの礫の集中が2カ所認められる。集中範囲は西側が60cm×30cm、東側が40×30cm、確認レベルは22.48〜22.40mを測る。掘方は確認されていない。

遺物は出土していない。

SP300、SP302、SP303、SP333、SP334、SP353、SP354、SP368、SP369（遺構Ⅲ−41、42図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	D	−	−	−

切合　**SP300**>**SP303**
　　SP300>**SP303**
　　SP155>**SP353**
　　SU210·3095>**SP369**

ピット列である。東西方向に9基確認されており、確認されている長さは840cm、主軸方位はN−87°−Wを測る。各ピットの平面形は円形、規模は一辺約40cm、深さは10〜30cmで柱痕は確認されていない。ピット列の80cm程北に同軸のSD337が並ぶが、ピット列との関係は不明である。

遺物は出土していない。

SP301（遺構Ⅲ−40図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	E	56	45	78

ピットである。平面形は方形で断面形は漏斗状である。中央に柱痕が確認され、深さは70cmを測る。

遺物は出土していない。

SP306（遺構Ⅲ−40図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	E	30	26	56

ピットである。平面形は方形で断面形はU字状であ

る。中央に柱痕が確認される。

遺物は出土していない

SP318（遺構Ⅲ−43 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	C	158	(144)	33

切合　**SP318**>SD233·2160、SK405

建物基礎遺構である。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈している。ローム直上で検出されたため、遺存状態は悪い。覆土は礫を含み、非常にしまりが強い。南側に調査区を横断して走る SD233・2160 と接している。

遺物は出土していない。

SD319、SD320、SD326、SD327、SD328、SD376（遺構Ⅲ−44 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5·6·7	D	−	−	−

切合　SK202、SK203、SP204、SP205、
SP2241>**SD319**
SK212、SK213、SP2244>**SD320**
SP22、SK202、SK203>**SD326**
SK203>**SD327**
SK202、SK203、SP325>**SD328**
SK212、SK213、SK237>**SD376**

溝群である。東西に主軸を持ち、東端は調査区外へ伸びる。西側はⅡ次調査区へ続くが、Ⅱ次調査では明確に確認できなかった。溝の幅は概ね 20 ～ 30㎝、深さは 15 ㎝、主軸方位は N−87°−W を測る。覆土は単層で、円礫を含む褐色土、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SX324・3119（遺構Ⅲ−43 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	D	(331)	(93)	−

切合　SP194、SK3166、SK3167、SK3168、
SK3169>**SX324·3119**>SD246·3100

石敷遺構である。石敷きが確認された範囲は南北約 300㎝、東西約 90㎝で、南北に正方形と長方形の切石を交互に並べている。石の規模は正方形の石が一辺 60 ㎝、長方形の石が 80 × 30㎝、主軸方位は N−6°−W を測る。長方形の石の表面はスダレとよばれる加工痕が見られるものや、両端に溝が切り込まれたものなど様々で、廃棄された石の転用が考えられる。石敷上西側には 3 個の間知石が検出された。これらが原位置であるか明確ではないが、敷石も斜方向に調整しているものもあり、カーブをもつ溝状遺構の可能性もある。D 面で確認されたが、主軸方位は C 面の遺構と同じであるため、C 面の遺構の可能性がある。

遺物は出土していない。

SD337（遺構Ⅲ−41、42 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5·6	D	(1230)	35	16

切合　SK153、SU210·3095、SX211、SP224−1、
SP224−2、351>**SD337**

東西方向に主軸をもつ溝である。SK153、SK211、SK224−1、SU210 に切られており、東は北側へ曲がりながら調査区外へ伸びる。主軸方位は N−89°−W を測る。断面形は皿状で、覆土には砂利、焼土を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SD338（遺構Ⅲ−41、42 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	D	(869)	39	12

切合　SK129、SK209>**SD338**

溝である。東西方向に主軸をもち、SK129 と SK209 に切られており東は調査区外へ伸びる。主軸方位は N−82°−W を測る。断面形は皿状で、覆土には瓦、礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SD339（遺構Ⅲ−41、42 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5·6	D	(1186)	45	11

切合　SK129、SK174 − 1、SK175、SP208、
SK209>**SD339**>SK452、SK453

東西方向に主軸をもつ溝で、東は調査区外へ伸びる。主軸方位は N−87°−W を測る。断面形は皿状で、覆土には砂利を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP345（遺構Ⅲ−43 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	C	77	62	18

切合　**SP345**>SD262

建物基礎遺構である。南側は東西南北に走る溝の一つである SD262 に接している。平面形は円形で、断面形は皿状を呈している。内部には角礫を多数含み、覆土はしまりが非常に強い。

遺物は出土していない。

SK347（遺構Ⅲ−43 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	E	165	116	123

切合　**SK347**>SP355、SD1128、SD4031

土坑である。平面形は楕円形、断面形は逆台形状を呈する。覆土は全体的にロームブロックを多量に含んでおり、しまりがない。

遺物は出土していない。

SP356（遺構Ⅲ−43 図、遺物Ⅳ− 27 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	E	48	34	18

切合　**SP356**>SD4031

ピットである。平面形は不整楕円形、断面形は箱状を呈する。

遺物は、新寛永通宝の文銭が出土している。

SP373·2236−1、SP374·2236 − 2、SP375·2236 −3、SP2235、SP2241、SP2242、SP2244、SP2245、SP2246、SP2247、SP2248、SP2249、SP2250、SP2252、SP2328、SP2329、SP2330·2331、SP2332

（遺構Ⅲ−111、112 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6·8	−	−	−	−

切合　**SP373·2236 − 1**>SD340

N − 10° − E を主軸を有する 2 列に南北に並ぶピット列である。東側列が 11 群 12 基、西側列が 7 群 8 基確認されているが、西側列の 8 基目以降は、大学時代の管埋設溝によって削平されている。ピットは約 1 間（180cm）間隔にあり、東と西列間は約 70cm である。ピットのいくつかは 10cm 程度の柱痕が確認され、また、坑底のレベルもおおむね 20.8m 程度で揃っていることなどから、板塀などの施設の柱として機能していたと推定される。

遺物は、SP2242、SP2246、SP2247 が 17 世紀後半、SP2248 が 17 世紀末の陶磁器類がそれぞれ少量出土している。

SP395（遺構Ⅲ−45 図、遺物Ⅳ− 27 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3·4	E	74	71	80

ピットである。平面形は円形で、断面形は逆台形状を呈する。覆土は 3 層に分層され、断面中央に柱痕が確認されている。

遺物は、キセルが出土している。

SP413（遺構Ⅲ−45 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3·4	C	82	73	23

切合　**SP413**>SP414

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は鍋底状を呈する。内部には人頭大の礫を複数有している。覆土は 2 層に分層され、非常にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP424、SP429、SP437、SP438、SP443

（遺構Ⅲ−45 図、遺物Ⅳ−27 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	D	69	68	60

切合　**SP424**>SP250

SP429>SP250−8

SD59、SP96>**SP437**>SP250−9

SD59>**SP438**

SP436−1、SP436−2>**SP443**

ピット列である。東西に並ぶピット列で主軸は N−86°−W を測る。各ピットの平面形はほぼ円形で、規模は径 54 ～ 76cm、確認面からの深さは 31 ～ 50cm、ピット間の距離は心々で約 180cmを測る。覆土中には炭化物、瓦、焼土が含まれ、SP437 の断面中央には柱痕が確認されている。

遺物は、SP437 から陶磁器類が出土している。

SK430（遺構Ⅲ−46 図、遺物Ⅳ− 27 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
5	D	82	58	26

切合　SP128、SP250−2、SP250−8>**SK430**

土坑である。平面形は東西に長軸をもつ楕円形、断面形は浅い U 字状を呈する。西側が 10cmほど高くテラス状になっている。覆土はシルト質の灰色土が主体である。

遺物は、19 世紀の陶磁器類が遺物収納箱 1 箱分出土している。

SD444（遺構Ⅲ−46 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3·5	F	624	70	92

切合　SP440、SK447>**SD444**>SP636、SP687、SD1128

溝である。南北に主軸をもち、主軸方位は N−6° E

を測る。断面形はU字状を呈しており、坑底は平坦で壁は垂直に立ち上がる。覆土は2層に分層され、ロームブロックを主体としている。

遺物は出土していない。

SK455（遺構Ⅲ−46図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5	F	98	93	93

切合　SK88、SP357>**SK455**>SK641、SP645

SD444の東側に位置する土坑である。平面形は方形で、断面形はU字状を呈する。坑底は凹凸が少なく壁はほぼ垂直に立ち上がる。SK455の北に形状、規模、深さが近似しているSK456、SK457とが並んでおり、主軸方位はSD444と同様のN−6°−Eを測る。各ピット間の距離は140〜160㎝である。

遺物は出土していない。

SK456（遺構Ⅲ−46図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3･5	F	83	68	28

切合　SK88>**SK456**

土坑である。形状、規模がSK455、SK457と近似しており、一連のピット列の可能性がある。

遺物は出土していない。

SK457（遺構Ⅲ−46図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	F	106	81	100

土坑である。形状、規模がSK455、SK456と近似しており、一連のピット列の可能性がある。

遺物は出土していない。

SK464（遺構Ⅲ−47図、遺物Ⅳ−27図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1･2	C	330	313	54

切合　**SK464**>SP531、SP578、SP701、SK957

土坑である。平面形は円形、断面形は凸状を呈している。底部は凹凸があり、壁は比較的垂直に立ち上がる。内部に拳大の礫が多数確認されている。

遺物は確認されていない。

SK465（遺構Ⅲ−47図、遺物Ⅳ−27〜32図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	A〜B	157	136	88

切合　**SK465**>SP469、SK585、SK623

土坑である。平面形は長方形、断面形はV字状で、底部、壁ともに凹凸が激しい。覆土は3層に分層され、いずれもしまりがない。

遺物は、3層から近代の陶磁器、ガラスなどが遺物収納箱6箱分出土している。

SK467（遺構Ⅲ−47図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	123	(97)	98

土坑である。北側の一部と南側を撹乱されている。平面形はほぼ正方形、断面形は箱状を呈する。内部には四方に四角形のピットを配している。ピットの規模は一辺が16〜20㎝、深さは40〜50㎝で、北東のピットは浅いピットの横に深いピットを穿ち直している。坑底中央にはわずかに円形の窪みが確認されており、覆土の堆積状態からも木桶の存在が窺える。覆土は5層に分層され、1、2層はシルト質の灰褐色土で構成され、水性堆積物の存在を想定させる。類似した遺構にSK72、SK88があげられる。

遺物は確認されていない。

SK468（遺構Ⅲ−48図、遺物Ⅳ−32図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	A〜B	180	149	70

土坑である。平面形は東西に長い楕円形を呈している。西側の壁は段差をもって、ほぼ垂直に立ち上がる。やや中央が上がる坑底は東に向かって傾斜しており、坑底、壁面とも凹凸が激しい。覆土は5層に分層され、いずれもしまりがない。ゴミ穴か。

遺物は、ガラス瓶、銅版転写磁器を含む近代の遺物が遺物収納箱2箱分出土している。

SP469（遺構Ⅲ−48図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	1000	(77)	67

切合　SK465、SK468>SP469

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形はU字状である。遺存状態は悪い。覆土には人頭大の石を多数含んでおり、坑底には石がめり込み、強い転圧がかかっていたことを窺わせる。

遺物は確認されていない。

SK470（遺構Ⅲ−48図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	234	91	23

切合　**SK470**>SK518･519、SP640、SP681、SP825、SP864、SK868、SD888、SD958

焼土溜まりである。2基のピットを囲む不整楕円の焼土範囲を本遺構としている。焼土範囲は長軸234cm、短軸91cm。ピットの規模は北側が径約60cm、深さ19cm、南側が径約64cm、深さ23cmを測る。焼土範囲及びピットの坑底は2次的な火熱を受けて赤化している。

遺物は、19世紀と思われる陶磁器類が出土している。

SP475（遺構Ⅲ−48図、遺物Ⅳ − 33図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	51	33	18

切合　**SP475**>SP599、SX805

ピットである。平面形は楕円形、断面形は鍋底状を呈する。覆土は2層に分層され、2層には瓦片を含んでいる。

遺物は、釘が出土している。

SP481・754（遺構Ⅲ−48図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	65	56	41

切合　**SP481･754**>SD4301

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈する。内部に人頭大の石を複数有しており、最下部の石は坑底にめり込んでいる。

遺物は出土していない。

SP485（遺構Ⅲ−48図、遺物Ⅳ − 33図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	115	110	103

切合　SP482、SP483>**SP485**>SP534、SD1071･4299

建物基礎遺構である。平面形は円形で断面形は箱状を呈する。内部に破砕礫を多数有している。覆土は3層に分層され、いずれも非常にしまりが強い。

遺物は、渡来銭と17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP487・507（遺構Ⅲ−49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	(183)	151	122

切合　**SP487･507**>SP847、SP866、SP959

建物基礎遺構である。平面形は不整楕円形で、断面形は逆凸状を呈する。覆土中に人頭大の礫が多数含まれている。

遺物は、19世紀の陶磁器類が出土している。

SP493（遺構Ⅲ−49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	106	91	30

切合　**SP493**>SK609

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は鍋底状を呈する。覆土中には径約40cmほどの礫が数点認められ、しまりの強い覆土で、礫は坑底にめり込んでいる。

遺物は出土していない。

SP494（遺構Ⅲ−49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	98	86	85

切合　**SP494**>SK523、SD626、SK627･724、SD834、SD859

建物基礎遺構である。中央を撹乱されているため、平面形は不明、断面形は深いU字状を呈する。坑底には長軸40cm程の礫が認められ、覆土は円礫を多量に含んでおり、非常にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP496（遺構Ⅲ−49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	110	102	48

切合　**SP496**>SP720、SD834、SD859

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はU字状を呈する。坑底中央に人頭大の礫が1点確認されている。覆土は焼土を含み、非常にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP497（遺構Ⅲ−49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	109	(79)	51

切合　**SP497**>SK736、SD834、SK879

建物基礎遺構である。平面形は隅丸方形で、断面形はU字状を呈する。坑底中央に人頭大の礫が1点確認されており、覆土は非常にしまりが強く、円礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP498（遺構Ⅲ−49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	56	52	24

切合　**SP498**>SP606

建物基礎遺構である。平面形は方形で、断面形はU字状を呈する。坑底中央に人頭大の礫が1点確認されて

いる。覆土は砂利が主体である。

遺物は出土していない。

SP499（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	71	64	48

切合　SP566>**SP499**

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形で、断面形はU字状を呈する。坑底中央に径40～50cmの礫があり、覆土は非常にしまりが強く、円礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP500（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C～D	112	95	51

切合　**SP500**>SK906、SD1071･4299

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形で、断面形は段状を呈する。中央に径40～50cmの礫を2段に配しており、覆土は非常にしまりが強く、円礫を多量に含んでいる。

遺物は、2次的な火熱を受けた17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP501（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C～D	(103)	(96)	66

切合　**SP501**>SK906、SK910、SD1071･4299、SD4301

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形で、断面形はやや開いたU字状を呈する。坑底中央に径40～50cmの礫が確認されており、覆土は非常にしまりが強く、円礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SK503（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	A～B	(360)	98	82

溝である。平面形は南北から西へ曲がるL字形、断面形は箱状を呈する。北側でSX555の橋掛りの一部、SP600、南側でSP604を切っている。覆土は砂質で2層に礫を多量に含んでいる

遺物は出土していない。

SP508（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	69	65	26

切合　**SP508**>SK521、SX805

ピットである。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。覆土は1層が玉砂利層である。

遺物は出土していない。

SP511（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	47	40	32

ピットである。平面形は方形で、断面形は逆凸状を呈する。断面中央に柱痕が確認される。ピット間の距離は心々で80cmを測る。

遺物は出土していない。

SP512（遺構Ⅲ−50図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	57	44	21

ややいびつな方形を呈する浅いピットである。北東隅に小ピットを有している。SP512と同時期に機能していた可能性がある。両ピット間は心々で80cmを計測する。

遺物は出土していない。

SK518・519（遺構Ⅲ−51図、遺物Ⅳ−33図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	284	157	161

切合　SK470>**SK518･519**>SP595、SD888

土坑である。不整楕円形の土坑の南東側と方形の土坑部分で構成される。別遺構の可能性もある。

方形の土坑の規模は径120cm、深さは170cmを測る。内部には桶の一部と思われる炭化材が残存しており、壁面には箍（たが）の痕跡が2段確認される。坑底に残る円形の窪みと壁面の箍の痕跡などから計測すると、桶の径78cm、残存部の高さ110cmである。箍の痕跡は3段、箍の間隔は34cmである。桶内の覆土は焼土で構成され、焼けた壁土、漆喰、2次的な火熱を受けた瓦で充填されている。桶の北側は50cmほど高くなっており、坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物は、17世紀後半から18世紀後半と年代幅のある陶磁器、瓦、釘が出土している。

SK520（遺構Ⅲ−51図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	117	103	40

切合　**SK520**>SX810、SP900・1087･1087

土坑である。平面形は長方形､断面形は箱状を呈する。長方形の掘方の南寄りに正方形の木枠が残存している。

掘方の規模は長軸 117cm、短軸 103cm、確認面からの深さは 40cm、木枠の規模は一辺が約 70cm、高さは約 30cm、厚みは 6cmを測る。木枠の遺存状態は非常に良好である。木枠内部の覆土は全体的に焼土と砂利を多量に含んでおり、下部はシルト質の灰色土が堆積している。類似遺構に堺環濠都市遺跡 SKT361 地点 SK402、SK411 があげられる。SK402、SK411 は 16 世紀前半に位置づけられる遺構で、化学分析の結果から便所の可能性が高いとされている。

遺物は、17 世紀と思われる陶磁器類が遺物収納箱 1 箱分出土している。

SK523（遺構Ⅲ−51 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	124	107	95

切合　SP494>**SK523**>SD834、SD859、SK863

ピットである。平面形は円形､断面形は箱状を呈する。東側を SP494 に切られている。坑底は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。内部には炭化材の一部が残存しており、坑底には円形の窪みが見られることから、円形の木製容器を埋設した施設と考えられる。覆土は西から東へ堆積する褐色土を主体としている。炭化材の内側に堆積する 3 層は、ほぼ焼土で構成されており、SK523 は火災で廃絶した遺構と推測される。

遺物は出土していない。

SP524（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	91	(81)	32

切合　**SP524**>SK729

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はやや開いたＵ字状である。中央に人頭大の礫を配し、覆土は小礫を含んでいる。

遺物は出土していない。

SP525（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	108	92	33

切合　**SP525**>SP599

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はやや開いたＵ字状である。中央に人頭大の礫を配し、覆土は小礫を含んでいる。坑底に礫がめりこんでおり、強い転圧がかかっていたことを窺わせる。

遺物は出土していない

SP526（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	(114)	(80)	57

切合　**SP526**>SD888

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はＵ字状である。坑底に一辺 10 ～ 30cmの礫を複数配しており、覆土には小礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP527（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	125	102	29

切合　**SP527**>SP764、SD888

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は鍋底状である。坑底中央東よりに一辺 50cmの角礫を配し、覆土は小礫を多量に含んでいる。坑底には角礫がめりこんでおり、強い転圧がかかっていたことを窺わせる。

遺物は出土していない。

SP528（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	103	79	29

切合　**SP528**>SK956

建物基礎遺構である。平面形は東西に長軸をもつ楕円形、断面形はやや開いたＵ字状を呈する。東南に方形のピットを有しており、方形ピットの規模は一辺約 20cm、確認面からの深さ 42cmを測る。別遺構か。坑底中央に一辺約 45cmの切石を、切石の西側に小礫を配している。

遺物は出土していない。

SP529（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	(98)	88	51

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形はＵ字状を呈する。坑底東側に一辺約 50cmの切石を配し、西側に小礫が確認される。覆土は 4 層に分層され、3、4 層には破砕礫を多量にふくんでいる。

遺物は出土していない。

SP530（遺構Ⅲ−52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	124	114	48

切合　**SP530**>SP556、SP683、SK813

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は鍋底状

を呈する。内部は一辺 15 ～ 30cmの破砕礫で充填されている。

遺物は出土していない。

SP531（遺構Ⅲ−53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	129	(81)	56

切合　SK464>**SP531**>SK593

建物基礎遺構である。東側半分を SK464 に切られているため、平面形は不明、断面形は鍋底状を呈する。1 層に 1 辺 40-50cmの礫を多数配している。

遺物は出土していない。

SP532（遺構Ⅲ−53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	115	95	31

切合　**SP532**>SD1072･4300、SD4301

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形を呈しており、坑底に 1 辺 30 ～ 40cmの礫を数個配しており、上層は砂利を充填している。断面形は半円形で壁は底面からなだらかに立ち上がる。

遺物は出土していない。

SP533（遺構Ⅲ−53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･3	C ～ D	119	(97)	(77)

切合　**SP533**>SD1071･4299、SD1072･4300

建物基礎遺構である。南側を撹乱されている。平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部には 1 辺 20 ～ 30cmの礫を多数配し、隙間を砂利で埋めている。

遺物は出土していない。

SP534（遺構Ⅲ−53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	(81)	(71)	51

切合　SP485、SP517－3>**SP534**>SD1071･4299、SD1072･4300

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。中央に 1 辺約 40cmの礫を配しており、上層は砂利で充填している。

遺物は出土していない。

SP535（遺構Ⅲ−53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3･4	C	105	(96)	53

切合　**SP535**>SP577

平面形はほぼ円形で、断面形は鍋底状を呈する。一辺 20 ～ 25cmの礫を多数配している。

遺物は出土していない。

SP536（遺構Ⅲ−53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3･4	C ～ D	114	(85)	59

切合　**SP536**>SD1071･4299、SD4301

建物基礎遺構である。北側を撹乱されているため平面形および断面形は不明である。全体に礫を配しており、隙間を砂利で充填している。西側外縁部に長方形のピットが検出されているが、周辺に同様の規模のピットが散見されるため、他遺構の可能性が高い。

遺物は出土していない。

SP537（遺構Ⅲ−54 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･3	C ～ D	115	100	83

切合　SP517>**SP537**>SD1071･4299、SD1072･4300、SD4301

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形はスリバチ状を呈し、一辺 30 ～ 40cmの礫を数段積み、隙間を砂利で充填している。

遺物は出土していない。

SK539・4225・4254（遺構Ⅲ−55 図、遺物Ⅳ − 33 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	A ～ B	529	490	97

切合　SD4103>**SK539･4225･4254**

土坑である。西側を撹乱されている。平面形は不整形、断面形は皿状を呈する。覆土は北から南へゆるやかに堆積しており、覆土中には瓦、礫を多量に含んでいる。

遺物は、SK540・4291 と混在しているが、明治期の陶磁器が遺物収納箱 4 箱分出土している。

SK540・4291（遺構Ⅲ−55 図、遺物Ⅳ − 33 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C ～ D	(271)	(114)	38

切合　SK539･4225･4254>**SK540･4291**

土坑である。西隅を撹乱されており平面形は明確ではない。断面形は皿状を呈する。坑底には中央に人頭大の礫、その周囲に径 15 ～ 20cmの破砕礫が検出されている。坑底から壁面には径 5 ～ 10cmほどの小穴が複数確認される。覆土は灰色土を主体としており、焼瓦を多量に含

んでいる。

遺物は、SK539・4225・4254と混在しているが、明治期の陶磁器が遺物収納箱4箱分出土している。

SP541（遺構Ⅲ−54図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	161	157	49

切合　SK718>**SP541**>SD958

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は箱状を呈する。一辺30～50cmの礫を全体に配しており、隙間を砂利で充填している。

遺物は、陶磁器片が数点出土しているが年代は不明である。

SP545（遺構Ⅲ−54図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3･4	C	130	124	61

切合　**SP545**>SK710

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。坑底には一辺10～20cmの礫が多数検出されている。坑底面は非常に硬化し、石がめり込んでいる箇所もあり、大きな転圧がかかっていたことが窺える。

遺物は、18世紀の陶磁器類が出土している。

SP546（遺構Ⅲ−54図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	118	118	49

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に一辺30～40cmの礫と破砕礫が多数検出されている。覆土は円礫を含んでおり、非常にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP547（遺構Ⅲ−54図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	104	(94)	20

切合　**SP547**>SP618、SP649

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に一辺25～30cmの礫を含んでおり、覆土は非常にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SK554（遺構Ⅲ−54図、遺物Ⅳ−34図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	147	131	59

切合　SP514>**SK554**>SP567、SD607、SP727、SD728

土坑である。平面形は正方形､断面形は箱状を呈する。東側に長方形の浅いピットが検出されているが、付属施設かは不明である。断面には木枠の痕跡があり、木枠内部には水性堆積物を想定させる灰色粘土質の土が堆積している。SK72、SK88と覆土が近似しているが、坑底にピットはみられない。

遺物は、19世紀の陶磁器類が遺物収納箱1箱分出土している。

SX555・4059、SP598、SP637、SP638、SP639、SP674、SP1301、SP4001、SP4016

（遺構Ⅲ−56、57図、遺物Ⅳ−34図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1･2	C	舞台 743 橋掛り (1020)	舞台 (486) 橋掛り 104	舞台 58 掘方 70 橋掛り 28 掘方 46

切合　SK503、SK539･4225･4254、**SP598**、**SP674**、SP823、SK4048>**SX555･4059**>SP559、SP591、**SP1301**、**SP639**、SK685、SX740、SP765、SK817、SP818、SP821、SP822、SP824･4064、SK836、SP837、SP850、SP894、SP899、SP962、SP981、SU1266･4017、SK4063

SP598>**SX555･4059**、SP894

SX555･4059、SK685、SP767>**SP1301**

SX555･4059>**SP639**>SX806、SP981

SP674>**SX555･4059**

調査区北側に位置する能舞台関連遺構である。ここでは舞台主部、橋掛り下部施設とそれに付随する基礎遺構を記載する。舞台主部の主軸は、N－9°－Wである。舞台主部の東側、橋掛り東端、遺構上部は廃棄の際の破却、大学時代の撹乱および共同溝埋設溝によって削平されている。

・舞台主部

確認された舞台主部の構造は、本舞台と後座、地謡座の下に同じ形状の掘方を掘った上で、その坑底上に漆喰を貼り付ける彦根城表御殿や尾張藩上屋敷址遺跡の能舞台と同じ構造を呈している。漆喰は坑底（床下部分）が約10cm（12層）、立ち上がりが15～20cmと立ち上がりが厚く作られている。漆喰の表面はきわめて平滑に調

整され、光沢が確認できるほど研磨された状態で検出された。舞台主部の壁高は最も遺存の良かった西側で約 40cm であったが、漆喰施設の天端は確認されていない。覆土は漆喰施設上が 10 層に分層され、多量ではなかったものの焼土が含まれている。こうした点や漆喰上に比較的広範囲に大形の礎石、間知石、剥片状の切石が確認されていることから、遺構の廃棄原因となる慶応 4（1868）年の火災による被災、破却する際に周囲の礎石や石組構造物の一部を舞台下部施設内に投げ込んだものと推定している。

本舞台 4 隅には、柱の基礎遺構が確認されている。本舞台向かって左奥のシテ柱が SP674、左前の目付柱が SP4016、右前の脇柱が SP4001、右奥の笛柱が SP638 である。各柱の地下構造は、厳格な規格性は看取できなかったが、周囲の御殿の基礎遺構のように根石を砂利と共に転圧を加え、その上に礎石を置くという構造とは違い、大きな礎石を直接坑底に設置する構造を取っている。各柱間の距離は、東西で約 290cm、南北で 300cm である。

SP674（シテ柱）は、東西 45cm、南北 30cm、厚さ最大 35cm の大形切石を直接坑底に設置して礎石としている。切石の上面中央は径 15cm 程度凹んでいたが、柱の位置合わせであったかは不明である。他の柱には確認されていない。

SP4016（目付柱）は、坑底から 3 段の石を積み上げて基礎石としている。下段は最大の石で、長さ 110cm、幅 60cm、石の高さ 55cm の切石、中段はバレーボール大の自然石、上段は長辺 50cm、短辺 35cm、厚さ 10cm 程度の加工石が用いられている。

SP4001（脇柱）は、一回り大きい掘方の中におおむね直方体の加工石を面を上にして設置している。加工石の大きさは平面 60cm 四方、厚さ 35cm の大形のものである。

SP638（笛柱）は、大形切石は確認されなかった。廃棄の際に抜かれたことも想定されるが、明確ではない。

・橋掛り部

シテ柱である SP674 と後見柱である SP1301 間からは斜方向に延びる橋掛りの下部施設が確認されている。本舞台から連続する漆喰が貼り付けられた溝状施設とその外側には正面手前（北側）に 1 基（SP598）、奥（南側）には 2 基（SP637、SP639）の基礎遺構が検出された。溝状施設の溝底レベルは、本舞台とほぼ同じで、漆喰は溝底直上に厚さ約 5 ～ 10cm、立ち上がりで 10cm で本舞台よりはやや薄く貼り付けられている。橋掛りは SP674 から約 5.5m、いわゆる二の松と三の松の間にある柱まで確認され、鏡の間に続く部分は大学時代の共同溝埋設溝によって削平されている。溝状施設の遺存状態は、本舞台部と同様に上部を後世に削平されていることから良好とは言えず、確認された幅は最大 65cm、深さは最大 25cm であった。覆土は、漆喰層（12 層）上が 3 層、下には部分的に 3 層確認されているが、12 層直上には遺構を廃棄する際に落ちたものと思われる漆喰のブロックが多く確認されている（11 層）。

溝状施設両脇の基礎遺構は、SP674（シテ柱）と SP1301（後見柱）間が約 160cm、鏡の間に向かって次の柱間が、手前（シテ柱）側で 270cm、奥（後見柱）側で 180cm、二の松を挟んで手前側は調査区域外、奥側で 270cm を計測する。また、橋掛りを挟んだ柱間は約 130cm であった。

SP1301（後見柱）は、礎石が確認されていない。本舞台部から出土した大形の切石が SP638 あるいは本柱の基礎であった可能性もある。

SP598 は、坑底に径 30cm 程度の自然石の上に東西（橋掛り方向）40cm、南北 35cm、厚さ 10cm の扁平な切石を載せて礎石としている。

SP637 は、坑底に東西（橋掛り方向）35cm、南北 35cm、厚さ最大 25cm で、中央を東西方向に凹めた扁平な切石を礎石とし、その周囲をハンドボール大の自然石で固定している。

SP639 は、上部が削平されていた。坑底には径 30cm 程のやや扁平な自然石を配していた。他の橋掛りの礎石上端レベルはおおむね 22.4m であり、本遺構は厚さ 30cm 程度の礎石があったと想定される。

遺物は、19 世紀前～中葉の陶磁器類、瓦、石製品、金属製品、動物遺体などが出土している。

SP556（遺構Ⅲ−58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	120	(57)	25

切合　SP530>**SP556**>SK592、SD958

建物基礎遺構である。東側を SP530 に 1/2 以上破壊されているため平面形は不明、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に一辺約 20㎝前後の礫が数点検出されており、覆土は砂利を多く含んでいる。作り替えのため廃棄された礎石か。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が出土している。

SP557（遺構Ⅲ−58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(130)	(109)	90

切合　SK539･4225･4254、SP4055>**SP557**>SK592、

SP677、SD952、SD958、SK977、SK978・4290、SP4500、SK4702

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は鍋底状を呈している。内部は礫を数段積んでおり、中央に一辺約 45cmの礫を置き、その周りを囲むように一辺 20 ～ 40cmの礫を配している。覆土は円礫を多く含んだ褐色土で、全体的に焼土を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP558（遺構Ⅲ－58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	94	(85)	15

切合　SK463>**SP558**>SD664、SP766

建物基礎遺構である。北側を SK463 に切られ、全体の様子は窺えないが、平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。中央に切石を置き、周囲に一辺 30cm 程の礫を配している。坑底は比較的平坦であるが、礫がめり込んでおり、強い転圧がかかったことを窺わせる。覆土は砂利主体でしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP559（遺構Ⅲ－58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	193	(133)	39

切合　SK463、SX555･4059>**SP559**>SP684、SK924

建物基礎遺構である。中央南側を SK463 に切られているため、全体の形状は不明であるが、坑底中央にわずかに立ち上がりがみられるため、東西 2 基のピットの切合である可能性が高い。内部に一辺 15 ～ 60cmの礫を多数配している。

遺物は出土していない。

SP560（遺構Ⅲ－58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	95	(92)	47

切合　**SP560**>SX806、SX810

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は鍋底状を呈する。一辺 10 ～ 30cmの礫を全体に配している。覆土は砂利を主体としており､上面は焼土で覆われている。

遺物は出土していない。

SP562（遺構Ⅲ－58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	(36)	(36)	93

切合　**SP562**>SP563

建物基礎遺構である。平面形はほぼ正方形、断面形は箱状を呈する。土層観察では中央に柱痕が観察される。

遺物は出土していない。

SP563（遺構Ⅲ－58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3･4	C	106	(93)	62

切合　SP562>**SP563**

建物基礎遺構である。中央に一辺 30cmの切石を置き、周囲に破砕礫を配している。坑底には石がめり込み、覆土は砂利を主体として非常にしまりが強い。

遺物は、陶磁器類が少量出土しているが、遺物の年代は不明である。

SP565（遺構Ⅲ－59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	195	183	59

切合　SD4167>**SP565**

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は逆凸状を呈する。径約 190cmと大形で、中央を掘り窪め円礫を敷き詰めた中に、1 辺約 40cmの方形の石を据えている。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は 2 層に分層され、1 層は円礫を多量に含み、2 層は礎石を固定する玉砂利層である。

遺物は出土していない。

SP567（遺構Ⅲ－59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	80	(67)	24

切合　SK554>**SP567**

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。中央に 1 辺約 40cmの方形の石を据えている。覆土は 2 層に分層され、1 層は多量の円礫を含む茶褐色土で、2 層はローム粒を含む茶褐色土である。

遺物は出土していない。

SP570（遺構Ⅲ－59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	C	175	154	74

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。径約 160cmと大形で、坑底中央に長軸 40cmの楕円形の石を据えている。覆土は 4 層に分層され 3、4 層は砂利を充填している。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が出土している。

SP571（遺構Ⅲ−59図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	104	81	20

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形はⅢ状を呈する。坑底中央に一辺40cmほどの抜石痕が認められ、周囲は硬化している。覆土は単層で小礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP574（遺構Ⅲ−59図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C～D	94	91	38

切合　**SP574**>SD1071･4299、SD4301

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。1辺15～30cmの礫を坑底一面に配している。覆土の詳細は不明である。

遺物は出土していない。

SP575・1014（遺構Ⅲ−59図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C～D	142	105	69

切合　**SP575･1014**>SK814、SD1071･4299、SD1072･4300、SD4301

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形は階段状を呈する。覆土の詳細は不明であるが、人頭大の礫が複数含まれている。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SP577（遺構Ⅲ−60図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1･2･3･4	C～D	177	170	103

切合　SP535>**SP577**>SD1071･4299、SD430

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形はU字状を呈する。坑底中央に円形の窪みが確認されている。径約177cmと大形で、覆土中に一辺30～50cmの礫を含んでいる。覆土は4層に分層され、3層には砂利が多く含まれておりしまりが強い。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP578（遺構Ⅲ−60図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	134	131	26

切合　SK464>SP578>SK957

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は逆凸状を呈する。ピット内部には一辺約20cm～50cmの礫が複数配されている。坑底中央に径40cm、深さ10cmの円形の窪みが確認されているが、窪みの内部で礫は検出されていない。覆土は砂利主体で、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP580（遺構Ⅲ−61図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3･4	C	1692	−	−

建物基礎遺構である。南北にピットが8基確認されており、主軸方位はN − 10° − Wを測る。個々のピットの平面形は円形で、規模は径80～100cm、確認面からの深さは約30～60cmを測る。ピットの間隔はSP580−8とSP580−7が心々で約180cm、その他は約250cmである。SP580−1・1、SP580−2、SP580−3、SP580−5、SP580−7、SP580−8は内部に1辺20～50cmの礫を配しており、覆土は非常にしまりが強い。SP580−2は下部に焼土が確認される。

遺物は、SP580−6から17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP581（遺構Ⅲ−60図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	86	70	33

切合　**SP581**>SK676

建物基礎遺構である。北側を撹乱されているため平面形は不明、断面形は鍋底状を呈している。覆土の詳細は不明であるが、中央部に人頭大の礫を配しており、坑底は硬化している。

遺物は出土していない。

SP582（遺構Ⅲ−60図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	(97)	(79)	64

切合　**SP582**>SP790

建物基礎遺構である。南側を撹乱されている。平面形は円形で、断面形は鍋底状を呈している。内部には一辺10～40cmの礫を多数配している。覆土の詳細は不明である。

遺物は出土していない。

SP583（遺構Ⅲ−60図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	104	100	32

切合　**SP583**>SP616、SK761、SK871

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形はU字

状を呈している。中央に一辺40cmの礫が1点検出された。底面は全体的に硬化しており、礫は坑底にめり込んでいる。覆土は非常にしまりが強いが、砂利は含んでいない。

遺物は出土していない。

SK585（遺構Ⅲ－60図、遺物Ⅳ－34図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	159	(92)	42

切合　SK465、SK510>**SK585**>SP617、SK623

土坑である。北側をSK465に、南側をSK510に切られているため、平面形は不明、断面形は浅い鍋底状を呈している。覆土は2層に分層され、ロームとロームブロックで構成される。

遺物は陶磁器類が遺物収納箱2箱分出土している。

SP590（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3･4	C	106	99	58

切合　SK588、SP491>**SP590**

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はU字状を呈している。坑底には一辺10～40cmの礫を多数配している。覆土は円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。坑底に石がめり込んでいる箇所がみられ、強い転圧がかかったことが窺われる。

遺物は出土していない。

SP591（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1･2	C	(101)	(67)	56

切合　SK539･4225･4254、SX555･4059、
SP684>**SP591**>SP716

建物基礎遺構である。遺存状態が悪く平面形は不明、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に一辺15～50cmの礫を2段に配しており、覆土には瓦、円礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP595（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	157	(116)	(100)

切合　SP509、SK518･519、SP596>**SP595**>SX740

建物基礎遺構である。西側はSK518、SK519に切られているため、平面形は不明、断面形はやや開いたU字状を呈する。内部には一辺20～40cmの礫を数段積んでおり、覆土中には円礫を多量に含んでいる。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SP596（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	93	73	22

切合　**SP596**>SP595

SP595の南側に位置する建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部中央に一辺約50cmの礫が据えてあり、坑底に1/2程度めりこんでいる。坑底は平坦で、壁は比較的垂直に立ち上がる。覆土はしまりが強い。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SP597（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	101	85	60

切合　**SP597**>SD888

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈する。中央に人頭大の礫を2段に積み、周囲に破砕礫を配している。覆土は円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP599（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	80	68	35

切合　SP475、SP525>**SP599**

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部には1辺20～30cmの礫が2点検出されている。

遺物は、陶磁器片が少量出土しているだけで、年代は不明である。

SP600（遺構Ⅲ－62図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	119	101	76

切合　SP604>**SP600**>SK869

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅いU字状を呈する。覆土の詳細は不明であるが、内部に1辺10～40cmの礫を多数配している。

遺物は出土していない。

SX605（遺構Ⅲ－63図、遺物Ⅳ－34図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	347	283	61

切合　SX605>SP895

石組遺構である。掘込みの平面形は長方形、断面形は箱状を呈する。西壁中央に切石を正方形に組んだ石組があり、石組の南には西に突出した方形のテラスがあり、石組部、突出部を除く坑底に1辺20～40cmの礫が敷き詰められている。石組の規模は石組の外側が1辺約80cm、高さは60cm、石組の内側は1辺54cm、高さは40cmを測る。石組の構造は底石を2枚敷き、四方に切石を2段積んでいる。覆土の情報は欠落しているが、石組内部の堆積は緩やかで、外側は一気に埋まった様子が観察される。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SK609（遺構Ⅲ－63図、遺物Ⅳ－35図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	245	207	79

切合　SP493>SK609>SK561、SK725、SK761、SK858、SK871

土坑である。平面形はドーナツ状、断面形は箱形を呈する。底部は東側へなだらかに傾斜している。覆土は6層に分層され、1～3層は焼土粒を多く含んでいる。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP614（遺構Ⅲ－63図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	138	120	44

切合　SP611>SP614>SP783

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅いU字状を呈する。内部には1辺20～30cmの礫を多数配しており、坑底は硬化している。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP616（遺構Ⅲ－63図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	105	(84)	86

切合　SP583>SP616>SK871

建物基礎遺構である。平面形は隅丸方形、断面形は段を持つU字状を呈する。南側にテラス状の平坦部を持つ。テラスの幅は15cm、高さは底部から30cmである。内部に1辺15～30cmの礫を複数配している。

遺物は出土していない。

SP617（遺構Ⅲ－63図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	D	103	(90)	32

切合　SK510、SK585、SK623>SP617>SK802

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に1辺10～30cmの礫を複数配している。覆土中には円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP618（遺構Ⅲ－64図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C～D	(107)	(67)	24

切合　SP547>SP618>SP649

建物基礎遺構である。南側は撹乱されているため平面形は不明、断面形は鍋底状を呈する。内部に1辺10～30cmの礫を複数配している。

遺物は出土していない。

SP620（遺構Ⅲ－64図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	70	65	30

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は箱状を呈する。内部に1辺10～30cmの礫を複数配している。

遺物は、明治期の陶磁器類が出土している。

SP621（遺構Ⅲ－64図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	(70)	(51)	27

切合　SK544、SK468>SP621>SK710

建物基礎遺構である。北側でSK544に、南側をSK468に切られているため、遺存状態が悪く、平面形、断面形は不明。内部に1辺約30cmの礫を複数有している。

遺物は、明治期の陶磁器類が出土している。

SK627・724（遺構Ⅲ－64図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	239	91	119

切合　SP494>SK627·724>SD626、SD781、SD834、SD859、SK883

土坑である。平面は南北に長軸をもつ長方形、断面形は箱形を呈する。主軸方位はN－10°－Wを測る。坑底は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。坑底には一辺40cm程の礫が2点確認されている。覆土は5層に分層され、しまりの強い暗褐色土が主体である。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SD628（遺構Ⅲ－65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4·6	G	(659)	40	51

切合　SP93、SP114･3091、SK460･3174、SP461、SK1132、SP3364、SK3365>**SD628**

溝である。南北に長軸を持ち、主軸方位はＮ－6°－Ｗである。断面形はＵ字状を呈す。南側のSD2260と形状、主軸方位が近似している。

遺物は､17世紀中葉～後葉の陶磁器類が出土している。

SP640（遺構Ⅲ－64図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	95	89	24

切合　SK470>**SP640**>SK868、SD888

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に1辺10～30cmの礫を複数配している。覆土は2層に分層され、焼土、小礫を多く含んだ土を主体とする。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP647（遺構Ⅲ－64図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	70	59	18

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は皿状を呈する。中央に一辺約40cmの礫が確認される。

遺物は出土していない。

SP649（遺構Ⅲ－65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C～D	(100)	(87)	29

切合　SP547、SP618>**SP649**

建物基礎遺構である。平面形は方形、断面形は鍋底状を呈する。内部には1辺20～30cmの礫を複数有している。

遺物は、17世紀と思われる陶磁器類が出土している。

SP654（遺構Ⅲ－65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	45	43	27

建物基礎遺構である。上部は撹乱に破壊されている。平面形は正方形、断面形は箱状を呈する。内部には1辺約20cmの切石を2個配している。覆土には礫を含んでいない。

遺物は、少量出土しているが、年代は不明である。

SP656、SP665、SP681、SP732、SP739、SP833（遺構Ⅲ－66図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	－	－	－

切合　**SP665**>SP703

ピット列である。南北に4基、東西に2基の計6基確認される。ピット間の距離は心々で南北は270～300cm、東西は約190cmである。各ピットの平面形は方形で、一辺は30～40cm、確認面からの深さは30～40cmを測る。SP656、SP665、SP736は断面に柱痕が確認されている。覆土はロームブロックを含む暗褐色土が主体で、しまりは弱い。

遺物は､SP732から17世紀の陶磁器類が出土している。

SK658（遺構Ⅲ－65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	66	53	45

切合　SP513、SK655>**SK658**

土坑である。平面形は長方形で、主軸方位はＮ－85°－Ｅである。断面形は西側は階段状で、平坦な坑底から垂直に立ち上がる東壁へと続く。坑底には一辺が40cmの切石と割石が見られる。覆土は単層でしまりは弱い。建物基礎か。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SP660（遺構Ⅲ－65図、遺物Ⅳ－35図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	102	(93)	62

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形はＵ字状を呈する。遺構内に破砕礫を多数配している。覆土は円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は、17世紀の陶磁器類が出土している。

SP661（遺構Ⅲ－67図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	92	(78)	25

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は鍋底状を呈する。遺構内には一辺10～30cmの礫を複数配している。覆土には円礫を多量に含んでおり、礫の下部は硬化している。

遺物は出土していない。

SK662（遺構Ⅲ－67図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	183	81	76

切合　**SK662**>SP663、SD664、SK848、SP849

土坑である。平面形は南北に長軸をもつ長方形、断面形は箱状である。主軸方位はＮ－18°－Ｗを測る。覆土の詳細は不明であるが、遺構内に一辺40～60cmの礫

を 4 個据えている。SP663 を切っており、C 面建物基礎遺構群より新しい。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP663（遺構Ⅲ−67 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	(93)	(68)	35

切合　SK662>**SP663**

建物基礎遺構である。東側半分を SK662 に切られているが、残存部から円形と推定される。内部に 20 ～ 40 cmの礫を複数段に配している。

遺物は出土していない。

SD664（遺構Ⅲ−67 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	(455)	56	71

切合　SK539･4225･4254、SK662、SP558、SP766>**SD664**

溝である。東西に長軸をもち、主軸方位は N − 90° − E を測る。溝底に 2 段の礎石を伴うピットが、約 160cm 間隔で 3 基確認される。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SK666（遺構Ⅲ−67 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	(66)	(29)	40

切合　SK510>**SK666**>SK771

土坑である。東半分を撹乱されており遺存状態は悪い。平面形は円形、断面形は箱状を呈する。壁面と底部に炭化材が残存しており、内部に桶が設置されていたと考えられる。

遺物は、陶磁器片が出土しているが、年代は不明である。

SK676（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	102	92	47

切合　SP581、SP608>**SK676**>SK796

土坑である。平面形は正方形、断面形は箱状を呈する。坑底は平坦で壁は垂直に立ち上がる。壁面には木枠が一部残存しており、四方に板を廻らせていたことがわかる。木枠の内部の覆土は水性堆積物を想定させる灰褐色粘土を主体としている。

遺物は出土していない。

SP677（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	C ～ D	185	166	65

切合　SK539･4225･4254、SP557、SK592>**SP677**>SD952、SD958、SK977

建物基礎遺構である。北側を SK539・4225・4254 に、西側を SP557、東側を SK592 に切られているため平面形は不明、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に一辺 30 ～ 40cmの礫を複数配している。覆土は 5 層に分層されており、4 層はしまりの強いローム主体土であること、上部の SK592 と坑底レベルが同じことから 1 ～ 4 層は SK592 の覆土の可能性もある。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP680（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	109	105	26

切合　**SP680**>SP767

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に一辺 10 ～ 40cmの礫を配している。

遺物は、陶磁器片が出土している。年代は 17 世紀か。

SP684（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	167	(117)	70

切合　SK539･4225･4254、SP559>**SP684**>SP591

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部に一辺 30 ～ 40cmの礫を複数配している。坑底中央に円形のピットが確認されており、ピットの規模は径約 40cm、深さ 20cmを測る。覆土は 2 層に分層され、1 層には焼土、1、2 層とも礫を多量に含んでおり、2 層はしまりが強い。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP686（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	(111)	105	(79)

切合　SK503、SX740>**SP686**>SP850、SK869、SP962

土坑である。平面形は方形、断面形は箱状を呈する。坑底は平坦で壁は垂直に立ち上がる。内部は 15 ～ 40cm の礫を 3 段積み重ねており、隙間を小礫で充填している。

遺物は出土していない。

SP691（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	(128)	(116)	46

切合　SK652、SK653>**SP691**>SP692、SK715、SD728

ピットである。東側は調査区域外へ延びる。平面形は円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に 1 辺 10 ～ 30cm の礫を多数配している。

遺物は、少量出土しているが、年代は不明。

SP699（遺構Ⅲ−69 図、遺物Ⅳ − 34 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	103	103	(47)

切合　**SP699**>SD888

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に一辺 10 ～ 30cmの礫を複数配している。覆土は 1 ～ 3 層とも小礫を含んでいる。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP702・4184（遺構Ⅲ−145 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	180	(173)	57

切合　SP4182、SP4183、SP4211、P4236>**SP702･4184**

Ⅰ次とⅣ次で調査された建物基礎遺構である。西側は大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は隅丸方形を呈す。覆土は全体的にしまりが強く、礫を多量に含む層の間にローム粒やブロックを多量に含む層が観察される。坑底には長軸約 30 ～ 40cm の割石周囲に、長軸約 10 ～ 20cm の割石が転圧により掘方に沈み込むように検出された。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP703（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	73	69	59

切合　SP665>**SP703**>SP767

平面形は円形、断面形は浅い U 字状を呈する。内部に径 20cmほどの礫が確認されている。覆土は 3 層に分層され､第 3 層は礫を多数含んでいる。建物基礎遺構か。

遺物は出土していない。

SP712（遺構Ⅲ−69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	114	83	41

切合　**SP712**>SP733、SP734

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に一辺 10 ～ 30cmの礫を複数配している。覆土は小礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が出土している。

SK715（遺構Ⅲ−68 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	(57)	43	42

切合　SP691>**SK715**

土坑である。上面を SP691 に破壊され遺存状態が悪い。残存部の平面形は長方形、断面形は箱状を呈する。

遺物は、陶磁器片が出土している。年代は 17 世紀か。

SP716（遺構Ⅲ−69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C ～ D	(75)	(73)	48

切合　SK539･4225･4254、SP591>**SP716**

建物基礎遺構である。上面を SP691 に撹乱され遺存状態が悪い。残存部の平面形は長方形、断面形は箱状を呈する。

遺物は、陶磁器片が出土している。年代は 17 世紀か。

SK730（遺構Ⅲ−69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	102	88	107

切合　SK504、SK742、SP745･1084>**SK730**>SX810

土坑である。北東を SK742 に切られている。平面形は円形、断面形は逆台形状を呈する。坑底は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は全体的にしまりがなく、第 6 層は壁部に沿って堆積している。桶の痕跡か。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が出土している。

SK736（遺構Ⅲ−69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C	(61)	(21)	21

切合　SP497>**SK736**>SK784、SD834、SK879

土坑である。大半を SP497 に切られており、東南隅のみ残存している。平面形、断面形は不明である。東南角には 30cm四方の炭化材が残存しており、坑底には炭化物が堆積し、その上に釘が 3 点確認されている。木製の箱状のものが存在していたと思われる。

遺物は、釘が出土している。

SP738（遺構Ⅲ−69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C ～ D	125	106	20

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は皿状である。上面を撹乱されており、遺存状態が悪い。覆土の詳細は不明であるが、内部に 20 ～ 40cmの礫を多数有している。

遺物は出土していない。

SX740、SX805、SX806 （遺構Ⅲ－70、71 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	－	－	－

切合　SK503、SX555･4059、SP595、
SP600>**SX740**>SK686、SK869、SK892
SP471、SP472、SP475、SK480、SK503、
SP508、SP509、SK729、SP731･757>**SX805**
SP479･737、SP560、SP639、SP743、
SP745･1084>**SX806**>SK521、SK881、
SP900･1087･1087、SP919

石列である。南北に長軸をもつ細い石列が東西 3 列確認されている。調査区東端から南へ向かい、SD1072・4300 の手前まで延びる。主軸方位はＮ－ 3°－Ｅを測る。石列は深さ 10cmほどの浅い溝に、長短の切石を並べており、切石は幅 10 ～ 15cm、高さ約 10cm程度を主体とし、長さはランダムである。各石列間の距離は約 100cmを測る。

遺物は出土していない。

SK742（遺構Ⅲ－69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	70	(49)	90

切合　**SK742**>SK504、SK730、SX810

土坑である。平面形は長方形で、断面形はＵ字状を呈する。覆土は 4 層に分層され、上層は焼土と礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP743（遺構Ⅲ－69 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	97	(88)	44

切合　**SP743**>SX806

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に一辺 10 ～ 30cmの礫を複数配している。覆土は 1 ～ 3 層とも小礫を含んでおり、しまりが強い。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP745・1084（遺構Ⅲ－72 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	122	101	36

切合　**SP745･1084**>SK730、SX806、SX810

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は鍋底状を呈する。坑底に一辺 30 ～ 40cmの礫を複数配している。覆土は円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している。

SP746（遺構Ⅲ－72 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	C ～ D	97	96	30

切合　SK543>**SP746**

建物基礎遺構である。平面形はほぼ円形、断面形は鍋底状を呈する。坑底に一辺 10 ～ 40cmの礫を複数配しており、礫の下部は硬化している。

遺物は出土していない。

SP747（遺構Ⅲ－72 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	93	90	39

切合　SD4301>**SP747**>SD1071･4299、SD1072･4300、
SD4301

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に一辺 10 ～ 20cmの礫を複数配している。覆土は円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SD759（遺構Ⅲ－72 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3･4	D	(714)	74	112

切合　SK468、SP549、SP550、SK569、SP580 －
5、SP580 － 6、SP706、SP707、SK710、
SP777>**SD759**>SP799、SP827

溝である。南北に長軸をもち、主軸方位はＮ－ 2°－Ｅを測る。確認面は 22.3m。溝底にはピットが 3 基確認されている。ピットの形状は概ね長方形、深さは約 20cm、ピット間の距離は約 180cmを測る。ピット内に礎石は検出されていないが、中央ピット横に 1 辺 25cmの礫が 1 点確認されている。

遺物は、17 世紀中葉から後葉の陶磁器類が出土している。

SP760（遺構Ⅲ－72 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	42	38	30

切合　SK755>**SP760**

建物基礎遺構である。遺存状態は悪い。平面形は円形、

断面形は鍋底状を呈する。坑底中央に人頭大の礫を有している。覆土は円礫を多量に含んでおり、しまりが強い。

遺物は、陶磁器類が出土している。年代は17世紀か。

SP764（遺構Ⅲ−73図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	87	60	27

切合　SP527>**SP764**>SD888

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形はⅢ状を呈する。坑底に一辺10～30cmの礫を複数配している。覆土は小礫を含んでおり、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP765（遺構Ⅲ−73図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	156	(86)	47

切合　SX555･4059>**SP765**

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は浅い鍋底状を呈する。内部には1辺10～30cmの礫を多数配している。覆土は砂利を主体としており、しまりが強い。

遺物は、17世紀末～18世紀初頭の陶磁器類が出土している。

SP766（遺構Ⅲ−73図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	112	71	38

切合　SP558>**SP766**>SD664

建物基礎遺構である。平面形は楕円形、断面形は鍋底状を呈する。坑底に一辺10～30cmの礫を複数配している。

遺物は出土していない。

SP767（遺構Ⅲ−73図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	167	140	73

切合　SP680、SP703>**SP767**>SP1301、SP768、SK769

建物基礎遺構である。平面形は円形、断面形は鍋底状を呈する。内部に20～40cmの礫を複数配している。覆土は8層に分層され、下層はしまりが強い。

遺物は出土していない。

SK769（遺構Ⅲ−73図、遺物Ⅳ−35図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C～D	147	98	233

切合　SP767>**SK769**>SP768、SP832、SP935

土坑である。平面形は長軸を東西にもつ長方形、断面形は箱状を呈しており、深さ233cmを測る。主軸方位はN−77°−Eを測る。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は7層に分層され、全体的にしまりがない。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が出土している。

SD775（遺構Ⅲ−74図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	D	(259)	36	19

切合　**SD775**>SD835

溝である。南北に長軸をもち、主軸方位はN−7°−Wを測る。断面形は箱状を呈しており、溝底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ちあがる。覆土は単層で粘性、しまりとも強い。

遺物は､17世紀から18世紀の陶磁器類が出土している。

SD781（遺構Ⅲ−74図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	D	(236)	29	31

切合　SK627･724、SK793、SK795>**SD781**>SK809、SB845、SP853、SK883

溝である。南北に長軸をもち、主軸方位はN−80°−Eを測る。断面形は箱状を呈している。溝底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ちあがる｡覆土は単層でしまりがない。

遺物は､17世紀から18世紀の陶磁器類が出土している。

SP790（遺構Ⅲ−74図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	C	(94)	(61)	62

切合　SP582>SP790

建物基礎遺構である。平面形は長方形で、断面形はU字状を呈する｡内部に1辺約30cmの礫を数段積んでいる。覆土は円礫を含んでおり、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP791（遺構Ⅲ−74図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	D	100	62	17

建物基礎遺構である。平面形は楕円形で、断面形はⅢ状を呈する。内部に1辺10～20cmの礫を複数配している。覆土は角礫を含んでおり、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP792（遺構Ⅲ−74 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C ～ D	90	82	92

切合　SP477－2>**SP792**>SK729

ピットである。平面形は円形で、断面形はＵ字状を呈する。断面中央に柱痕が確認されるが、覆土は全体にしまりがない。

遺物は出土していない。

SP807（遺構Ⅲ−74 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	167	165	63

切合　SP474 － 1、SP476 － 1、SK718>**SP807**

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は鍋底を呈する。内部には 1 辺 20 ～ 40cmの礫を複数配している。覆土は礫を多量に含み、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SK809（遺構Ⅲ−75 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	120	80	82

切合　SD781、SK795、SB845>**SK809**>SP853、SK882、SK883

土坑である。平面形は南北に長軸をもつ長方形、断面形は箱形を呈する。主軸方位はＮ － 77° － Ｅを測る。覆土は 4 層に分層され、全体的に粘性が強い。

遺物は 18 世紀と思われる陶磁器類が出土している。

SX810、SX816（遺構Ⅲ−70、71 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	−	−	−	−

切合　SK504、SK520、SP560、SK730、SK742、SP745･1084>**SX810**>SK881、SP900・1087･1087

石列である。調査区東端から南へむかいSX740、SX805、SX806 を挟むように平行にはしり、SD1072・4300 の手前まで延びる。主軸方位はＮ － 3° － Ｅである。SX810 は長方形の切石が 2 列、西側の SX810 は 1 列確認されている。切石は 30 × 50cm、高さ 15cmの規模のものが主体である。掘方は確認されていない。SX810 とSX816 の距離は約 540cm（3 間）である。

遺物は出土していない。

SP818（遺構Ⅲ−75 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	170	148	13

切合　SX555･4059>**SP818**

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は皿状を呈する。内部には 1 辺 10 ～ 30cmの礫を多量に配している。覆土は全体的にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SK819（遺構Ⅲ−75 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	E	91	76	12

切合　**SK819**>SD1062･4687、SD1268

土坑である。平面形は方形で、断面形は皿状を呈する。坑底北東隅にピットが確認されており、ピットの径は35cm、深さは 5cmを測る。覆土は全体的にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP823（遺構Ⅲ−75 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	(125)	(68)	52

切合　SK4048>**SP823**>SX555･4059、SP824･4064、SU1266･4017

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は鍋底状を呈する。内部には 1 辺 40cmの礫を数個配している。覆土はしまりが強く、SX555 の漆喰を少量含んでいる。

遺物は出土していない。

SP824・4064（遺構Ⅲ−75 図、遺物Ⅳ − 35 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	126	(124)	43

切合　SX555･4059、SP823、SK4063>**SP824･4064**>SU1266･4017

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はＵ字状を呈する。内部には 1 辺 20 ～ 40cmの礫を数個配している。覆土は全体的にしまりが強く､礫を含んでいる。

遺物は出土していない。

SP826（遺構Ⅲ−75 図、遺物Ⅳ − 35 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	63	43	11

ピットである。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈する。内部には 1 辺約 20cmの礫を数個配している。覆土はしまりが強い。建物基礎遺構か。

遺物は、釘と 17 世紀と思われる陶磁器類が出土している。

SK831（遺構Ⅲ−76 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	G	(140)	112	90

土坑である。平面形は楕円形で、断面形はＵ字状を呈する。南側を撹乱されている。土層中央に縦に堆積する褐色土が２筋確認されるが、周囲の土は全体的にしまりがなく、柱痕であるかは不明である。

遺物は出土していない。

SD834（遺構Ⅲ−76 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	(620)	84	35

切合　SP494、SP496、SP497、SK523、SK627･724、SK736>**SD834**>SD859

溝である。南北に長軸をもち、主軸方位はＮ − 2° − Ｅを測る。深さ 20㎝ほどの浅い溝に、長短の切石を並べている。切石の規模は幅 10 ～ 15㎝、長さ 40 ～ 70㎝、高さ約 10㎝の石を主体としている。覆土は円礫を多量に含み、しまりが強い。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SD835（遺構Ⅲ−76 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	(218)	77	34

切合　SD775>**SD835**

溝である。南北に長軸をもち、主軸方位はＮ − 87° − Ｗを測る。溝底には方形の平石を並べている。石の規模は一辺約 30㎝、高さは 10㎝の石を主体としている。

遺物は出土していない。

SP837（遺構Ⅲ−76 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	156	138	11

切合　SX555･4059>**SP837**>SU1266･4017

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形は皿状を呈する。遺存状態が悪い。内部には１辺 10 ～ 30㎝の礫を数個配しており、覆土はしまりが強い。

遺物は出土していない。

SD838・4013（遺構Ⅲ−77 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	E	(1555)	101	106

切合　SP824･4064、SP891、SU1266･4017、SK4048、SE4346、SP4492>**SD838･4013**>963、1077、SK1269、SK1270、SK4378、SD4379、SK4401、SD4518

溝である。南北に長軸をもち、東端は調査区外へ延びる。主軸方位はＮ − 90° − Ｅを測る。溝底には礎石を据えたピットが７基確認されている。礎石の規模は 40 ～ 50㎝、高さは 10 ～ 15㎝、ピット間の距離は約 190㎝を測る。礎石の上面の高さは概ね標高 21.1 ｍである。覆土中には円礫を多く含んでおり、しまりが強い。

遺物は、17 世紀中葉から後葉の陶磁器類が出土している。

SP845（遺構Ⅲ−78 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	66	(43)	101

切合　SD781>**SP845**>SK809、SP853

ピットである。平面形は隅丸方形で、断面形はＵ字状を呈する。内部には１辺 20㎝の切石を据えている。覆土は礫を多量に含んでおり、全体的にしまりが強い。

遺物は出土していない。

SD859（遺構Ⅲ−78 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	561	70	133

切合　SP494、SP496、SK523、SK627･724、SD834>**SD859**

溝である。SD834 の直下で検出されている。南北に長軸をもち、主軸方位はＮ − 2° − Ｅを測る。溝底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は黒色土を含んでおり、しまりがない。

遺物は出土していない。

SP860（遺構Ⅲ−78 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	73	54	84

切合　**SP860**>SK1159、SK1160

建物基礎遺構である。平面形は長方形で、断面形はＵ字状を呈する。覆土は焼土と円礫を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SP862（遺構Ⅲ−78 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	101	91	56

切合　SP657>**SP862**

建物基礎遺構である。平面形は円形で、断面形はＶ字状を呈する。内部には１辺 20 ～ 40㎝の礫を多量に配している。覆土は全体的にしまりが強く、上面には焼土

を多量に含んでいる。

遺物は出土していない。

SK865（遺構Ⅲ－78 図、遺物Ⅳ－ 35 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	(155)	(111)	65

切合　SK518･519、SP864、
SD888>**SK865**>SD870･980･4498

土坑である。東側を SK518･883 に切られているため、平面形は不明、断面形は逆台形を呈する。坑底は比較的平坦で、南側に一部テラス状の平坦部をもち立ち上がる。覆土は全体的にしまりが強い。

遺物は、17 世紀前葉の陶磁器類が出土している。

SD870・980・4498（遺構Ⅲ－79 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	F	(2338)	120	154

切合　SP487･507、SK518･519、SK539･4225･4254、SP595、SK662、SP677、SK813、SK865、SD888、SK984、SK994、SK1007、SK1047、SK1050、SP1095、SP4220、SK4246、SD4353、SK4400、SK4512、SB4517、SK4556、SK4682、SK4742>**SD870･980･4498**>4388、SP4533、SP4579

調査区を横断する溝である。南北に長軸をもち、主軸方位は N － 84° － W を測る。断面形は深い U 字状を呈しており、b-b' では柱痕が確認されている。溝底にはピットが 14 基確認されている。ピットの形状は概ね楕円形、深さは 5 ～ 15cm、ピット間の距離は 150 ～ 160cmを測る。大半のピットには 1 ないしは複数個の礫が確認されており、礫は一辺 10 ～ 40cm、高さは約 10cmである。覆土はローム粒・ロームブロックが主体である。

遺物は、17 世紀前葉から後葉の陶磁器類が出土している。

SK871（遺構Ⅲ－80 図、遺物Ⅳ－ 35 ～ 37 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	526	164	120

切合　SP583、SK584、SK609、SP610、SP616、SP719、SK725、SK761、SK858>**SK871**

土坑である。平面形は長方形で、断面形は箱状を呈する。主軸方位は N － 86° － W を測る。坑底には南西隅を除く四隅に 1 辺 10 ～ 20cmの方形のピットが確認される。壁面と坑底には炭化した木片が残存しており、坑底には釘が残存している。壁面にも多数の釘痕が残存していることから、木製の箱が設置されていたことが窺える。木箱の規模は長軸 360cm、短軸 140cm、高さは約 60cmを測る。

掘方は木箱より一回り大きく、長方形の入れ子になった形状で、内部に一段深い掘り込みが存在しており、掘方の断面は逆凸状を呈する。上段の掘り込み西南隅には径 40cm、深さ 30cmのピットが 1 基確認されている。掘方の規模は長軸 520cm、短軸 152cm、深さ 80cm、内側の掘り込みは長軸 414cm、短軸 100cm、深さ 38cmを測る。内側の掘り込みは木箱の大きさと異なっており、木箱の下に内側の掘り込みが位置していることから、最初に内側の掘り込みの土坑を使用していた後、新しく木箱を設置するため作り替えた可能性が考えられる。

遺物は、かわらけが多数と 17 世紀中葉の陶磁器類、釘などが出土している。

SK882（遺構Ⅲ－81 図、遺物Ⅳ－38 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	(83)	(78)	46

切合　SK809>**SK882**>SK883

土坑である。平面形は円形、断面形はやや開いた U 字状を呈する。覆土は単層でロームと小礫を含んでおり、しまりが弱い。

遺物は、17 世紀前葉の陶磁器片と金属製品が出土している。

SK883（遺構Ⅲ－81 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	D	166	(92)	124

切合　SK627･724、SK704、SD781、SK809、SP846、SP852、SK882>**SK883**

土坑である。西側は SK627･724 に切られているため、平面形は不明、断面形は U 字状を呈する。坑底は比較的平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。坑底には工具痕が観察される。覆土は 5 層に分層され、上面はしまりが強い。土層中央に幅 15cmの柱痕が確認されている。

遺物は出土していない。

SD888（遺構Ⅲ－81 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	(841)	75	104

切合　SP477－1、SK518･519、SP526、SP527、SP597、SP640、SP699、SP764、SK918>**SD888**

溝である。南北に長軸をもち、断面形は箱状を呈する。

主軸方位はＮ－3°－Ｅを測る。溝底には1辺10～30cmの礫が数点確認される。深さは本遺構を切るSK518・519をはさんで南側の方が30cmほど深い。覆土は小礫を多量に含んでおり、しまりが弱い。南端では60cmほど西側に溝幅が広がり、深さも約20cm深くなる箇所がみられるが、深い部分は主軸方位がわずかに西に振れているため、別遺構である可能性が高い。

遺物は出土していない。

SK889（遺構Ⅲ－81図、遺物Ⅳ－38図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	119	(105)	80

切合　SK518･519、SK865、SK884、SD888、SP890>**SK889**

土坑である。西側をSK881に切られているため平面形は不明、断面形は箱状を呈する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は全体的にしまりが弱く、3層は炭を多量に含んでいる。

遺物は、胎土が白色系の手づくねかわらけが出土している。

SP891（遺構Ⅲ－82図、遺物Ⅳ－38図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	(149)	(133)	56

楕円形を呈していると思われる建物基礎遺構である。遺構の西側は、大学時代の撹乱、南側を本地点の試掘溝によって削平されている。坑底にはバレーボール大の自然石を配し、小形の自然石、砂利と土と共に強く転圧している。坑底は鍋底状を呈しているが、転圧によって石がめり込んでいる。覆土は、2層に分層されるが、いずれもしまりが強い層である。

遺物は、17世紀前～中葉の陶磁器類、瓦、金属製品が出土している。

SP895（遺構Ⅲ－82図、遺物Ⅳ－38図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	(101)	67	43(80)

切合　SX605>**SP895**

楕円形を呈している建物基礎遺構である。遺構の東側は、大学時代の共同溝埋設溝、上部および南側をSX605によって削平されているが、本来の遺構平面形は円形であろうと思われる。坑底にはバレーボール～ハンドボール大の切石、自然石を配し、やや小形の切石、砂利と土と共に強く転圧している。坑底は鍋底状を呈しているが、転圧によって石がめり込んでいる。覆土は、3層に分層されるが、いずれもしまりが強い層である。

遺物は、17世紀前～中葉の陶磁器類が出土している。

SP899（遺構Ⅲ－82図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	(98)	(80)	53

切合　SX555･4059>**SP899**>SP981

ややいびつな円形を呈している建物基礎遺構である。遺構の東側は、大学時代の共同溝埋設溝によって削平されている。坑底にはハンドボール大の切石、自然石を配し、やや小形の切石、砂利と土と共に強く転圧している。坑底は鍋底状を呈しているが、転圧によって石がめり込んでいる。覆土は、しまりが強い灰褐色土単層である。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP900・1087（遺構Ⅲ－82図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	96	(84)	24

切合　SK520、SX806>**SP900・1087**

ややいびつな円形を呈している建物基礎遺構である。坑底にはハンドボール大の切石を配し、砂利と土と共に強く転圧している。坑底は鍋底状を呈しているが、強い転圧によって石がめり込んでいる。覆土は2層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP918（遺構Ⅲ－82図、遺物Ⅳ－38図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	113	104	54

切合　**SP918**>SD888

平面形ややいびつな円形を呈する土坑である。坑底や壁は、凹凸が確認されるものの、それほど顕著ではない。壁は、鍋底状の坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は4層に分層される。

遺物は、陶磁器類、銭貨が少量出土している。

SP919（遺構Ⅲ－82図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	100	(87)	96

切合　SX806、SP885、SP886>**SP919**

円形を呈すると思われるピットである。遺構の東側はSX806、SP885によって切られている。遺構中央にはしまりのない柱と推定できる痕跡が確認されている。本遺構の軸上には、遺構の中心間で約170cm北に明瞭な柱痕が確認されるSP981があり、規模や形状などが類似

していることから同時期に機能していた可能性がある。坑底や壁は、凹凸が確認されるものの、それほど顕著ではない。壁は、坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層され、中央に柱痕とその周囲にはしまりの強い層が堆積している。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SK933（遺構Ⅲ−83図、遺物Ⅳ−38図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	109	75	76

切合　SK934>**SK933**>SK938、SD939

ややいびつな楕円形を呈する土坑である。本遺構の軸延長上には、北側からSK942、SK933、SK936、SK984、SK994、SK946、SK1079があるが、さらに大学時代の共同溝埋設溝を挟んでSK1151、SK1152、SK1037、SK1054、SK1028、SK1051、SK1018、SK967、SK883、SK831は形態や規模などが近似していることから、同時期に機能していた可能性が高い。これらのうちSK831、SK1018などは明瞭に柱痕が確認されていることから、塀列など同一の施設を構成していたことが想定される。坑底や壁は、凹凸が確認されるものの、それほど顕著ではない。西壁は、坑底からほぼ垂直に、その他はやや開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SK938、SK940·941、SK961
（遺構Ⅲ−83図、遺物Ⅳ−39、40図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	−	−	−	−

切合　SK892、SK931、SK933、SK934、
SK940·941、SP962、SP1006、
SD1062·4687>**SK938**>SK942、**SK961**、
SK1069

SK940·941、SK961は方形あるいは長方形、SK938は張り出しを持った長方形を呈する土坑である。3遺構はN−5°−W軸を共有して上下に切り合いを持っている。共に東側を大学時代の共同溝埋設溝によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。SK940·941とSK961はほぼ同じ位置で上下に切り合いを持っている。SK938を含めて土層の堆積状況は、砂質土を多く含む特徴的な土で構成される点、南壁に遺構の構造や使用に関係するような立ち上がりが確認される近似した様相を呈しており、この3遺構は同じ機能の遺構の作り替えや拡張によるもの、あるいは同じ遺構の構造上の違いによるものかも知れない。SK938の坑底は、南東側が40cmほど低くなっている。各遺構の坑底や壁は、いずれも凹凸を有しており、南壁は坑底よりほぼ垂直、その他はやや開いて立ち上がっている。覆土は、しまりが強く、灰色の砂質を多く含む特徴的な土で構成されている。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類、瓦、金属製品などが出土している。特にいずれの遺構からも金箔瓦が多く出土している。

SD939（遺構Ⅲ−84図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	F	(553)	65	89

切合　SK503、SP899、SK933、SK934、SK954、
SP962、SP981、SK995、SP1006、
SK1068>**SD939**

N−82°−Wの主軸を有する溝である。重複しているE〜F面の遺構全てに切られ、全体の様子は復元できない。遺構東端はSP899とSP981によって、西端はSK954とSK1068によって切られている。西の延長上にはこれらの遺構を挟んでSD1032·4685があり、本遺構と同時期に機能していた可能性が高い。坑底には径30cm程度の小さな落ち込みが3箇所確認されているが、深さは坑底より5cm程度しかなく、柱などの施設はできない。溝底や壁は、多くの凹凸が確認され、壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。覆土は4層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SP943（遺構Ⅲ−83図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	E	98	44	56

切合　**SP943**>SD1180、SK1181

N−84°−Eの主軸を有する長方形のピットである。坑底には、東西50cm、南北30cm、厚さ5cm程度の長方形を呈する平石が置かれている。土層の観察から石上から柱痕と考えられるしまりのない土層が観察された。ただし、本遺構の周囲にはこれと伴うような遺構は確認されていない。坑底や壁は、比較的平滑に調整され、壁は、坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は2層に分層され、柱痕周囲の2層はしまりが強い。

遺物は出土していない。

SK950（遺構Ⅲ−84図、遺物Ⅳ−40図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1·2	E	(294)	(267)	100

切合　SK539·4225·4254、SP559、SD664、

SK924>**SK950**

ややいびつな円形を呈する不整形の土坑である。E 面で重複する全ての遺構より旧で、SK539･4225･4254 に切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底や壁は凹凸が顕著で、坑底の中央がやや盛り上がっており、樹木の移植痕に特徴的な状況が看取される。壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。覆土は 10 層に分層されるが、ローム粒子、ロームブロックを多く含んでいる。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類、銭貨が少量出土している。

SD952（遺構Ⅲ−85 図、遺物Ⅳ − 40 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	D	(199)	(52)	33

切合　SP557、SK592、SP677、SD958、
SP4055>**SD952**>SK977、SK978・4290

変形の長方形を呈する溝状遺構である。遺構の上部、周囲には建物基礎遺構が複数存在し、その転圧によって本遺構の土層観察が非常に困難であった。主軸は、N − 80° − W である。遺構の東壁は、東南隅から約 120cm 幅で、南側に 20cm ほど張り出した様な形状を呈している。坑底や壁は細かな凹凸は確認できるものの、それほど顕著ではない。壁は、坑底からやや開いて立ち上がっている。遺構の性格は不明である。覆土は 2 層に分層される。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SK953（遺構Ⅲ−85 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	(190)	165	183

切合　**SK953**>SK954、SK1029

N − 80° − E の主軸を有する長方形の土坑である。確認面下約 130cm の位置で、10 ～ 15cm のテラス状の段を有している。段の四隅には奥に向かって木組を支える施設を作り出している。この施設の構造は一定ではないものの、土層の観察から木が腐食した痕跡が空洞となって確認されている（土層図参照）。井桁状にテラスの上に木が組まれていた可能性が考えられる。坑底は方形を呈し、テラス下約 50cm に東西 135cm、南北 105cm を測る。坑底や壁は細かな凹凸は確認できるものの、それほど顕著ではない。壁は、坑底やテラスから垂直に立ち上がっている。遺構の性格は不明である。覆土は 5 層に分層されるが、砂質分が強い特徴的な土で構成されている。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SK954（遺構Ⅲ−85 図、遺物Ⅳ − 41 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	179	(104)	79

切合　SK953>**SK954**>SD939、SK1068、SK1029

いびつな長方形を呈していると思われる土坑である。遺構の西側を SK953 に切られ、全体の様子は復元できない。坑底や壁は細かな凹凸は確認できるものの、それほど顕著ではない。壁は、坑底かほぼ垂直に立ち上がっている。遺構の性格は不明である。覆土は 3 層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SK955・4671（遺構Ⅲ−85 図、遺物Ⅳ − 41 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	G	135	85	28

切合　SK539･4225･4254>**SK955･4671**

不整形の土坑である。坑底北側には 4 基の小ピットが、また、西壁際には遺構掘削時の工具痕と推定される方形の調整痕が確認されている。坑底や壁は凹凸が顕著で、壁は坑底より開きながら立ち上がっている。遺構の性格は不明である。覆土は 2 層に分層されるが、灰が多く含まれている。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SD958（遺構Ⅲ−86 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	D	(684)	74	33

切合　SP476 − 3、SP541、SP556、SP557、
SP570、SK592、SP677、SK678、SK811、
SK812、SK813、SP825、SP867、SP4259、
SK4260>**SD958**>SD679･951、SP864、SD952、
SK977

東西に主軸を有するが、やや左方向にカーブしている浅い溝である。遺構東端は SP476 によって切られ、また、西端は後に行われたⅣ次調査時には確認できなかったことから、遺構全体の様子は復元できない。また、溝の延長上にも関連性を想起できる遺構なども確認されていない。遺構が浅いので、溝底や壁の状況の詳細は不明である。壁は坑底より開きながら立ち上がっている。

遺物は出土していない。

SP962（遺構Ⅲ−85 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	D	(87)	75	10

切合　SX555･4059、SK686、SP850>**SP962**

円形を呈していたと思われる建物基礎遺構である。遺構南側をSK686に削平されている。坑底中央大きめの自然石や切石を配し、やや小型の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底はやや平坦であるが、強い転圧によって坑底より石がめり込んでいる。覆土は黄褐色土単層である。

遺物は出土していない。

SK967（遺構Ⅲ−86図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	E	147	101	95

切合　SP966、SK975>**SK967**>SD1019、SK1027、SK1144

N−12°−Eの主軸を持つ平面形長方形の土坑である。同軸上に並ぶ、SK1151、SK1152、SK1037、SK1054、SK1028、SK1051、SK1018、SK967、SK883、SK831は形態や規模などが近似していることから、同時期に機能していた可能性が高い。このうち本遺構、SK831、SK1018などは明瞭に柱痕が確認されていることから、塀列など同一の施設を構成していたことが想定される。坑底や壁は、凹凸が確認されているものの、それほど顕著ではない。東西壁は坑底よりほぼ垂直に、南北壁は開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層されるが、1層は柱痕であると推定される。

遺物は出土していない。

SK978・4290（遺構Ⅲ−157図、遺物Ⅳ−41図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	D	(366)	(283)	60

切合　SK539･4225･4254、SP557、SD952、SK977、SP4055、SP4219、SP4220、SP4243、SK4246、SP4249、SP4275、SP4292、SE4296>**SK978・4290**>SP4262、SP4500、SK4702、SP4703、SP4704

ややいびつな円形を呈する土坑である。坑底や壁は凹凸を有し、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、6層に分層されるが、全体的にしまりが弱い。遺構中央にSE4296があり、あるいはこの井戸の付帯施設の可能性もある。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類、瓦、金属製品などが出土している。

SK984（遺構Ⅲ−86図、遺物Ⅳ−41図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	(111)	(66)	119

切合　SK686、SK869>**SK984**>SD870･980･4498

不整形の土坑である。遺構の北側をSK869に切られている。坑底は北側が一段下がっている。坑底や壁は凹凸が顕著で、壁は坑底より凹凸を有しながら垂直に立ち上がっている。遺構の性格は不明である。覆土は3層に分層されるが、いずれの層もしまりが強い。

遺物は、金属製品などが少量出土している。

SE990（遺構Ⅲ−87図、遺物Ⅳ−41図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
5･6	F	84(126)	81	(174)

円形を呈するやや小型の素掘りの井戸である。東、西壁には足掛けと推定される小穴が40cmピッチで、調査した確認面下170cmまでに各々4基ずつ相対するレベルで設けられている。小穴は、おおむね横長の長方形を呈し、奥へ20cm程度掘り込まれている。覆土は、4層に分層されるが、粒子の細かい黒褐色土が主体的に構成される。桶の痕跡は確認できなかった。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が出土している。

SK1004（遺構Ⅲ−86図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	F	117	67	92

切合　SK871>**SK1004**

N−2°−Wに主軸を持つ長方形の土坑である。坑底中央やや南壁寄りには一辺35cmで20cm程度の方形の落ち込みが存在する。坑底や壁は凹凸が認められるものの、それほど顕著ではない。壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。遺構の形態から建物や境施設の柱であることが推定されるが、遺構の延長上には関連すると推定できる遺構は確認できない。覆土は4層に分層されるが、柱痕などは明確ではなかった。

遺物は出土していない。

SP1006（遺構Ⅲ−87図、遺物Ⅳ−41図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	55	44	48

切合　**SP1006**>SK938、SD939

ややいびつな楕円形のピットである。坑底は東側が10cm程度下がっている。また、遺構の周囲には関連すると推定される遺構は確認できない。坑底や壁は凹凸が認められ、壁は坑底より開きながら立ち上がっている。

遺物は、砥石が出土している。

SK1007（遺構Ⅲ−87図、遺物Ⅳ−41図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	179	57	34

切合　**SK1007**>SD870･980･4498、SK969、SK994

Ｎ−5°−Ｅに主軸を持つ長方形の土坑である。本遺構の延長上には関連すると推定できる遺構は確認できない。坑底や壁は凹凸が認められるものの、それほど顕著ではない。壁は丸い坑底よりやや開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層されるが、いずれもしまりがない。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類、銭貨が少量出土している。

SK1008（遺構Ⅲ−87図、遺物Ⅳ−42図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	(343)	(327)	131

切合　SP891、SK930>**SK1008**>SD1060、SD1061、SK1106

ややいびつな円形を呈する樹木の移植痕と推定される土坑である。重複しているSD1060、SD1061、SU1266･4017などによって壁の一部が削平されている。坑底や壁は、大きな凹凸が認められ、壁はやや中央が盛り上がる坑底より開きながら立ち上がっている。本遺構の形態、規模、坑底や壁の状況、覆土の堆積状況から樹木の移植痕と推定される。覆土は8層に分層されるが、中〜下層(2〜8層)はロームブロックや土が主体である。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が出土している。

SK1011（遺構Ⅲ−87図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	G	152	149	124

切合　SK842、SK1012、SD1040、SD1211･4426>**SK1011**>SK1248

ややいびつな隅丸方形を呈する土坑である。遺構の南を大学時代の撹乱とSK1012に切られている。坑底や壁は、やや大きな凹凸が認められ、壁はフラットな坑底より、ほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は出土していない。

SK1012（遺構Ⅲ−87図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	F	(117)	(44)	71

切合　**SK1012**>SK1011、SD1211･4426、SK1248

円形を呈すると思われる土坑である。大学時代の撹乱に切られ、全体の様子は復元できない。坑底や壁は、やや凹凸が認められるものの、それほど顕著ではない。壁はフラットな坑底より、ほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層され、上層（1層）はしまりが強い。

遺物は出土していない。

SD1019（遺構Ⅲ−88図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	F	812	148	23

切合　SK523、SK561、SK609、SK858、SD859、SK863、SP877、SK879、SK973、SK1016、SP1018>**SD1019**>SK1051、SK1081、SK1144、SP1145、SP1203、SD1211･4426、SK1221、SP1222、SP1223、SP1224、SP1226、SP1249、SP1251

Ｎ−9°−Ｅの主軸を持つ浅い溝である。重複関係にある遺構に切られ、遺構全体の様子は復元できない。また、本溝の延長上には関連すると推定できる遺構は確認できない。坑底や壁はやや凹凸を有するものの、それほど顕著ではない。覆土はほぼロームで構成される。

SP1021（遺構Ⅲ−88図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	F	55	46	40

切合　SP1021>SK1192

円形を呈するピットである。坑底中央には一辺20cmの方形の平石が置かれている。ただ、本遺構の周囲に関連が想定できる遺構は確認されていない。坑底や壁は、凹凸が少なく、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は褐色土単層である。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SK1022（遺構Ⅲ−88図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	F	179	167	57

切合　SP907>**SK1022**>SK1070

円形を呈するピットである。坑底や壁は、凹凸が顕著で、壁は起伏の多い坑底から開きながら立ち上がっている。坑底、壁の状況、平面形や規模から樹木の移植痕であろうと推定される。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP1026（遺構Ⅲ−88図、遺物Ⅳ−42図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3･4	F	50	50	33

切合　SP914>**SP1026**

方形を呈するピットである。本遺構の周囲に関連が想定できる遺構は確認されていない。坑底や壁は、凹凸が少なく、壁は鍋底状の坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は褐色土単層である。

遺物は、滴水瓦が出土している。

SK1028（遺構Ⅲ−88 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	F	105	78	93

切合　SK902>**SK1028**>SK949、SD1211･4426

土坑である。平面形は南北に長軸を持つ長方形で、断面形は箱形を呈する。坑底は平坦だが、壁は凹凸があり未調整である。覆土は主にローム粒、ロームブロックで構成される。

遺物は出土していない。

SD1032・4685（遺構Ⅲ−89 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	F	(1381)	125	119

切合　SK1030、SK1031、SK1064、SD4297、SK4535、SK4554、SK4560、SK4569、SK4571、SP4672、SK4686>**SD1032・4685**>SK4520、SK4553、SP4555、SK4578、SP4580、SE4581、SK4582

N − 83° − W を主軸に持つ溝で、調査区を西端から中央部あたりまで確認されている。遺構の 3 箇所を大学時代の管埋設溝によって削平されている。本遺構東端を切っている SK1029、SK1030 などを挟んで東延長上にある SD939、北側直角に折れる SD1060、SD4379 は同時期に機能していた可能性がある。西端から 4 個の礎石として利用したと思われる平石が約 10 ～ 20cm 程度浮いた状態で確認された。石の間隔は、西端の石から 95cm、110cm、112cm で、それ以東には確認できなかった。平石上部には柱痕と考えられるしまりのない土層（実測図 a-a'4 層、b-b'1、2 層）が確認され、塀状の施設の基礎遺構であると推定される。溝底や壁は、細かい凹凸が確認されるが、顕著ではない。壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SP1035（遺構Ⅲ−90 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	38	38	44

切合　**SP1035**>SD1062･4687

建物基礎遺構である。平面形は方形で坑底に一辺約 30cmの礫が据えられている。坑底は平坦で壁は垂直に立ち上がる。

遺物は出土していない。

SD1040（遺構Ⅲ−90 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3･4	F	(1117)	57	50

切合　SK466、SK552、SK715、SD759、SK842、SK902、SK929、SP1052、SK1054、SP1200、SP4121>**SD1040**>SK1011、SK1195、SK1196、SK1243

N − 83° − W を主軸に持つ溝で、調査区を東端から中央部あたりまで確認されている。SD759、SK929 に切られ、また、東端は調査区域外であることから全体の様子は復元できない。本遺構の南約 60cm 離れて並行する溝 SD1211･4426 は、同時期に機能していた可能性がある。SK929 と重複する位置以西では、北側に 20cm、深さ 10cm 程度のテラス状の段が確認されている。溝底や壁は、やや凹凸が確認されるが、顕著ではない。壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。

遺物は出土していない。

SP1043（遺構Ⅲ−90 図、遺物Ⅳ−42 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	F	88	60	36

楕円形を呈するピットである。坑底中央は南北方向にやや盛り上がっている。坑底や壁凹凸が確認され、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、茶褐色土単層である。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が少量出土している。

SK1050（遺構Ⅲ−90 図、遺物Ⅳ − 42 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	(131)	89	59

切合　SK1048、SK1049>**SK1050**>SD870･980･4498、SK1104

ややいびつな隅丸方形を呈する土坑である。坑底や壁は細かな凹凸が確認されるが、それほど顕著ではない。壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、暗褐色土単層である。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SK1054（遺構Ⅲ−90 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	F	107	93	66

切合　SK902>**SK1054**>SD1040、SP1209

ややいびつな隅丸方形を呈する土坑である。西、南側に若干外側に膨らんでいる。同軸上に並ぶ、SK1151、SK1152、SK1037、SK1054、SK1028、SK1051、SK1018、SK967、SK883、SK831、さらに北側には大学時代の共同溝埋設溝を挟んでSK942、SK933、SK936、SK984、SK994、SK946、SK1079が並んでおり、これらは形態や規模などが近似していることから、同時期に機能していた可能性が高い。このうちSK831、SK1018などは明瞭に柱痕が確認されていることから、塀列など同一の施設を構成していたことが想定される。坑底や壁は凹凸が確認され、壁はやや丸みを持った坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、4層に分層される。

遺物は出土していない。

SK1063（遺構Ⅲ−91図、遺物Ⅳ − 42図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	(490)	183	53

切合　SX605、SK892、SP893、SK898、
SK1059>**SK1063**

隅丸長方形を呈する土坑である。遺構の北東を大学時代の共同溝埋設溝によって削平されている。坑底や壁は、凹凸が顕著で、壁はやや開きながら立ち上がっている。坑底には杭などの打ち込みによるとみられる小ピットが20基程度確認されているが、本遺構に伴うか不明である。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀前〜中葉の陶磁器類、銭貨などが出土している。

SK1064（遺構Ⅲ−91図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1·2	E	336	309	129

切合　SK540·4291>**SK1064**>SK1031、SD1032·4685、
SD1062·4687、SK4686

円形を呈する植栽痕と推定される土坑である。坑底や壁は、凹凸が顕著で、壁は開きながら立ち上がっている。中央には直径約40cmの小穴が認められた。覆土は5層に分層され、壁から中央に向かって埋められている。遺構の坑底や壁の状況、土層の堆積から植木の移植に伴う遺構と推定される。

遺物は出土していない。

SK1070（遺構Ⅲ−91図、遺物Ⅳ − 43図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	F	220	(190)	77

切合　SP582、SKSK1022>**SK1070**>SK1198

円形を呈する植栽痕と推定される土坑である。遺構の北側をSK1020に切られている。坑底や壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SD1071・4299（遺構Ⅲ−92、93図、遺物Ⅳ − 43図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1·2·3	D	(2433)	142	65

切合　SP482、SP483、SP485、SP500、SP501、
SP502、SP533、SP534、SP536、SP537、
SP538、SP574、SP575·1014、SP577、SP579、
SP747、SP779、SP780、901、SP905、
SK906、SK910、SE4075、SP4079、SP4080、
SP4081、SP4082、SP4102、SD4301、SP4305、
SP4316>**SD1071·4299**

N − 83° − Wを主軸に持つ石組溝と推定される遺構で、調査区を東西に横断している。切り合っている全ての遺構より旧である。遺構中央に大学時代の防火水槽、共同溝埋設溝に大きく削平され、また、東西端は調査区域外であること、廃棄時に石を抜き取られ、作り替えられた溝SD4301によって上部が切られていることなどから全体の様子は復元できない。遺構の主軸、溝底レベル、構造などから、本遺構が石組溝の南側、本遺構の北側約30cm離れて並行する溝SD1072·4300が本遺構の北側で、同時期に機能していたと考えている。北側のSD1072·4300ほど顕著ではないが、溝の北壁に沿って幅30〜50cm、深さ20cmほど下がっている。土層の観察ではこの小溝部分にしまりの弱い土層が観察されなかったことからSD1072·4300のように胴木を石積みの基礎としていたのか明確ではない。また、南側の立ち上がりもSD1072·4300北側よりレベルが低く、この両溝を挟んで藩邸北側が一段高くなっていたと判断できる。南壁側の構築状況も石積みの高さが低かったせいかSD1072·4300よりは簡易で、互層にして突き固めていた様子は看取できなかった。溝底や壁は、比較的平滑に整形されており、壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。

遺物は、17世紀前〜中葉の陶磁器類、瓦などが出土している。

SD1072・4300（遺構Ⅲ−92、93図、遺物Ⅳ − 44図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1·2·3	D	(2430)	154	157

切合　SP517、SP532、SP533、SP534、SP537、

SK564·778、SP575·1014、SP576、SK593、SP747、SK800、SK814、901、SP912、SK923、SK928、SP4070、SP4074、SE4075、SP4081、SP4090、SP4106、SP4177、SP4178、SK4232、SP4239、SP4248、SP4253、SP4256、SP4266、SP4293、SD4301、SK4306>**SD1072·4300**

N－83°－Wを主軸に持つ石組と推定される溝で、調査区を東西に横断している。切り合っている全ての遺構より旧である。遺構中央に大学時代の共同溝埋設溝に大きく削平され、また、東西端は調査区域外であること、廃棄時に石を抜き取られ、作り替えられた溝SD4301によって上部が切られていることなどから全体の様子は復元できない。これら溝の上部には、SD4301が元禄16（1703）年の焼土とその上面に部分的に宝永火山灰、本遺構上部がおそらく天和2（1682）年の火災層がそれぞれ確認されている。

溝の南側は壁に沿って幅40cm、深さ20cmほど下がっている。土層の観察からこの小溝部分南側は腐食した木部を含むしまりがない層（土層図a-a'1～3層、b-b'9層、c-c'6層）、北側部分はしまりが強い層（a-a'4～5層、b-b'10層、c-c'5層）で構成され、おそらく上部に積まれた石組みの胴木が設置してあったと推定している。また、壁側は、剥片状の礫を多く含む層と黒色土を互層に強く固められている。これは間知石を使って積み上げる石組みに特徴的にみられる土層で、目地を通った石積みを一段積み上げるごとに後込めも突き固める工法によるものと推定している。南側では多くの栗石として使ったと思われる剥片状の加工礫が確認されている。遺構の主軸、溝底レベル、構造などから、本遺構が石組溝の北側で、本遺構の南側約30cm離れて並行する溝SD1071·4299が石組溝の南側で、両遺構は同時期に機能していたと考えている。溝底や壁は、凹凸が認められるが、それほど顕著ではない。壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。

遺物は、17世紀前～中葉の陶磁器類、瓦などが出土している。

SK1091（遺構Ⅲ－91図、遺物Ⅳ－44図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	E	90	45	45

ややいびつな長楕円形を呈する土坑である。遺構の主軸はN－83°－Wで、SD1071·4299とSD1072·4300間にある。この両者との関係は不明である。坑底や壁は凹凸があり、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は2層に分層される。

遺物は、瓦が多く出土している。

SK1104（遺構Ⅲ－91図、遺物Ⅳ－45図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	F	85	(65)	85

切合　SK1050>**SK1104**>SK1105

N－5°－Eに主軸を持つ方形の土坑である。遺構の東側を大学時代の共同溝埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。本遺構の西側延長上には溝底に礎石を伴う溝SD870·980·4498があり、本遺構と同時期に機能していた可能性が高い。坑底や壁は、凹凸が顕著で、壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は4層に分層される。

遺物は、17世紀前～中葉の陶磁器類が出土している。

SD1128（遺構Ⅲ－94図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3	G	(548)	45	16

切合　SK347、SD444、SK809、SK883、SK967、SK1027>**SD1128**>SK4036

N－2°－Eに主軸を持つ溝列で、7本平行に確認された。東側には同じ軸で形状などが近似するSD4031があり、両遺構合わせて溝が13本確認された。これらの溝はいずれも交差していない点、溝底、壁は凹凸が顕著で、溝幅なども一定ではない点などから、耕作痕の可能性も考えられる。壁は溝底から開きながら立ち上がっている。覆土は、江戸時代前期に特徴的な黒褐色土を呈している。

遺物は出土していない。

SK1134（遺構Ⅲ－94図、遺物Ⅳ－45図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
3·4	E	(209)	156	48

切合　SP562、SP563、SK588、SP829>**SK1134**

N－7°－Wに主軸を持つややいびつな長方形の土坑である。遺構の南側を大学時代の共同溝埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底や壁は凹凸が認められるもののそれほど顕著ではない。壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SP1135（遺構Ⅲ－94図、遺物Ⅳ－45図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	E	161	69	81

切合　SP828>**SP1135**>SK1235

N － 17° － W に主軸を持つ長楕円形のピットである。周囲には同軸の遺構はなく、遺構の性格も不明である。坑底、壁は凹凸があり、坑底より東壁は垂直に、西壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は、3 層に分層される。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SD1148・4669・4674（遺構Ⅲ－95 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･3･4	G	(1809)	88	91

切合　SP573、SP577、SK1147、SK1149、SK1150、SP1155>**SD1148･4669･4674**>SP1264、SP4755

N － 83° － W を主軸に持つ溝である。遺構中央が大学時代の防火水槽、撹乱に大きく削平され、また、東西端は調査区域外であることから全体の様子は復元できない。溝底には、約半間間隔で深さ 40cm、長さ 30 ～ 40cm の長方形のピットが 5 基確認されており、これら遺構の構造から板塀など境施設の基礎であろうと推定される。溝底や壁は、凹凸が顕著で、壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。覆土は、5 ～ 7 層に分層されるが、全てしまりが強い層で構成されている。

遺物は、陶磁器類が少量出土しているのみである。

SK1150（遺構Ⅲ－95 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	G	91	52	53

切合　SD4301>**SK1150**>SD1148･4669･4674

N － 83° － W を主軸に持つ隅丸長方形を呈するピットである。同じ軸上に、遺構の形状や規模などが近似した SK1149、SK1156、SK1264、SK4755 などが 1 間間隔で並び、塀状の施設に伴うものと判断される。また、遺構の南側を SD1148･4669･4674、北側を SD1071･4299 が平行して並んでいるが、SD1148･4669･4674 内にある小ピットとは位置がずれており、本柱と控柱の関係ではない。坑底や壁は、凹凸があり、壁は坑底からやや開いて立ち上がっている。覆土は、5 層に分層されるが、ローム土と角礫を含んだしまりのある黒褐色土が互層となっている。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が少量出土している

SD1180（遺構Ⅲ－94 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	F	328	50	37

切合　SK909、SP943、SK1027、SK1181>**SD1180**

N － 5° － E を主軸に持つ浅い溝である。本遺構の周囲には F 面で確認された同主軸を持つ溝が多数確認されており（SD444、SD1128、SD4031 など）、かつこれらは交差していないことから、耕作畝痕の可能性も考えている。溝底や壁には凹凸が顕著で、壁は溝底から連続して立ち上がっている。覆土は 3 層に分層される。

遺物は出土していない。

SD1211・4426、SP4624、SP4634（遺構Ⅲ－96 図、遺物Ⅳ－ 45 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3･4	F	(2380)	103	82

切合　SK466、SD759、SK929、SK1012、SP1015、SK1016、SD1019、SK1028、SP1036、SK1051、SP1186、SP1226、SP1227、SP1228、SP1240、SK1244、SK1246、SK1247、SD4278、SK4460>**SD1211･4426**>SK1011、SK1248、**SP4624**、**SP4634**、SK4644、SP4646、SP4655、SE4705、SP4736

SD1211･4426>**SP4624**

SD1211･4426、SD4278>**SP4634**

SD1211･4426 は、N － 83° － W を主軸に持つ溝である。多くの遺構と重複していることで削平を受けており、特に遺構西側は大学時代の共同溝埋設溝によって大きく撹乱されている。溝底には、約半間間隔で深さ 10 ～ 25cm、径 20 ～ 25cm 程度の円形ピットが 9 基（東から SD1211･4426 － 7、SD1211･4426 － 6、SD1211･4426 － 5、SD1211･4426 － 4、SD1211･4426 － 3、SD1211･4426 － 2、SD1211･4426 － 1、SP4624、SP4634）確認されており、これらの構造から板塀など境施設の基礎であろうと推定される。溝底は西から東に向かって緩やかに傾斜しており、この傾斜は当時の生活面を反映していると考えられる。溝底や壁は、凹凸が顕著で、壁は坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は、5 層に分層されるが、中位には塀の柱を固定するためと推定される礫を多く含む層が確認される。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SU1266・4017（遺構Ⅲ－97 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	(300)	297	153

切合　SX555･4059、SP823、SP824･4064、SP837、SD4016、SK4063、SK4048>**SU1266･4017**

室部に階段が付く構造の地下室である。遺構の北側を

大学時代の共同溝埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。主軸はＮ－5°－Ｗである。階段は東から降るように、幅140cm、ステップ長25～30cm、一段のステップ高25cm程度で6段分確認された。階段下には120cm、南北170cmの入口部があり、壁周囲には深さ15～30cmの小ピットが東側に4基、階段下北に1基の合計5基確認されている。入口部が開口しておりその奥（北）側から天井があったと考えている。室部の幅は東西に広がり240cmを計測する。坑底、壁、階段は、丁寧に平滑に調整されており、各面は直角に整形されている。覆土は、5層に分層されている。

遺物は、18世紀後半の陶磁器類が出土している。

SE2001（遺構Ⅲ－97図、遺物Ⅳ－45、46図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	98	88	170

円形を呈する素掘りの井戸である。上部を大学時代の撹乱によって削平されている。調査は確認面下220cmまで行った。壁には東、南、北壁には足掛けと推定される小穴が30～50cmピッチで、東壁に4カ所、南壁に3カ所、北壁に1カ所相対して設けられている。小穴は、おおむね横長の長方形を呈し、奥へ10cm程度掘り込んでいる。覆土は、3層の分層されるが、本郷邸前期に特徴的な黒～暗褐色土層であった。

遺物は、17世紀前～中葉を中心とした陶磁器類が出土している。

SD2002（遺構Ⅲ－98図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	C～D	(1174)	79	85

南北に延びる溝である。溝の主軸は、Ｎ－8°－Ｗである。遺構の南側が調査区域外で全体の様子は復元できない。溝底には深さ10～20cm程度の小ピットが8基確認されている。また、溝の立ち上がり際には、数基の小ピットが確認されているが、本遺構と同時期に機能していたのかは不明である。溝の北延長上には、SP2343、SP2504、SP2154、SP2175、SP2151などの方形の小ピットが並んでおり、これらは同時期に機能していた可能性がある。溝底や壁は、凹凸が認められるものの顕著ではない。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀前～中葉の陶磁器類が少量出土している。

SK2005（遺構Ⅲ－98図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	76	72	28

切合　SK2004>**SK2005**>SP2035･2323、SK2045

円形を呈する遺構である。坑底や壁は、凹凸が確認できるが、それほど顕著ではない。覆土はいずれもしまりが強く、建物基礎遺構である可能性が高い。壁は鍋底状の坑底から連続して立ち上がっている。覆土は4層に分層される。

遺物は出土していない。

SK2007（遺構Ⅲ－98図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(104)	91	83

切合　**SK2007**>SK2045

長方形を呈すると推定される基礎遺構である。南側は調査区域外にあり、遺構全体の様子は復元できない。坑底中心付近は扁平な自然石を根石にしている。坑底はやや丸みがあり、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は、5層に分層される。

遺物は、17世紀の陶磁器片が少量出土している。

SK2014（遺構Ⅲ－98図、遺物Ⅳ－46図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(149)	70	36

切合　**SK2014**>SP2028、SX2305、SK2321

楕円形を呈する土坑である。遺構の東側をSD2002に切られている。坑底東側で4枚の平瓦が確認されたが、遺構の機能に関連するかは不明である。坑底や壁は、凹凸が確認されるが、それほど顕著ではない。壁はやや丸みを帯びた坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、2層に分層される。

遺物は、19世紀前半の陶磁器、瓦が出土している。

SD2015（遺構Ⅲ－99図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(193)	62	31

切合　SP2009>**SD2015**>SK2041、SK2049

長方形を呈する溝である。遺構の主軸は、Ｎ－80°－Ｅである。遺構の西側を大学時代の管埋設溝によって削平され、規模の復元はできない。坑底や壁は、凹凸が比較的平滑に整形され、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は、3層に分層されるが、炭、焼土、灰などが多く混入している。

遺物は、焼土中から17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP2018（遺構Ⅲ−99 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	115	79	80

切合　SP2017>**SP2018**>SK2049、SK2302、SP2309、SP2443

ややいびつな隅丸方形を呈する基礎遺構である。遺構の北側の一部を SK2017 に切られている。坑底やや北寄りにやや浮いて南北 30cm、東西 20cm、厚さ 10cm ほどの切石が設置されており、基礎遺構と推定された。ただ、本遺構の周囲には同時期に機能していたと推定される遺構が確認されていない。坑底や壁は、凹凸が比較的多く確認され、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は、柱痕を合わせて 5 層に分層される。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SK2019（遺構Ⅲ−99 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	101	74	88

切合　**SK2019**>SX2305、SD2306

ややいびつな長方形を呈する基礎遺構である。遺構の上部を大学時代の管埋設溝によって削平されている。坑底中央には坑底から 15cm 程度の幅で立ち上がる柱痕が確認され、基礎遺構と推定された。ただ、本遺構の周囲には同時期に機能していたと推定される遺構が確認されていない。坑底や壁は、凹凸が多く確認され、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、柱痕を合わせて 4 層に分層される。

遺物は、陶磁器小片が少量出土しているのみである。

SK2026（遺構Ⅲ−99 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	(103)	(69)	86

切合　SD2002、SK2027>**SK2026**>SK2045

方形を呈すると推定される根石を伴う基礎遺構である。遺構の上部を SD2002 によって削平、南側は調査区域外で、遺構全体の様子は復元できない。坑底中央には扁平な円形を呈する平石が設置され、その上には柱痕と推定される層（1 層）が確認されている。本遺構の約半間西側には、同構造を呈する SK2007 があり、同時期に機能していた可能性が高い。坑底や壁は、凹凸が確認されるもののそれほど顕著ではない。壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は、6 層に分層される。

遺物は出土していない。

SK2027（遺構Ⅲ−99 図、遺物Ⅳ − 46 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	(98)	(97)	137

切合　**SK2027**>SK2026

方形を呈すると推定される土坑である。遺構の東側を大学時代の管埋設溝によって削平、南側は調査区域外で、遺構全体の様子は復元できない。坑底や壁は、凹凸が多く確認され、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、4 層に分層される。

遺物は、17 世紀中葉の陶磁器類が出土している。

SK2031（遺構Ⅲ−99 図、遺物Ⅳ − 46 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	(213)	(106)	144

切合　**SK2031**>SK2302

方形を呈すると推定される土坑である。遺構の東と南側を大学時代の管埋設溝によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。坑底や壁は、掘削時の工具と推定される凹凸が確認される。確認時に西側の壁の一部がオーバーハングしており、袋状であったことも想定される。ただ、天井部がそれほど厚くないことから、地下室として機能していたかは不明である。覆土は、6 層に分層される。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類、石製品などが出土している。

SK2034（遺構Ⅲ−100 図、遺物Ⅳ − 46 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	77	(43)	25

切合　**SK2034**>SK2050、SK2303

方形を呈すると推定される土坑である。大学時代の管埋設溝によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。坑底や壁は、凹凸が確認されるが、顕著ではない。壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、円礫と砂の混じる砂利単層である。

遺物は、17 世紀前から中葉の陶磁器類が出土している。

SK2036（遺構Ⅲ−100 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	115	74	78

切合　**SK2036**>SK2050、SK2303、SP2304

長方形を呈する土坑である。周囲の重複する遺構全てより新である。主軸はＮ − 89° − Ｅである。坑底や壁は、凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっ

ている。覆土は4層に分層されるが、おおむね水平堆積をしている。しまりは総じて弱い。

遺物は出土していない。

SP2037（遺構Ⅲ−100図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(82)	(48)	20

切合　SD2002>**SP2037**

円形を呈すると推定されるピットである。遺構の西側をSD2002によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底は鍋底状を呈し、壁は坑底より連続的に開きながら立ち上がっている。覆土は、上層に灰、焼土などが確認されているが、坑底などに火床のような明瞭な被熱痕は確認されなかった。

遺物は、貝などが少量出土している。

SK2045（遺構Ⅲ−100図、遺物Ⅳ−46、47図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	278	197	56

切合　SK2004、SK2005、SK2007、SK2026、SP2035·2323、SP2044>**SK2045**

調査区南西端に位置するN−86°−Wの主軸を持つ長方形の土坑である。切り合っている全ての遺構より旧である。坑底壁際から約10〜20cm内側に、長辺に4基、短辺に3基ずつの小ピットが確認され、土層の観察では明確ではなかったが、板などを留める用途が想定される。坑底や壁は細かい凹凸があり、壁は坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は、6層に分層される。

遺物は、17世紀中葉頃の陶磁器類が出土している。

SK2049（遺構Ⅲ−100図、遺物Ⅳ−47図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(407)	(143)	87

切合　SP2009、SD2015、SP2017、SP2018、SP2039、SP2443>**SK2049**

ややいびつな隅丸長方形を呈する土坑である。遺構の西側を大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底は北側で東西100cm、南北120cmの長方形に約20cm凹んでいる。坑底や壁は、細かい凹凸が密に認められ、壁は坑底よりやや開きながら立ち上がっている。覆土は調査時の崩落で全体の記録はできなかったが、8層に分層される。

遺物は、17世紀前〜中葉の陶磁器類が出土している。

SU2051（遺構Ⅲ−101図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(315)	(157)	166

切合　SD233·2160、SK2173>**SU2051**>SU2052、SK2486

平面形長方形を呈すると思われる地下室である。確認された室部の2つのコーナーを結んだ軸は、N−16°−Wである。遺構の西側を医学部校舎の根切りによって大きく削平され、全体の様子は復元できない。坑底には弱いテラス状の段が設けられており、東南側が5cm程度高くなっている。坑底や壁は細かい凹凸は認められるものの、おおむね平滑に調整されている。覆土は医学部校舎の根切りを重機によって除去中に確認されたため、記録できなかった。

遺物は出土していない。

SU2052（遺構Ⅲ−101図、遺物Ⅳ−47図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(114)	(90)	211

切合　SU2051>**SU2052**

平面形隅丸方形を呈する地下室である。上部をSU2051に切られ、遺構全体の様子は復元できない。また、調査時の安全から上層一部の削平を行った。坑底、壁は掘削時の工具による凹凸が多く、丁寧な調整はされていない。坑底はやや中央が凹んでおり、壁はカーブをしながら立ち上がっている。覆土は3層に分層されるが、いずれもしまりがない。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類、石製品などが出土している。

SE2053（遺構Ⅲ−101図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	B	142	127	(300)

平面形円形を呈する井戸である。上部を大学時代の管埋設溝によって削平されている。確認面下220cm付近で10〜20cm程度広がり、以下の平面形は方形になる。調査は、安全のため確認面下300cm程度しか行っていないが、坑底は確認されていない。壁は比較的平滑調整されている。覆土はコンクリートなどを含む黄褐色土で構成され、近代以降に廃棄されてものと判断される。

遺物は出土していない。

SD2058（遺構Ⅲ−102図、遺物Ⅳ−48図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6·8	C	(913)	(109)	54

切合　**SD2058**>SD236･2095･3021、SK2075、
SP2220－4、SP2370－2、SD2373

Ｎ－4°－Ｗの主軸を持つ石組遺溝である。遺構の東、南、北側は大学時代の管埋設溝、撹乱によって削平され、全体の様子は復元できない。良好に遺存していた西側では間知石が1～2段に前面が揃えて並べられ、その一部に石蓋と推定できる凝灰岩の平石が確認された。蓋石の存在から、本遺構が暗渠の水路であった可能性が高い点と確認された石が最上段であったことが確認された。ただ、相対する東側に間知石、また、使用時の溝底と推定される付近から泥状の土などは確認されてはいない。溝の南北の延長上には類似した遺構の痕跡がなく、本遺構の性格は不明である。溝底や壁は、比較的平滑に調整されており、壁はフラットな坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は掘方が2層、溝内は4層に分層される。

遺物は、17世紀と19世紀の陶磁器類、石製品が出土している。

SD2061（遺構Ⅲ－101図、遺物Ⅳ－48図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	(187)	(404)	20

切合　**SD2061**>SD2219･2230･3140

Ｎ－3°－Ｗに主軸を持つ溝である。遺構の西、南側を大学時代の管埋設溝によって削平されている。また、遺構がⅡ次調査とⅢ次調査にまたがっていたが、Ⅲ次調査では確認できなかった。これらのことより遺構全体の様子は復元できなかった。延長上に同様の構造を持つ遺構が確認されておらず、性格は不明である。溝底全面には炭化材が薄く確認されているが、炭化材の上層にあった焼土や焼瓦の廃棄によって炭化したものと推定される。溝底や壁は凹凸が少なく、壁はフラットな坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、焼瓦、釘などが出土している

SX2062･2085･3012（遺構Ⅲ－103図、遺物Ⅳ－49図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	C	(355)	196	54

切合　SP3005>**SX2062･2085･3012**>SD2205、
SK2404･3001、SK3035、SP3037、SP3039

Ｎ－82°－Ｅの主軸を持つ溝である。遺構の西側は医学部校舎の根切りによって削平され、全体の様子は復元できない。溝底には安山岩の間知石、栗石と思われる切石が多く確認され、遺構の廃絶時に石を抜き取って再利用した残痕と推定される。石の大部が失われたことで本来の状態は看取できないが、狭い石組溝あるいは土塀の基礎であると思われる。遺構の東端はSD2096、SD2205とほぼ直角に接続しており、同時期に機能していた可能性がある。溝底は、やや凹凸は認められるものの、それほど顕著ではない。壁はおおむねフラットな溝底より開きながら立ち上がっている。

遺物は、18～19世紀の陶磁器類、金属製品が出土している。

SP2082（遺構Ⅲ－101図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	(32)	(22)	21

切合　**SP2082**>SD2060

6区に位置するピットである。底部に割石を充填している。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。覆土は単層で焼土、炭化物粒をごく少量含んでいる。

遺物は出土していない。

SP2089（遺構Ⅲ－101図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	C	(97)	77	42

切合　**SP2089**>SK2091、SK2204

不整円形を呈する建物基礎遺構である。溝底中央に一辺30cm程度の方形の平石を約10cm凹めて配している。約半間東側にあるSP2203は、坑底レベルが同じで同時期に機能している可能性がある。坑底は石のめり込みによって凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は暗褐色土単層であるが、砂利などを含みしまりが強い。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SK2091（遺構Ⅲ－103図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	C	156	(111)	125

切合　SP2089、SK2204>**SK2091**>SD2185

Ｎ－14°－Ｗを主軸に持つ長方形を呈する基礎遺構である。坑底中央には約一辺30cmの方形の平石を、約10cm凹めて配している。土層の観察からこの石を根石に柱痕が立ち上がっていたことから、何らかの施設の柱であると判断される。本遺構の約半間西には同じ構造を持つSK2151、約1間西にはSK2335、2間西にはSK2404･3001があり、これらは同時期に機能していたと推定できる。坑底や壁はともに凹凸が認められ、壁は、坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は、3層に分層される。

遺物は、17 世紀中葉～後葉の陶磁器類が少量出土している

SP2093・3086（遺構Ⅲ−103 図、遺物Ⅳ－49 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	C	57	38	32

切合　**SP2093·3086**>SP2227 － 1、SK2228·3161

不整楕円形を呈するピットである。坑底には割石が確認される。壁は、ほぼフラットな坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層され、瓦片を含んでいる。

遺物は銭が出土している。

SD2096（遺構Ⅲ−104 図、遺物Ⅳ－ 49 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C	(1206)	130	62

切合　SK2173>**SD2096**>SD233·2160、SD235·2201、SD2205

N － 1° － W の主軸を持つ溝である。遺構の北、南とも大学時代の管埋設溝、撹乱によって削平され、全体の様子は復元できない。溝底には安山岩の間知石、栗石と思われる切石が多く確認され、遺構の廃絶時に石を抜き取って再利用した残痕と推定される。石の大部が失われたことで本来の状態は看取できないが、狭い石組溝あるいは土塀の基礎であると思われる。遺構の北端は SD235·2201 と直角に接続しており、遺構の幅や構造などが近似していることから同時期に機能していた可能性が高い。溝底は、やや凹凸は認められるものの、それほど顕著ではない。壁はおおむねフラットな溝底より開きながら立ち上がっている。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類、Ⅳ－ 48 図に示したような渡来銭（模鋳銭？）を含む銭がまとまって出土した。

SK2097・3082（遺構Ⅲ−103 図、遺物Ⅳ－ 49 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6·8	C	128	98	90

切合　**SK2097·3082**>SD236·2095·3021

N － 5° － W の主軸を有する方形の土坑である。坑底や壁は凹凸があり、壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は、3 層に分層されるが、貝などの動物遺体が多く含まれていることから、最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類、貝類が出土している。

SK2104（遺構Ⅲ−103 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7·8	G	(240)	(64)	79

切合　**SK2104**>SK2101·2114

調査区南端に位置する不整円形を呈する土坑である。遺構の南側は調査区域外、北側を大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底や壁は、やや凹凸が確認できる程度で、顕著ではない。壁は、比較的平坦な坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は、3 層に分層される。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が出土している

SP2106（遺構Ⅲ−103 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	G	77	(74)	87

切合　**SP2106**>SX2107、SD2108、SP2122、SP2123

N － 6° － W の主軸を有する方形の土坑である。遺構の北側を大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底中央には一辺約 30cm の方形の平石が設置されている。また、石の南側は壁に沿って長方形に約 10cm 程凹ませている。坑底や壁はやや凹凸はあるものの顕著ではない。壁は坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は、7 層に分層され、中央に円形に大きく柱痕と推定されるしまりのない層（1 層）が確認され、その外側は水平に柱を埋設した際の埋土が確認された。

遺物は、17 世紀後半から 18 世紀初頭の陶磁器類が出土している。

SK2121（遺構Ⅲ−105 図、遺物Ⅳ－ 50 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
7	G	189	89	94

東西方向を主軸とするややいびつな長方形を呈する土坑である。遺構上部を大学時代の管埋設溝によって削平されている。壁や坑底は、工具による凹凸があり、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 8 層に分層され、上層（1 ～ 4 層）を中心に陶磁器、貝などの遺物が多く確認された。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類、貝などが出土している。

SK2143（遺構Ⅲ−105 図、遺物Ⅳ－ 50 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	74	70	29

切合　**SK2143**>SK2341、SX2427

N－16°－Eを主軸とする方形を呈するピットである。坑底やや東側には10cm程度、方形に低くなっている部分がある。明瞭な柱痕などは確認できなかった。坑底や壁はおおむね平滑に調整され、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。

遺物は出土していない。

SP2151（遺構Ⅲ−105図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	43	41	70

切合　**SP2151**>SP2155

方形のピットである。坑底には安山岩の切石をランダムに積み重ねて根石にしている。本遺構の約半間西にSK2335、1間半西にSK2404･3001、半間東にSK2091があり、同時期に機能した遺構群である可能性が高い。坑底、壁は凹凸が認められるが、顕著ではない。覆土は、しまりのややあるロームブロック混じりの暗褐色土単層である。

遺物は、年代不明の陶磁器類が少量出土している。

SD2152（遺構Ⅲ−105図、遺物Ⅳ－51図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(241)	71	51

切合　SP2178>**SD2152**>SP2414、SP2415、SK2505

N－3°－Wに主軸を持つ溝である。遺構の北側は大学時代の管埋設溝のハンドホールによって削平され、全体の様子は復元できない。坑底や壁は､凹凸が確認され、壁はやや中央が凹む坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層される。遺構の性格は不明である。

遺物は、17世紀中葉頃の陶磁器類が出土している。

SU2159（遺構Ⅲ−106図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	入り口 117 ハング 254	入り口 102 ハング 138	352

切合　SK2054>**SU2159**>SU2190、SK2472

方形を呈する地下室である。遺構上部を大学時代の管埋設溝によって削平されている。開口部は東西140cm、南北110cmの方形を呈し、室部は確認面下180cmより西側に、150cm奥に張り出している。室部は、ややいびつな長方形を呈し、幅は最大130cmを計測する。坑底は確認面下約300cm、室部の高さは最大130cmである。開口部の東、南、北壁は垂直に落ちている。開口部の壁は、平滑に整形されているが、室部は掘削時の丸刃の工具痕が壁、天井一面に確認された。また、奥壁にはタール状の黒い付着物が確認されたが、付着した原因については不明である。覆土は12層に分層される。

遺物は出土していない。

SK2174（遺構Ⅲ−105図、遺物Ⅳ－51図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	(183)	(128)	44

切合　SP2139、SP2142、SP2181>**SK2174**>SP2180

ややいびつな楕円形を呈する土坑である。遺構の東と南側を大学時代の管埋設溝、撹乱によって削平されている。坑底、壁は凹凸があり、壁は鍋底状を呈する坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は、5層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、17世紀前～中葉の陶磁器類が出土している。

SP2181（遺構Ⅲ−105図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	32	28	58

切合　**SP2181**>SK2174

平面形円形を呈する小ピットである。周囲には、同軸上に東にSP2412、SP286、SP285、西にSP2140、SP2170が並ぶように確認されており、同時期に板塀などの施設として機能していた可能性がある。覆土は、2層に分層される。

遺物は出土していない。

SU2190（遺構Ⅲ−106図、遺物Ⅳ－51図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	246	196	208

切合　SB2、SK418、SU2159、
SK2161>**SU2190**>SK2472

N－0°－Eを主軸とするややいびつな長方形を呈する地下室である。西側を大学時代の管埋設溝、西側をSU2159に切られている。また、天井が薄かったことで、上部が削平されている可能性が高い。室部の天井は、北側で崩落し、本来開口していた大きさは不明である。坑底は東西220cm、南北210cmを計測するが、北壁奥から70～80cm南で約40cm低くなっている。壁は東と南は開口部から垂直に続いている。坑底や壁は、比較的凹凸が認められ、開口部、室部の調整もそれほど丁寧に行われていない。覆土は、当初地下室とは想定せず、北半の調査から開始したことで、室部の土層堆積状態を記録できなかった。入口部は、8層に分層されるが、本遺構を切って構築される地下室（SU2159）の強度保持の

ためと思われるが、いずれもしまりが強く埋め戻されている。

遺物は、17 世紀中葉の陶磁器類、瓦、銭貨などが出土している。

SK2192（遺構Ⅲ−107 図、遺物Ⅳ − 52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	118	87	45

切合　SP2172>**SK2192**>SD169･2130、SX2427、SK2486

円形を呈する土坑である。坑底､壁はやや凹凸があり、壁は鍋底状を呈する坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、3 層に分層されるが、最上層の灰褐色粘土は上層が沈下した可能性も考えられる。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類、貝などが出土している。

SK2193（遺構Ⅲ−107 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	98	(67)	67

切合　**SK2193**>SK2335、SP2483、SK2484

平面形が不整長方形を呈する土坑である。坑底、壁はやや凹凸があり、壁は鍋底状を呈する坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は茶褐色土単層である。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP2202・2214（遺構Ⅲ−107 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C ～ D	(59)	(50)	28

切合　SK2213、SP2203>**SP2202･2214**

撹乱や他遺構との重複から残存する平面形は不整形を呈す。覆土から、不整形の割石が 1 個確認されたが、坑底から浮いた位置にあり、根石というよりは割栗石と推測される。坑底には方形の凹みが確認されている。

遺物は陶磁器類が少量出土している。

SP2203（遺構Ⅲ−107 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C	112	(62)	32

切合　**SP2203**>SP2202･2214

東西を撹乱され、遺存する平面形は方形を呈す。非常にしまりの強い覆土は下層には瓦片や砂利、焼土塊などを含み、ローム主体の間層を挟み、最上層は玉砂利を主体とする層が認められた。坑底付近からは根石と推測される長軸が 50cm 程、厚みが 20cm 程の割石が検出された。なお本遺構の 1 間西側に位置する SP2089 と、覆土の状況も似ることから同時期に機能していた可能性もある。

遺物は 17 世紀後葉から 18 世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SD2205（遺構Ⅲ−104 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C	(687)	(139)	40

切合　SD2062･2085･3012、SP2063、SK2080、SK2081、SD2090、SD2096>**SD2205**

東西方向に延びる溝状遺構である。南・北端ともに撹乱されるが、主軸方位は真北より東へ振る。溝は緩やかに蛇行し、断面形状は浅い箱形を呈す。東で切り合う SD2096 から検出された破砕礫や割石は大きさも並びも不規則であり、検出された場所も坑底でなく、2 層とした覆土中程の西側立ち上がり付近に集中していることから、本溝が廃棄される過程で西側立ち上がりに向かって流しこまれた可能性が高い。SD2205 でも SD2096 ほど密ではないが破砕礫が確認されているが、SD2096 で検出された高さとほぼ同じである。SD2096 の坑底は北側が一段低く、その部分の坑底付近では 2 ～ 3cm ほど砂礫層が堆積している状況が確認されており、砂礫が堆積するような施設があった事も想定される。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している他、Ⅳ − 48 図に示したような渡来銭（模鋳銭？）を含む銭がまとまって出土した。

SP2206、SP2207、SP2208、SP2209（遺構Ⅲ−108 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C ～ D	−	−	−

切合　**SP2207**>SD236･2095･3021、SK2210
SP2208>SD236･2095･3021、SK2210
SP2209>SD235･2201

いずれも直径 40 ～ 50cm、深さ 10 ～ 20cm、平面形が不整円形のピットであり、いずれのピットの覆土も砂利を主体とする層で一度に埋められているようであるが、坑底で検出される根石の状況は SP2207 と SP2208、SP2206 と SP2209 とで様相が異なる。すなわち SP2207 と SP2208 は長軸が掘方と同規模の大きな割石が 1 ないし 2 個据えられ、SP2206 と SP2209 は長軸 10cm 程の小さな破砕礫を敷き詰めたような状況で検出された。これらの柱穴は近接あるいは一部重なるような状況で構築されており、作り替えが行われた可能性もある。

遺物は、SP2206 からごく少量の陶磁器類が出土した

のみである。

SK2210（遺構Ⅲ－108 図、遺物Ⅳ－ 49 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6･8	D	281	77	74

切合　SP2207、SP2208、SK2211>**SK2210**
>SD236･2095･3021、

南北方向に長軸を有する性格不明の土坑で、主軸方位はＮ－ 10°－Ｅである。平面形は細長い長方形、東西断面形は箱形を呈すが、南北断面形は両端部の坑底がやや凹んでいる。壁、坑底にはやや凹凸が目立つ。坑底中央付近には太さ 10cm 程の丸太状の材が南北に横たわるように検出された。

遺物は、17 ～ 18 世紀代に比定される陶磁器類が少量出土している。

SD2219・2230・3140（遺構Ⅲ－108 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	D	東西 (839) 南北 (216)	幅 43	10

切合　SD2060、SD2061、SP2067、SX2070、
SP2071、SP2232、SP3078･3138･3139>
SD2219･2230･3140

Ｎ－ 87°－Ｗを主軸とする浅い溝で、6 区中央付近で北に折れている。溝の西側は調査区域外、東端はⅢ次調査時には明瞭ではなかった。また､大学時代の管埋設溝、SP3078･3138･3139 によって切られている。Ⅰ次調査で確認されている SD339 は、東の延長上に位置しており、同時期に機能していた可能性が高く、D 面上に確認された溝のひとつと考えていいだろう。覆土は、黄褐色土単層である。

遺物は出土していない。

SP2220（遺構Ⅲ－109 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	C	(790)	－	－

切合　**SP2220－1**>SD2057
SP2065･2220－2>SD2057、SK2059
SK2075>**SP2220－3**
SD2058>**SP2220－4**

東西方向にピットが 5 基（西端から SP2220 － 1 ～ 5）ほぼ一間間隔で並ぶ建物基礎遺構である。遺構主軸方位はＮ－ 82°－Ｅと真北よりわずかに北へ振れる。個々の柱穴形態をみると、いずれも坑底北側に方形ないし円形の柱痕を有し、南側はテラス状を呈し、覆土堆積状況も酷似する。SP2220－1 から西側は調査区外となっており、さらに西側へ延びていた可能性がある。また東端の SP2220 － 5 から東側には柱穴が確認されなかった。本遺構に対応するような柱穴列は周囲に検出されず、塀のような建物遺構の可能性が高い。

遺物は SP2220－4 からのみ 17 世紀代に比定される陶磁器類が少量出土している。

SD2226、SD2372、SD3114（遺構Ⅲ－110 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E	(458)	31	18

切合　**SD2226**>SK2295、SK2296、SK2381

Ｎ－ 2°－Ｅを主軸に持つ浅い溝である。大学時代の管埋設溝や撹乱を挟んで延長上に位置する SD320、SD2226、SD2372 とは同時期に機能していたと推定できる。深さが浅いために、遺存状態の良好なⅠ次調査時のみ本遺構を挟んで複数の同軸の溝が平行して確認されている。天和火災（1682 年）以前は道として機能していたエリアと判断しているが、この平行する溝群の機能は不明である｡あるいは補強のためか？覆土は単層である。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP2227（遺構Ⅲ－109 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	D	(362)	－	－

切合　SP2093･3086>**SP2227－1**
SP2093･3086>**SP2227－1**
SD2219･2130･3140>**SP2227－3**

東西方向に 3 基（西から SP2227－1、SP2227－2、SP2227－3）が並ぶピット列で、主軸方位はＮ－ 88°－Ｗで真北より南へふる。上位面の遺構や近代遺構の埋設物により撹乱されているため、各ピットの遺存状況が悪く心々の間尺が明確ではないが、SP2227－1 と SP2227－2 との間は約 150cm、SP2227－2 と SP2227－3 との間は約 150cm を測る。いずれも確認面からの深さが 10cm 前後とごく浅く、ロームを主体とする覆土で一時に埋められている。なおⅢ次調査で検出された SK3156、SK3158 は同じ D 面検出遺構で本遺構主軸上にあり、覆土、掘方も酷似することから、本遺構と関連する可能性が高い。

遺物は、陶磁器類がごく少量出土している。

SP373・2236 － 1、SP374・2236 － 2、SP375・2236 － 3、SP2235、SP2241、SP2242、SP2244、SP2245、SP2246、SK2247、SP2248、SP2249、

SP2250、SP2252、SP2328、SP2329、SP2330・SP2331、SP2332（遺構Ⅲ−111 図、112 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6・8	C	−	−	−

切合　**SP2241**>SD319
SP2244>SD320
SK2247>**SP2246**>SD236･2095･3021
SP2249>**SP2248**>SD236･2095･3021
SP2250>SD236･2095･3021
SP2252>SD236･2095･3021

N − 8° − W を主軸を有する 2 列に南北に並ぶピット列である。東側列が 12 基、西側列が 8 基確認されているが、西側列の 8 基目以降は、大学時代の管埋設溝によって削平されていると推定される。ピットは約 1 間（180cm）間隔にあり、東と西列間は約 70cm である。ピットのいくつかは 10cm 程度の柱痕が確認され、また、坑底のレベルもおおむね標高 20.8m 程度で揃っていることなどから、板塀などの施設の柱として機能していたと推定される。

遺物は、SP2242、SP2246、SP2247 から 17 世紀後半、SP2248 から 17 世紀末の陶磁器類がそれぞれ少量出土している。

SK2251（遺構Ⅲ−113 図、遺物Ⅳ − 52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C	147	93	45

切合　**SK2251**>SD235･2201、SD236･2095･3021

平面形が真円に近い円形を呈する土坑である。坑底、壁ともに平滑も整形され、壁はフラットな坑底から垂直に立ち上がっている。坑底全面には薄く炭化物層が堆積していたが、壁などには痕跡が認められなかった。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SK2258（遺構Ⅲ−113 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	46	46	37

切合　SD2260>**SK2258**>SX2259･2396

平面形はやや歪な円形を呈する土坑である。壁、坑底にはわずかに凹凸が認められ、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。確認面から深さ約 40cm まではローム粒主体の覆土で一時に埋められ、その下には坑底一面に炭化材が検出された。壁面には炭化材は認められなかったが、掘方ローム表面が黒ずんだ状態であった事が確認されたことから、木桶のようなものが埋められていた可能性もある。

遺物は出土していない。

SD2260（遺構Ⅲ−113 図、遺物Ⅳ − 52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	(1082)	65	37

切合　SK2079、SP2220、SD2225、SP2262、SP2364、SD2371、SD2372>**SD2260**>SK2258、SP2388

調査区を南北方向に伸びる溝状遺構である。中央付近を撹乱される。主軸方位は N − 8° − E で真北より東に振れる。確認面からの深さは 10cm 強を測り、b-b' ライン付近から南側坑底が若干低くなる状況が確認されたが、溝の断面形も深さが変化するあたりで浅い皿形から箱形に近い逆台形に変化している。坑底、壁は凹凸が著しい。なお I 次調査の SD628 は G 面検出遺構であり、本遺構同軸上に位置し、形状、覆土など酷似することから同時期に機能している可能性があるが、出土遺物をみると SD628 は 17 世紀中葉、SD2260 は 17 世紀前葉に比定される遺物が出土している。

遺物は、Ⅳ − 52 図に示した皿類ははじめ、17 世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SK2266・3243（遺構Ⅲ−114 図、遺物Ⅳ − 52 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	170	(82)	29

方形を呈すると思われる土坑である。遺構の東側を大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底や壁は比較的平滑で、フラットな坑底から壁は開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層される。

遺物は、17 世紀前半の織部や黄瀬戸の皿などが出土している。

SK2277（遺構Ⅲ−113 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	80	76	39

切合　SP2224、SP2353>**SK2277**

平面形はほぼ円形を呈し、断面形は箱形を呈す。その内側に径約 50cm の円形の掘方が確認されている。出土遺物に木材が付着した釘が比較的多く含まれていたことから、釘で材を固定した円形木製品が埋められていた可能性もある。円形掘方内 2 層には、しまりのない多量の灰を主体とする層、最下層 3 層はしまりのない砂礫層が認められた。

17 世紀前半に比定される陶磁器類が出土している。

SK2288（遺構Ⅲ−114 図、遺物Ⅳ − 53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	152	84	129

切合　SP2220>**SK2288**>SK2289、SK2362、SK2367、SK2379

東側を撹乱されるが、残存する平面形は東西に長軸を有す隅丸長方形を呈する土坑である。壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈す。坑底は比較的平坦に成形されるが、壁面には工具痕が顕著に認められる。覆土は、立ち上がり付近まで炭化物、貝ガラ、陶磁器などを含む暗褐色土（3 層）で埋められていることから、ごみ穴として利用され廃絶した遺構と考えられる。

遺物は、Ⅳ − 53 図に示したものを含め、17 世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SK2335（遺構Ⅲ−107 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	132	79	99

切合　SD2096、SK2193>**SK2335**

いびつな長方形を呈する基礎遺構である。坑底南側には約一辺 30cm の方形の平石とその上に欠損した平石を配している。土層の観察からこれを根石に太さ 20cm を超える柱痕が認められる（2 層）ことから、何らかの施設の柱であると判断される。本遺構の約 1 間西には、同じ構造を持つ SK2404･3001、1 間東には SK2091 があり、これらは同時期に機能していたと推定できる。坑底や壁はともに凹凸が認められ、壁は、坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は、7 層に分層される。

遺物は、17 世紀と思われる陶磁器類が少量出土している。

SP2370（遺構Ⅲ−114 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	D	(602)	−	−

N − 94° − E を主軸とする 3 基のピット列である。調査区を東西に横断する SD236･2095･3021 の北壁部分に同一列で位置することから、同溝の付帯施設の可能性もある。平面形は全て一辺 60cm 方形を呈し、深度は確認面からおおむね 50cm を計測する。ピットはおおむね 1 間半（270cm）間隔で、土層の観察からも柱痕が明瞭に観察されていることから、塀状施設に伴う可能性が高い。

遺物は、陶磁器片が少量出土している。

SP2373（遺構Ⅲ−115 図、遺物Ⅳ − 53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	D	(678)	−	−

切合　SD236･2095･3021、SD2374･3165>**SP2373**>SP2370 − 1

N − 86° − W を主軸とする 5 基の浅いピット列である。西から 4 基目、5 基目は、その間に南北に走る大学時代の管埋設溝によって削平されている。調査区を東西に横断する SD236･2095･3021 の北壁部分に同一列で位置することから、同溝の付帯施設の可能性もある。平面形は西から楕円形、円形、隅丸長方形と規格性は低い。深度は柱穴としては十分ではないこと、5 基のピット間の距離が一定ではないことなどから、石を抜いた痕跡などかも知れない。覆土が浅いことで、最も東のピットを除いて単層である。

遺物は、17 世紀と思われる陶磁器類、銭貨が少量出土している。

SD2374・3165（遺構Ⅲ−28、29 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	D	(382)	36	8

切合　SD236･2095･3021>**SD2374･3165**>SD2373

N − 83° − W を主軸とする浅い溝である。調査区を東西に横断する SD236･2095･3021 の北壁部分に同軸で位置することから、同溝の付帯施設の可能性もある。壁、坑底とともに凹凸が認められる。丸みを帯びた坑底から壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は、暗褐色土単層である。

遺物は、17 世紀と思われる陶磁器類が少量出土している。

SK2381（遺構Ⅲ−116 図、遺物Ⅳ − 53 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	285	268	45

切合　SD2226、SK2293、SK2295、SK2296、SP2370、SD2373、SK2451、SK2452>**SK2381**

平面形は不整円形を呈し、断面形はやや浅い皿形を呈す。壁、坑底は凹凸を有す。以上の様相からは植栽痕である可能性が高い。

Ⅳ − 53 図で示した銭以外、17 世紀に比定されるごく少量の遺物が出土している。

SK2404・3001（遺構Ⅲ−116 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	C ～ D	140	114	136

切合　SD2062·2085·3012>**SK2404·3001**>SP2405

いびつな方形を呈する基礎遺構である。坑底中央には一辺約 30cm の方形の平石を配している。土層の観察から根石に太さ 20cm 程度の柱痕が立ち上がっていることから、何らかの施設の柱であると判断される。本遺構の約 1 間東には、同じ構造を持つ SK2335、さらに 1 間東には SK2091 があり、同時期に機能していたと推定できる。坑底や壁はともに凹凸が認められ、西、南壁は、坑底から約 40cm 上からやや広がっている。東と北側の壁は、坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は、17 層に分層される。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が出土している。

SK2416・3097（遺構Ⅲ−116 図、遺物Ⅳ − 54 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	238	176	83

切合　SP3077>**SK2416·3097**>SK2439、SK3120

ややいびつな円形を呈する土坑である。壁、坑底とともに凹凸が顕著に認められ、遺構の中央はやや凹んでいる。また、坑底、壁には根穴と思われる小穴が多数確認され、遺構の形態、坑底や壁の状況などから植木の移植痕と推定される。壁は、坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は、6 層に分層される。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SK2419（遺構Ⅲ−117 図、遺物Ⅳ − 54 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	84	67	102

切合　SD2096>**SK2419**>SK2420

不整円形を呈する土坑である。遺構上部を SD2096 に切られている。壁､坑底とともに凹凸が顕著に認められ、壁は、坑底よりやや開きながら立ち上がっている。覆土は、5 層に分層される。

遺物は、17 世紀の陶磁器類、貝などが出土している。

SU2422（遺構Ⅲ−117 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	開口部 126 坑底 184	開口部 112 坑底 167	176

切合　SD2096>**SU2422**>SK2484

N − 90° − E を主軸とする方形の地下室である。遺構上部を SD2096 に切られている。開口部は、東西 120cm、南北 110cm のほぼ方形を呈し、室部は東、北方向に約 50cm 張り出している。張り出しは、確認面下約 80cm から広がり、明瞭な稜を有している。西、南は開口部からそのまま室部の壁として垂直に落ちている。室部の高さは壁際で 70cm を測り、室内での活動はかがんで行う必要がある。坑底、壁は、開口部では丁寧に、室部ではやや凹凸は認められるものの、総じて平滑に調整されている。坑底と壁は、おおむね直角を基本として規格性高く作られている。覆土は、灰褐色粘土が多く含まれており、特に 3 層は純粘土層であった。

遺物は出土していない。

SK2425（遺構Ⅲ−117 図、遺物Ⅳ − 54 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	(99)	93	28

切合　SD169·2130、SD233·2160、SP2132、SP2133、SP2134、SD2195>**SK2425**

隅丸長方形を呈すると思われる土坑である。遺構の北を SD233·2160 に、南を SD169·2130 に切られ、遺構全体の様子は復元できない。SD169·2130 を挟んで南には、類似した形態と覆土を持つ SK2341 があり、同時期に機能していたと推定される。壁、坑底とともにやや凹凸があり、東西壁は、坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、単層である。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が出土している。

SK2472（遺構Ⅲ−117 図、遺物Ⅳ − 54、55 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	272	(150)	82

切合　SB2、SK417·2413、SP2144、SU2159、SU2190、SK2199>**SK2472**

N − 90° − E を主軸とする方形あるいは長方形を呈すると思われる土坑である。遺構の中央を大学時代の管埋設溝に、また、北側を SU2190、SU2159 によって切られ、遺構全体の様子は復元できない。壁、坑底とともに凹凸が確認され、壁は、坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、6 層に分層される。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類、瓦などが出土している。

SK2486（遺構Ⅲ−117 図、遺物Ⅳ − 55 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
8	G	(214)	(68)	41

切合　SD169·2130、SU2051、SK2171、SP2172、SK2173、SK2192、SD2200、2SP485>**SK2486**

長方形を呈すると思われる土坑である。遺構の東側を医学部校舎の根切りに削平され、また、切り合っている

全ての遺構より旧であることから遺構全体の様子は復元できない。東側に一部確認された壁は、坑底とともに凹凸が確認される。壁は坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は、2層に分層される。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SD2496（遺構Ⅲ−118図、遺物Ⅳ−55図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	347	51	64

切合　SD233·2160>SD2496

N−6°−Eを主軸とする溝である。切り合っている全ての遺構より旧である。坑底、壁は凹凸が確認され、坑底より壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、暗褐色土単層である。

遺物は、19世紀後葉から20世紀前葉の陶磁器類、ガラス製品、金属製品などが出土している

SK3011（遺構Ⅲ−118図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	345	(270)	142

切合　SK3011>SD246·3100、SK3032

円形を呈していたと推定される樹木の移植坑である。遺構の西側を大学時代の管埋設溝によって削平されている。坑底中央は約200cmの径で30cm程度盛り上がっており、移動前の移植坑の特徴を示している。坑底、壁は凹凸が認められ、壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は、4層に分層されるが、上層（1層）はローム土で埋め戻されている。

遺物は出土していない。

SK3014・3072（遺構Ⅲ−118図、遺物Ⅳ−56図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	A〜B	(193)	(81)	54

形状不明の土坑である。遺構の東、南、北側を大学時代の管埋設溝によって切られ、全体の様子は復元できない。坑底、壁は比較的平滑に調整され、フラットな坑底より壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は、暗褐色土単層である。

遺物は、19世紀後葉から20世紀前葉の陶磁器類、ガラス製品、金属製品などが出土している

SP3024（遺構Ⅲ−118図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	118	91	66

切合　SP3024>SK3108、SP3109、SK3242

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構の西側を大学時代の管埋設溝によって削平されている。本遺構は根固めの工程が明瞭に看取できた。坑底中央に大形自然石とその周囲に小形の切石を配して根石にし、その上層はやや大形の円礫を多量に含む層と土が主体の層が互層になって確認された。根石→砂利と土（6層）→土主体（5層）→砂利と土（4層）→土主体（3層）→砂利と土（2層）→土主体（1層）の順に土や礫を入れ、交互に転圧したと考えられる。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は11層に分層されるが、7〜11層は壁の方向に押し込まれる状況が看取できた。

遺物は出土していない。

SP3025（遺構Ⅲ−119図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	106	(87)	42

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構の南側を大学時代の管埋設溝によって削平されている。坑底中央にやや大形の自然石を根石にして配置し、上層は砂利､土とともに強く転圧している。坑底はやや平坦で、坑底や壁は強い転圧によって石がめり込んでいる｡坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、3層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、17世紀と思われる陶磁器類が少量出土している。

SP3026（遺構Ⅲ−119図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	78	60	58

ややいびつな円形を呈する建物基礎遺構である。坑底にバレーボール大の自然石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石がめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、2層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP3027（遺構Ⅲ−119図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	(97)	(64)	20

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。北、東

側を大学時代の撹乱、西側を管埋設溝によって遺構が大きく削平され、全体の様子は復元できない。遺存している部分では坑底に大形の自然石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石がめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、削平のため単層である。

遺物は出土していない。

SP3040（遺構Ⅲ−119 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(115)	(53)	60

切合　SD4800>**SP3040**

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。北側を前田侯爵邸時代の管埋設溝、南および西側を大学時代の医学部校舎の根切り、撹乱によって遺構の大部分が削平され、全体の様子は復元できない。遺存している部分では坑底に自然石 2 個を根石として配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石がめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分層されるが、上層には焼土が多く確認されている。

遺物は出土していない。

SP3041（遺構Ⅲ−119 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	C	96	96	48

切合　**SP3041**>SD246･3100

円形を呈する建物基礎遺構である。坑底中央に大形の自然石､その周囲にやや小形の切石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 3 層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP3042（遺構Ⅲ−119 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	C	105	102	56

切合　SK3023>**SP3042**>SD246･3100

円形を呈する建物基礎遺構である。坑底付近に 10 数個の自然石、切石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層される。

遺物は出土していない。

SK3045（遺構Ⅲ−120 図、遺物Ⅳ − 57 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	C	(137)	(90)	40

切合　SK3058>**SK3045**

形状不明の土坑である。遺構の東、西側を大学時代の管埋設溝、南側を SK3058 によって切られ、全体の様子は復元できない。坑底、壁は比較的平滑に調整され、フラットな坑底より壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分層される。

遺物は、17 世紀と推定できる瓦、金属製品、板材などが出土している。

SK3046（遺構Ⅲ−120 図、遺物Ⅳ − 57 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	F	165	140	180

切合　SD236･2095･3021、SP2373、
SD2374･3165>**SK3046**

隅丸長方形を呈する土坑である。E 面以下の重複関係を有する周囲の遺構の全てに旧である。南壁には 2 列、北壁には 1 列の足掛けと推定できる孔が穿たれている。南壁には 20cm 程度のピッチで坑底より約 50cm 上からそれぞれ 5 箇所、北壁にはややずれて 2 箇所の合計 12 箇所の孔が確認されている。坑底や壁は工具の痕跡が明瞭に観察され、凹凸が顕著である。あるいは井戸や地下室などを掘っている途中で放棄したものとも考えられる。坑底はやや中央が下がって丸みを帯びており、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は、本郷邸前期に特徴的な黒褐色土を中心とした土で、12 層に分層される。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が出土している。

SP3049（遺構Ⅲ−120 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4･6	C	94	82	51

切合　SP3051>**SP3049**>SK3152、SK3242

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構東側の一部を SP3051 に切られている。坑底付近に 10 数個の自然石、切石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、

壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP3050（遺構Ⅲ−120図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	110	(70)	62

切合　SD4800>SK3050

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構東側は前田侯爵邸時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底付近に2個の大形の自然石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP3052（遺構Ⅲ−120図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	128	(48)	60

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構の東側は大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底付近に大形の自然石、切石を根石にして配置し、上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP3053（遺構Ⅲ−121図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	101	(86)	47

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構の北側はⅢ次調査とⅣ次調査との区境法面で、調査が行えなかった。本遺構は根固めの工程が明瞭に看取できた。坑底付近に大形の平石を根石にしており、その上層はやや大形の円礫を多量に含む層と土が主体の層が互層になって確認された。根石→砂利と土（5層）→土主体（2層）→砂利と土（1層）の順に突き固めたと考えられる。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は5層に分層される。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SK3058（遺構Ⅲ−120図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	(73)	(70)	60

切合　SK3058>SK3045

やや不整の長方形を呈すると思われる土坑である。遺構の南側、東側を大学時代の撹乱に切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底、壁はやや凹凸があるが、顕著ではない。やや南に傾斜を持つ坑底から壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は5層に分層される。

遺物は出土していない。

SP3060（遺構Ⅲ−121図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	60	(40)	24

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構の東側を大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底からやや浮いて中央に切石を配し、根石にしている。上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、壁はやや開きながら立ち上がっている。坑底や壁には転圧によって石がめり込んでいる。覆土は、しまりが強い黒褐色土単層である。

遺物は出土していない。

SP3074（遺構Ⅲ−121図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	97	87	49

ややいびつな円形を呈する建物基礎遺構である。坑底に大形の自然石と切石を配し、根石にしている。上層は切石を中心に砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、壁は開きながら立ち上がっている。坑底や壁には強い転圧によって石が深くめり込んでいる。覆土は、2層に分層され、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP3076（遺構Ⅲ−121図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	45	(32)	37

切合　SP3076>SK3143、SK3242

円形を呈すると思われる建物基礎遺構である。遺構の西側を大学時代の管埋設溝によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底中央に大形の切石とその周囲にやや小形の切石を配し、根石にしている。上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈し、壁

は緩やかに立ち上がっている。坑底や壁には強い転圧によって石が深くめり込んでいる。覆土は、5層に分層され、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP3078・3138・3139（遺構Ⅲ−121図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	96	91	50

切合　**SP3078·3138·3139**>SD2219·2230·3140、SK3155

ややいびつな円形を呈する建物基礎遺構である。坑底中央にバレーボール大の切石とその周囲にやや小形の切石を配し、根石にしている。上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。覆土は、しまりが強い茶褐色土単層である。

遺物は出土していない。

SP3083（遺構Ⅲ−121図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	87	82	50

切合　SK3073>**SP3083**

円形を呈する建物基礎遺構である。坑底中央にバレーボール大の自然石とその周囲にやや小形の切石を配し、根石にしている。上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。覆土は、3層に分層され、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP3088（遺構Ⅲ−122図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C〜D	(75)	(35)	32

切合　SK3028>**SP3088**

楕円形を呈する建物基礎遺構と思われる。遺構の西側を大学時代の管埋設溝によって切られ、全体の様子は復元できない。坑底より20cm上でやや南側に広がっている。坑底、壁はやや凹凸を有し、壁は、ほぼフラットな坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は、2層に分層され、下層には礫が多く含まれ、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP3090（遺構Ⅲ−122図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	43	39	39

切合　**SP3090**>SD246·3100

楕円形を呈する土坑である。坑底には平たい切石が設置されているが、遺構の性格は不明である。坑底、壁はやや凹凸を有するが、顕著ではない。壁は、ほぼフラットな坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は、3層に分層される。

遺物は出土していない。

SK3092（遺構Ⅲ−122図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	148	77	110

切合　SP114·3091、SK3107>**SK3092**>SK3093

やや隅が張る楕円形を呈する土坑である。坑底東側に直径約50cm、深さ30cmの円形の小ピットが設けられている。このピットから遺構上部へ斜方向に延びる柱状の木質が確認され、柱などを設置するためのものと判断された。斜方向の木質は、プライマリーな状態か不明である。坑底、壁は比較的平滑に整形され、ほぼフラットな坑底から壁はやや開きながら立ち上がっている。覆土は下層（4〜5層）にしまりが強い土で固められている。

遺物は、18世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP3111（遺構Ⅲ−122図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	(65)	(52)	71

切合　SK3112·3145、SP3132>**SP3111**>SK3143、SK3242

長方形を呈するピットである。東壁際は大学時代の管埋設溝によって削平されている。土層の観察より長方形の掘方中央を方形に一段凹めて柱を埋めたと推定される。軸はN−3°−Wで、南北延長上にSP3112·3145、SP3113、SP3051、SP3151、SP3182、SP3183など方形の小ピットが存在している。これらは同時期に機能していた可能性があるが、東西に類似した遺構が存在していないことから塀列などのピットであったことが考えられる。坑底、壁は比較的平滑に成形され、中央のピットと掘方を含めて、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、中央のピットが4層、掘方が3層に分層される。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP3112・3145（遺構Ⅲ−122図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	(55)	(51)	71

切　合　SP3113、SP3131>**SP3112·3145**>SP3111、SP3142

方形を呈するピットである。東壁際を大学時代の管埋設溝によって削平されている。軸はＮ－3°－Ｗで、南北延長上にSP3111、SP3113、SP3051、SP3151、SP3182、SP3183などの方形の小ピットが存在している。これらは同時期に機能していた可能性があるが、東西に類似した遺構が存在していないことから塀列などのピットであったことが考えられる。坑底、壁は比較的平滑に整形され、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、4層に分層される。

遺物は、19世紀と推定される陶磁器類が少量出土している。

SP3113（遺構Ⅲ－122図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	27	26	35

切合　SP3131>**SP3113**>SK3112･3145

方形を呈するピットである。軸はＮ－3°－Ｗで、南北延長上にSP3051、SP3111、SP3112･3145、SP3151、SP3182、SP3183などの方形の小ピットが存在している。これらは同時期に機能していた可能性があるが、東西に類似した遺構が存在していないことから塀列などのピットであったことが考えられる。坑底、壁は比較的平滑に整形され、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、3層に分層される。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SK3120（遺構Ⅲ－122図、遺物Ⅳ－57図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
8	G	144	90	13

切合　SK2416･3097、SK3110>**SK3120**

周囲の重複する遺構に切られ、遺構全体の様子は復元できない。あるいは凹んでいる部分の盛土の可能性もある。遺構は坑底のみ遺存しており、坑底は多くの小ピット状のくぼみによって凹凸が顕著である。覆土は2層に分層される。

遺物は、17世紀の陶磁器類、金属製品が少量出土している。

SE3122、SP3227･3228、SP3229、SP3230、SP3232（遺構Ⅲ－123図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	E～	111	109	－

切合　**SE3122**>**SP3227･3228**、**SK3229**、**SK3230**、**SK3232**、SK3248

円形を呈するやや小形の素掘りの井戸である。遺構上部のSP3227･3228、SP3229、SP3230、SP3232らは井桁あるいは井戸枠が組まれた付帯施設と推定される。井戸本体は、確認面より約30cm下方まで一段広くなっており、このレベルで上記4基の遺構を結節する材を渡していたと推定される。また、4基のピットの坑底レベルにバラツキがあることから、屋根などの上部施設の基礎も兼ねていた可能性が考えられる。北、南壁には足掛けと推定される小穴が30～40cmピッチで、調査した確認面下300cmまでに各々4基ずつややレベルを変えて設けられている。小穴は、おおむね横長の長方形を呈し、奥へ10cm程度掘り込んでいる。覆土は5層に分層されるが、天和火災（1682年）層、D面硬化面（2層、4層）などが崩落したと推定される土が堆積している。桶の痕跡は確認できなかった。

遺物は、付帯施設であるSP3227･3228、SP3230から17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP3124（遺構Ⅲ－123図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	94	92	36

切合　SK3093、SK3123、SD3125>**SP3124**

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構の上部をSD3125に切られている。坑底にハンドボールからバレーボール大の自然石、切石を配し、根石にしている。上層は砂利、土とともに強く転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。覆土は、4層に分層され、しまりが強い。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SD3133（遺構Ⅲ－123図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	E	(488)	96	17

切合　SD4800>**SD3133**>SK3149･3205、SK3206、SK3207、SP3208、SK3209、SK3280、SP3283、SP3284、SP3286、SP3287、SK3288、SP3289、SP3290、SP3291、SK3294、SK3297、SK3298、SK3306、SK3307･3343、SK3323

Ｎ－90°－Ｅを主軸に持つ浅い溝である。遺構の南、西側、中央を大学時代の埋設管、撹乱によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。E面以下で確認されている重複関係を有する遺構のうち、SD4800以外の全てに新である。また、Ⅲ次調査中央を南北に走る大学時代の三連の配管より東側には遺構が確認されていないことから、そこまでの間に立ち上がっているものと判断され

る。坑底や壁には凹凸が認められるが、顕著ではない。覆土は3層に分層される。

遺物は出土していない。

SK3141（遺構Ⅲ−124図、遺物Ⅳ−57図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	(71)	65	27

切合　**SK3141**>SK3152、SK3187･3188

不整の円形を呈すると思われる土坑である。北側を大学時代の管埋設溝によって削平されている。坑底や壁は、凹凸が認められ、坑底南側には小ピット状の落ち込みが確認される。覆土は2層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、瓦が出土している。

SU3146（遺構Ⅲ−124図、遺物Ⅳ−57、58図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	C	303	288	382

切合　SK3104、SP3116>**SU3146**

N−12°−Wを主軸に持つ方形を呈する地下室である。遺構上部中央は大学時代の管埋設溝によって切られている。室部は開口部の北、西、南側にそれぞれ70cm、80cm、70cm広がっており、東壁は開口部から室部に連続している。開口部の規模は、東西190cm、南北150cm、室部は確認面から徐々に広がっていき、100cm付近から急激に外側に張り出している。室部の壁は坑底から100cm程度の高さを有する。坑底は平滑でフラットに、壁はやや凹凸を有している。覆土は14層に分層されるが、各層はフラットに埋め戻されており、特に坑底から150cm以上は、ローム土と焼土を互層にしてたたきしめられていた。丁寧に埋め戻し、陥没を防ぐ目的が看取される。

遺物は、17世紀末から18世紀前葉の陶磁器類が出土している。

SK3149・3205（遺構Ⅲ−124図、遺物Ⅳ−58図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	E〜	278	(224)	110

切合　SD3133>**SK3149･3205**>SK3206、SK3213、SK3278、SK3280、SK3322、SK3366、SK3367

ややいびつな方形を呈する土坑である。遺構の中央と南側を大学時代の管埋設溝と撹乱に切られ、全体の様子は復元できない。遺構内側壁より約35〜40cmに腐食した厚さ5cm程度の板の痕跡が坑底、東側、北側で確認されており、遺構は木組みの箱状施設であったと判断された。底板、側板からは長さ5cm程度の頭巻釘が密に打たれていた。また、遺構北側は、腐食した木質の痕跡が確認されておらず、廃棄時あるいは撹乱時に大きく壊された可能性が高い。遺構掘方の坑底や壁は、平滑に整形され、壁はフラットな坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は7層に分層される。

遺物は、釘が多く出土しているが、その他には確認できなかった。

SK3179（遺構Ⅲ−125図、遺物Ⅳ−58図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	G	(72)	69	55

切合　SD3114>**SK3179**

隅丸方形を呈していたと推定される土坑である。遺構の北半を大学医学部校舎の根切りによって削平され、遺構全体の様子は復元できない。坑底や壁には凹凸が認められるが、顕著ではない。壁は鍋底状の坑底より開きながら立ち上がっている。覆土は3層に分層されるが、いずれも粘性が強い。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP3187・3188（遺構Ⅲ−125図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C〜D	(84)	82	42

切合　SK3141、SK3152>**SP3187･3188**>SP3189

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構の北側をSK3141、東側を大学時代の管埋設溝、上部をSK3152に切られている。坑底中央に最も大きい人頭大の自然石、その周囲に切石を5個を配し、根石にしている。上層はやや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって地面に石が深くめり込んでいる。覆土は、2層に分層され、いずれもしまりが強い。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SK3198（遺構Ⅲ−125図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
6	G	53	46	26

切合　SP3199>**SK3198**

円形を呈する土坑である。遺構の平面形は円形で、最下層に炭化物層が確認されることから、桶あるいは籠のような器物が埋設されていたと推定される。坑底や壁は平滑で、凹凸がない。壁はフラットな坑底から若干開きながら立ち上がっている。覆土は、炭化物層を含めて7層に分層され、上位2層には粘性の強い土で構成される。

遺物は出土していない。

SK3217（遺構Ⅲ−125 図、遺物Ⅳ − 58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	F	(67)	(25)	13

円形を呈していたと推定される浅い土坑である。遺構の北半をⅢ次調査とⅣ次調査時に設定した区境法面によって調査が行えなかった。坑底や壁には凹凸が認められるが、顕著ではない。浅いことで坑底と壁の境は明瞭ではないが、坑底は鍋底状を呈している。覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は、銭貨が 1 枚出土している。

SK3242（遺構Ⅲ−125 図、遺物Ⅳ − 58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4·6	D	(280)	(117)	16

切合　SP3024、SP3049、SP3051、SP3076、SK3089、SK3108、SP3109、SP3111、SK3143、SK3152、SK3201、SP3241>**SK3242**

4 区中央南側に広がる瓦集中区である。C ～ D 面の重複している全ての遺構に切られている。瓦は 2 次的な火熱を受けており、火災後の造成時に敷いた可能性が高い。焼瓦は本瓦であった。

遺物は、17 世紀後半の 2 次的火熱を受けた陶磁器類、瓦などが出土している。

SD3267（遺構Ⅲ−125 図、遺物Ⅳ − 58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	(176)	77	58

切合　SP3260>**SD3267**

N − 5° − W の主軸を有する溝である。遺構の南側で SK3308 と重複するが、両遺構の立ち上がりがほぼ重なるため、新旧は確認できなかった。坑底や壁には凹凸が認められるが、顕著ではない。やや丸みを帯びた坑底から壁はほぼ垂直に立ち上がっているが、東壁は坑底より約 40cm 上で屈曲して大きく開いている。覆土は、2 層に分層される。南側の SK3308、SK3270 とは軸、規模、形状などが近似しているため、同時期に機能していた可能性がある。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SK3268（遺構Ⅲ−125 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	73	65	53

方形を呈する土坑である。遺構の東壁を大学時代の管埋設溝によって切られている。坑底や壁は凹凸が顕著で、中央には覆土上部から貫通する柱の痕跡が確認された。塀などの施設の可能性があるが、周囲に伴う遺構が確認されていない。壁は坑底よりやや開いて立ち上がっている。覆土は 3 層に分層される。

遺物は出土していない。

SK3271（遺構Ⅲ−126 図、遺物Ⅳ − 58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	115	76	30

切合　**SK3271**>SK3270

楕円形を呈する土坑である。坑底や壁には凹凸が認められるが、顕著ではない。坑底は鍋底状を呈し、壁は坑底より連続して開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層される。

遺物は、17 世紀中葉の陶磁器、瓦などが出土している。

SK3305（遺構Ⅲ−126 図、遺物Ⅳ − 58 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	G	100	96	14

切合　SP3147、SP3327>**SK3305**

不整の円形を呈する浅い土坑である。重複する全ての遺構より旧である。坑底や壁は凹凸が顕著で、鍋底状を呈する坑底から壁は開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層され、下層のしまりは強い。

遺物は、瓦が少量出土している。

SK3312・3315（遺構Ⅲ−126 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	G	134	132	34

切合　SK3345>**SK3312·3315**>SK3341

円形を呈する土坑である。坑底には凹凸が認められるが、顕著ではない。壁は比較的フラットな坑底から開きながら立ち上がっている。上層からイルカの頭骨が出土しているが、それ以外の骨は確認できなかった。覆土は 3 層に分層されるが、全体的にしまりが強い。

遺物は、イルカの頭骨以外は出土していない。

SD3328（遺構Ⅲ−126 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4·6	E ～	(442)	124	42

切合　SK3011、SP3049、SP3051、SP3111、SP3132、SP3142、SK3143、SK3234、SK3253、SK3314>**SD3328**>SU3333、SK3377·3378、SK3381、SK3390

N － 2° － E を主軸に持つ浅い溝状遺構である。遺構南側を SK3011、上部を D 面以上の遺構に切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底や壁は凹凸が認められるが、顕著ではない。坑底はおおむねフラットで、壁は開きながら立ち上がっている。覆土は 5 層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SK3331（遺構Ⅲ－127 図、遺物Ⅳ－ 59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	117	101	72

切合　**SK3331**>SK3341

N － 1° － E を主軸に持つ長方形を呈する土坑である。壁には東側に 3 基､西側に 1 基ピット状の施設があるが、これらの性格は不明である。坑底には凹凸が認められるが、顕著ではない。壁は比較的フラットな坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分層されるが、北から南へと傾斜を有している。

遺物は、17 世紀前半～中葉の陶磁器類が少量出土している。

SU3333（遺構Ⅲ－127 図、遺物Ⅳ－ 59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	215	149	184

切合　SK3011、SP3142、SK3143、SK3234、SK3253、SK3314、SD3328、SP3409>**SU3333**>SK3390

N － 7° － W を主軸にもつ長方形を呈する地下室である。室部は入口部から四方にオーバーハングしている。入口部は東西 90cm、南北 140cm を計測する。坑底は確認面から約 200cm 下にあり、入口部より東に 25cm、西に 30cm、南に 20cm、北に 50cm 張り出している。坑底や壁は比較的平滑に調整されている。覆土は 5 層に分層され、その堆積はおおむねフラットであった。

遺物は、瓦が少量出土している。

SK3362（遺構Ⅲ－127 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	60	57	38

切合　SK3092>**SK3362**

ややいびつな円形を呈する土坑である。坑底、壁は凹凸が少なく、壁はフラットな坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。坑底には炭化物層が薄く確認され、その上層は本郷邸において江戸前期に特徴的な粒子が細かい黒色土系の土が確認されている。覆土は、3 層に分層される。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が少量出土している。

SK3377・3378（遺構Ⅲ－127 図、遺物Ⅳ－ 59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
6	E ～	(65)	34	16

切合　SD3328>**SK3377･3378**

不整形を呈する浅い遺構である。遺構東側を SD3328 によって削平されている。坑底、壁は比較的平滑で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は 3 層に分層されるが、いずれもしまりは強い。

遺物は、銭貨が 1 枚出土している。

SX4014（遺構Ⅲ－128 図、遺物Ⅳ－ 59 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(489)	216	116

切合　**SX4014**>SP4050、SP4056、SP4096、SK4311、SK4421、SP4332･4550

N － 83° － E を主軸に持つ石組遺構である。遺構の西側を大学医学部校舎の根切り、中央を 2 条の管埋設溝、上部を大学時代の撹乱によって削平され、遺構全体の様子は窺えなかった。遺構東側は、間知石を向かい合わせに掘方の両側に置き、その間に長方形の平石を 2 枚、面を上に向けて並べている。間知石の間は約 120cm を計測し、西側から東に向かって 30 度程度の傾斜で降っている。構造から東側のおそらく通路に向けて降りる階段と推定される。

遺構西側は、間知石を向かい合わせに掘方の両側に置き、その間約 120cm は硬化面を作り出している。硬化面は C 面遺構確認面から 100㎝程度低いレベルにある。北側の間知石は、石面幅 30 ～ 35cm、高さ 20cm 程度、同じ石材を使用し、ほぼ規格が揃っていたが、南側の石は石材、規格が異なっていた。また、栗石は自然石を多用し、割石はほとんど使用されていない。硬化面は間知石最下段より 10cm 程度高いレベルで構築されていた。

遺構の掘方底は、凹凸が少なく、ほぼフラットな溝底から南北壁は垂直に立ち上がっている。間知石間の覆土は、下層付近（7 層）に炭化物と破砕礫、上層（1 層）には焼土が多く含まれていたことから、本遺構の廃棄要因は火災の可能性が高い。遺構の切り合い関係から、火災は慶應 4（1868）年であると推定される。

また､幕末の本郷邸の状況を描いた「江戸屋敷総図」（金沢市立玉川図書館蔵）には、当該地付近に能舞台の西側にある拝見所の地下をアンダースルーする下掃除用の通路と思われる施設が描かれている。本遺構はそれに該当すると考えている。

SP4028（遺構Ⅲ−129 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(118)	(68)	22

切合　SP750、SP751>**SP4028**

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。坑底付近と壁際にはバレーボール大〜ハンドボール大の自然石を中心とした石を根石として設置し、その上層は黄褐色の山砂、玉砂利、茶褐色土とで転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開いて立ち上がっている。覆土は 3 層に分層される。

遺物は出土していない。

SP4029（遺構Ⅲ−129 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(127)	(69)	32

切合　**SP4029**>SE4346、SP4492

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構の東側を大学時代の管埋設溝によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。坑底付近と壁際にはバレーボール大〜ハンドボール大の自然石を中心とした石を根石として設置し、その上層は黄褐色の山砂、砂利、暗茶褐色土とで転圧した状態で堆積している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開いて立ち上がっている。覆土は 3 層に分層される。

遺物は出土していない。

SK4030（遺構Ⅲ−129 図、遺物Ⅳ − 60 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	119	109	52

切合　**SK4030**>SP4037、SK4311、SP4664

N − 9° − W を主軸に持つ方形の石組遺構である。C 面で重複している遺構では、全てに新である。凝灰岩を延べ板状に成形し、底石 2 枚を方形に敷き、それを囲むように一辺に 2 枚ずつ縦に積み、合計 8 枚の板石で箱状に組み上げている。板石は南北方向のものが東西方向の石にかぶるように作られるために、大きさが異なっている。南北の板石は長さ 60cm、幅 28 〜 30cm、厚さ 10cm 程度、東西の板石は長さ 50cm でやや短い。南東隅上段には楔状に石がはめ込まれているが、長さ調整であろうと推定される。西側側石は合わせ部分に切り欠きを作り出して構築しているが、全てに認められる訳ではなく、全体として非常に丁寧に作り上げているとは言えない。

板石を設置する掘方は、一回り大きく作られており、ややいびつな方形を呈する。坑底や壁は弱い凹凸が確認され、壁は坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は、石組内が 4 層、掘方が 2 層に分層される。石組内は、最下層に粘土層、下層に炭化物層、上層には焼瓦、焼土が多く含まれる橙褐色土が堆積しており、遺構の廃棄は火災による可能性が高い。遺構の切り合い状況から慶應 4（1868）年の火災が考えられる。

遺物は、焼瓦および 18 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SD4031（遺構Ⅲ−94 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
3	G	(296)	28	20

切合　SK347、SK350、SP355、SP356、SK4002、SP4023>**SD4031**>SP4041、SK4043

10 数条ある浅い溝である。主軸は N − 3° − W の中間である。覆土の状況から 17 世紀前半の遺構であると推定される。最も長い溝で 300cm程度で、長さ、溝幅、間隔なども一定ではないことから、畑の畝の痕跡とも推定されるが、当該期の藩邸内の土地利用が明確ではないことから断定はできない。図中最西に位置する溝の延長上に SD1180 があり、同時期に機能していた可能性もある。

遺物は出土していない。

SP4032（遺構Ⅲ−129 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	135	123	75

切合　**SP4032**>SK4335、SK4336、SP4357･4381、SP4380、SK4535

円形を呈する建物基礎遺構である。C 面で重複する全ての遺構より新である。坑底付近とその上には 2 段分バレーボール大〜ハンドボール大の切石を中心とした石を根石として設置し、その上層は黄褐色の山砂、砂利、暗茶褐色土とで転圧した状態で堆積している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開いて立ち上がっている。覆土は暗褐色土単層である。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP4033（遺構Ⅲ−130 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	131	(76)	56

切合　**SP4033**>SK4421

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構東側を大学時代の管埋設溝によって切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底中央には最も大きな石を根石として設置、その周囲と壁際に人頭大の大形の自然石、切石、その上にこぶし大の切石を配し、最上層は黄褐色の山砂と砂利とで転圧した状態で堆積している。特に2層は大きな圧力によって粉砕された凝灰岩層である。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開いて立ち上がっている。覆土は5層に分層される。

遺物は、18世紀後半～19世紀中葉の陶磁器類が出土している。

SP4037（遺構Ⅲ−130図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	(109)	(86)	70

切合　SK4030>**SP4037**

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構東側を大学時代の管埋設溝、西側をSK4030によって切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底付近では人頭大の大形の自然石、切石2段を根石として配し、その上層は黄褐色の山砂（2層）、最上層中央（1層）には暗茶褐色土が砂利とともに転圧された状態で堆積している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層される。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4038（遺構Ⅲ−130図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	(120)	(96)	62

切合　SP4039>**SP4038**>SP4664、SK4708

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構東側を大学時代の管埋設溝によって切られている。隣接するSP4039とは規模、構造などが近似する。本遺構は根固めの工程が明瞭に看取できた。坑底付近では人頭大の大形の自然石､切石2段を根石として配し､その上層(6層）には黄褐色の山砂と砂利層、最上層中央（5層）には暗茶褐色土が転圧された状態で堆積している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層に分層される。

遺物は、17世紀末頃の陶磁器類が少量出土している。

SP4039（遺構Ⅲ−130図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	119	(106)	76

切合　**SP4039**>SP4038

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構東側を大学時代の管埋設溝によって切られている。隣接するSP4038とは規模、構造などが近似する。本遺構は根固めの工程が明瞭に看取できた。坑底付近では人頭大の大形の自然石、切石2段を根石として配し、中層（2～3層）には黄褐色の山砂と砂利層、上層中央（1層）には暗茶褐色土が転圧された状態で堆積している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層に分層される。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP4040（遺構Ⅲ−130図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	69	63	15

円形を呈する小形の建物基礎遺構である。坑底にはバレーボール大の石が確認されており、その上層は、砂利、山砂､土などとともに転圧されている｡坑底はほぼフラットで、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は2層に分層されるが､転圧によってしまりが強い。

遺物は出土していない。

SK4048（遺構Ⅲ−131図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	C	(368)	(157)	110

切合　**SK4048**>SP823、SP824･4064、SU1266･4017、SD4016、SX555･4059、SK4063、SP4071、SD4088、SP4339

楕円形を呈すると推定される遺構である。遺構南側を大学時代の共同溝埋設溝､西側を撹乱によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底からやや浮いて4層中に多くのバレーボール大からハンドボール大の自然石や切石が確認されており、また、重複している能舞台、建物基礎遺構などを切って構築されていることから、藩邸解体時の廃棄遺構の可能性も考えられる。坑底はやや凹凸を有するものの、おおむねフラットで、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は5層に分層される。

遺物は、18世紀後半～19世紀中葉の陶磁器、瓦などが出土している。

SP4049（遺構Ⅲ−131 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(128)	118	58

切合　SP4049>SP4228、SK4335、SP4349、SP4354、SP4356

楕円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構南側を大学時代の撹乱によって削平され、全体の様子は復元できない。坑底中央付近では大きな石が確認されていないが、西壁際で大形の切石が配され、その上層は、砂利、山砂、土などとともに転圧している。坑底は浅い鍋底状を呈し、転圧によって坑底や壁に石がめり込んでいる。坑底、壁は凹凸があり、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層されるが、しまりが強い。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SP4050（遺構Ⅲ−131 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(113)	(51)	30

切合　SX4014>SP4050

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構北側を SX4014 に切られ全体の様子は復元できない。本遺構は根固めの工程が明瞭に看取できた。坑底付近では人頭大の大形の自然石を 2 段根石として配し、上層には、黄褐色の山砂と砂利層、暗茶褐色土と砂利層が交互に転圧された状態で堆積している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 5 層に分層される。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP4051（遺構Ⅲ−132 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	181	(75)	71

切合　SP4053>SP4051

楕円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。大学時代の管埋設溝に遺構の大部を切断され、全体の様子は復元できない。壁の立ち上がり付近ではハンドボール大の切石を配していたが、転圧によって壁側に食い込んでいた。壁は石のめり込みによって凹凸が顕著で、開きながら立ち上がっている。覆土は礫を含み、しまりが強い。

遺物は出土していない。

SP4053（遺構Ⅲ−132 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(83)	(39)	42

切合　SP4053>SK4051

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構西側大部分を大学時代の管埋設溝に切られ全体の様子は復元できない。壁の立ち上がり付近ではハンドボール大の切石を配しているが、転圧によって大きく壁側に食い込んでいた。上層は、砂利、山砂、土などとともに転圧され、しまりが強い。壁は石のめり込みによって凹凸が顕著で、やや開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層される。

遺物は出土していない。

SP4055（遺構Ⅲ−132 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(67)	(47)	10

切合　SP4055>SP557、SD952、SK977、SK978・4290、SP4500、SK4702

楕円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構東側を A ～ B 面の SK539･4225･4254 に切られ全体の様子は復元できない。坑底付近ではやや小形の切石を根石として配し、上層は、砂利、山砂、土などとともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は出土していない。

SP4056（遺構Ⅲ−132 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	109	(78)	77

切合　SX4014>SP4056

楕円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構西側を大学医学部校舎、北側を SX4014 に切られ全体の様子は復元できない。坑底付近 4 層ではソフトボール大とこぶし大の礫で、上層の 2 ～ 3 層は大形の自然石を用いている。本地点で確認されている多くの建物基礎遺構に多い、大形礫を根石としてその上層に小形礫と砂利などを用いて根固めをする工法とは異なっている。砂利、山砂、土などとともに転圧していたのは、2 ～ 4 層までである。

坑底は中央がやや凹んでおり、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 4 層に分層される。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP4058（遺構Ⅲ−132 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	155	146	74

切合　SP4058>SK4334、SK4400

やや不整な円形を呈する建物基礎遺構である。切り合っているC面の遺構全てより新である。覆土全体にバレーボール大からソフトボール大程度の自然石、切石が充填され、砂利、山砂、土などとともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は6層に分層されるが、いずれもしまりが強く、礫が多量に含まれている。特に4層は、転圧によって粉砕された凝灰岩層で形成している。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4061（遺構Ⅲ−133 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	133	128	69

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構は､大学時代の管埋設溝によって東西に切断されており、遺構全体の様子は復元できない。比較的状況が看取できた東側では坑底付近にハンドボール大程度の凝灰岩の切石を根石とし、その上層を砂利、山砂、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は5層に分層され、しまりが強く、黄褐色砂、礫が多量に含まれている。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4066（遺構Ⅲ−133 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	195	137	50

切合　SP4066>SP4092、SK4394

楕円形を呈する建物基礎遺構である。切り合っているC面の遺構全てより新である。坑底中央にはバレーボール大程度の自然石とやや小さめの切石を根石とし、その上部にも自然石と切石とで根固めしている。その間は砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は2層に分層され、しまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4067（遺構Ⅲ−133 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	159	146	22

切合　SP4067>SP4320、SP4340、SP4351、SD4353、SK4400

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。切り合っているC面の遺構全てより新である。本遺構は根固めの工程が明瞭に看取できた。石は大きく3段に分けて配されており、坑底付近下段にはバレーボール大程度の自然石、中段にはやや小さめの切石、上段には下段と同じ程度の自然石に少量の切石と使っている石を分けて根固めしている。いずれも砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は6層に分層され、しまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4068（遺構Ⅲ−133 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	149	(124)	43

切合　SP4068>SP4318、SP4328、SP4384

やや不整の円形を呈する建物基礎遺構である。坑底にはバレーボール大程度の切石を根石にし、上層にはやや小形の自然石や切石を土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁より石が深くめり込んでいる。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層に分層されるが、いずれもしまりの強い層であった。

遺物は､陶磁器類がごく少量出土しているのみである。

SP4069（遺構Ⅲ−133 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(113)	(95)	39

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構東側および中央を大学時代の管埋設溝によって削平されている。坑底付近にはバレーボール大程度の自然石、切石を根石として配し、砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は削平により浅かったが、しまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4070（遺構Ⅲ−134 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	136	(131)	31

切合　SP4070>SD1072･4300、SP4077、SD4301

円形を呈する建物基礎遺構である。最下段とその上段（4 ～ 5 層）にはバレーボール大程度の自然石を数個を配し、坑底付近に大形、上層（1 ～ 3 層）にはやや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底はやや中央が凹んでおり、強い転圧によって坑底や壁より石が深くめり込んでいる。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 5 層に分層されるが、いずれもしまりが強い。

遺物は、18 世紀と思われる陶磁器類が少量出土している。

SP4072（遺構Ⅲ−134 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	110	104	18

切合　SP4072>SP4304、SK4344

円形を呈する建物基礎遺構である。坑底付近には、ハンドボール大からバレーボール大の自然石、切石を根石として配し、砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 3 層に分層され、いずれもしまりが強く、礫が多量に含まれている。本遺構の下には、SP4304 があり、本遺構の坑底は砂利が認められなかったことで別遺構と判断したが、工程差による違いの可能性も考えられる。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SP4074（遺構Ⅲ−134 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(104)	(69)	64

切合　SP4074>SD1072･4300

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構西および南側を大学の医学部校舎建築の際の根切りによって削平されている。坑底付近にはバレーボール大程度の自然石、切石を多く配し、下層（4 層）は大形、上層（1 ～ 3 層）はやや小形の石と砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分層され、いずれもしまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は、陶磁器類が少量出土している。

SE4075（遺構Ⅲ−134 図、遺物Ⅳ − 60 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(120)	(67)	(190)

切合　SE4075>SP4082、SK1071･4229、SD4301

隅丸方形を呈する遺構である。調査では確認面以下 200㎝まで行ったが、安全上の理由で坑底を確認するにはいたらなかった。掘り上がりの状況から井戸と推定される。遺構の南側を大学の共同溝埋設溝に切られ、遺構全体の様子は復元できない。壁は比較的平滑に整形され、ほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、調査を行った位置までに 6 層に分層される。

遺物は、明治時代の陶磁器類を中心に少量出土している。

SP4076・4302（遺構Ⅲ−135 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	140	(98)	69

切合　SP4076･4302>SK4330、SK4338、SK4352

円形を呈する建物基礎遺構である。遺構西側は、大学の医学部校舎建築の際の根切りによって削平されている。坑底中央付近を中心にバレーボール大程度の自然石、切石を多く配し、中～下層（3 ～ 5 層）は大形の、上層（1 ～ 2 層）はやや小形の石を砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 5 層に分層され、いずれもしまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は、陶磁器類が少量出土している

SP4077（遺構Ⅲ−135 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(184)	(182)	75

切合　SP4070>SP4077

円形を呈する建物基礎遺構である。遺構東側は、大学の撹乱によって切られている。坑底中央付近にはバレーボール大程度の自然石、切石を数個を配し、上層はやや小形の石を砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 5 層に分層され、いずれもしまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は、17 世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP4078（遺構Ⅲ−135 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	103	(71)	59

切合　SP4078>SD4353

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構西側は、大学の撹乱によって大きく切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底にはバレーボール大程度の自然石、切石を数個を配し、上層は砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層され、いずれもしまりが強く、礫が多量に含まれている。

遺物は出土していない。

SP4081（遺構Ⅲ−135 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(142)	135	68

切合　SP4090>SP4081>SD1072･4300、
SD1071･4299、SD4301、SK4306

円形を呈する建物基礎遺構である。遺構北側は、SP4090 によって切られている。坑底にはバレーボール大程度の自然石、切石を数個配し、坑底付近に大形、上層にはやや小形の自然石を配して、砂利、土とともに転圧している。坑底は中央がやや凹む鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底、壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からややオーバーハングしながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分層されるが、4 層はめり込んだ自然堆積のローム土が硬化した部分も含まれていた。いずれもしまりが強く、下層の 3 層が礫が多量に含まれている。

遺物は出土していない。

SP4082（遺構Ⅲ−135 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(77)	(65)	48

切合　SE4075>SP4082>SD1071･4299、SD4301

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構南側は、大学時代の共同溝埋設溝、東側を SE4075 切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底にはハンドボール大程度の切石が配され、やや小形の自然石や切石で砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、転圧によって坑底に石が深くめり込んでいる。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底からやや傾斜をもって立ち上がっている。覆土は 3 層に分層され、強くしまりを有している。

遺物は出土していない。

SX4083（遺構Ⅲ−136 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	C	43	32	12

切合　SP4084>SX4083>SK4308

ややいびつな楕円形を呈するピットである。遺構の覆土には焼土と炭化物が多く含まれており、坑底付近から検出されているこぶし大の自然礫も 2 次的な火熱を受けている。平面的な焼土範囲は円形を呈しており、遺構坑底付近に炭化材が確認されていることから、桶またはざるなどの木製品の中に焼土を投げ入れた可能性を考えている。坑底は火を受けておらず、凹凸が顕著である。壁は坑底からやや開きながら立ち上がっている。

遺物は、炭化物以外は出土していない。

SP4090（遺構Ⅲ−136 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	87	77	29

切合　SP4090>SD1072･4300、SP4081、SD4301

ほぼ円形を呈する比較的浅い建物基礎遺構である。C 面で切り合っている全ての遺構より新である。坑底にはやや小形の切石を数個配し、土とともに転圧している。転圧によって坑底や壁に石がめり込んでいる。坑底は凹凸が認められ、壁は鍋底状の坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層され、下層に礫が多く含まれている。

遺物は、17 世紀末から 18 世紀初頭の陶磁器類が少量出土している。

SP4092（遺構Ⅲ−133 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(118)	(114)	46

切合　SP4066>SP4092>SP4387

円形を呈すると推定される建物基礎遺構である。遺構の北側大部分を SP4066 によって削平されており、遺構の全容は不明である。坑底にはハンドボール大程度の自然石、切石を多く配し、坑底付近に大形、上層にはやや小形の自然石や切石で砂利、土とともに転圧している。強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は 2 層に分層され、下層に礫が多量に含まれている。

遺物は出土していない。

SP4096（遺構Ⅲ−136 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	146	(141)	29

切合　SK4008、SX4014、SK4047、SP4091、SP4097、SP4098>**SP4096**

円形を呈する建物基礎遺構である。遺構の北側は、大学時代の管埋設溝によって削平されている他、C 面で切り合っている全ての遺構より旧である。坑底にはハンドボール大程度の自然石、切石を多く配し、坑底付近に大形、上層にはやや小形の自然石や切石で砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 7 層に分層され、下層に礫が多量に含まれている。

遺物は出土していない。

SP4101（遺構Ⅲ−136 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(176)	(83)	98

切合　**SP4101**>SP4343

建物基礎遺構である。遺構中央を南北に大きく大学時代の管埋設溝に撹乱されているが、平面形は東西方向に長軸を有す楕円形を呈す。本遺構南側、D 面焼土層にパックされた SP4343 を切っている。覆土には礫を多く含み、強く叩きしめられたような状況であった。坑底付近では覆土中の礫よりはやや大きい礫が敷き詰められ、その中央が全体より少し凹んでいる状況が確認された。

遺物は出土していない。

SP4102（遺構Ⅲ−136 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(71)	(35)	27

切合　**SP4102**>SD1071･4299、SD4301

建物基礎遺構である。南側を大きく撹乱され、遺存する平面形は半円形状を呈す。覆土には砂礫を多く含み、しまりが強い。坑底には割石を利用した根石が 1 個遺存していた。

遺物は出土していない。

SP4104（遺構Ⅲ−137 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	164	124	87

切合　SD4800>**SP4104**>SP4128、SP4197、SP4198

平面形は歪な隅丸長方形を呈す大形の建物基礎遺構である。北側立ち上がり、遺構中央を前田候爵邸時代の管埋設溝に撹乱されている。しまりの強い覆土は大きく 2 層に分けられ、下層に礫が多量に含まれる状況が確認された。坑底中央に最大長約 60cm を測る長方形の切石を、その周囲に形、大きさが不揃いの割石を配し根石としていたが、根石は掘方に沈み込んだような状況で検出された。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4106（遺構Ⅲ−137 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	110	108	66

切合　**SP4106**>SD1072･4300、SP4239、SD4301

平面形は円形を呈す建物基礎遺構である。南側は大学時代の管埋設溝に撹乱される。非常にしまりの強い覆土は大きく 2 層に分けられ、両層とも礫を多く含むが、下層の方が礫を多量に含む。坑底中央付近に長軸約 70cm の長方形の切石を、その周囲には形状、石材は異なるが、ほぼ同じ大きさの割石を 5、6 個配したような根石が掘方に沈み込んだ状況で確認された。なお石の平板はいずれも平らに成形されている。

遺物は、17 世紀末に比定される陶磁器類が出土している。

SP4107（遺構Ⅲ−137 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	88	69	8

建物基礎遺構である。大きく削平され、根石などが転圧された凹凸と、数個の栗石が検出される坑底のみが遺存していた。

遺物は出土していない。

SP4109（遺構Ⅲ−137 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	65	61	28

上部を大きく削平され、坑底付近のみが遺存していた建物基礎遺構である。坑底には直径 5 ～ 10cm 前後の転圧された多くの栗石が検出されたが、根石と判断できるものは確認できなかった。

遺物はごく少量出土している。

SP4111（遺構Ⅲ−137 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(103)	86	66

切合　**SP4111**>SP4282

北側を大きく撹乱された建物基礎遺構であり、平面形はやや歪な円形を呈す。しまりの強い覆土は3つに分層されたが、2層とした中央付近の層に礫が集中した状況が確認され、その下から上部が平らに削られた玉石と方形の切石を重ねた状態の根石が検出された。

遺物は、ごく少量出土している。

SP4114（遺構Ⅲ−137図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	(87)	(70)	45

切合　SD4800>**SP4114**>SP4207

建物基礎遺構である。北東部分を前田候爵邸時代の管埋設溝に撹乱され、平面形は歪な半楕円形を呈す。礫を多く含むしまりの強い覆土が主体となっているが、最下層の明灰色粘土層は坑底付近で部分的に確認されたものであるが、意識的に貼ったものかは不明である。なお根石などは確認されなかったが、完掘した坑底に歪な凹みが確認された。

遺物は17世紀後半と推定される陶磁器類が少量出土している。

SP4115（遺構Ⅲ−138図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	(85)	(38)	38

切合　SD4800>**SP4115**>SP4206

建物基礎遺構である。北東側に位置する前田候爵邸時代の管埋設溝により撹乱されており、平面形は半円形を呈す。しまりの強い覆土は大きく2層に分層されるが、坑底に近い覆土中の礫の方が上層の礫より少し小さなものを使用している。坑底には天板が平らな割石の上に、それらより一回り大きな破砕礫がのせられた状態で検出された。

遺物は、17〜18世紀に比定される陶磁器類が出土している。

SP4116（遺構Ⅲ−138図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	51	(39)	28

切合　SD4800>**SP4116**

建物基礎遺構である。北東側に位置する前田候爵邸時代の管埋設溝により撹乱されており、平面形は半円形を呈す。覆土のしまりは強かったが､礫の含有量が少なく、根石なども確認されなかったが、坑底には転圧を受けたような凹みが確認されており、基礎遺構と推定した。

遺物は、18世紀前半に比定される陶磁器類が出土しており、覆土中の焼土に伴うと推定される2次的に火熱した肥前系磁器Ⅲ JB-2-c なども出土している。

SP4118（遺構Ⅲ−138図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	(104)	(61)	30

切合　SK4119>**SP4118**

建物基礎遺構である。北から東側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱され、また西側に位置するSP4119にも切られ、遺存する平面形は歪な半円形を呈す。非常にしまりの強い覆土には多量の礫を含み、その中に長軸約60cm、厚さ約20cmの切石が据えられていたが、礫を多量に含む覆土はこの切石の下まで確認された。切石の南端部表面には切り出した際についたと思われる矢穴が観察された。

遺物は出土していない。

SP4121（遺構Ⅲ−138図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	131	104	37

建物基礎遺構である平面形は南北にやや長い歪な円形を呈す。しまりの強い覆土はローム主体でさほど礫などを含まないものであったが、坑底付近では15〜20cm大の割石が、40〜50cm大の根石と思われる切石の上を覆うように検出された。強い転圧のためか掘方には根石などによる凹凸が著しく残る。

遺物は、18世紀代に比定される陶磁器類が少量出土している。

SK4124、SK4193

（遺構Ⅲ−139図、遺物Ⅳ − 60図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	C	102	89	98

切合　**SK4124**>SD4169、**SK4193**

SK4124､SK4193は大量の瓦が検出された土坑であり、この中には焼け瓦も含む。SK4124の側面には薄く炭化材が検出された。また覆土中には焼土層も確認され、その下に炭化物層が検出されたことから、SK4124には円形の桶状のものが埋められていた遺構であったと推測される。SK4193は東側は大学時代の管埋設溝に撹乱されているが、円形の桶の外側にさらに長方形の掘方が確認される遺構である。SK4124同様、円形桶の覆土中からは大量の焼瓦と炭化物が出土したが、炭化物は下層に集中する状況が認められた。以上のような状況から、両遺構は桶のようなものが東西に2個並べられていた施設で

あった可能性が想定される。

両遺構の出土遺物は、19 世紀に比定される陶磁器類が出土しており、SK4124 で確認された 2 次的な火熱を受けた遺物は、その様相から慶應 4（1868）年の火災で焼失した可能性が高い。

SP4125（遺構Ⅲ−138 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	102	98	29

切合　SK4138>**SP4125**>SP4132、SK4168

SK4138 に覆われる形で検出された建物基礎遺構である。SP4125 は東西方向に長軸を有す、やや歪な楕円形を呈す。しまりの強い覆土は多くの礫を含み、その下からは方形の割石が南北に 2 個、それらの西側に隅丸長方形の割石が 1 個検出された。またこれら割石の間を埋めるように破砕礫が確認された。

遺物は、わずかしか出土しておらず、年代比定が不可能であったが、重複関係のある SP4132 が 18 世紀代に比定される陶磁器類が出土していることから、それと同年代あるいはそれより新しい年代の柱穴と推定される。

SP4130（遺構Ⅲ−139 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	120	98	58

切合　**SP4130**>SP4230、SP4231

建物基礎遺構である。平面形は歪な円形を呈す。最上層は D 面焼土層でパックされ、その下は礫やローム粒などを多く含む層で突き固められていた。特に礫は最下層に集中する状況が確認され、坑底では根石として長軸が 20 ～ 30cm 大のやや大きめの割石 2 個と丸石が 1 個、それら石の周囲を埋めるように長軸 10cm 前後の割石が敷き詰められていた。なお石は全て掘方に沈み込む状況で検出された。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土しているが、2 次的に火熱を受けた遺物をみると、焼土は天和 2（1682）年の火災に伴うものか。

SP4131（遺構Ⅲ−139 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	105	(95)	55

切合　SP4124、SK4193>**SP4131**

南側立ち上がりでは D 面上の砂利を切る状況が確認された建物基礎遺構である。覆土はしまりが強く、下層ほど礫を多く含む。坑底には掘方に沈み込むように根石が 4 個検出された。

遺物は、19 世紀に比定される陶磁器類が出土している。

SP4132（遺構Ⅲ−138 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	81	58	86

切合　SP4125、SK4138>**SP4132**

南北方向に長軸を有す楕円形を呈す。覆土は SP4125 のように転圧されたしまりの強さはなく、掘方北よりにもう 1 つ隅丸方形の掘方が検出された。ここにはしまりの弱い 3 層が堆積しており、柱痕である可能性が高い。

遺物は、18 世紀に比定される陶磁器類が出土している。

SP4133（遺構Ⅲ−139 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(116)	106	51

建物基礎遺構である。北側を撹乱されるが、平面形は円形を呈す。しまりの強い覆土は礫を多く含む層と、ローム粒や粗粒をやや多く含む層が互層に堆積している。坑底中央付近に長軸 50cm ある割石が置かれ、その石を囲むように長軸 20 ～ 30cm 大の割石 4、5 個が確認された。根石は全て掘方に沈み込む状況であった。

遺物は、17 世紀末に比定される陶磁器類が出土している。

SP4134（遺構Ⅲ−140 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(112)	(68)	47

建物基礎遺構である。北、西側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は歪な半円形を呈す。覆土は様々な大きさの礫が一時に強く転圧され、その礫の隙間にかろうじて覆土が見られる状況であった。坑底には根石もその抜かれた痕跡も確認されなかった。

遺物は出土していない。

SP4135（遺構Ⅲ−140 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(73)	(31)	27

切合　**SP4135**>SP4147

西側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱される建物基礎遺構であり、遺存する平面形は半円形を呈す。覆土は上層にローム粒や破砕礫を、下層には上層よりサイズの大きい破砕礫や玉石を主体としたものを入れ、転圧した状況が確認されたが、根石は検出されなかった。

遺物は出土していない。

SP4136（遺構Ⅲ−140 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(119)	(35)	45

切合　SP4136>SX4160

西側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱される建物基礎遺構であり、遺存する平面形は半円形を呈す。覆土は上層にローム粒や破砕礫を、下層には上層よりサイズの大きい破砕礫や玉石を主体としたものを入れ、転圧した状況が確認されたが、根石は検出されなかった。

遺物は出土していない。

SP4137（遺構Ⅲ−140 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(98)	(50)	42

切合　SP4137>SX4160

建物基礎遺構である。西側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱されるが、平面形は歪な方形を呈す。覆土は大きくは 2 層に分けられ、上層にはロームや黒色土を主体とする層を、下層には礫を主体とする土を入れて転圧している。坑底に根石などは確認されなかったが、掘方南側が全体より 1 段低くなっており、本来はこの凹んだ部分に根石などが存在していた可能性もある。

遺物は出土していない。

SK4139（遺構Ⅲ−140 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(58)	58	36

切合　SK4139>SP4181、SK4189

平面形はやや歪な円形を呈す。壁、坑底は比較的平滑であり、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。覆土上層はしまりの弱い砂礫層主体であり、下層はローム主体の覆土中に多くの割れた瓦が詰め込まれたような状況であった。含まれる瓦は複数種類あるが、サイズは概ね揃えられている。ただし瓦を含む層を転圧したような状況は認められなかった。2 層は側壁に貼りついており、桶状容器の存在も考えられる。

遺物は、17 世紀に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4141（遺構Ⅲ−140 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(117)	(111)	77

建物基礎遺構である。東、南側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は歪な半円形を呈す。覆土には礫を多く含み、坑底には長軸約 30cm の割石 1 個が掘方から大きく沈み込んだ状態で検出された。なお東側撹乱を挟んで SP4142 が検出されているが、覆土の状況、掘方などから本来は SP4142 は SP4141 の東側立ち上がりの可能性もある。

遺物は出土していない。

SP4143（遺構Ⅲ−141 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	169	(74)	55

建物基礎遺構である。周囲を大学時代の管埋設溝に撹乱されるが、遺存する平面形は半円形を呈す。しまりの強い覆土は上層に礫が多く集中する。坑底に根石は確認されなかったが、中央付近に全体より 1 段低く凹む部分があり、根石が抜かれた痕跡の可能性がある。

遺物は出土していない。

SP4144（遺構Ⅲ−141 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(87)	(85)	49

切合　SP4123>SP4144

建物基礎遺構である。西側を大学医学部校舎の根切りに撹乱され、遺存する平面形は半円形を呈す。覆土は大きく 3 つに分層されるが、最下層に礫が大量に集中する状況が確認された。坑底には根石と思われる上部が平らにされたほぼ同サイズの割石が 2 個検出されたが、強い転圧により掘方に沈み込んだ状況であった。なお東側立ち上がり付近にもそれらと同サイズの凹みが確認されることから、この部分にも根石が配石されていた可能性がある。

遺物は、17 世紀末〜 18 世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SP4147（遺構Ⅲ−141 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	73	(35)	95

切合　SP4135>SP4147

遺存する平面形は隅丸方形、断面形は箱形を呈す。覆土は大きく 4 つに分層され、上層ほどしまりが強く、礫を多く含む。坑底より少し上位で天板が平らな凝灰岩の切石 1 個を検出した。なお撹乱を挟んで本遺構東側に位置する SD4167（Ⅲ − 143 図）と断面形、覆土などが酷似しており、本来は 1 遺構であった可能性もある。

遺物は出土していない。

SP4149（遺構Ⅲ−141 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(126)	(57)	32

切合　SP4158>**SP4149**

建物基礎遺構である。遺存する平面形は歪な半円形を呈す。覆土は下層に礫を多く含み、坑底には覆土中の礫よりもサイズの大きな楕円形の礫が数個重なるように検出された。

遺物は出土していない。

SP4150（遺構Ⅲ−141 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	C	80	(42)	11

東西両端を大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は歪な円形呈す。他の柱穴同様、覆土に多くの礫を含み、坑底には転圧された痕跡や、根石の抜き取り痕と判断されるような凹みを有することから建物基礎遺構とした。

遺物は出土していない。

SP4151（遺構Ⅲ−141 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	C	120	99	46

切合　**SP4151**>SP4205、SP4218･4250

建物基礎遺構である。平面形は歪な円形を呈す。覆土は上層には焼土や炭化物を主体とする層が、下層には礫を多く含むしまりの強い層が観察された。坑底には一辺 20 ～ 30cm 大の割石数個が坑底に沈み込む状況で検出された。なお焼土を多く含む層は平面プランのちょうど中央に位置することから焼けた柱痕跡の可能性も考えられる。

遺物は、17 世紀に比定される陶磁器類が出土している。

SP4152（遺構Ⅲ−142 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(75)	(40)	14

東側を大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は隅丸方形を呈す。覆土はローム粒やブロックを主体とし、礫は少量含まれる程度で、根石などの痕跡も確認されなかった。

遺物は出土していない。

SP4155（遺構Ⅲ−142 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	61	60	10

切合　**SP4155**>SP4264

平面形は少し歪な隅丸方形を呈す。しまりの強い覆土は単層で、礫とローム粒やブロックを多く含む。根石などは確認されなかった。

遺物は出土していない。

SP4157（遺構Ⅲ−142 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	89	82	30

切合　**SP4157**>SP4179、SK4233

平面形はやや歪な隅丸方形を呈す。覆土は 3 つに分層されるが、いずれもローム粒やブロック、黒色土粒やブロックを多く含み、礫は少量含む程度ある。根石は確認されなかったが、坑底北東隅が全体より少し凹む状況が検出されており、建物基礎遺構の可能性もある。

遺物は、17 世紀に比定される陶磁器類が出土している。

SP4158（遺構Ⅲ−142 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	38	(37)	20

切合　**SP4158**>SP4149

北側を撹乱され、遺存する平面形は方形を呈す。覆土には黒色土粒やブロック、ローム粒やブロックを多く含み、礫などは認められなかった。1 層に瓦片を含むが、しまりは弱く、また瓦片の位置などを考慮すると意図して入れられたものとは考えにくい。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4159（遺構Ⅲ−142 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(85)	(49)	81

切合　SP4179>**SP4159**>SP4185･4234

西側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱、また北側では SP4179 と、南側では SP4185 と重複し、本来の平面形態は不明である。確認面からの深さは約 80cm ほどあり、断面形は弾頭形を呈す。壁面は凹凸が著しい。先端がとがった杭のようなもので粗く掘削されたものか。覆土はローム粒やブロックを主体とするもので、上層ほどしまりが強い。

遺物は 17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4161（遺構Ⅲ−142 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	C	84	54	13

切合　SP4161>SK4172

平面形は歪な楕円形、断面形は三角形を呈す。覆土は灰色シルト質土主体で一度に埋まる状況であった。性格は不明である。

遺物は出土していない。

SP4162（遺構Ⅲ−143 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	59	40	70

切合　SP4162>SP4720

平面形は方形、断面形は細長い箱形を呈し、壁面は丁寧に成形された柱穴である。確認面からの深さは約 60cm あり、覆土中央に柱痕と思われるしまりのない木片を含む層（4 層）が確認された。地面に埋まっていた部分が残され、腐食したものか。柱痕の周囲はしまりの強いローム粒やブロックを主体とする覆土で埋められていた。なお東側に小さな方形の掘り込みが 2 箇所確認されたが、本遺構に伴うものかは確認できなかった。

遺物は出土していない。

SP4164（遺構Ⅲ−143 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	C	98	(78)	48

切合　SP4164>SK4265

建物基礎遺構である。東側は大学時代の管埋設溝に撹乱されるが、遺存する平面形は隅丸方形、断面形は逆台形を呈す。覆土にはロームや黒色土粒、ブロックをやや多く含むが、他の建物基礎遺構の覆土と比較すると礫が少なく、しまりも強くない。坑底には天板を平らに整形された丸石を割ったものや切石を割ったものなど、合わせて 6 個の根石が検出されたが、中央付近の根石が周囲より少し大きなものを配置している。なお根石は転圧の影響で坑底に沈み込んでいた。

遺物は出土していない。

SD4167（遺構Ⅲ−143 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(146)	60	81

切合　SD4167>SP565

西側は大学時代の管埋設溝に撹乱されるが、東西に延びる溝状遺構である。確認面からの深さは約 70cm と幅に比して深く、断面形はやや歪な箱形を呈す。坑底、壁は概ね平滑に整形されている。覆土上層はロームや黒色土粒、ブロックを多く含むが、坑底直上の 3 層にはロームを主体とする層が堆積し、いわゆる水成層は認められなかった。形状から溝として調査を実施したが、南側の撹乱を挟んで位置する SP4147 と断面形、覆土などが酷似しており、本来は布堀基礎のような遺構であった可能性もある。

遺物は出土していない

SD4169（遺構Ⅲ−143 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(57)	68	22

切合　SK4124、SK4138、SK4193>SD4169

南方に伸びる溝状遺構であるが、両端いずれも他遺構と重複し、遺存する長さは 50cm ほどである。断面形は浅い皿形を呈す。坑底には凹凸が認められる。

遺物は出土していない。

SP4170（遺構Ⅲ−143 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	C	(83)	80	58

切合　SP4170>SK4233

建物基礎遺構である。西側は大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は東西に長軸を有す半円形、断面形は立ち上がりが中程から大きく開く砲弾形を呈す。多くの礫を含む覆土の下からは根石と推測される上部が平らに整形された半円形状の割石が検出されたが、さらにその石の下にピット状の凹みが確認された。掘立柱を抜いた後、根石を配し、今度は根石を伴う柱穴として再構築したとも考えられる。立ち上がり付近の掘方が拡がっているのは、柱を抜く際に回しながら引き抜いたためか。

出土遺物は少ないが、2 次的な火熱を受けた 17 世紀後半の遺物が出土しており、天和 2（1682）年あるいは元禄 16（1703）年火災に伴う遺物である可能性がある。

SP4176（遺構Ⅲ−144 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(124)	(91)	93

切合　SP4176>SP4235、SP4275、SP4277

西側が大学時代の管埋設溝に撹乱されるが、遺存する平面形は東西に長軸を有す歪な楕円形を呈す。東側の一段高い位置に方形の柱痕状の掘り込みが確認されたが、土層の観察からは重複は認められず 1 遺構として調査を実施したが、作り替えが行われた可能性もある。覆土 2

層には角礫や瓦片などが少量確認されたが、基本的にはローム粒や黒色土粒などが覆土の主体であり、根石などは確認されなかった。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4177（遺構Ⅲ−144 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(88)	(66)	32

切合　**SP4177**>SD1072･4300、SD4301

建物基礎遺構である。北側以外は撹乱され、遺存する平面形は扇形を呈す。覆土は上層が礫を多く含み、下層がしまりが非常に強いローム主体の土層が確認された。坑底には割石が 2 個配石された状況が確認されたが、ともに坑底に沈み込む状況であった。

遺物は出土していない。

SP4182、SP4183、SP4211、SP4236、SP4249、SP4259、SP4277、SP4419（遺構Ⅲ−146、147 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	−	−	−

切合　**SP4182**>SP702･4184
SP4183>SP702･4184
SP4211>SK702･4148
SP702･4184>**SP4236**
SK4260>**SP4259**>SD958
SK4176>**SP4277**>SP4275

南北方向に間尺約 180cm で 4 基の柱穴が、約 90cm の間尺で東西に 2 列平行して検出された。東側の柱穴列は一辺が 30 ～ 40cm､深さ約 80cm の方形の柱穴であり、土層観察で柱痕が確認されたものが多い。西側の柱穴列はその西側を撹乱されていたり、他遺構と重複するなどして平面形状が不明なものが多い。しかしおおむね東側の柱穴列より一回り小さい方形で、深さは逆にやや深く 100cm 程の断面形が細長い柱穴であり、柱痕などは確認されなかった。以上の様相から東側の柱穴列が主柱、西側が支柱として東側を支える塀跡のようなものが想定される。

遺物は少ないが、SP4182 から 17 世紀～ 18 世紀に比定される陶磁器類が、SP4419 から 17 世紀代に比定される陶磁器類が出土している。

SP4185・4234（遺構Ⅲ−144 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	354	200	54

切合　SP4156、SP4159、SP4179>**SP4185･4234**

遺構中央付近に大学時代の管埋設溝が南北に伸び東西に断絶されているが、東西方向に長軸を有す大形遺構である。覆土は全体的にしまりが弱く、礫などを含まないものであったが、撹乱を挟んで西側には割石が集中して確認された。調査時は撹乱を挟み覆土の状況が酷似していたために 1 遺構として調査をしたが、掘方立ち上がりや、割石の遺存状況が異なることなどを考慮すると、東西方向にずらし作り替えが行われた建物基礎遺構である可能性もある。

本遺構からは、17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4186（遺構Ⅲ−145 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	108	88	18

切合　**SP4186**>SP4187

建物基礎遺構である。東南側は撹乱され、遺存する平面形は楕円形を呈す。覆土下層に礫が多く、しまりも強い。坑底立ち上がり付近に方形の割石 2 個と破砕礫数個が検出されたが、それらはいずれも掘方に沈み込むように検出され、北側にも楕円形の凹みが検出された。

遺物は出土していない。

SP4188（遺構Ⅲ−145 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	170	(160)	18

切合　SX4161>**SP4188**

東、西両側の立ち上がりが撹乱されるが、直径約 160cm、深さ約 10cm を測る大形円形建物基礎遺構である。覆土下層には礫が多量に認められた。なお根石と思われる割石が検出されたのは、一部突出する北側部分に限られる上、その範囲と周囲とでは立ち上がり角度が異なる事から、根石が検出された範囲とその南側は別遺構であった可能性もある。

遺物は出土していない。

SP4198（遺構Ⅲ−145 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	D	(97)	(58)	53

切合　SP4104、SK4199、SD4800>**SP4198**>SP4717

建物基礎遺構である。覆土はローム粒やブロック、黒色土粒やブロックを多く含み、中央付近のみが強く転圧された状況が観察され、その坑底からは上部が平らにされた不整方形の割石が 3 個検出された。

遺物は、17 世紀後葉に比定される陶磁器類が少量出土しており、天和 2（1682）年の火災で被災したと思われる陶磁器類も含まれいる。

SK4199（遺構Ⅲ−145 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	D	(150)	89	42

切合　SD4800>SK4199>SP4198>SP4717

東西を撹乱されるが、SK4199 は検出された範囲より拡がる状況は確認されず、布堀基礎や、溝状土坑の可能性もある。断面形は箱形を呈し、坑底、壁は比較的平らに整形されていた。覆土は大きく 4 層で構成されるが、中程の 3 層に多くの礫を含み、転圧された状況が観察された。

遺物は、17 世紀後葉に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4202（遺構Ⅲ−148 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(91)	(84)	47

切合　SU4203>SP4202

建物基礎遺構である。西側は大学医学部校舎の根切りで撹乱、北側は SU4203 に切られ、遺存する平面形はやや歪な扇形を呈す。しまりの強い覆土は礫が主体であるが、最上層は焼土と被熱した瓦でパックされた状況が確認された。壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。坑底には上部が平らに整形された割石が 5 個根石として配石されていたが、それらは坑底に沈み込むような状況であった。

遺物は少ないが、17 世紀代に比定される陶磁器類が少量出土している。

SU4203（遺構Ⅲ−148 図、遺物Ⅳ − 60、61 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	141	(119)	108

切合　SE4212>SU4203>SP4202、SP4231

東側を井戸で、西側を大学医学部校舎の根切りで撹乱されるが、方形のプランの中に東から西へ降りる 3 段のステップが確認された遺構である。本来、本遺構は西側に室部が展開する地下室に伴う階段であった可能性が高い。断面形は箱形を呈すが、壁面は凹凸が著しい。ステップは幅約 100cm、奥行き 30cm 前後の規模で、各ステップ奥には一辺約 10cm の方形ピットが 3 基検出され、それらはいわゆる蹴込みに近い位置で検出されたことから、ステップ補強のための板などを固定していた杭の痕跡と推測される。また各ステップの東西両端には、一辺約 20cm の方形ピットが南北に 2 基検出され、いわゆる踏面の中央付近は、ローム表面が黒ずみ硬化したような痕跡が確認された。この 2 基の方形ピットはいわゆる段鼻に近い位置で検出されていることや、土層観察からステップ 1 段分の高さより高い位置まで柱の覆土が達していたことから、階段に伴う手すりを支えた柱痕跡か、あるいは階段付近の上屋などを支えた柱痕と推測される。

遺物は、Ⅳ − 60 図に示した京都・信楽系陶器をはじめ 17 世紀後半代に比定される陶磁器類が出土している。

SK4204（遺構Ⅲ−148 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	63	43	9

切合　SK4138>SK4204

東側を撹乱され、遺存する平面形は歪な半円形を呈し、確認面からの深さは 5 〜 10cm を測る。壁、坑底は凹凸を有し、壁は坑底からやや開きながら立ち上がる。断面形状や覆土の状況などから植栽痕の可能性もある。

遺物は出土していない。

SP4205（遺構Ⅲ−148 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(82)	(44)	16

切合　SP4151、SP4190、SP4191、SP4192>SP4205

建物基礎遺構である。周囲を複数の遺構と重複するため平面形は不明である。しまりの強い覆土はローム粒やブロックを多く含み、上層に破砕礫が比較的多く確認された。坑底には一辺約 20cm の方形の破砕礫が沈み込みように検出された。

遺物は出土していない。

SE4212（遺構Ⅲ−149 図、遺物Ⅳ − 61 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	120	113	(138)

切合　SP4166>SE4212>SU4203、SK4229、SP4230

掘方平面形は、直径約 130cm のやや歪な円形を呈する。また確認面より約 30 〜 40cm 下から木製の井戸側の痕跡が検出され、その直径は約 70cm を測る。覆土は全体にしまりが弱く、井戸側内には焼土とともに瓦片がまとまって出土した。

遺物は、井戸枠内からⅣ − 61 図に示した遺物をはじめ、瀬戸・美濃系磁器、青土瓶、桟瓦など 19 世紀中頃に比定される遺物が出土しており、本井戸は慶應 4（1868）年の藩邸全焼に伴って廃絶された可能性がある。

SP4213（遺構Ⅲ−149 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	90	82	30

建物基礎遺構である。平面形は円形を呈し、断面形は立ち上がりが開き気味の碗形を呈す。覆土はローム粒やブロックと礫を多く含む層を主体とし、坑底には根石と思われる割石が検出された。類似する形状の割石が掘方中央に集中し、数段重ねられている。

遺物は出土していない。

SP4214（遺構Ⅲ−149 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(115)	(64)	41

西側を大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は半円形を呈す、長軸 100cm を超える大形建物基礎遺構である。しまりの強い覆土は礫とローム粒やブロックを多く含む層と、ローム粒やブロックを主体とする層で構成され、最下層には根石を覆うような礫主体の層が確認される。坑底中央付近では割石を比較的平らに並べ、それらを囲むように立ち上がり壁面に割石や丸石を立てかけるように配石している。中央に並べられた根石の下には他の石よりも大形の根石が 1 つ配石されていたが、この根石は本遺構の掘方坑底から大きく沈み込んで検出された。

遺物は、17 世紀に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4215（遺構Ⅲ−149 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	117	112	20

切合　**SP4215**>SP4245、SP4261、SP4268、SP4275

平面形は円形を呈す建物基礎遺構で、覆土は全体にしまりが強く、確認面から 10cm ほどまでは礫を多く含む層で、それ以下は長辺が 20 ～ 30cm ほどの多角形の石を坑底まで 2 ～ 3 段全体に敷き詰め、それら石の隙間を埋めるように礫を多く含む土が入れられていた。なお坑底直上の根石は、同じ多角形の石の平らな面を上にして掘方の周囲に配石され、中央は全体より少し凹む状況が確認された。

遺物は、19 世紀に比定される陶磁器類が出土している。

SP4216（遺構Ⅲ−149 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	122	96	41

切合　**SP4216**>SP4237

建物基礎遺構である。平面形は円形を呈し、断面形は立ち上がりが開き気味の碗形を呈す。覆土はローム粒やブロックと礫を多く含む層を主体とし、坑底には根石と思われる割石が検出された。掘方中央を少し低くし、その周囲に不揃いの石を配石している。

少量ではあるが 17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4218・4250（遺構Ⅲ−150 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	C	160	(133)	36

切合　SP4151、SP4175、
SP4217>**SP4218･4250**>SP481･754、
SD1071･4299、SP4174、SD4301

西側は大学時代の管埋設溝に撹乱されており、平面形は西側一部を欠いた歪な円形を呈す。直径は 150cm を測る大形建物基礎遺構である。覆土上層（1 ～ 3 層）は灰色シルト質粘土やローム粒やブロックなどが充填され、その下、中央付近には長軸が 20 ～ 30cm 前後の多くの角石が敷き詰められ、その周囲や下に握りこぶし大の礫を多く含む層（4 層）が確認される。さらに、4 層中の坑底付近に 40 ～ 50cm の大形角石を含む根石がさらに 1 段確認さており、荷重が集中する箇所には他所より多くの角石を充填したものか。

遺物は、17 世紀と推定される陶磁器類がごく少量出土している。

SP4219（遺構Ⅲ−150 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	136	127	30

切合　**SP4219**>SK978・4290、SE4296、SP4243、
SP4703、SP4704

建物基礎遺構である。平面形は円形を呈す。覆土中には長軸あるいは長辺が 20 ～ 40cm の方形、丸形の石などを数段敷き詰め、それらの石の隙間に多量の礫を含む褐色土を充填、強く転圧している。この転圧のためか、本来の掘方を超えて壁や坑底に石が沈み込む状況が確認された。

遺物は、17 世紀後葉と推定される陶磁器類が出土している。

SP4220（遺構Ⅲ−150 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(152)	(106)	38

切合　SK539･4225･4254、SK4227>**SP4220**>SK978・4290、SK4246、SP4271

建物基礎遺構である。北をSP4227、東をSK539・4225・4254と重複し、平面形は歪な楕円形を呈す。上層は砂礫で覆われ、その下には長軸10～20cmの方形の石を、さらにその直下に長軸30～40cmの歪な円形の石が敷き詰められ、これらの石の隙間を埋めるように礫をやや多く含む褐色土が充填されている。

遺物は出土していない。

SP4221（遺構Ⅲ−150図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	(128)	97	30

切合　**SP4221**>SK4227、SP4247、SP4258

建物基礎遺構である。北、東側を大学時代の管埋設溝に撹乱され、平面形はやや歪な半楕円形を呈す。礫を多く含み、しまりが強い覆土の直下から長軸が20cm前後の方形あるいは円形の石が掘方全体に敷き詰められ、さらにその下、坑底直上では、一辺が10cm程の方形切石を囲むように、掘方四方に楕円形の石が配されている。坑底の石はいずれも上部が平らに整形され、転圧により掘方から大きく沈み込む状況であった。

遺物は、19世紀に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4222（遺構Ⅲ−151図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	87	(68)	84

北側が撹乱され、平面形は方形を呈し、南側にテラスを有する遺構である。覆土はローム主体の黄褐色土層(3層）を挟み、1、2層と4、5層はよく似ており、いずれも礫を少量含む褐色土を主体とする層である。3層は覆土のしまりが強いが他はさほどではなく、根石や柱などを抜いた痕跡も確認されなかったが、形状や規模などから柱遺構と推測した。

遺物は出土していない。

SP4226・4255（遺構Ⅲ−151図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	D	137	127	36

切合　SP4129、SP4207>**SP4226･4255**

建物基礎遺構である。平面形は南北に長軸を有す歪な楕円形を呈す。坑底直上に握りこぶし大の礫を多く敷き詰め、その上に長軸10～30cmの不揃いの割石を配し、その隙間を埋めるように礫を多く含む覆土を充填し、強く転圧、壁や坑底に石が沈み込む状況が確認された。配石には規則性は認められなかった。

遺物は、17世紀に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4227（遺構Ⅲ−151図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	(114)	(88)	37

切合　SP4221>**SP4227**>SP4220、SP4221、SK4246、SP4247、SP4271

北でSP4221、南でSP4220と重複しているため、平面形は不整形を呈す。覆土はしまりがない灰褐色砂質土を主体とし、長軸30～40cmの角石が積み重なって検出された。覆土の状況、転圧された状況が看取されなかったことなどから建物基礎遺構とは異なる性格の遺構か。

遺物は出土していない。

SK4232（遺構Ⅲ−151図、遺物Ⅳ−61図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	C	102	(78)	77

切合　**SK4232**>SD1072･4300、SP4248、SP4256、SD4301

東側を大学時代の管埋設溝に撹乱され、平面形はやや歪な半円形を呈す。掘方断面形は北側は垂直に近く、南側はハの字状に開く、歪な逆台形を呈す。覆土3・4層はしまりが弱く、また他層に比して薄い。5層から1・2層を埋めるまでの間に少し時期差があり、その間に流れ込んだ土である可能性が高い。なお掘方もこの間層を挟み南側へ拡がる傾向にあることから、構築段階にも時期差があった可能性も考えられる。

遺物は、17世紀前半に比定される陶磁器類、金属製品が出土している。

SK4233（遺構Ⅲ−152図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2･4	C	(78)	(52)	79

切合　SP4170、SK4157>**SK4233**

西側を大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形はやや歪な半円形、断面形は歪なU字形を呈す。覆土はローム粒やブロックを多く含み、上層ほどしまりが強いが、礫や割石などは検出されなかった。

遺物は、見込みに四弁花文を有す肥前系磁器皿（JB-2-d)、青磁変形破片が出土している。

SP4237（遺構Ⅲ−152 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(103)	41	29

切合　SP4216>**SP4237**>4238

建物基礎遺構である。平面形はやや歪な円形を呈す。掘方断面形は浅い碗形を呈し、ローム粒やブロック、礫を多く含む覆土で一時に埋められている。坑底には掘方立ち上がりに沿って長軸約 30cm の割石が並べられ、その中央に一回り大きな割石が 1 つ配されているが、それらは転圧により掘方に沈み込むような状況であった。なお割石の上部はすべて平らに整形されていた。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が少量出土している。

SK4240（遺構Ⅲ−152 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	129	99	22

切合　**SK4240**>SP4268

平面形は不整形を呈す。確認面からの深さは 5 ～ 10cm と浅く､壁､坑底は凹凸を有す。覆土は砂質が強く、しまりも弱い。以上のような状況から遺構でなく、凹みである可能性もある。

遺物は、19 世紀に比定される陶磁器類がごく少量出土している。

SP4241（遺構Ⅲ−152 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(134)	(60)	32

切合　**SP4241**>SP4245、SP4261

建物基礎遺構である。西側を大きく大学時代の管埋設溝に撹乱され、平面形は歪な半円形を呈す。しまりの強い覆土はローム粒やブロック、焼土粒、礫を多く含み、その下からは不整方形の割石が検出された。割石は掘方中央付近のみで確認されている。

遺物は、18 世紀に比定される陶磁器類がごく少量出土している。

SK4246（遺構Ⅲ−153 図、遺物Ⅳ − 62 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	267	(90)	95

切合　SP4220、SK4227、SP4247>**SK4246**>SK978・4290

南北に長軸を有す長方形土坑であるが、西側立ち上がりが途中から逆Ｌ字状に西へ張り出す状況が確認されたが、その西は大学時代の管埋設溝に撹乱され不明である。坑底は北から南へ緩やかに傾斜し、北側は南側より凹凸が顕著である。壁はわずかに凹凸を有し、坑底からほぼ垂直に立ち上がるが、開口部南、北端は外側に開いて立ち上がる。土層観察からは埋め戻しと掘削が数回繰り返されたような状況が窺える。

遺物は、17 世紀後半に比定される陶磁器類が出土している。

SP4247（遺構Ⅲ−153 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(77)	(73)	23

切合　SP4220、SK4227、**SP4247**>SK4246>SK978・4290

建物基礎遺構である。北東で SP4221 と重複し、平面形は半円形を呈す。覆土はしまりが強く、最下層には多くの礫を含み、その直下からは様々な形の割石が掘方に沈み込むように検出された。

遺物は、17 世紀代に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4248（遺構Ⅲ−153 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(82)	41	82

切合　SK4232>**SP4248**>SD1072･4300、SD4301、SK4306

東側を撹乱されるが、東西に延びる溝状掘方内に隅丸方形の柱穴が確認される遺構である。隅丸方形の柱穴には、深さ約 70cm を測る楕円形の柱痕を有す。なお坑底東端には方形のピット（SP4256）が検出されているが、深さの違いから SP4256 が支柱、SP4248 が主柱という柱穴遺構か、布堀基礎が部分的に遺存した可能もある。

遺物は、17 世紀前半に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4252（遺構Ⅲ−153 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	93	58	19

切合　**SP4252**>SP4280

建物基礎遺構である。平面形は長方形を呈す。覆土中に礫は多くないが、その中に大きさ、形状が様々な割石が無造作に積まれたような状況で検出されたが、坑底に沈み込むような状況が認められたことから、転圧があったと推定される。

遺物は、17 世紀に比定される陶磁器類がごく少量出土している。

SP4261（遺構Ⅲ−154 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	187	(74)	65

切合　SP4215、SP4241、SP4245>**SP4261**>SP4262

建物基礎遺構である。西側が大きく大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は半円形を呈す。しまりの強い覆土は多くの礫を含むが、3 層では板状にされた破砕礫が集中して充填されている。坑底では周囲に長軸 20 ～ 30cm ほどの丸石や割石を配し、それらの間に礫を充填する様子が看取され、中央には周囲の石より一回り大きな割石が配されていた。中央の石は上部が平らに調整されていたが、転圧により掘方から大きく沈み込む状況が確認された。

遺物は出土していない。

SP4264（遺構Ⅲ−154 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	C	(122)	76	6

切合　SP4155、SP4263>**SP4264**>SP772

建物基礎遺構である。平面形は不整形を呈す。掘方はごく浅いが、根石と思われる割石が上部に露出している状況であった事から、礎石を伴う遺構の坑底付近のみが遺存したと推定した。坑底の根石は全面ではなく、南側に集中して確認されている。

遺物は出土していない。

SP4271（遺構Ⅲ−154 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(114)	(63)	7

切合　SK539･4225･4254、SP4220、SK4227>**SP4271**

建物基礎遺構である。東側は大学時代の管埋設溝に撹乱、それ以外はすべて上位面の遺構に撹乱され、平面形は不明である。しまりの強い覆土にはあまり礫などを含まず、坑底には様々な形状の割石が無造作に配されていた。

遺物は出土していない。

SP4275（遺構Ⅲ−154 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	209	151	47

切合　SK978・4290、SK4176、SP4215、SP4249、SK4260、SP4277、SK4702>**SP4275**>SP4292

遺構中央を南北に大きく大学時代の管埋設溝に撹乱され、周囲を複数の遺構と重複するが、平面形は北側が方形、南側は円形を呈す。北側は確認面から深さが約 20cm、坑底はフラットであるが、南側は深さ約 50cm、坑底は凹凸が著しい。南側の深い部分に礫が集中して認められ、北側や南側立ち上がり付近には礫はあまり認められない。以上のような状況からは最終的な埋没は同時であったが、構築時期には差があった可能性が高い。南側は堀方の様相から、建物基礎遺構の可能性もある。

遺物は、17 世紀前～中葉に比定される陶磁器類が少量出土している。

SD4278（遺構Ⅲ−155 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	E	(1131)	64	60

切合　**SD4278**>SD1211･4426、SK4410、SD4411、SP4450、SK4612、SK4614、SP4616、SP4627、SP4634、SK4640、SK4641、SK4644、SP4645、SP4655、SK4709、SK4713

南北に伸びる溝状遺構である。溝の断面形は箱形を呈し、坑底、壁はフラットに整形されている。覆土はロームや黒色土を斑状に含み、坑底には約 110cm 間隔で根石を伴う 5 基の柱穴が確認されたが、各柱穴は根石、規模、形状に統一性は認められない。本遺構周囲に同主軸の基礎遺構が検出されなかったことから、塀など建物痕跡の可能性が考えられるが、根石を伴うものであり、比較的しっかりとした上屋構造を有すものか。

遺物は、17 世紀前半に比定される陶磁器類が少量出土している。

SP4279（遺構Ⅲ−155 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	D	(101)	93	31

切合　SP4123>**SP4279**

建物基礎遺構である。南側は撹乱され、遺存する平面形は歪な円形を呈す。覆土にはロームと玉石を多く含む。坑底から立ち上がりにかけて上部が平らな割石がややまばらに敷かれた状態で検出された。これらの割石は転圧され、坑底に沈み込む状況が認められる。

遺物は、ごく少量であり、遺構廃絶年代は不明である

SP4280（遺構Ⅲ−155 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	D	113	99	20

切合　SP4123、SP4252>**SP4280**

建物基礎遺構である。平面形は歪な円形を呈し、黒色土を多く含む覆土直下から、中央には大きな割石、周囲には小さい割石が検出された。坑底全体に転圧された状

態が確認された。

遺物は、17 世紀後葉の陶磁器類が少量出土している。

SK4289（遺構Ⅲ−156 図、遺物Ⅳ − 61 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	E	93	(50)	29

切合　SK4199>**SK4289**>SP4424、SP4425、SP4430

西側は大学医学部校舎の根切りに撹乱され、遺存する平面形は、やや歪な長方形を呈す。壁、坑底は緩やかな凹凸を有し、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。ロームと黒色土を斑に含む覆土で埋め戻されている。坑底の東南隅付近から直径約 20cm のかわらけ 2 枚が合わせ口状態で検出された。かわらけは坑底より約 5cm ほど上位の断面図 2 層中にあることが確認されたが、いわゆる胞衣埋納土坑か。完全に潰れた状態で検出されたかわらけの中からはわずかの土？と薄い透明な剥片が出土したのみで、胞衣は確認されなかった。

遺物は、検出されたかわらけ（Ⅳ − 61 図、1・2）以外は出土していない。

SP4293（遺構Ⅲ−156 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(82)	(30)	14

切合　**SP4293**>SD1072･4300、SD4301

西側大半を大学時代の管埋設溝に撹乱され、深さは約 5cm ほどと遺存状況は良くないが、平面形が方形を呈す建物基礎遺構か。D 面焼土にパックされた状態で検出された。坑底には天板が平らに整形された割石が 3 個検出された。

遺物は出土していない。

SP4295（遺構Ⅲ−156 図、遺物Ⅳ − 62 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	E	(79)	(32)	25

切合　SK4112、SP4282、SD4800>**SP4295**>SK4432

南西を前田候爵邸時代の管埋設溝に撹乱、周囲を他遺構と重複するために、平面形は不明である。覆土はローム粒やブロックが主体となっている。

遺物は道具瓦が 1 点出土している。

SE4296

（遺構Ⅲ−157 図、遺物Ⅳ − 41、62 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	158	151	(240)

切合　SK539･4225･4254、SP557、SD952、SK977、SP4055、SP4219、SP4220、SP4243、SK4246、SP4249、SP4275、SP4292、**SE4296**>SK978・4290>SP4262、SP4500、SK4702、SP4703、SP4704

井戸である。平面形は円形で、確認面下約 70cm に径 300cmほどの円形の土坑（SK978･4290）が認められるが、SE4296 が遺構中央にあり、井戸の付帯施設の可能性を有する。中央には径約 150cmを測る円形の掘り込みが認められた。井戸壁面は平坦で丁寧に成形されており、西壁と東壁には足掛けと思われる深さ 5 ～ 6cmの半円形の小穴が、約 50cm間隔で刻まれている。覆土は全体的にローム、ローム粒を主体としたしまりの弱い土で、上層では大礫、瓦片を多く含んでいる。確認面より 140cm下で井戸枠の痕跡が確認された。調査は安全確保のため、確認面下 300cmまで行った。

遺物は、鍋島の皿、金箔瓦などが出土している。鍋島は入院棟 A 地点 C2 層に同文様、同法量の製品が出土しており（677）、組物であった両者は可能性が高い。

SD4297（遺構Ⅲ−158 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	E	(691)	100	146

切合　SK4030、SE4346、SP4492>**SD4297**>SD1032･4685、SK4298、SK4401、SK4553、SK4569、SK4578、SK4582、SP4672、SK4673

南北に延びる溝状遺構で、主軸方位は N − 0° − E である。溝底、壁は比較的平滑に整形され、溝の断面形は箱形を呈す。覆土にはローム土や黒色土粒やブロックを多く含み、全体的にしまりが弱いが、溝底から一辺 50 ～ 60cm の方形の切石がおおよそ一間間隔で検出されたことから布堀基礎と推定される。なお本遺構北側に位置し、同じく溝底に石が検出された SD838・4013 とは概ね直交しており、何らかの関連性がある遺構と判断される。

遺物は、17 世紀後葉に比定される陶磁器類が出土している。

SD4301（遺構Ⅲ−92、93 図、遺物Ⅳ − 63、64 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2･3	D	(2444)	(326)	127

切合　SP482、SP483、SP485、SP481･754、SP500、SP501、SP502、SP517、SP532、SP533、SP534、SP536、SP537、SP538、SK564･778、SP574、SP575･1014、SP577、

SP579、SP747、SP779、SP780、SK800、
SK814、SK901、SP905、SK906、SK910、
SP912、SK923、SK928、SP4070、SP4074、
SE4075、SP4079、SP4080、SP4081、SP4082、
SP4090、SP4102、SP4106、SP4165、SP4174、
SP4175、SP4177、SP4178、SP4218･4250、
SK4232、SP4239、SP4248、SP4253、SP4256、
SP4266、SP4293、SP4305、SK4306、
SP4316>**SD4301**>SD1071･4299、SD1072･4300

N － 83° － W を主軸に持つやや幅が広い溝である。本遺構と同じ位置には、SD1071･4299、SD1072･4300 の 2 本の古い段階の溝があり、SD1071･4299 から近世初期のかわらけが出土しており、当該位置が天和の火災（1682 年）以前は何らかの境として機能していたと判断される。本遺構の上には薄い硬化面があり、その上には焼土層と宝永テフラと思われる火山灰が確認されたことから、本遺構の下限は少なくとも元禄 16（1703）年の火災以前で、遺構が埋められた後にその上部に硬化面が作られたと推定できる。本遺構を境として、同時期の遺構の切り込みレベルが北側が高かったことから、SD4301 南北には段差があると推定された。また、明確に痕跡は確認できなかったものの、石などで組まれた溝であった可能性が高いと考えている。

ただ、遺構中央は大学時代の共同溝および南側の貯水槽の埋設坑によって大きく撹乱されており、遺構南北の立ち上がりが確認できる部分が少なかったことから、遺構面との関係把握が困難であった。遺構の壁、坑底は、比較的凹凸が少なく、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、下層には灰褐色粘土、瓦が多く含まれる灰褐色土、上層は埋め戻すために使用したと思われるローム土が厚く確認された。

遺物は、下層を中心に 17 世紀の瓦片が多く出土している。

SP4304（遺構Ⅲ－156 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	131	(108)	68

切合　SP4072>**SP4304**>SK4344

円形を呈する建物基礎遺構である。遺構の西側は、医学部校舎建築の際の根切りによって削平されている。坑底にハンドボール程度の自然石を数個を配し、坑底付近に大形の、上層にはやや小形の自然石や切石で砂利、土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈し、強い転圧によって坑底や壁に石が深くめり込んでいる。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 3 層に分層されるが、下層の 2 層が礫が多量に含まれ、しまりの強い層であった。

遺物は出土していない。

SP4305（遺構Ⅲ－158 図、遺物Ⅳ－65 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	28	28	14

切合　**SP4305**>SD1071･4299、SD4301

ほぼ円形を呈する小ピットである。覆土には炭化材と焼土が多く含まれており、また、坑底に張り付くように鴨居や根太を留める 10 数本の鉄製の目釘が出土している。遺構の性格は不明である。

遺物は、上記鉄製品が出土している。

SD4306（遺構Ⅲ－159 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	C	(134)	52	70

切合　SP4081>**SD4306**>SD1072･4300、SD1071･4299

東西 N － 82° － E に主軸を持つピットを伴う溝である。東側を大学時代の管埋設溝、西側を SP4081 に切られ、遺構全体の様子は復元できない。東側の延長上に SD4248 があり、構造や規模などが近似しており、本遺構と同時期に機能していた可能性が強い。溝底には深さ 50 ～ 60cm の方形ピットが設けられており、西側のピット中央には明瞭に柱痕が確認された。形態から柵状遺構であろうと考えられる。溝部分は浅く、遺構上部が削平されたと思われる。溝底や壁は小さな凹凸が認められ、壁は坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。溝覆土は褐色土単層である。

遺物は出土していない。

SK4311（遺構Ⅲ－159 図、遺物Ⅳ－ 65 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	102	73	94

切合　SX4014、SK4030>**SK4311**>SK4331

ややいびつな長方形を呈する土坑である。C・D 面で切り合っている遺構では最も旧である。遺構の北側には底径 50cm、口径 60cm、器高 50cm を測る木製桶の痕跡が確認された。木部は被熱により炭化しており、桶内には焼土が多量に堆積していたことから、遺構の廃棄は火災によるものと推定された。また、桶内最下層（5 層）の焼土は白色化しており、これは尿に含まれるカルシウム分が白化して形成された土と思われ、これら特徴により本遺構は便所遺構と判断された。便槽にある程度糞尿が溜まっていた状態で火災に遭ったものと思われる。桶

の埋め込み坑は、桶の設置部分をやや凹ませて作られているが、坑底や壁の調整はやや粗雑である。覆土は、5層に分層され、4、5層が糞尿堆積土と焼土廃棄土、3層が桶埋設土である。火災の年代は遺物が出土していないことで明確ではないものの、確認面から天和2（1682）年あるいは元禄16（1703）年の可能性が高い。周囲に同様な遺構が確認されないことから、この便所遺構は単独のものと考えられる。

遺物は出土していない。

SP4313（遺構Ⅲ−159図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	D	153	(130)	72

切合　SP4328>**SP4313**

円形を呈していたと思われる建物基礎遺構である。遺構の東側を大学時代の埋設管、西側をSP4328に削平されている。坑底中央、東側には大きめの自然石や切石を配し、やや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底より石が深くめり込んでいる。覆土は5層に分層され、上層には焼土が多く含まれている。また、遺構上部には薄い硬化面があり、その上部には宝永テフラと思われる火山灰が確認された。下層は、数度にわたって礫と土を突き固めている様子が窺える。

遺物は、17世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SK4325（遺構Ⅲ−160図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	D	108	50	41

長方形を呈する土坑で、主軸はN − 12° − Wである。坑底、壁には凹凸が認められ、ほぼ平坦な坑底から長軸側壁はやや開いて、短軸側壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土には自然礫、角礫、砂利が密に充填されている。

遺物は出土していない。

SK4326（遺構Ⅲ−160図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1･2	D	116	(69)	41

円形を呈していたと推定される土坑である。遺構の北側を大学時代の共同溝埋設溝に削平され、全体の様子は復元できない。坑底、壁は凹凸が多く、鍋底状の坑底から壁はほぼ垂直に立ち上がっている。これらの特徴は、東側に位置するSK4327と類似性が高く、両遺構は同時期に機能していたとも考えられる。覆土は、2層に分層される。遺構の性格は不明である。

遺物は、陶磁器類がごく少量出土しているのみである。

SK4327（遺構Ⅲ−160図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	(134)	(55)	42

切合　**SK4327**>SU1266･4017

円形を呈していたと推定される土坑である。遺構の北側を大学時代の共同溝埋設溝に削平され、全体の様子は復元できない。坑底、壁は凹凸が多く、鍋底状の坑底から壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は、2層に分層される。西側にはほぼ同様の規模、形態、覆土を有するSK4326があり、同時期に機能していたことも考えられる。遺構の性格は不明である。

遺物は、陶磁器類がごく少量出土しているのみである。

SP4333（遺構Ⅲ−160図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	D	(117)	(51)	27

切合　**SP4333**>SK4358

円形を呈していたと思われる建物基礎遺構である。遺構の東、西側および上部を大学時代の埋設管に切られ、大半が削平されている。坑底中央には人頭大の自然石を配し、やや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底より石が深くめり込んでいる。覆土は2層に分層され、礫が多く含有されている。

遺物は、17世紀の陶磁器類が少量出土している。

SP4339（遺構Ⅲ−160図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
1	D	162	154	55

切合　SK4048、SP4087、SD4088、SP4094>**SP4339**

円形を呈する建物基礎遺構である。坑底中央付近にはソフトボール大程度の自然石を数個配し、坑底付近に大形の、上層にはやや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底は平坦であるが、強い転圧によって坑底より石が深くめり込んでいる。また、確認面中央付近には約一辺35cmの方形ピットSP4087が位置している。SP4087の覆土には焼土が多量に含まれている。坑底は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に分層されるが、下層の2層が礫が多量に含まれ、しまりの強い層であった。

遺物は、陶磁器類がごく少量出土しているのみである。

SP4340（遺構Ⅲ−161 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	54	53	36

切合　SP4067>**SP4340**>SD4353、SD4359

不整隅丸方形を呈するピットである。やや硬化した坑底はほぼフラットで、外周部分が若干凹んでいる。壁は坑底から垂直に立ち上がっている。覆土は 2 層に分層され、下層は灰褐色粘土層であった。遺構の形態、覆土の状況から便所遺構の可能性が高い。

遺物は、陶磁器類がごく少量出土しているのみである。

SD4341（遺構Ⅲ−161 図、遺物Ⅳ − 65 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	E	(578)	82	61

切合　SD1072･4300、SP4061、
SP4077>**SD4341**>SK4342、SP4371、SX4515、
SK4516

N − 7° − E を主軸に持つ溝である。遺構の南を SD1072･4300、北を大学時代の管埋設溝によって削平、また、中央を別の埋設溝によって切断され、遺構全体の様子は復元できない。遺構の南は SD1072･4300 以南には延びていないことから、同時期に機能していたことも考えられる。溝底や壁は比較的平滑に調整されており、フラットな坑底から壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は中央上から切り込む 1 層を挟んで同じ層（2 ～ 4 層）が堆積しており、側板を持つ流路などの可能性も考えられるが、北側に連続する遺構が確認されていない。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類などが少量出土している。

SP4343（遺構Ⅲ−161 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(98)	(39)	78

切合　SP4101>**SP4343**

円形を呈していたと思われる建物基礎遺構である。遺構の東側を大学時代の埋設管、上部を SP4101 に切られ、大半が削平されている。

坑底に人頭大の自然石を配し、上層にはやや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって坑底より石が深くめり込んでいる。覆土は 3 層に分層され、下層には礫が多く含有されている。

遺物は出土していない。

SK4344（遺構Ⅲ−161 図、遺物Ⅳ − 65 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(196)	(121)	60

切合　SP4072、SP4304>**SK4344**>SP4384

不整形を呈する土坑である。遺構の北、南側を大学時代の撹乱によって削平されている。覆土や遺構の形状から SK4329 あるいは SK4330 と同一遺構の可能性もある。坑底や壁は凹凸が顕著で、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 2 層に分層されるが、ローム、礫などが混入し、最終的には廃棄土坑として利用されたかも知れない。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類、銭貨などが少量出土している。

SU4346（遺構Ⅲ−162 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(163)	(85)	(172)

切合　SP4029、SK4314>**SU4346**>SP4492

遺構の北側を共同溝の埋設溝、西側を大学時代の埋設管によって削平され、遺構全体の様相は、復元できない。調査では危険回避から確認面から 160㎝付近まで調査を行ったが、坑底は確認できなかった。深度や規模から地下室の可能性が強い。壁は細かい凹凸が顕著で、ほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 6 層に分層される。

遺物は、17 世後半と 19 世紀前半の陶磁器類が出土しているが、後者は地下室陥没による混入の可能性がある。

SP4349（遺構Ⅲ−162 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	154	134	81

切合　SP4032、SP4049、SK4335、SK4336、
SP4356、SP4357･4381、SP4380、
4428>**SP4349**>SK4535

円形を呈する建物基礎遺構である。周囲から確認された基礎遺構の中で最も旧である。坑底中央には最も大きい人頭大の自然石を配し、坑底付近に大形の、上層にはやや小形の自然石や切石で土とともに転圧している。坑底は鍋底状を呈するが、強い転圧によって石が深くめり込んでいる。覆土は、2 層に分層され、いずれもしまりが強い。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類が少量出土している。

SD4353（遺構Ⅲ−162 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	(232)	(67)	87

切合　SP4067、SP4078、SP4340>**SD4353**

長楕円形の溝状遺構である。C･D 面で重複している全ての遺構より旧である。約 180cm 東には軸を同じくする SK4246 があり、遺構の規模や形状が類似していることから、同時期に機能していた可能性が高い。また、確認面中央付近には 30 × 25cm の切石が確認されたが、本遺構との関連は不明である。坑底や壁はやや凹凸を有し、壁は坑底よりほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は 6 層に分層されるが、いずれもしまりは強い。

遺物は、17 世紀後半の陶磁器類の他、金箔瓦などが少量出土している。

SP4356（遺構Ⅲ−162 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	D	85	(60)	22

切合　SP4049、SP4228、SK4335>**SP4356**>SP4349

円形を呈する建物基礎遺構である。周囲には基礎遺構が密に重複しており、当該部分において増改築が繰り返された証左であろう。これによって坑底や壁の状況も明確ではない。覆土は 2 層に分層され、いずれも親指の爪大からこぶし大の円礫を土とともに転圧し、地固めした様子が看取される。

遺物は出土していない。

SP4362（遺構Ⅲ−162 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	F	38	(32)	9

2 区に位置するピットである。平面形は円形で、断面形は皿状を呈する。底部に割石が数点確認される。覆土は単層で炭化物を少量含んでいる。

遺物は出土していない。

SK4378（遺構Ⅲ−163 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1･2	E	215	100	40

切合　SD838･4013>**SK4378**

円形を呈していたと推定される土坑である。遺構北側を共同溝埋設溝に、南側を SD838･4013 に切られ、遺構全体の様子は復元できない。坑底、壁は凹凸が顕著で、先端が丸い平刃工具で掘削された痕跡が観察される。やや鍋底状を呈する坑底から壁は開きながら立ち上がる。覆土は 2 層に分層される。

遺物は、ごく少量の陶磁器類が出土しているのみである。

SD4379（遺構Ⅲ−163 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	E	(329)	(89)	122

切合　SD838･4013、SK1008、SU1266･4017、SK4048>**SD4379**

溝底に平石を配した N − 6° − E を主軸に持つ溝である。北側は共同溝の埋設溝、南を SK1008 によって切られ、遺構全体の様子は窺えない。SK1008 を挟んで南側延長上に SD1060 が確認されている。この SD1060 の南端溝底には柱痕を伴う SP1030 が確認されており、ここから T 字状に東に SD939、西に SD1032･4685 が接続している。これらの溝遺構は、同時期に機能していたものと推定される。

本遺構には、溝底から 20cm 程度掘り下げ、調整された平石の面を上に向けた小ピットが 2 基確認されている。これらはいずれも柱の根石として機能していたと推定される。2 基の石間は、約 150cm を計測する。この間尺は、接続する SD939 ではほぼ同じピッチであったが、SD1032･4685 では同間隔で確認されていない。SD1032･4685 では石が溝底から浮いて確認されており、原位置を保持していない可能性もある。覆土は 3 層に分層され、いずれもロームを多く含んでいる。本遺構は構造から、塀状施設の遺構であったと推定される。

遺物は出土していない。

SP4389・4392（遺構Ⅲ−163 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	F	(151)	(37)	37

切合　**SP4389･4392**>SK4513、SK4516、SP4519、SK4532

不整形をした土坑で、切り合っている E 面以下の全ての遺構より新である。遺構の東側を近代以降の管埋設溝によって切られ、遺構の全容は窺えない。坑底、壁は凹凸が顕著で、規格性は認められない。覆土は 3 層に分層される。

遺物は、17 世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SK4399（遺構Ⅲ−163 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	G	156	(116)	79

切合　SP4339、SK4391、SK4514>**SK4399**>SD4518

円形を呈していたと推定される土坑である。遺構の南側を SP4339、SK4391 に切られ、また、北側を近代以降の共同溝埋設溝によって削平され、遺構全体の様子は窺えない。坑底、壁面には工具痕が明瞭に観察され、凹凸

が顕著である。壁は、比較的フラットな坑底より、やや開きながら立ち上がっている。覆土は、3層に分層され、下層は本郷邸前期に多い黒褐色土が確認される。遺構の形態・規模、土層の堆積より植栽痕であった可能性がある。

遺物は出土していない。

SK4405（遺構Ⅲ−164図、遺物Ⅳ−65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	G	(115)	(58)	75

切合　**SK4405**>SK4623

西側は大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は南北に長軸を有す歪な長方形を呈す。壁、坑底は凹凸を有し、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がるが、北側開口部付近は開き気味に立ち上がる。覆土は黒色土粒やブロックを多く含み、しまりが弱い。

遺物は、Ⅳ−65図のような瀬戸・美濃系陶器灰釉皿(1)、DZ-2-a（2）や、いわゆる初期伊万里の磁器碗など、17世紀前半に比定される陶磁器類が出土している。

SD4411（遺構Ⅲ−164図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	E	(717)	63	78

切合　SD4278>**SD4411**>SK4410、SK4444、SK4621、SK4623、SK4628、SP4629、SK4635、SP4637、SK4640、SP4653

大きく2箇所撹乱されるが、若干蛇行しながら東西方向に延びる溝状遺構であり、主軸方位はE−88°−Wと北へ振れる。溝の断面形は箱形に近い逆台形を呈している。坑底、壁は比較的丁寧に整形されている。溝内には4基のピットが約一間間隔で検出され、それらには幅約5cmの柱痕が認められたが、根石などは検出されなかった。

遺物は出土していない。

SK4432（遺構Ⅲ−165図、遺物Ⅳ−65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	F	86	(67)	35

切合　SK4112、SP4282、SP4295、SD4800>**SK4432**

南西は前田侯爵邸時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は不整形を呈す。覆土はローム土と黒色土の粒やブロックを多く含み、掘方の壁、坑底には凹凸を有する。以上のような状況から本遺構は植栽痕である可能性が高い。

遺物は、Ⅳ−65図に示した瀬戸・美濃系灰釉皿をはじめ、17世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SP4451（遺構Ⅲ−165図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	F	44	37	11

平面形は南北方向に長軸を有す楕円形を呈す。しまりの強い覆土がレンズ状に堆積、2層は砂礫をやや多く含む。確認面から深さ10cmほどの遺存状況ではあるが、本来は柱穴であった可能性が高い。

遺物は、17世紀前葉に比定される陶磁器類が出土しており、中には金箔かわらけの破片も含む。

SK4460（遺構Ⅲ−165図、遺物Ⅳ−65図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	F	(138)	35	34

切合　**SK4460**>SD1211･4426

平面形は南北方向に細長い長方形を呈す。壁、坑底には凹凸を有し、坑底の中程には小さな段差が確認された。確認面からの深さは約5〜25cmほどであったが、坑底付近からはⅣ−65図に掲載した瀬戸・美濃系陶器灰釉香炉がほぼ完形で、他に肥前系陶器瓶の底部などが出土した。

遺物は、前述したものをはじめ17世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SK4513（遺構Ⅲ−165図、遺物Ⅳ−66図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(110)	72	53

切合　SP4389･4392、SK4516、SK4SP532>**SK4513**>4566

不整形を呈する土坑で、西を近代以降の撹乱、東をSK4516に切られ、遺構全体の様子は窺えない。坑底や壁には凹凸が顕著で、規格性は看取できない。覆土は円礫を多く含む茶褐色土単層である。

遺物は、坑底付近から2〜4枚重なった状態で3箇所に、白色胎土の手づくねかわらけが出土している。

SK4516（遺構Ⅲ−166図、遺物Ⅳ−66図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(163)	(125)	77

切合　SD4341、SK4358、SP4389･4392>**SK4516**>SK4513

ややいびつな長方形を呈する土坑である。遺構中央を近代の埋設管に削平され、遺構全体の様子は窺えない。坑底、壁には凹凸がみられ、ほぼフラットな坑底から壁

はやや開いて立ち上がる。覆土は、4層に分層される。

遺物は、3層を中心に、金泥かわらけ、肩の張った輪積成形の塩壺など17世紀前半の製品が出土している。

SP4519（遺構Ⅲ−166図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	72	51	79

切合　SP4389·4392、SK4SP532>**SP4519**

隅丸長方形を呈すピットである。重複している全ての遺構に切られ、遺構全体の様子は伺えない。遺構中央には径10cm程度の柱痕が確認されることから、何らかの施設であったことが推定されるが、周囲には伴う遺構は確認できない。覆土は、3層に分層される。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類が少量出土している。

SK4532（遺構Ⅲ−166図、遺物Ⅳ−66図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(111)	(91)	62

切合　SP4389·4392>**SK4532**>SK4513、SP4519

ややいびつな隅丸方形を呈する土坑である。中央を南北に走る近代の埋設溝に上部を大きく削平され、遺構全体の様子は復元できない。やや凹凸を有する坑底から壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は2層に分層されるが、上層には礫、瓦、貝などが含まれていることから最終的には廃棄土坑として利用したのであろう。

遺物は、17世紀前半の陶磁器、瓦、貝などが少量出土している。

SK4535（遺構Ⅲ−166図、遺物Ⅳ−66図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	D	141	125	89

切合　SP4032、SK4335、SK4336、SP4349、SP4357·4381、SP4380>**SK4535**

平面形が円形を呈する土坑である。重複している全ての遺構より旧で、遺構上部がC面の遺構によって削平されている。坑底、壁は平滑に調整され、フラットな坑底よりやや開きながら立ち上がる。覆土は3層に分層されるが、上部にあったSP4032の転圧によってしまりは強い。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類、瓦（金箔瓦）などが少量出土している。

SK4553（遺構Ⅲ−167図、遺物Ⅳ−67、68図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(642)	253	120

切合　SD1032·4685、SD4297、SK4535、SK4554、SK4569、SK4571、SK4573、SE4581、SK4683、SD4743>**SK4553**>SP4533、SK4582、SP4587、SP4589

N−7°−E軸を持つ、いびつな長楕円形を呈する大形土坑である。南側にSD870·980·4498、北側にSD1032·4685と2本の礎石を配する溝と並走し、かつ重複していないことからこれらの遺構は同時期に機能していた可能性がある。遺構の南壁は最大50cm程度オーバーハングしていた。坑底や壁は凹凸が激しく、平刃の工具の痕跡が明瞭に認められた。覆土は何回にも分けて埋め戻されたとみられ、各層は細かく細分された。

遺物は、陶磁器、土器、金箔瓦、銭など17世紀前半のものが出土している。特に「寛永十四」刻書のかわらけは、共伴しているかわらけの年代、金箔瓦の使用などを考える際に重要である。

SK4554（遺構Ⅲ−167図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(196)	(80)	58

切合　**SK4554**>SD1032·4685、SK4553

不定形の土坑である。東側を近代の埋設管によって削平され、遺構全体の様子は復元できない。坑底、壁は凹凸があり、立ち上がりはやや急である。覆土は暗茶褐色土単層である。

遺物は、17世紀前半の陶磁器類など少量出土している。

SK4556（遺構Ⅲ−167図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	85	73	72

切合　**SK4556**>SD870·980·4498

方形の土坑である。坑底、壁は凹凸が多く、壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がっている。土層は2層に分層されるが、いずれも締まりが弱く、貝が含まれている。遺構の性格は不明である。

遺物は、貝の他に19世紀の陶磁器類が少量出土している。

SK4569（遺構Ⅲ−167図、遺物Ⅳ−69図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(118)	102	60

切合　SD4297>**SK4569**>SD1032·4685、SK4553、SE4581、SK4582

方形を呈する遺構である。ほぼフラットな坑底から壁

は垂直に立ち上がっている。壁付近には長さ10cm強の頭部が折れた釘が頭を上に向けて巡っていた。おそらく箱状に組んだ板が、壁の内側に設置されていたと推定されるが、調査当初溝状遺構と想定し、土層観察ラインを壁に近い部分に設定したため、図示した土層図では明確でない。覆土は、2層に分層される。遺構の性格は不明である。

遺物は、釘の他に17世紀中葉を中心とした陶磁器類が出土している。

SP4570（遺構Ⅲ−168図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	G	(77)	(33)	34

切合　SE4346、**SP4570**>SK4401

円形を呈していたと推定される建物基礎遺構である。近代以降の共同溝、管埋設溝に削平され、遺構全体の様子は復元できない。坑底付近には切石、自然石を配し、径数cm程度の円礫を含む土で、上から転圧されており、下層（3層）のしまりは強い。

遺物は、瓦片が少量出土している。

SE4577（遺構Ⅲ−168図、遺物Ⅳ−69、70図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	G	105	103	(222)

切合　SD1062･4687、SK4030、
SP4672>**SE4577**>SK4401、SK4578

円形を呈するやや小型の素掘りの井戸である。遺構の北側上部をC面のSK4030によって削平を受けていた。北、南壁には足掛けと推定される小穴が30〜40cmピッチで、調査した確認面下230cmまでに北側で3基、南側で4基ややレベルを変えて設けられている。小穴は、おおむね横長の長方形を呈し、奥へ10cm程度掘り込んでいる。覆土は、4層に分層されるが、2層には大形の自然石、加工石と2次焼成を受けていない破砕瓦片が多量に出土した。

遺物は、17世紀前半を中心とした金箔瓦を含む瓦類が多く出土している。

SE4581（遺構Ⅲ−168図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	G	89	86	(126)

切合　SD1032･4685、SK4553、SK4569、
SK4582>**SE4581**

円形を呈するやや小型の素掘りの井戸である。切り合っている全ての遺構より旧で、遺構上部は削平を受けていた。北、南壁には足掛けと推定される小穴が30〜40cmピッチで、調査した確認面下150cmまでに各々3基ずつ相対するレベルで設けられている。小穴は、おおむね横長の長方形を呈し、奥へ10cm程度掘り込んでいる。覆土は、4層に分層されるが、黒褐色土とローム土で構成される本郷邸前期に特徴的な様相を呈していた。桶の痕跡は確認できなかった。

遺物は出土していない。

SE4610（遺構Ⅲ−169図、遺物Ⅳ−70図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	F	116	109	(260)

切合　SP4279、SP4280>**SE4610**

平面形はやや歪な円形を呈す井戸である。確認面から約110cm下より井戸側の痕跡が認められ、その直径は約90cmを測る。調査は安全上の理由から確認面下約250cmまでにとどめた。土層観察では立ち上がり付近に1〜3層が検出されたが､4層までは空洞の状態であった。この4層中には1〜3層までの覆土と思われる堆積土が観察されたことから、1〜3層で全て埋め戻されたが、時間の経過で地下水位が下がるなどして井戸の上部に100cmほどの空洞ができたと推測される。なお先述した井戸側の痕跡は4層以下に確認されたことから、埋め戻しに際し4層より上位の井戸側のみを抜き取り、井戸を閉じたと推定される。

掘方南北の相対する壁面に、いわゆる足掛け穴が約60cm間隔で確認されたが、南北で穴の高さがずれている。昇降をしやすくするための工夫か。

遺物は、Ⅳ−70図の遺物をはじめとする17世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SK4612（遺構Ⅲ−168図、遺物Ⅳ−70図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	G	(196)	178	46

切合　SD4278、SP4412>**SK4612**>SP4611、SP4613、
SK4657

平面形は不整円形を呈し、壁、坑底は凹凸が顕著で、小穴が多く認められる｡暗灰褐色土を主体とする覆土で、最下層には貝殻をやや多く含む。以上のような状況から植栽痕であったところに土と一緒にゴミなどを埋めた可能性が高い。

遺物は、Ⅳ−70図に示したかわらけをはじめ17世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SK4623（遺構Ⅲ−169 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	G	211	67	98

切合　SK4405、SD4411、SK4635>**SK4623**>SP4733

西側を大学時代の管埋設溝に撹乱されるが、平面形は南北に長軸を有す長方形遺構と不整方形遺構を組み合わせたような形状を呈す。当初は2遺構の重複を考えたが、土層観察で重複は認められず1遺構と判断した。間層を挟み黒褐色土を主体とする覆土であり、2枚貝を多く含む状況が確認された。特に不整方形遺構部分からは遺物収納箱2箱分のしじみ貝が出土した（詳細は研究編）。

貝以外には出土遺物は認められない。

SK4628（遺構Ⅲ−169 図、遺物Ⅳ− 70 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	G	(94)	64	57

切合　SD4411、SK4650>**SK4628**

平面形は南北に長い溝状を呈する土坑である。掘方南側半分には鍬の工具痕が床面に残り、土層観察を行った北側付近にはピット状に凹んだ部分も認められることから、布堀基礎を構築しようとしたものか。本遺構の北側に位置するSK4650、SK4460も坑底の一端にピット状に凹んだ部分を有す溝状土坑であり、関連のある遺構か。

遺物は、Ⅳ− 70 図に示したような17世紀前葉から中葉に比定される陶磁器類が出土している。

SK4650（遺構Ⅲ−170 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	G	188	64	66

切合　**SK4650**>SK4628、SP4736

壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を、平面形は南北に長軸を有す長方形を呈する。壁、坑底は凹凸を有する。本遺構の北側に位置するSK4460、南側に位置するSK4628も坑底の一端にピット状に凹んだ部分を有す溝状土坑であり、関連のある遺構か。

遺物は出土していない。

SK4663（遺構Ⅲ−170 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	G	163	88	57

平面形は東西方向に長軸を有すやや歪な長方形を呈する。壁、坑底は凹凸を有し、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は砂利を多く含むローム土と比較的均質なローム土が互層に堆積している。坑底西側の立ち上がり付近に方形のピット状の凹みを有する。本遺構西側に位置するSD4995、SX4661、東側に位置するSK4675と平面形状、覆土などが酷似し、また各土坑の間尺が概ね1間間隔となっており、一連の柱穴列であった可能性が高い。

遺物は出土していない。

SK4675（遺構Ⅲ−170 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2･4	G	(100)	73	68

西側は大学時代の管埋設溝に撹乱され、遺存する平面形は東西方向に長軸を有す長方形を呈する。壁、坑底は凹凸を有し、壁は坑底から開きながら立ち上がっている。覆土は砂利を多く含むローム土と比較的均質なローム土が互層に堆積している。坑底西側にピット状の凹みを有する。本遺構西側に位置するSX4661、SK4663と平面形状、覆土などが酷似し、また各遺構の間尺が概ね1間間隔となっており、一連の柱穴列であった可能性が高い。

遺物は出土していない。

SK4683（遺構Ⅲ−170 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	F	279	169	102

切合　SK540･4291、SK4682、
SE4706>**SK4683**>SK4553、SK4582、SP4583

平面形は東西方向に長軸を有する歪な楕円形を呈し、壁、坑底は工具痕状の凹凸を有する。覆土にはローム粒やブロックを多く含む。

遺物は出土していない。

SE4705（遺構Ⅲ−171 図、遺物Ⅳ− 70 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
4	G	(97)	(84)	(157)

切合　SD1211･4426>**SE4705**

東側半分ほどを大学時代の管埋設溝に撹乱されていたが、調査中に東側立ち上がりが崩落、調査は安全上の理由から確認面下約160cmまで実施した。平面形は円形を呈し、覆土は黒色土にロームブロックをやや多く含む、しまりの弱いものであった。南北壁面の相対する位置に足掛け穴が確認された。

遺物は、17世紀前葉に比定される陶磁器類が出土している。

SE4706（遺構Ⅲ−171 図、遺物Ⅳ− 71 図）

区	面	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
2	F	85	83	(94)

切合　SK4682>**SE4706**>SK4683、SK4742、SD4744

素掘りの井戸である。安全上の理由から確認面から約260cmまでの調査にとどめた。遺存する開口部平面形はやや歪な円形を呈する。南北壁面の相対する位置に、かまぼこ形を呈する足掛け穴が検出された。土層観察から、廃絶後、大量に瓦を投棄（7層）し、その上を砂と砂利（2～6層）などで互層に埋め戻している様子が窺える。なお出土した瓦はⅣ－71図に示したものも含め、2次的な火熱を受けたものはなく、また完形品ないし半完形品が多数であった。災害ではなく、建物の建て替えなどに伴う瓦の廃棄か。

遺物は、瓦以外は出土していない。

SP4717（遺構Ⅲ－171図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	G	36	26	46

切合　SP4198、SK4199>**SP4717**

平面形は南北に長軸を有すやや歪な小判形を呈する。掘方は垂直ではなく、南東方向に斜めに掘り込まれた状況が確認された。覆土の様子から江戸時代以前の杭跡の可能性もある。

遺物は出土していない。

SK4725（遺構Ⅲ－171図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	G	(92)	(46)	20

南北を撹乱され、遺存する平面形は歪な半円形を呈す。断面形はごく浅い碗形を呈し、坑底、壁面の凹凸は顕著である。覆土には黒色土やローム土の粒やブロックを斑状に含む。以上のような状況から植栽痕である可能性が高い。

遺物は出土していない。

SD4743（遺構Ⅲ－171図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
2	F	(147)	40	27

切合　**SD4743**>SK4553、SK4742、SD4744

西から南側を大学時代の管埋設溝に撹乱される溝状遺構であり、主軸方位はＮ－7°－Ｅで東に振れる。溝の断面形は浅い箱形を呈し、北側坑底部分には不整方形の石が検出された。本来は溝状遺構ではなく、布堀基礎のような遺構の可能性もある。

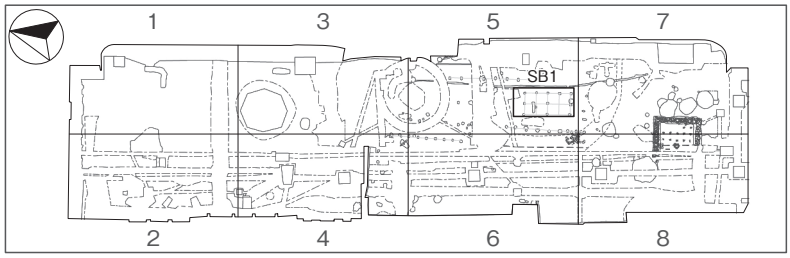
遺物は、陶磁器類がごく少量出土している。

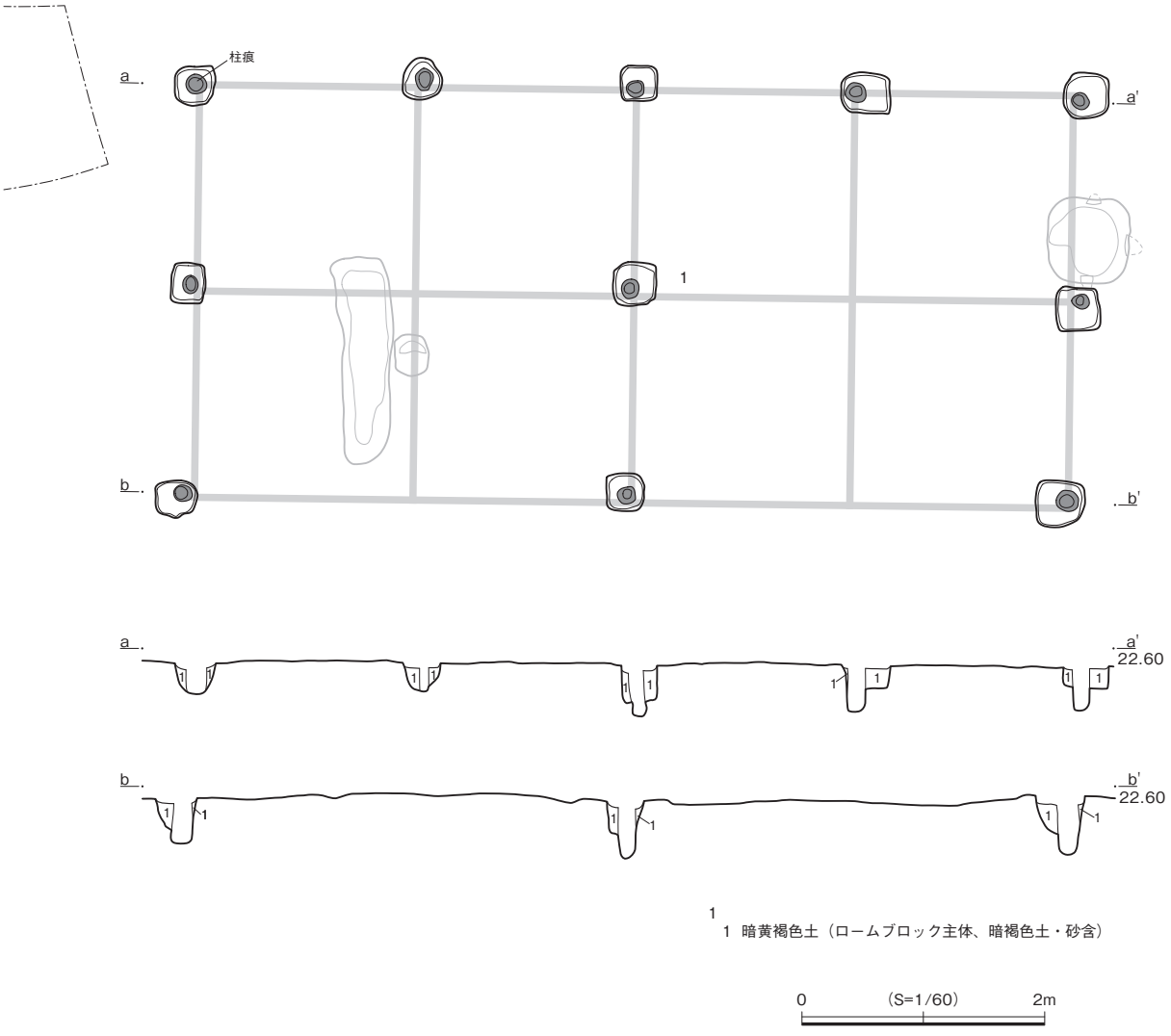
SD4800（遺構附図1、2図）

区	面	長軸cm	短軸cm	深さcm
4	B	北側 (853) 南側 (788)	北側 55 南側 52	－

調査区4区と6区にまたがって構築された土管埋設溝である。4区北西隅からＮ－38°－Ｗで斜行し、4区中央やや南で大学時代の配電桝によって壊されている。配電桝からはＮ－73°－Ｅの方角に同様の形態の土管埋設溝が確認されたことから同じ遺構と判断した。おそらく配電桝に壊された部分に桝状の施設があったと考えられる。埋設溝の幅は60cmを測り、土管1本はおおむね長さ56cm、外径12cmのものであった。

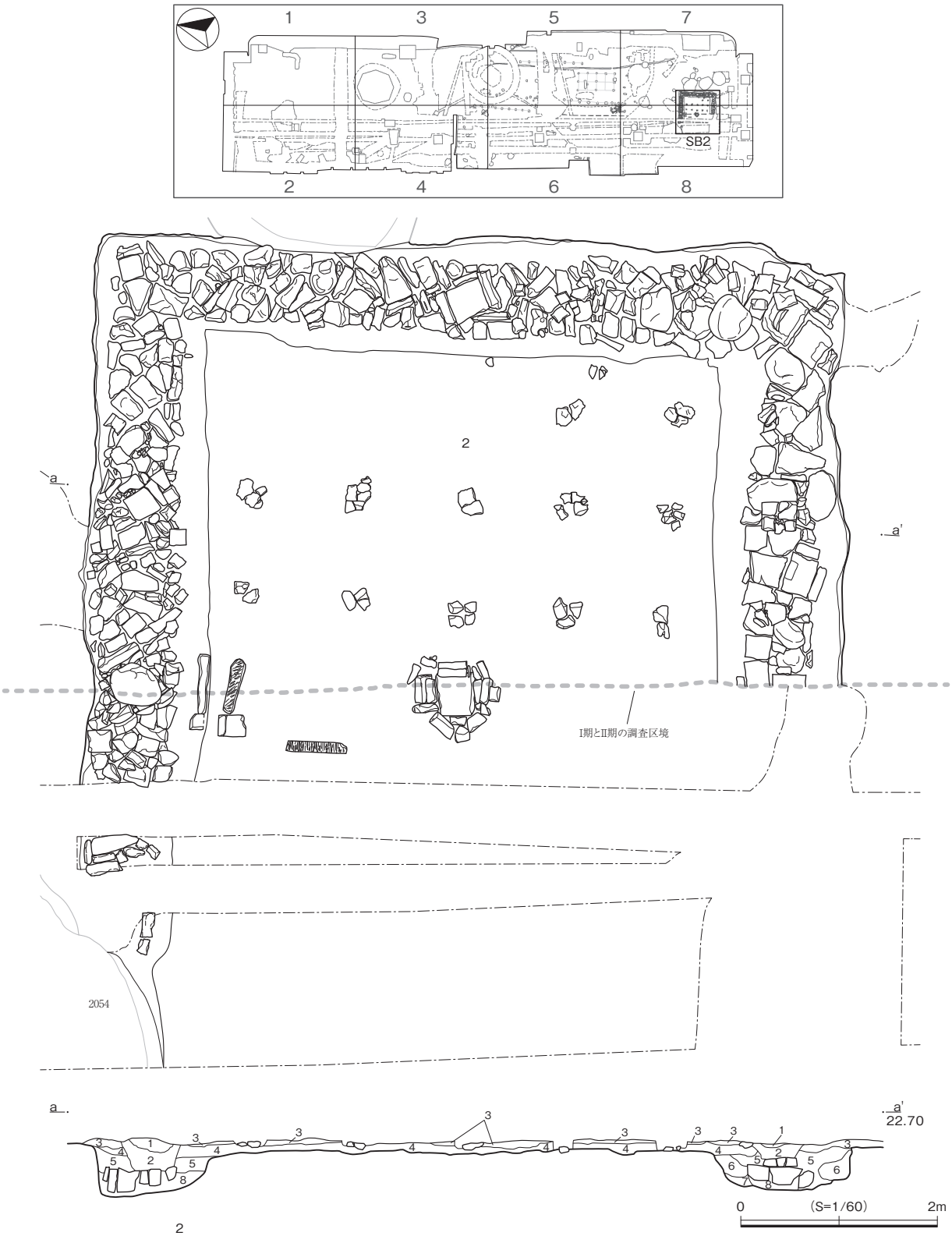
明治35（1902）年以前の前田侯爵邸内を描いた前田育徳会所蔵の本郷邸惣絵図には、本遺構の位置に池から繋がり、邸北側を回って正門やや北側で邸外に出される排水管と推定される施設が描かれている。排水溝の形態や位置からここに描かれた遺構であろうと推定される。





SB1（A面）

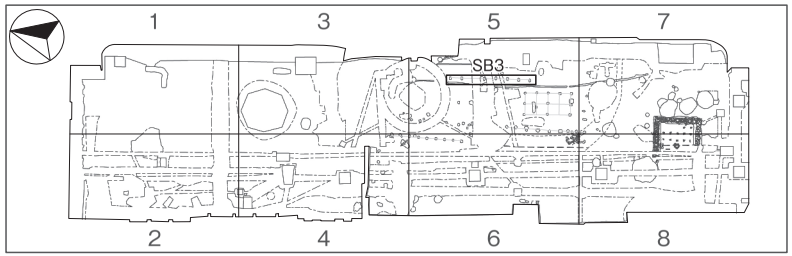
Ⅲ-1図　SB1

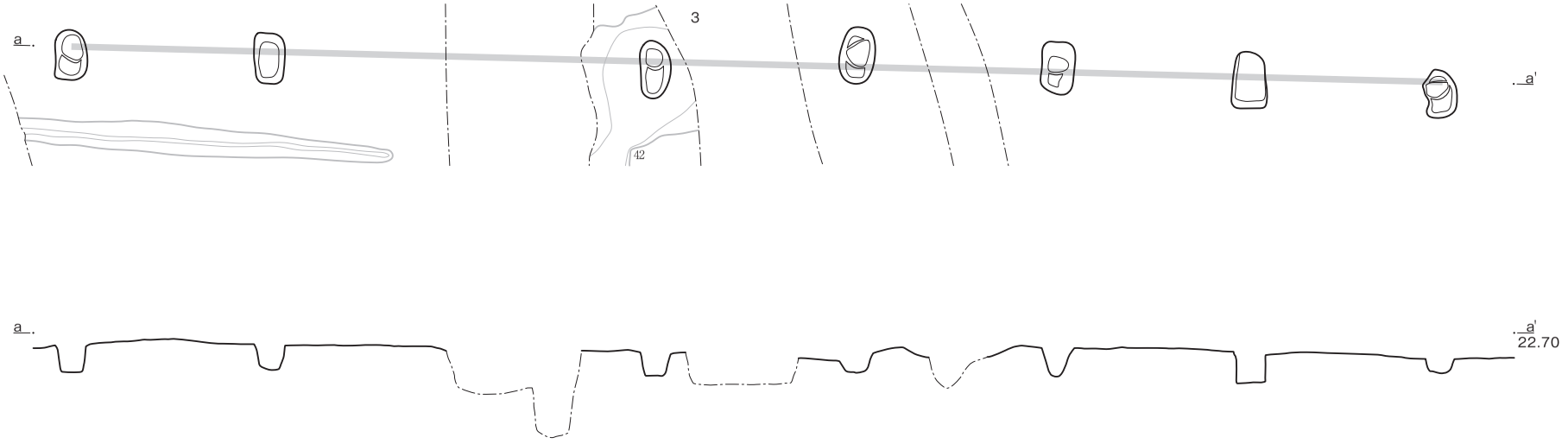


2
1 黄褐色土　（粘性のあるローム土主体、暗褐色土・砂が縞状に混、粘性強）
2 暗灰色土　（砂・暗褐色土主体、砂・瓦・漆喰片・コンクリート片極多含、粘性なし、しまり弱）
3 暗茶褐色土（暗褐色土主体、礫極多含、焼土・炭多含、粘性弱）
4 暗黄褐色土（暗褐色土主体、ロームB多含、礫・焼土少含）
5 暗褐色土　（暗褐色土主体、ローム粒・砂・礫多含、焼土少含）
6 暗灰褐色土（暗褐色土主体、ロームB極多含、焼土多含、炭少含、しまり弱）
7 茶褐色土　（ローム土主体、斑状に暗褐色土含）
8 暗灰褐色土（ローム・暗褐色土主体、礫極多含、しまり強）

SB2（A面）

Ⅲ-2図　SB2

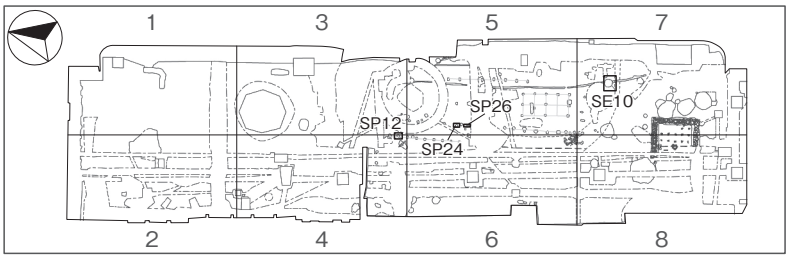


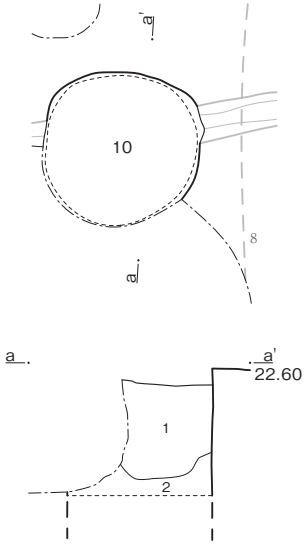


SB3(A面)

0　(S=1/60)　2m

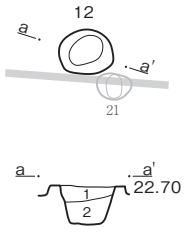
Ⅲ-3図　SB3





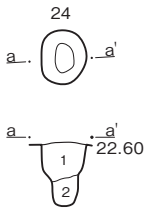
10
1 黄褐色ローム（ローム粒・ロームブロック主体、粘性・しまりなし）

SE10（A面）



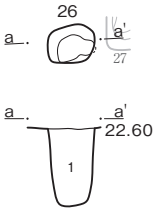
12
1 暗褐色土（黒色砂多含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB多含）

SP12（B面）



24
1 暗茶褐色土（砂質の暗褐色土主体、焼土・炭多含、ロームB極少含、粘性弱）
2 暗灰褐色土（1層のブロックと灰を含む砂が斑状に混じる、粘性なし、しまり弱）

SP24（B面）

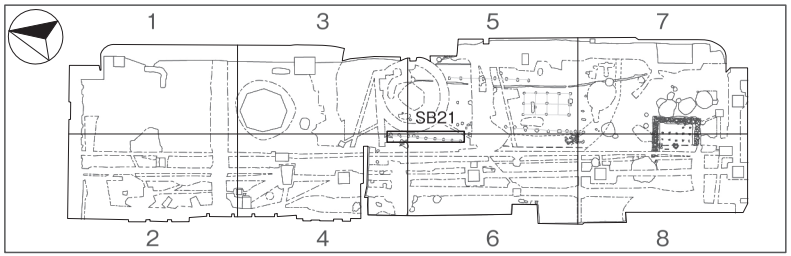


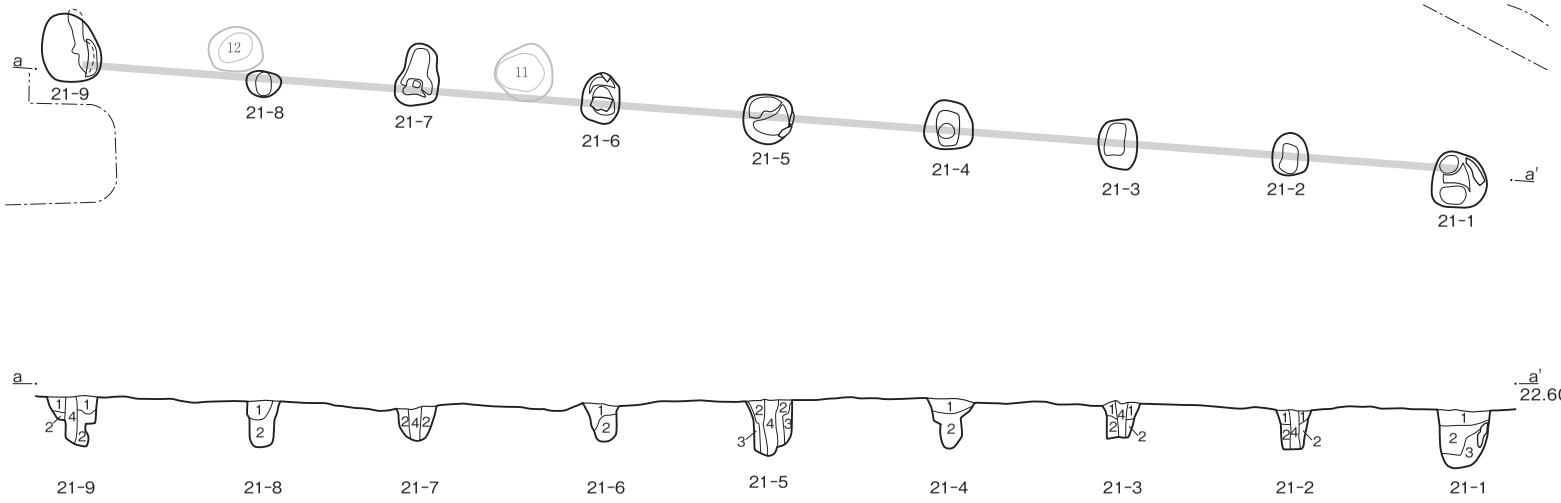
26
1 暗黄灰色土（砂・炭・灰・ロームB含）

SP26（B面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-4図　SE10、SP12、SP24、SP26



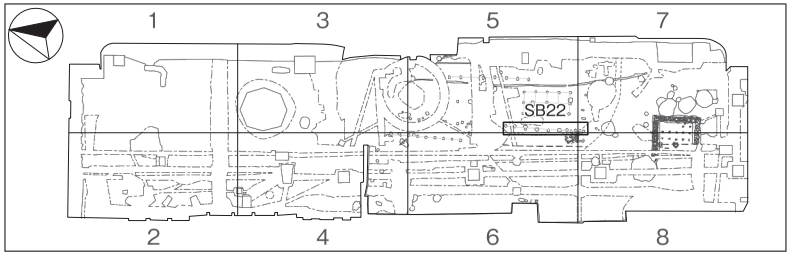


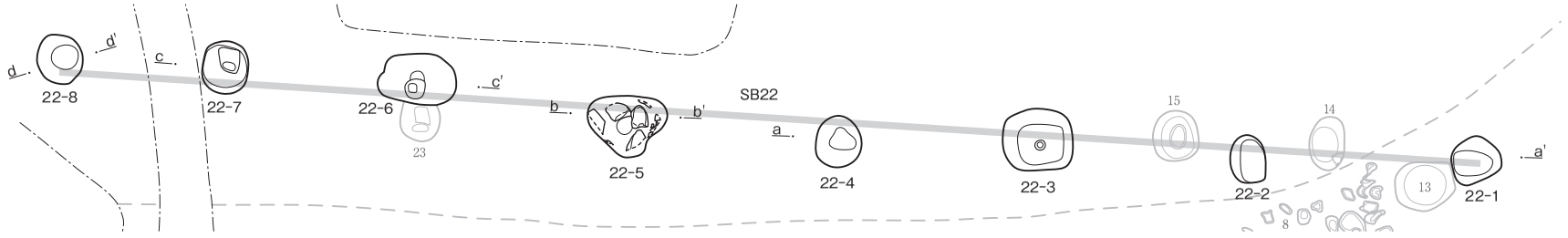
21
1 暗黄灰褐色土（ロームBと暗褐色土主体で斑状に混ざる、炭・焼土多含、砂極少含、しまり強）
2 暗灰褐色土　（1層近似のブロック状の土主体、砂極多含、粘性・しまり弱）
3 暗茶褐色土　（暗褐色土主体、炭・焼土多含）
4 灰色砂質土　（灰炭層の上部を覆っている砂主体、礫極少含、粘性・しまりなし）

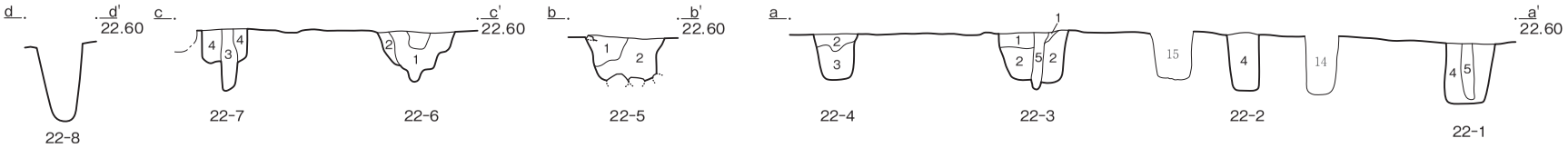
SB21（B面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-5図　SB21





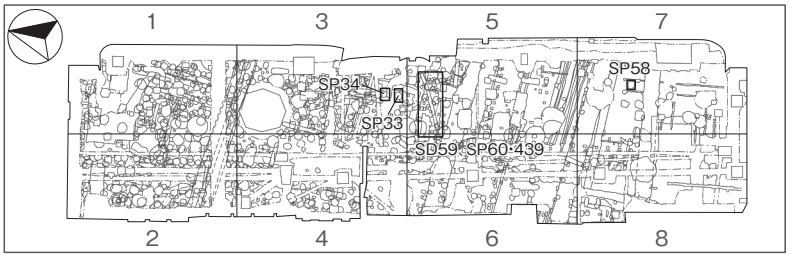


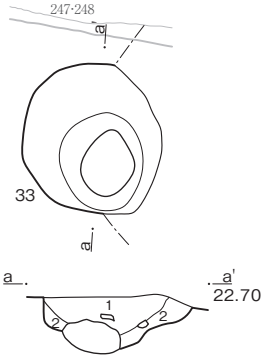
22
1 灰褐色土　（砂とロームB・暗褐色土が斑状に混ざる、焼土・炭含、粘性弱）
2 暗褐色土　（褐色土主体、ローム多含、灰・砂・焼土含、しまり強）
3 暗灰色土　（砂主体、ロームB多含、粘性なし）
4 暗茶褐色土　（暗褐色土主体、焼土・炭極多含、砂含、しまり強）
5 灰褐色砂質土（砂主体、焼土・炭多含、粘性・しまりなし）

SB22（B面）

0　（S=1/60）　2m

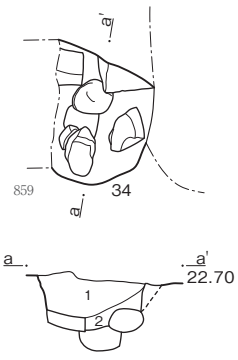
Ⅲ-6図　SB22





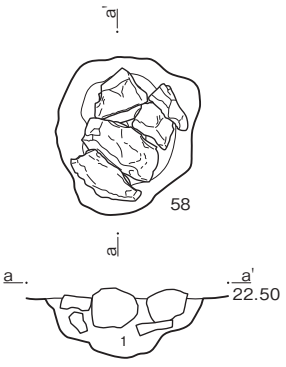
33
1 茶褐色土（玉砂利多含、粘性弱、しまり強）
2 茶褐色土（焼土粒子・礫少含、粘性弱、しまり強）

SP33（C面）



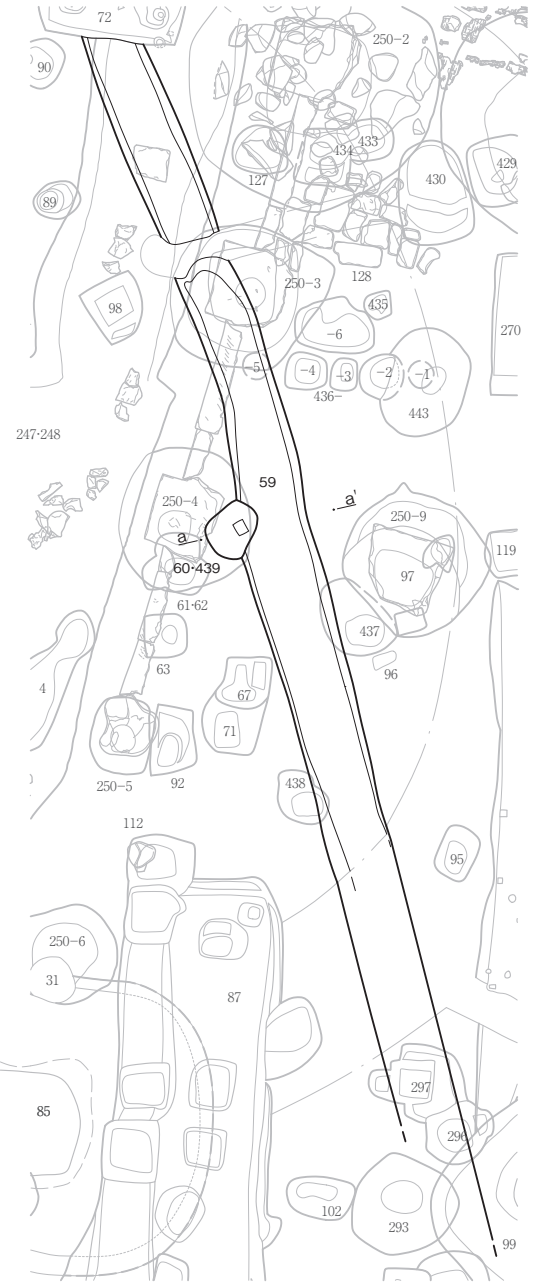
34
1 茶褐色土（玉砂利多含、粘性弱、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒・焼土粒少含、粘性弱、しまり強）

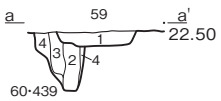
SP34（C面）



58
1 暗褐色土（やや砂質の暗褐色土主体、焼土・砂利多含、粘性・しまり弱）

SP58（C面）





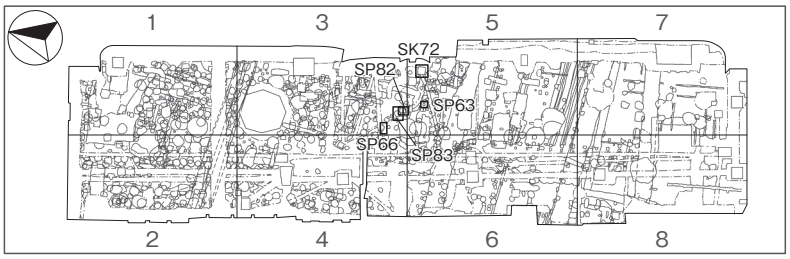
59
1 茶褐色土（焼土粒子多含、ローム粒子少含）

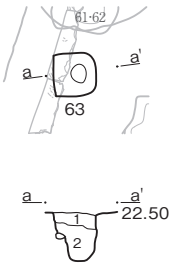
60・439
2 暗褐色土（柱痕か、粘性・しまりなし）
3 暗褐色土（柱痕か、粘性・しまりなし）
4 暗褐色土（焼土粒子多含）

SD59、SP60・439（C面）

0　(S=1/60)　2m

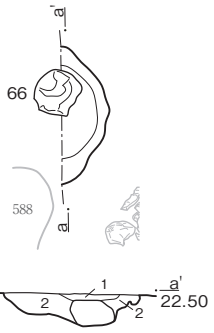
Ⅲ−7図　SP33、SP34、SP58、SD59、SP60・439





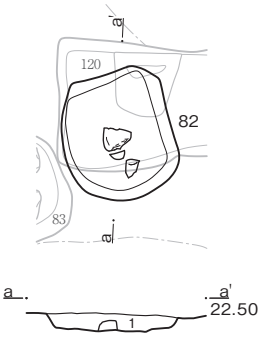
63
1 暗灰褐色土（ローム粒少含、粘性・しまり弱）
2 暗灰褐色土（ローム粒少含、粘性弱、しまりなし）

SP63（C面）



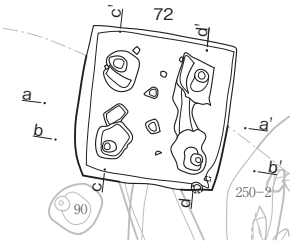
66
1 玉砂利層
2 茶褐色土（焼土粒含、ローム粒少含、しまり強）

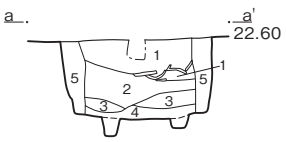
SP66（C面）

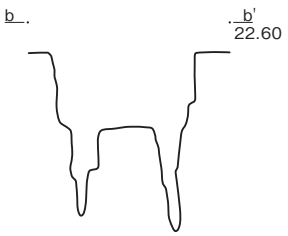


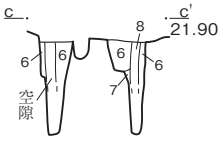
82
1 灰褐色土（灰褐色土、礫・焼土・炭多含、粘性・しまりなし）

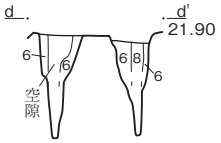
SP82（C面）





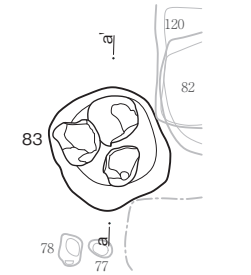






72
1 褐色土　（焼土粒含、炭化物・小円礫極少含）
2 暗褐色土　（円礫多含）
3 暗褐色土　（円礫・小円礫極少含、粘性強）
4 暗灰褐色土（ローム粒微含、粘性強）
5 暗褐色土　（ローム粒子・小円礫少含）
6 暗灰褐色土（灰褐色粘土多含、炭化物・ローム粒子極少含、しまり強）
7 黄褐色土　（ほぼロームで構成）
8 暗褐色土　（炭化材が認められる、柱痕、しまりなし）

SK72（C面）

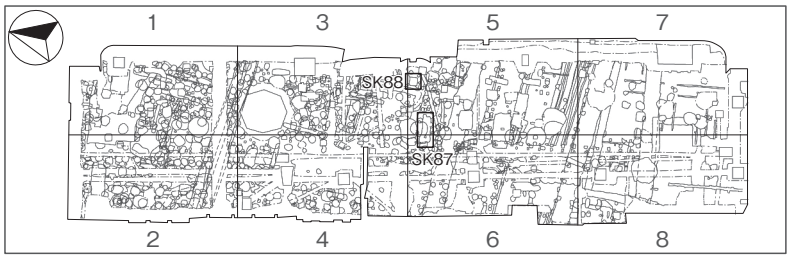


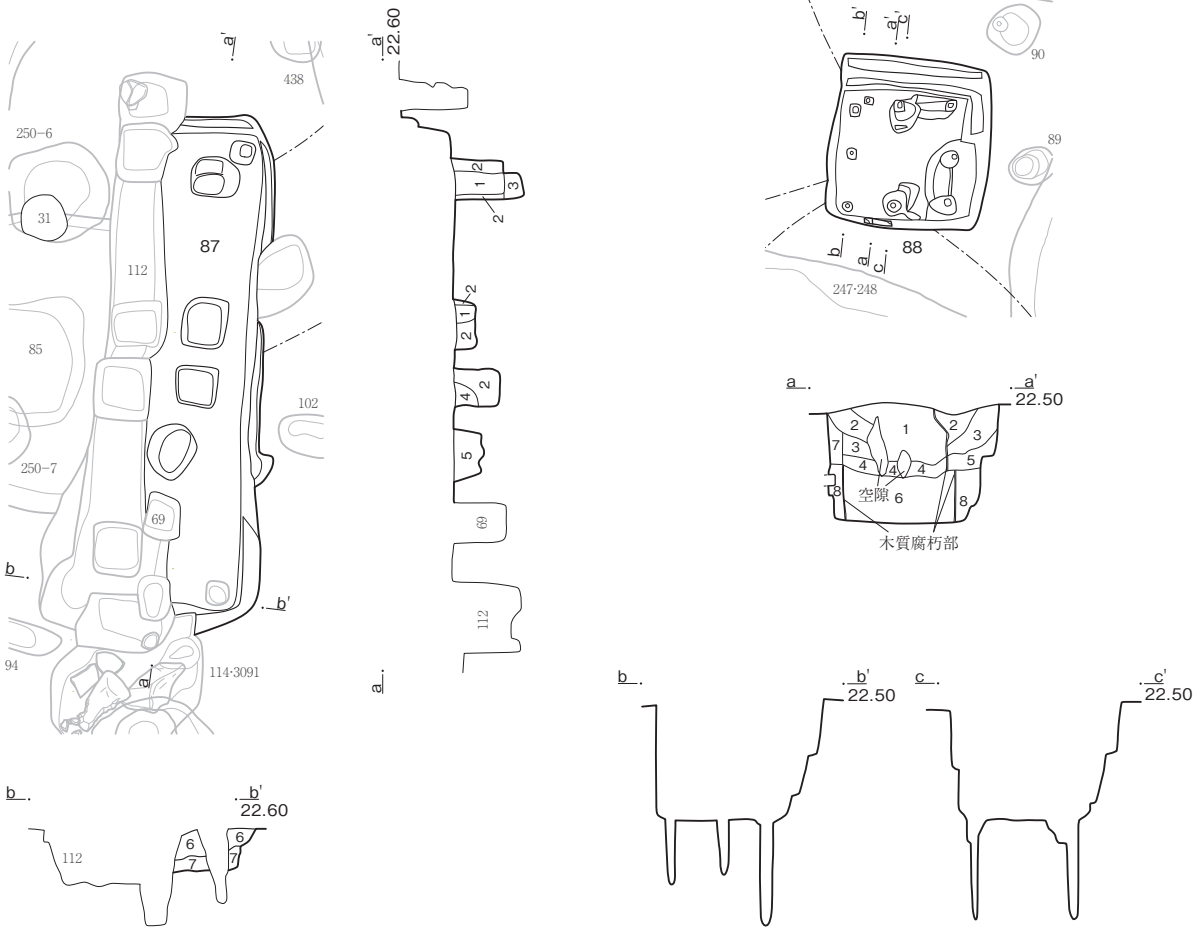
83
1 灰色砂利層（砂利主体、灰褐色土含）
2 暗褐色土　（ローム土が縞状に混入、しまり強）

SP83（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-8図　SP63、SP66、SK72、SP82、SP83





87
1 暗茶灰褐色土（砂質、焼土多含、粘性・しまりなし）
2 暗灰褐色土　（灰褐色粘土と暗褐色土の混層、炭・礫多含、粘性強、しまり弱）
3 暗黄褐色土　（ロームと暗褐色土が縞状に混層、しまり強）
4 褐色土　　（焼瓦と焼土主体）
5 暗黄褐色土　（ロームB・黒褐色B多含）
6 暗茶褐色土（暗褐色土主体、焼土・炭多含、粘性・しまりなし）
7 暗黄褐色土（暗褐色土主体、ローム粒・焼土・炭多含）

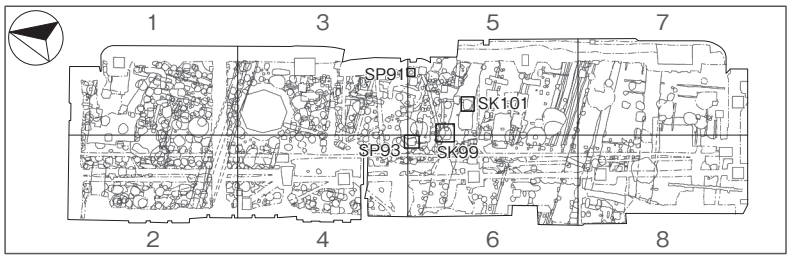
SK87（C面）

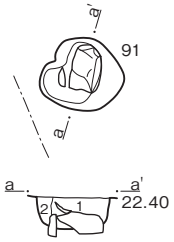
88
1 灰褐色土　（ローム粒・焼土・炭極少含）
2 暗灰色土　（1層に近似、砂利多含）
3 暗灰色砂利層（大量に礫を含み、暗褐色土・焼土・炭含）
4 暗黄灰色砂層（黄～灰色の砂が水平縞状に堆積、粘性なし）
5 暗褐色土　（礫多含）
6 灰褐色土　（ややシルト質の灰褐色土主体、水平に鉄分の集まったような縞が見られる部分あり、炭・礫極少含、粘性なし）
7 暗黄褐色土（ロームB・砂利多含）
8 暗灰褐色土（灰褐色の粘質土主体、砂利多含、炭・焼土極少含）

SK88（C面）

Ⅲ-9図　SK87、SK88

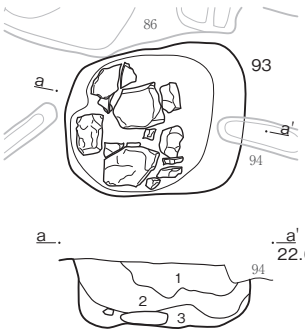
0　(S=1/60)　2m





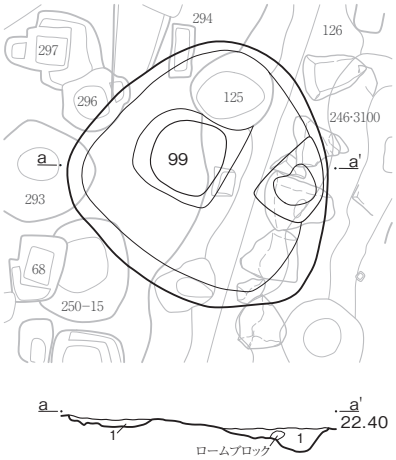
91
1 暗灰褐色土（灰褐色砂多含、ローム粒少含）
2 褐色土　（ローム粒含）

SP91（C面）



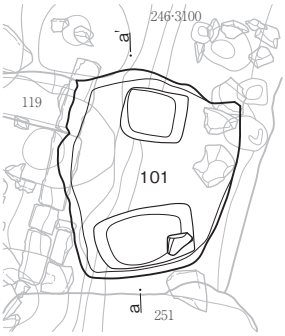
93
1 暗褐色土
2 黄褐色土　（多量の礫の間に3層近似、しまり強）
3 灰黄褐色土（粘性の強いローム質土、粘性・しまり強）

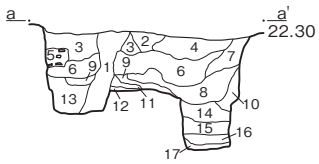
SP93（C面）



99
1 暗茶褐色土（暗褐色土主体、焼土多含、ローム粒極少含、粘性・しまりなし）

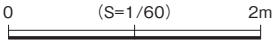
SK99（C面）



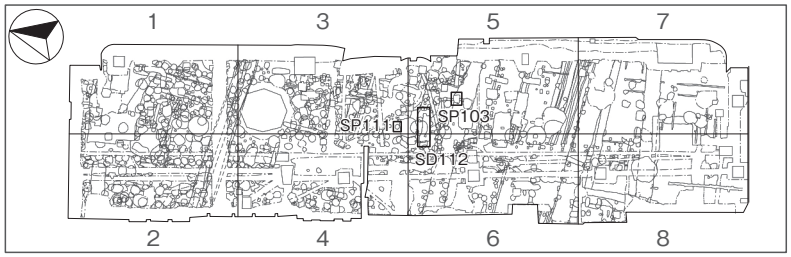


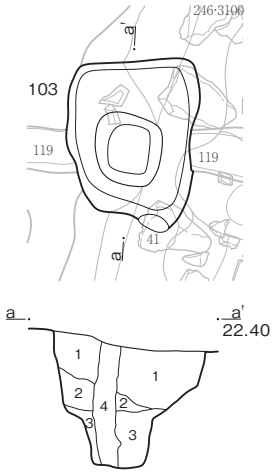
101
1 暗褐色土　（焼土粒・ロームB・焼土B含、粘性・しまりなし）
2 黒褐色土　（ロームB・焼土B含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土　（ロームB含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり強）
4 黒褐色土　（ローム粒多含、焼土粒少含、粘性強、しまり極強）
5 暗褐色土　（瓦片4点露出、焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
6 暗褐色土　（焼土粒多含、ロームB含、灰色粘土・炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
7 暗褐色土　（6層に近似、焼土粒極少含、粘性弱、しまり強）
8 暗褐色土　（灰色粘土多含、焼土粒・ロームB含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
9 黄褐色土　（ローム主体、暗褐色土極少含、粘性強、しまり極強）
10 暗褐色土　（炭化物極少含、粘性・しまり強）
11 暗褐色土　（ローム粒極少含、粘性・しまり弱）
12 暗赤褐色土（焼土主体の暗褐色土との混在層、粘性なし、しまり弱）
13 暗黄褐色土（ローム・灰色粘土・暗褐色土・黒褐色土が混在、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
14 暗褐色土　（ロームB含、灰色粘土・焼土粒極少含、粘性強、しまり弱）
15 暗褐色土　（灰色粘土混在、ロームは土坑壁との接点に目立つ、粘性・しまり強）
16 暗黄褐色土（ロームと暗褐色土の混在層、極少含、粘性・しまり強）
17 暗褐色土　（灰色粘土極少含、粘性・しまり弱）

SK101（C面）



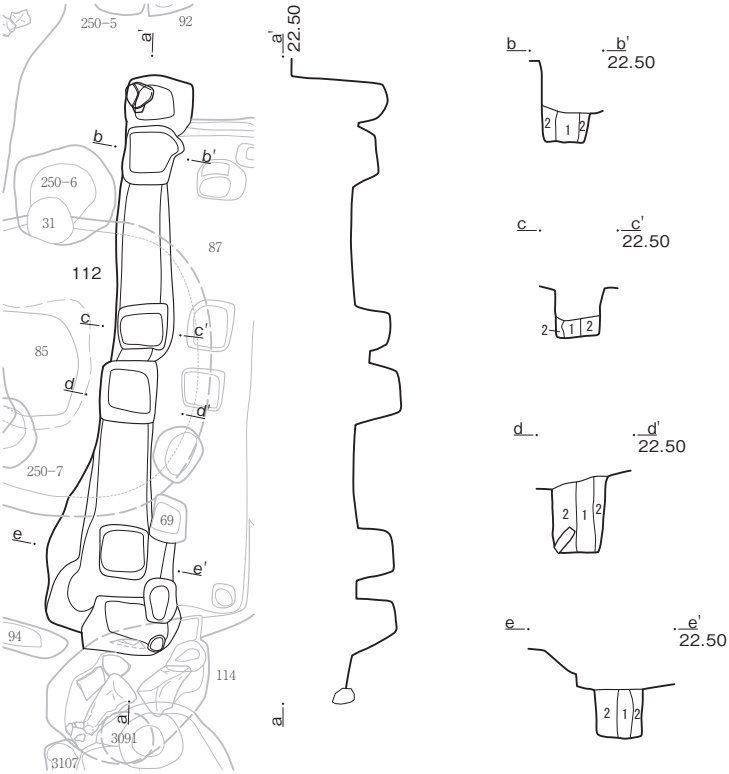
Ⅲ-10図　SP91、SP93、SK99、SK101





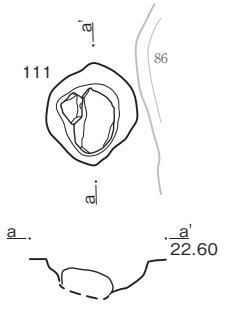
103
1 暗黄褐色土（暗褐色土、ロームB・焼土・炭多含）
2 暗赤褐色土（暗褐色土、焼土・炭・砂利多含、粘性・しまりなし）
3 暗褐色土　（暗褐色土、ローム粒多含、焼土・礫極少含、粘性・しまりなし）
4 暗灰褐色土（暗褐色土、礫多含、灰色粘質土粒含、粘性・しまりなし）

SP103（C面）



112
1 暗黄褐色土（暗褐色土とロームB、礫が混じる、焼土・炭少含、粘性・しまりなし）
2 暗褐色土　（ローム粒・細かい砂利含）

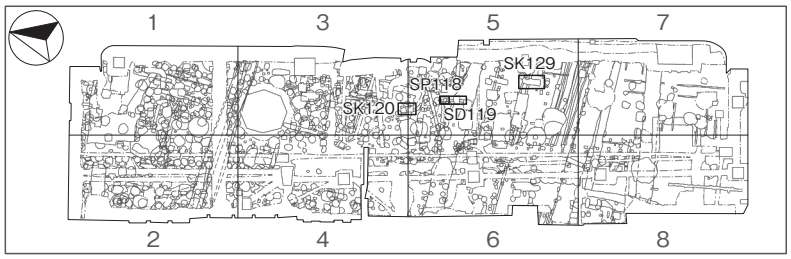
SD112（C面）

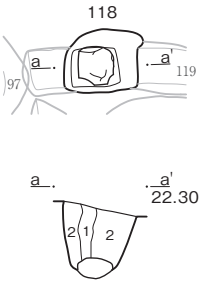


SP111（C面）

0　（S=1/60）　2m

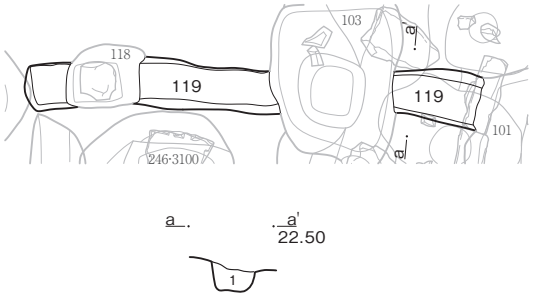
Ⅲ-11図　SP103、SP111、SD112





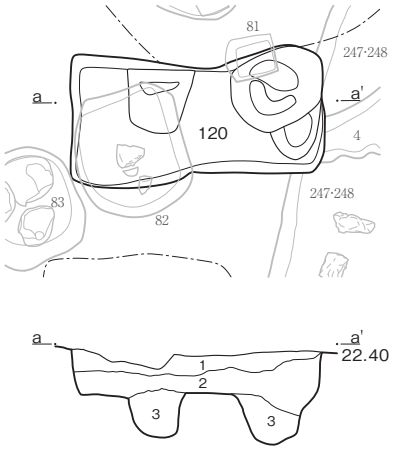
118
1 暗褐色土　（焼土極少含、粘性・しまりなし）
2 暗茶褐色土（暗褐色土主体、ローム粒・焼土・炭多含）

SP118（C面）



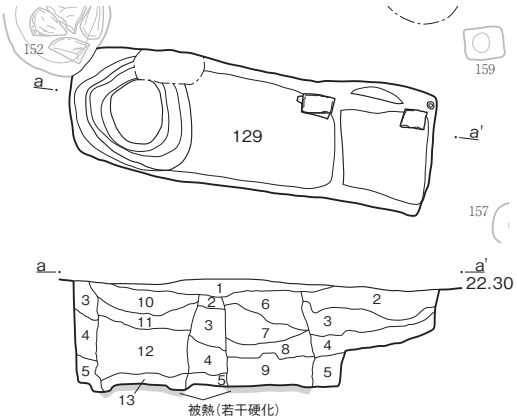
119
1 暗茶褐色土（暗褐色土とロームB混じる、焼土・礫多含）

SD119（C面）



120
1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土・炭・砂利多含、粘性なし）
2 暗灰褐色土（やや砂質の灰褐色土主体、礫多含、焼土極少含、しまりなし）
3 暗茶褐色土（暗褐色土主体、粒の細かい焼土多含、粘性・しまりなし）

SK120（C面）

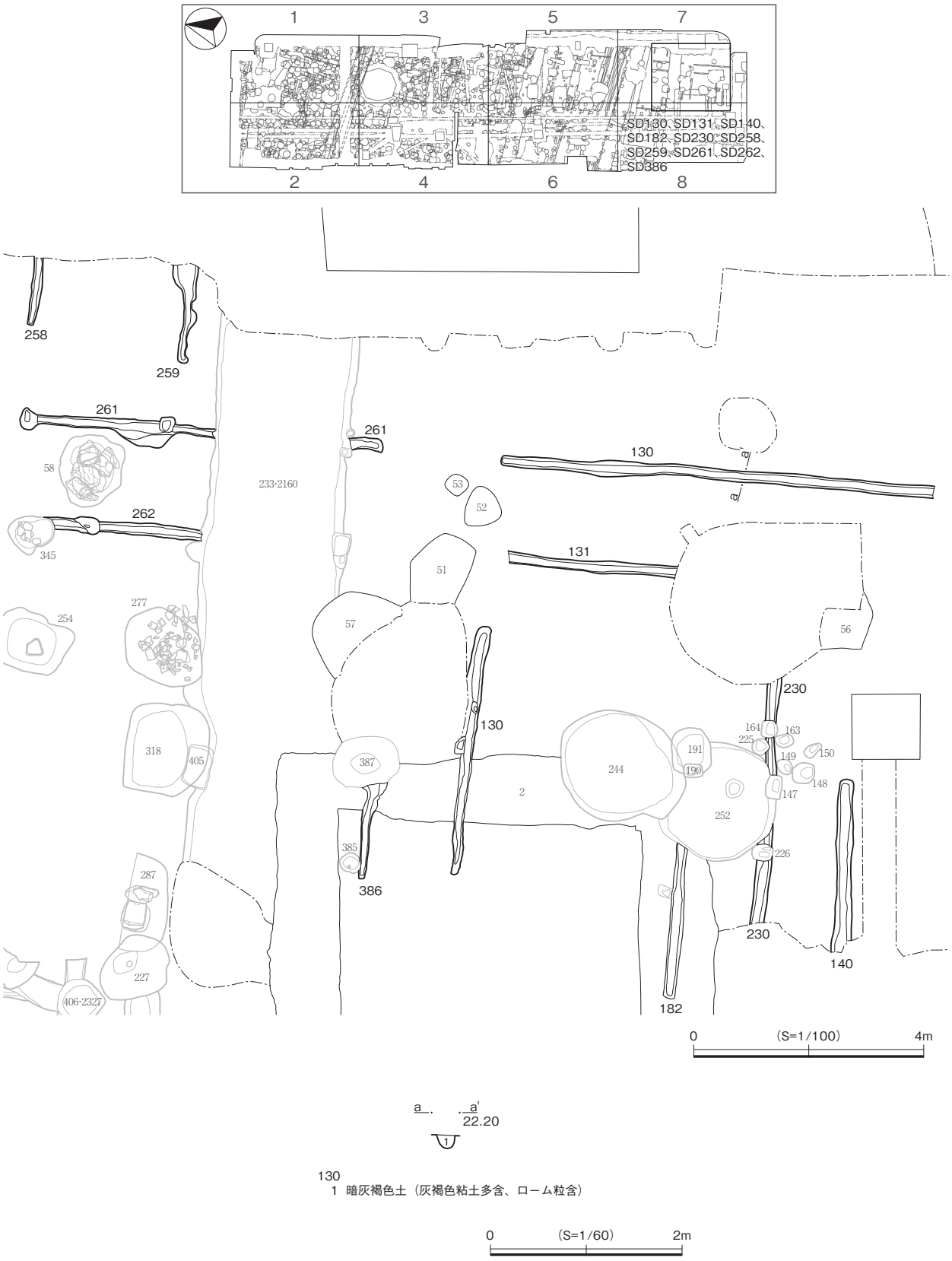


129
1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土・礫少含）
2 暗茶褐色土（暗褐色土主体、ブロック状に焼土・焼け瓦・礫多含）
3 暗黄褐色土（灰褐色土、ローム粒・ロームB極多含）
4 暗灰褐色土（礫・瓦多含、暗褐色土中シルト質灰色土を縞状に含）
5 暗褐色土　（暗灰褐色の粘質土と暗褐色土が混合、礫多含）
6 暗茶褐色土（暗褐色土・焼土・炭・礫多含、しまりなし）
7 暗灰褐色土（シルト質の灰色土と暗褐色土が混じる、礫・炭・瓦含）
8 暗茶褐色土（やや灰色系暗褐色土主体、焼土・礫少含、粘性・しまりなし）
9 暗茶褐色土（焼土と黒色灰主体、暗褐色土を挟む、粘性・しまりなし）
10 暗灰褐色土（焼土・砂質灰・大量の礫から成る、粘性なし）
11 暗褐色土　（細かい焼土を含む暗褐色土、礫極少含、粘性・しまりなし）
12 赤褐色土　（焼けた瓦礫・焼土多含、薄い灰が縞状を成す、粘性・しまりなし）
13 黒灰色土　（シルト質、灰多含、粘性・しまりなし）

SK129（C面）

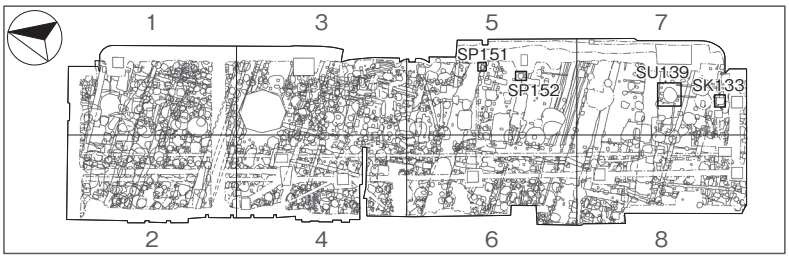
0　（S=1/60）　2m

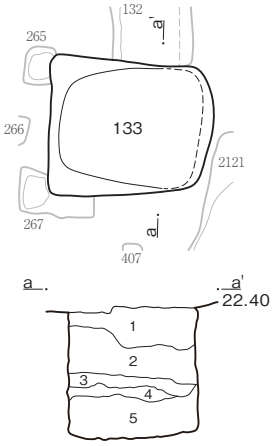
Ⅲ-12図　SP118、SD119、SK120、SK129



SD130、SD131、SD140、SD182、SD230、SD258、SD259、SD261、SD262、SD386（C面）

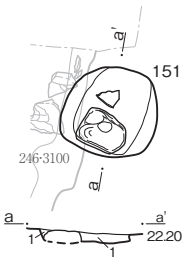
Ⅲ-13図　SD130、SD131、SD140、SD182、SD230、SD258、SD259、SD261、SD262、SD386（C面）





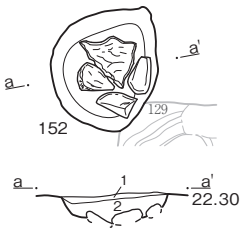
133
1 褐色土　（ローム粒極多含、ロームB多含）
2 暗褐色土（ローム粒含、ロームB・灰褐色粘土少含）
3 茶褐色土（ローム粒極多含、ロームB極少含）
4 暗褐色土（ローム粒含、ロームB・灰褐色粘土極少含）
5 褐色土　（ローム粒極多含、ロームB多含）

SK133（G面）



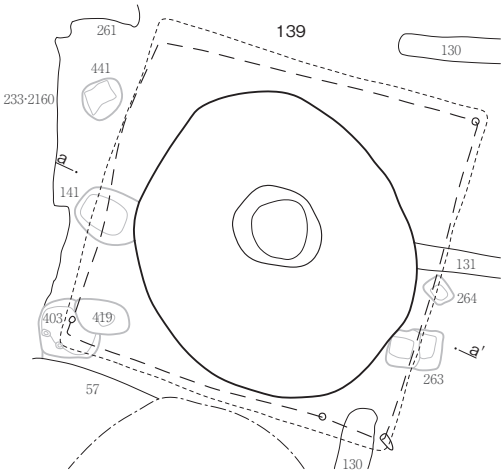
151
1 暗褐色砂利（石・砂利主体、礫間にローム土・暗褐色土が縞状を成す、しまり強）

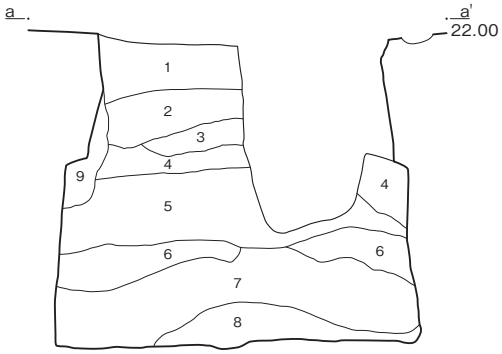
SP151（C面）



152
1 暗褐色土　（ロームB多含）
2 暗褐色砂利（石・砂利主体、ローム土・暗褐色土が縞状を成す、しまり強）

SP152（C面）



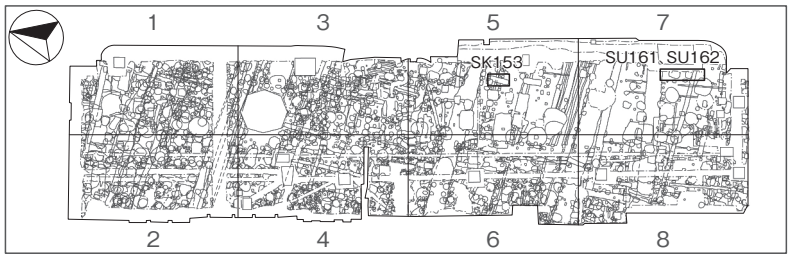


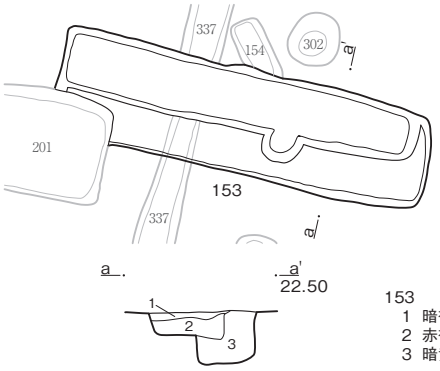
139
1 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒・小円礫・黄褐色粘土粒少含）
2 褐色土　（ローム粒含、ロームB少含）
3 茶褐色土　（ローム粒含、ロームB少含）
4 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB多含）
5 黄褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、粘性弱）
6 茶褐色土　（ローム粒・焼土粒含、小円礫少含）
7 橙褐色土　（焼土粒・焼土B多含、ローム粒・小円礫少含）
8 暗灰褐色土（灰褐色粘土多含、焼土粒含、炭化物少含、粘性強）
9 暗褐色土　（ローム粒・小円礫極少含、しまり弱）

SU139（G面）

0　（S=1/60）　2m

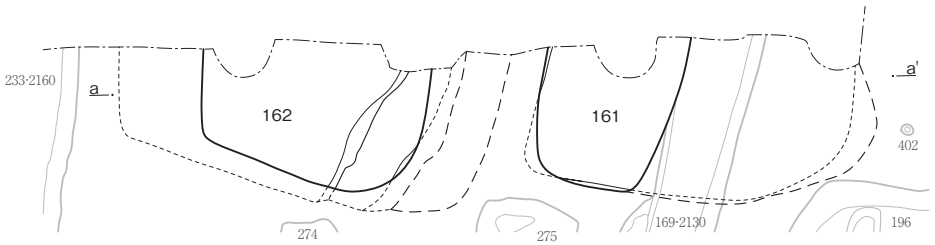
Ⅲ-14図　SK133、SU139、SP151、SP152

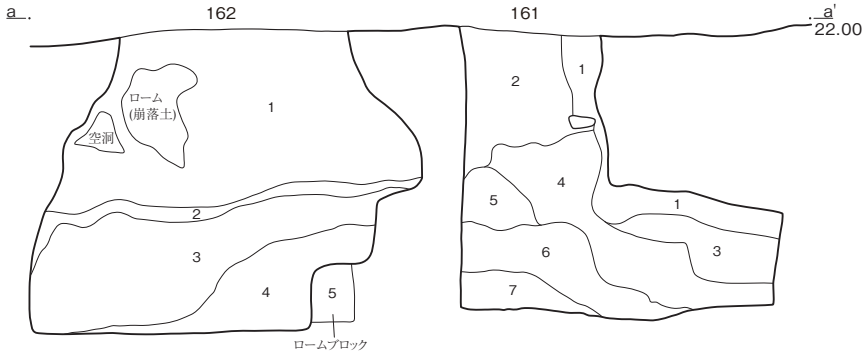




153
1 暗褐色土　（ローム粒・焼土・炭多含、粘性・しまりなし）
2 赤褐色土　（焼土・炭・灰が互層を成し水平縞状に堆積、粘性なし）
3 暗黄褐色土（暗褐色土、ローム粒・ロームB・焼土粒・礫多含）

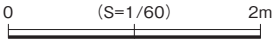
SK153（C面）





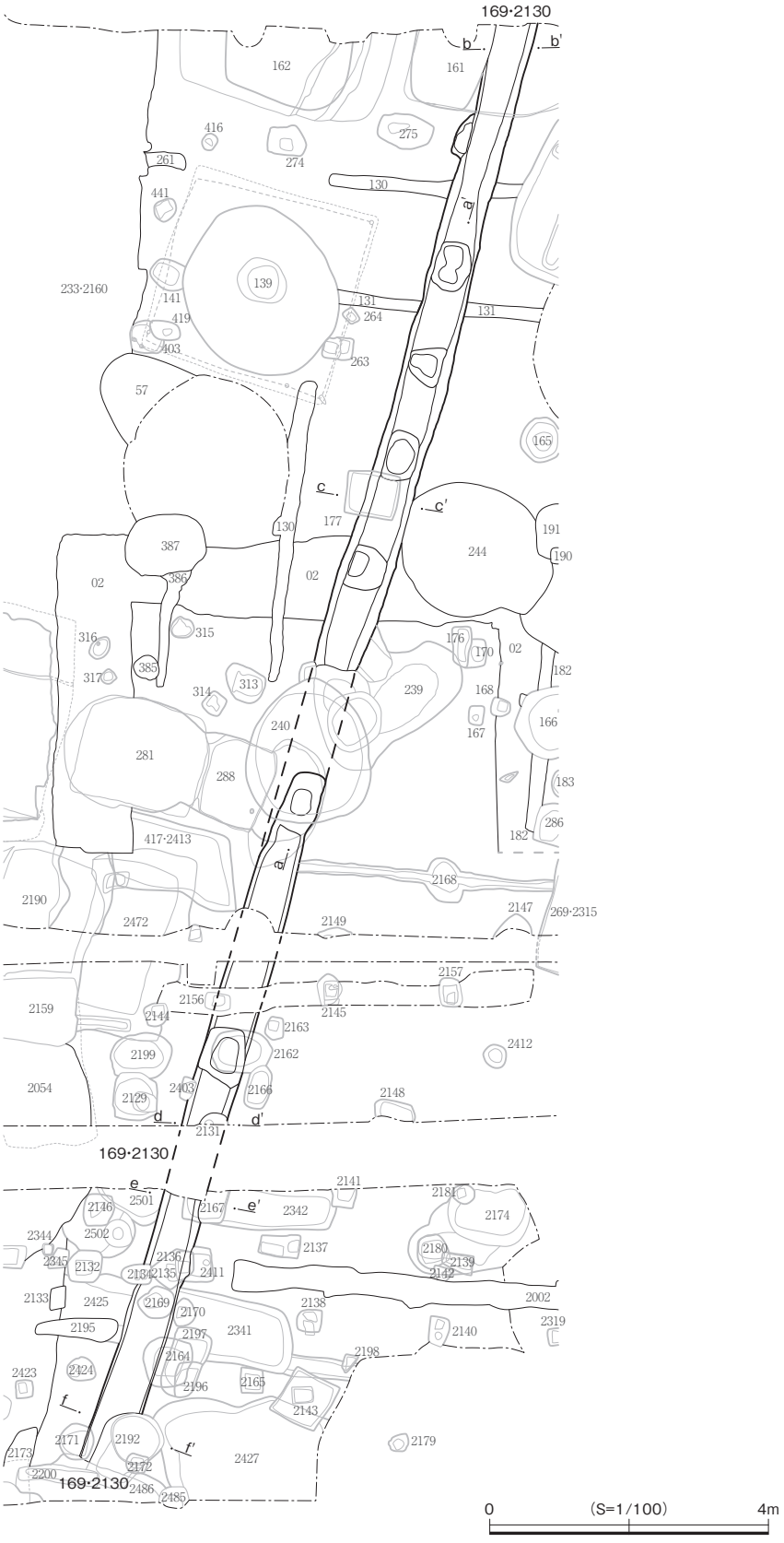
161
1 黒褐色土　（焼土・炭化材少含、ローム粒・円礫極少含）
2 暗茶褐色土（ローム粒・焼土多含、ロームB少含、炭化材・円礫極少含）
3 暗黄褐色土（ロームB少含、焼土・炭化材極少含、しまり弱）
4 暗黄褐色土（ロームB多含、焼土・炭化材少含）
5 暗黄褐色土（ロームB含、炭化材少含、貝極少含、しまり弱）
6 暗茶褐色土（ローム粒・焼土多含、炭化材・瓦極少含、しまり弱）
7 暗茶褐色土（6層との境目に灰色シルト層あり、炭化材・焼土極少含、しまり弱）

162
1 黄褐色土　（ロームB多含、しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・焼土・炭化材少含、しまり弱）
3 黄褐色土　（ロームB主体、しまり弱）
4 黒褐色土　（ローム粒含、炭化材少含、貝極少含、しまり弱）
5 黄褐色土　（ロームB主体）

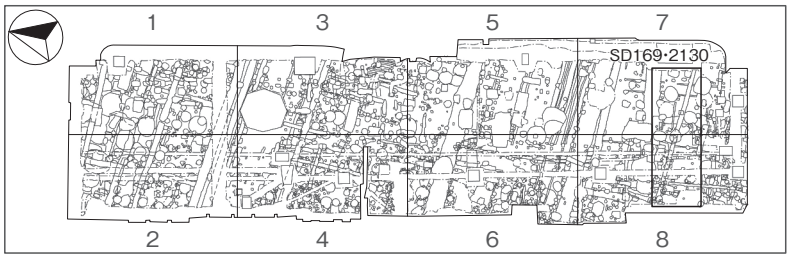


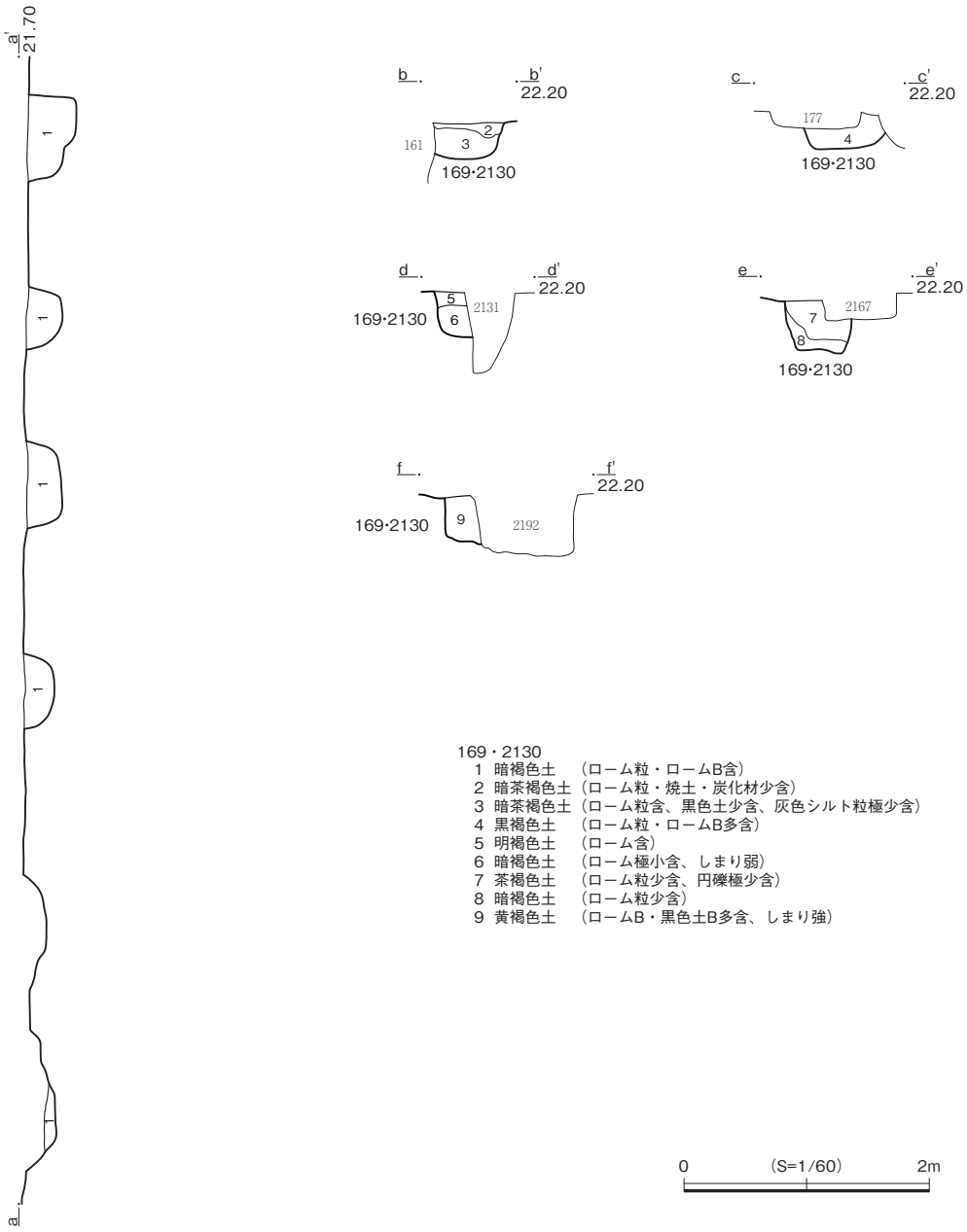
SU161、SU162（G面）

Ⅲ-15図　SK153、SU161、SU162



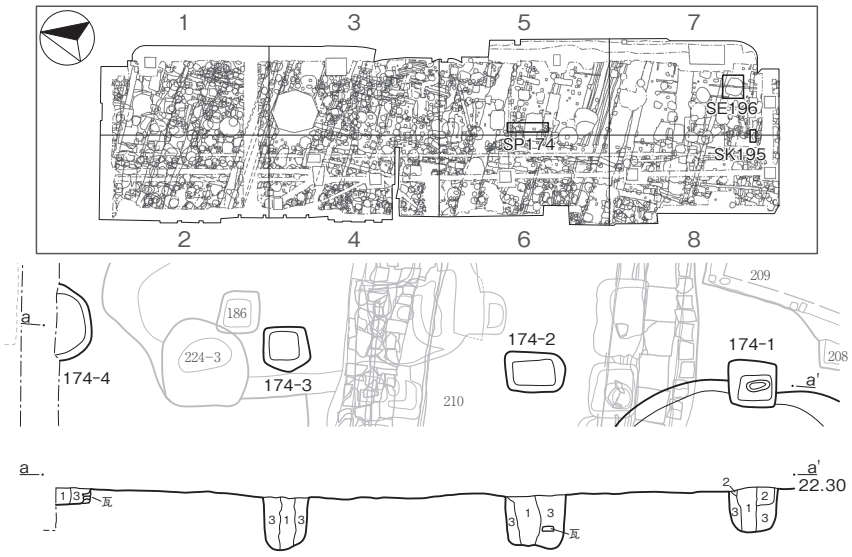
Ⅲ-16図　SD169·2130(1)





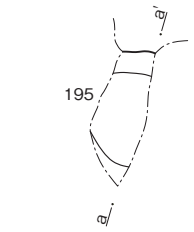
SD169・2130（G面）

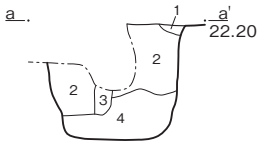
Ⅲ-17図　SD169･2130(2)



174
1 暗灰褐色土（灰を含む砂質層、炭多含、暗褐色土・焼土B極少含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（焼土・炭含、斑状に灰含む、ロームB多含、砂含）
3 暗褐色土　（焼土・炭含、斑状に灰含む、砂含、粘性なし）

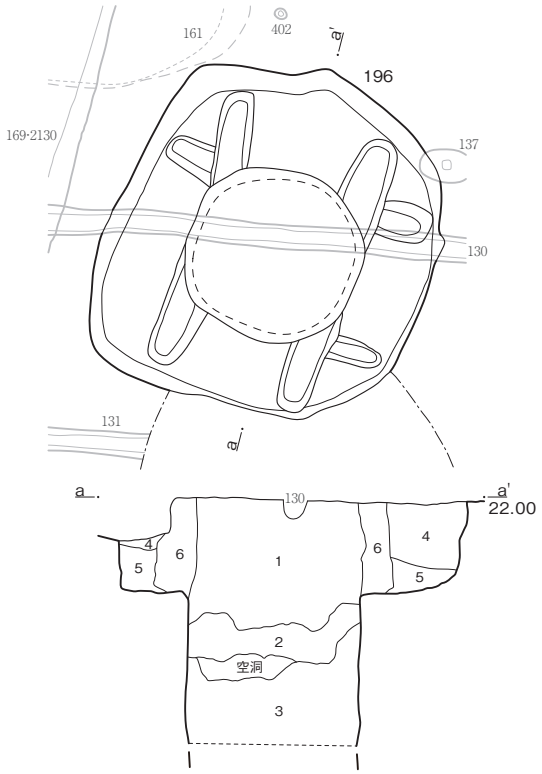
SP174（C面）





195
1 灰褐色土　（粘性なし）
2 暗黄褐色土（ロームB多含、焼土少含、灰色シルト粒極少含、粘性なし）
3 黒色土　（粘性なし、しまり弱）
4 暗茶褐色土（ローム粒・焼土含、灰色シルト粒極少含、粘性なし、しまり弱）

SK195（G面）

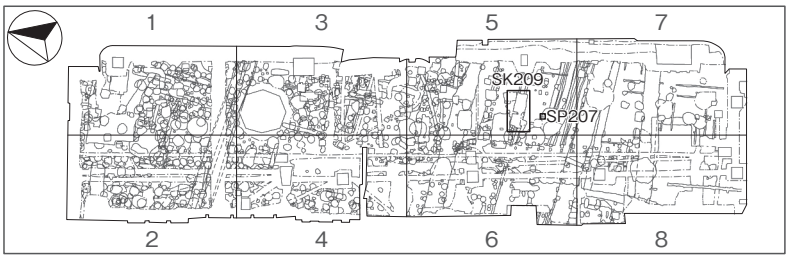


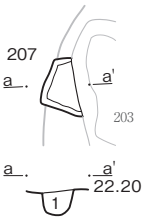
196
1 暗茶褐色土（暗褐色土、灰色粘土が縞状に入る部分あり、焼土・炭多含、瓦・石極少含）
2 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土少含、しまりなし）
3 暗黄褐色土（ハードローム主体、間に暗褐色土挟む）
4 暗黄褐色土（上層はロームB・礫多含、下層はロームB増加、粘性・しまりなし）
5 黄褐色土　（ロームB・砂利多含）
6 暗黄褐色土（ロームB・黒褐色土Bを斑状に含む）

SE196（G面）

0　（S=1/60）　2m

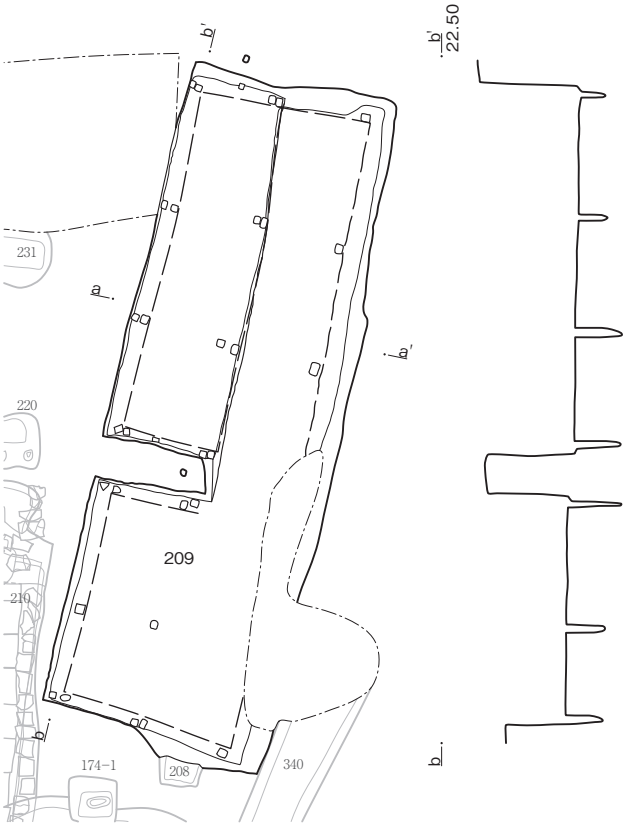
Ⅲ-18図　SP174、SK195、SE196



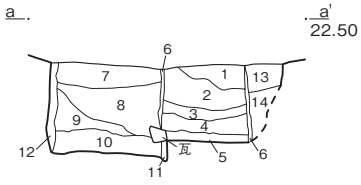


207
1 黄褐色土（ローム粒含、ロームB・砂・灰・炭化物少含、粘性なし、しまり強）

SP207（C面）



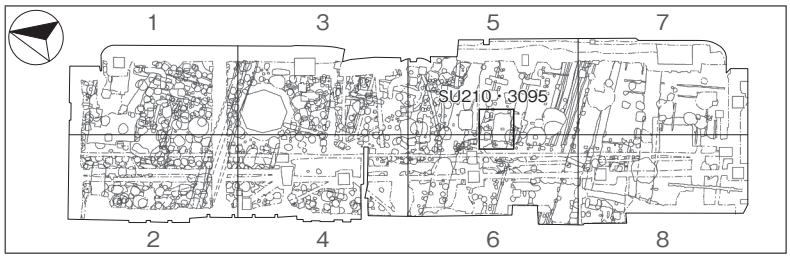
209
1 暗赤褐色土（暗褐色土、焼土極多含、炭・礫多含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（暗褐色土、大ロームB・礫極多含、しまりなし）
3 灰褐色土　（灰色粘質土主体、暗褐色土・ロームB極少含、粘性強）
4 暗灰褐色土（暗褐色土、灰色土粒極多含）
5 灰茶褐色土（シルト質の灰褐色土主体、灰・焼土・炭多含）
6 暗褐色土　（礫極少含、粘性・しまりなし）
7 暗黄褐色土（暗褐色土、ロームB極多含、黒色土粒多含）
8 黄褐色土　（大ロームB主体、黒色土・焼土・暗褐色土含）
9 暗褐色土　（ロームB・焼土・炭多含、しまりなし）
10 暗黄褐色土（暗褐色土・黒色土・ロームBが斑状を成す）
11 橙灰褐色土（ローム粒・焼土が混じる、しまりなし）
12 暗褐色土　（ロームB・砂利極少含、粘性・しまりなし）
13 黄褐色土　（細かいローム土主体、炭・砂利極少含、しまりなし）
14 暗黄褐色土（ロームB主体、暗褐色土・黒色土粒含、しまりなし）

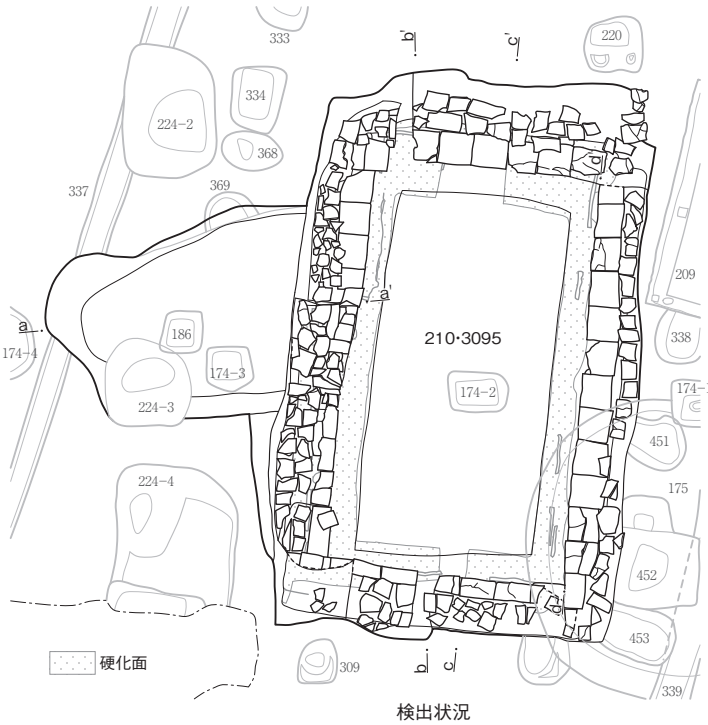


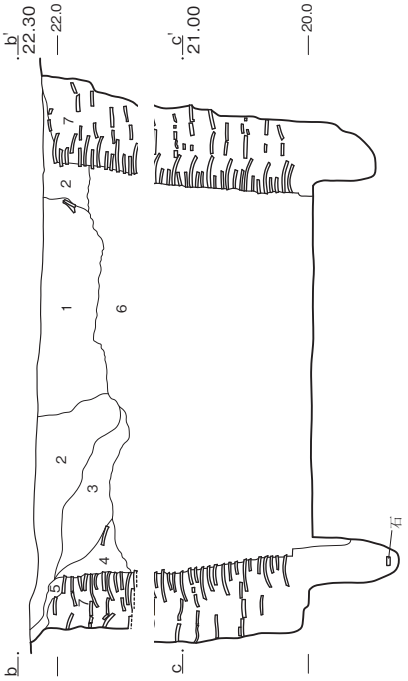
SK209（C面）

0　（S=1/60）　2m

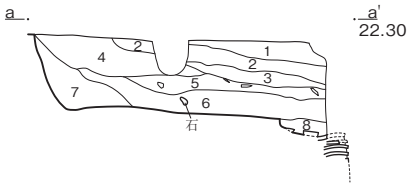
Ⅲ-19図　SP207、SK209

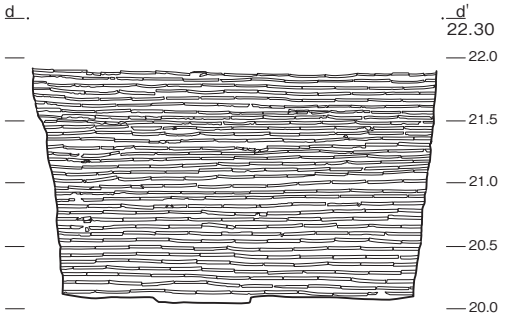






検出状況

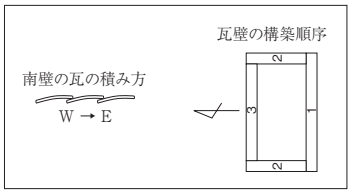




南壁

210・3095　a-a'
1 暗褐色土　（ロームB・焼土・砂利多含）
2 暗褐色土　（焼土粒・ロームB含、しまりなし）
3 暗褐色土　（1・2層に加えて灰褐色土B多含）
4 暗褐色土　（ロームB多含、しまりなし）
5 暗茶褐色土（焼土多含、焼瓦含、粘性・しまりなし）
6 暗黄褐色土（大ロームBを大量に含む暗褐色土）
7 暗褐色土　（ロームB・砂利多含、粘性・しまりなし）
8 暗褐色土　（焼土・砂利含）

210・3095　b-b'、c-c'
1 暗黄褐色土（ロームB・焼土粒・礫多含、焼瓦含、粘性・しまり弱）
2 暗褐色土　（ロームB・礫多含、焼瓦少含、焼土極少含）
3 暗黄褐色土（ロームB多含、礫含、焼土極少含、粘性弱）
4 暗褐色土　（ローム粒・焼土・炭極少含、粘性・しまり弱）
5 暗褐色土　（ローム粒多含、粘性弱）
6 焼土瓦層　（焼瓦主体、間に焼土を含む暗褐色土を挟む、粘性・しまりなし）
7 暗黄褐色土（ローム土・暗褐色土を主体とした粘質土、ロームB少含、しまり強）
8 暗黄褐色土（ローム土・暗褐色土が縞状に重なる、焼土・砂利極少含、粘性強）

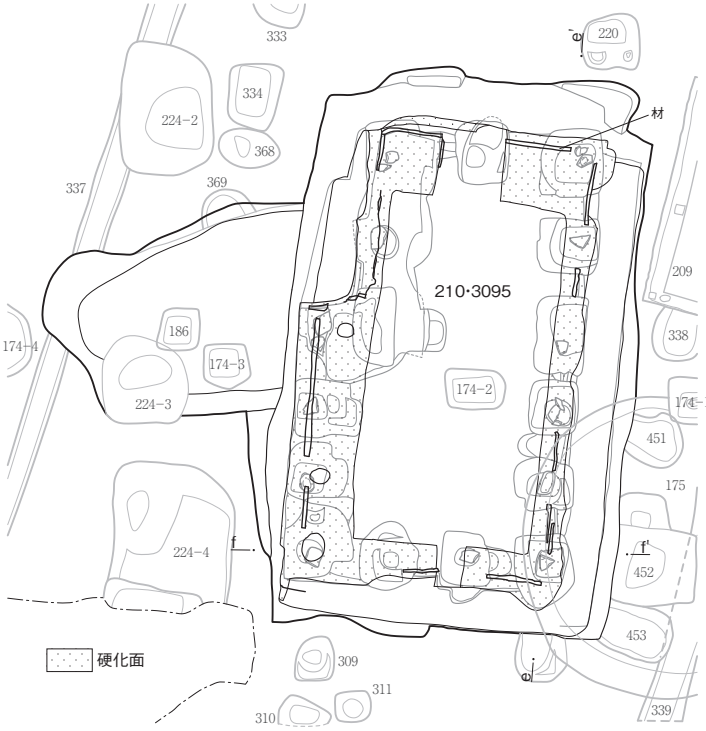


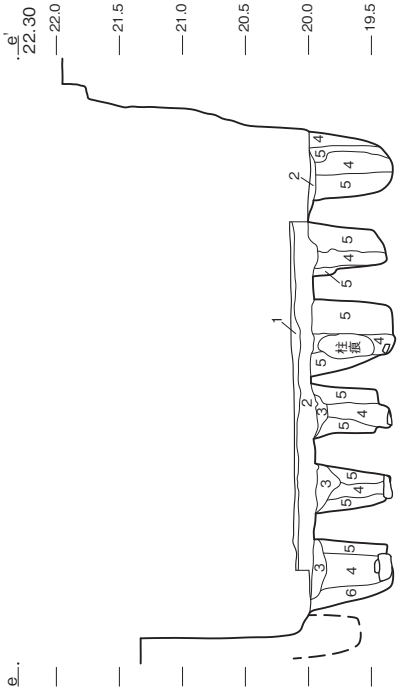
模式図

SU210・3095（C面）

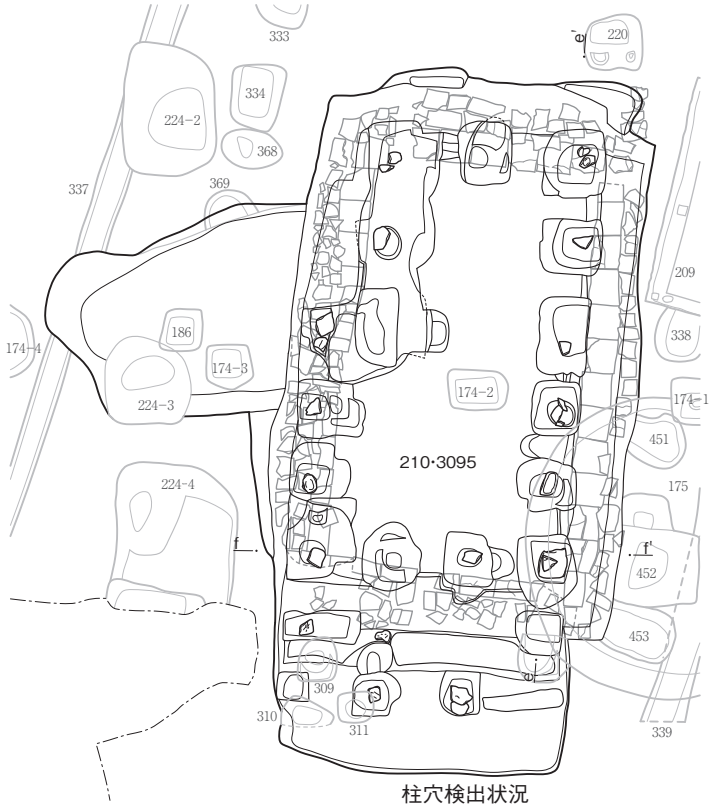
0　（S=1/60）　2m

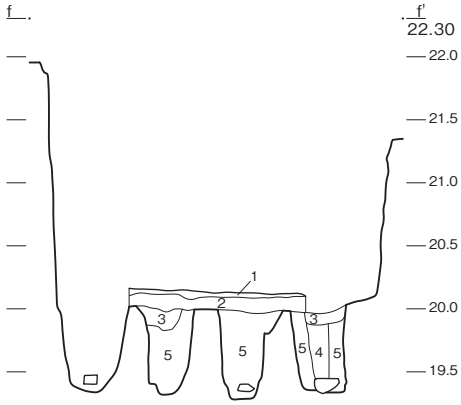
Ⅲ-20図　SU210・3095（1）





硬化面範囲



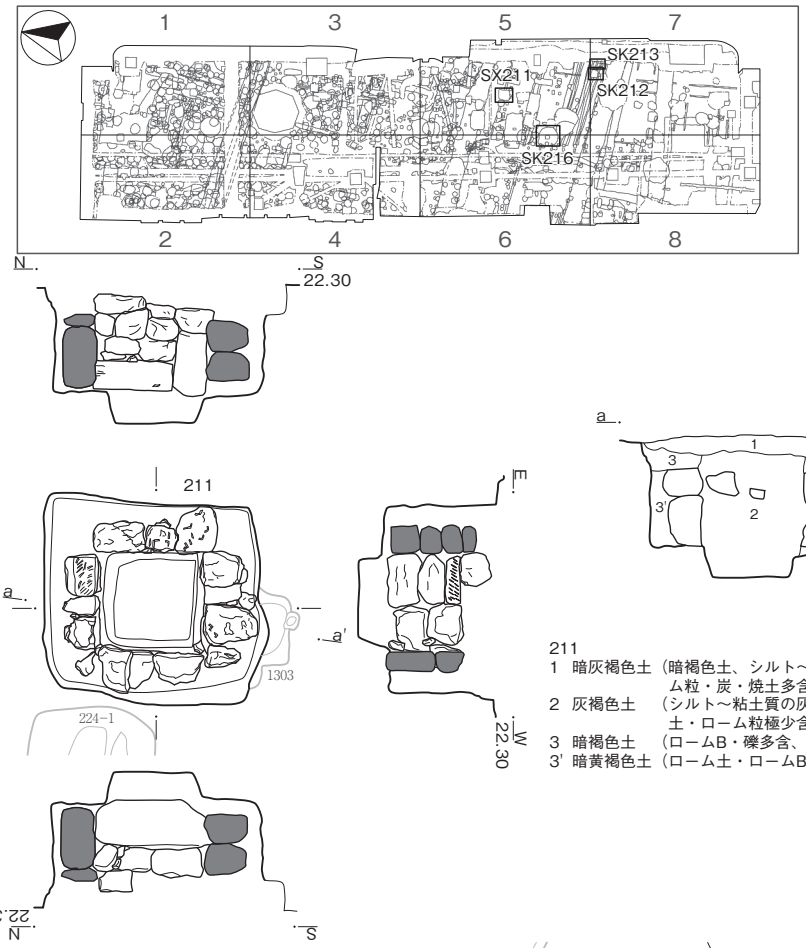


柱穴検出状況

210・3095　e-e'、f-f'
1 暗褐色土　（ローム粒多含、焼土極少含、粘性強）
2 暗灰黄褐色土（粘性のある暗褐色土、ローム粒・ロームB多含、焼土・炭化物少含、粘性強）
3 暗黄褐色土　（粘性のある暗褐色土、ロームBを斑状に含む、ローム粒多含、焼土・炭化物極少含）
4 黒褐色土　（やや団粒状の暗褐色土主体、空洞となる部分多し、柱痕、ローム粒多含、粘性弱、しまりなし）
5 暗黄褐色土　（粘性のある暗褐色土、ローム粒・ロームB多含、焼土・炭化物極少含）
6 黄褐色土　（ローム土主体、しまり強）

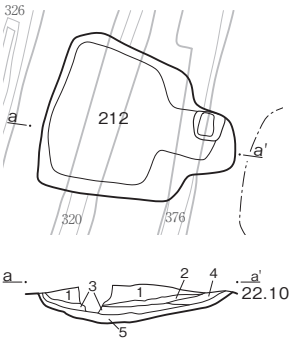
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-21図　SU210·3095(2)



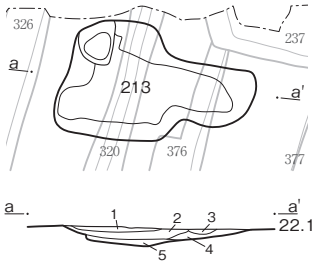
211
1 暗灰褐色土（暗褐色土、シルト～粘土質の灰色土・礫・ローム粒・炭・焼土多含）
2 灰褐色土 （シルト～粘土質の灰色土主体、炭・礫多含、焼土・ローム粒極少含、粘性強）
3 暗褐色土 （ロームB・礫多含、しまり強）
3' 暗黄褐色土（ローム土・ロームB主体、間に暗褐色土を挟む）

SX211（C面）



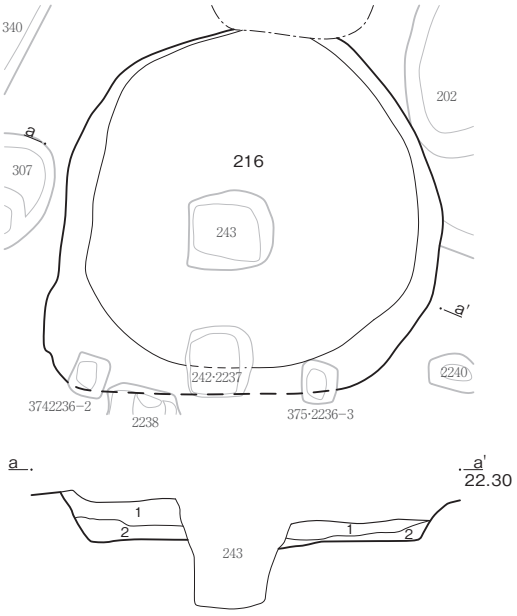
212
1 炭化物層 （焼土粒少含）
2 橙褐色土 （焼土多含、粘性・しまりなし）
3 茶褐色土 （ローム粒・焼土粒少含、しまり弱）
4 褐色土 （ローム粒含）
5 暗茶褐色土（炭化物・焼土粒多含、粘性弱）

SK212（C面）



213
1 橙灰色土 （シルト質の灰色土、焼土・炭・灰多含、しまりなし）
2 黒色炭層 （ほぼ炭純層、粘性・しまりなし）
3 灰色砂質土（灰色砂主体、炭多含、粘性・しまりなし）
4 灰褐色土 （やや砂質の暗灰色土主体、焼土・炭多含、粘性なし）
5 橙灰白色土（灰色土、焼土極多含、粘性なし）

SK213（C面）



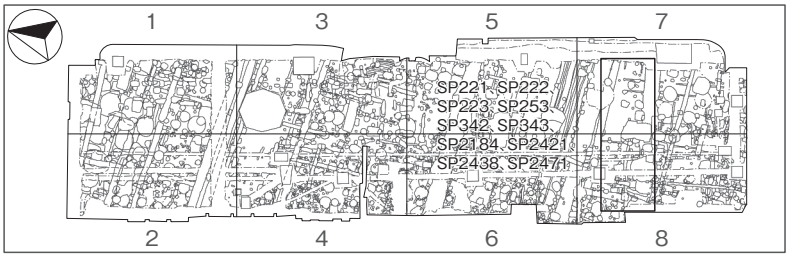
216
1 暗黄褐色土（暗褐色土主体、ロームB・焼土・炭多含、しまりなし）
2 暗褐色土 （暗褐色ロームB多含）

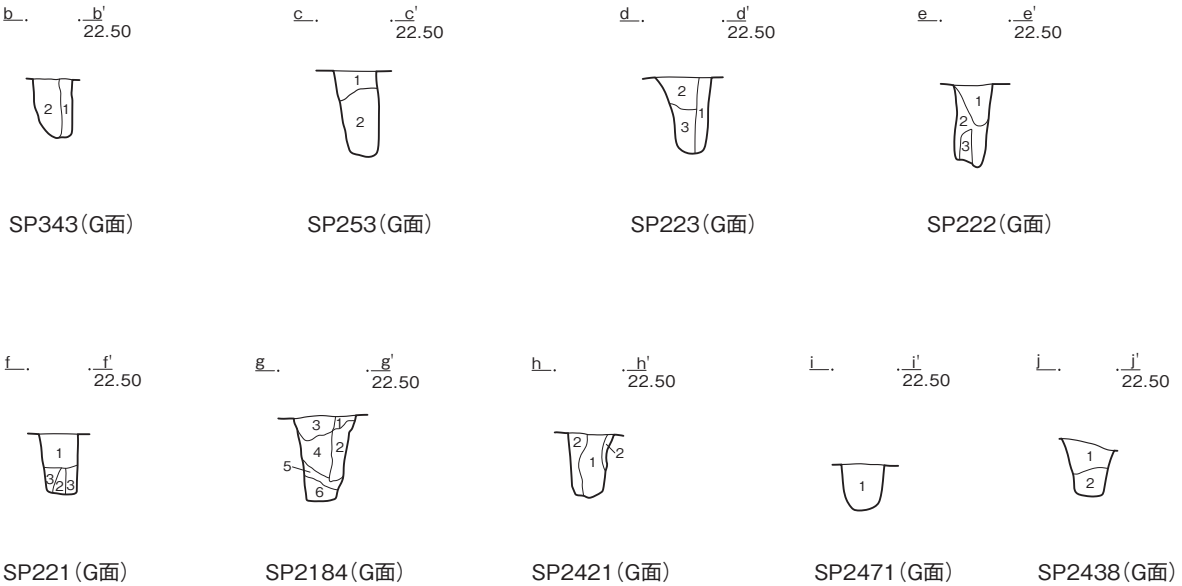
SK216（C面）

0 (S=1/60) 2m

Ⅲ-22図 SX211、SK212、SK213、SK216

Ⅲ-23図　SP221、SP222、SP223、SP253、SP342、SP343、SP2184、SP2421、SP2438、SP2471（1）





343
1 茶褐色土（柱痕、ローム粒少含、しまり弱）
2 褐色土　（ほぼロームで構成される）

253
1 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、しまり強）
2 暗茶褐色土（ローム粒極少含、しまり強）

223
1 暗茶褐色土（柱痕、粘性なし、しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒含、黒色土極少含、粘性なし）
3 暗黄褐色土（ローム粒含、粘性なし、しまり弱）

222
1 暗茶褐色土（ロームB・黒色土B少含、粘性なし）
2 暗黄褐色土（ロームB多含、黒色土粒極少含、粘性なし、しまり弱）
3 暗茶褐色土（柱痕、粘性なし、しまり弱）

221
1 暗黄褐色土（ロームB多含、黒色土極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（柱痕、粘性なし、しまり弱）
3 暗黄褐色土（ロームB・黒色土B少含、粘性なし）

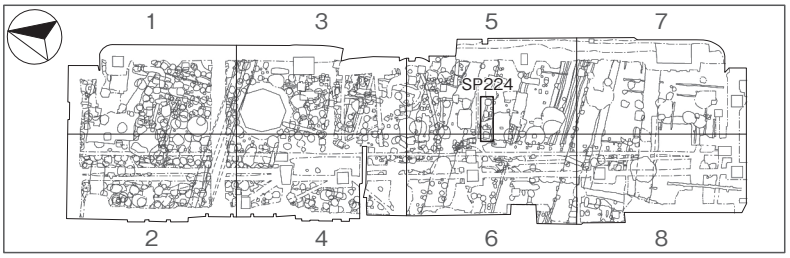
2184
1 褐色土　（ローム粒多含、しまり強）
2 茶褐色土（ローム粒少含、しまり強）
3 褐色土　（ローム粒含、しまり極強）
4 暗褐色土（ローム粒少含、しまり強）
5 黄褐色土（ほぼロームで構成される、しまり強）
6 黒褐色土（ローム粒少含）

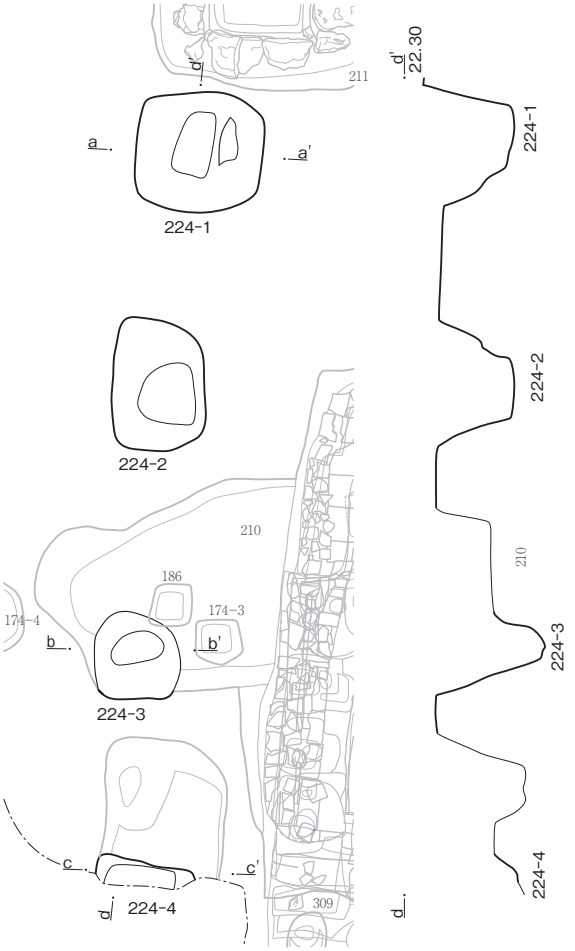
2421
1 暗褐色土（ローム粒少含）
2 暗褐色土（ローム粒・焼土粒少含、粘性・しまり強）

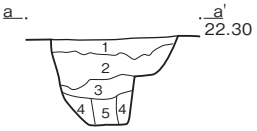
2471
1 黒褐色土（ローム粒含、粘性弱、しまり強）

2438
1 黒褐色土（ローム粒含、粘性なし）
2 褐色土　（ローム多含、粘性弱）

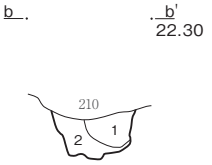
Ⅲ-24図　SP221、SP222、SP223、SP253、SP342、SP343、SP2184、SP2421、SP2438、SP2471（2）



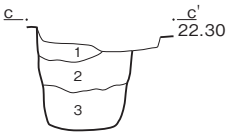




224-1
1 灰褐色土　（灰色シルトB多含、ローム粒少含、焼土・炭化材極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒・焼土少含、炭化材極少含、粘性なし、しまり弱）
3 灰褐色土　（灰色シルトB・ロームB少含、焼土極少含、粘性なし、しまり弱）
4 灰茶褐色土（灰色シルト少含、焼土・炭化材極少含、粘性なし、しまり弱）
5 黒褐色土　（灰色シルトB・炭化材極少含、粘性なし、しまり弱）



224-3
1 暗褐色土　（ローム粒・炭・焼土含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（暗褐色土、ロームB極多含）

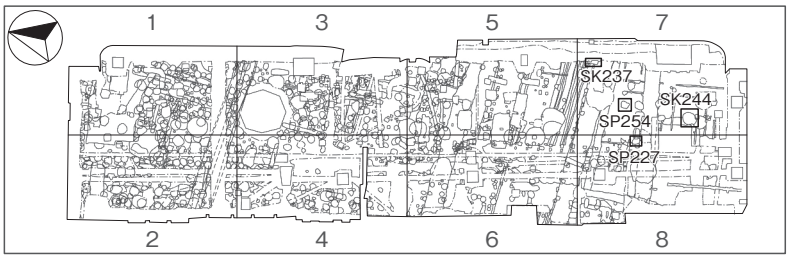


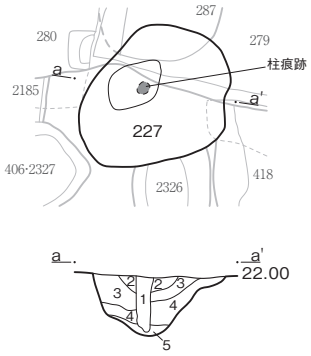
224-4
1 暗褐色土（灰色粘質土含、粘性・しまり弱）
2 灰褐色土（灰色粘質土多含、灰を含む砂質土・焼土少含、粘性なし、しまり強）
3 暗褐色土（ロームB・灰を含む黒い砂質土多含）

SP224（C面）

0　（S=1/60）　2m

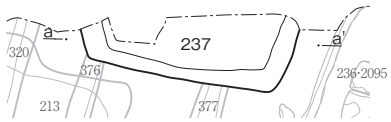
Ⅲ-25図　SP224

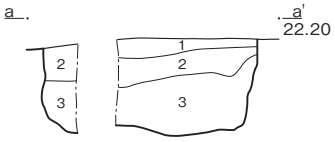




227
1 暗茶褐色土（柱痕、粘性・しまりなし）
2 暗褐色土　（ローム粒極少含）
3 褐色土　（ローム粒含、しまり強）
4 暗灰褐色土（灰褐色粘土多含）
5 黄褐色土　（ほぼロームで構成）

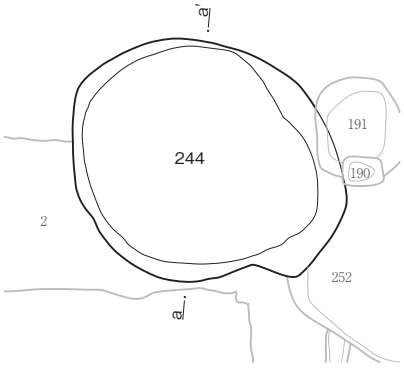
SP227（C面）





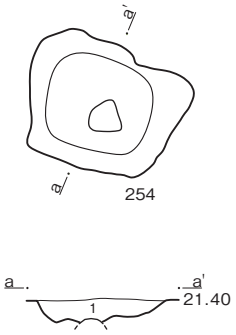
237
1 褐色土　（焼土粒・ローム粒含）
2 暗褐色土　（円礫・小円礫含、ローム粒極少含）
3 暗灰褐色土（灰褐色粘土多含、円礫・小円礫含）

SK237（D面）



244
1 暗灰褐色土（灰褐色粘土多含、ローム粒含、しまり強）
2 暗褐色土　（ローム粒少含、小円礫極少含、しまり弱）
2' 暗褐色土　（しまり強）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB含）

SK244（C面）

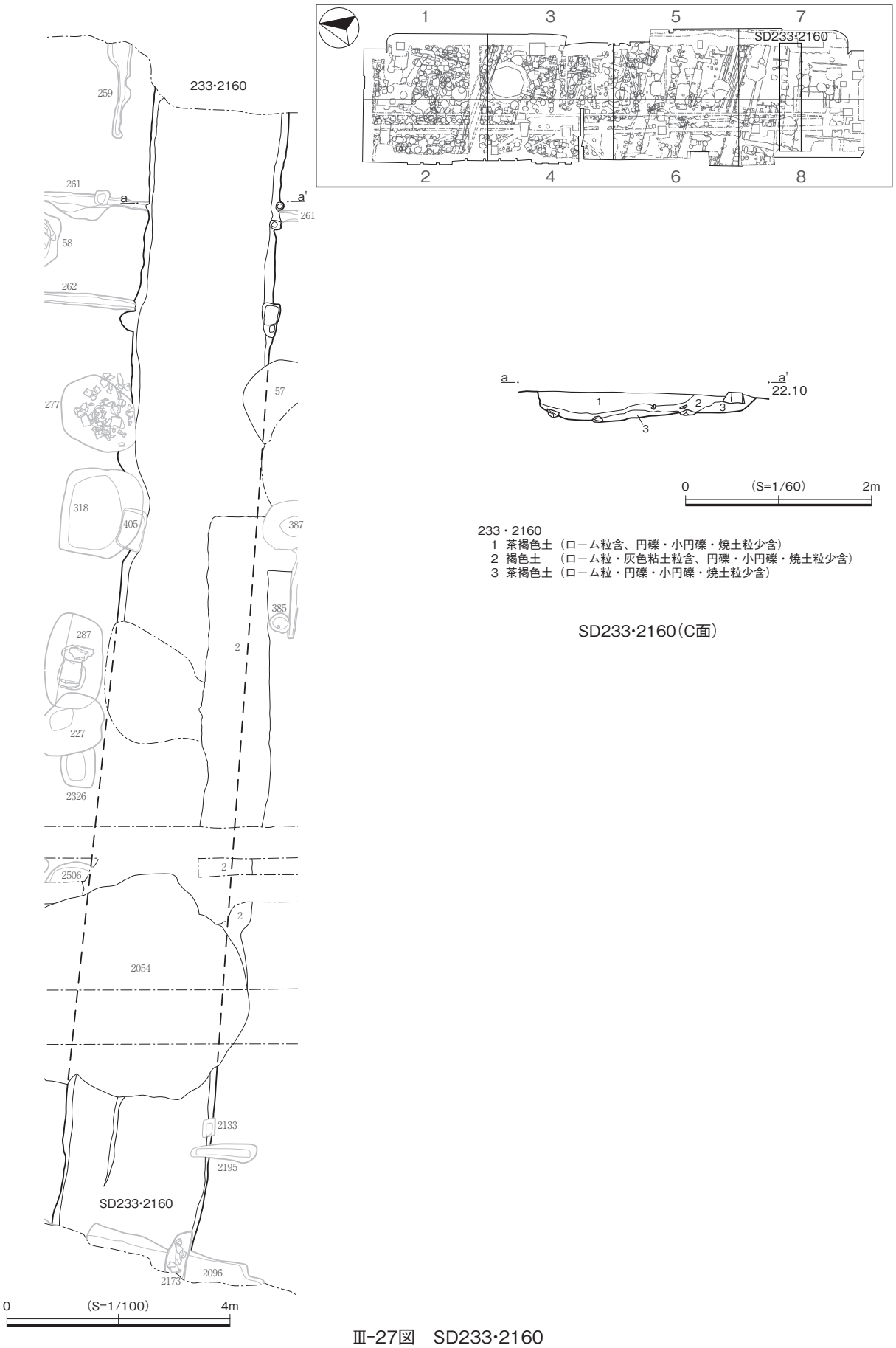


254
1 暗褐色土（ローム粒・焼土粒・角礫少含、粘性弱、しまり極強）

SP254（C面）

0　（S=1/60）　2m

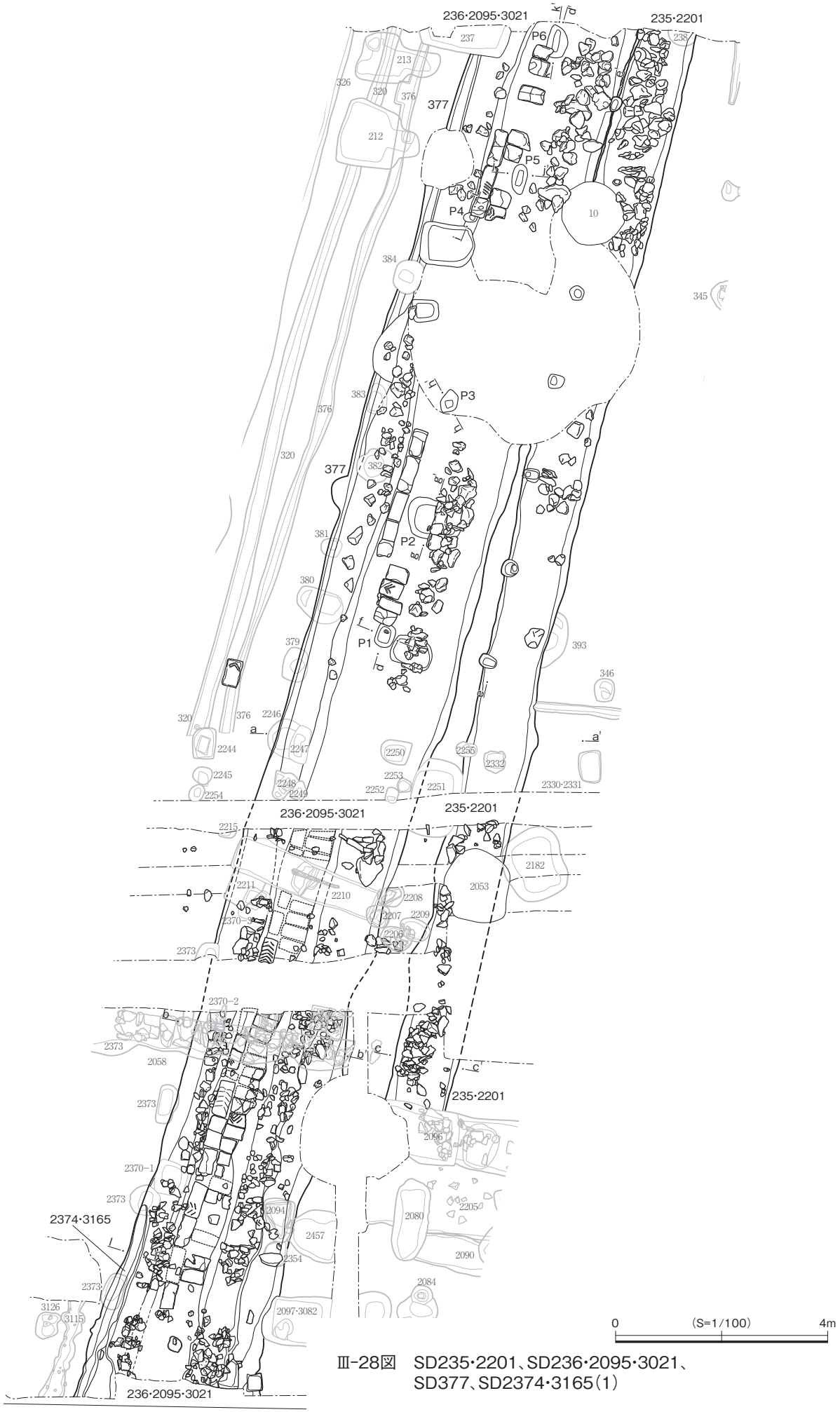
Ⅲ-26図　SP227、SK237、SK244、SP254



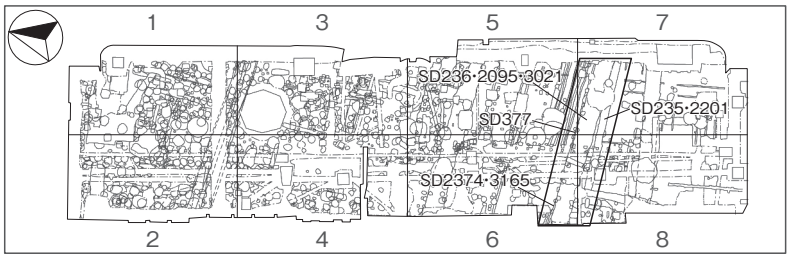
233・2160
1 茶褐色土（ローム粒含、円礫・小円礫・焼土粒少含）
2 褐色土　（ローム粒・灰色粘土粒含、円礫・小円礫・焼土粒少含）
3 茶褐色土（ローム粒・円礫・小円礫・焼土粒少含）

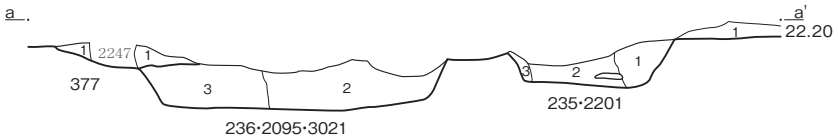
SD233·2160（C面）

Ⅲ-27図　SD233·2160



Ⅲ-28図　SD235·2201、SD236·2095·3021、
SD377、SD2374·3165(1)



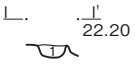


377
1 暗褐色土　（ローム粒少含）

236・2095・3021
2 暗茶褐色土（砂利・ローム粒含）
3 暗茶褐色土（ロームB少含）

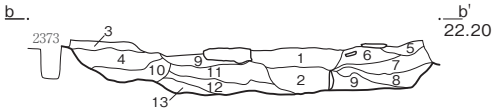
235・2201
1 暗茶褐色土（ローム粒少含、焼土極少含）
2 暗灰褐色土
3 暗茶褐色土（砂利含）

SD235･2201、SD236･2095･3021、SD377



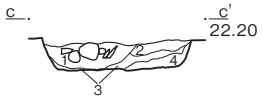
2374・3165
1 暗褐色土（ローム粒・ロームB少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）

SD2374･3165



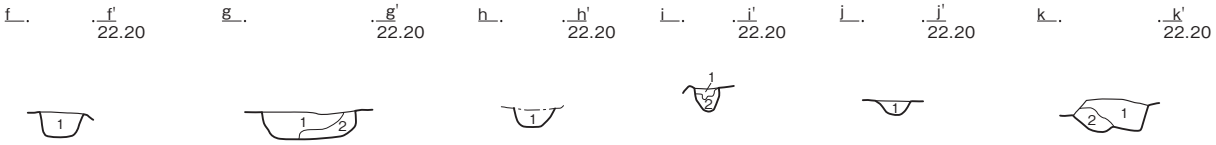
236・2095・3021
1 赤褐色土　（焼土粒・焼土B多含、炭化物粒少含、礫極少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土　（焼土粒・焼土B・割石少含、ローム粒極少含、しまりなし）
3 暗褐色土　（大礫多含、ローム粒少含、焼土粒・炭化物粒極少含、しまり極強）
4 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・黒色土粒極少含、粘性・しまり強）
5 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまり強）
6 暗褐色土　（礫・割石多含、ローム粒少含、しまりなし）
7 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり強）
8 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり強）
9 暗褐色土　（大礫極多含、黒色土粒極少含、しまりなし）
10 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B多含、粘性強）
11 暗褐色土　（ローム粒・ロームB・炭化物粒極少含）
12 暗褐色土　（ローム粒・炭化物粒極少含、粘性・しまり強）
13 暗褐色土　（ローム粒極少含）

SD236･2095･3021

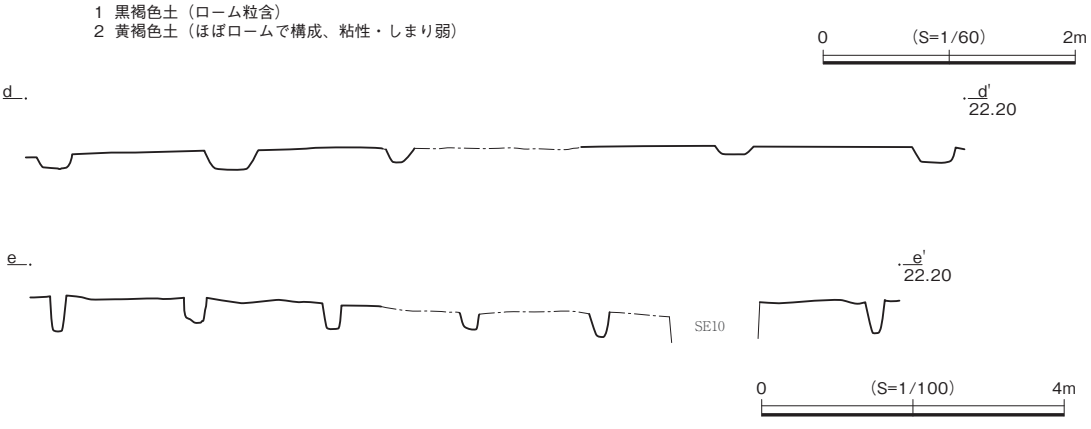


SD235・2201
1 暗褐色土　（砂利・破砕礫多含、ローム粒少含）
2 褐色土　　（ローム粒含、しまり強 ）
3 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含）
4 褐色土　　（ローム粒含、砂利少含）

SD235･2201

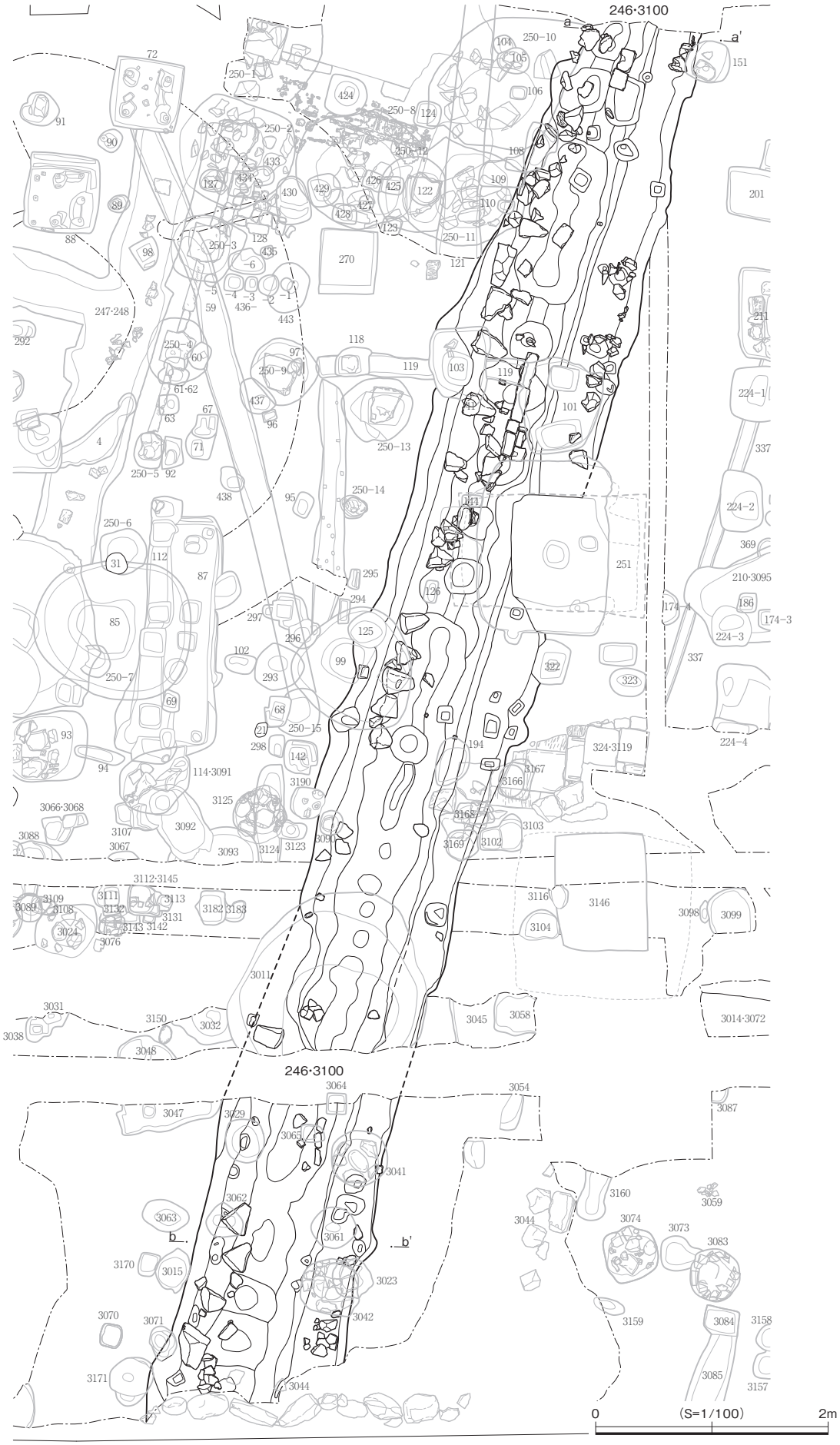


236・2095・3021-P1～6
1 黒褐色土（ローム粒含）
2 黄褐色土（ほぼロームで構成、粘性・しまり弱）

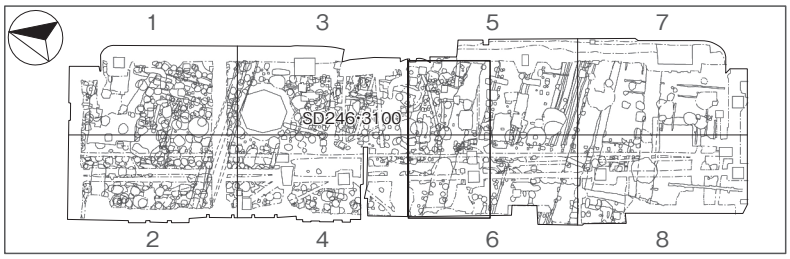


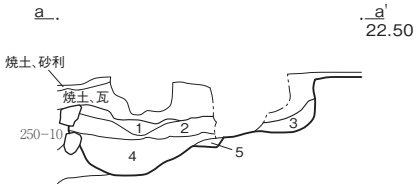
SD235･2201、SD236･2095･3021、SD377、SD2374･3165(D面)

Ⅲ-29図　SD235･2201、SD236･2095･3021、SD377、SD2374･3165(2)

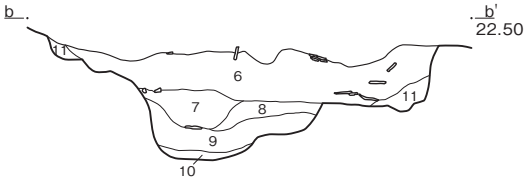


Ⅲ-30図　SD246·3100(1)





246・3100
1 暗黄茶褐色土（焼土・暗褐色土の混土、瓦礫極多含、ローム土多含）
2 暗黄褐色土　（ローム土主体、炭・礫・暗褐色土極多含）
3 黄褐色土　　（ローム土、破砕礫含、焼土極少含）
4 暗褐色砂利　（暗褐色ローム土、礫極多含、粘性・しまり強）
5 暗褐色土　　（ローム土主体、暗褐色土少含、粘性・しまり強）

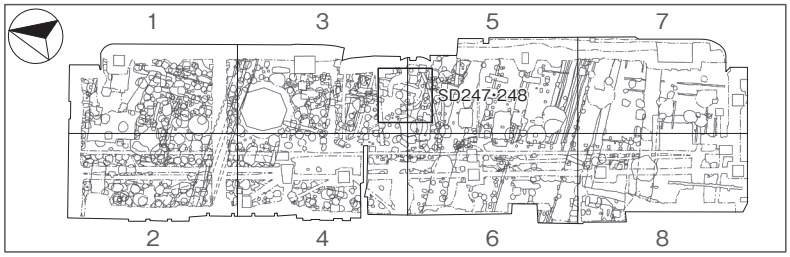


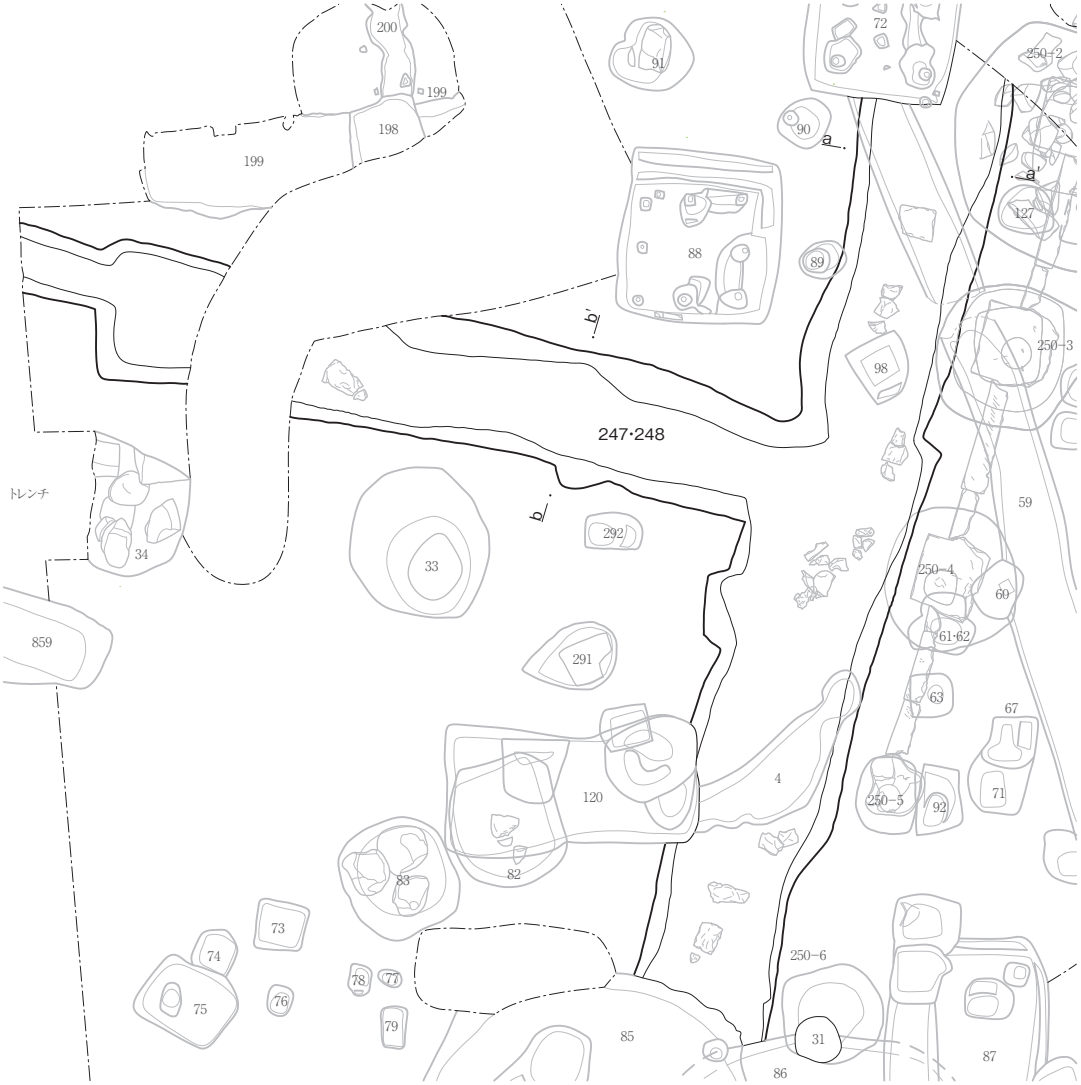
246・3100
6 橙褐色土　（焼土粒・焼土B極多含、破砕焼瓦・炭化物多含、粘性なし、しまり弱）
7 茶褐色土　（円礫多含、粘性弱、しまり強）
8 茶褐色土　（ローム粒多含）
9 暗茶褐色土（円礫多含、粘性弱、しまり強）
10 褐色土　　（ローム粒多含、円礫含、しまり強）
11 茶褐色土　（ロームで構成、しまり強)

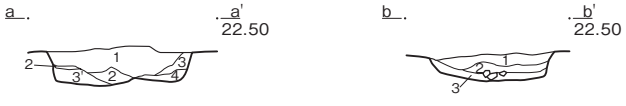
SD246･3100（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-31図　SD246･3100（2）





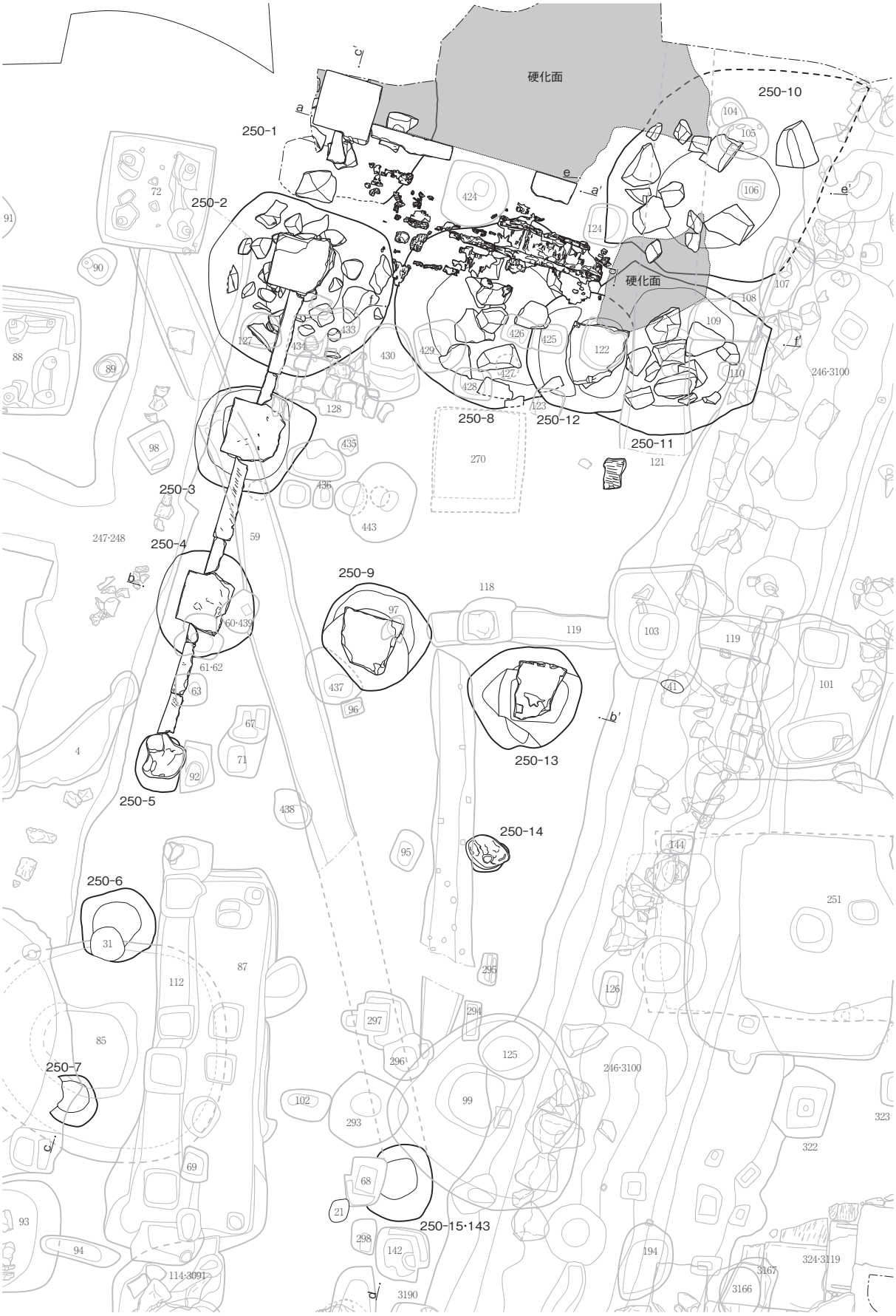


247・248
1　黄褐色土　（C～D間盛土落ち込み）
2　暗茶褐色土（焼土・砂利多含）
3　暗灰褐色土（砂利多含-D面からの流込、粘性・しまりなし）
3'　暗灰褐色土（砂利多含-D面からの流込、しまりなし）
4　暗褐色土　（暗褐色土・ローム土・灰白色砂質土の混層、砂利多含、粘性なし）

SD247·248（D面）

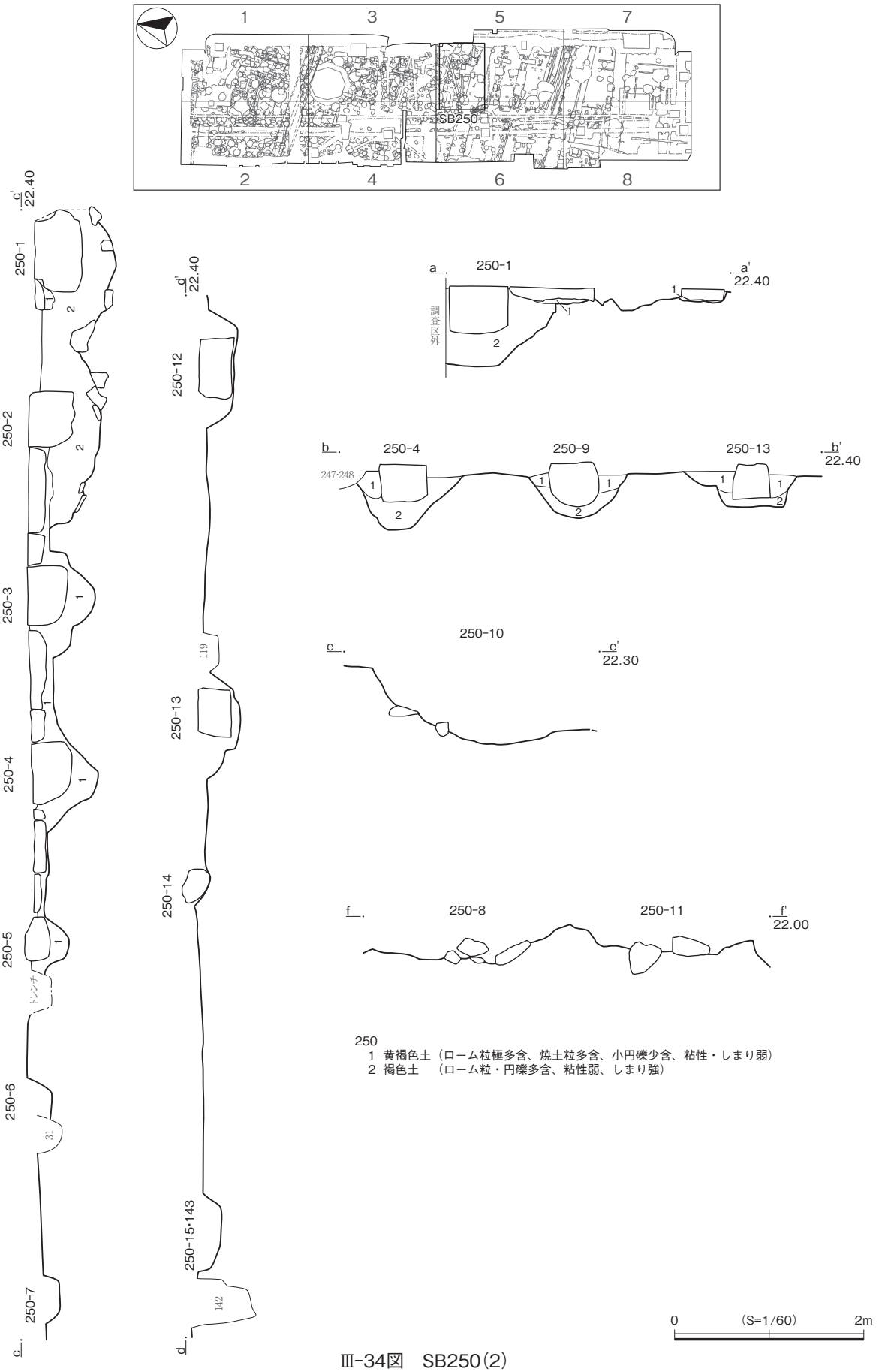
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-32図　SD247·248

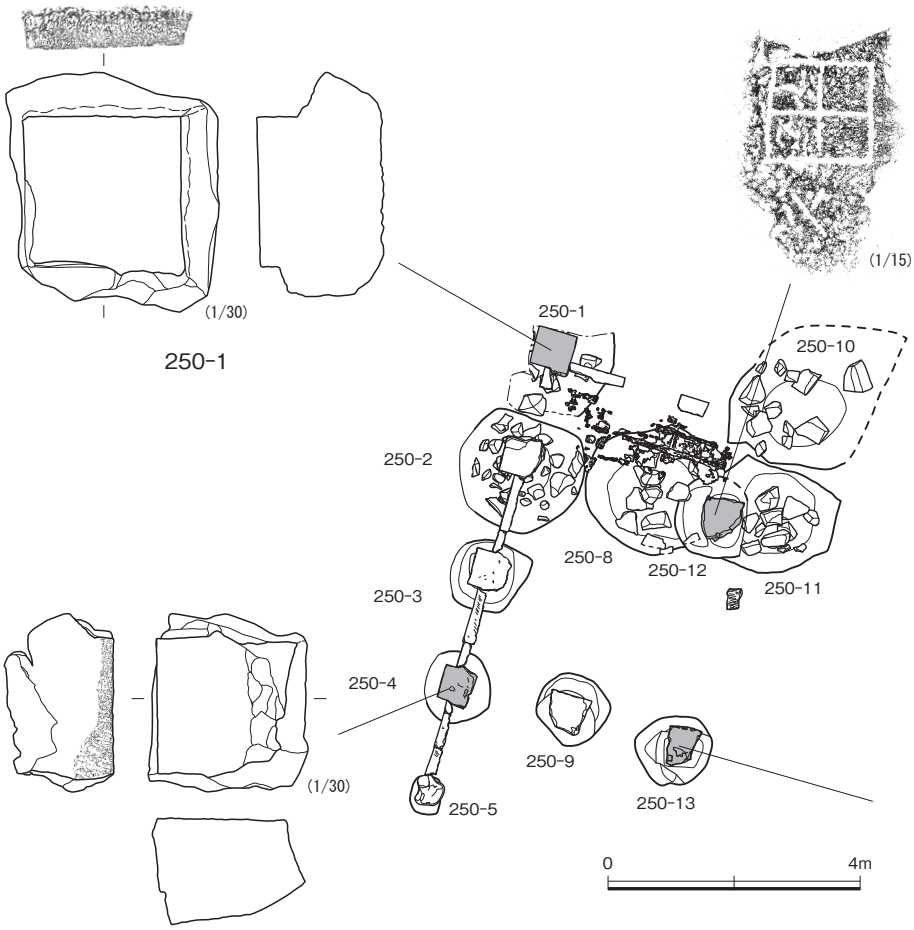


SB250（D面）

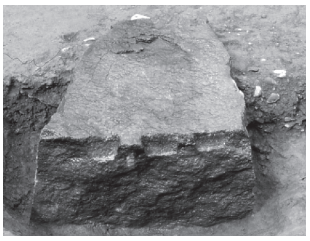
Ⅲ-33図　SB250（1）


1
3
5
7
SB250
2
4
6
8
c'
22.40
250-1
250-2
250-3
250-4
250-5
トレンチ
250-6
31
250-7
c
d'
22.40
250-12
119
250-13
250-14
250-15・143
142
d
a
250-1
a'
22.40
調査区外
b
250-4
250-9
250-13
b'
22.40
247・248
e
250-10
e'
22.30
f
250-8
250-11
f'
22.00
250
1 黄褐色土（ローム粒極多含、焼土粒多含、小円礫少含、粘性・しまり弱）
2 褐色土 （ローム粒・円礫多含、粘性弱、しまり強）
0 (S=1/60) 2m

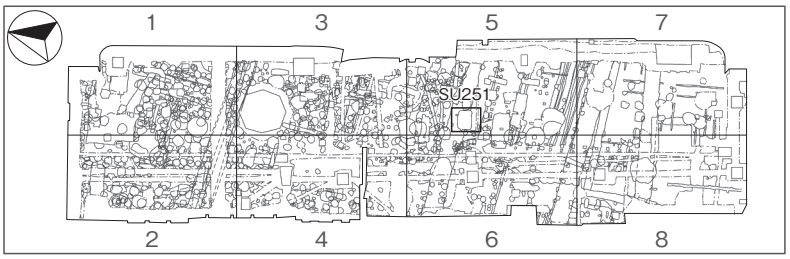
Ⅲ-34図 SB250(2)

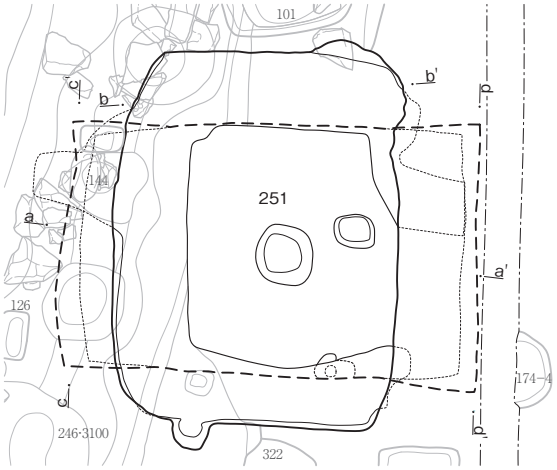


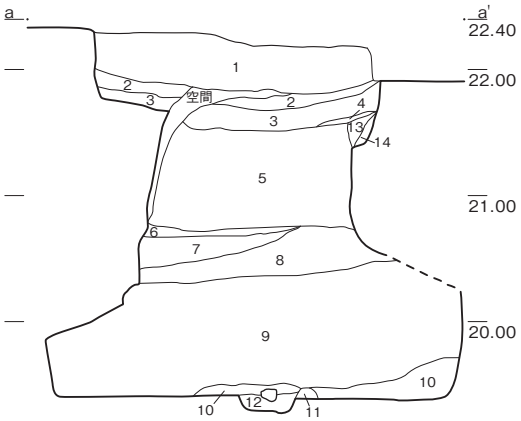
250-12　裏面刻印

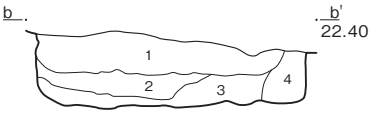

250-13　矢穴

Ⅲ-35図　SB250(3)

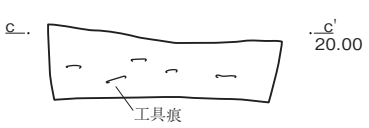


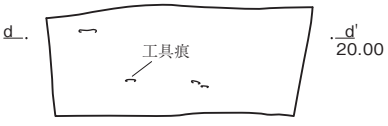






251
1 黄褐色土　（ほぼハードローム土層、部分的に暗褐色土・礫が斑状に入る）
2 暗茶褐色土　（暗褐色土、砂利・焼土B・炭・ロームB極多含）
3 暗黄褐色土　（ローム粒・暗褐色土主体、焼土・砂利・ロームB極多含）
4 黄褐色土　（ローム粒主体、しまりなし）
4' 暗褐色土　（暗褐色土とローム粒の混合土、井桁部分か？、焼土・砂利極少含、しまり弱）
5 暗褐色土　（ハードロームB・ローム粒主体、空隙が多い、焼土・暗褐色土少含、しまりなし）
6 黄褐色土　（暗褐色土・ローム粒主体、焼土・礫多含、粘性・しまりなし）
7 黄褐色土　（3層とほぼ同じ、しまりなし）
8 暗褐色土　（ローム土・黒色土B主体、礫多含、焼土少含、粘性・しまりなし）
9 暗黄褐色土　（暗褐色土、ロームB・焼土・炭極多含、粘性・しまりなし）
10 暗灰黄褐色土　（粘性のある暗褐色土主体、ロームB含、焼土・砂利極少含）
11 暗黄褐色土　（ロームBと暗褐色土が斑状を成す、焼土極少含、しまり強）
12 暗褐色土　（暗褐色土主体、ローム粒・焼土極少含、粘性・しまりなし）
13 黄褐色土　（ハードロームB主体）
14 暗茶褐色土　（暗褐色土、焼土多含）

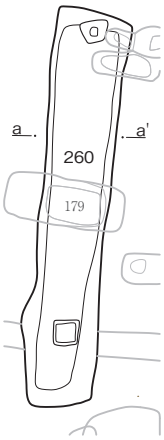


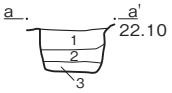


SU251（C面）

0　（S=1/60）　2m

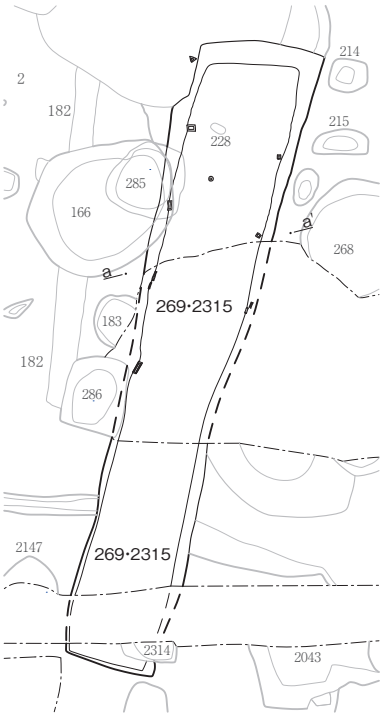
Ⅲ-36図　SU251





260
1 橙褐色土（ほぼ焼土で構成される、粘性・しまりなし）
2 暗褐色土（焼土粒多含、ローム粒少含、しまり弱）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成される）

SD260（G面）



269・2315
1 黒褐色土（ローム・黒色土含、炭少含、粘性なし、しまり弱）
2 黒褐色土（ローム極少含、粘性なし）
3 灰褐色土（粘土状の層、ローム少含）
4 黄褐色土（明るい、ロームB多含、一部黒色土含、粘性弱）
5 黒褐色土（明るい、焼土含、ローム少含、粘性弱）
6 黒褐色土（暗い、混入物が少ない、粘性なし、しまり弱）
7 黒褐色土（小石極多含、粘土少含、粘性弱）
8 灰色粘土（1～2cmの堆積）

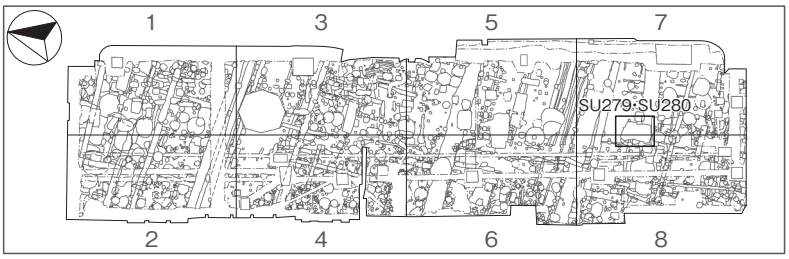
SD269･2315（G面）

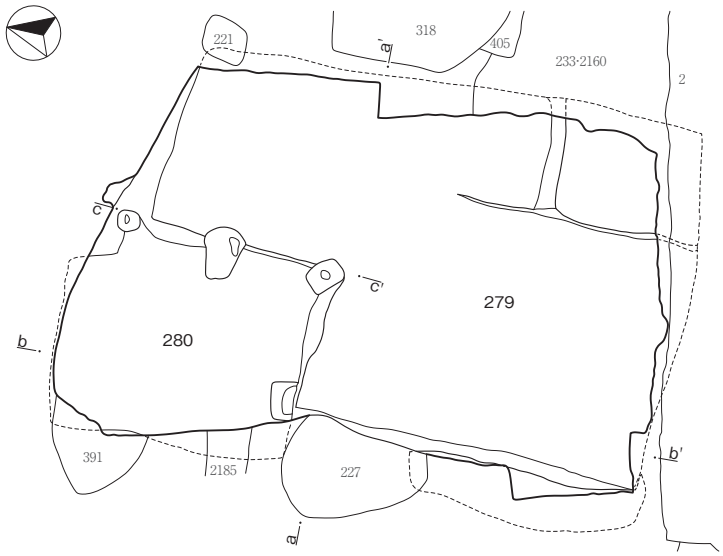
277
1 暗茶褐色土（ローム粒・瓦片・角礫少含、粘性弱、しまり極強）

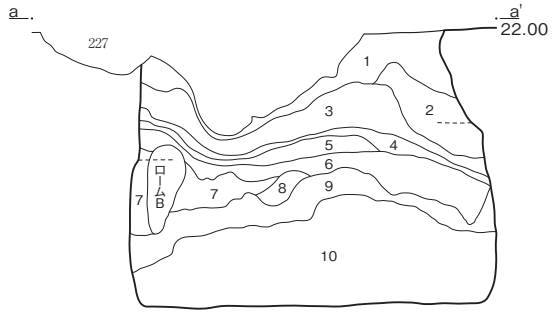
SP277（C面）

0　(S=1/60)　2m

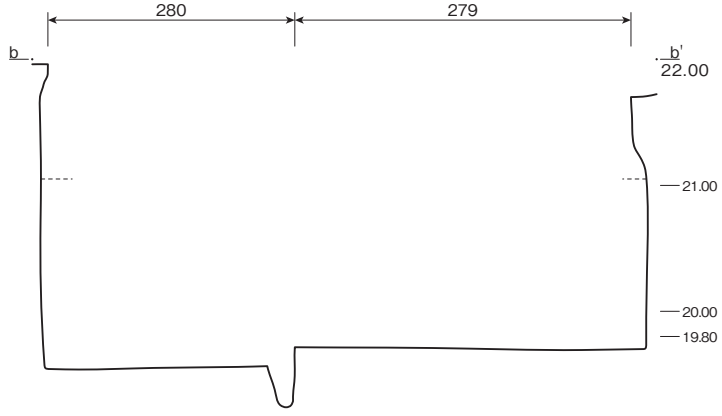
Ⅲ-37図　SD260、SD269･2315、SP277

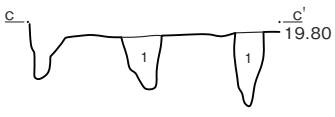






SU279
1 黄褐色土（ほぼロームで構成される、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、しまり強）
4 茶褐色土（ローム粒含、ロームB少含）
5 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、しまり強）
6 茶褐色土（ローム粒多含、小円礫少含）
7 黄褐色土（ほぼロームで構成される）
8 褐色土　（ローム粒・小円礫含）
9 茶褐色土（黒色土B含）
10 黄褐色土（ロームで構成される）



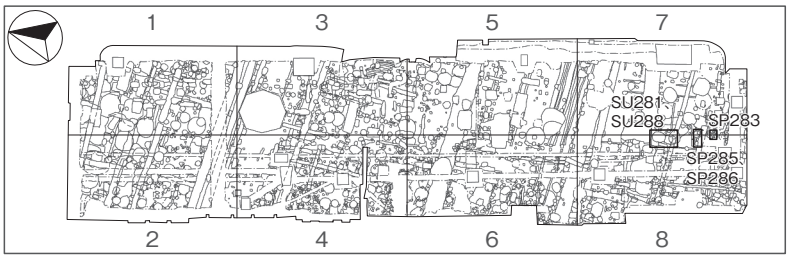


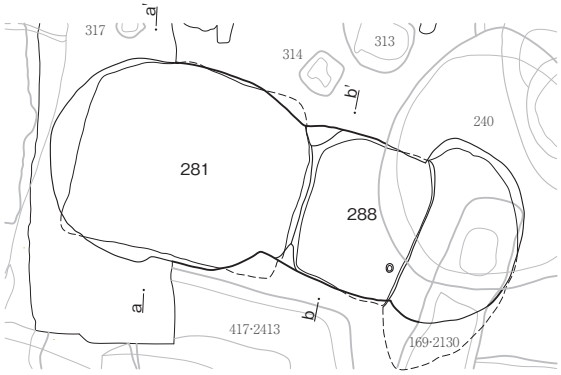
1 暗褐色土（ローム粒子少含）

SU279、SU280（G面）

Ⅲ-38図　SU279、SU280

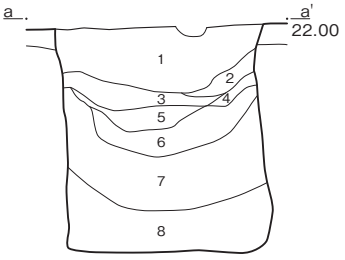
0　（S=1/60）　2m



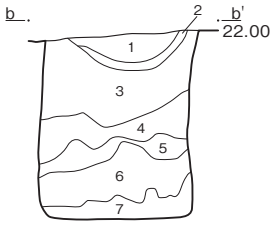


281
1 褐色土　（ローム粒含、ロームB・小円礫少含、しまり強）
2 暗灰褐色土（灰褐色粘土多含、ローム粒極少含、しまり弱）
3 茶褐色土　（ローム粒・ロームB含、炭化物極少含）
4 灰褐色粘土（炭化物少含、ローム粒極少含、粘性強、しまり弱）
5 暗茶褐色土（灰褐色粘土含、破砕瓦・ローム粒少含）
6 暗灰褐色土（ローム粒・焼土粒含）
7 暗褐色土　（灰褐色粘土多含、炭化物含）
8 褐色土　（ほぼロームで構成される）

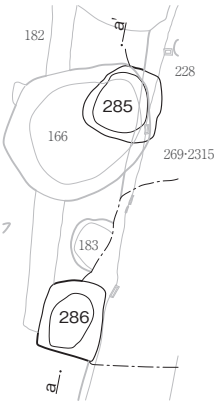
288
1 褐色土　（ローム粒・ロームＢ多含）
2 暗褐色土　（灰褐色粘土多含、ローム粒・炭化物含）
3 暗灰褐色土（灰褐色粘土極多含、ローム粒含、炭化物少含、粘性強）
4 褐色土　（黒色土・ローム粒多含）
5 褐色土　（4層より明るい、ローム粒・ロームＢ多含、粘性強）
6 褐色土　（4層より暗い、ローム粒・ロームＢ含、灰褐色粘土少含、炭化物極少含）
7 黄褐色土　（ほぼロームで構成される、しまり強）

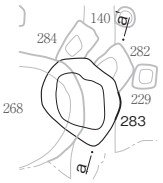


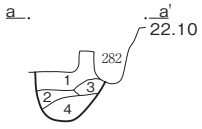
SU281（G面）



SU288（G面）

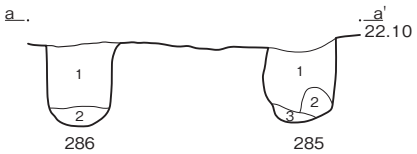






283
1 茶褐色（とてももろい、焼土・小石多含、粘性なし、しまり弱）
2 黒褐色（混入物・粘性なし、しまり弱）
3 黒褐色（砂状、混入物・粘性・しまりなし）
4 茶褐色（混入物・粘性なし、しまり弱）

SP283（G面）



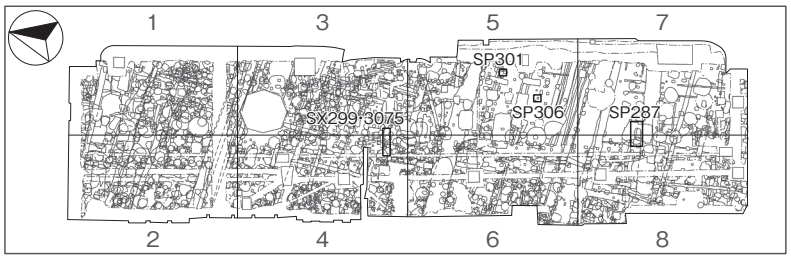
285
1 茶褐色　（ロームＢ・小石・焼土・黒色土多含、粘性弱）
2 黒褐色土（砂状でとてももろい、粘性・しまりなし）
3 黒褐色土（小石多含、焼土B・ロームB・粘土質B少含、粘性弱）

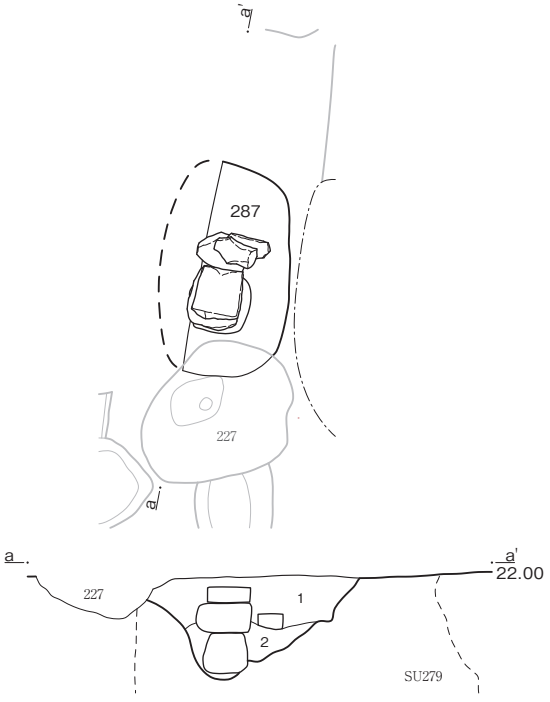
286
1 茶褐色　（ロームＢ・黒色土含、小石・焼土多含、斑状、粘性弱）
2 黒褐色　（とてももろい、小石多含、粘性・しまりなし）

SP285、SP286（G面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-39図　SU281、SP283、SP285、SP286、SU288

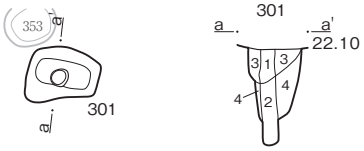




287
1 茶褐色土（ローム粒・小円礫・破砕瓦少含、しまり強）
2 茶褐色土（角礫多含、ローム粒・B含、しまり極強）

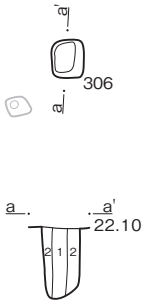
SP287（C面）

SX299·3075（C～D面）



301
1 暗茶褐色土（腐朽木質含む茶褐色土主体、砂・焼土含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（ロームと暗褐色土の混合土、しまりなし）
3 暗灰褐色土（暗褐色土、小砂利・ローム粒極多含、焼土極少含、粘性なし）
4 黄褐色　（ローム土主体、暗褐色土含）

SP301（E面）

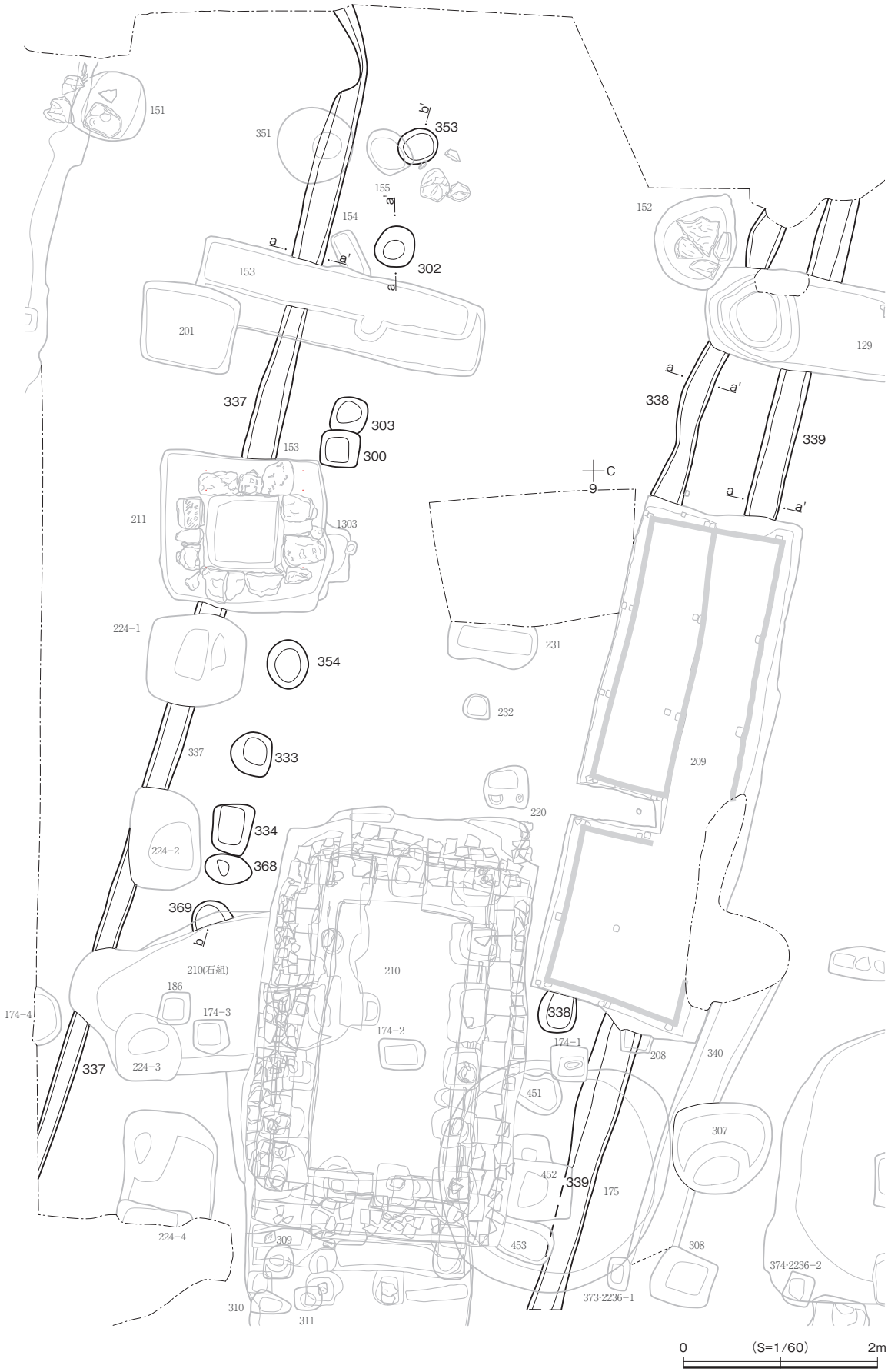


306
1 暗褐色土　（暗褐色土主体、ローム粒・焼土少含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（ローム粒・B主体、暗褐色土極少含）

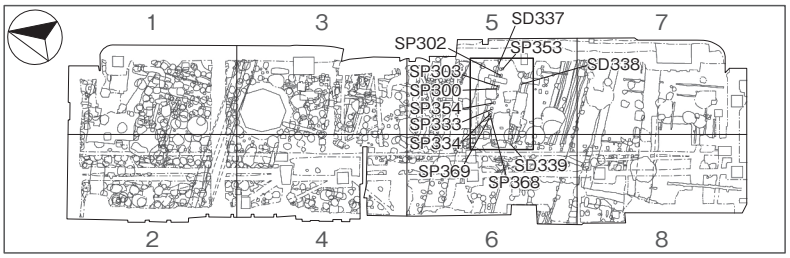
SP306（E面）

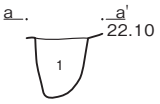
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-40図　SP287、SX299·3075、SP301、SP306



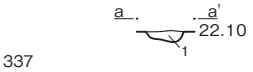
Ⅲ-41図　SP300、SP302、SP303、SP333、SP334、SD337、
SD338、SD339、SP353、SP354、SP368、SP369（1）





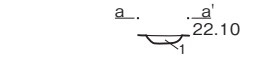
302
1 暗褐色土（暗褐色土主体、ローム粒・黒色土粒多含、粘性なし）

SP302（D面）



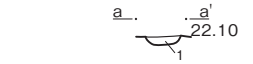
337
1 暗黄褐色土（ローム土主体、砂利・焼土多含）

SD337（D面）



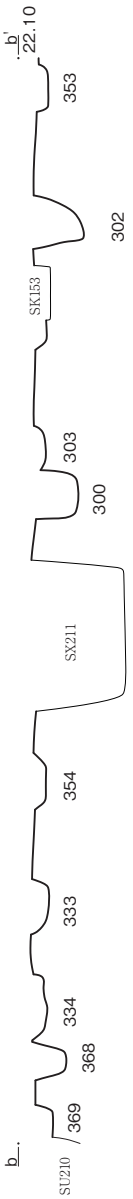
338
1 暗黄褐色土（ローム土主体、瓦・礫極多含）

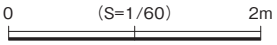
SD338（D面）



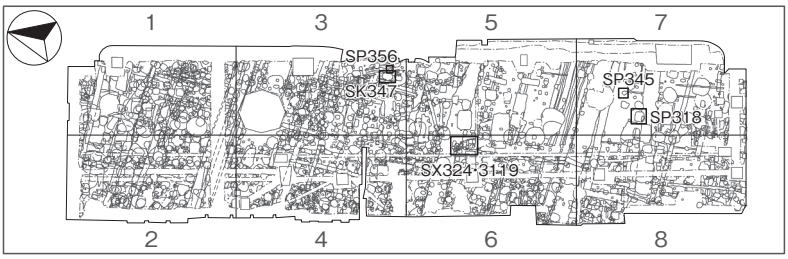
339
1 暗黄褐色土（ローム土主体、砂利多含）

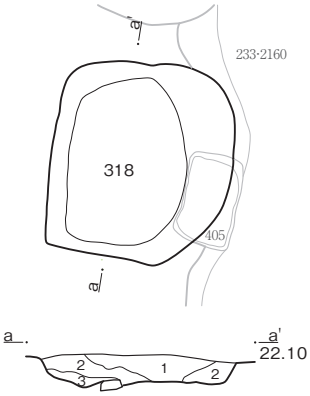
SD339（D面）





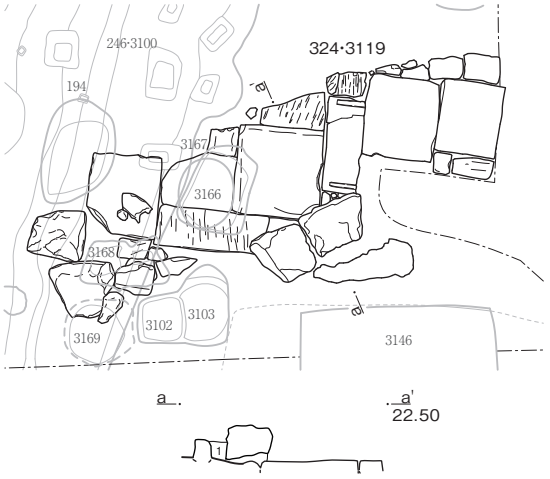
Ⅲ-42図　SP300、SP302、SP303、SP333、SP334、SD337、
SD338、SD339、SP353、SP354、SP368、SP369（2）





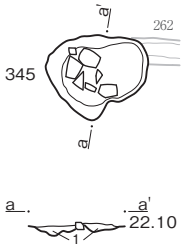
318
1 褐色土　（ローム粒多含、礫・小円礫含、破砕瓦少含、しまり極強）
2 褐色土　（1層より明るい、ローム粒多含、小礫少含、しまり極強）
3 茶褐色土（灰白色粘土とローム土が細かい縞状に堆積する、小礫少含、粘性強）

SP318（C面）



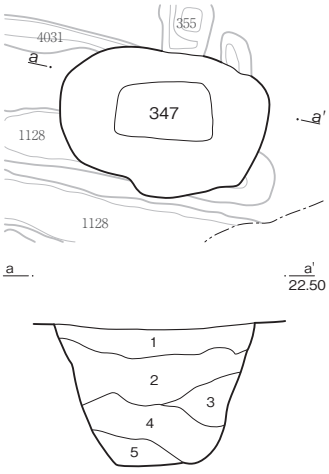
324・3119
1 茶褐色土(焼土粒多含、ローム粒少含)

SX324･3119（D面）



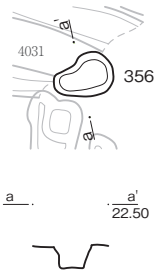
345
1 暗褐色土（角礫多含、ローム粒・焼土粒含、しまり極強）

SP345（C面）



347
1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（ローム粒極多含、ロームB多含、粘性・しまりなし）
3 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまりなし）
4 暗黄褐色土（暗褐色土とローム粒の混合土、ロームB多含、粘性・しまりなし）
5 暗褐色土　（ローム粒多含、粘性・しまりなし）

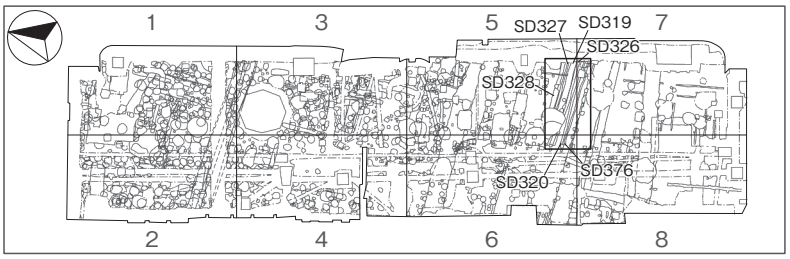
SK347（E面）

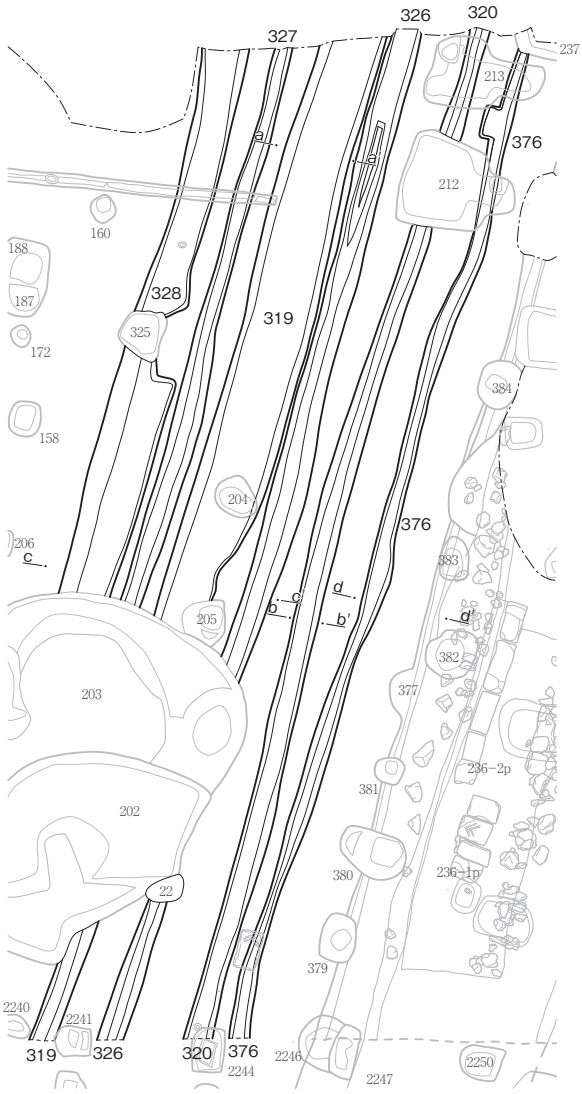


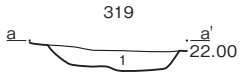
SP356（E面）

0　（S=1/60）　2m

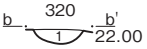
Ⅲ-43図　SP318、SX324･3119、SP345、SK347、SP356



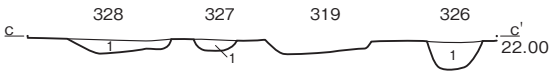




319
1 褐色土（ロームで構成される、小円礫含、しまり強）



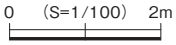
320
1 茶褐色土（ローム粒・小円礫含、粘性弱、しまり強）

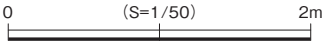


328
1 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫少含、粘性なし、しまり強）

326
1 明褐色土　（ほぼロームで構成される、小円礫少含、しまり強）

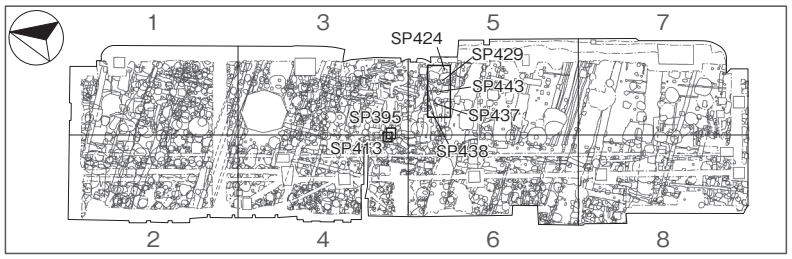
327
1 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫少含、粘性なし、しまり強）

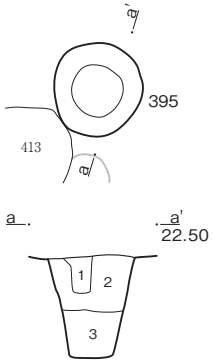




SD319、SD320、SD326、SD327、SD328、SD376（D面）

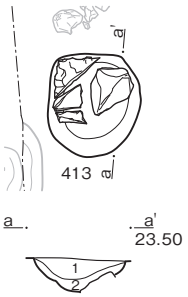
Ⅲ-44図　SD319、SD320、SD326、SD327、SD328、SD376





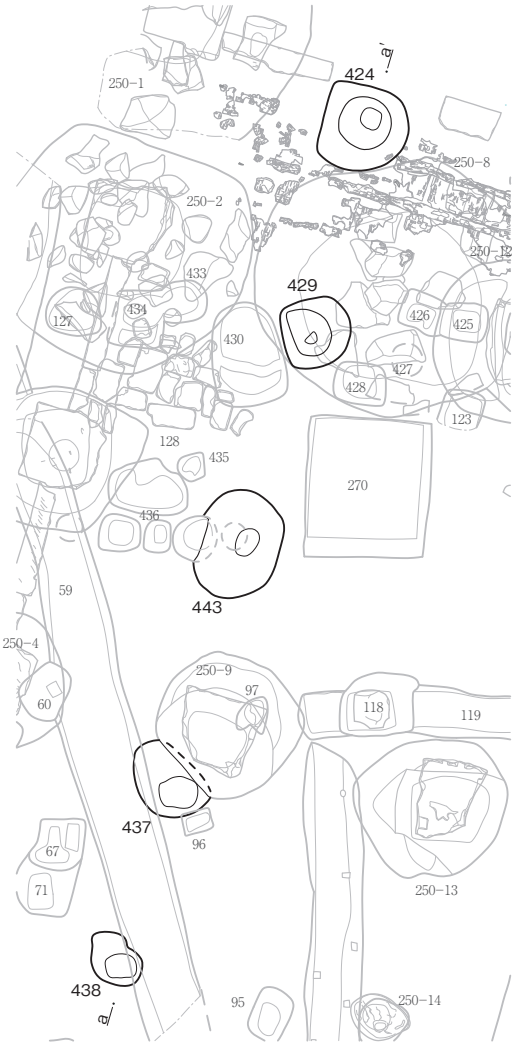
395
1 暗灰褐色土（暗褐色土、礫極多含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（暗褐色土、ローム多含、焼土少含）
3 暗褐色土　（暗褐色土主体、ローム粒極少含、粘性・しまりなし）

SP395（E面）



413
1 暗灰褐色土（暗褐色土、礫極多含、焼土極少含、しまり強）
2 暗褐色土　（黒褐色土中ロームを縞状に含む、しまり極強）

SP413（C面）



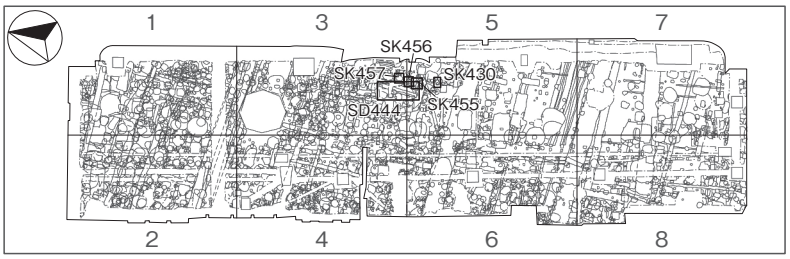
424、429、437、438、443
1　暗褐色土　　（焼土・瓦片・礫多含、粘性・しまりなし）
2　暗茶褐色土　（暗褐色土、焼土粒・炭・瓦礫極多含、粘性なし）
2'　暗灰茶褐色土（2層がやや灰色に変質し粘性がある、SK430の影響か）
3　暗褐色土　　（ローム粒多含、炭・焼土極少含、粘性なし）
3'　暗灰褐色土　（3層がやや灰色に変質し粘性がある、SK430の影響か）

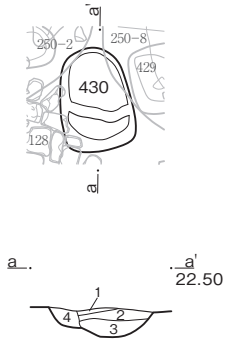
SP424、SP429、SP437、SP438、SP443（D面）

0　（S=1/60）　2m

0　（S=1/100）　4m

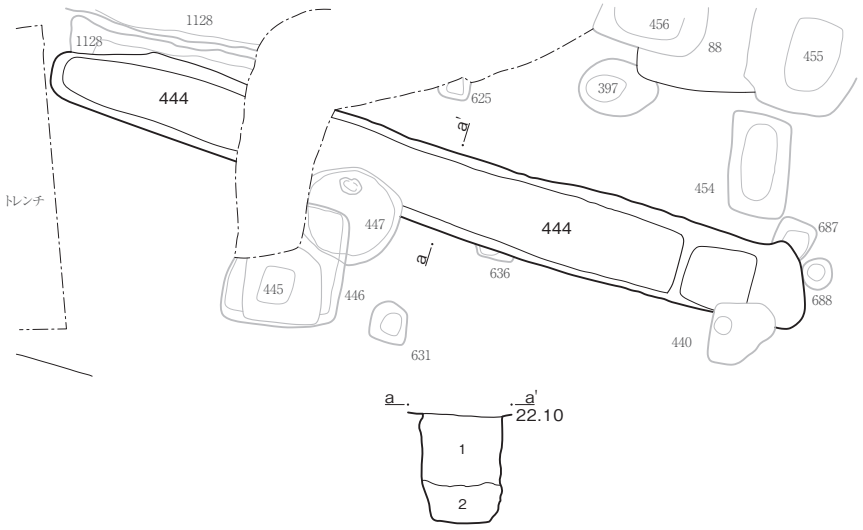
Ⅲ-45図　SP395、SP413、SP424、SP429、SP437、SP438、SP443





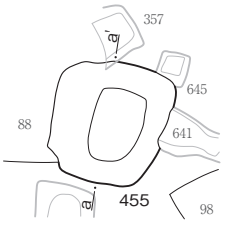
430
1 灰褐色土（シルト質土、水平縞状に堆積）
2 緑灰色土（シルト質土、水平縞状に堆積）
3 暗灰色土（シルト質土、水平縞状に堆積）
4 灰色土　（ややシルト質）

SK430（D面）

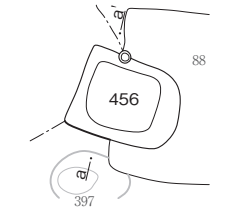


444
1 暗黄褐色土（ロームB多含、小砂利・黒色土含、粘性なし）
2 暗黄褐色土（ロームB主体、黒色土極少含、粘性なし、しまり弱）

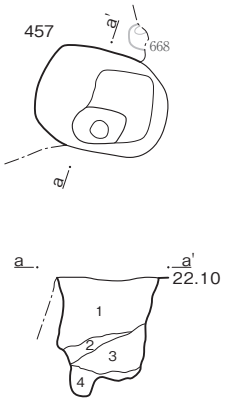
SD444（F面）



SK455（F面）



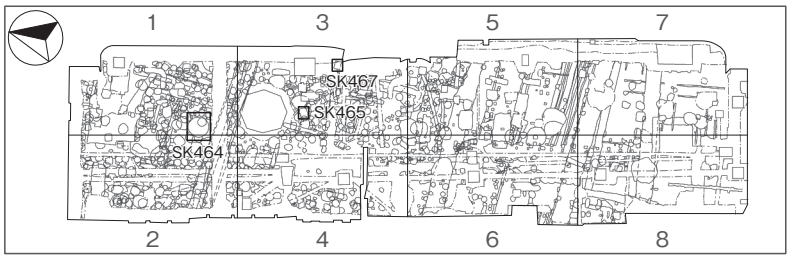
SK456（F面）

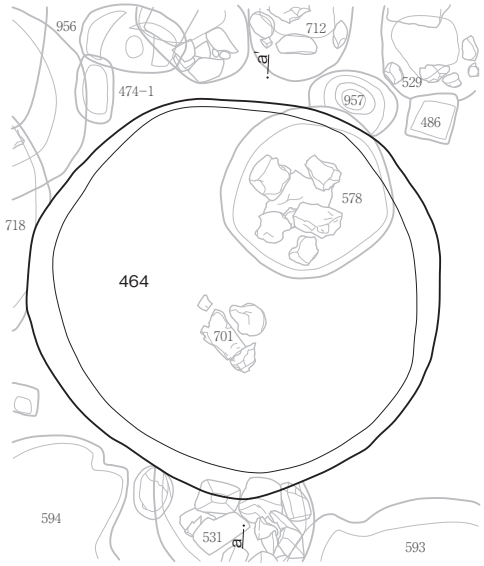


SK457（F面）

0　（S=1/60）　2m

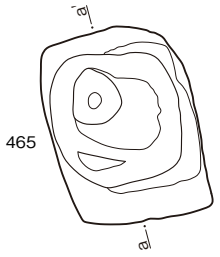
Ⅲ-46図　SK430、SD444、SK455、SK456、SK457

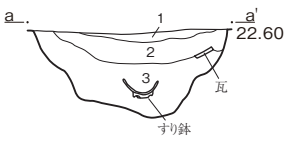




464
1 暗黄褐色土（ローム粒多含、黒色土含、焼土・炭化材極少含、粘性なし）
2 黒褐色土　（黒色土含、ローム粒極少含、粘性なし）
3 暗茶褐色土（円礫含、ローム粒・黒色土極少含、粘性なし）

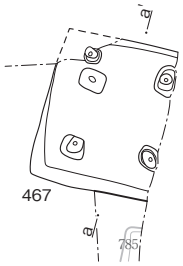
SK464（C面）

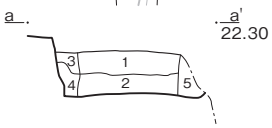




465
1 褐色土　（ローム粒多含）
2 暗褐色土（暗褐色砂極多含、小円礫・ローム粒極少含、粘性・しまりなし）
3 暗褐色土（2層より暗い、遺物・暗褐色灰多含、炭化物・小円礫含、ローム粒極少含、粘性・しまりなし）

SK465（A～B面）



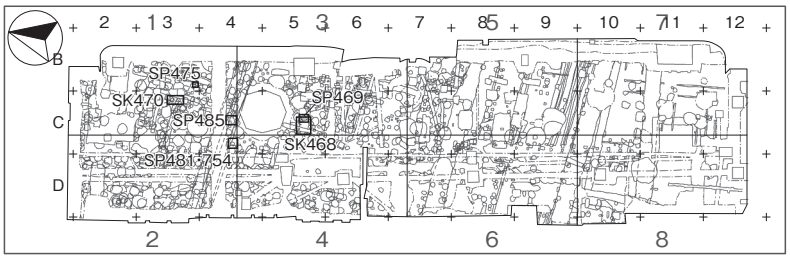


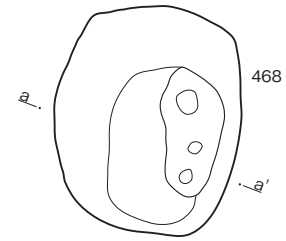
467
1 暗灰褐色土（暗灰褐色粘土極多含、ローム粒・炭化物極少含、粘性強）
2 暗褐色土　（暗灰褐色粘土多含、ローム粒・小円礫少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒・炭化物極少含、粘性強）
4 暗茶褐色土（ロームB含、焼土粒・ローム粒極少含、粘性強）
5 暗褐色土　（ローム粒・灰褐色粘土粒少含）

SK467（C面）

0　（S=1/60）　2m

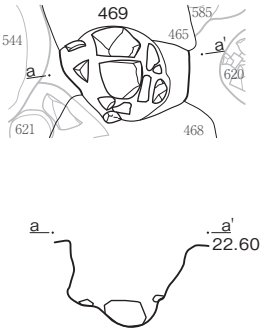
Ⅲ-47図　SK464、SK465、SK467





1 暗茶褐色土（ローム粒含、小円礫・炭化物極少含、粘性弱）
2 暗褐色土　（暗灰褐色砂多含、炭化物少含、粘性・しまり弱）
3 暗褐色土　（ローム粒・ロームB含、小円礫極少含）
4 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）
5 暗褐色土　（ローム粒・小円礫少含）

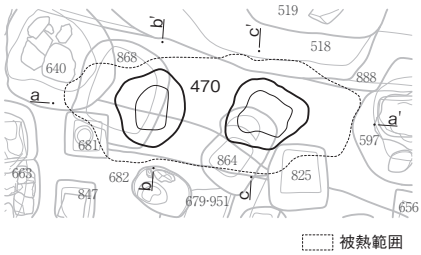
SK468（A～B面）



SP469（C面）

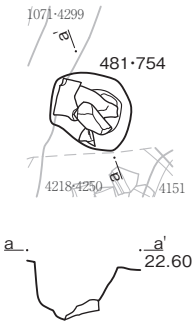
475
1 暗黄褐色土（ロームB含、焼土極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（瓦片含、灰色シルト粒・黒色土極少含、粘性なし）

SP475（C面）

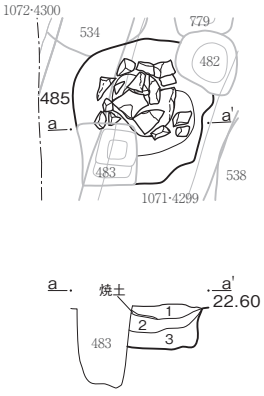


470
1 暗灰褐色土　（暗褐色土、シルト質の灰色土多含）
2 暗黄灰褐色土（暗褐色土、ローム粒極多含、シルト質の灰色土多含）
3 暗茶褐色土　（暗褐色土、シルト質の灰色土・礫・ローム多含、焼土少含）
4 暗黄褐色土　（ローム土主体、底面は被熱赤化する）

SK470（C面）



SP481·754（C面）

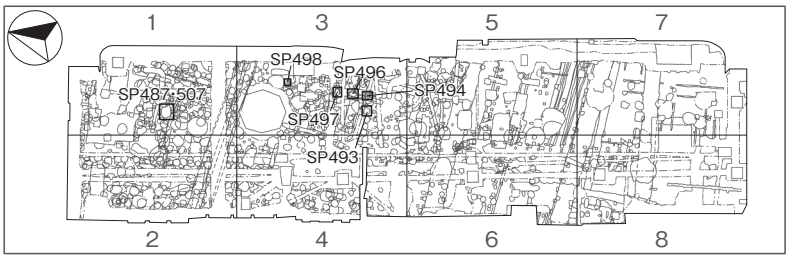


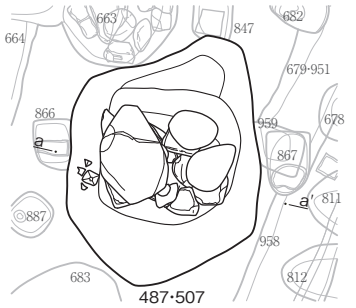
485
1 暗黄褐色土（ローム粒少含、粘性なし、しまり強）
2 暗茶褐色土（灰色シルト粒極少含、粘性なし、しまり強）
3 暗茶褐色土（角礫含、灰色シルト粒少含、ローム粒・焼土極少含、粘性なし）

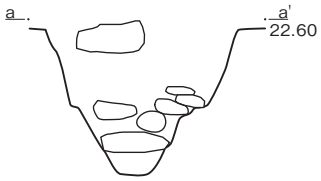
SP485（C面）

0　(S=1/60)　2m

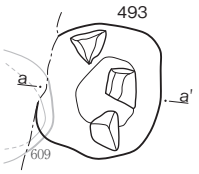
Ⅲ-48図　SK468、SP469、SK470、SP475、SP481・754、SP485

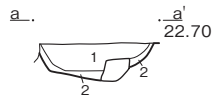






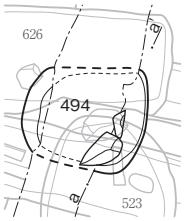
SP487･507（C面）

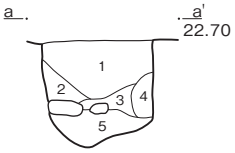




493
1 茶褐色土（円礫多含、ローム粒少含、粘性弱、しまり極強）
2 明褐色土（ロームB多含、焼土少含、粘性強、しまり強）

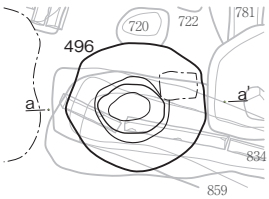
SP493（C面）

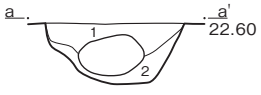




494
1 茶褐色土（円礫多含、ローム粒含、粘性弱、しまり極強）
2 茶褐色土（1層より明るい、円礫多含、灰色粘土含、粘性弱、しまり強）
3 茶褐色土（1層より暗い、角礫・灰色粘土含、ローム粒少含、しまり強）
4 褐色土　（円礫・ローム粒含）
5 暗褐色土（円礫・ローム粒含、しまり強）

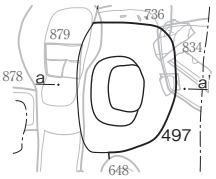
SP494（C面）





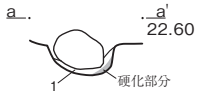
496
1 暗茶褐色土（円礫多含、焼土粒・ローム粒極少含、粘性なし、しまり極強）
2 茶褐色土　（円礫・焼土含、炭化物少含、しまり強）

SP496（C面）



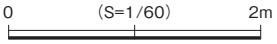
497
1 暗茶褐色土（円礫多含、焼土粒・ローム粒極少含、粘性なし、しまり極強）

SP497（C面）

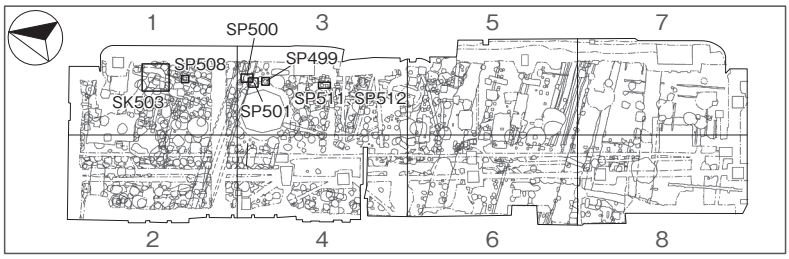


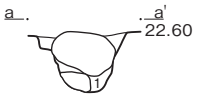
498
1 暗茶褐色土（砂利主体）

SP498（C面）



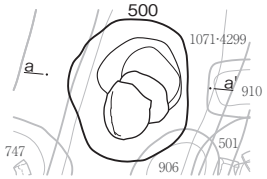
Ⅲ-49図　SP487･507、SP493、SP494、SP496、SP497、SP498

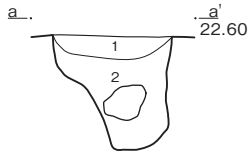




499
1 暗茶褐色土（円礫多含、焼土粒・ローム粒極少含、粘性なし、しまり極強）

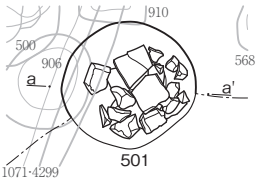
SP499（C面）

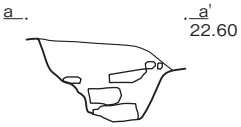




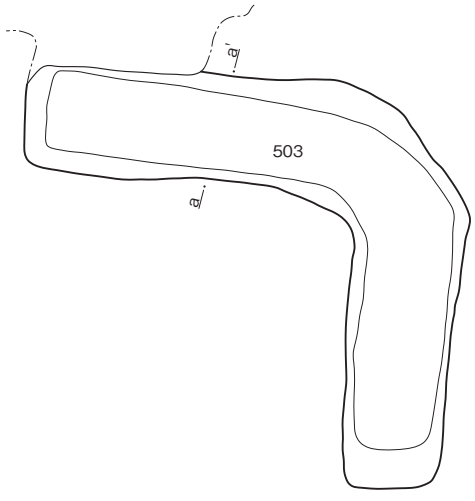
500
1 暗茶褐色土（円礫多含、焼土粒・ローム粒極少含、粘性なし、しまり極強）
2 暗褐色土　（ローム粒少含む）

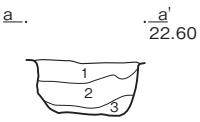
SP500（C～D面）





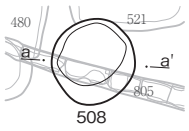
SP501（C～D面）





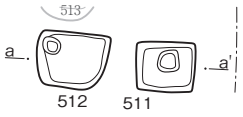
503
1 褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・礫少含、炭化物極少含、しまり強）
2 褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、しまり強）
3 暗褐色土（砂質強い、礫・瓦多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、しまり弱）

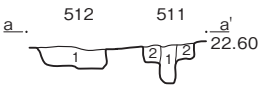
SK503（A～B面）



508
1 暗茶褐色土（玉砂利層）
2 暗茶褐色土（ローム粒・焼土少含、粘性なし）

SP508（C面）





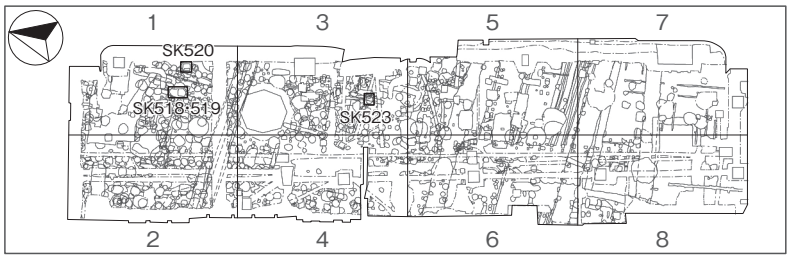
511
1 暗褐色土　（柱痕、しまり弱）
2 暗茶褐色土（礫少含）

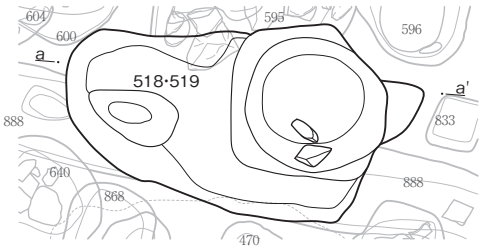
512
1 暗茶褐色土（瓦片含）

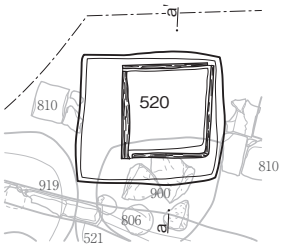
SP511、SP512（C面）

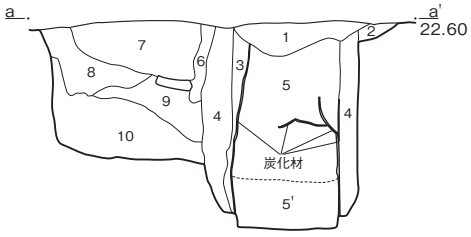
0　（S=1/60）　2m

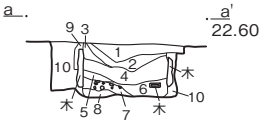
Ⅲ-50図　SP499、SP500、SP501、SK503、SP508、SP511、SP512





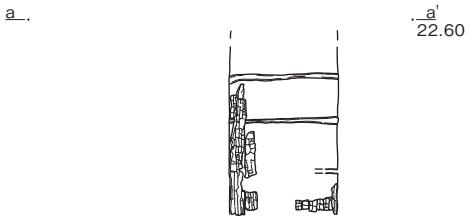






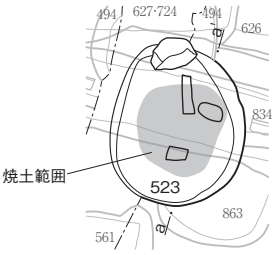
520
1 暗褐色土　（暗褐色土主体、ローム粒・焼土極少含、粘性・しまりなし）
2 暗黄茶褐色土（ロームBと暗褐色土が斑状を成す、焼土多含）
3 暗灰色土　（ロームBと暗褐色土が斑状を成す、砂利・焼土多含）
4 暗灰褐色土（極め細かいシルト質の暗灰褐色土主体、ローム・焼土粒少含）
5 灰褐色土　（4層に青灰色のシルト質土が縞状に入る）
6 青灰色土　（青灰色シルト質土主体、炭・砂利少含、粘性強）
7 暗灰色土　（青灰色シルト質土主体、礫極多含、炭・砂利少含）
8 灰褐色土　（極め細かいローム質のシルト質土、粘性・しまり強）
9 暗褐色土　（暗褐色土主体、腐朽木質含、粘性・しまりなし）
10 暗黄褐色土（ローム質土と暗褐色土の混合土、焼土・ロームB多含）

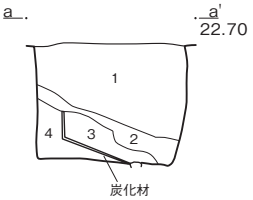
SK520（C面）



518・519
1　暗茶褐色土（暗褐色土、焼土・炭・砂利多含、粘性なし）
2　暗茶褐色土（やや粘質の暗灰褐色土、ローム粒・ロームB・礫・焼土多含）
3　暗灰色土　（粒状の灰色土主体、焼け壁土・焼け瓦多含、粘性・しまりなし）
4　暗灰褐色土（やや粘質の暗灰褐色土、ローム粒・ロームB・砂利多含）
5　赤橙色土　（焼け壁土・焼け瓦および焼土主体、漆喰・炭極少含、粘性・しまりなし）
5'　暗黄褐色土（ロームBと暗褐色土が斑状を成す、所々に炭・礫含）
6　暗灰褐色土（粒状の暗褐色土主体、砂利・ローム粒多含）
7　暗灰褐色土（やや粘質の暗灰褐色土、ローム粒・ロームB・礫多含、焼土極少含）
8　暗灰色土　（粒状の暗灰色土主体、ローム粒・礫多含、粘性・しまりなし）
9　暗黄褐色土（粒状の暗灰色土主体、ロームB極多含、ローム粒・礫多含）
10　暗灰褐色土（やや砂質の灰褐色土主体、ロームB・礫多含）

SK518･519（C面）



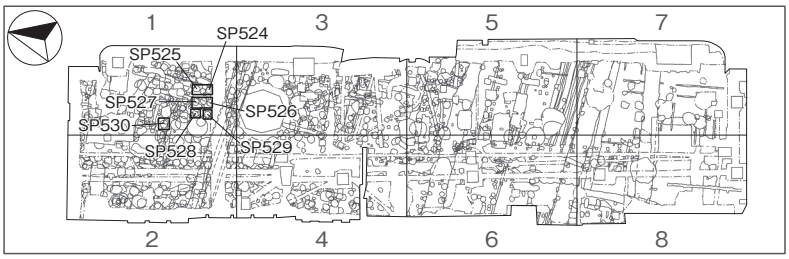


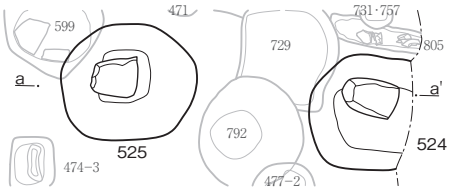
523
1 茶褐色土（ローム粒・灰色粘土含、角礫少含、しまり強）
2 暗褐色土（ローム粒・灰色粘土少含）
3 焼土　　（壁土片が含まれるほぼ純粋な焼土、粘性・しまりなし）
4 茶褐色土（1層より暗い、ローム粒・灰色粘土含）

SK523（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-51図　SK518･519、SK520、SK523

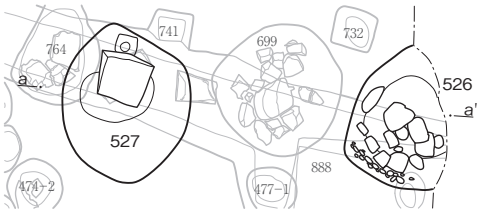




524
1 暗茶褐色土（玉砂利極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

525
1 暗茶褐色土（玉砂利極多含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

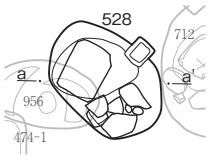
SP524、SP525（C面）

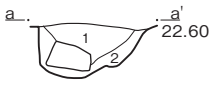


526
1 暗黄褐色土（ローム粒・焼土多含、玉砂利少含、粘性なし、しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒含、灰色シルト粒少含、粘性なし、しまり弱）
3 暗茶褐色土（玉砂利極多含、粘性なし）
4 暗茶褐色土（ローム粒含）

527
1 暗茶褐色土（玉砂利極多含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

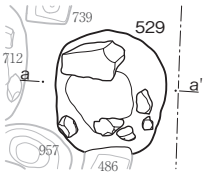
SP526、SP527（C面）

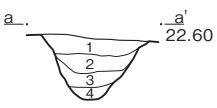




528
1 暗茶褐色土（玉砂利極多含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒・焼土極少含）

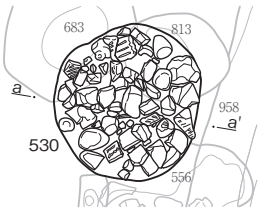
SP528（C面）





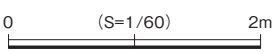
529
1 暗褐色土　（ローム粒多含、焼土極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（焼土・炭化材多含）
3 暗褐色土　（砂利主体）
4 暗茶褐色土（円礫多含、粘性なし）

SP529（C面）

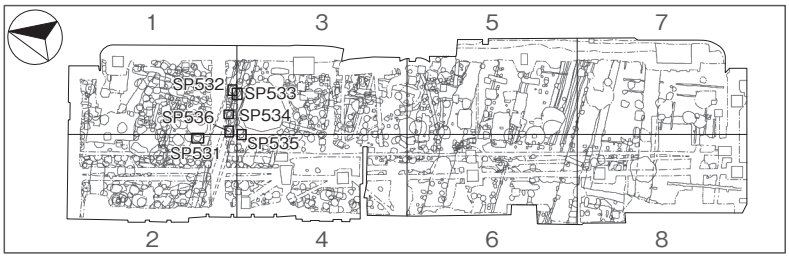


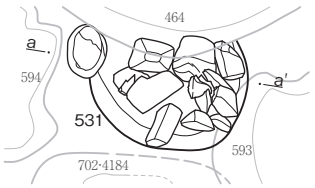
530
1 暗黄褐色土（砂利含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

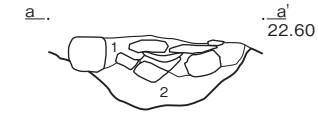
SP530（C面）



Ⅲ-52図　SP524、SP525、SP526、SP527、SP528、SP529、SP530

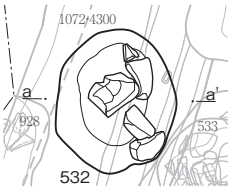


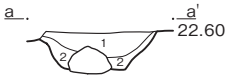




531
1 暗茶褐色土（ローム粒含、焼土少含、炭化材極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

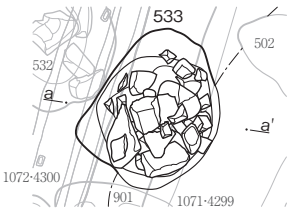
SP531（C面）

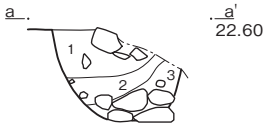




532
1 暗茶褐色土（砂利層）
2 暗茶褐色土（ローム粒・焼土極少含）

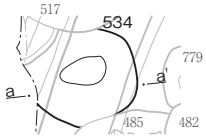
SP532（C～D面）

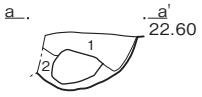




533
1 暗茶褐色土（焼土少含）
2 暗茶褐色土（砂利層）
3 黒褐色土　（粘性なし、しまり弱）

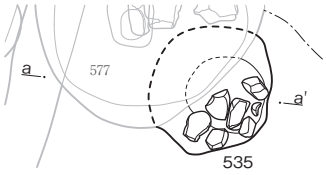
SP533（C～D面）

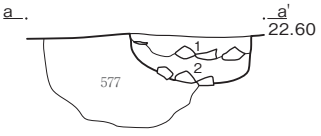




534
1 暗茶褐色土（砂利層）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

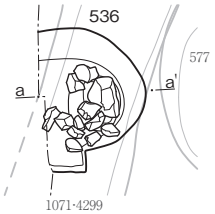
SP534（C～D面）

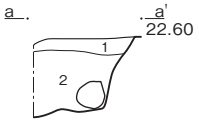




535
1 暗茶褐色土（焼土少含、ローム粒極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（ローム粒含）

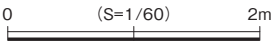
SP535（C面）



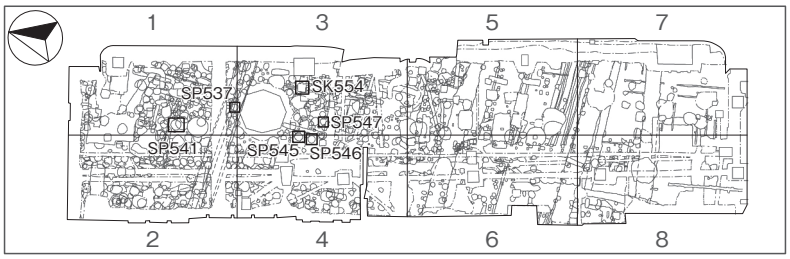


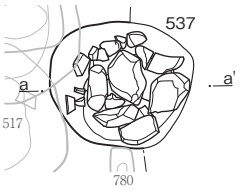
536
1 暗茶褐色土（ローム粒極少含、粘性なし）
2 暗茶褐色土（砂利層）

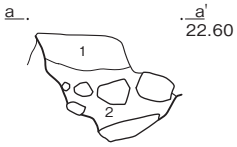
SP536（C～D面）



Ⅲ-53図　SP531、SP532、SP533、SP534、SP535、SP536

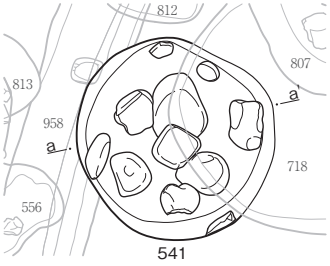


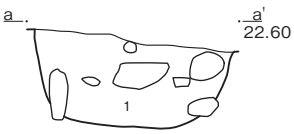




537
1 暗茶褐色土（ローム粒・焼土・玉砂利極少含）
2 暗茶褐色土（砂利層）

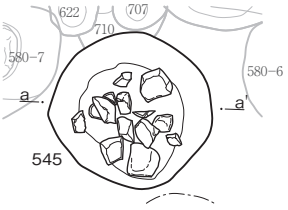
SP537（C～D面）

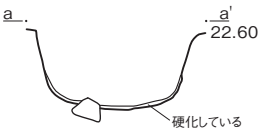




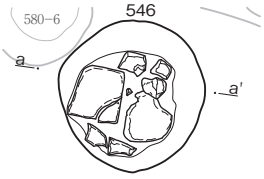
541
1 暗茶褐色土（砂利層）

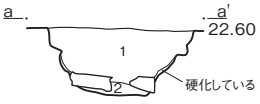
SP541（C面）





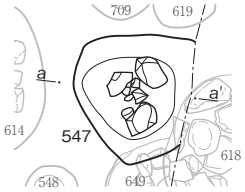
SP545（C面）





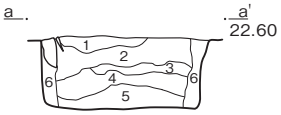
546
1 褐色土　（円礫含、ローム粒多含、しまり極強）
2 暗褐色土（円礫含、ローム粒少含、粘性弱、しまり極強）

SP546（C面）



547
1 褐色土　（円礫含、ローム粒多含、しまり極強）
2 暗褐色土（円礫含、ローム粒少含、粘性弱、しまり極強）

SP547（C面）

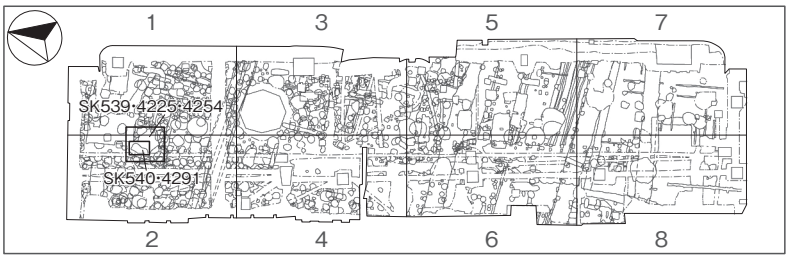


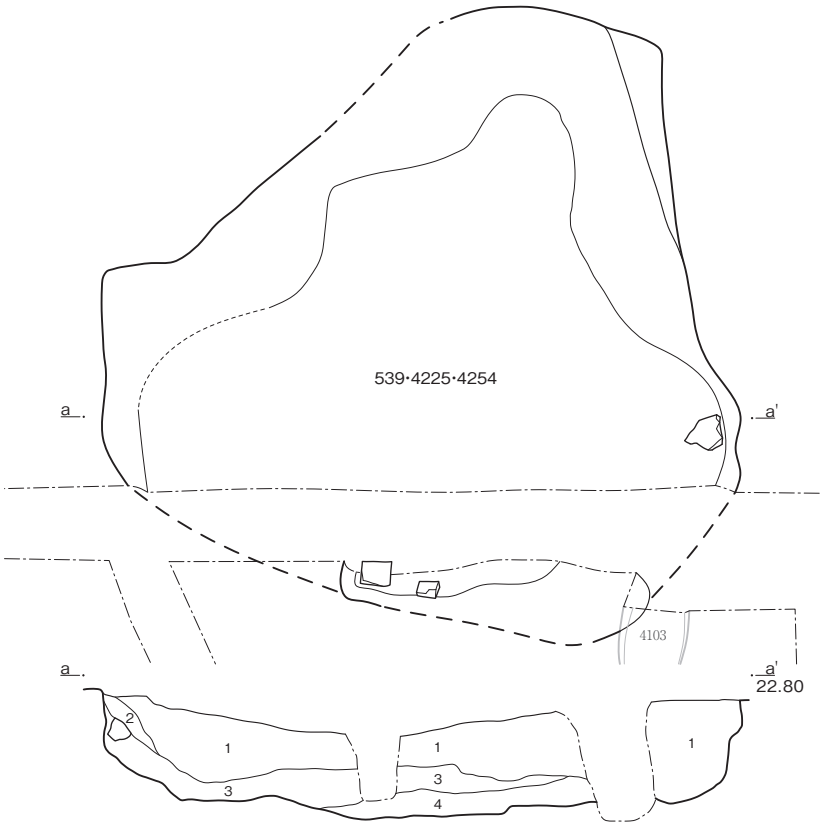
554
1 茶褐色土　（焼土粒少含、ローム粒・炭化物極少含）
2 暗褐色土　（灰褐色粘土粒極多含、炭化物極少含、粘性強）
3 黒褐色土　（灰褐色粘土多含、小円礫少含、粘性強）
4 灰白色粘土（炭化物含、粘性極強）
5 茶褐色土　（ローム粒含）
6 褐色土　（ローム粒多含、ロームB含、小円礫・炭化物極少含）

SK554（C面）

0　（S=1/60）　2m

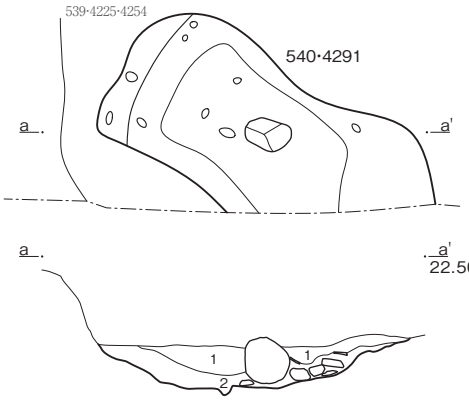
Ⅲ-54図　SP537、SP541、SP545、SP546、SP547、SK554





539・4225・4254
1 暗灰褐色土（ロームB・瓦・礫多含、上面やや硬化）
2 暗灰色土　（砂質、礫少含、粘性・しまりなし）
3 暗灰褐色土（瓦・礫・ロームB少含）
4 暗灰褐色土（ローム粒・粘土・小礫・瓦多含）

SK539･4225･4254（A～B面）

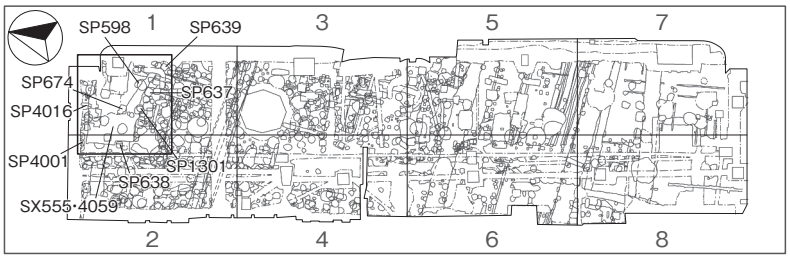


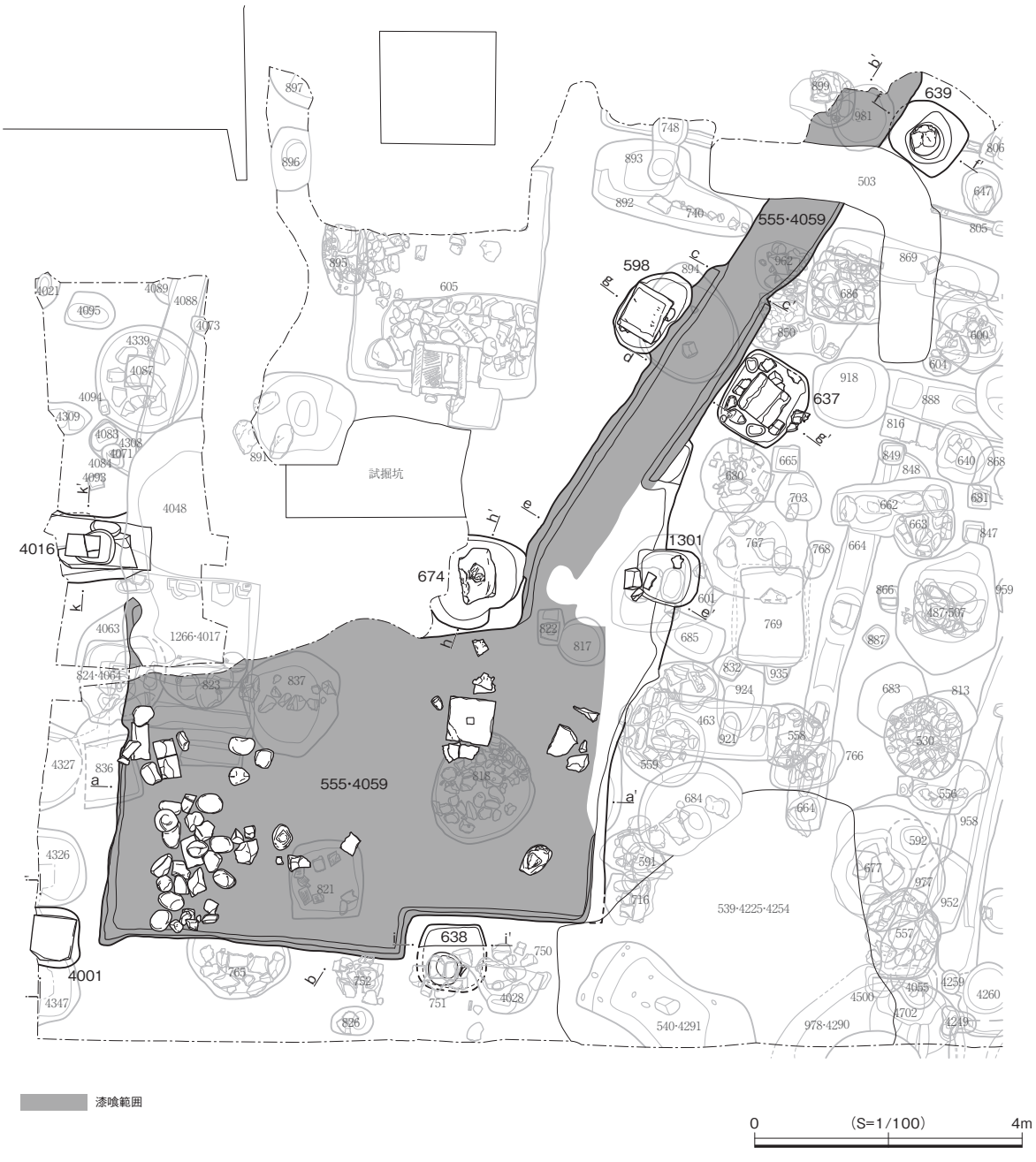
540・4291
1 灰色土（灰色土主体、ローム粒・ロームB・礫・角石・瓦片～一部焼瓦片～多含、焼土粒・焼土B・炭化物少含）
2 灰色土（シルト質、明灰白色粘土B多含、ローム粒・ロームB・角石少含、粘性強、しまり弱）

SK540･4291（C～D面）

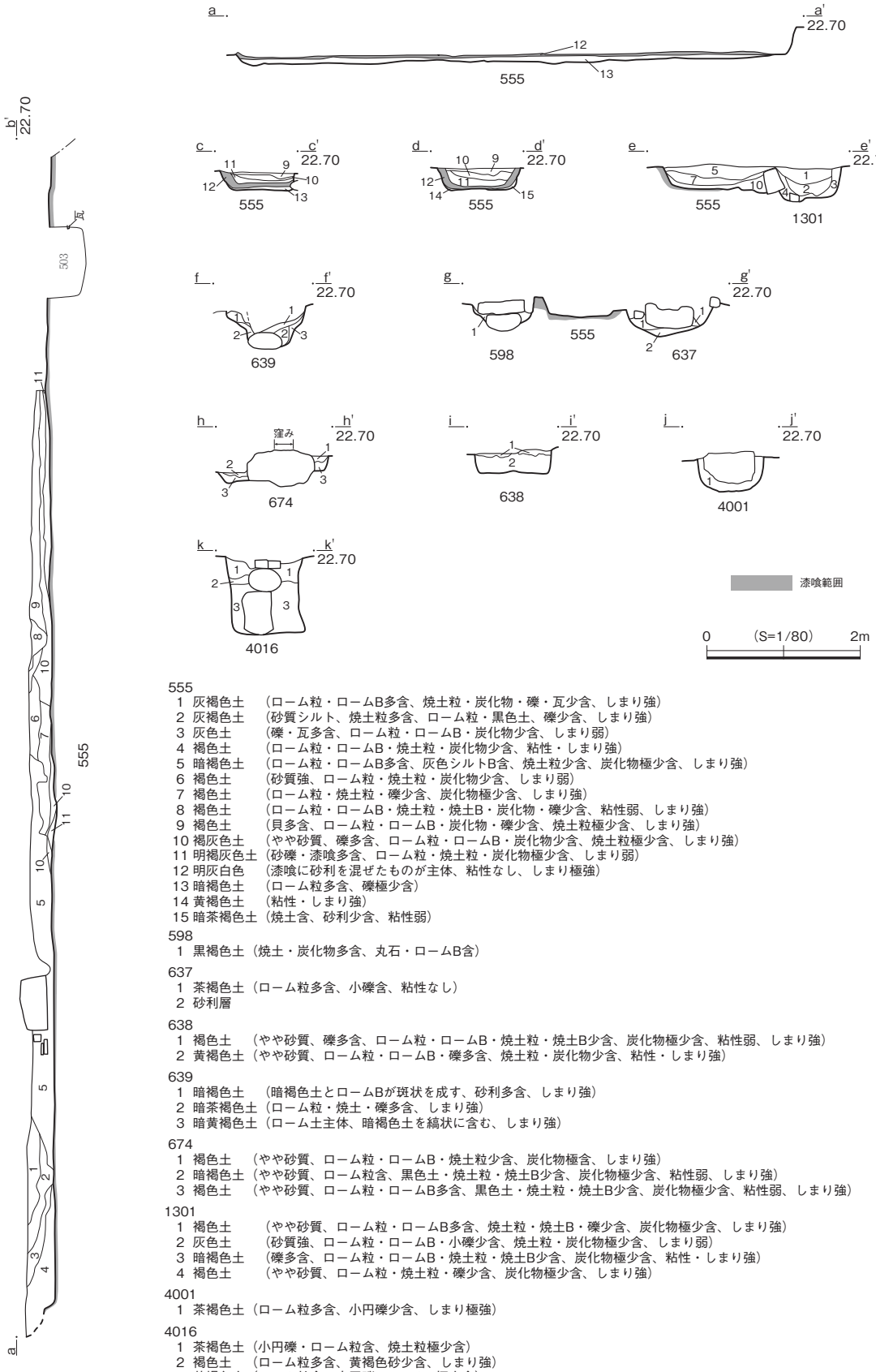
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-55図　SK539･4225･4254、SK540･4291





Ⅲ-56図　SX555･4059、SP598、SP637、SP638、SP639、SP674、SP1301、SP4001、SP4016(1)



555
1 灰褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・炭化物・礫・瓦少含、しまり強）
2 灰褐色土　（砂質シルト、焼土粒多含、ローム粒・黒色土、礫少含、しまり強）
3 灰色土　　（礫・瓦多含、ローム粒・ロームB・炭化物少含、しまり弱）
4 褐色土　　（ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり強）
5 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、灰色シルトB含、焼土粒少含、炭化物極少含、しまり強）
6 褐色土　　（砂質強、ローム粒・焼土粒・炭化物少含、しまり弱）
7 褐色土　　（ローム粒・焼土粒・礫少含、炭化物極少含、しまり強）
8 褐色土　　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・炭化物・礫少含、粘性弱、しまり強）
9 褐色土　　（貝多含、ローム粒・ロームB・炭化物・礫少含、焼土粒極少含、しまり強）
10 褐灰色土　（やや砂質、礫多含、ローム粒・ロームB・炭化物少含、焼土粒極少含、しまり強）
11 明褐灰色土（砂礫・漆喰多含、ローム粒・焼土粒・炭化物極少含、しまり弱）
12 明灰白色　（漆喰に砂利を混ぜたものが主体、粘性なし、しまり極強）
13 暗褐色土　（ローム粒多含、礫極少含）
14 黄褐色土　（粘性・しまり強）
15 暗茶褐色土（焼土含、砂利少含、粘性弱）

598
1 黒褐色土（焼土・炭化物多含、丸石・ロームB含）

637
1 茶褐色土（ローム粒多含、小礫含、粘性なし）
2 砂利層

638
1 褐色土　（やや砂質、礫多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
2 黄褐色土（やや砂質、ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり強）

639
1 暗褐色土　（暗褐色土とロームBが斑状を成す、砂利多含、しまり強）
2 暗茶褐色土（ローム粒・焼土・礫多含、しまり強）
3 暗黄褐色土（ローム土主体、暗褐色土を縞状に含む、しまり強）

674
1 褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB・焼土粒少含、炭化物極含、しまり強）
2 暗褐色土（やや砂質、ローム粒含、黒色土・焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
3 褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、黒色土・焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、粘性弱、しまり強）

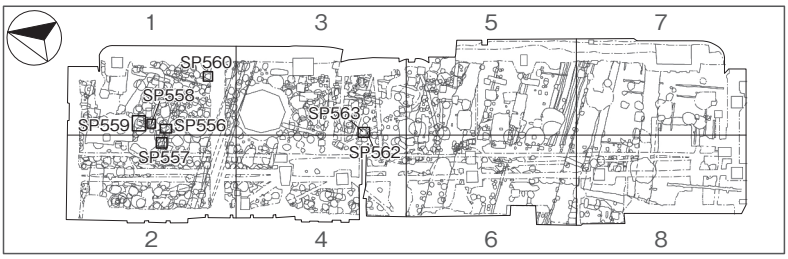
1301
1 褐色土　　（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・礫少含、炭化物極少含、しまり強）
2 灰色土　　（砂質強、ローム粒・ロームB・小礫少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり弱）
3 暗褐色土　（礫多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
4 褐色土　　（やや砂質、ローム粒・焼土粒・礫少含、炭化物極少含、しまり強）

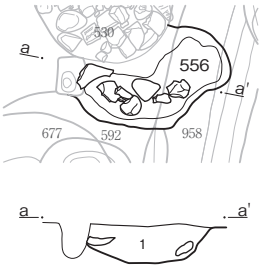
4001
1 茶褐色土（ローム粒多含、小円礫少含、しまり極強）

4016
1 茶褐色土（小円礫・ローム粒含、焼土粒極少含）
2 褐色土　（ローム粒多含、黄褐色砂少含、しまり強）
3 茶褐色土（ローム粒含、小円礫・ロームB極少含）

SX555・4059、SP598、SP637、SP638、SP639、SP674、SP1301、SP4001、SP4016（C面）

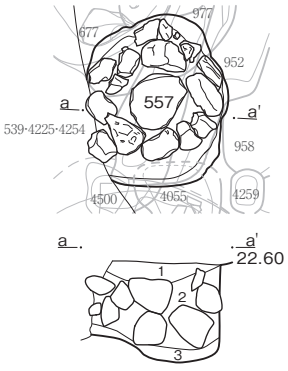
Ⅲ-57図　SX555・4059、SP598、SP637、SP638、SP639、SP674、SP1301、SP4001、SP4016（2）





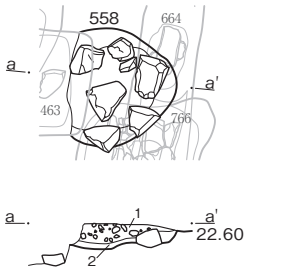
556
1 暗褐色土（暗褐色土中ローム粒が斑状に入る、砂利多含）

SP556（C面）



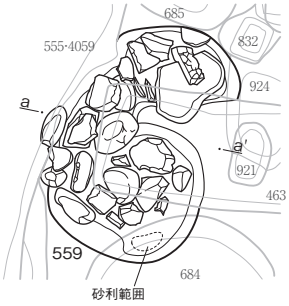
557
1 暗灰色砂利（円礫主体、暗灰褐色粘質土を挟む、しまり強）
2 茶褐色土　（焼土・丸石多含、しまり強）
3 暗褐色土　（焼土・炭化物多含、貝層少含、しまり弱）

SP557（C面）

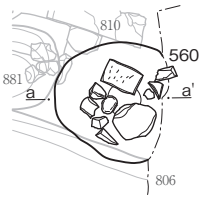


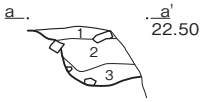
558
1 暗灰褐色土（砂利主体）
2 暗黄褐色土（ローム質土主体、しまり強）

SP558（C面）



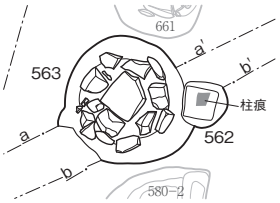
SP559（C面）

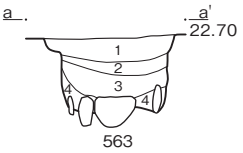


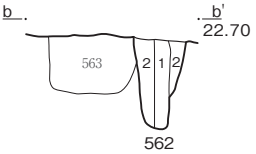


560
1 暗茶褐色砂利（暗褐色土、焼土・礫極多含、粘性なし）
2 暗黄褐色砂利（暗褐色土、ロームB・円礫極多含、しまり強）
3 暗灰色砂利　（円礫主体、暗褐色土を間に挟む、粘性弱、しまり強）

SP560（C面）







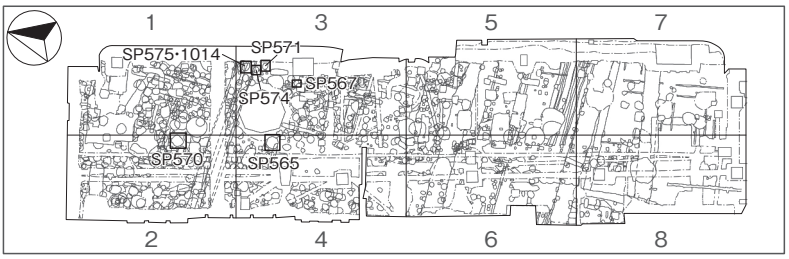
562
1 灰色土　（柱と思われる木片が混じる、角礫少含、粘性弱、しまりなし）
2 暗褐色土（ロームB多含）

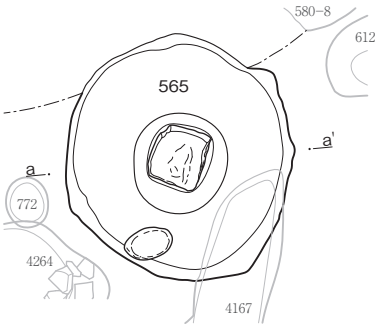
563
1 茶褐色土（円礫・ロームB多含、しまり強）
2 明褐色土（黒色土含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土（円礫多含、粘性弱、しまり極強）
4 褐色土　（ロームB多含、焼土少含、粘性強）

SP562、SP563（C面）

0　（S=1/60）　2m

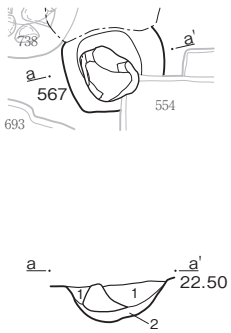
Ⅲ-58図　SP556、SP557、SP558、SP559、SP560、SP562、SP563





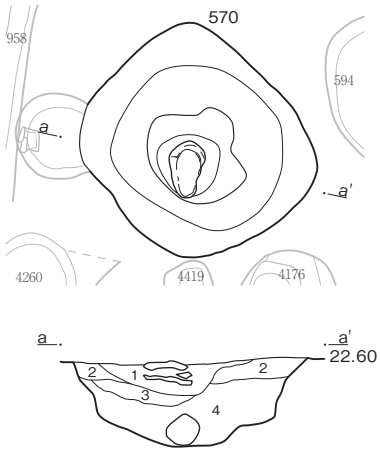
565
1 暗茶褐色土（円礫多含、粘性弱、しまり極強）
2 玉砂利層

SP565（C面）



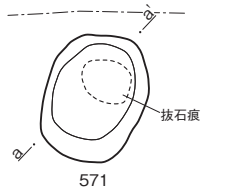
567
1 丸石層　（茶褐色土含）
2 茶褐色土（ローム粒多含）

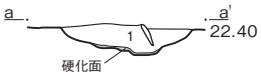
SP567（C面）



570
1 暗茶褐色土　（暗褐色土主体、焼土・ローム粒多含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土　（ローム土主体、暗褐色土粒極少含）
3 青灰色土砂利（破砕礫主体、灰色粘質土を挟む、粘性なし）
4 暗灰色土砂利（円礫主体、暗褐色粘質土を挟む）

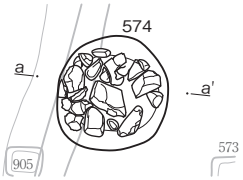
SP570（C面）



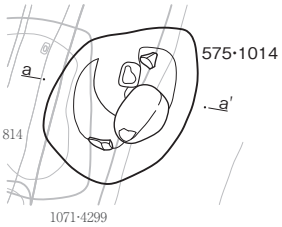


571
1 暗灰褐色土（暗褐色土主体、ローム粒・ロームB・礫多含、しまり強）

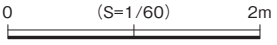
SP571（C面）



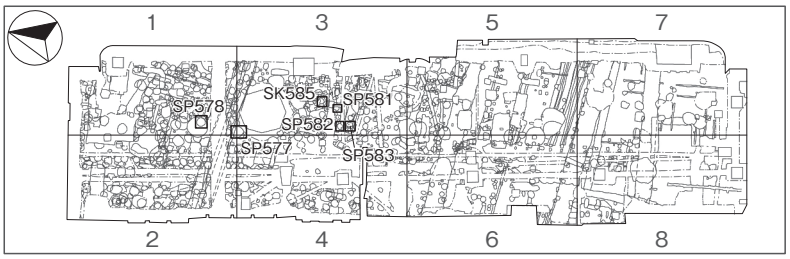
SP574（C～D面）

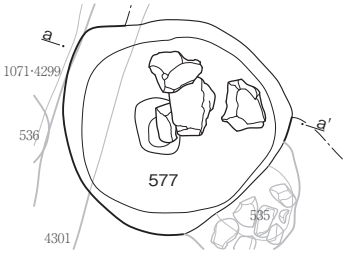


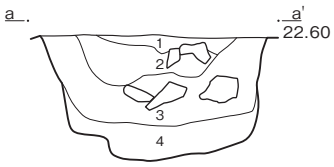
SP575･1014（C～D面）



Ⅲ-59図　SP565、SP567、SP570、SP571、SP574、SP575･1014

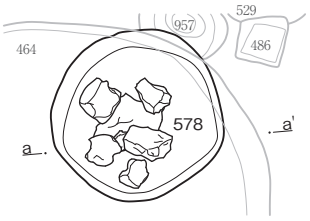


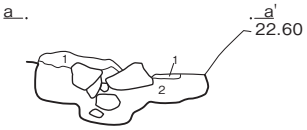




577
1 暗茶褐色土　（粘性なし）
2 暗褐色土　（粘性なし）
3 暗灰褐色砂利（しまり強）
4 暗褐色土

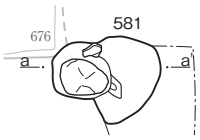
SP577（C～D面）



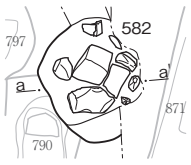


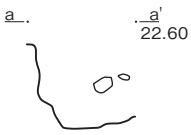
578
1 暗黄褐色土（暗褐色土主体、ローム粒・礫多含、粘性・しまりなし）
2 灰褐色砂利（礫主体、間に暗褐色土とローム粒の混合土を挟む、しまり強）

SP578（C面）

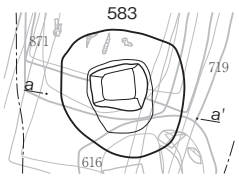


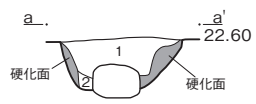
SP581（C面）





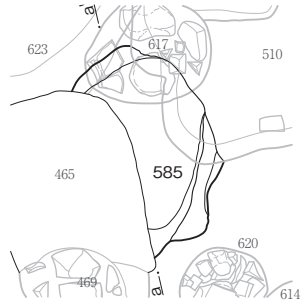
SP582（C面）

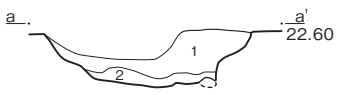




583
1 暗茶褐色土
2 茶褐色土　（ローム粒多含、しまり極強）

SP583（C面）



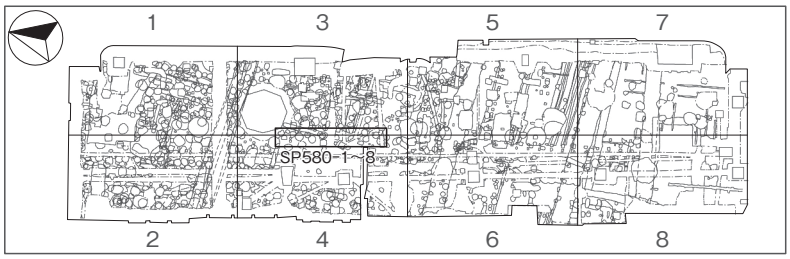


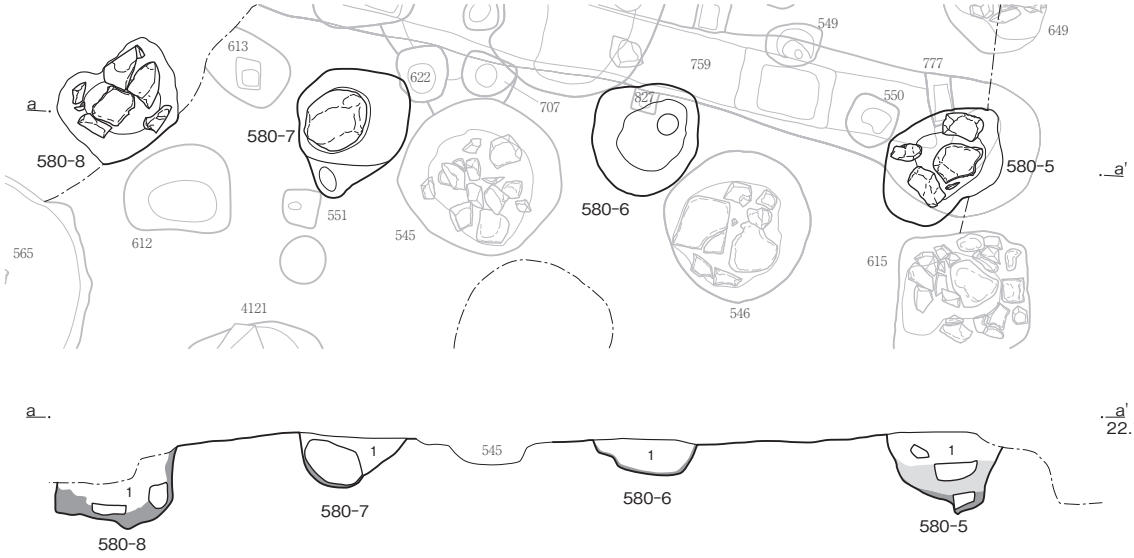
585
1 褐色土　（ロームB含、ローム粒・円礫・炭化物少含）
2 黄褐色土（ほぼロームで構成される）

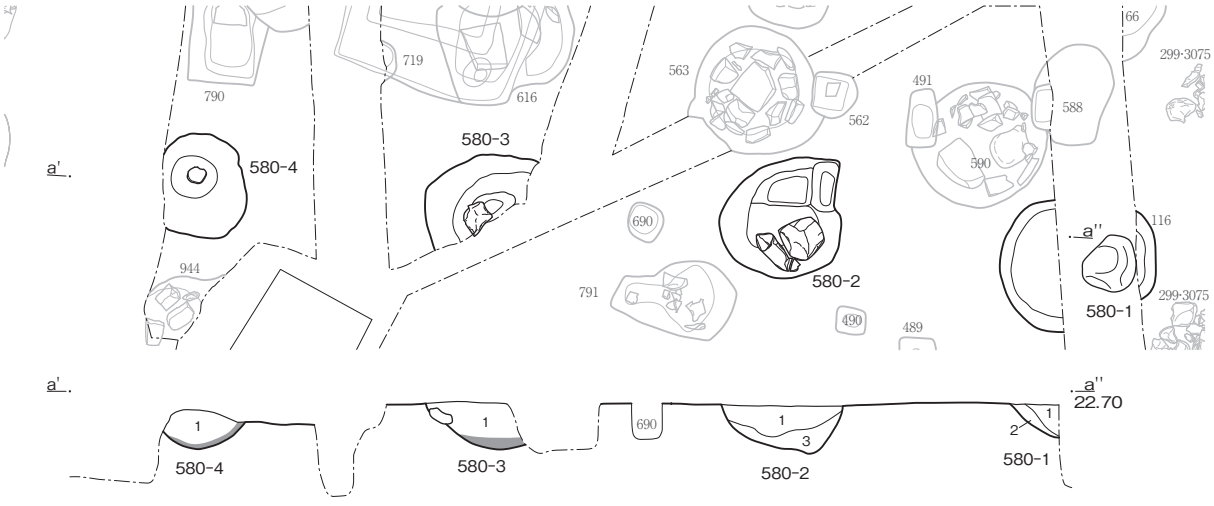
SK585（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-60図　SP577、SP578、SP581、SP582、SP583、SK585







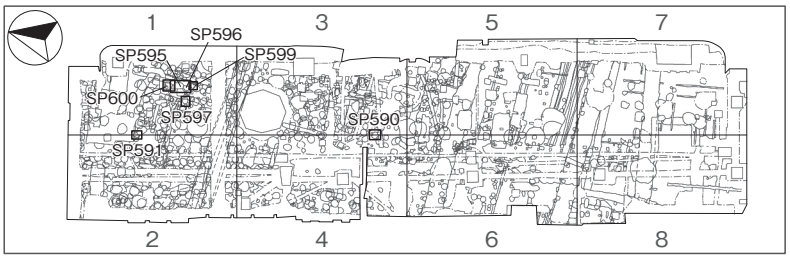
580
1 暗茶褐色土（円礫極多含、ローム粒・焼土粒少含、粘性なし、しまり強）
2 黄褐色土　（ほぼロームで構成される、黒褐色土粒含、しまり極強）
3 橙褐色　　（ほぼ焼土で構成される、粘性なし、しまり極強）

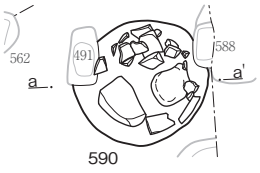
砂利層
硬化面

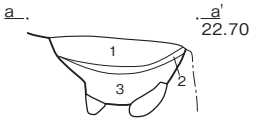
SP580（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-61図　SP580

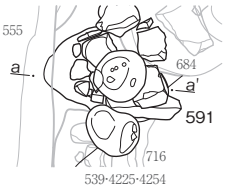






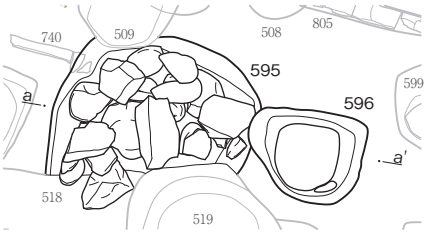
590
1 茶褐色土（円礫・ローム粒多含、粘性弱、しまり強）
2 明褐色土（ロームB多含、黒色土含、円礫少含、しまり強）
3 茶褐色土（円礫・ローム粒多含、角礫少含、粘性弱、しまり強）

SP590（C面）



591
1 茶褐色土（丸石・ロームB少含、粘性・しまり弱）
2 砂利層（丸石・瓦・小礫多含、焼土含）
3 茶褐色土（ロームB・小石含、粘性強、しまり極強）

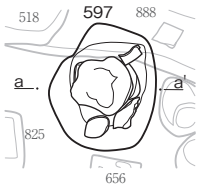
SP591（C面）

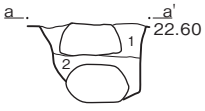


595
1 黄褐色土（砂質、円礫極多含、粘性なし、しまり強）
2 暗褐色土（円礫主体、間にローム質暗褐色土を挟む、しまり強）

596
1 暗褐色土　（ローム土、礫極多含、粘性なし、しまり強）
2 暗黄褐色土（暗褐色土、ローム粒極多含、しまり強）

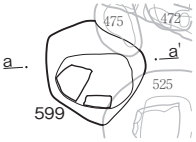
SP595（C～D面）、SP596（C面）

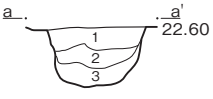




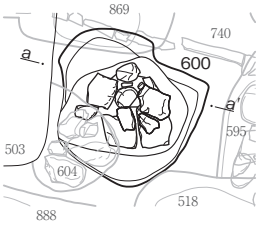
597
1 暗黄灰褐色土（暗褐色土、ローム粒・灰色シルト質土粒・礫多含、しまり強）
2 暗黄褐色土　（円礫多含、焼土少含）

SP597（C面）





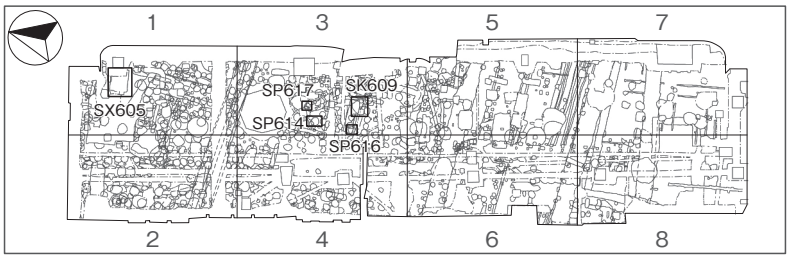
SP599（C面）

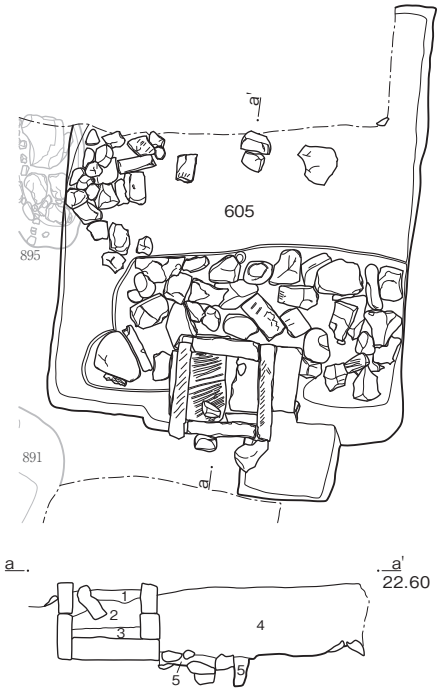


SP600（C面）

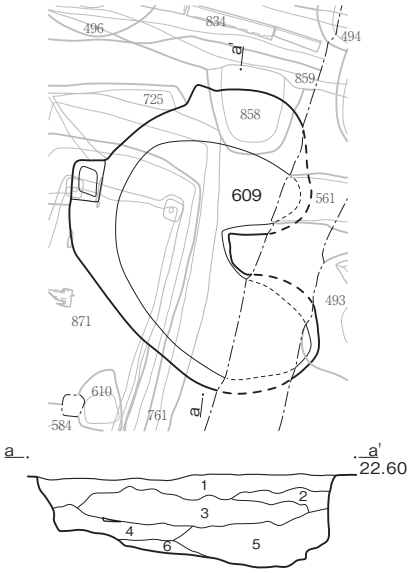
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-62図　SP590、SP591、SP595、SP596、SP597、SP599、SP600



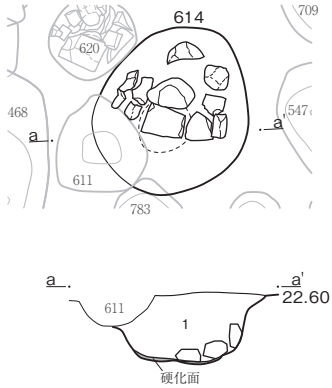


SX605（C面）



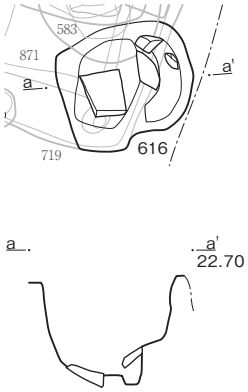
609
1 暗褐色土（ローム粒・焼土粒含、小円礫少含）
2 暗褐色土（1層より暗い、焼土粒含）
3 褐色土　（ローム粒・焼土粒多含、粘性弱）
4 暗褐色土（ローム粒・ロームＢ含）
5 黒褐色土（ローム粒多含、ロームＢ含）
6 褐色土　（ローム粒・ロームＢ多含）

SK609（C面）

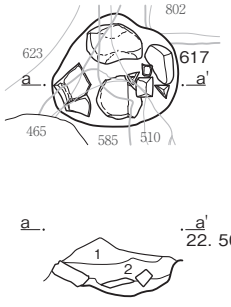


614
1 暗褐色土（円礫含、ローム粒少含、焼土粒極少含、粘性弱、しまり極強）

SP614（C面）



SP616（C面）

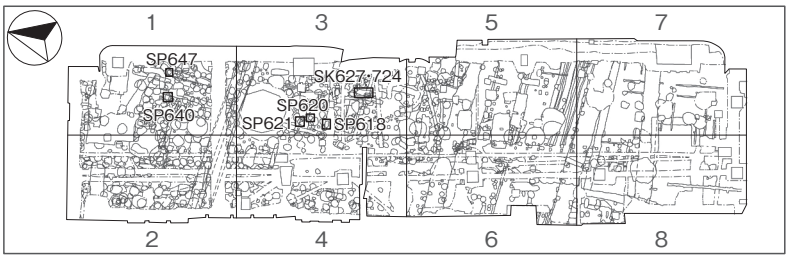


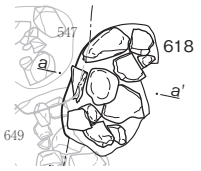
617
1 褐色土　（ローム粒・ロームＢ多含、小円礫少含、粘性・しまり強）
2 茶褐色土（円礫多含、ローム粒少含、しまり極強）

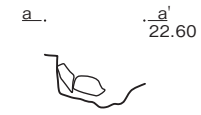
SP617（D面）

Ⅲ-63図　SX605、SK609、SP614、SP616、SP617

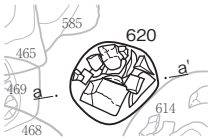
0　(S=1/60)　2m





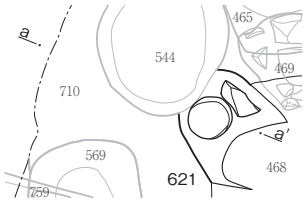


SP618（C～D面）



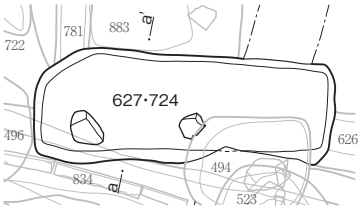
620
1 暗茶褐色土（焼土含、粘性弱）

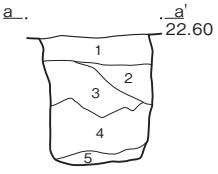
SP620（C面）



621
土説なし

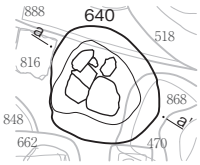
SP621（C面）





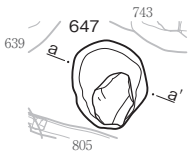
627・724
1 暗茶褐色土（ローム粒多含、ロームB・円礫少含）
2 暗褐色土　（灰褐色粘土多含、ローム粒少含）
3 暗褐色土　（ローム粒含、ロームB・小円礫極少含）
4 暗褐色土　（3層より明るい、ローム粒多含、小円礫少含）
5 褐色土　　（ローム粒・灰褐色粘土含、小円礫極少含）

SK627･724（C面）



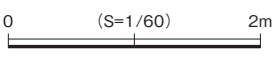
640
1 暗黄褐色土（ローム粒・礫多含、焼土少含）
2 暗茶褐色土（焼土多含、黒色土粒・ローム粒含、しまり強）

SP640（C～D面）

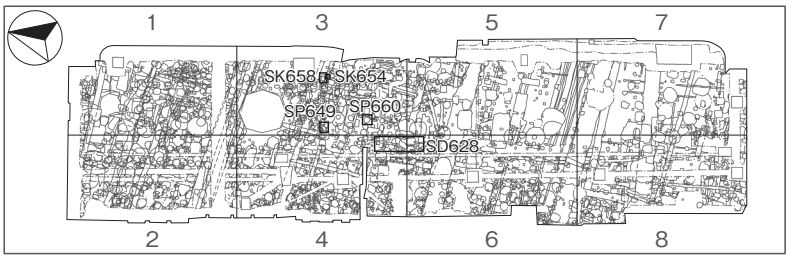


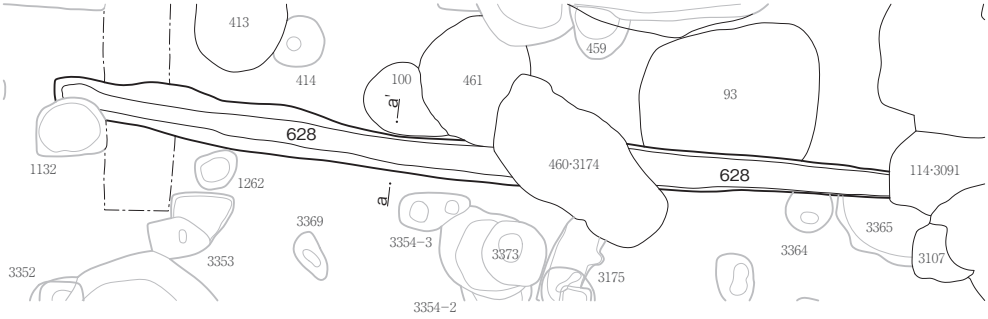
647
1 暗茶褐色土（礫極多含、焼土少含、粘性なし）

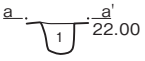
SP647（C～D面）



Ⅲ-64図　SP618、SP620、SP621、SK627･724、SP640、SP647

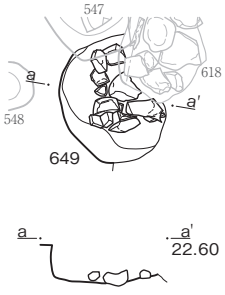




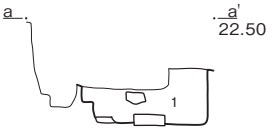


628
1 黒褐色土（ローム粒少含、焼土粒極少含）

SD628（G面）

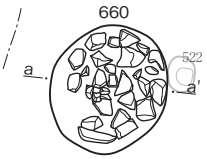


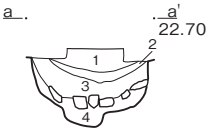
SP649（C～D面）



658
1 黒褐色土（全体的にローム粒混入、
粘性・しまり弱）

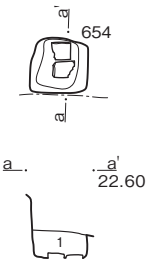
SK658（C面）





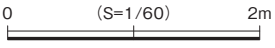
660
1 茶褐色土（円礫多含、ローム・赤茶色土B片含、
しまり強）
2 褐色土　（ロームB多含、円礫少含、しまり強）
3 茶褐色土（円礫極多含、ロームB含、しまり極強）
4 明褐色土（ロームB多含、粘性強）

SP660（C面）

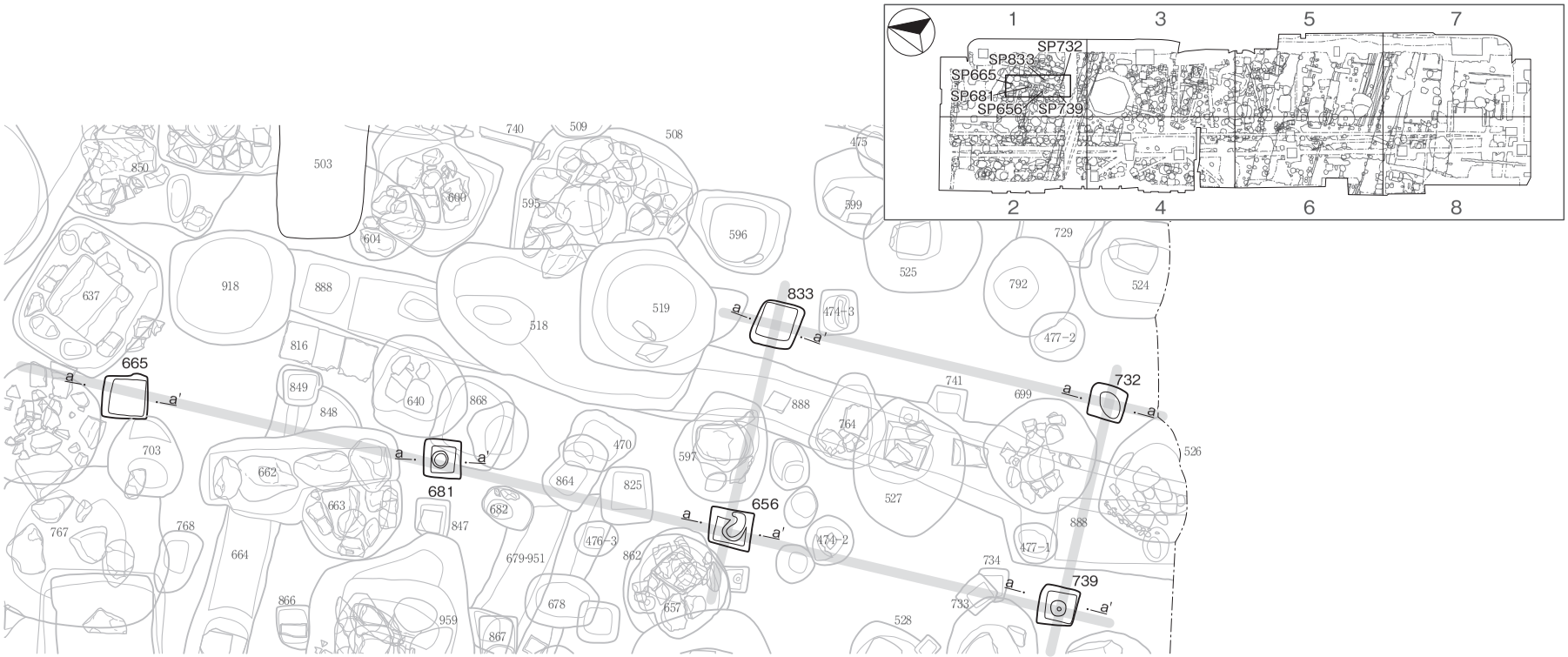


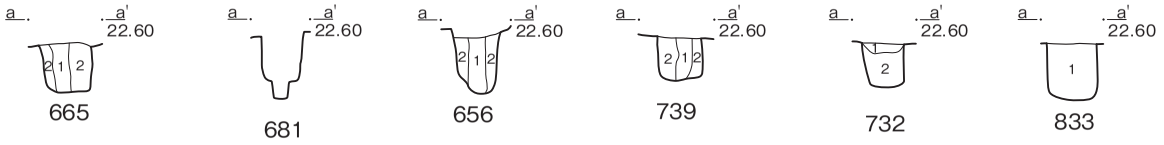
654
1 黒褐色土（ローム粒・小石・木片少含、
粘性・しまり弱）

SP654（C面）



Ⅲ-65図　SD628、SP649、SP654、SK658、SP660





SP656、SP665、SP681、SP732、SP739、SP833（C～D面）

665
1 暗褐色土　（粒状の暗褐色土主体、ローム粒多含、焼土極少含）
2 暗黄褐色土（暗褐色土、ローム粒・ロームB・礫多含）

656
1 暗褐色土　（粒状の暗褐色土主体、ローム粒多含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（暗褐色土、ローム粒・ロームB多含、粘性なし）

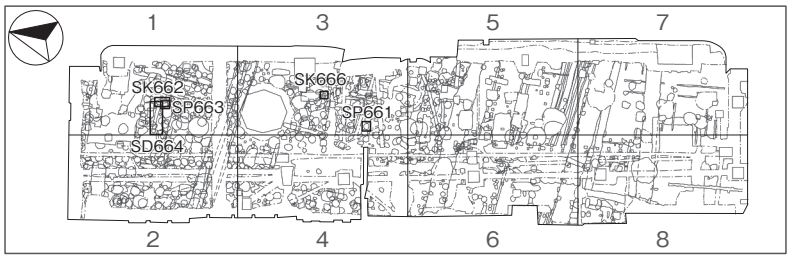
739
1 暗褐色土（小石・焼土極少含、粘性・しまりなし）
2 黒褐色土（暗褐色土と黒色土の混合土、ローム粒・焼土多含）

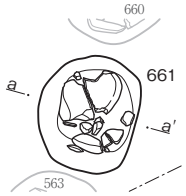
732
1 暗黄褐色土（暗褐色土、ローム粒極多含、粘性なし）
2 暗褐色土　（ローム粒・黒色土粒多含、焼土極少含、粘性・しまりなし）

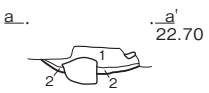
833
1 黒褐色土（ローム粒・ロームB・丸石含、粘性・しまり弱）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-66図　SP656、SP665、SP681、SP732、SP739、SP833

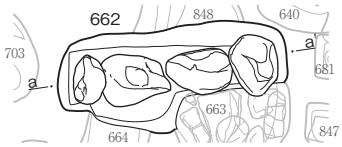


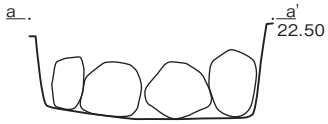




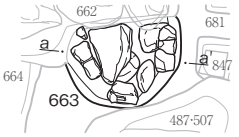
661
1 暗褐色土（円礫多含、ロームB含、しまり強）
2 褐色土　（ロームB多含、焼土少含、粘性・しまり強）

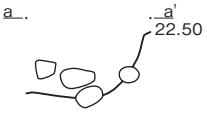
SP661（C面）



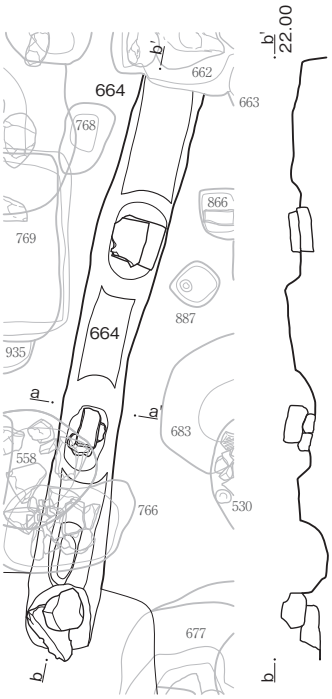


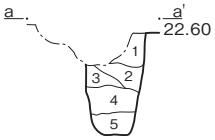
SK662（C～D面）

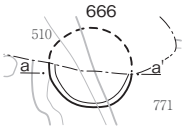


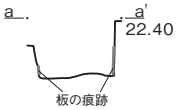


SP663（C～D面）









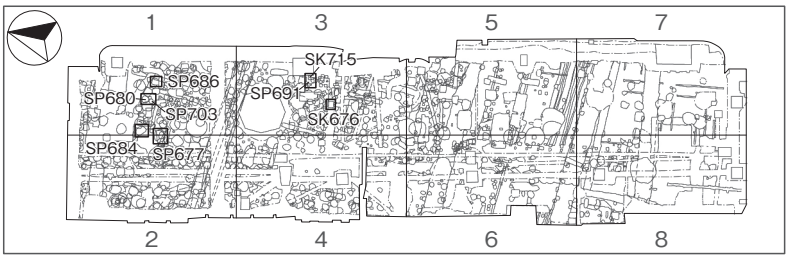
SK666（C面）

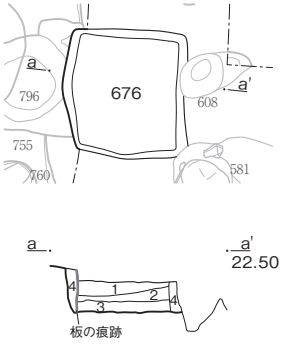
664
1 茶褐色土（ロームB・炭・丸石含、粘性弱）
2 茶褐色土（ロームB・炭含、焼土極少含、しまり弱）
3 茶褐色土（暗い、ロームB・焼土・炭多含、しまり弱）
4 黒褐色土（明るい、ローム粒・ロームB含、粘性弱、しまりなし）
5 黒褐色土（暗い、ロームB少含、粘性弱、しまりなし）

SD664（D面）

0　（S=1/60）　2m

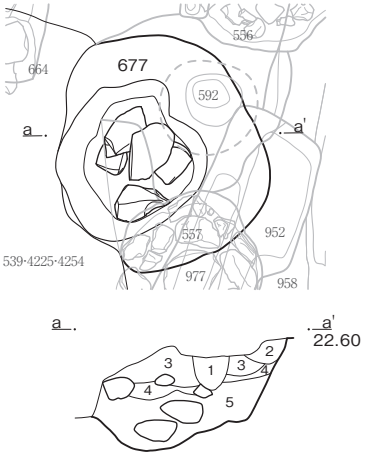
Ⅲ-67図　SP661、SK662、SP663、SD664、SK666





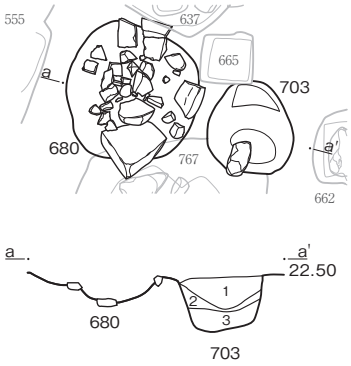
676
1 灰褐色土　（灰褐色粘土多含、ローム粒含、しまり強）
2 暗灰褐色土（ほぼ灰褐色粘土で構成、ローム粒・炭化物少含、しまり強）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
4 暗褐色土　（ローム粒ロームB含、灰褐色粘土少含）

SK676（C面）



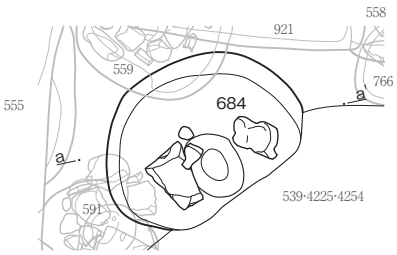
677
1 暗茶褐色土（焼土・炭化物多含、しまり弱）
2 黄褐色土　（ローム主体、褐色土・焼土少含、しまり強）
3 暗褐色土　（円礫多含、粘性なし、しまり弱）
4 黄褐色土　（ローム主体、粘土粒少含、粘性・しまり強）
5 暗褐色土　（大礫主体、粘性強、しまり弱）

SP677（C～D面）



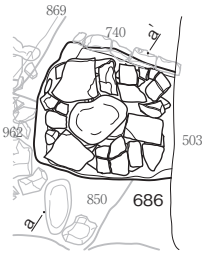
703
1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、焼土極少含）
2 暗黄褐色土（ローム土と暗褐色土が縞状を成す）
3 暗褐色土　（暗褐色土、ローム粒・礫多含）

SP680、SP703（C～D面）



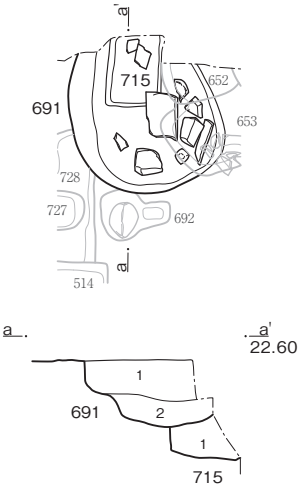
684
1 暗茶褐色土（暗褐色土、ローム粒・焼土・礫多含、粘性なし）
2 暗褐色土　（大量の礫の間に暗褐色土とローム粒の混合土を挟む、しまり強）

SP684（C～D面）



686
1 暗褐色土　（暗褐色土、ローム粒・礫多含、焼土少含）
2 暗黄灰褐色土（ローム土と暗褐色土の混合土、ローム層が斑状を成す、小礫多含、焼土少含、しまり強）
3 記載なし

SP686（D面）



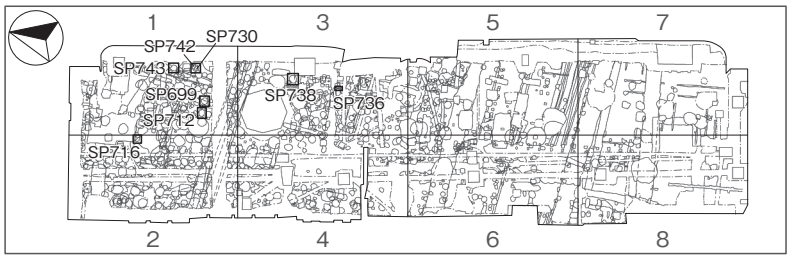
691
1 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB少含）
2 記載なし

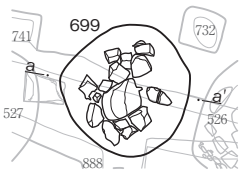
715
1 暗茶褐色土（ローム粒・ローム少含）

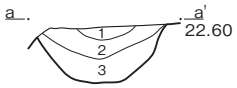
SP691、SK715（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-68図　SK676、SP677、SP680、SP684、SP686、SP691、SP703、SK715

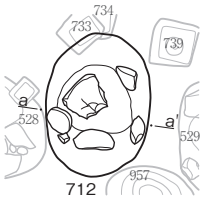


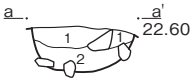




699
1 茶褐色土　（小石少含）
2 暗茶褐色土（礫・焼土・炭多含）
3 暗茶褐色土（小円礫主体）

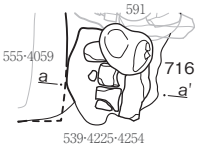
SP699（C～D面）

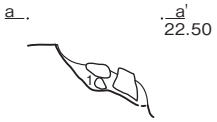




712
1 暗茶褐色土（小礫、焼土粒・ローム粒多含）
2 暗褐色土　（砂利主体、焼土粒・ローム粒含、しまり強）

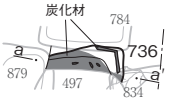
SP712（C～D面）





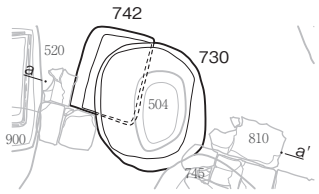
716
1 茶褐色土（ロームB・焼土・炭含、粘性弱、しまり極強）

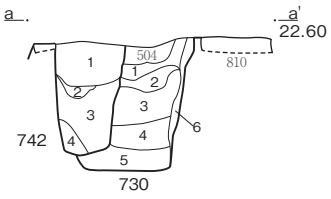
SP716（C～D面）



736
1 茶褐色土（焼土多含、炭化物少含）
2 暗褐色土（炭化物含、しまり弱）
3 焼土　　（粘性・しまり弱）

SK736（C面）

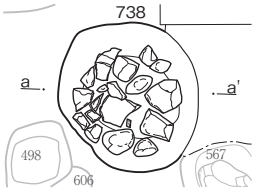


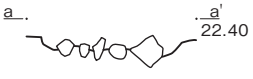


730
1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
2 黄灰色砂層（黄色砂と灰色砂が縞状に互層を成す、粘性・しまりなし）
3 暗灰褐色土（暗褐色土、ローム粒・ロームB多含、焼土極少含）
4 黄灰色砂層（黄色砂と灰色砂が縞状に互層を成す、粘性・しまりなし）
5 暗褐色土　（ローム粒極多含、しまりなし）
6 暗褐色土　（ローム粒多含、粘性・しまりなし）

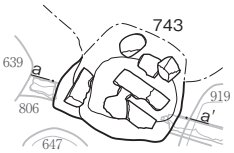
742
1 暗黄褐色土（暗褐色土とローム土が斑状を成す、焼土・礫多含、しまり強）
2 赤褐色土　（焼土純層、壁土片含、粘性・しまりなし）
3 暗褐色土　（ローム粒多含、焼土極少含、しまりなし）
4 暗黄褐色土（ローム土主体、褐色土粒・礫極少含、しまりなし）

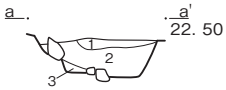
SK730、SK742（D面）





SP738（C～D面）



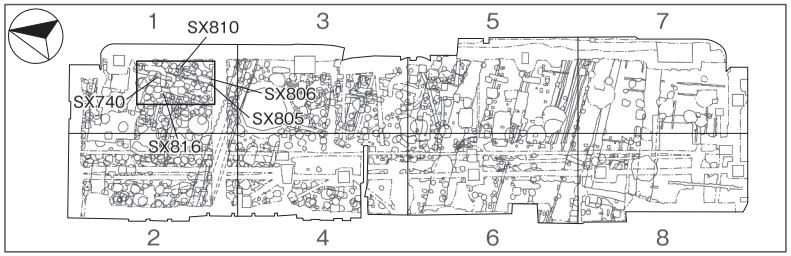


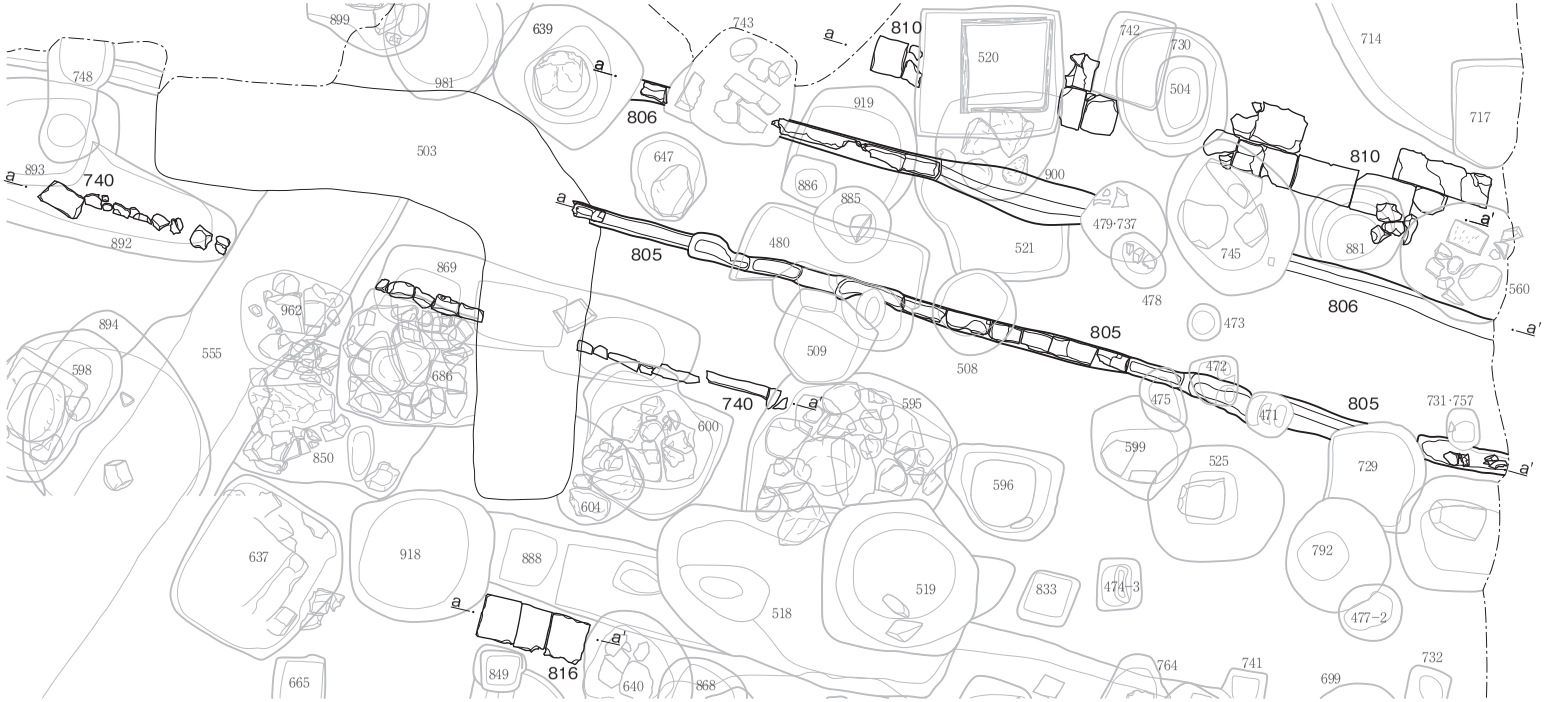
743
1 黒褐色土（ローム土斑状含）
2 暗褐色土（ローム粒・焼土粒多含、しまり強）
3 黄褐色土（ローム土主体、小礫少含）

SP743（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-69図　SP699、SP712、SP716、SK730、SK736、SP738、SK742、SP743

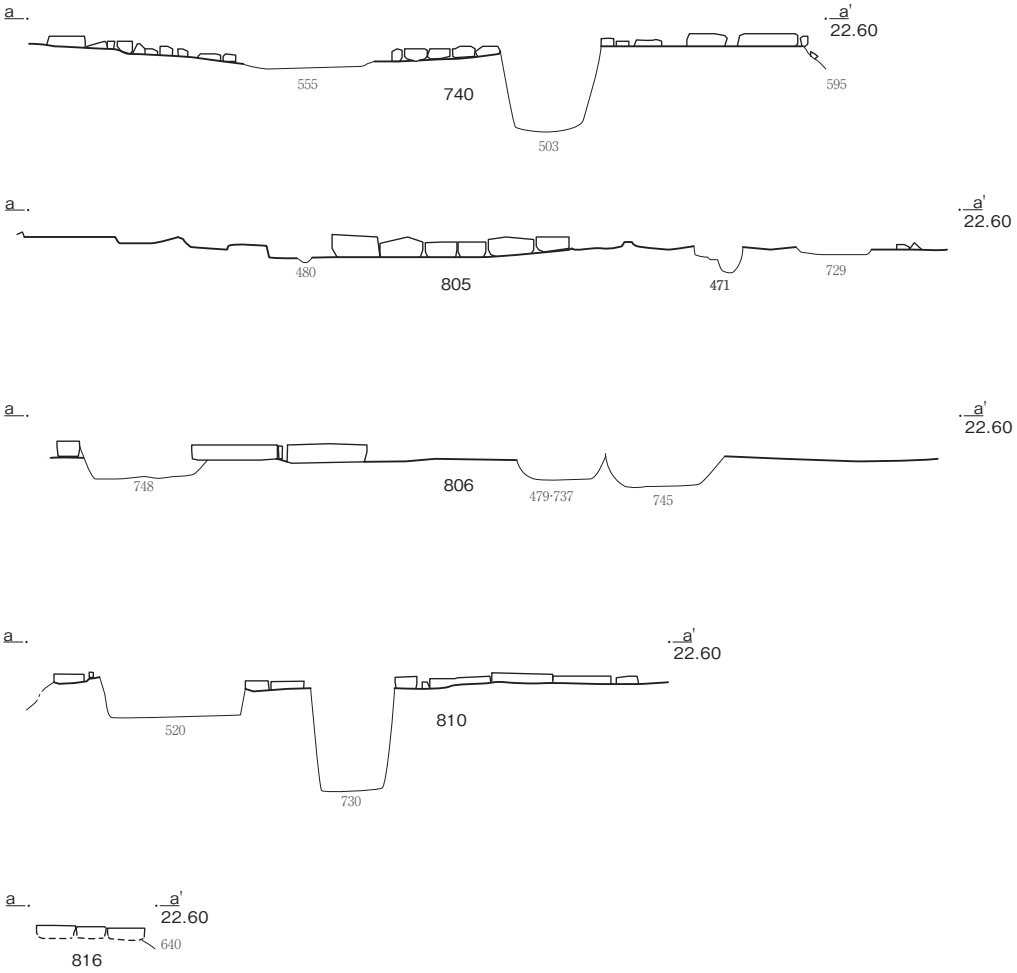




SX740、SX805、SX806、SX810、SX816（D面）

0 (S=1/60) 2m

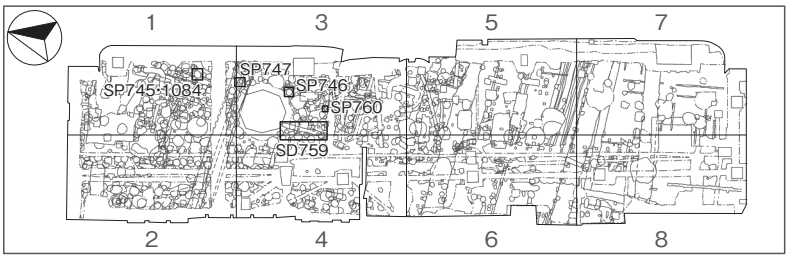
Ⅲ-70図　SX740、SX805、SX806、SX810、SX816（1）

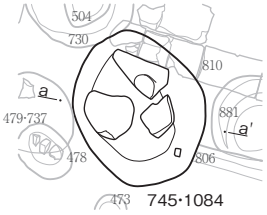


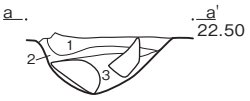
SX740、SX805、SX806、SX810、SX816（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-71図　SX740、SX805、SX806、SX810、SX816（2）



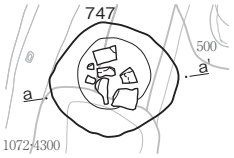


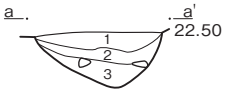


745・1084
1 褐色土　（円礫多含、粘性・しまりなし）
2 黄褐色土（ローム主体、焼土多含）
3 暗褐色土（円礫多含）

SP745·1084（C～D面）

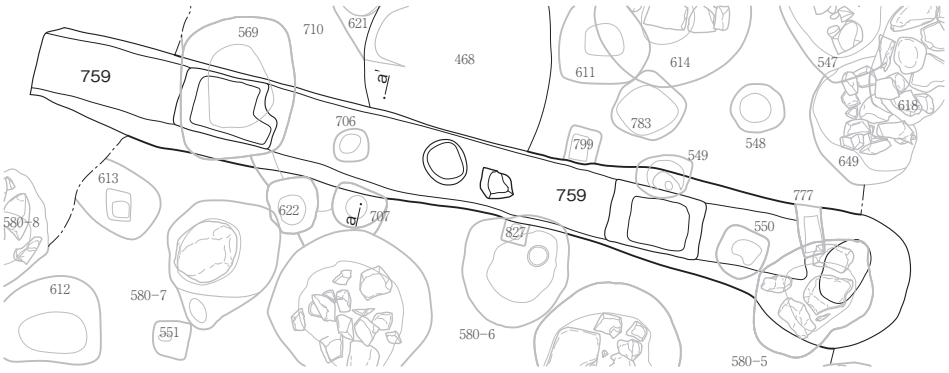
SP746（C～D面）

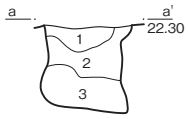




747
1 茶褐色土　（ローム粒多含、ロームＢ少含、しまり極強）
2 暗茶褐色土（円礫多含、粘性・しまりなし）
3 記載なし

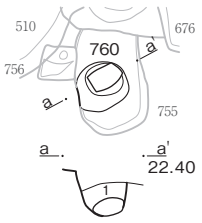
SP747（D面）





759
1 暗茶褐色土（灰褐色粘土含、ローム粒・ロームＢ少含）
2 茶褐色土　（ローム粒・ロームＢ多含）
3 暗茶褐色土（ローム粒・ロームＢ多含）

SD759（D面）

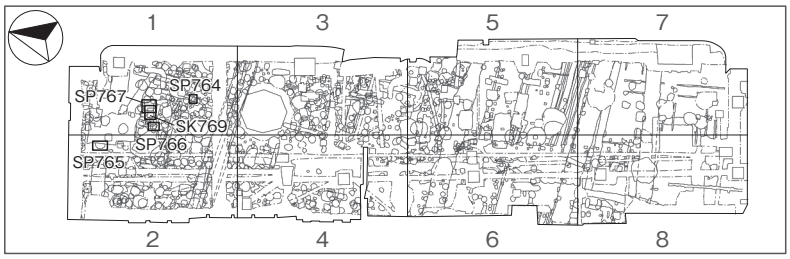


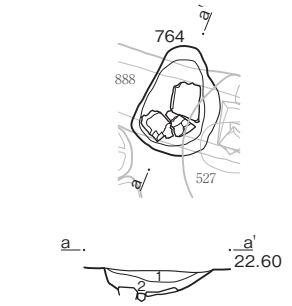
760
1 灰褐色土（ローム粒・炭化物少含、粘性強）

SP760（D面）

0　（S=1/60）　2m

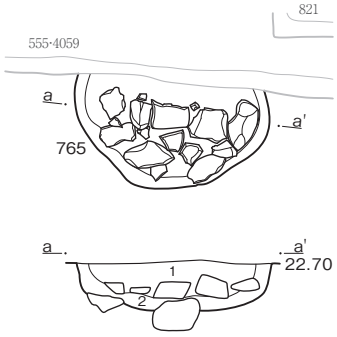
Ⅲ-72図　SP745･1084、SP746、SP747、SD759、SP760





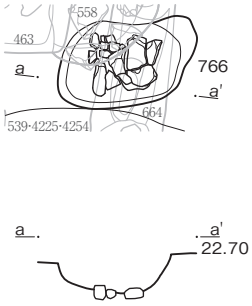
764
1 暗茶褐色土（暗褐色土・黒色土粒・焼土が斑状を成す、しまり強）
2 暗褐色土　（1層近似土、礫極多含、しまり強）

SP764（C面）

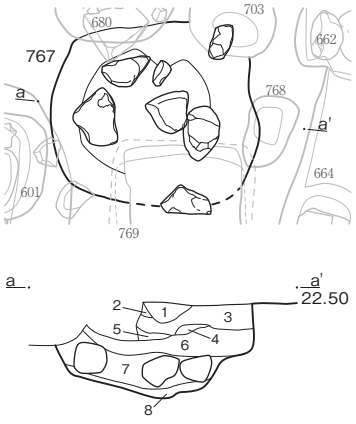


765
1 暗褐色土（礫主体、暗褐色土、ローム粒多含、粘性なし、しまり強）
2 記載無し

SP765（C面）

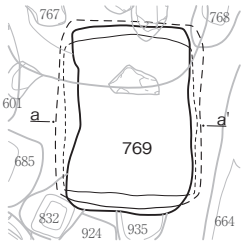


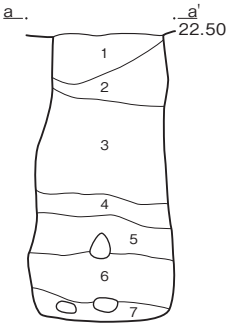
SP766（C～D面）



767
1 茶褐色土　（ローム粒多含、しまり極強）
2 灰褐色土　（ローム粒・粘土質B含）
3 暗茶褐色土（焼土・小石多含、粘性弱、しまりなし）
4 黒褐色土　（焼土・炭含、しまり極強）
5 砂利層　　（角張っていて粉っぽい、4～5ｃｍ程の大きさ）
6 茶褐色土　（丸石が敷き詰められ、それを覆うように茶褐色土が堆積、粘性弱）
7 灰色土　　（砂質の灰色土主体、片礫極多含、粘性なし、しまり強）
8 暗褐色土　（暗褐色土・黒褐色土・ローム土が斑状を成す、しまり強）

SP767（C～D面）



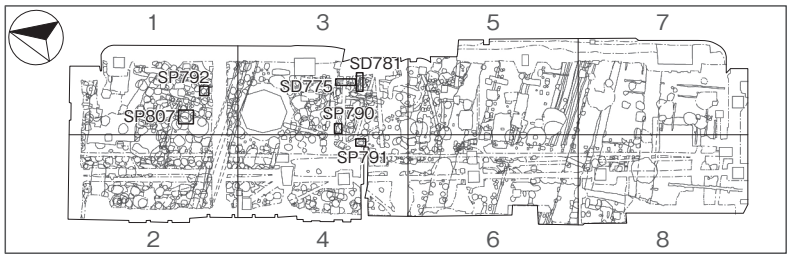


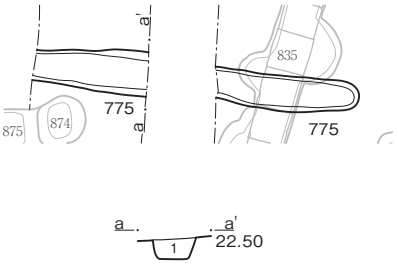
769
1 暗黄褐色土（暗褐色土、ロームB極多含）
2 暗褐色土　（ローム B多含、礫極少含）
3 暗灰褐色土（暗灰褐色土と4層シルト質土が斑状を成す、粘性なし）
4 灰色土　　（灰色シルト質主体、黄色シルト斑状混入、鉄分凝集、粘性・しまりなし）
5 暗茶褐色土（6層に近似、円礫多含、しまりなし）
6 茶褐色土　（暗灰褐色シルト質土中に大量の鉄分凝集、円礫極多含、しまりなし）
7 暗灰褐色土（ややシルト質、礫極少含、しまりなし）

SK769（C～D面）

0　（S=1/60）　2m

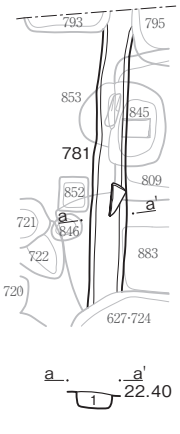
Ⅲ-73図　SP764、SP765、SP766、SP767、SK769





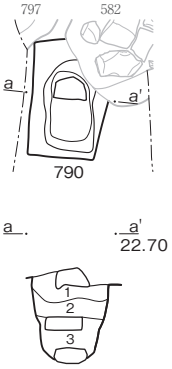
775
1 暗褐色土（灰色砂多含、炭化物極少含、粘性極強、しまり強）

SD775（D面）



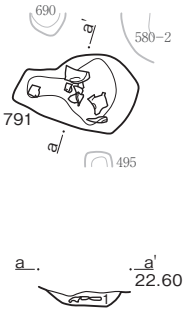
781
1 黒褐色土（ロームB・黒色土含、粘性弱、しまりなし）

SD781（D面）



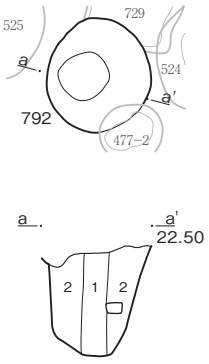
790
1 茶褐色土　（ローム粒・焼土少含、炭化物極少含）
2 暗褐色土　（円礫多含、ローム粒少含、しまり強）
3 暗茶褐色土（ローム粒含）

SP790（C面）



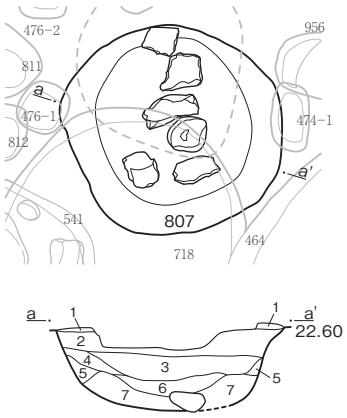
791
1 暗茶褐色土（角礫多含、小礫含、ローム粒少含、しまり強）

SP791（D面）



792
1 黄褐色土　（礫極少含、粘性・しまりなし）
2 黄褐色土　（ローム混合、角礫少含）

SP792（C～D面）

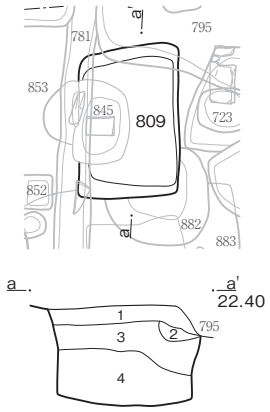


807
1 黄茶褐色土（ローム土主体、下層に焼土の薄い層を挟む）
2 暗黄褐色土（ローム土主体、暗褐色土を縞状に挟む部分あり、礫極少含）
3 暗褐色土　（礫極多含、しまり強）
4 暗茶褐色土（暗褐色土、焼土少含、礫極少含、粘性なし、しまりなし）
5 暗黄褐色土（ローム土と暗褐色土が斑状を成す、しまり強）
6 暗灰褐色土（灰色砂質土主体、礫多含、粘性なし、しまり強）
7 暗褐色土　（礫極多含、灰色砂質土多含、しまり強）

SP807（D面）

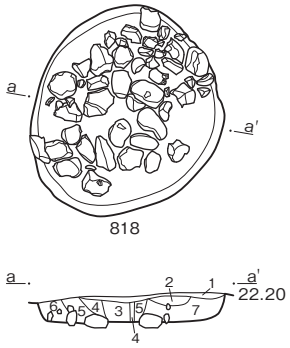
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-74図　SD775、SD781、SP790、SP791、SP792、SP807



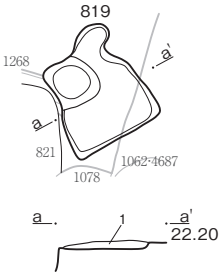
809
1 暗褐色土　（灰色シルト・ロームB少含、粘性・しまり強）
2 灰色シルト（黄色砂含、暗褐色土少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土　（ロームB多含、粘性・しまり強）
4 暗褐色土　（ロームB少含、粘性極強、しまり弱）

SK809（D面）



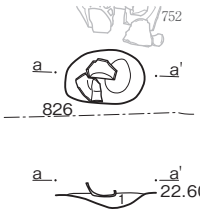
818
1 茶褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・礫多含、炭化物少含、粘性強・しまり強）
2 明灰褐色土（砂礫多含、ローム粒少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 記載無し
4 明灰色土　（砂質粘土、礫多含、ローム粒・焼土粒極少含、粘性なし、しまり強）
5 明褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物・礫少含、粘性・しまり強）
6 明褐色土　（やや砂質、ローム粒・砂礫少含、しまり弱）
7 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、礫少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり強）

SP818（D面）



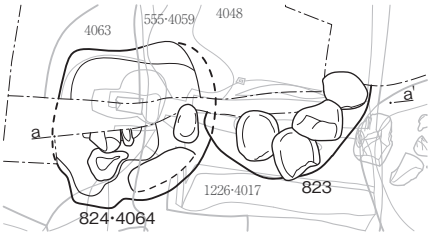
819
1 明褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒少含、炭化物極少含、しまり強）

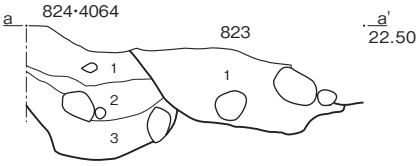
SK819（E面）



826
1 褐色土（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・礫少含、しまり強）

SP826（C面）





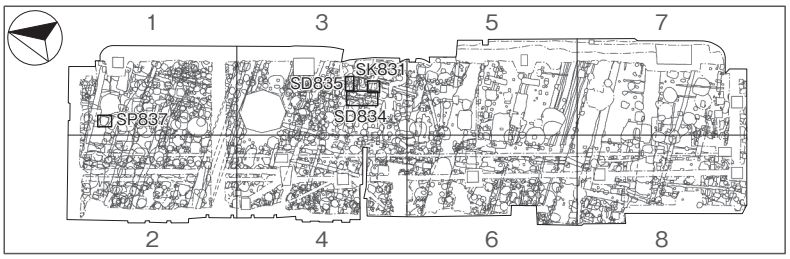
823
1 茶褐色土（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・炭化物・礫・能舞台の漆喰B少含、しまり強）

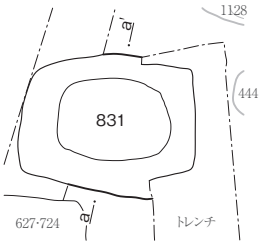
824
1 黄褐色土（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・炭化物少含、しまり強）
2 褐色土　（砂質強、ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・焼土B少含、炭化物極少含、しまり弱）
3 茶褐色土（やや砂質、ローム粒少含、焼土粒・礫極少含、しまり強）

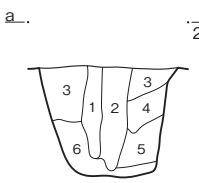
SP823、SP824･4064（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-75図　SK809、SP818、SK819、SP826、SP823、SP824･4064

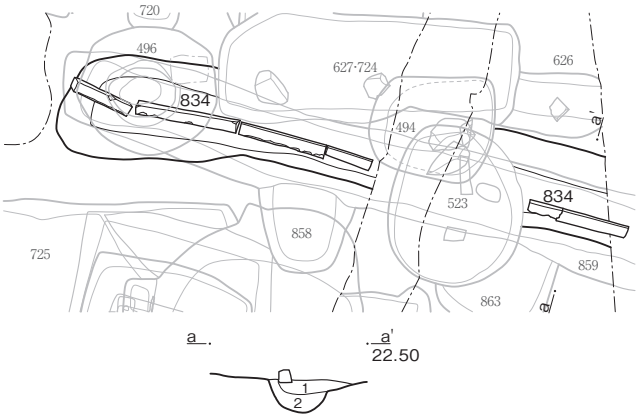






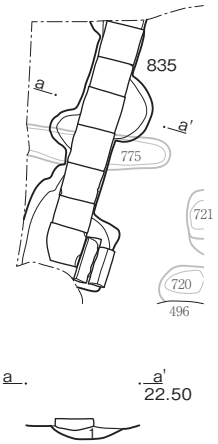
831
1 灰褐色土　（ローム粒・円礫少含、粘性弱、しまりなし）
2 暗茶褐色土（ローム粒・黒色土含、円礫少含）
3 黒褐色土　（ロームB多含）
4 暗黄褐色土（ロームBにより構成、しまり弱）
5 黒褐色土　（3層より暗い、ロームB含、しまり弱）
6 黄褐色土　（黒色土少含、粘性強）

SK831（G面）



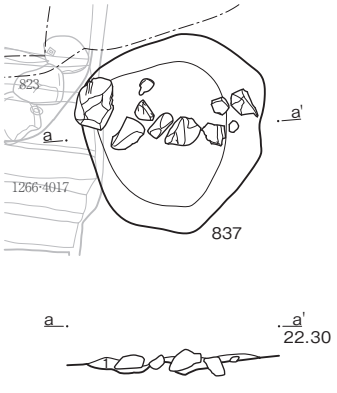
834
1 灰褐色土（円礫多含、ローム粒少含、粘性弱、しまり極強）
2 茶褐色土（円礫多含、ローム粒含、粘性強、しまり極強）

SD834（D面）



835
1 茶褐色土（ローム粒含）

SD835（D面）

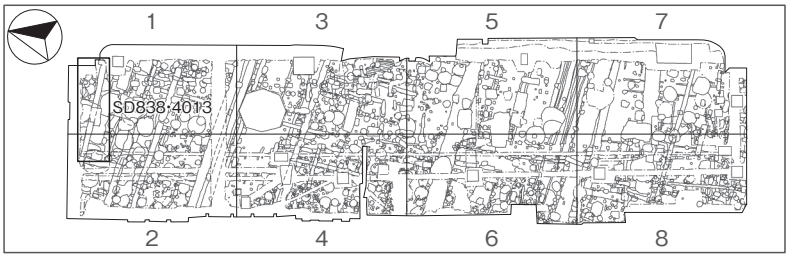


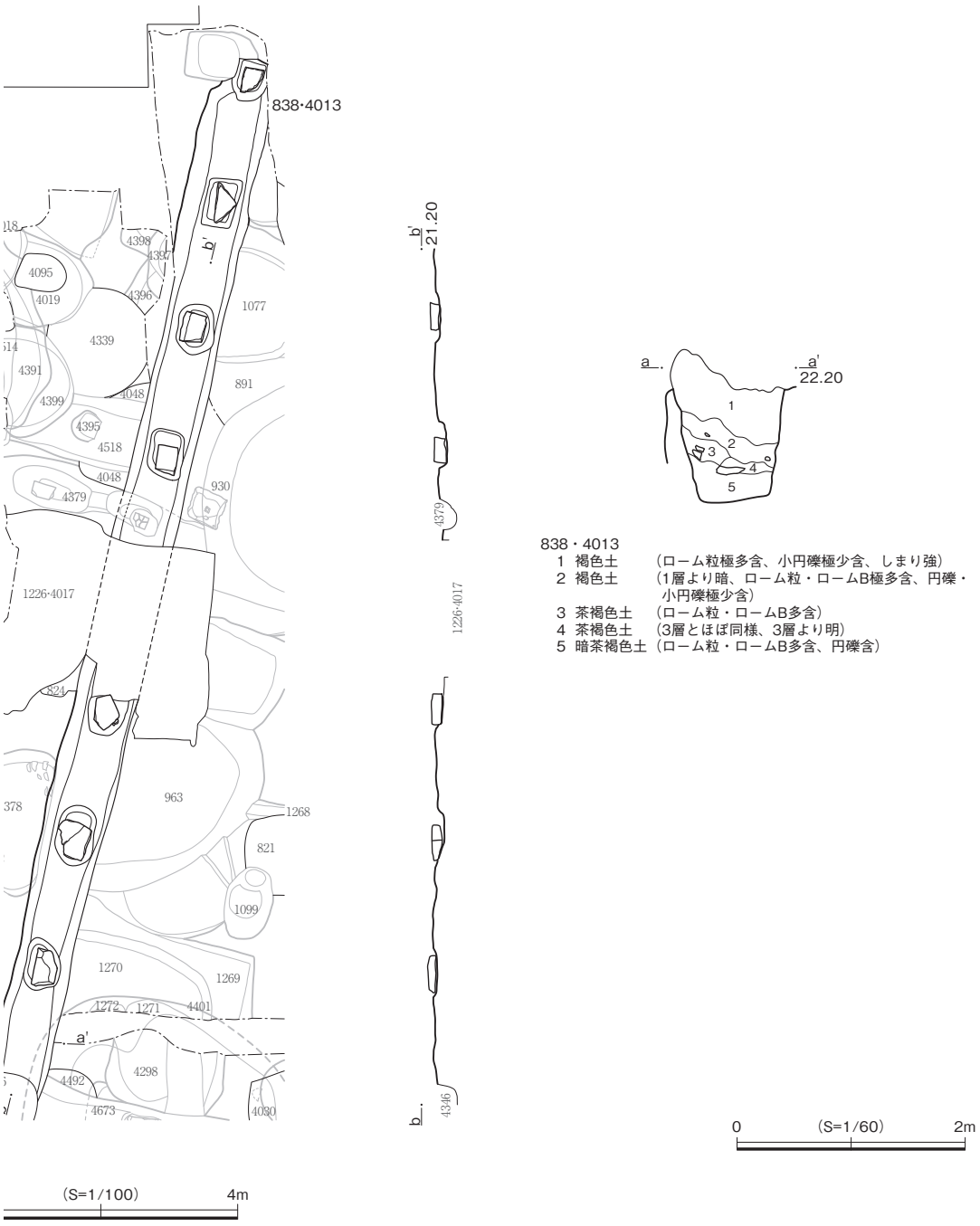
837
1 褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土多含、炭化物少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

SP837（C面）

0　（S=1/60）　2m

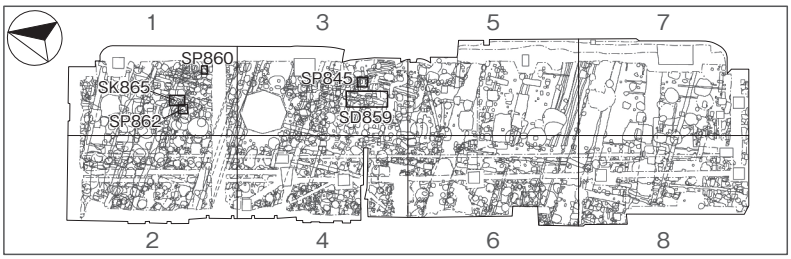
Ⅲ-76図　SK831、SD834、SD835、SP837

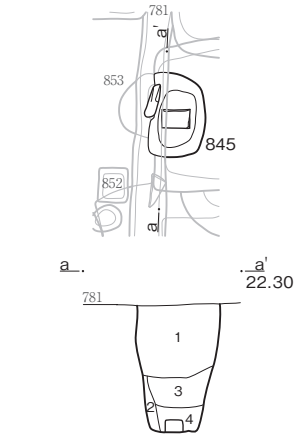




SD838·4013（E面）

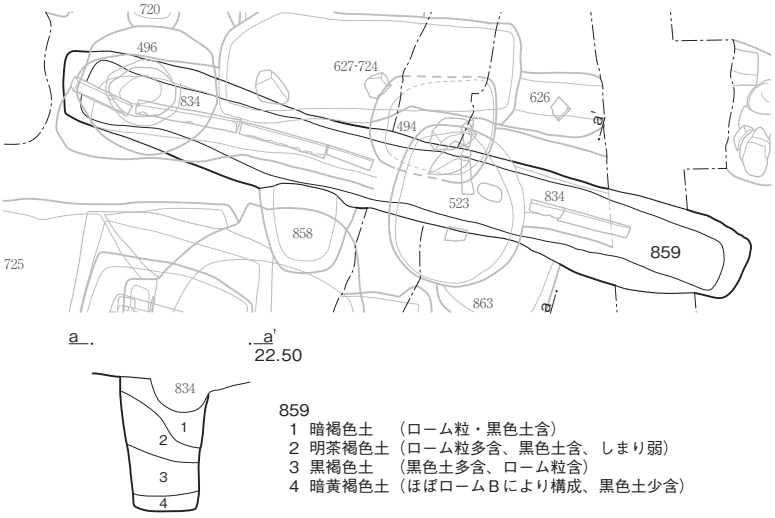
Ⅲ-77図　SD838·4013





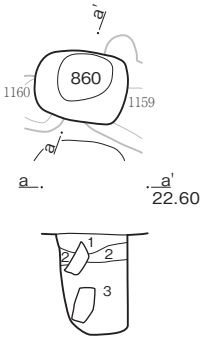
845
1 黒褐色土（ローム粒・黒色土B・小石多含、粘性・しまり強）
2 黒褐色土（ロームB極多含、粘性・しまり強）
3 黒褐色土（3層に比べてロームの含みは大幅に減る、粘性強、しまり弱）
4 黒褐色土（ローム粒極少含、粘性・しまり強）

SP845（D面）



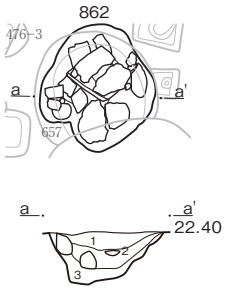
859
1 暗褐色土　（ローム粒・黒色土含）
2 明茶褐色土（ローム粒多含、黒色土含、しまり弱）
3 黒褐色土　（黒色土多含、ローム粒含）
4 暗黄褐色土（ほぼロームＢにより構成、黒色土少含）

SD859（D面）



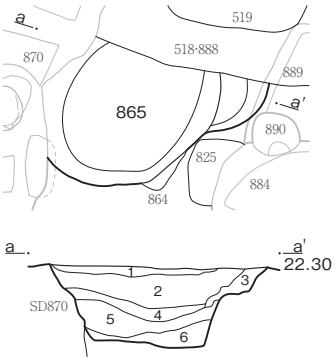
860
1 黄褐色土（焼土・炭多含、瓦・釘含、円礫少含）
2 茶褐色土（ロームＢ・焼土・円礫多含）
3 黄褐色土（焼土・円礫多含、粘性・しまりなし）

SP860（E面）



862
1 暗茶褐色土（暗褐色土、礫極多含、ローム粒・焼土多含、粘性なし）
2 暗黄褐色土（ローム土と黒褐色土が縞状を成す、礫極多含、しまり強）
3 黒褐色土　（ローム粒多含、礫極少含、しまり強）

SP862（D面）

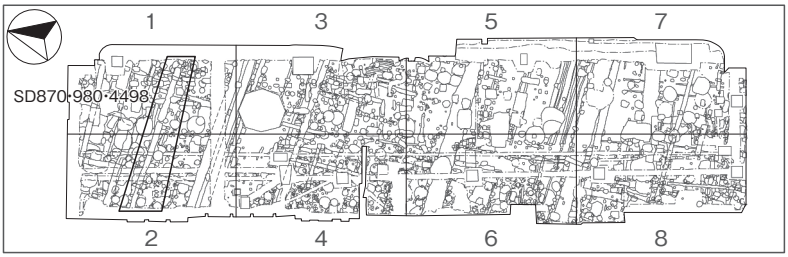


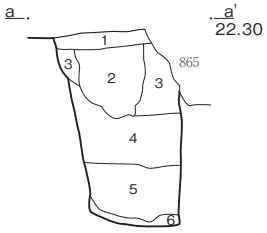
865
1 褐色土　（礫多含、ローム粒・ロームB・炭化物少含、焼土粒・焼土B極少含、粘性・しまり強）
2 褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、貝含、黒色土・焼土粒・炭化物・礫少含、しまり強）
3 茶褐色土（やや砂質、礫多含、ローム粒・焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり強）
4 黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土・焼土粒・炭化物少含、礫極少含、しまり強）
5 褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB・黒色土・焼土粒・炭化物・礫少含、しまり強）
6 暗褐色土（砂質やや強い、ローム粒・ロームB・黒色土・焼土粒・焼土B・炭化物少含、しまり強）

SK865（E面）

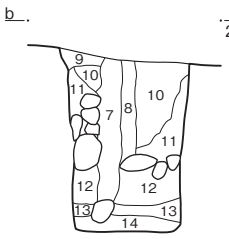
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-78図　SP845、SD859、SP860、SP862、SK865

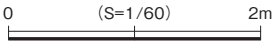


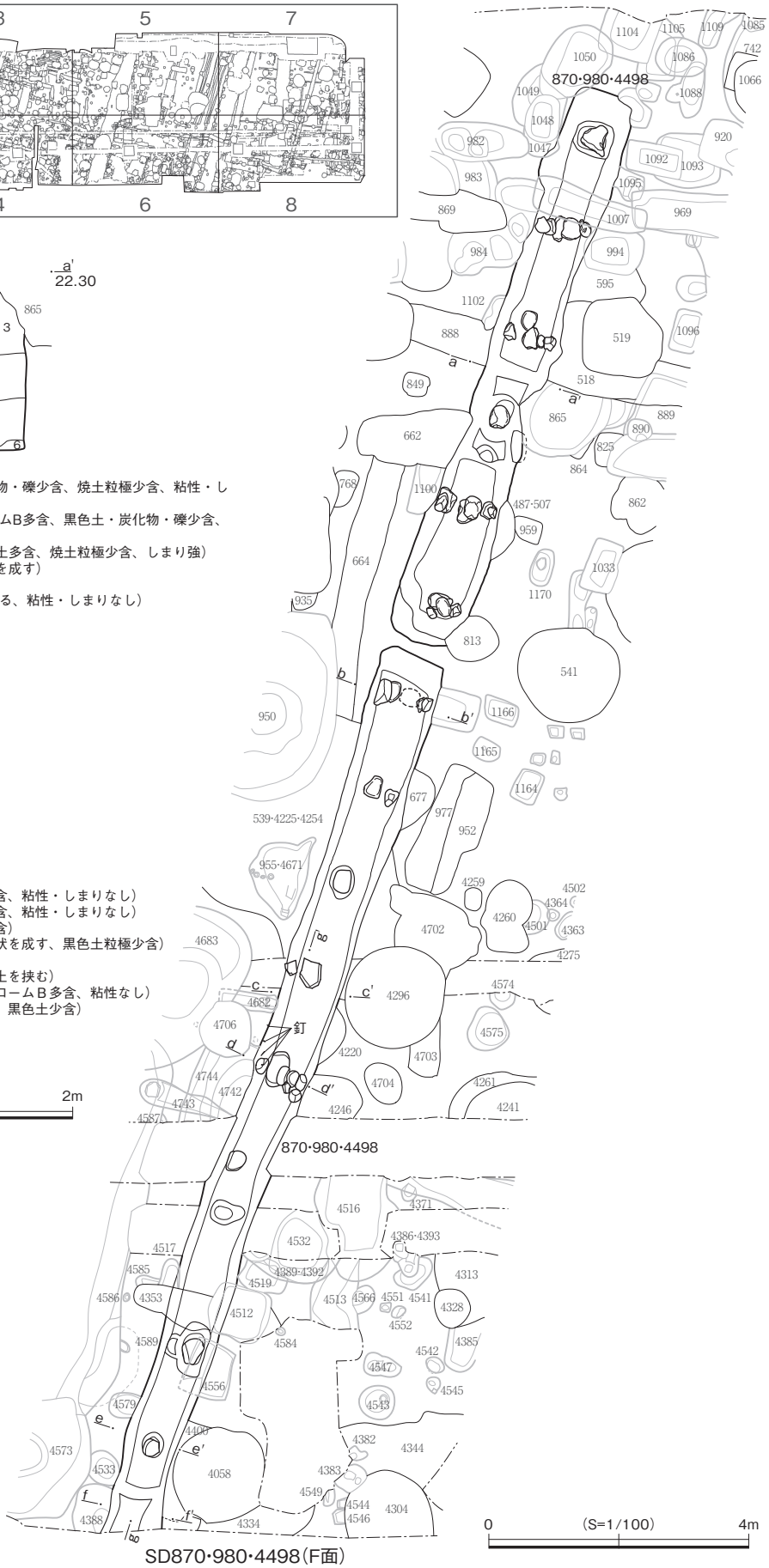


870・980・4498
1 茶褐色土（ローム粒・ロームB・炭化物・礫少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、黒色土・炭化物・礫少含、焼土粒極少含、しまり強）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土多含、焼土粒極少含、しまり強）
4 暗褐色土（黒褐色土とロームBが斑状を成す）
5 黄褐色土（ロームB主体）
6 黒褐色土（黒褐色土と暗褐色土が混じる、粘性・しまりなし）



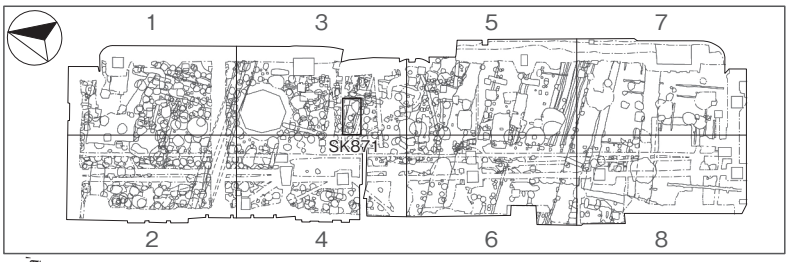
870・980・4498
7 暗褐色土　（柱痕、ローム粒・礫極少含、粘性・しまりなし）
8 黒褐色土　（柱痕、暗褐色土・炭極多含、粘性・しまりなし）
9 黒褐色土　（暗褐色土多含、ローム粒含）
10 暗黄褐色土（暗褐色土とロームBが斑状を成す、黒色土粒極少含）
11 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
12 暗黄褐色土（ロームB主体、間に黒色土を挟む）
13 黒褐色土　（黒色土主体、ローム粒・ロームB多含、粘性なし）
14 黄褐色土　（ローム粒・ロームB主体、黒色土少含）

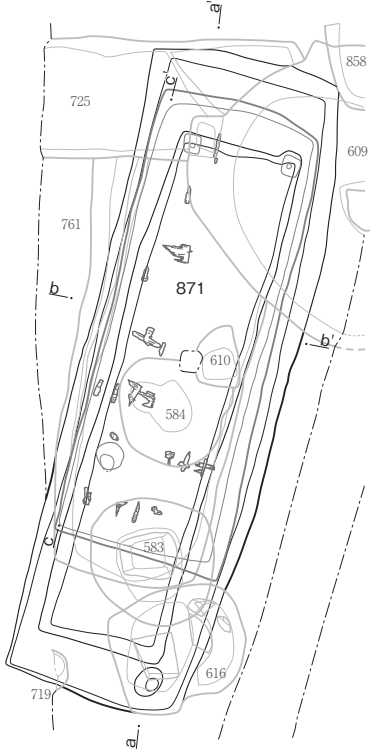




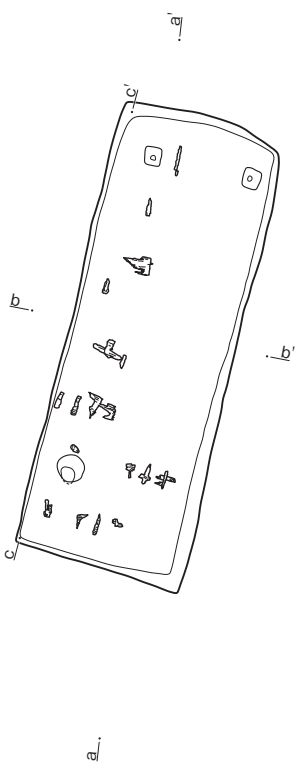
SD870·980·4498（F面）

Ⅲ-79図　SD870·980·4498

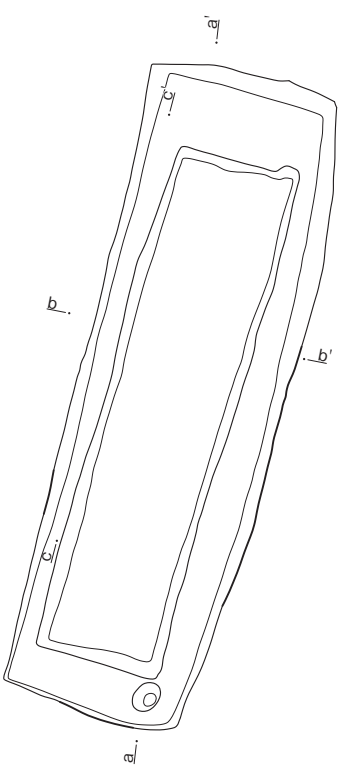




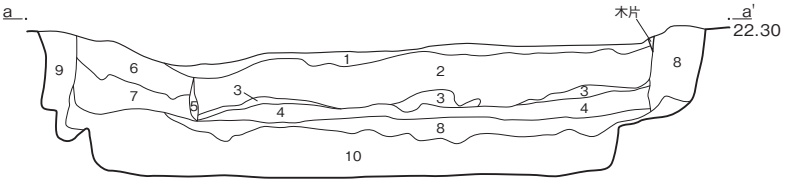
平面図

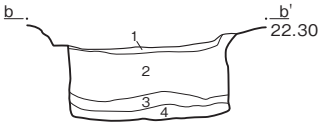


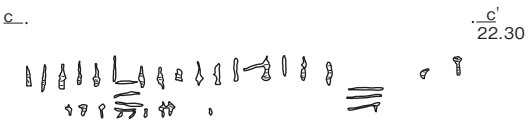
木枠検出状態



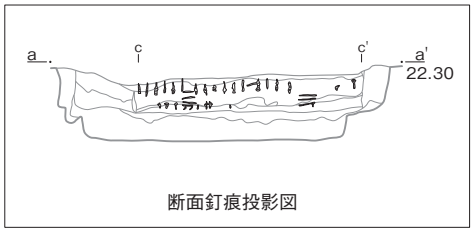
完掘状態







北壁釘痕(見通し)



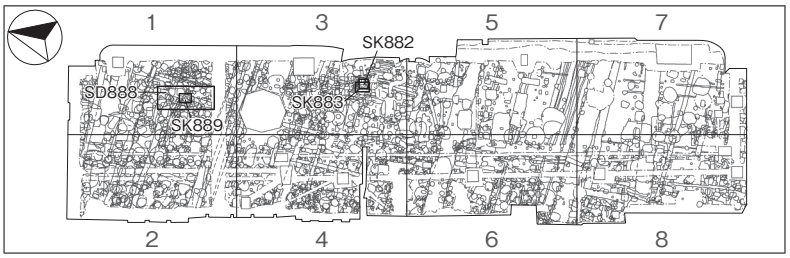
断面釘痕投影図

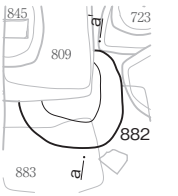
871
1 茶褐色土 (小円礫多含、ローム粒含、粘性弱、しまり強)
2 橙褐色土 (純焼土層、炭化物・焼け瓦少含、粘性・しまりなし)
3 炭化物層
4 灰白色土シルト層 (炭化物・小円礫少含、粘性強、しまりなし)
5 茶褐色土 (焼土粒少含、粘性・しまり弱)
6 橙褐色土 (純焼土層、粘性・しまりなし)
7 灰白色土シルト層 (炭化物・小円礫少含、粘性強)
8 茶褐色土 (ローム粒多含、ロームB極少含)
9 黄褐色土 (ほぼロームで構成される)
10 黒褐色土 (ローム粒・ロームB極多含)

0 (S=1/60) 2m

SK871(D面)

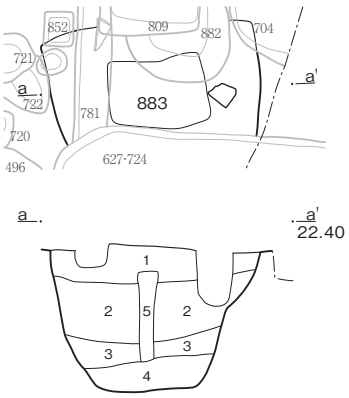
Ⅲ-80図　SK871





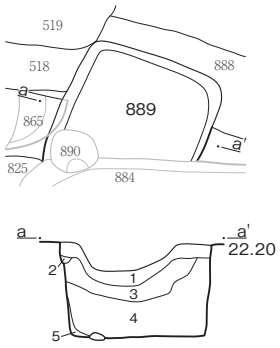
882
1 暗褐色土（ローム B・小礫極多含、粘性強、しまり弱）

SK882（D面）



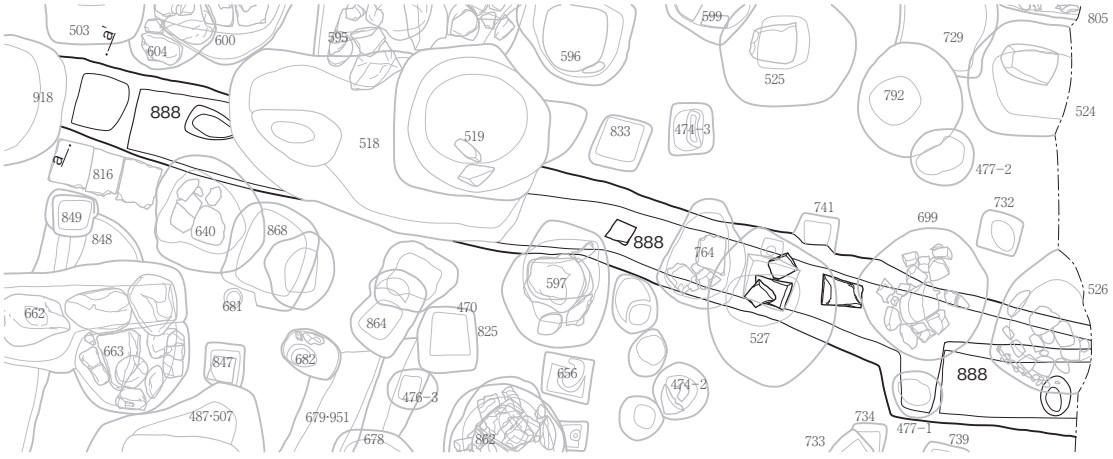
883
1 暗褐色土　（ローム B多含、粘性・しまり強）
2 黒色土　（ローム B多含、粘性・しまり強）
3 暗黄褐色土（ローム主体、黒色土少含、粘性極強、しまり強）
4 暗黄褐色土（黒色土少含、粘性極強、しまり弱）
5 暗褐色土　（ローム B少含、粘性強、しまり弱）

SK883（D面）



889
1 黒褐色土（炭多含、ローム B・焼土少含、粘性・しまり弱）
2 黒褐色土（1層より暗い、ローム B・焼土・炭少含、粘性・しまり弱）
3 焼土　（被熱の加減により色調が灰黄～赤褐色までを呈する、炭多含、ローム B少含、粘性なし、しまり弱）
4 焼土　（被熱の加減により色調が灰黄～赤褐色までを呈する、粘性なし、しまり弱）
5 黒褐色土（小石含、粘性・しまり弱）

SK889（E面）

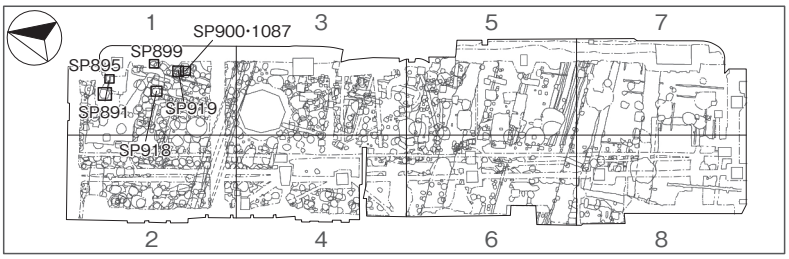


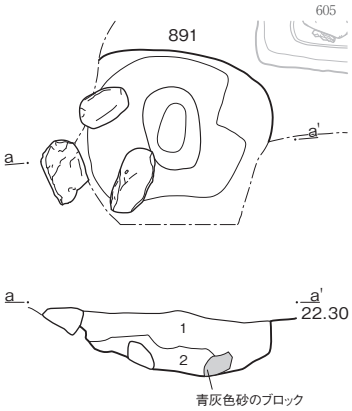
888
1 灰褐色土（砂状、小石少含、粘性なし）
2 茶褐色土（ローム B極多含、小石多含、炭少含、粘性なし）
3 黒褐色土（ローム B・小石多含、粘性弱、しまりなし）

SD888（D面）

0　（S=1/60）　2m

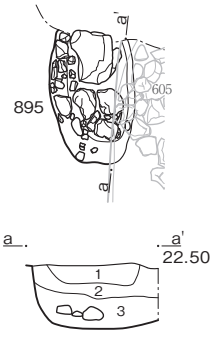
Ⅲ-81図　SK882、SK883、SD888、SK889





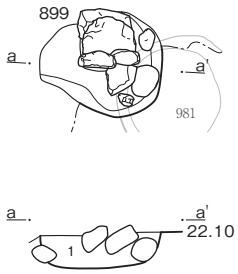
891
1 明褐色土（やや砂質、礫多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり強）
2 灰褐色土（礫・石多含、ローム粒極少含、粘性・しまり強）

SP891（D面）



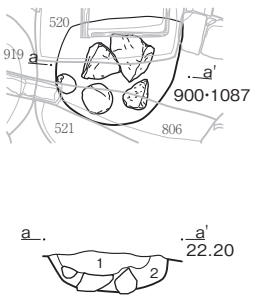
895
1 明褐色土（礫・ローム粒・ロームB多含、炭化物少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 明褐色土（礫主体、ローム粒・炭化物少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
3 褐色土（礫多含、ローム粒・炭化物少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

SP895（D面）



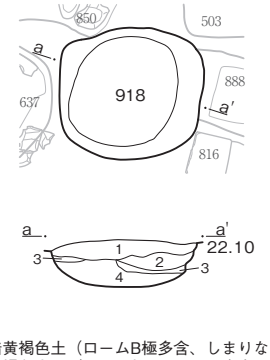
899
1 灰褐色土（礫・ローム粒・ロームB多含、瓦片含、炭化物少含、焼土粒極少含、粘性極強、しまり強）

SP899（D面）



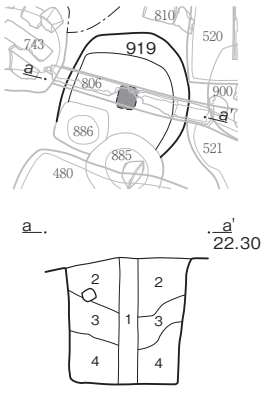
900
1 暗茶褐色土（礫極多含、焼土多含、しまり強）
2 暗褐色土（ローム粒多含、炭極少含、しまり強）

SP900·1087（D面）



918
1 暗黄褐色土（ロームB極多含、しまりなし）
2 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含、しまりなし）
3 暗茶褐色土（焼土と黒色土の混合土、砂利極多含、粘性なし）
4 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含）

SP918（D面）

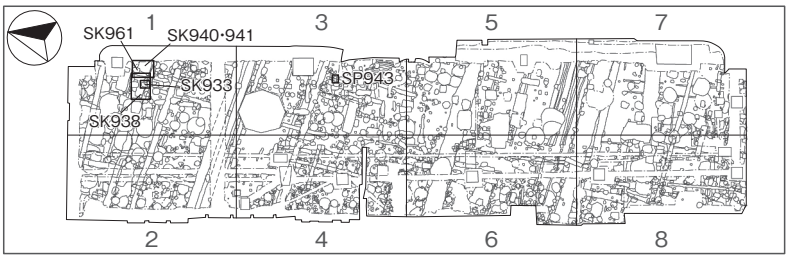


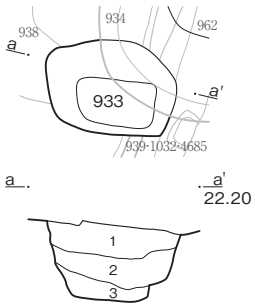
919
1 暗茶褐色土（焼土極多含、粘性・しまりなし）
2 暗黄褐色土（ローム粒極多含、しまり強）
3 暗灰褐色土（粘質の灰褐色土・暗褐色土・ローム混入、凝灰岩砕礫を部分的に含む）
4 暗褐色土（ロームB多含）

SP919（D面）

0 (S=1/60) 2m

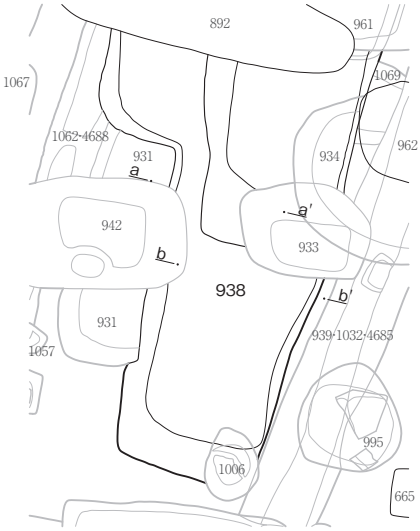
Ⅲ-82図　SP891、SP895、SP899、SP900·1087、SP918、SP919

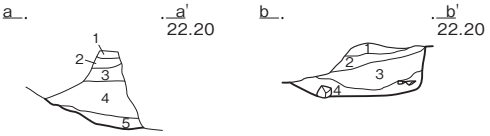




1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土・焼土粒・炭化物・礫少含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、黒色土・焼土粒・焼土B・炭化物・礫少含、しまり強）
3 暗黄褐色土（砂質強、ローム粒・ロームB・黒色土多含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）

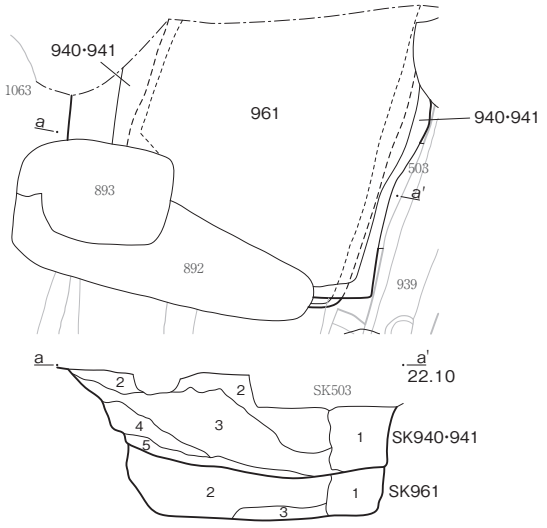
SK933（E面）





1 灰褐色土　（砂質やや強い、焼土粒少含、ローム粒・炭化物極少含、粘性・しまり強）
2 黒褐色土　（砂質やや強い、黒色土多含、ローム粒・ローム B・焼土粒少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 灰褐色土　（砂質やや強い、ローム粒・ローム B・焼土粒・焼土 B・炭化物多含、礫少含、粘性・しまり強）
4 暗灰褐色土（砂質強、ローム粒・ローム B・焼土粒・焼土 B・炭化物多含、礫極少含、粘性・しまり強）
5 暗黄褐色土（砂質強い、ローム粒・ローム B・礫多含、焼土粒少含、黒色土・炭化物極少含、しまり強）

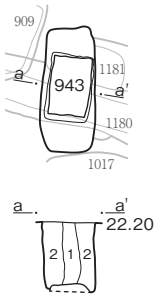
SK938（F面）



SK940・941
1 暗褐灰色土（砂質やや強い、瓦片含、ローム粒・ローム B・炭化物・礫少含、焼土粒極少含、粘性なし、しまり強）
2 黄褐色土　（ローム粒・ローム B・礫多含、焼土粒・炭化物少含、しまり強）
3 褐灰色土　（やや砂質、炭化物・礫多含、ローム粒・ローム B・焼土粒少含、粘性なし、しまり強）
4 褐灰色土　（砂質やや強い、ローム粒・炭化物少含、焼土粒・礫極少含、粘性なし、しまり強）
5 黄褐色土　（ローム粒・ローム B 多含、黒色土少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性強、しまり強）

SK961
1 暗褐灰色土（砂質強、ローム粒・ローム B・礫多含、炭化物少含、粘性なし、しまり弱）
2 灰褐色土　（砂質やや強い、炭化物多含、ローム粒・ローム B・焼土粒・礫少含、粘性なし、しまり強）
3 灰褐色土　（砂質強、礫・ローム粒・ローム B 多含、炭化物少含、焼土粒極少含、粘性なし、しまり強）

SK940·941（E面）、SK961（F面）

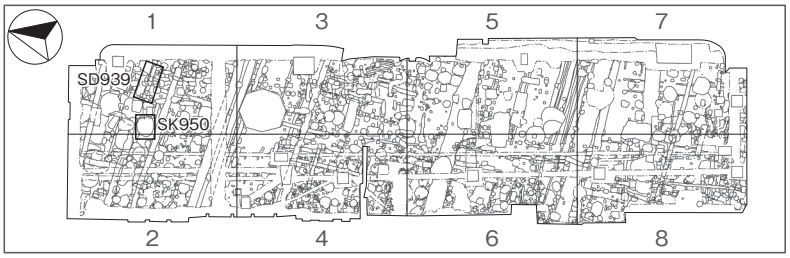


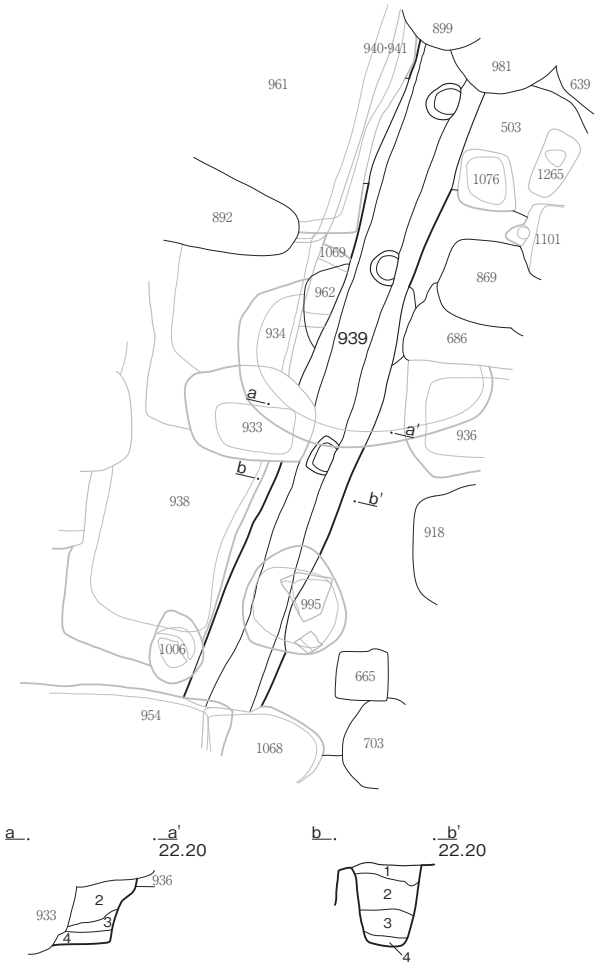
1 暗褐色土（ローム粒・小円礫極少含）
2 褐色土　（ローム粒・ローム B 含、しまり強）

SP943（E面）

0　（S=1/60）　2m

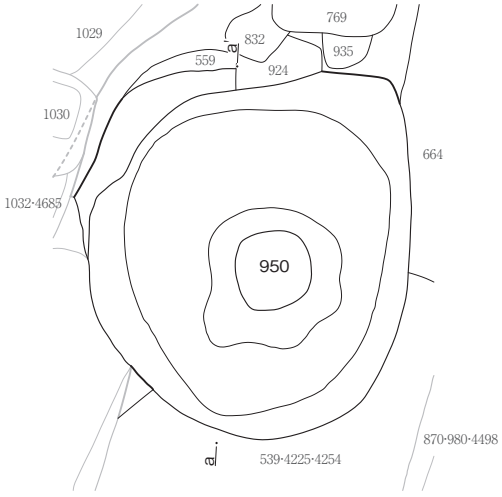
Ⅲ-83図　SK933、SK938、SK940·941、SP943、SK961

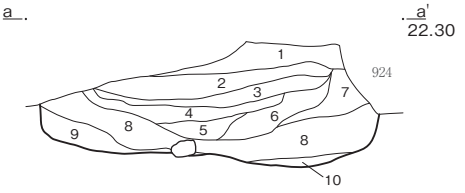




1 暗黄褐色土（やや砂質、ローム粒・ロームB・黒色土含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）
2 黒褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB・黒色土多含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
3 黄褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB多含、黒色土少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり強）
4 明黄褐色土（やや砂質、ローム主体、黒色土少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）

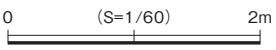
SD939（F面）



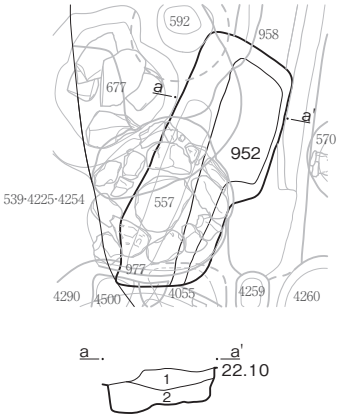


1 黒褐色土（大ロームB極多含、粘性弱、しまり強）
2 黒色土　（小ロームB含、炭化物極少含）
3 茶褐色土（ロームB・黒色土多含、粘性弱）
4 黒褐色土（小ロームB・焼土少含、粘性弱）
5 茶褐色土（ロームB・ローム粒・炭化物多含）
6 茶褐色土（大ロームB多含、炭化物少含、しまり弱）
7 茶褐色土（ロームB・炭化物含、小石少含、しまり弱）
8 茶褐色土（大ロームB極多含、小石極少含、粘性弱）
9 茶褐色土（ロームB多含、小石含、黒色土B少含）
10 黒褐色土（ロームB含、しまり弱）

SK950（E面）

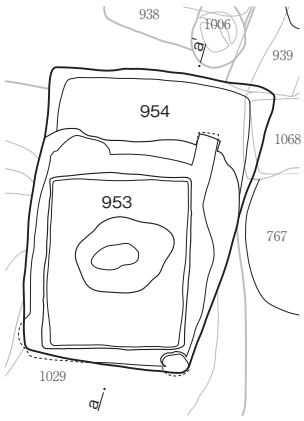


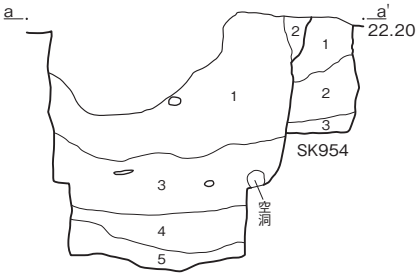
Ⅲ-84図　SD939、SK950



952
1 暗灰褐色土（暗灰色粘質土主体、炭化物多含、しまりなし）
2 暗灰褐色土（暗灰色粘質土ローム土が斑状を成す、瓦多含）

SD952（D面）



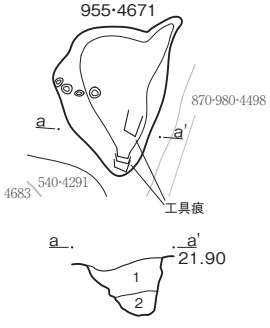


SK953

953
1 明褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームＢ多含、黒色土・礫少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）
2 黄褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームＢ多含、礫少含、焼土粒極少含、粘性なし、しまり強）
3 褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームＢ・礫多含、焼土粒・炭化物少含、粘性なし、しまり弱）
4 褐色土　（砂質強、ローム粒・ロームＢ・焼土粒・炭化物少含、しまり強）
5 褐色土　（砂質強、ローム粒・ロームＢ少含、粘性なし、しまり弱）

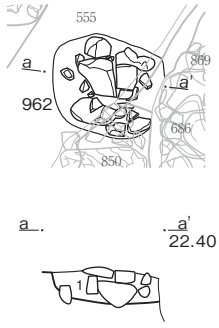
954
1 黄褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームＢ多含、黒色土・焼土粒・炭化物・礫少含、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒・ロームＢ・焼土粒・炭化物・礫少含、粘性なし、しまり強）
3 明黄褐色土　（ローム主体、黒色土・炭化物少含、粘性・しまり強）

SK953（E面）、SK954（E面）



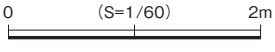
955・4671
1 灰色土（ローム粒・ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり弱）
2 灰色土（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり弱）

SK955･4671（G面）

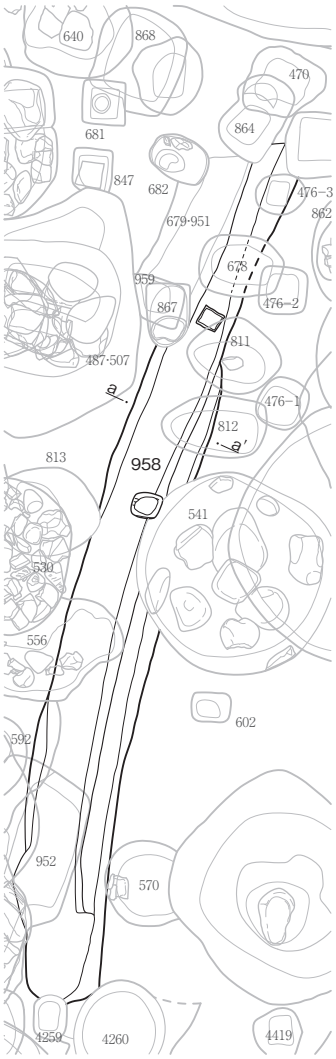


962
1 黄褐色土（ローム粒・ロームＢ多含、焼土粒少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）

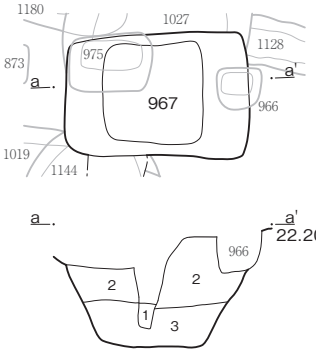
SP962（D面）



Ⅲ-85図　SD952、SK953、SK954、SK955･4671、SP962

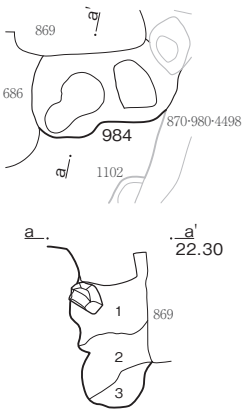


SD958（D面）



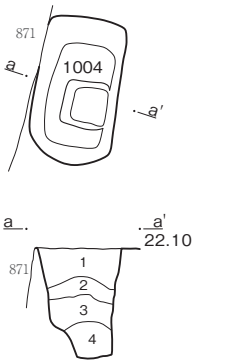
1 暗褐色土（ローム粒多含、粘性強、しまり極強）
2 黄褐色土（ローム主体、黒色土多含、粘性極強、しまり強）
3 黒色土　（ローム B 多含、粘性極強、しまり強）

SK967（E面）



1 黄褐色土（やや砂質、ローム粒・ローム B 多含、黒色土・炭化物・礫少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土（砂質やや強い、ローム粒・ローム B 多含、黒色土・炭化物極少含、しまり強）
3 黄褐色土（やや砂質、ローム主体、黒色土・焼土粒極少含、粘性・しまり強）

SK984（E面）

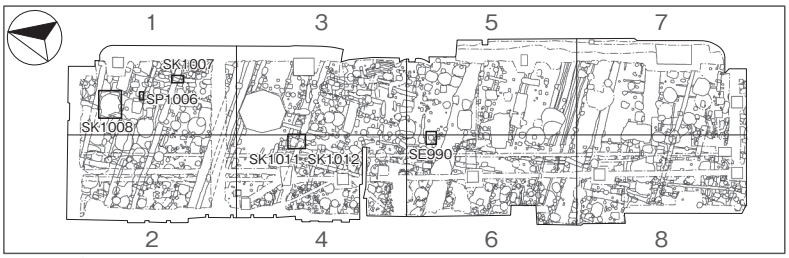


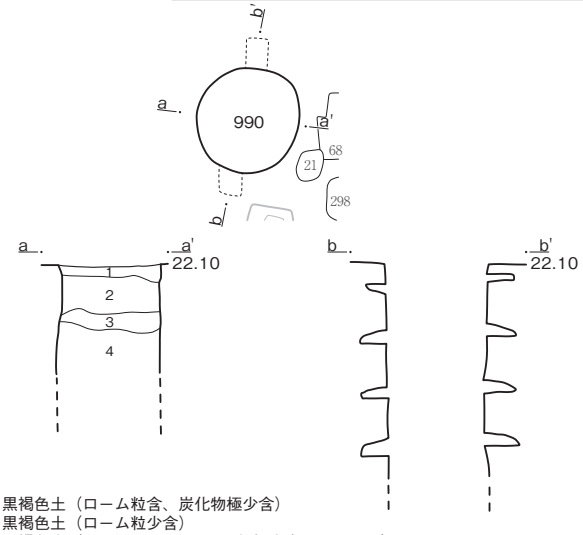
1 茶褐色土（ローム粒多含、ローム B 含）
2 暗褐色土（ローム粒少含）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成される、粘性・しまり弱）
4 暗褐色土（ローム粒含、ローム B 少含、粘性・しまり弱）

SK1004（F面）

0　（S=1/60）　2m

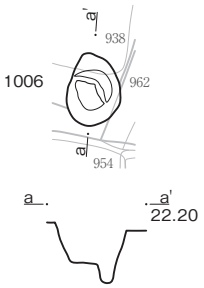
Ⅲ-86図　SD958、SK967、SK984、SK1004



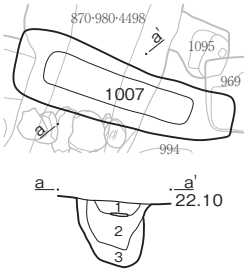


1 黒褐色土（ローム粒含、炭化物極少含）
2 黒褐色土（ローム粒少含）
3 黒褐色土（2層より黒い、ローム粒極少含、しまり弱）
4 黒褐色土（ローム粒含、しまり弱）

SE990（F面）

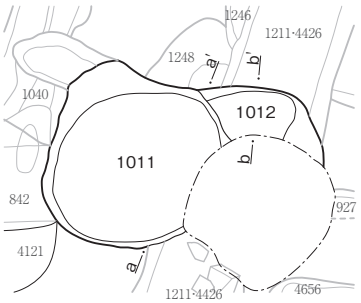


SP1006（E面）



1 灰褐色土　（粘土層、焼土含、しまりなし）
2 暗褐色土　（ローム粒・焼土・瓦・礫多含、しまりなし）
3 暗茶褐色土（ローム粒・焼土・礫多含、しまりなし）

SK1007（E面）

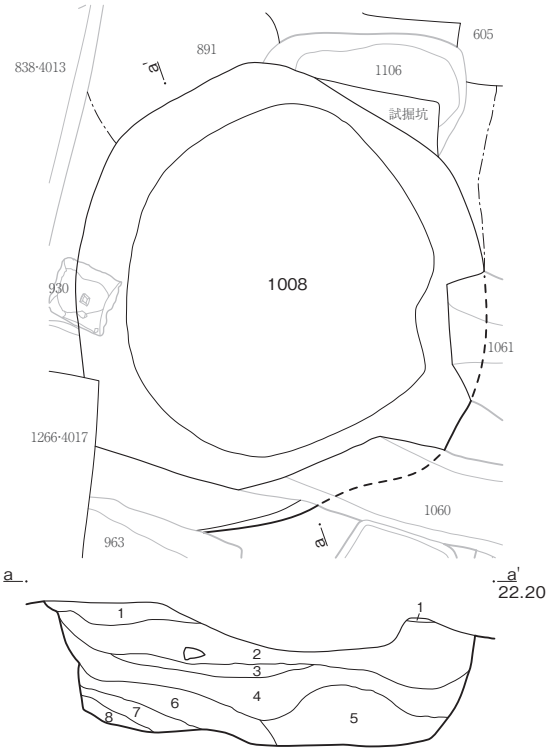


SK1011　　SK1012

SK1011
1 黄褐色土　（ほぼローム粒・ロームＢで構成）
2 黄褐色土　（ほぼロームＢで構成）
3 黄白色粘土（ロームＢ多含、粘性強、しまり弱）

SK1012
1 暗褐色土　（ローム粒少含、炭化物極少含、しまり強）
2 黄褐色土　（ローム粒・ロームＢ極多含）
3 褐色土　　（ほぼロームで構成、円礫多含）

SK1011（G面）、SK1012（F面）

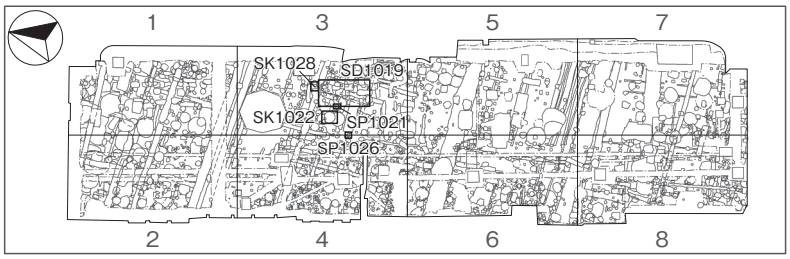


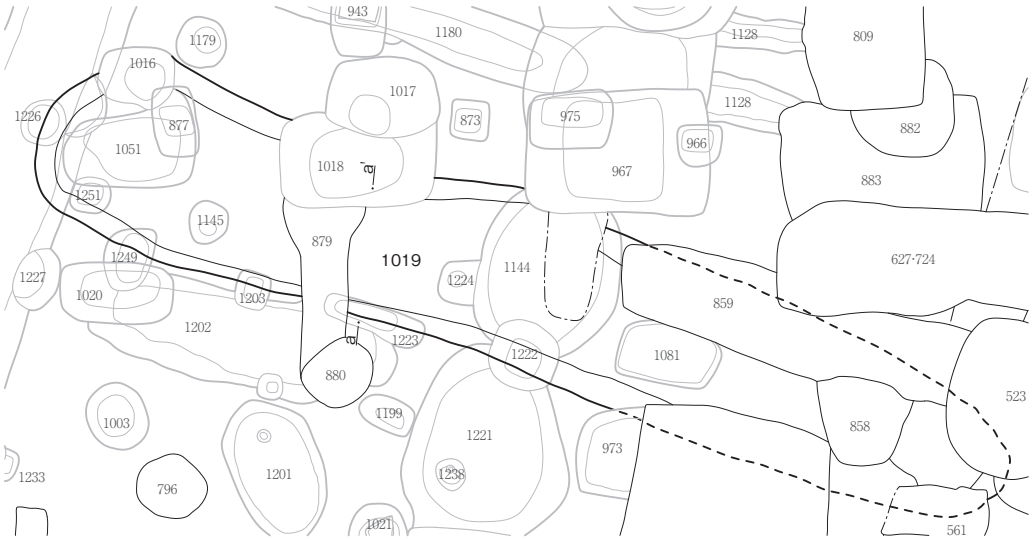
1 黒褐色土　（赤色スコリア少量、ローム粒・ロームＢ多含、粘性なし）
2 黄褐色土　（ローム粒・ロームＢ主体、暗褐色土・黒褐色土を挟む）
3 暗黄褐色土（ローム粒主体、暗褐色土粒・黒褐色土粒含）
4 暗褐色土　（ロームＢ多含）
5 暗黄褐色土（暗褐色土、ロームＢ極多含）
6 暗褐色土　（ローム粒・ロームＢ・黒色土Ｂ多含、粘性なし）
7 黄褐色土　（ロームＢ主体、暗褐色土を挟む、しまりなし）
8 暗褐色土　（ローム粒・ロームＢ多含、粘性・しまりなし）

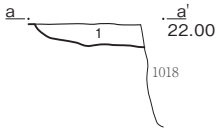
SK1008（E面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-87図　SE990、SP1006、SK1007、SK1008、SK1011、SK1012

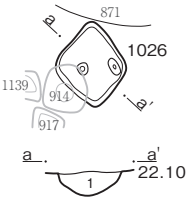






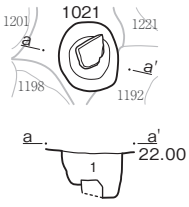
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含）

SD1019（F面）



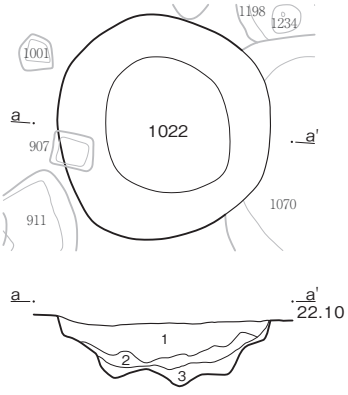
1 褐色土（ローム粒・ロームB少含）

SP1026（F面）



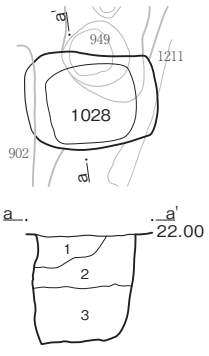
1 褐色土（ローム粒極多含、ロームB・小円礫少含）

SP1021（F面）



1 茶褐色土（ローム粒多含、ロームB・小円礫極少含）
2 黒褐色土（ローム粒少含、しまり弱）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成）

SK1022（F面）

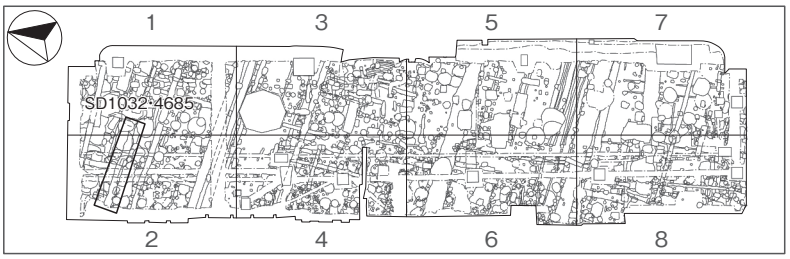


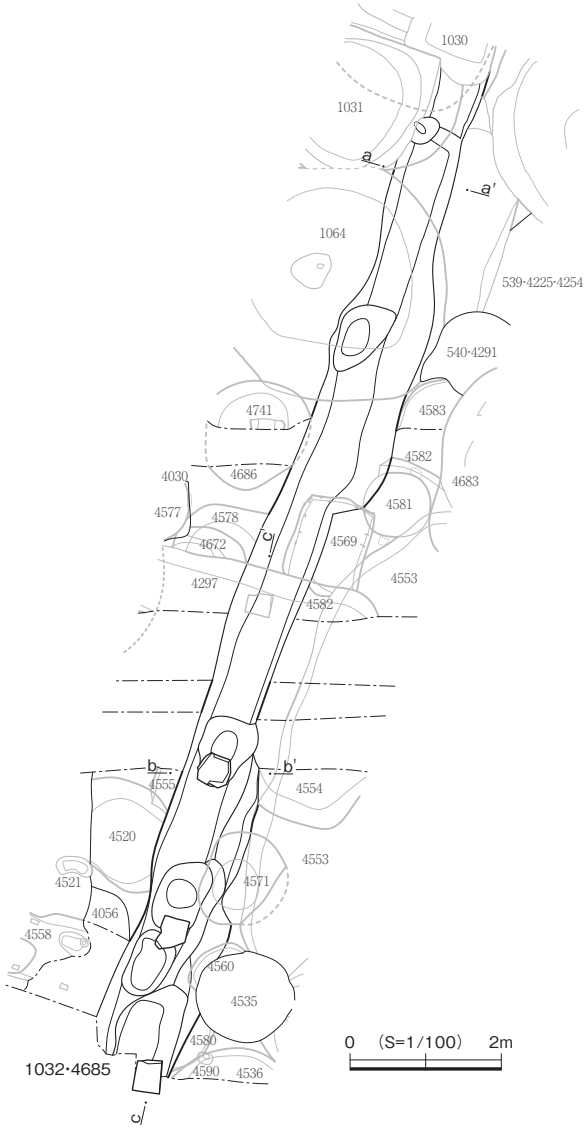
1 暗褐色土　（斑状にローム粒・ロームB・黒色土粒多含）
2 黄褐色土　（ローム粒極多含、ロームB多含、しまり弱）
3 暗茶褐色土（ローム粒多含、ロームB含）

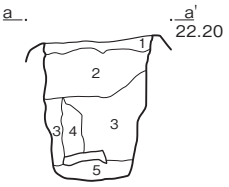
SK1028（F面）

0　（S=1/60）　2m

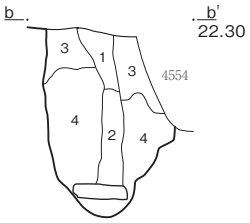
Ⅲ-88図　SD1019、SP1021、SK1022、SP1026、SK1028



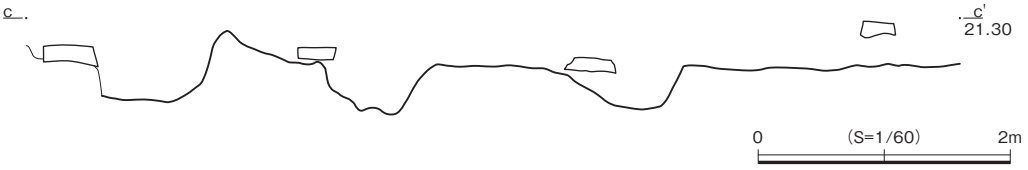




1 暗灰褐色土（暗褐色土、ローム粒・黒色土粒・礫多含）
2 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
3 暗黄褐色土（ローム粒・ロームBと黒色土が斑状を成す）
4 暗褐色土　（柱痕、ローム粒主体、ロームB・黒色土粒含、粘性・しまりなし）
5 暗褐色土　（暗褐色土・ローム土・黒色土の混合土、粘性・しまりなし）

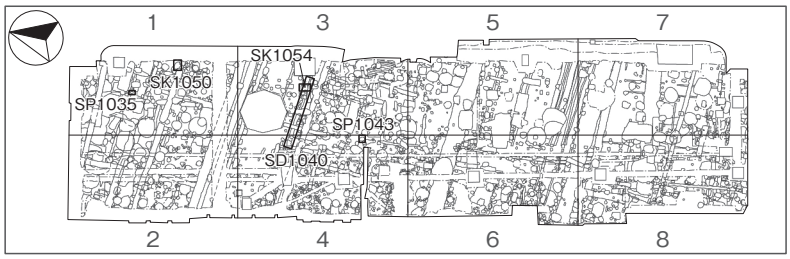


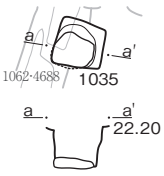
1 褐色土　（ローム粒多含、ロームB少含）
2 褐色土　（1層より暗、ロームB・ローム粒少含、しまり弱）
3 明褐色土（ローム粒・ロームB含、円礫・小円礫極少含）
4 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、円礫極少含）



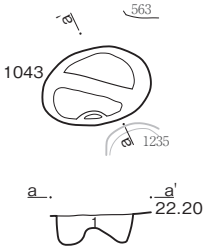
SD1032･4685（F面）

Ⅲ-89図　SD1032･4685



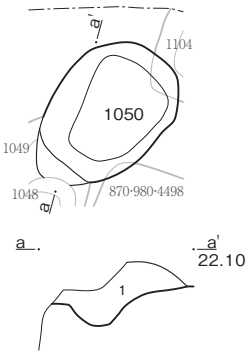


SP1035(E面)



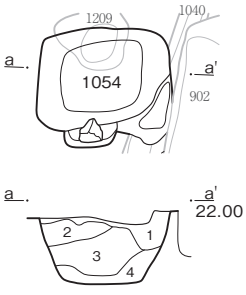
1 茶褐色土（ローム粒少含）

SP1043(F面)



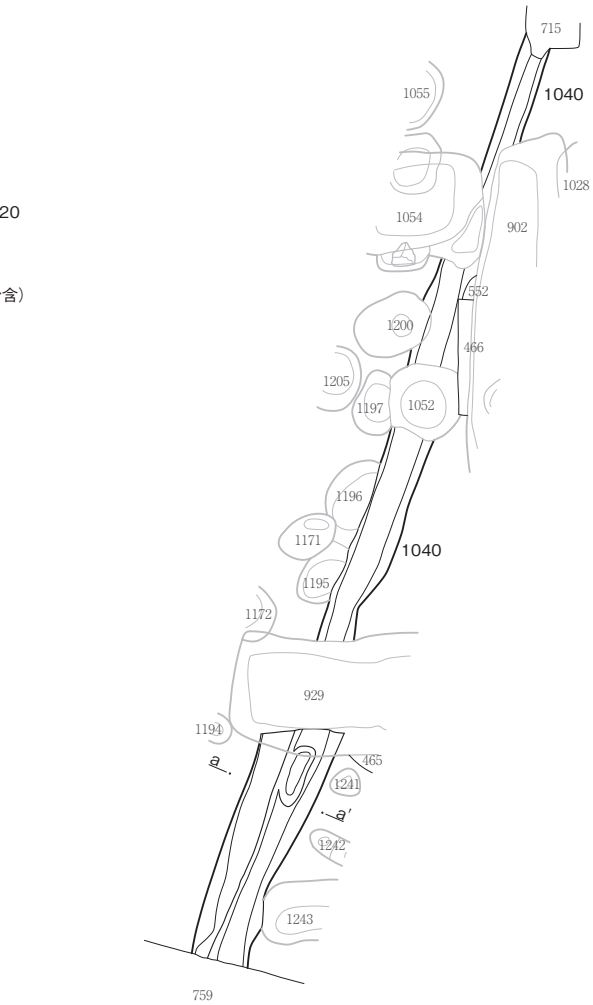
1 暗褐色土（円礫・角礫多含、ローム粒少含、粘性・しまりなし）

SK1050(E面)



1 黄褐色土（ほぼロームで構成、しまり極強）
2 褐色土　（ローム粒多含、ロームB含）
3 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含）
4 黄褐色土（ロームで構成）

SK1054(F面)

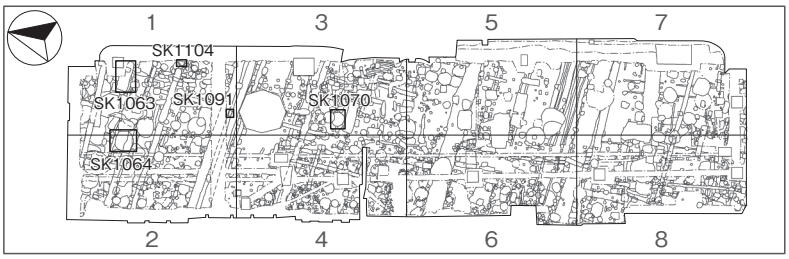


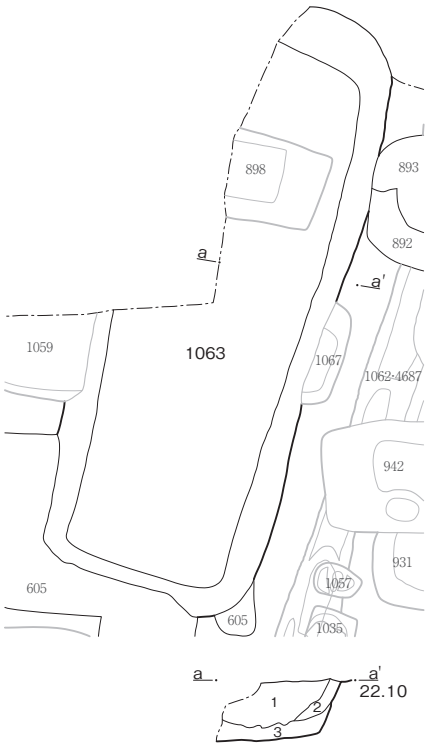
1 褐色土（ローム粒多含、ロームB少含）
2 褐色土（ローム粒含）

SD1040(F面)

0　(S=1/60)　2m

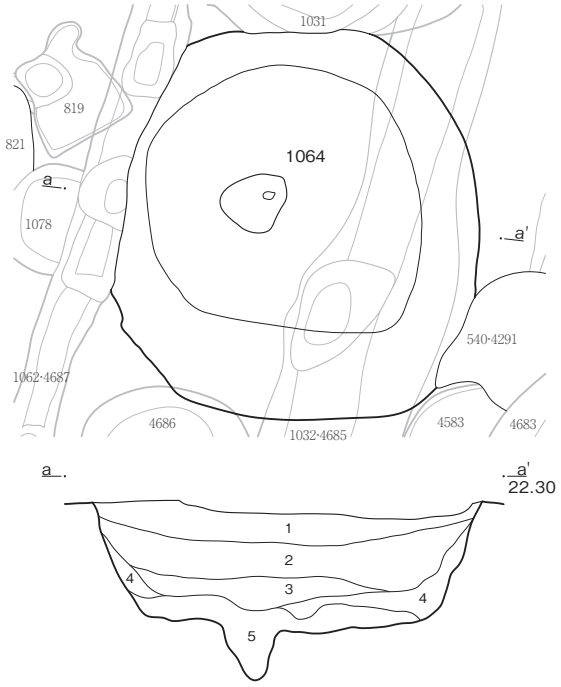
Ⅲ-90図　SP1035、SD1040、SP1043、SK1050、SK1054





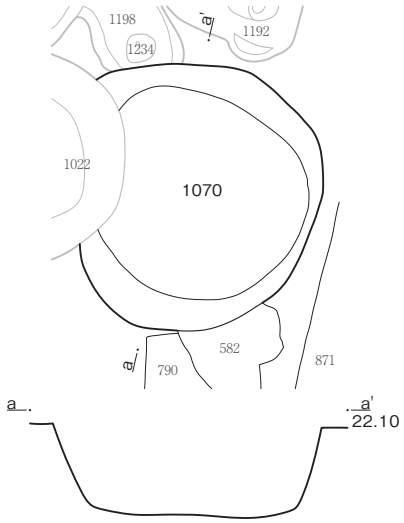
1063
1 黒色土　（ローム粒極少含、粘性なし）
2 暗黄褐色土（黒色土とローム土が斑状を成す、粘性・しまりなし）
3 暗灰褐色土（灰褐色土主体、砂・礫・炭多含）

SK1063（E面）

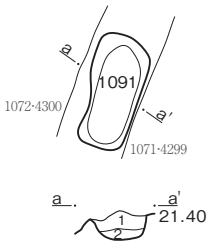


1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、礫多含）
2 暗灰褐色土（暗褐色土・ローム粒・ロームBの混合土、黒色土粒・礫少含）
3 黒褐色土　（黒褐色土とローム土が水平に縞状を成す）
4 暗褐色土　（ローム粒多含）
5 黄褐色土　（ロームB主体、粘性なし）

SK1064（E面）

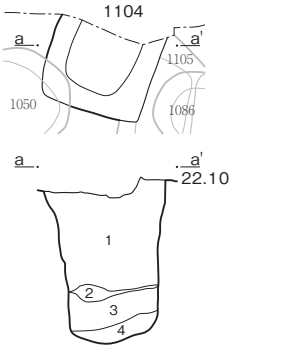


SK1070（F面）



1 黒褐色土（ローム粒少含）
2 黄褐色土（ほぼロームで構成される、黒色土粒少含）

SK1091（E面）

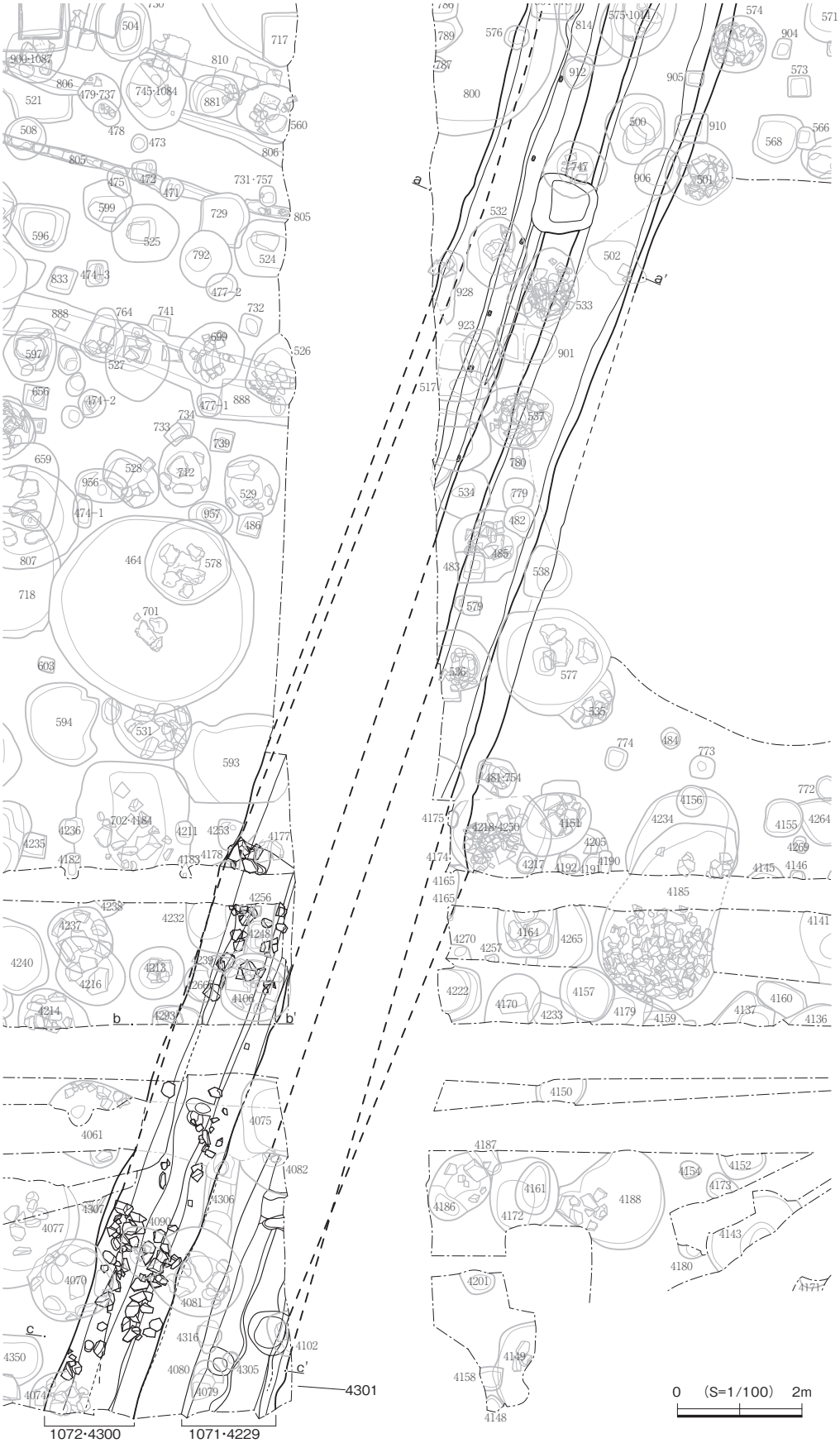


1 黒褐色土　（ローム粒多含）
2 黒色土　　（ローム粒少含）
3 暗茶褐色土（ロームB多含、黒色土含、しまり弱）
4 黒色土

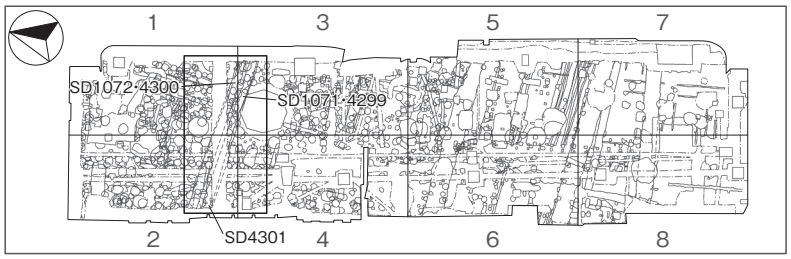
SK1104（F面）

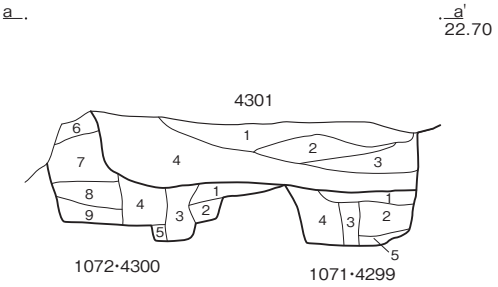
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-91図　SK1063、SK1064、SK1070、SK1091、SK1104



Ⅲ-92図　SD1071・4299、SD1072・4300、SD4301（1）

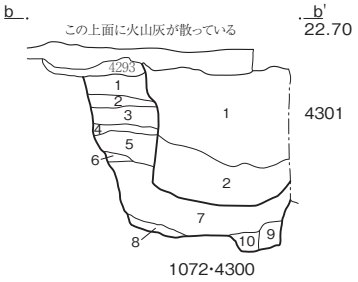




4301
1 黄褐色土　（粘性極強、しまり強）
2 黒褐色土　（石少含、粘性強、しまり弱）
3 黄褐色土　（粘性極強、しまり強）
4 暗灰色土　（粘性極強、しまり強）

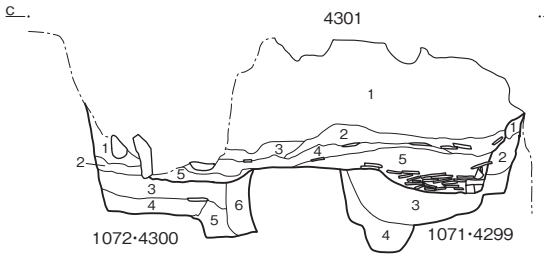
1071・4299
1 暗褐色土　（黒色土Ｂ少含、粘性極強、しまり強）
2 黒褐色土　（ロームＢ・砂利含、粘性強、しまり弱）
3 黒褐色土　（1層と同様、粘性強、しまり弱）
4 暗黄褐色土（ロームＢ多含、粘性・しまり強）
5 暗黄褐色土（粘性・しまり極強）

1072・4300
1 暗褐色土　（ロームＢ・黒色土含、粘性極強、しまり弱）
2 黒褐色土　（黒色土多含、粘性強、しまり弱）
3 暗褐色土　（ローム粒含、粘性極強、しまり弱）
4 黒色土　　（ロームＢ・砂利少含、粘性・しまり強）
5 暗黄褐色土（粘性極強、しまり強）
6 黒褐色土　（扁平な切石多含）
7 黒色土　　（瓦多含、粘性弱、しまり極強）
8 暗褐色土　（ローム粒含、粘性強、しまり極強）
9 黒色土　　（砂利少含、粘性極強、しまり強）



4301
1 黄褐色土　（ローム土で構成、黄褐色砂少含）
2 灰褐色土　（瓦片・ローム粒・炭化物少含）

4300
1 褐色土　　（ローム粒・ロームB多含）
2 黒褐色土　（剥片状の礫多含、ローム粒含）
3 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
4 黒褐色土　（ローム粒・ロームB・剥片状の礫多含）
5 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
6 暗褐色土　（ローム粒・剥片状の礫多含）
7 黒褐色土　（ローム粒・ロームB多含）
8 褐色土　　（ロームで構成、しまり強）
9 茶褐色土　（ローム粒少含、胴木痕、しまりなし）
10 黄褐色土　（ロームで構成、胴木の補強、しまり強）



4301
1 黄褐色土　　（ロームで構成）
2 灰褐色土　　（灰褐色粘土多含、ローム粒・円礫・小円礫少含、しまり強）
3 灰褐色土　　（灰褐色粘土極多含、ローム粒少含）
4 灰白色粘土層（ローム粒・焼土粒極少含、粘性・しまり強）
5 灰褐色粘土層（瓦片多含、粘性強）

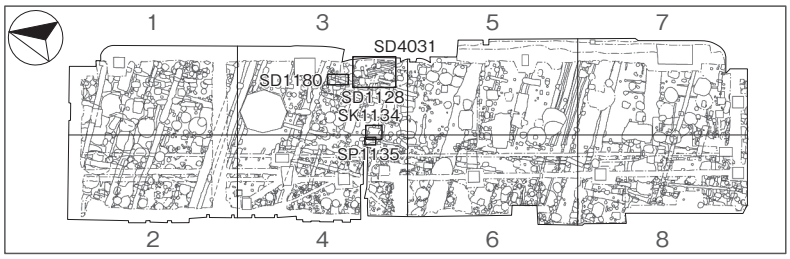
1071・4299
1 黒褐色土　　（ローム粒・ロームB少含）
2 黄褐色土　　（ローム粒・ロームBで構成）
3 茶褐色土　　（ローム粒・小円礫少含、ロームB極少含）
4 黄褐色土　　（ローム粒・ロームBで構成）

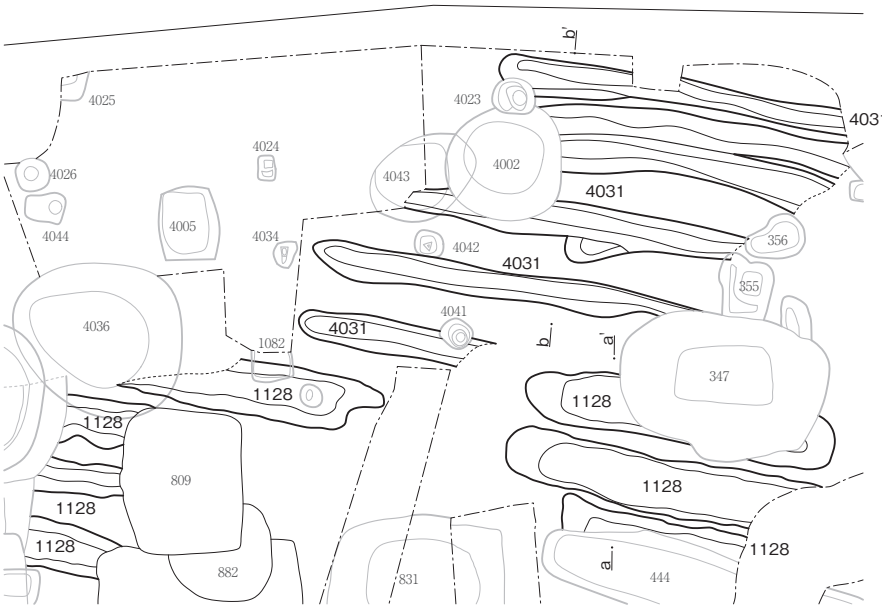
1072・4300
1 黄褐色土　　（ローム粒・ロームBで構成）
2 黒褐色土　　（ロームB・ローム粒少含）
3 黄褐色土　　（ほぼロームB・ローム粒で構成）
4 黒褐色土　　（剥片状の礫含、ローム粒少含）
5 褐色土　　（ローム粒・ロームBで構成、剥片状の礫含）
6 茶褐色土　　（ローム粒・剥片状の礫含、胴木の痕跡、しまりなし）

SD1071･4299、SD1072･4300、SD4301（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-93図　SD1071･4299、SD1072･4300、SD4301（2）

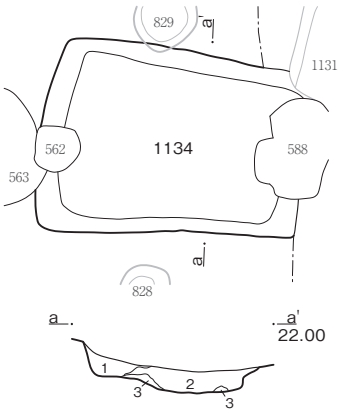




1 褐色土（ローム粒多含、黒色土粒含）

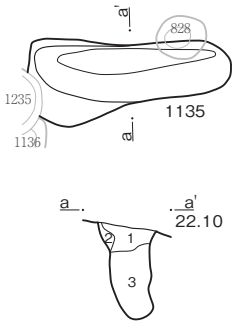
1 黒褐色土（ローム粒・焼土粒極少含）
2 黒褐色土（1層より明、ローム粒少含、焼土粒・炭化物極少含）

SD1128、SD4031（G面）



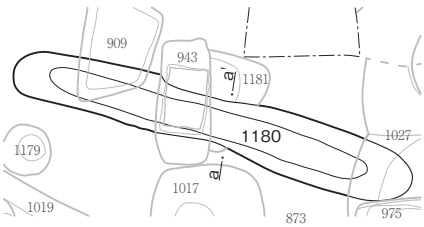
1 黄褐色土（ほぼロームで構成）
2 黒褐色土（ローム粒少含、焼土粒・炭化物極少含）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、黒色土粒少含）

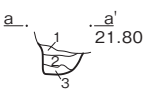
SK1134（E面）



1 暗褐色土（ローム粒・炭化物極少含、粘性・しまり弱）
2 黄褐色土（ほぼロームで構成、壁の剥落土と思われる）
3 暗褐色土（1層より暗い、貝少含、粘性・しまり弱）

SP1135（E面）



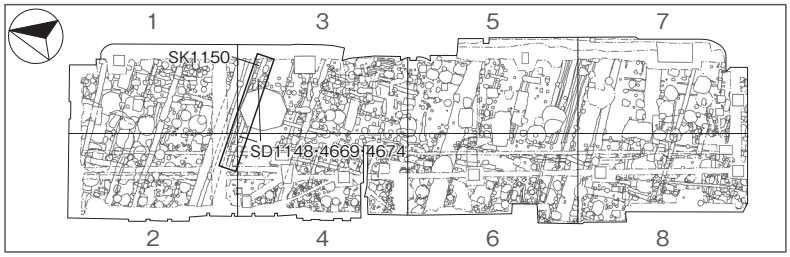


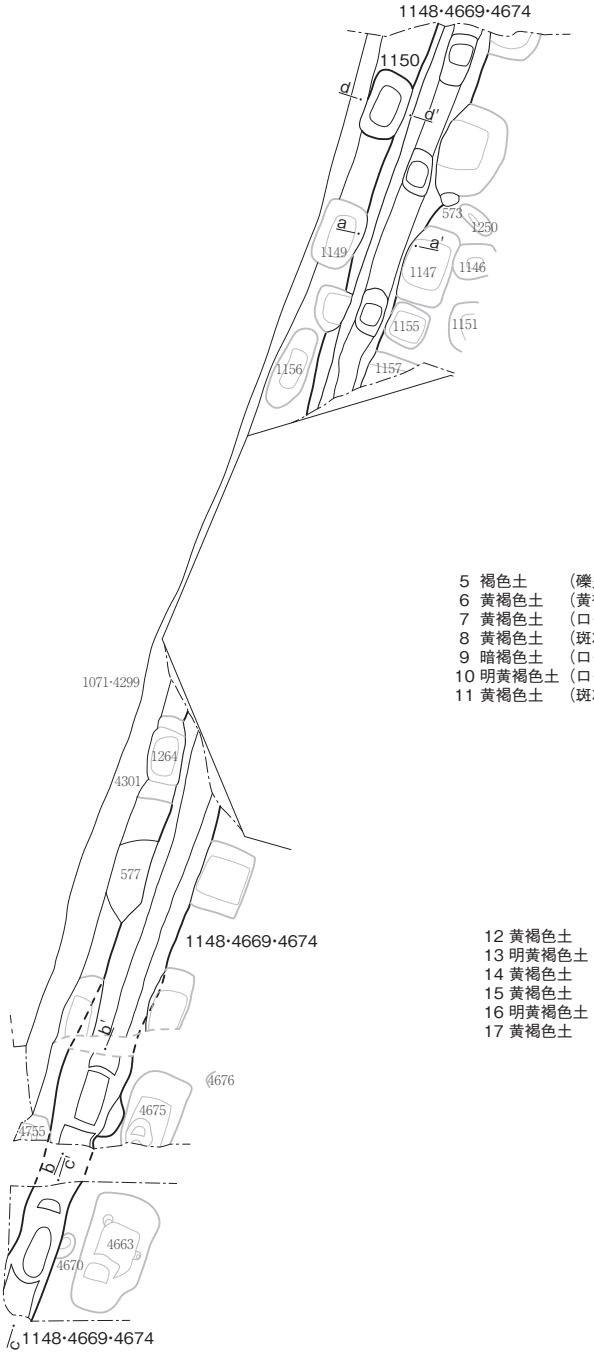
1 褐色土　（ローム粒含）
2 暗褐色土（ローム粒少含）
3 茶褐色土（ローム粒含）

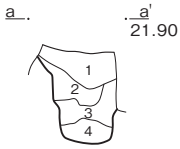
SD1180（F面）

0　（S=1/60）　2m

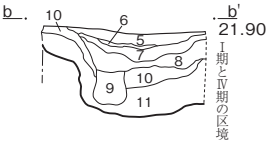
Ⅲ-94図　SD1128、SK1134、SP1135、SD1180、SD4031



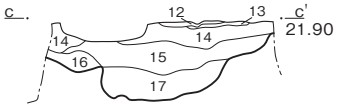




1 黒褐色土（上に柱の基礎あり、ローム粒多含、ロームB含、しまり強）
2 黄褐色土（ほぼロームBで構成、黒色土粒含）
3 黒褐色土（ローム粒多含、ロームB少含）
4 黄褐色土（ほぼローム粒・ロームBで構成）

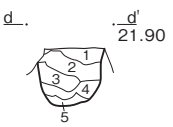


5 褐色土　（礫多含、ローム粒少含、粘性・しまり強）
6 黄褐色土　（黄褐色粗砂主体、ローム粒少含、粘性なし、しまり強）
7 黄褐色土　（ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B・砂岩状の石細片多含、粘性・しまり強）
8 黄褐色土　（斑状にロームB・黒色土B多含、粘性・しまり強）
9 暗褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、粘性・しまり弱）
10 明黄褐色土（ローム主体、黒色土B少含、粘性・しまり強）
11 黄褐色土　（斑状に黒色土B・ロームB多含、粘性・しまり強）



12 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・破砕礫多含、黒色土粒・黒色土B少含、しまり強）
13 明黄褐色土（ローム主体、黒色土粒少含、粘性・しまり強）
14 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり強）
15 黄褐色土　（3層より明、ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B多含）
16 明黄褐色土（ローム主体、粘性・しまり強）
17 黄褐色土　（ローム粒極多含、ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり弱）

SD1148·4669·4674（G面）



1 黄褐色土（ほぼロームで構成、しまり強）
2 黒褐色土（大角礫多含、ローム粒少含）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、小角礫少含）
4 黒褐色土（大角礫多含、ローム粒少含、しまり強）
5 黄褐色土（ほぼロームで構成）

SK1150（G面）

SD1148·4669·4674、SK1150（G面）

0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-95図　SD1148·4669·4674、SK1150

a . . a' 22.00

1 暗茶褐色土（灰褐色粘土含、ローム粒少含、炭化物・小円礫極少含）
2 褐色土　（ローム粒極多含、ロームB少含）
3 暗褐色土　（平切石・ローム粒多含、ロームB含）
4 黄褐色土　（ローム粒極多含、円礫含）
5 暗褐色土　（ローム粒含）

b . . b' 22.00

1 黄褐色土　（ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B多含、破砕礫少含、粘性強）
2 明黄褐色土（ローム主体、礫多含、黒色土粒少含、粘性・しまり強）
3 暗黄褐色土（SP4624の覆土、ロームと黒色土が斑状、ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B含、しまり弱）

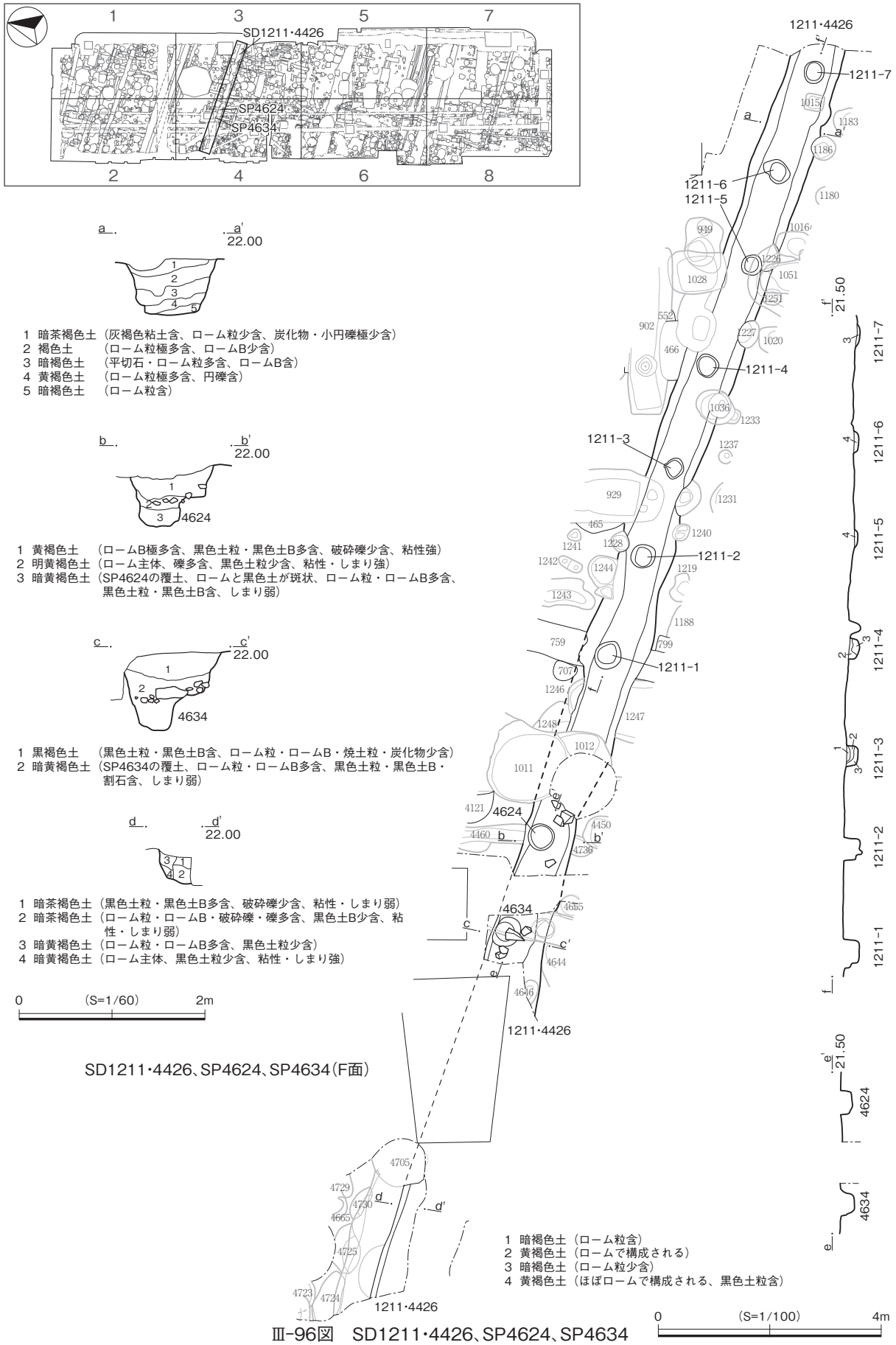
c . . c' 22.00

1 黒褐色土　（黒色土粒・黒色土B含、ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物少含）
2 暗黄褐色土（SP4634の覆土、ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B・割石含、しまり弱）

d . . d' 22.00

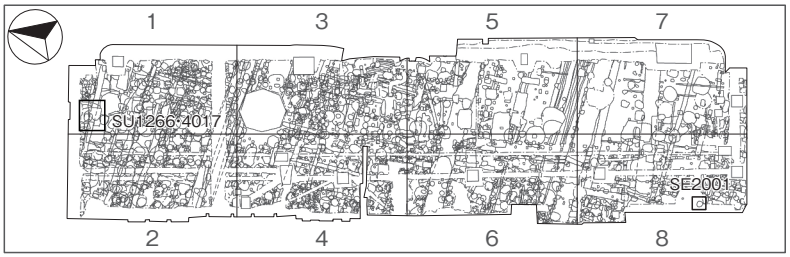
1 暗茶褐色土（黒色土粒・黒色土B多含、破砕礫少含、粘性・しまり弱）
2 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB・破砕礫・礫多含、黒色土B少含、粘性・しまり弱）
3 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含）
4 暗黄褐色土（ローム主体、黒色土粒少含、粘性・しまり強）

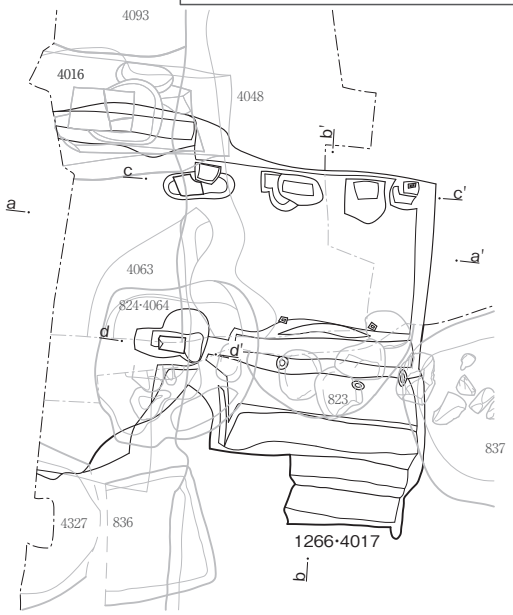
0 (S=1/60) 2m

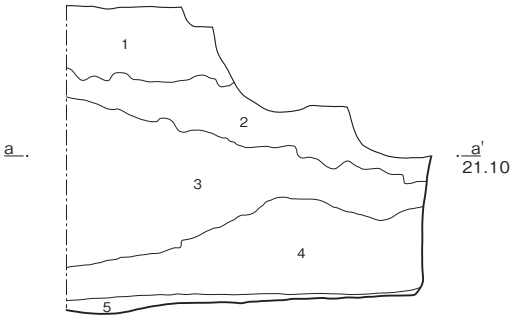


SD1211・4426、SP4624、SP4634（F面）

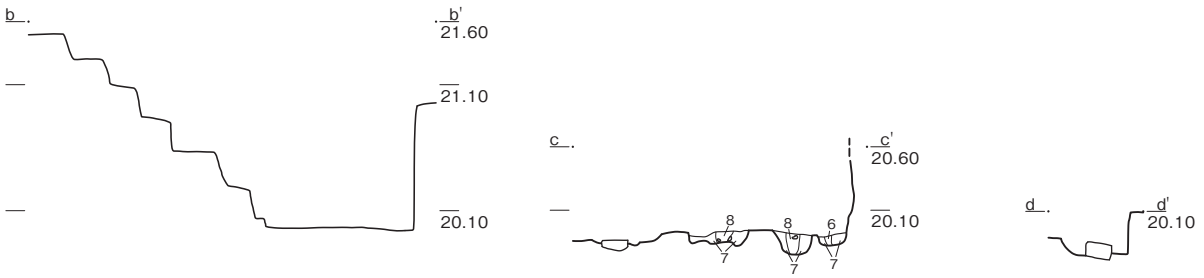
Ⅲ-96図　SD1211・4426、SP4624、SP4634



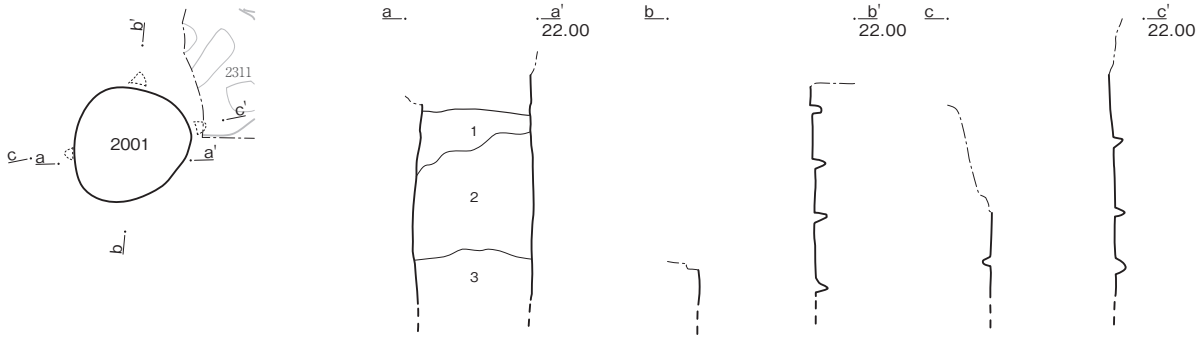




1266・4017
1 黄褐色土　（ロームで構成、小円礫・炭化物極少含、しまり強）
2 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB・小円礫少含）
3 黄褐色土　（ローム粒・ロームBで構成、円礫・小円礫極少含、しまり弱）
4 暗茶褐色土（ローム粒少含、円礫極少含）
5 黄褐色土　（ローム粒・ロームBで構成、しまり弱）
6 黄褐色土（黒色土粒少含、ほぼロームで構成、しまり弱）
7 黄褐色土（ロームで構成）
8 茶褐色土（ローム粒少含、しまり弱）



SU1266·4017（C面）

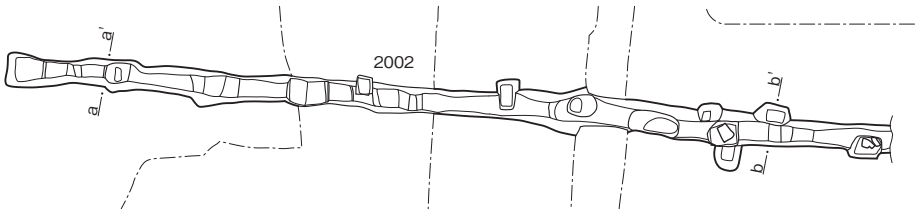


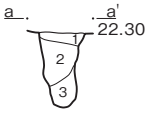
1 暗灰色土（ロームB・礫・木根・陶磁器片多含、粘性弱、しまりなし）
2 暗灰色土（ロームB・礫・炭化物極少含、粘性・しまり弱）
3 暗灰色土（ロームB多含、小礫少含、粘性・しまり弱）

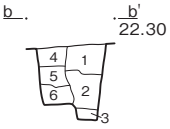
SE2001（G面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-97図　SU1266·4017、SE2001

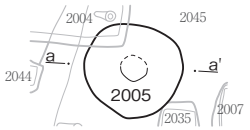






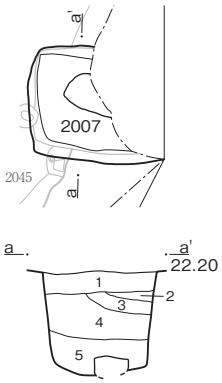
2002
1 黄褐色土　（ローム粒・円礫含）
2 暗茶褐色土（炭化物粒・円礫・角礫含、焼土粒少含）
3 黄褐色土　（ローム粒主体、円礫微含、粘性・しまりなし）
4 暗黄褐色土（ロームB・灰褐色土粘土粒少含）
5 暗褐色土　（ロームB・円礫・灰褐色土粘土粒含）
6 暗灰褐色土（炭化物粒・焼土粒少含）

SD2002（C～D面）



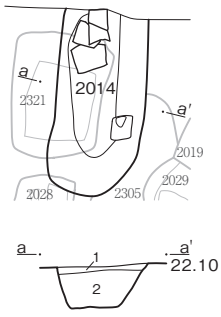
1 暗赤褐色土（焼土B多含、円礫含）
2 暗褐色土　（ローム粒含、焼土・炭少含、しまり極強）
3 暗黄褐色土（ローム粒含、焼土・炭極少含、しまり極強）
4 暗茶褐色土（暗黄灰色粘土・焼土・炭少含、角礫極少含、しまり極強）

SK2005（G面）



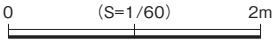
1 褐色土　　（ロームB・円礫含、焼土少含）
2 暗褐色土　（焼土含、ローム粒少含）
3 暗黄褐色土（ロームB多含、円礫含）
4 暗茶褐色土（ロームB・円礫含、粘性弱）
5 暗褐色土　（円礫主体、砂多含、ロームB含、粘性・しまりなし）

SK2007（G面）

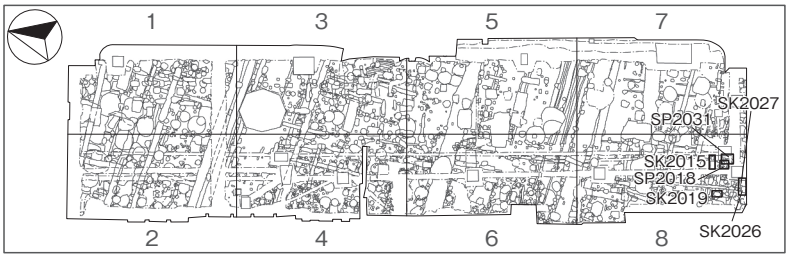


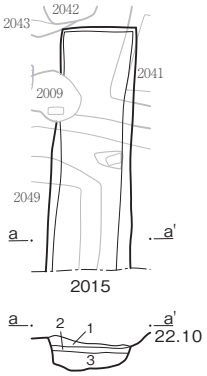
1 灰褐色土（角礫・瓦多含、円礫・炭含、しまりなし）
2 暗褐色土（角礫・瓦多含、炭含、ローム B少含、しまりなし）

SK2014（G面）



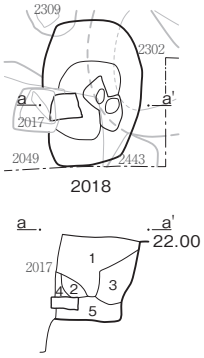
Ⅲ-98図　SD2002、SK2005、SK2007、SK2014





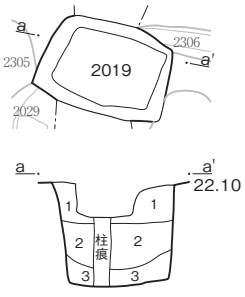
1 暗赤褐色土（灰色粘土極多含、焼土多含、炭含、粘性なし）
2 暗赤褐色土（焼土粒・炭多含、円角礫含、粘性・しまりなし）
3 赤褐色土　（焼土B・炭・木炭多含、灰色粘土粒含、粘性・しまりなし）

SD2015（G面）



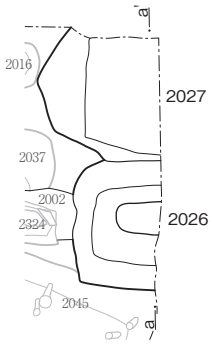
1 暗黄褐色土（焼土・炭多含、ロームB・円礫含、灰色砂B少含）
2 暗赤褐色土（炭多含、焼土含、粘性・しまりなし）
3 暗灰褐色土（灰色粘土B多含、角礫含、ローム粒少含）
4 暗灰褐色土（ローム粒・灰色粘土粒含）
5 暗黄褐色土（ロームB多含、炭・灰色粘土粒少含、しまりなし）

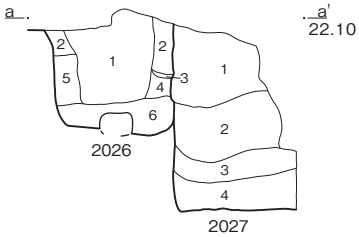
SP2018（G面）



1 暗黄褐色土（ロームB含、焼土・円礫少含）
2 暗黄褐色土（ロームB多含、炭少含）
3 暗黄褐色土（ローム主体）

SK2019（G面）

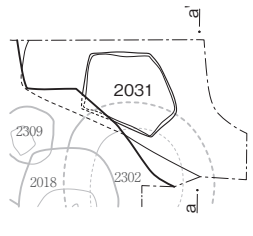


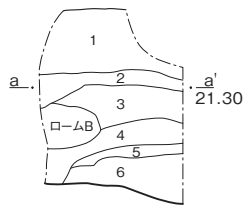


2026
1 暗灰褐色土（瓦・円礫・灰色粘土粒多含、ロームB含、炭化物粒・焼土粒含）
2 暗黄褐色土（ロームB多含、円礫含、炭化物粒・焼土粒微含）
3 暗灰褐色土（炭化物粒・焼土粒多含、円礫含、ローム粒少含、しまり弱）
4 暗黄褐色土（ロームB多含、円礫少含）
5 暗褐色土　（ローム粒・灰色粘土B含、円礫少含、粘性・しまり弱）
6 暗褐色土　（円礫主体、ローム粒微含、しまりなし）

2027
1 暗褐色土　（ローム粒・炭・黒色土B含、円礫少含）
2 暗黄褐色土（灰粘土多含、ロームB含、炭・円礫少含）
3 暗灰褐色土（ローム粒・円礫少含、炭極少含）
4 灰褐色土　（灰色粘土主体、円礫含、瓦・ローム粒少含）

SK2026、SK2027（G面）



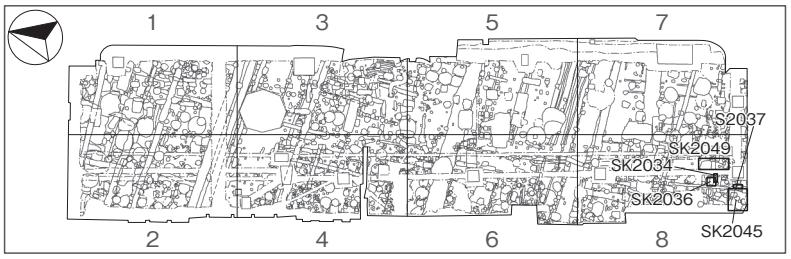


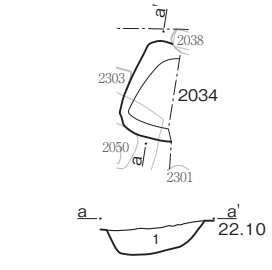
1 暗赤褐色土（焼土多含、炭含、円礫・灰色粘土粒少含）
2 暗赤褐色土（焼土・炭多含、灰色粘土粒含、粘性・しまりなし）
3 暗褐色土　（ローム土含、焼土・炭・円礫少含）
4 暗黄褐色土（焼土・ロームB多含、炭含、粘性・しまりなし）
5 暗灰褐色土（灰色粘土B主体、ロームB含、しまりなし）
6 黄褐色土　（ローム土主体）

SK2031（G面）

0　(S=1/60)　2m

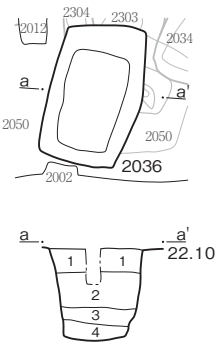
Ⅲ-99図　SD2015、SP2018、SK2019、SK2026、SK2027、SK2031





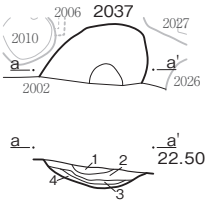
1 砂利（砂利と砂の混合、粘性・しまりなし）

SK2034（G面）



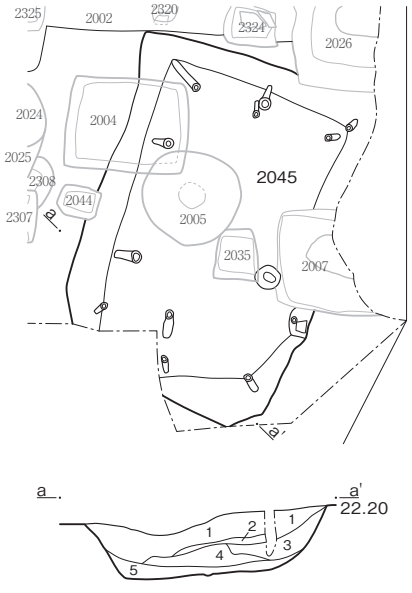
1 明褐色土（ローム粒少含、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒多含、炭粒含）
3 褐色土　（小石含、ローム粒少含、しまり弱）
4 褐色土　（ローム粒極少含、しまり弱）

SK2036（G面）



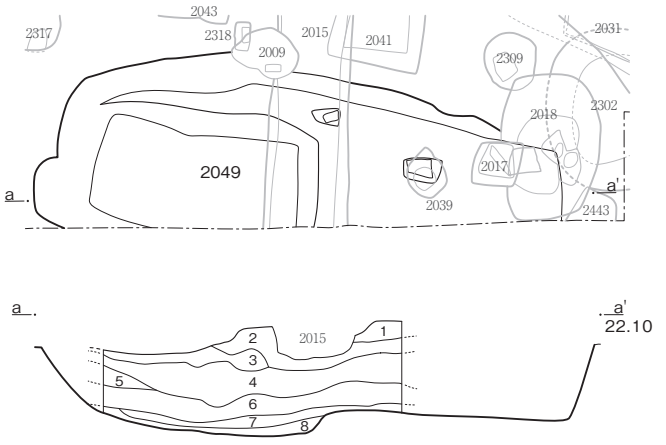
1 暗灰色土（灰土主体、炭・焼土多含、粘性なし、しまり弱）
2 暗褐色土（焼土・炭少含、粘性なし、しまり極強）
3 暗褐色土（貝片多含、炭極少含、粘性なし）
4 暗褐色土（ローム粒極少含、粘性なし）

SP2037（G面）



1 暗赤褐色土（ローム粒多含、炭・焼土極少含）
2 暗灰褐色土（ローム粒・円礫少含、炭極少含）
3 暗褐色土　（ロームB含、炭・焼土極少含）
4 暗色土　　（ロームB・炭・焼土少含、しまり極強）
5 暗褐色土　（ロームB含、角礫・灰色粘土B少含）

SK2045（G面）

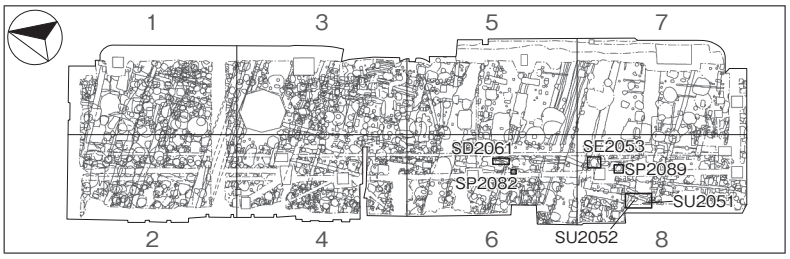


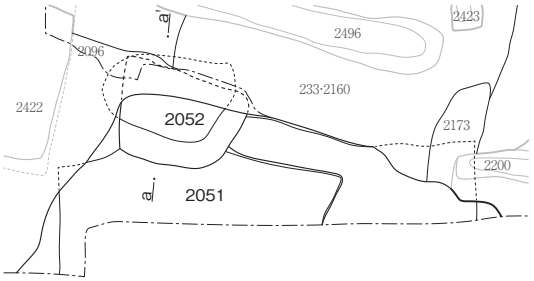
1 暗褐色土　（焼土含、炭少含）
2 暗褐色土　（ローム粒多含、炭・焼土極少含、粘性弱）
3 暗黄褐色土（ローム土主体、暗褐色土混合、炭極少含）
4 暗褐色土　（ローム粒・炭・焼土極少含、しまり弱）
5 暗黄褐色土（ロームB多含、しまりなし）
6 暗褐色土　（5層より明、ローム粒含、焼土・炭極少含、しまりなし）
7 暗灰褐色土（炭・ローム粒極少含）
8 暗褐色土　（ロームB含、灰色粘土粒少含、しまり弱）

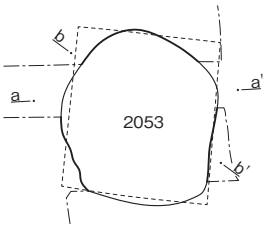
SK2049（G面）

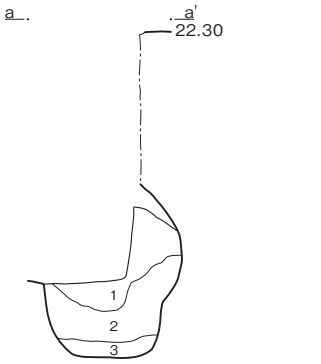
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-100図　SK2034、SK2036、SP2037、SK2045、SK2049



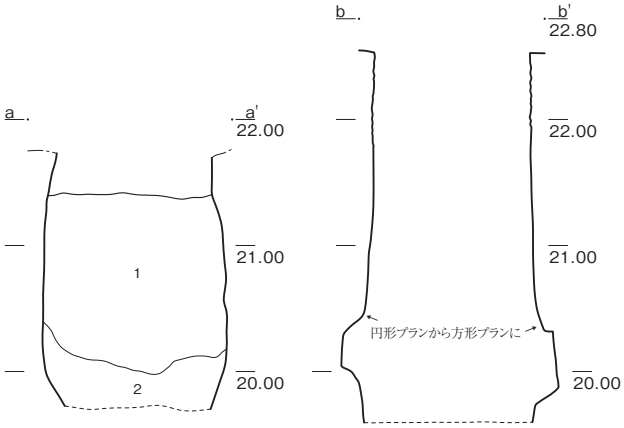






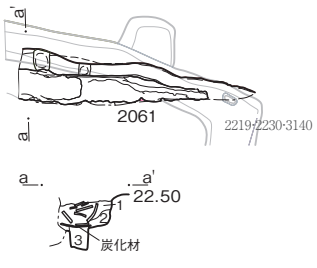
2052
1 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB含、炭化物・円礫・貝片極少含、しまりなし）
2 暗茶褐色土（1層よりやや暗、ローム粒・ロームB多含、炭化物極少含、しまりなし）
3 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、粘性強、しまりなし）

SU2051、SU2052（G面）



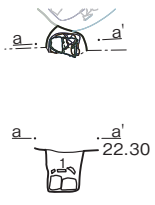
2053
1 黄褐色土（ローム粒・B多含、玉砂利・コンクリートくず含、しまり弱）
2 黄褐色土（砂・ローム粒多含、コンクリートくず含、しまりなし）

SE2053（B面）



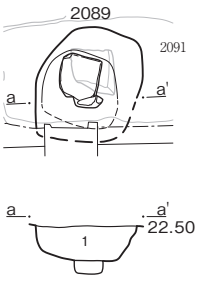
2061
1 灰褐色土（焼け瓦多含、ローム粒・ロームB少含、しまりなし）
2 暗褐色土（ローム粒・炭化物少含、ロームB極少含）
3 黄褐色土（灰色土・B多含、粘性強、しまりなし）

SD2061（C面）



2082
1 暗褐色土（焼土粒・炭化物粒極少含、しまりなし）

SP2082（C面）

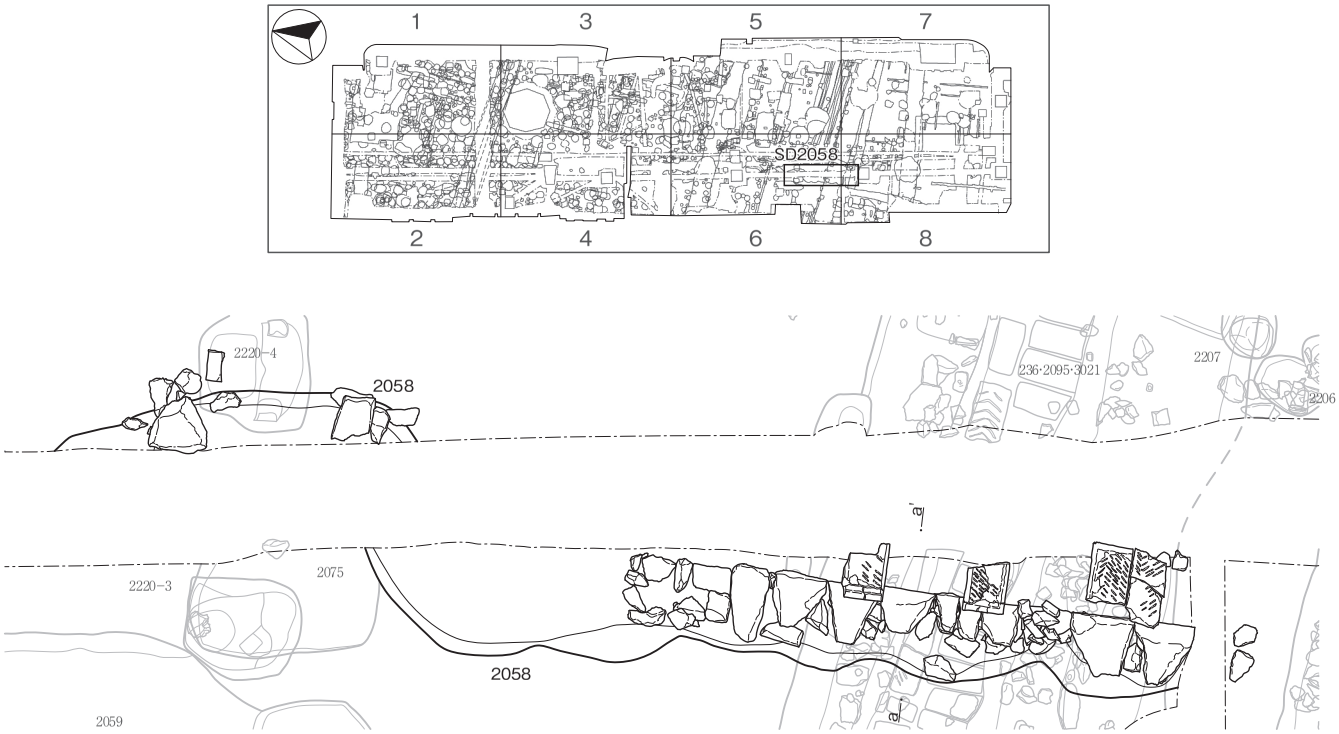


2089
1 暗褐色土（栗石多含、ローム粒・B少含、焼土粒・炭化物粒極少含、しまり強）

SP2089（C面）

0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-101図　SU2051、SU2052、SE2053、SD2061、SP2082、SP2089

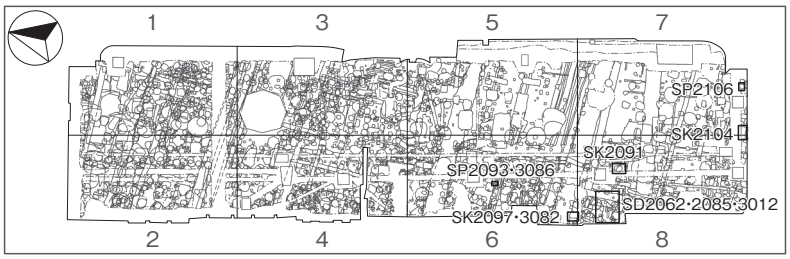


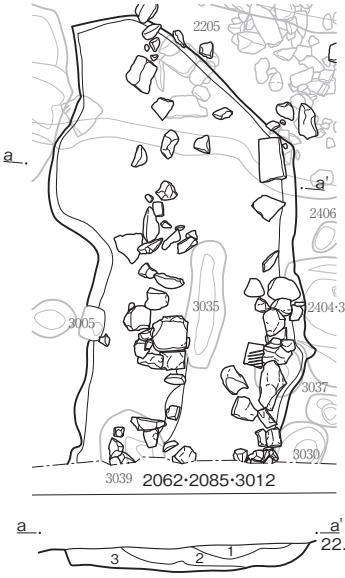
2058
1 暗茶褐色土（漆喰片含、小円礫少含、ローム粒極少含）
2 暗褐色土　（漆喰片・灰褐色粘土粒含、カーボン極少含）
3 暗茶褐色土（ローム粒・焼土粒含、灰褐色粘土粒少含）
4 褐色土　（焼土粒多含、炭化物・円礫極少含、粘性強）
5 橙褐色土　（焼土粒極多含、小円礫含、粘性弱、しまり強）
6 橙褐色土　（焼土粒多含、しまり弱）

SD2058（C面）

0　（S=1/60）　2m

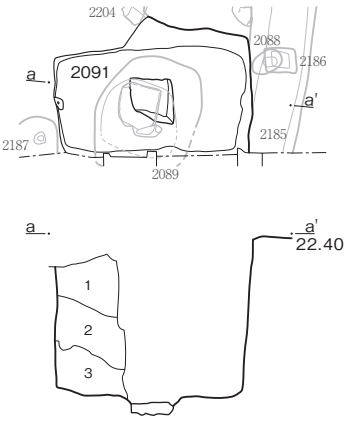
Ⅲ-102図　SD2058





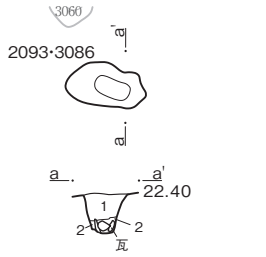
2062・2085・3012
1 暗灰褐色土（灰色粘土・ローム塊少含、焼土粒・炭化物微含）
2 暗黄褐色土（ローム塊含、焼土粒・炭化物微含）
3 暗灰色土　（ローム粒少含、砂質）

SD2062·2085·3012（C面）



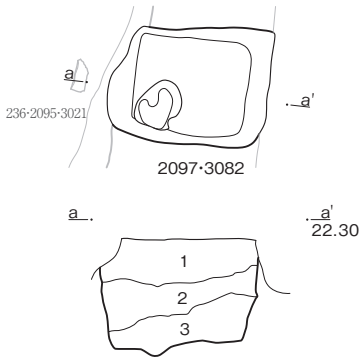
2091
1 黄褐色土（ローム主体、黒色土B多含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 暗灰色土（中央にロームB極多含、焼瓦片含、焼土粒少含、ローム粒極少含、粘性強、しまり弱）
3 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒少含、粘性強、しまり弱）

SK2091（C面）



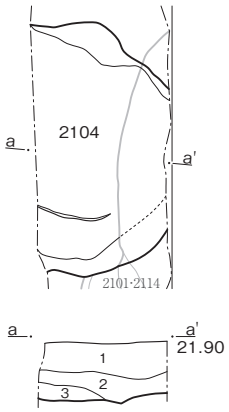
2093・3086
1 褐色土(やや灰がかる、ローム粒含、炭化物少含)
2 褐色土(ローム粒多含)

SP2093·3086（C面）



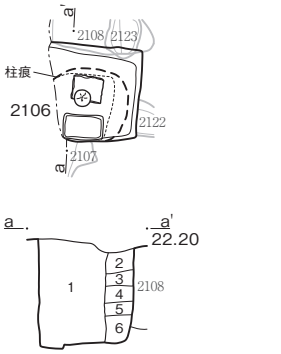
2097・3082
1 黒褐色土　（ロームB・ローム粒・炭化物少含、貝殻片極少含、粘性強、しまり弱）
2 暗茶褐色土（貝殻多含、ローム粒・ロームB少含、しまり弱）
3 暗茶褐色土（2層より少し明るい、炭化物含、ローム粒少含、粘性強、しまり弱）

SK2097·3082（C面）



2104
1 暗褐色土（砂利・ローム粒少含）
2 暗褐色土（砂利・ローム粒・ロームB含）
3 黒褐色土（炭化物粒・焼土粒少含、しまり弱）

SK2104（G面）

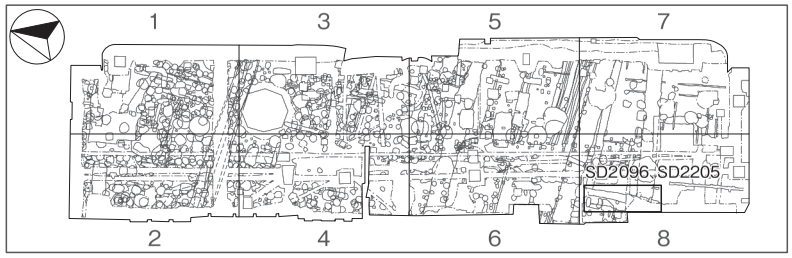


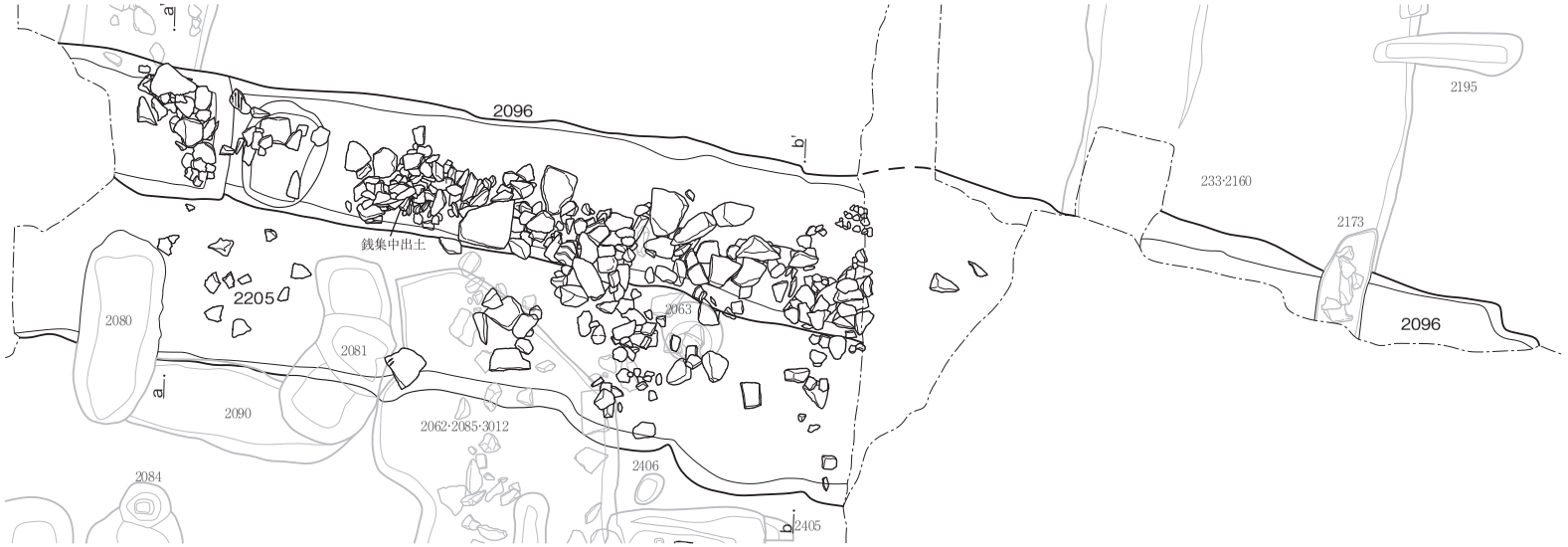
2106
1 暗褐色土（砂利含、ローム粒少含、粘性・しまりなし）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土（ローム粒・灰色粘土粒極少含）
4 暗褐色土（ローム粒少含、砂利極少含）
5 暗褐色土（ローム粒・ロームB少含、しまり弱）
6 褐色土　（ロームB・ローム粒含）

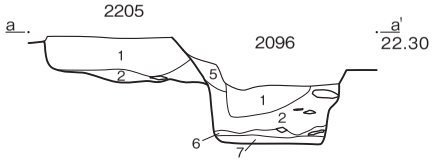
SP2106（G面）

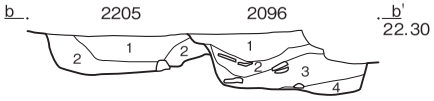
0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-103図　SD2062·2085·3012、SK2091、SP2093·3086·SK2097·3082、SK2104、SP2106









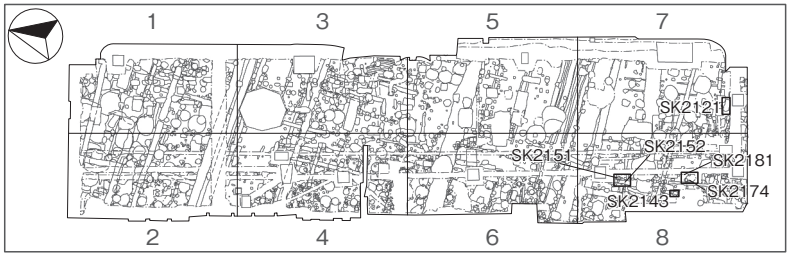
SD2096、SD2205（C面）

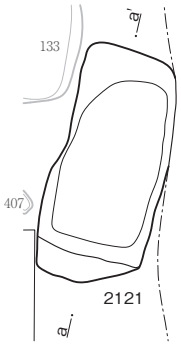
2096
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・炭化物B極少含）
2 暗褐色土　（礫極多含、割石・明灰白色細砂多含、ローム粒極少含、しまりなし）
3 暗褐色土　（ローム粒少含、焼土粒・炭化物B極少含）
4 黄褐色土　（ローム主体、粘性強）
5 暗黄褐色土（ローム粒多含、黒色土粒・黒色土B・礫少含、しまりなし）
6 暗黄褐色土（下層の砂礫層に大礫が敷きつめてある、ローム粒多含、しまりなし）
7 暗黄褐色土（ローム粒・礫多含、粘性・しまり強）

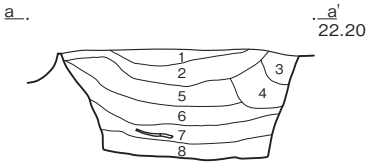
2205
1 暗褐色土　（ローム粒・礫多含、焼土粒少含、焼土B極少含）
2 暗黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B・割石少含、礫極少含、粘性強）

0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-104図　SD2096、SD2205

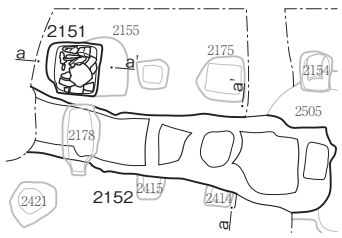


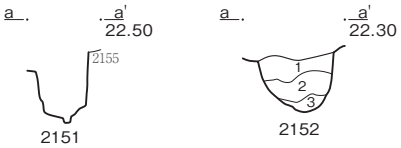




2121
1 褐色土　（ローム粒・焼土粒・炭化物粒多含、砂利含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土　（貝含、ローム粒・炭化物粒少含）
3 黄褐色土　（ローム粒極多含、しまりなし）
4 暗褐色土　（貝含、ローム粒・炭化物粒少含、しまりなし）
5 暗灰褐色土（ローム粒・灰色粘土粒多含、炭化物粒極少含、粘性・　しまり強）
6 暗褐色土　（ローム粒・砂利少含、炭化物粒極少含、しまりなし）
7 暗褐色土　（6層よりやや暗い、ローム粒・炭化物粒極少含、しまりなし）
8 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含）

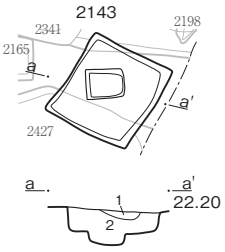
SK2121（G面）





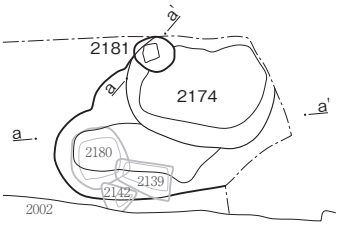
2152
1 暗褐色土（灰褐色粘土多含、ローム粒含）
2 暗褐色土（ローム粒少含）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、しまり弱）

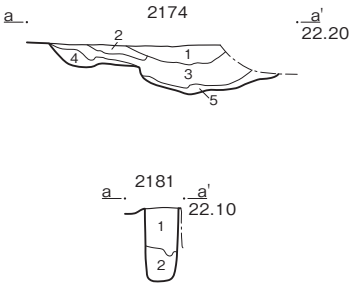
SP2151、SD2152（G面）



2143
1 褐色土（ローム粒・ロームB多含、小円礫少含）
2 砂礫　（小～中円礫多含、大円礫・砂含、粘性なし）

SK2143（G面）





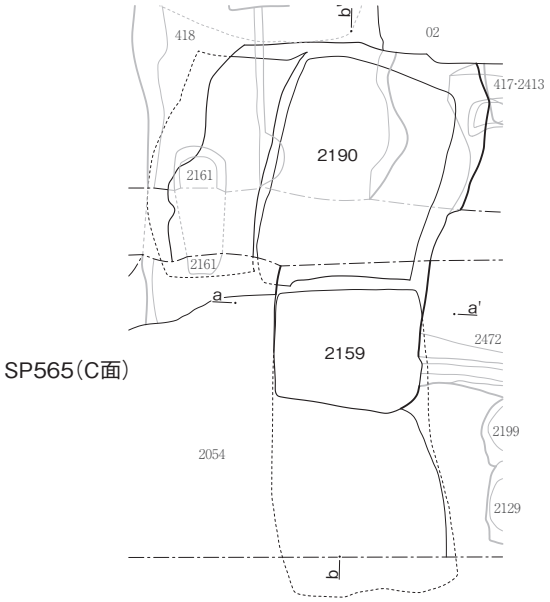
2174
1 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒極少含、しまり強）
2 灰白色粘土（灰白色粘土多含、炭化物極少含、しまり強）
3 暗褐色土　（貝片多含、ローム粒含、炭化物極少含）
4 黄褐色土　（ほぼロームで構成、しまり強）
5 褐色土　　（ローム粒多含）

2181
1 茶褐色土（ローム粒・炭化物含、しまり強、粘性弱）
2 暗褐色土（ローム極少含、粘性弱）

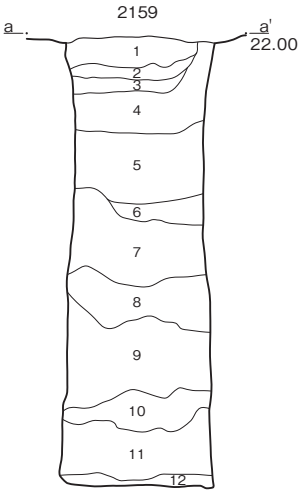
SK2174、SP2181（G面）

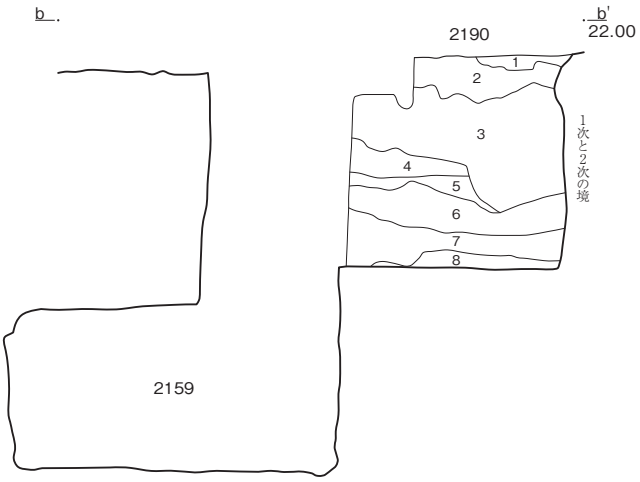
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-105図　SK2121、SK2143、SP2151、SD2152、SK2174、SP2181



SP565（C面）





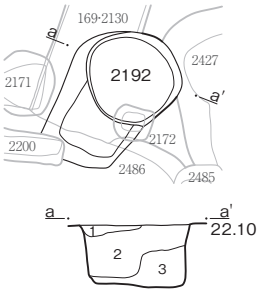
2159
- 1 茶褐色土　（ローム粒・灰褐色粘土含、小円礫少含、破砕瓦・炭化物極少含）
- 2 褐色土　（焼土粒多含、ローム粒・炭化物含、小円礫極少含）
- 3 暗茶褐色土（焼土粒多含、灰褐色粘土含、炭化物・小円礫少含）
- 4 暗褐色土　（ローム粒含、灰褐色粘土・炭化物・小円礫少含）
- 5 暗褐色土　（4層より暗い、ローム粒・小円礫・焼土粒・炭化物少含）
- 6 暗茶褐色土（炭化物多含、ローム粒・小円礫少含）
- 7 茶褐色土　（ローム粒多含、焼土粒含、炭化物・小円礫少含）
- 8 橙褐色土　（焼土粒多含、ローム粒含、炭化物少含、しまり弱）
- 9 茶褐色土　（焼土粒・ローム粒含、炭化物少含、粘性強）
- 10 褐色土　（ローム粒極多含、焼土粒少含、粘性・しまり強）
- 11 茶褐色土　（ローム粒・ロームB多含、小円礫・焼土粒極少含、粘性強）
- 12 褐色土　（ほぼロームで構成、粘性・しまり強）

2190
- 1 灰褐色土　（灰褐色粘土極多含、ローム粒含、しまり強）
- 2 褐色土　（ローム粒極多含、ロームB多含、角礫極少含、しまり強）
- 3 黄褐色土　（ローム粒とロームBで構成される、円礫・炭化物極少含、しまり強）
- 4 暗褐色土　（灰褐色粘土極多含、ローム粒少含、円礫・炭化物極少含、粘性強）
- 5 茶褐色土　（ローム粒多含、炭化物極少含、しまり強）
- 6 暗灰褐色土（灰褐色粘土極多含、炭化物・ローム粒含、円礫極少含、粘性強）
- 7 褐色土　（ローム粒含、円礫・炭化物極少含、粘性強）
- 8 褐色土　（7層より明、ローム粒多含、炭化物極少含、粘性極強、しまり極強）

SU2159、SU2190（G面）

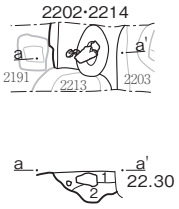
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-106図　SU2159、SU2190



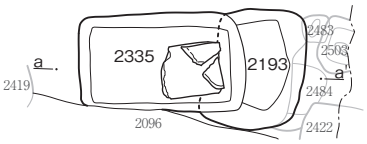
2192
1 灰褐色粘土（ローム粒・炭化物極少含、しまり極強）
2 茶褐色土　（ローム粒含、炭化物・小円礫極少含）
3 暗褐色土　（灰褐色粘土・ローム粒少含）

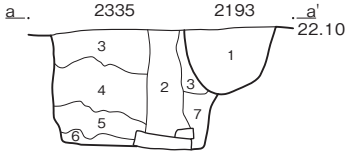
SK2192（G面）



2202・2214
1 暗黄褐色土（やや砂質、ローム粒多含、大礫少含、焼土粒極少含、しまり強）
2 暗褐色土　（焼土粒・焼土B多含、炭化物粒・炭化物B少含、しまり強）

SP2202･2214（C～D面）

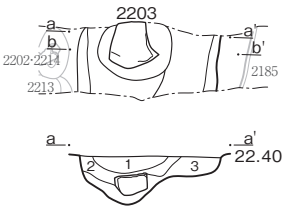




2193
1 茶褐色土（ローム粒多含、ロームB少含、小円礫・瓦小片極少含、しまり強）

2335
2 暗褐色土（柱痕と思われる、ローム粒少含、小円礫・木片極少含、粘性・しまり弱）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、角礫・破砕瓦極少含、しまり強）
4 暗褐色土（ロームB含、ローム粒少含、角礫・破砕瓦極少含）
5 黄褐色土（ロームB・ローム粒極多含）
6 暗褐色土（ローム粒少含）
7 黄褐色土（ほぼロームで構成、しまり強）

SK2193、SK2335（G面）

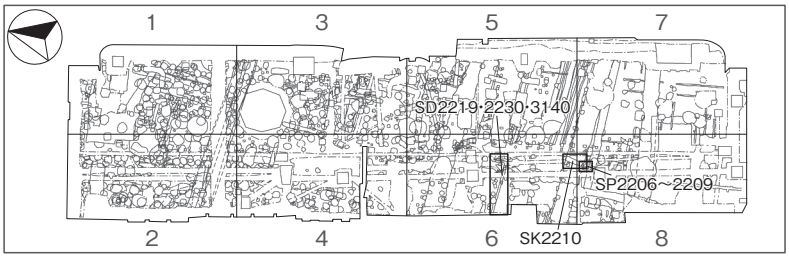


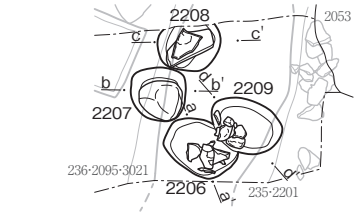
2203
1 暗褐色土　（砂利極多含、焼土粒極少含、しまり極強）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、砂利極少含、しまり極強）
3 赤黒褐色土（砂利・被熱瓦含、ローム粒・炭化物粒・焼土粒少含、しまり強）

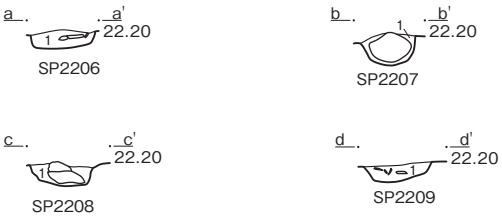
SP2203（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-107図　SK2192、SK2193、SP2202･2214、SP2203、SK2335







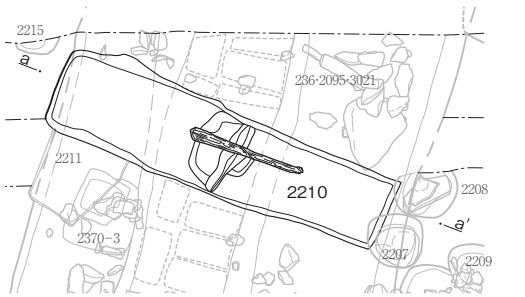
2206
1 暗褐色土（砂利多含、灰色粘土粒極少含、粘性・しまり弱）

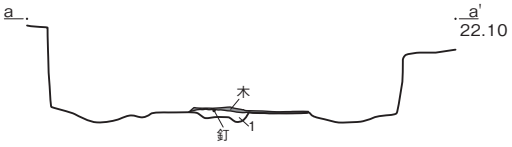
2207
1 暗褐色土（砂利・灰色粘土粒少含、粘性・しまり弱）

2208
1 暗褐色土（灰色粘土粒・ローム粒少含、粘性弱・しまり弱）

2209
1 暗褐色土（砂利多含、灰色粘土粒・ローム粒少含、粘性弱、しまり強）

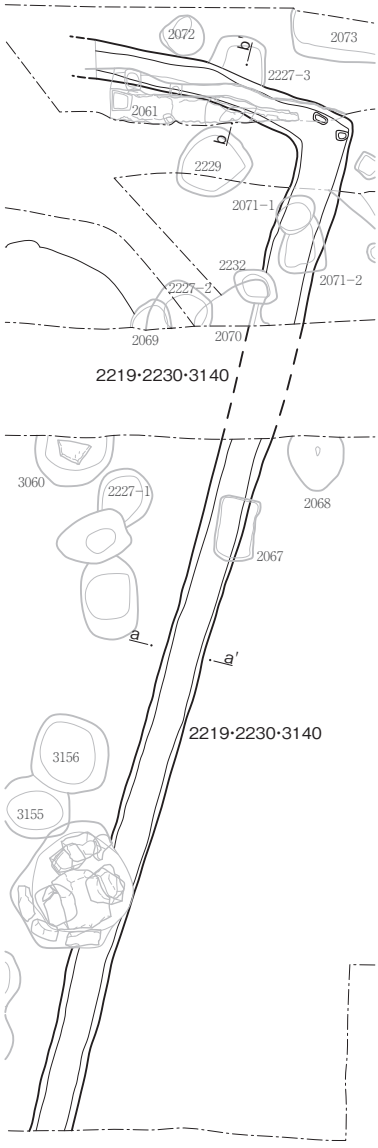
SP2206、SP2207、SP2208、SP2209（C～D面）





2210
1 暗黄褐色土（焼土粒極少含、しまり強）

SK2210（D面）

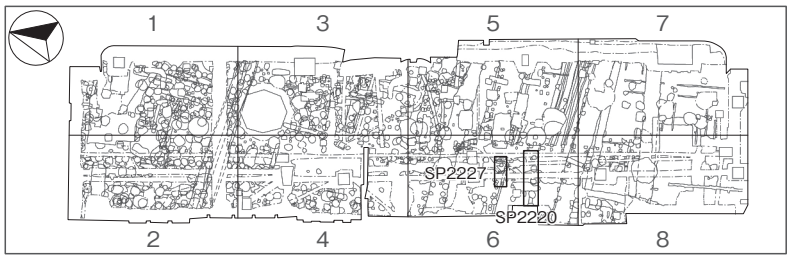


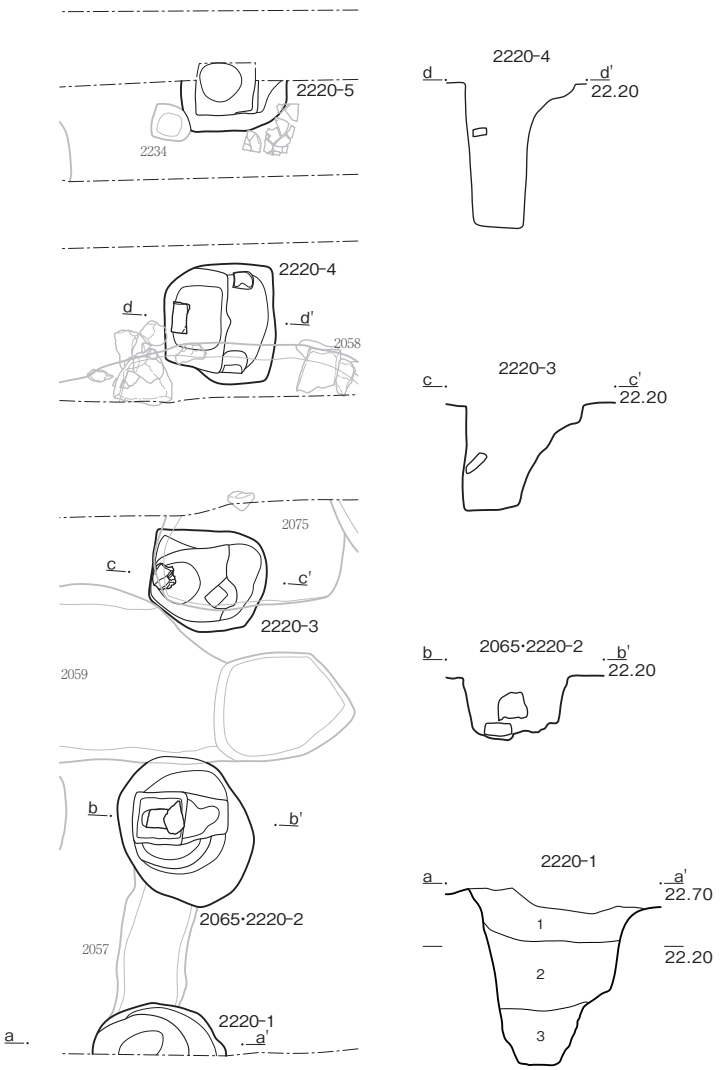
2219・2230・3140
1 黄褐色土（ローム主体、礫多含、炭化物極少含、粘性強）

SD2219·2230·3140（D面）

0 (S=1/60) 2m

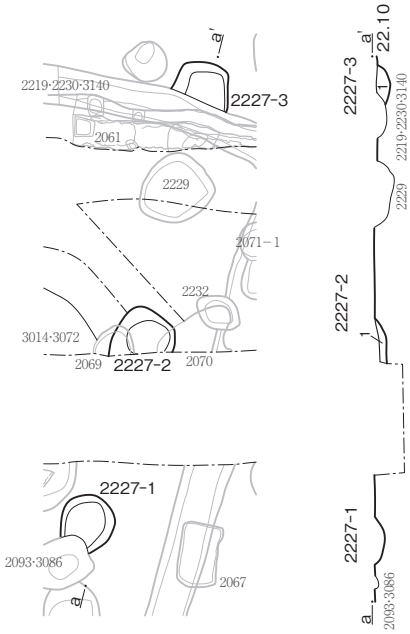
Ⅲ-108図　SP2206、SP2207、SP2208、SP2209、SK2210、SD2219·2230·3140





2220
1 茶褐色土（ローム粒含、小円礫少含）
2 暗褐色土（灰褐色粘土・ローム粒・小礫少含、焼土粒極少含）
3 暗褐色土（ローム粒・焼土粒極少含）

SP2220（C面）

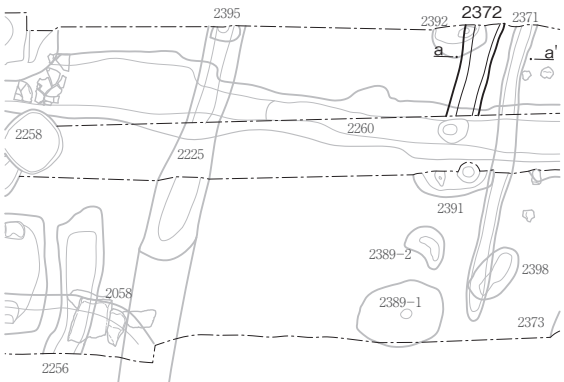


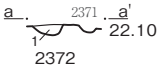
2227
1 黄褐色土（ローム主体、礫含、黒色土粒・瓦片少含、しまり強）

SP2227（D面）

0　（S=1/60）　2m

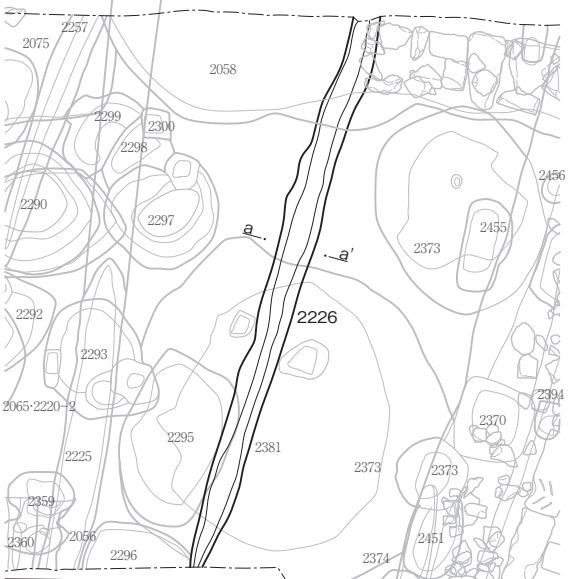
Ⅲ-109図　SP2220、SP2227

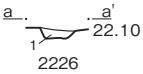




2372
1 暗褐色土（ローム粒・砂利多含）

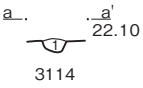
SD2372（E面）





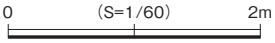
2226
1 黄褐色土（ローム主体、砂多含、小円礫含、粘性・しまり強）

SD2226（E面）

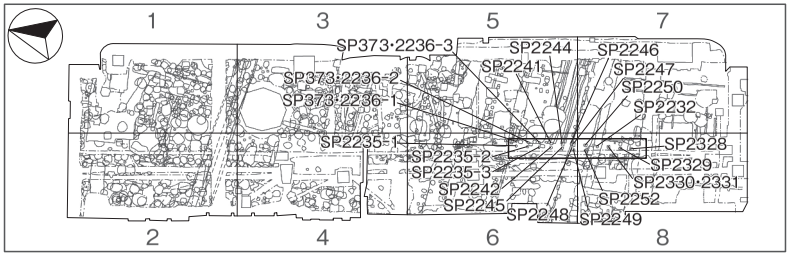


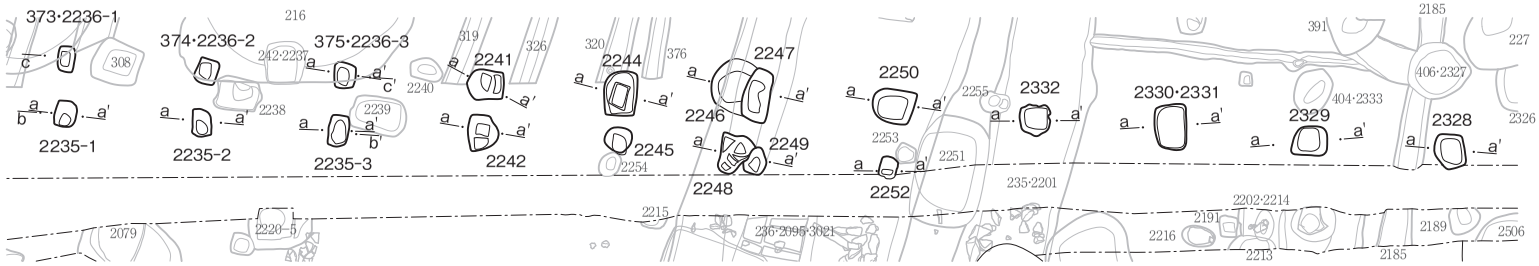
3114
1 黄褐色土(小円礫少含、ロームで構成、しまり強)

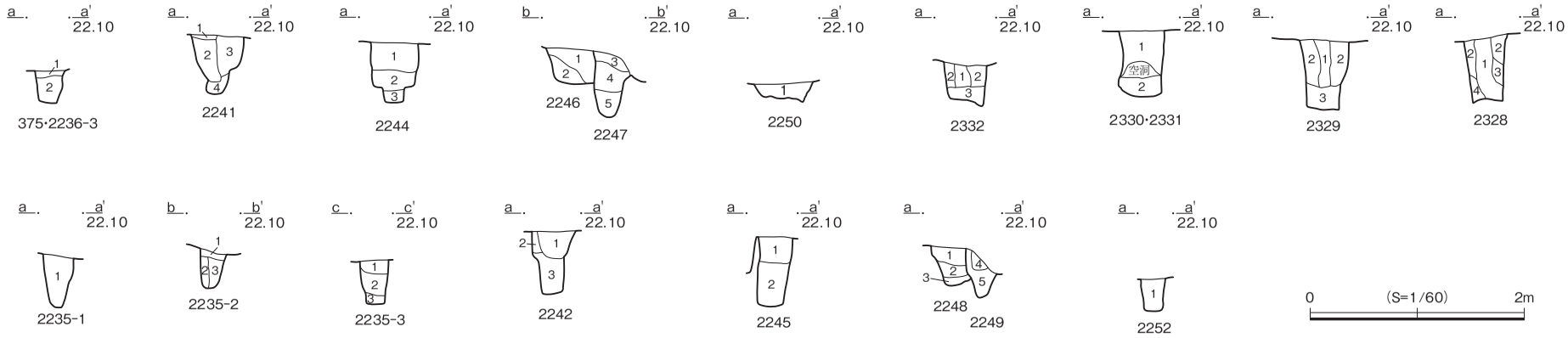
SD3114（D面）



Ⅲ-110図　SD2226、SD2372、SD3114

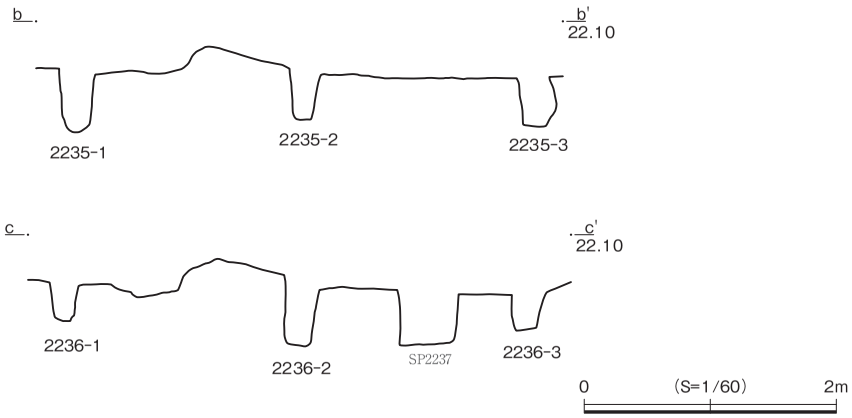






SP373·2236-1、SP374·2236-2、SP375·2236-3、SP2235、SP2246（D面）、SP2241、SP2242、SP2244、SP2245、
SP2247、SP2248、SP2249、SP2250、SP2252、SP2328、SP2329、SP2330·2331、SP2332（C面）

Ⅲ-111図　SP373·2236-1、SP374·2236-2、SP375·2236-3、SP2235、SP2241、SP2242、SP2244、SP2245、
SP2246、SP2247、SP2248、SP2249、SP2250、SP2252、SP2328、SP2329、SP2330·2331、SP2332（1）



2235-1
1 暗褐色土（全体的にローム少含、砂利・炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
2235-2
1 暗褐色土（全体的にやや砂質、ローム粒少含、砂利・焼土粒・灰色粒極少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土（ロームB少含、砂利極少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土（全体的にやや砂質、ローム粒少含、砂利極少含、粘性・しまり弱）
2235-3
1 暗褐色土（炭化物・灰色粘土B少含、砂利・ロームB極少含、粘性弱、しまり強）
2 暗褐色土（灰色粘土B多含、ローム粒少含、炭化物・砂利極少含、粘性弱、しまり強）
3 褐色土　（全体的にローム多含、炭化物極少含、粘性・しまり弱）

2236
1 暗褐色土（ロームB・黒色粒・砂利少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土（ロームB少含、粘性・しまり弱）

2241
1 暗黄褐色土（ローム粒含、焼土粒少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土　（ローム粒・礫少含、焼土粒・炭化物極少含、しまりなし）
3 黄褐色土　（ローム粒多含、灰色粘土粒少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性強）
4 黄褐色土　（ローム主体、しまりなし）

2242
1 暗褐色土（やや砂質、ローム粒・ロームB・礫少含、しまりなし）
2 暗褐色土（ローム粒含、焼土粒極少含）
3 暗褐色土（ローム粒少含）

2244
1 暗褐色土　（ローム多含、焼土粒少含、砂利・炭化物極少含、粘性・しまり弱）
2 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B少含、粘性強）
3 暗黄褐色土（ロームB極多含、黒色土B多含、しまりなし）

2245
1 暗黄褐色土（ローム粒含、焼土粒少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土　（やや砂質、焼土粒・焼土B少含、しまりなし）

2246、2247
1 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土（ローム主体、粘性強、しまりなし）
3 暗褐色土（ローム粒・ロームB少含、焼土粒・礫極少含、しまり強）
4 暗褐色土（ロームB含、ローム粒極少含、しまりなし）
5 暗褐色土（ローム粒・ロームB含、しまりなし）

2248、2249
1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB含、焼土粒少含、瓦片極少含、しまり強）
2 暗褐色土　（やや砂質、ローム粒・ロームB少含、焼土粒極少含）
3 暗黄褐色土（ローム主体、黒色土粒含、しまりなし）
4 暗褐色土　（焼土粒・礫少含、炭化物極少含）
5 暗褐色土　（礫少含、ローム粒・ロームB・焼土粒極少含、しまりなし）

2250
1 暗褐色土（ローム・砂利多含、焼土粒・灰色粘土粒・炭化物極少含、粘性強、しまり弱）

2252
1 暗褐色土（砂利・ローム粒少含、炭化物・焼土粒・灰色B極少含、粘性・しまり弱）

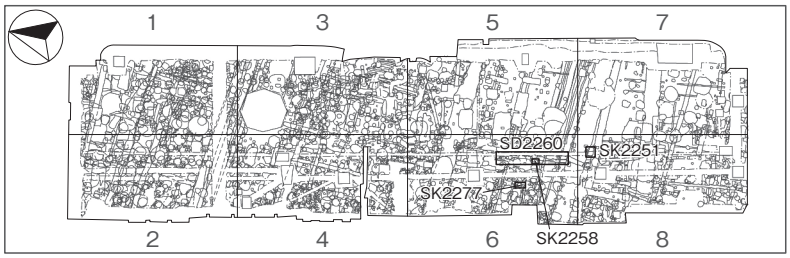
2328
1 茶褐色土（柱痕と思われる、ローム粒少含、円礫極少含）
2 褐色土　（ローム粒多含、焼土粒・小円礫極少含）
3 茶褐色土（ローム粒含）
4 茶褐色土（ローム粒少含、しまり極強）

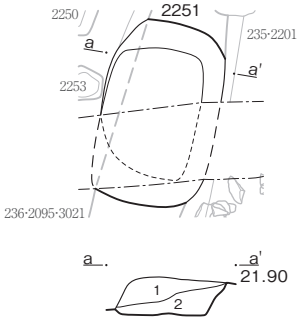
2329
1 暗褐色土（柱痕と思われる、ローム粒少含、粘性・しまりなし）
2 褐色土　（ローム粒多含、角礫少含、破砕瓦極少含）
3 茶褐色土（ローム粒多含、しまり強）

2330・2331
1 褐色土　（ローム粒多含、破砕瓦極少含）
2 黄褐色土（ロームで構成、しまり強）

2332
1 黒褐色土（ローム粒少含、粘性極強、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒多含、円礫極少含、粘性弱、しまり強）
3 茶褐色土（ローム粒多含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

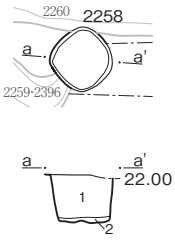
Ⅲ-112図　SP373・2236-1、SP374・2236-2、SP375・2236-3、SP2235、SP2241、SP2242、SP2244、SP2245、SP2246、SP2247、SP2248、SP2249、SP2250、SP2252、SP2328、SP2329、SP2330・2331、SP2332(2)





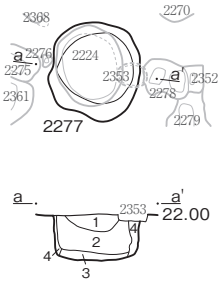
2251
1 暗黄褐色土（ロームB多含、ローム粒少含、焼土粒極少含、しまりなし）
2 暗褐色土　（ローム粒・ロームB少含、礫極少含、しまりなし）

SK2251（C面）



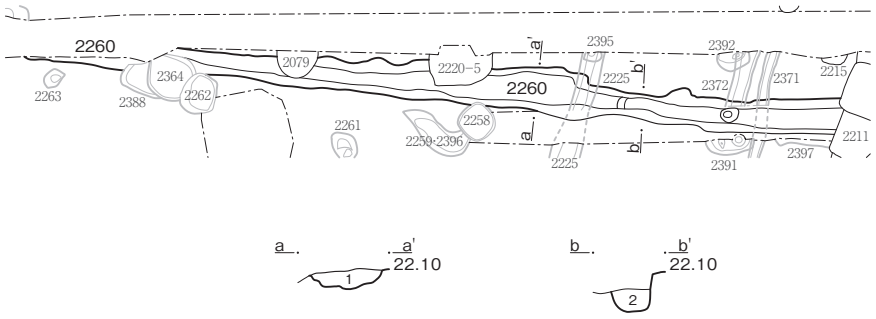
2258
1 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B含、粘性強）
2 黒色土　（炭化物粒・炭化物B多含、ローム粒・ロームB少含、しまりなし）

SK2258（G面）



2277
1 暗褐色土（ローム粒・炭化物B少含、焼土粒極少含、粘性強）
2 暗灰色土（砂質強、赤色化した灰、白灰多含、焼土粒・炭化物少含、しまりなし）
3 暗褐色土（砂主体、礫多含、しまりなし）
4 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B含、粘性強、しまりなし）

SK2277（G面）

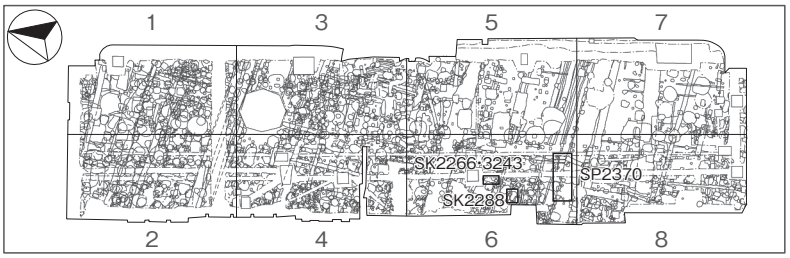


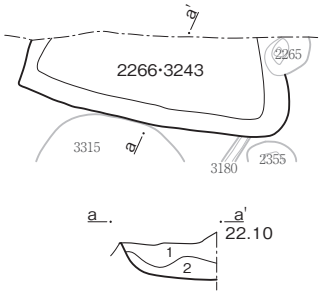
1 暗褐色土（ローム粒少含、炭化物・焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土（黒色土粒多含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

SD2260（G面）

0　(S=1/60)　2m

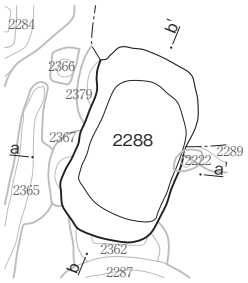
Ⅲ-113図　SK2251、SK2258、SD2260、SK2277

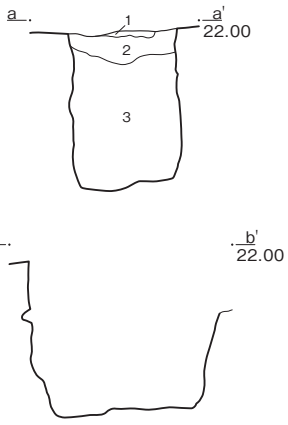




2266・3243
1 暗褐色土(ローム粒・焼土粒少含、しまり強)
2 暗褐色土(1層より暗、ローム粒・焼土粒・炭化物極少含)

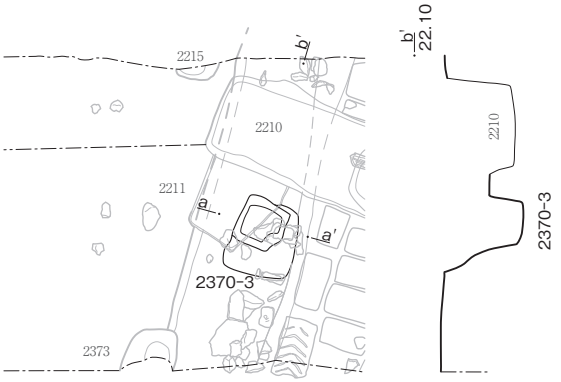
SK2266･3243（G面）

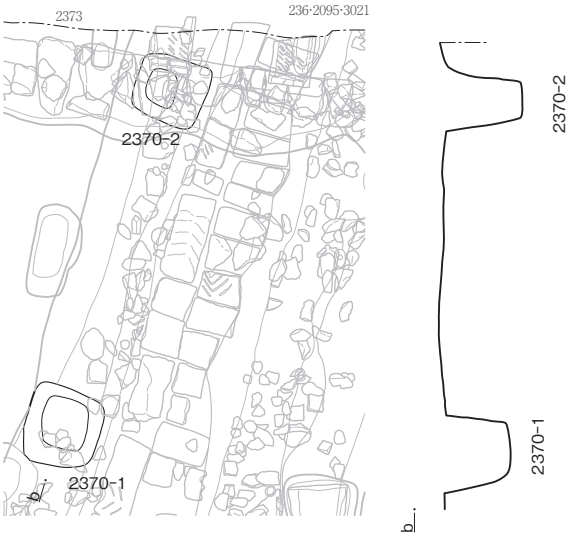


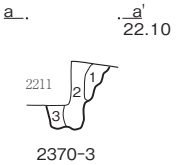


2288
1 明褐色ローム（赤色スコリア少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
2 暗褐色土　（砂利・焼土粒・炭化物・ローム粒極少含、粘性強、しまり弱）
3 暗褐色土　（部分的に層状の炭化物・焼土の集中部あり、砂利・灰白色粘土B・ローム粒・貝殻極少含、粘性強、しまり弱）

SK2288（G面）





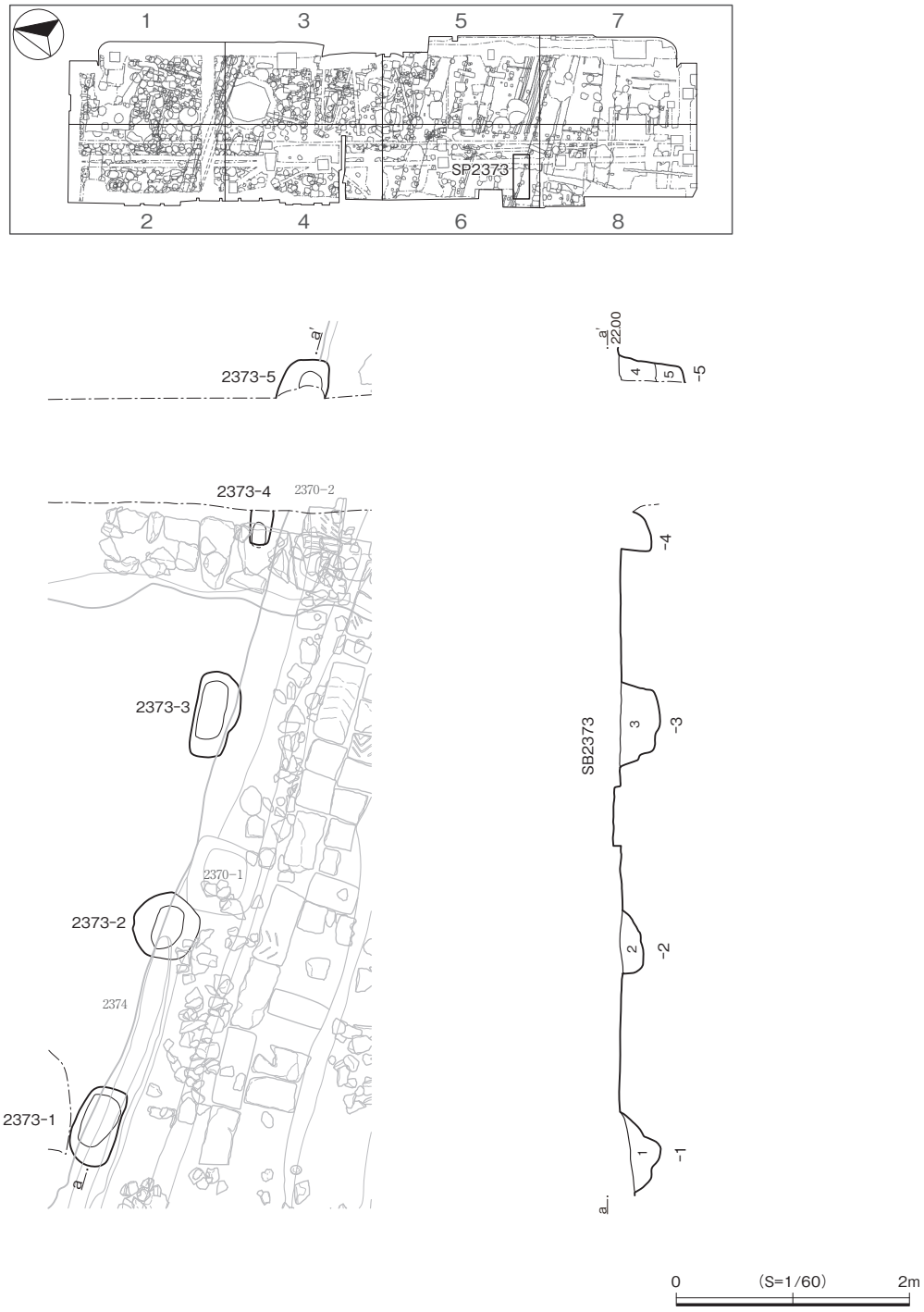


2370-3
1 暗褐色土（やや砂質、ローム粒多含、ロームB・黒色土粒含、礫少含、しまりなし）
2 暗褐色土（ローム粒含、黒色土粒・黒色土B少含）
3 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B少含、しまりなし）

SP2370（D面）

0　(S=1/60)　2m

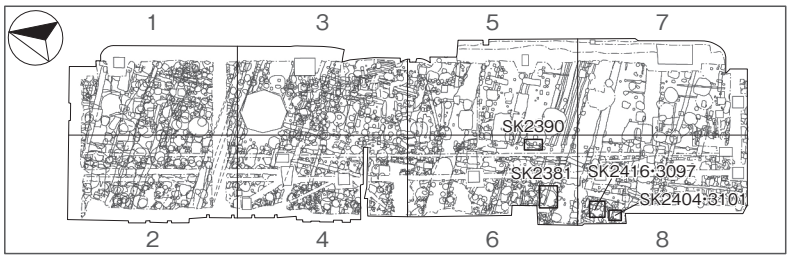
Ⅲ-114図　SK2266･3243、SK2288、SP2370

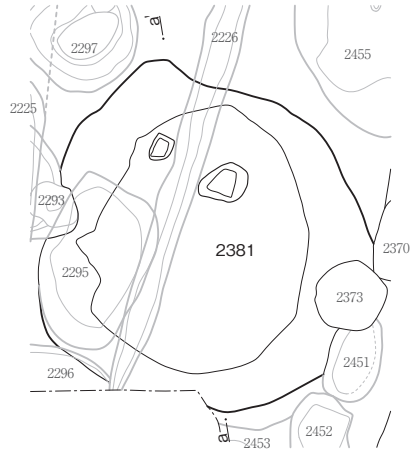


2373
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、しまり強）
2 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含、凝灰岩含、粘性強）
4 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒少含、粘性強、しまりなし）
5 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒少含、粘性・しまり強）

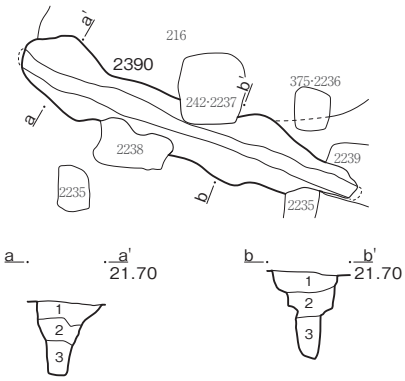
SP2373(D面)

Ⅲ-115図　SP2373





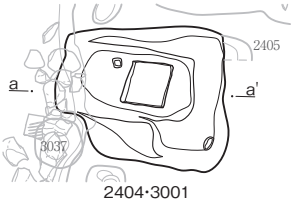
SK2381（G面）



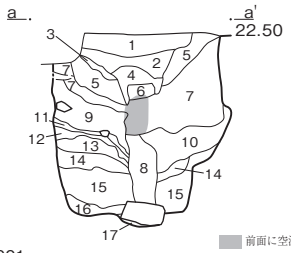
1 暗褐色土（中央部が暗く壁際が明るい、ローム粒・暗色土粒少含）
2 暗褐色土（東側はローム土主体、西側は暗色土主体でローム粒少量、焼土極少含）
3 暗褐色土（暗色土主体、ローム粒含、1・2層よりしまり弱）

※ 事実記載は第Ⅲ章第2節

SK2390（G面）

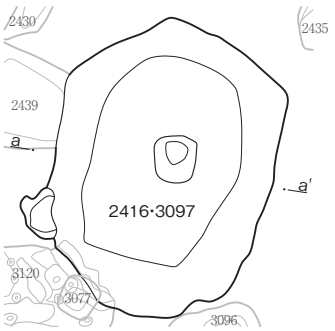


2404·3001



2404・3001
1 茶褐色土（小円礫・焼土粒含、ローム粒少含）
2 茶褐色土（砂礫層、円礫多含、粘性なし、しまり強）
3 橙褐色土（焼土粒多含、炭化物少含、しまり強）
4 茶褐色土（木部の崩落、腐食土、粘性・しまりなし）
5 黄褐色土（ロームと黒褐色土が斑状に呈する、しまり極強）
6 灰褐色土（ローム粒含、炭化物少含、しまり極強）
7 黄褐色土（ロームと黒色土が斑状に呈する、しまり強）
8 暗褐色土（ローム粒・ロームブロック片含）
9 茶褐色土（ロームブロック・破砕瓦片含、しまり強）
10 黄褐色土（ローム主体、破砕瓦・円礫極少含）
11 黄褐色土（ローム主体）
12 茶褐色土（ローム粒少含）
13 黄褐色土（ローム主体）
14 茶褐色土（ローム粒・ロームB少含、破砕瓦片極少含）
15 黄褐色土（ローム主体、粘性・しまり強）
16 茶褐色土（ローム粒含、粘性強）
17 黒褐色土（ローム粒含、焼土粒少含）

SK2404·3001（C～D面）

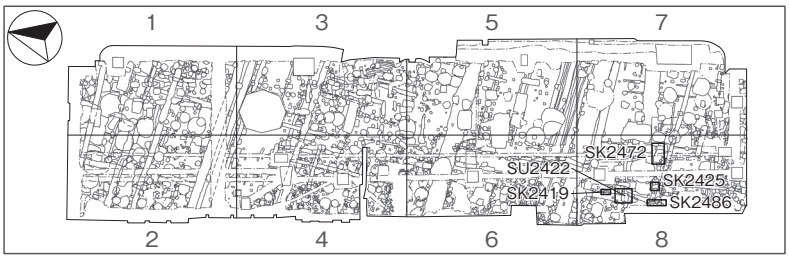


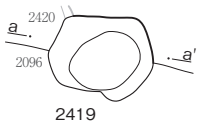
1 黒褐色土（ローム粒少含、炭化物極少含、しまり強）
2 暗褐色土（ローム粒含、しまり強）
3 黒褐色土（ローム粒・炭化物・焼土粒極少含）
4 暗褐色土（ローム粒含、炭化物・円礫極少含）
5 黒褐色土（4層に類似する、ローム粒含、炭化物極少含）
6 黒褐色土（ローム粒少含）

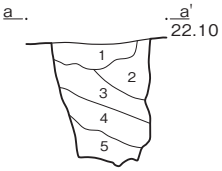
SK2416·3097（G面）

0 （S=1/60） 2m

Ⅲ-116図　SK2381、SK2390、SK2404·3001、SK2416·3097

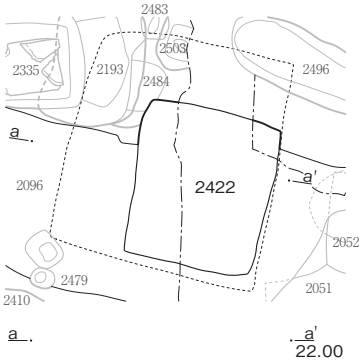






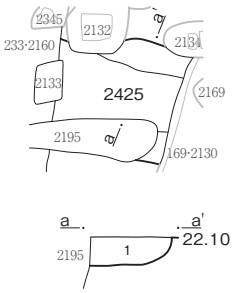
2419
1 茶褐色土　（ローム粒少含、炭化物極少含）
2 茶褐色土　（1層より暗、ローム粒含）
3 暗茶褐色土（ローム粒・炭化物・貝片極少含、しまり弱）
4 暗褐色土　（ローム粒極少含、しまり弱）
5 褐色土　　（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり弱）

SK2419（G面）



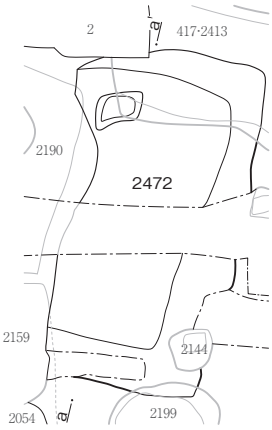
2422
1 褐色土　　（ローム粒極多含、ロームB含、小円礫極少含、しまり弱）
2 褐色土　　（ローム粒・灰褐色粘土粒多含、円礫極少含）
3 灰褐色粘土（ローム粒少含、炭化物極少含、粘性強）
4 茶褐色土　（ローム粒含、炭化物極少含）
5 茶褐色土　（灰褐色粘土多含、ローム粒含、粘性強）

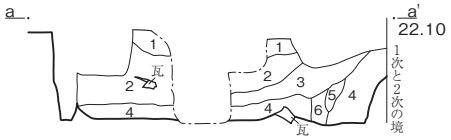
SU2422（G面）



2425
1 黒色土（ローム粒少含、粘性弱、しまり極強）

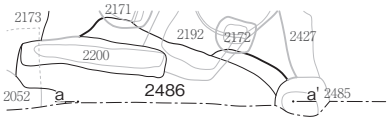
SK2425（G面）

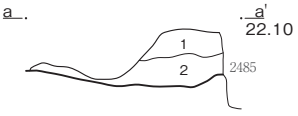




2472
1 黄褐色土（ほぼロームで構成）
2 褐色土　（ローム粒多含、小円礫・炭化物含）
3 茶褐色土（遺物含む、炭化物・貝片多含、ローム粒・礫少含）
4 黒褐色土（ローム粒含、しまり強）
5 暗褐色土（貝片・ローム粒含、しまり弱）
6 茶褐色土（ローム粒含、小円礫少含）

SK2472（G面）



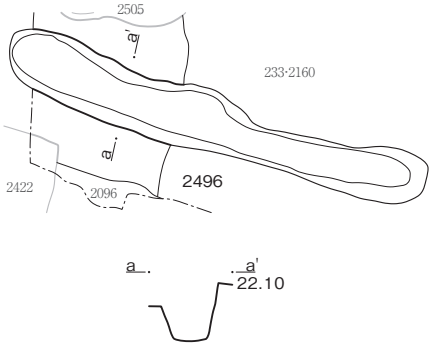


2486
1 茶褐色土（ローム粒少含、小円礫・炭化物極少含）
2 暗褐色土（ローム粒・炭化物少含、粘性・しまり弱）

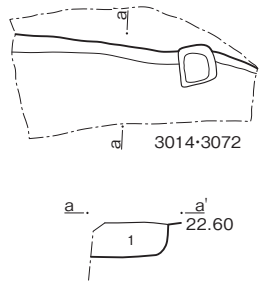
SK2486（G面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-117図　SK2419、SU2422、SK2425、SK2472、SK2486

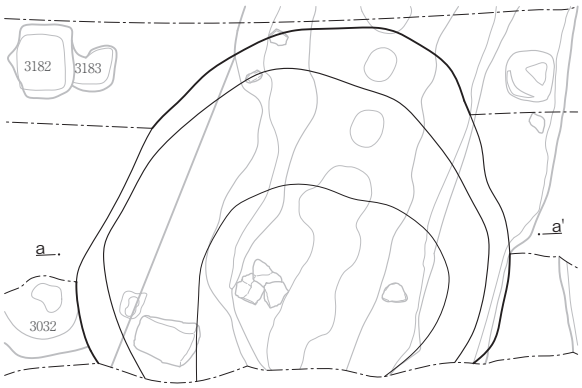


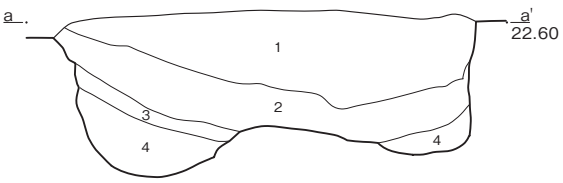
SD2496（G面）



3014・3072
1 暗褐色土（小片礫・瓦片中含、粘性・しまりなし）

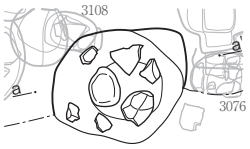
SK3014·3072（A～B面）

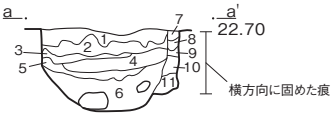




3011
1 黄褐色土（ロームで構成、小円礫極少含）
2 茶褐色土（ローム粒・焼土粒含、小円礫少含、炭化物・円礫極少含）
3 黄褐色土（焼土粒・小円礫極少含、粘性弱）
4 茶褐色土（焼土粒含、ローム粒少含、円礫極少含、粘性・しまり弱）

SK3011（C面）



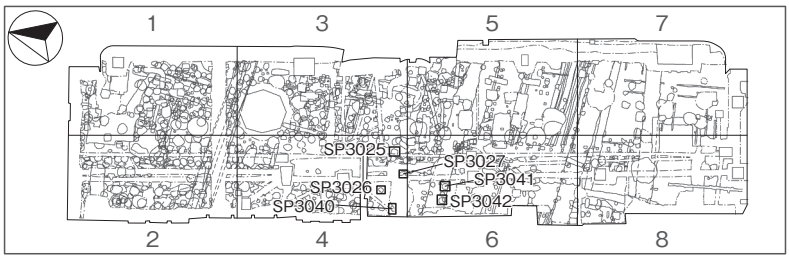


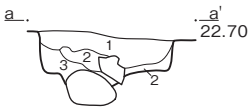
3024
1 茶褐色土（ローム粒含、破砕瓦・小円礫少含、炭化物極少含）
2 褐色土　（円礫極多、ローム粒含、破砕瓦片少含、しまり強）
3 褐色土　（2層より暗、ローム粒多含、小円礫含、しまり強）
4 茶褐色土（円礫極多含、しまり強）
5 褐色土　（ロームB・ローム粒含、破砕瓦少含、しまり強）
6 茶褐色土（円礫・小円礫極多含、しまり強）
7 黄褐色土（ロームで構成、小円礫少含）
8 茶褐色土（ローム粒少含）
9 黄褐色土（ロームで構成）
10 橙褐色土（純焼土層、破砕瓦含、粘性なし、しまり弱）
11 褐色土　（ローム粒多含、焼土粒・破砕瓦・炭化物少含）

SP3024（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-118図　SD2496、SK3011、SK3014·3072、SP3024



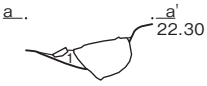


3025
1 褐色土　（円礫・小円礫多含、ローム粒含、焼土粒・破砕瓦片少含、しまり強）
2 暗褐色土（小円礫・破砕瓦少含、しまり強）
3 茶褐色土（小円礫多含、ローム粒含、しまり極強）

SP3025（C面）

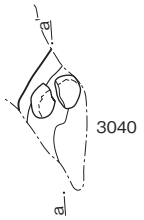
3026
1 茶褐色土（ローム粒・黄褐色砂多含、円礫・小円礫含、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒多含、焼土粒・小円礫少含、しまり極強）

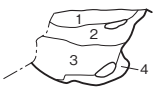
SP3026（C面）



3027
1 褐色土（ローム粒含、円礫・小円礫多含、粘性なし）

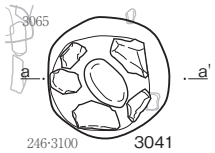
SP3027（C面）

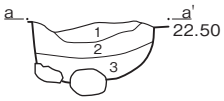




3040
1 茶褐色土（ローム粒含、円礫少含）
2 橙褐色土（焼土粒極多、小円礫・ローム粒少含、円礫多含、粘性弱、しまり強）
3 茶褐色土（円礫含、焼土粒・ローム粒少含、粘性弱、しまり強）
4 明褐色土（ローム粒・焼土粒極少、粘性・しまり強）

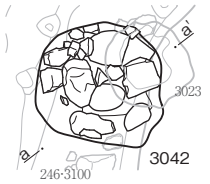
SP3040（C面）

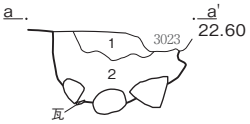




3041
1 暗茶褐色土（ローム粒少含、円礫含、しまり強）
2 茶褐色土　（円礫含、ローム粒・焼土粒少含、破砕瓦・炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
3 暗褐色土　（円礫多含、焼土粒少含、粘性弱、しまり強）

SP3041（C面）



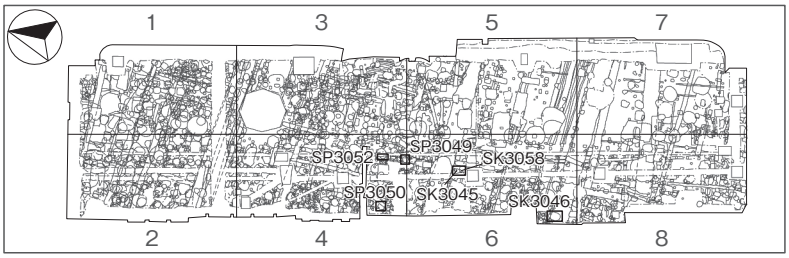


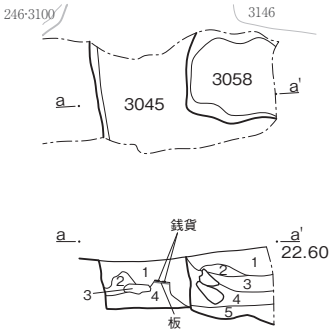
3042
1 暗褐色土　（円礫多含、ローム粒含、しまり極強）
2 暗茶褐色土（円礫極多含、ローム粒・焼土粒少含、しまり強）

SP3042（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-119図　SP3025、SP3026、SP3027、SP3040、SP3041、SP3042

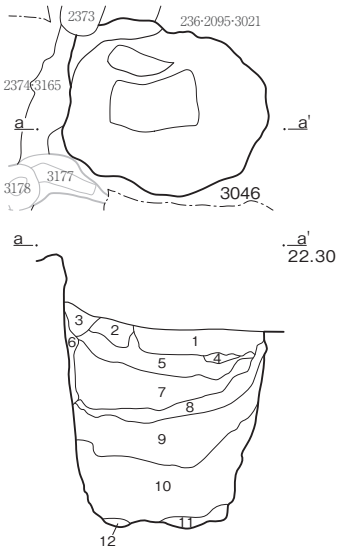




3045
1 橙褐色土　（焼土粒多含、ローム粒少含、炭化物含）
2 褐色土　（ローム粒多含、焼土粒含、炭化物少含、ロームB極少含）
3 ローム土　（ロームB）
4 暗灰褐色土（灰褐色粘土極多含、炭化物多含、焼土粒・瓦片含）

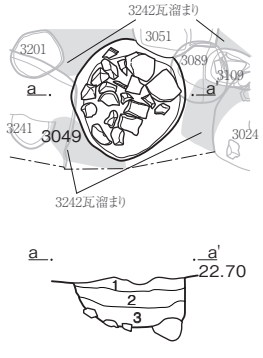
3058
1 茶褐色土（ローム粒・焼土粒・小円礫・破砕瓦少含）
2 褐色土　（ローム粒多含、ロームB少含）
3 暗褐色土（ローム粒・小円礫少含、炭化物極少含）
4 茶褐色土（ローム粒少含、焼土粒極少含）
5 暗褐色土（ローム粒含、焼土粒・小円礫少含）

SK3045、SK3058（C面）



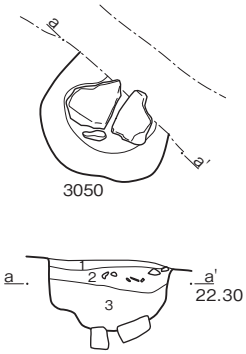
1 暗茶褐色土（炭化物・ローム極少含、粘性・しまり弱）
2 茶褐色土　（ローム多含、黒褐色土少含、粘性・しまり弱）
3 茶褐色土　（ローム多含、もろく崩れやすい、粘性弱、しまりなし）
4 暗茶褐色土（玉砂利多含）
5 明茶褐色土（暗茶褐色土B極少含）
6 暗茶褐色土（3層と同様もろく崩れやすい）
7 暗茶褐色土（ロームB含、炭化物少含、粘性強）
8 明黒褐色土（ローム極少含、粘性強）
9 茶褐色土　（明茶褐色土含、貝殻片極少含、粘性強、しまり弱）
10 暗茶褐色土（1層より暗、粘性強、しまり弱）
11 明茶褐色土（ロームB多含、炭化物含）
12 明茶褐色土（粘性強、しまりなし）

SK3046（F面）



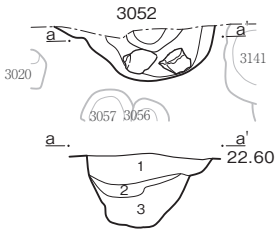
3049
1 橙褐色土　（焼土粒極多含、焼瓦片多含）
2 褐色土　（ローム粒・焼土粒少含、円礫含、しまり強）
3 暗茶褐色土（円礫・小円礫極多含、ローム粒・焼土粒少含、しまり強）

SP3049（C面）



3050
1 茶褐色土（焼土多含、壁土含、円石少含、粘性弱、しまり強）
2 茶褐色土（円石含、粘性弱、しまり強）
3 礫層　（円石多含、暗茶褐色土含、炭化物・瓦片少含）

SP3050（C面）

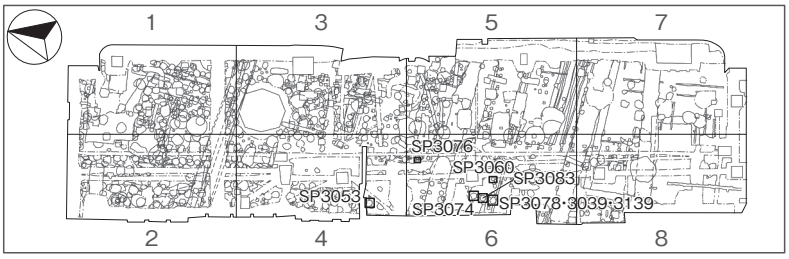


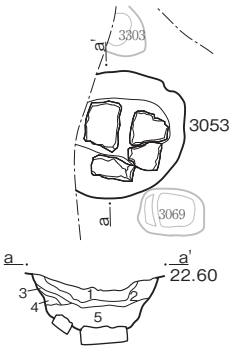
3052
1 暗褐色土（ローム粒多含、円礫含、しまり強）
2 茶褐色土（ローム粒多含、円礫・小円礫多含、しまり強）
3 暗褐色土（ローム粒・円礫含、しまり強）

SP3052（C面）

0　（S=1/60）　2m

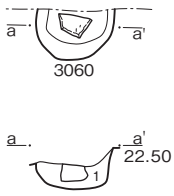
Ⅲ-120図　SK3045、SK3046、SP3049、SP3050、SP3052、SK3058





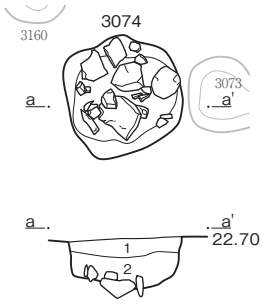
3053
1 茶褐色土　（円礫多含、壁土含、粘性なし、しまり強）
2 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB・円礫含、粘性弱、しまり強）
3 暗茶褐色土（円礫含、しまり強）
4 茶褐色土　（小円礫含、しまり強）
5 茶褐色土　（大丸礫含、粘性なし、しまり強）

SP3053（C面）



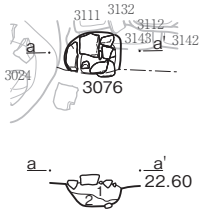
3060
1 黒褐色土（円礫・ローム粒・焼土粒含、炭化物極少含、しまり強）

SP3060（C面）



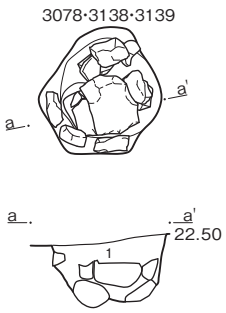
3074
1 茶褐色土　（小円礫・壁土・炭化物少含、ローム粒多含、粘性弱、しまり強）
2 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、ローム粒含、しまり強）

SP3074（C面）



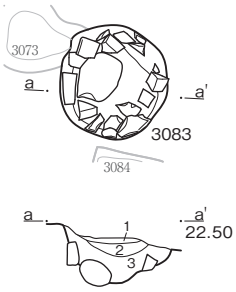
3076
1 黒褐色土　（粘性弱、しまり強）
2 暗茶褐色土（ローム粒少含、粘性弱、しまり強）

SP3076（C面）



3078・3138・3139
1 茶褐色土（ローム粒・円礫多含、焼土粒含、しまり強）

SP3078・3138・3139（C面）

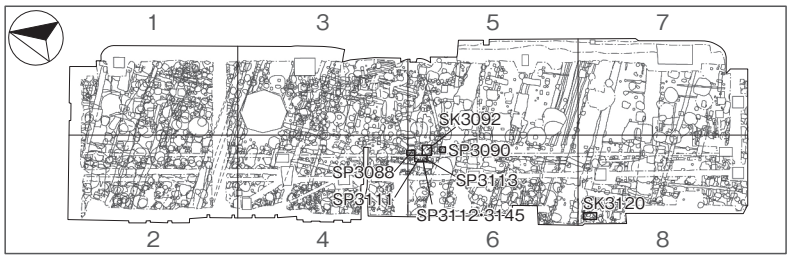


3083
1 暗茶褐色土（小円礫多含、焼土極少含、粘性弱、しまり強）
2 茶褐色土　（ローム多含、小円礫含、しまり極強）
3 黒褐色土　（円礫・小円礫多含、しまり強）

SP3083（C面）

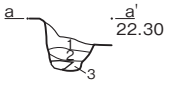
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-121図　SP3053、SP3060、SP3074、SP3076、SP3078・3138・3139、SP3083



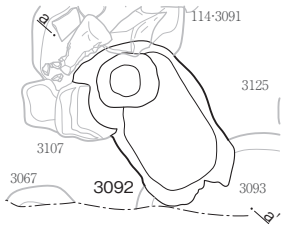
3088
1 茶褐色土　（ロームB・ローム粒含、円礫・小円礫・炭化物少含、焼土極少含）
2 暗茶褐色土（大円礫・円礫・小円礫多含、粘性弱、しまり強）

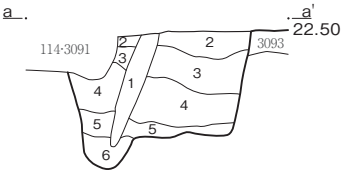
SP3088（C～D面）



3090
1 茶褐色土（焼土粒多含、ローム粒・炭化物極少含）
2 暗褐色土（小円礫・焼土粒少含、しまりなし）
3 茶褐色土（ローム粒・ロームB少含、しまり弱）

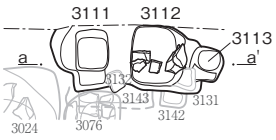
SP3090（C面）

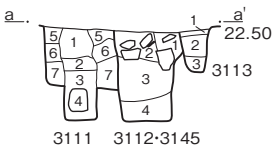




3092
1 暗茶褐色土（ロームB多含、黒褐色土B含、粘性・しまり弱）
2 明黒褐色土（ロームB多含、黒褐色土B・ローム粒含、粘性・しまり弱）
3 茶褐色土　（ロームB含、黒褐色土B・黒褐色土少含、粘性・しまり弱）
4 明茶褐色土（ローム粒多含、暗茶褐色土極少含、しまり強）
5 明茶褐色土（4層より暗い、ローム粒多含、暗茶褐色土極少含、粘性弱、しまり強）
6 黒褐色土　（茶褐色土粒含、ローム粒極少含、しまりなし）

SK3092（C面）



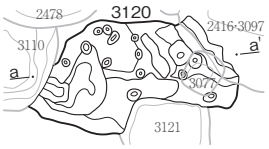


3111
1 灰褐色土　（暗茶褐色土含、ロームB少含、粘性・しまり弱）
2 茶褐色土　（ローム粒多含、炭化物極少含、粘性強、しまり弱）
3 灰褐色土　（1層より黒、炭化物・ロームB含、円礫・瓦片少含、粘性弱、しまり強）
4 暗灰褐色土（ボソボソの土、柱痕と思われる、粘性弱、しまりなし）
5 暗茶褐色土（ロームB・ローム粒含、焼壁土少含、粘性弱、しまり強）
6 茶褐色土　（ロームB・ローム粒含）
7 茶褐色土　（ロームB・ローム粒多含）

3112・3145
1 暗茶褐色土（ロームB少含、炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
2 明黒褐色土（炭化物・ロームB少含、粘性弱、しまりなし）
3 暗茶褐色土（炭化物含、焼壁土・ロームB含、粘性弱、しまり強）
4 暗茶褐色土（瓦片・ロームB多含、粘性・しまり弱）

3113
1 茶褐色土　（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり弱）
2 暗茶褐色土（ローム粒多含、瓦片含、小円礫少含、炭化物極少含、粘性なし、しまり強）
3 暗茶褐色土（ロームB含、焼土・炭化物極少含、粘性なし、しまり強）

SP3111、SP3112·3145、SP3113（C面）

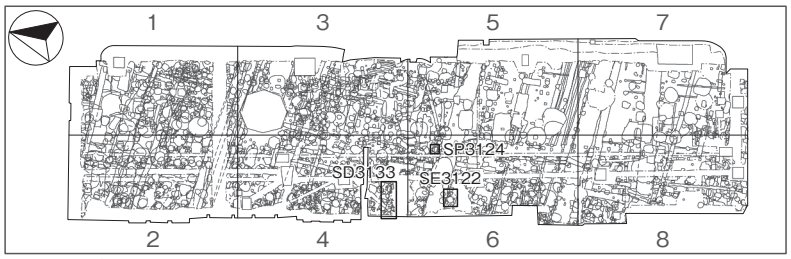


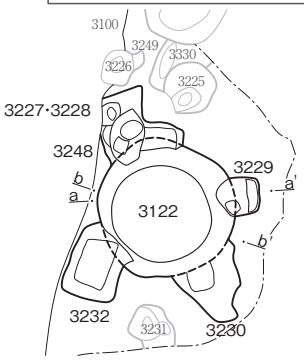
3120
1 暗褐色土（ローム粒少含、炭化物極少含）
2 暗褐色土（ローム粒少含、しまり弱）

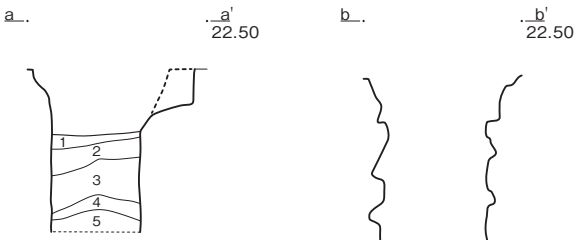
SK3120（G面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-122図　SP3088、SP3090、SK3092、SP3111、SP3112·3145、SP3113、SK3120

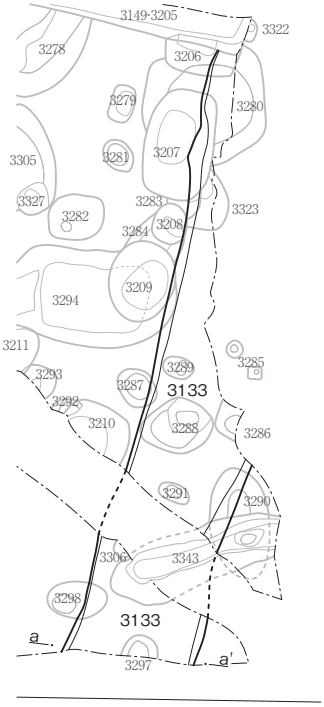


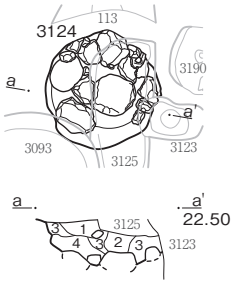




3122
1 茶褐色土（ローム粒・焼土粒少含、粘性弱、しまりなし）
2 橙褐色土（焼土粒極多含、破砕瓦片含、天和焼土層の崩落土、粘性・しまり弱）
3 暗褐色土（ローム粒少含、しまり弱）
4 暗褐色土（円礫含、D面崩落土、粘性・しまりなし）
5 暗褐色土（粘性・しまり弱）

SE3122、SP3227･3228、SP3229、SP3230、SP3232（E面～）



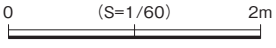


3124
1 暗茶褐色土（小円礫多含、ロームB少含、焼壁土・炭化物極少含、粘性弱、しまり強）
2 暗緑灰色土（茶褐色土・ロームB含、しまりなし）
3 暗茶褐色土（ロームB含、炭化物少含、粘性弱、しまり強）
4 暗茶褐色土（円礫多含、ロームB少含、炭化物極少含、粘性弱、しまり強）

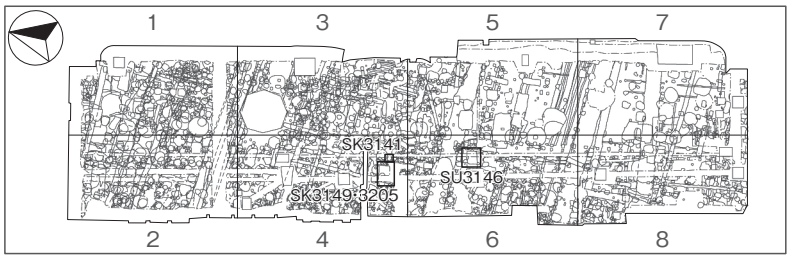
SP3124（C面）

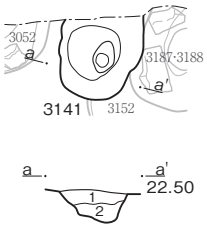
3133
1 茶褐色土　（ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり弱）
2 暗茶褐色土（ローム粒多含、瓦片含、小円礫少含、炭化物極少含、粘性なし、しまり強）
3 暗茶褐色土（ロームB含、焼土・炭化物極少含、粘性なし、しまり強）

SD3133（E面）



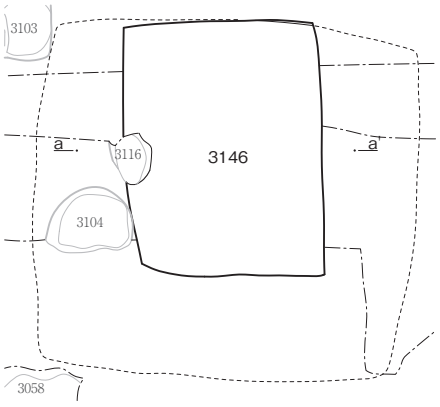
Ⅲ-123図　SE3122、SP3124、SD3133、SP3227･3228、SP3229、SP3230、SP3232

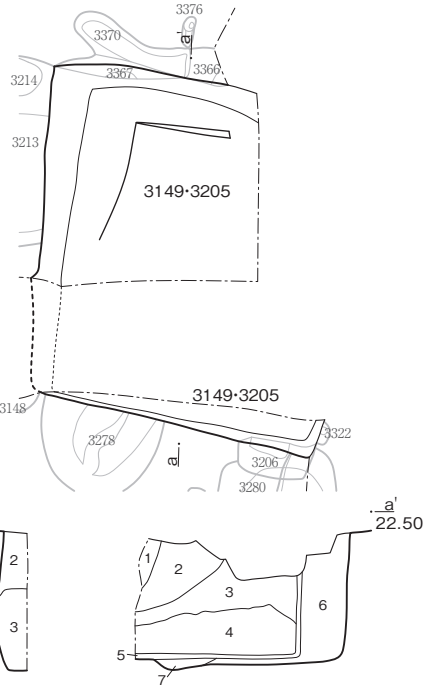




3141
1 茶褐色土　（ロームB多含、円礫含、暗茶褐色土少含、炭化物・焼壁土極少含、粘性弱、しまり強）
2 暗茶褐色土（円礫含、ロームB少含、炭化物極少含、粘性弱、しまり強）

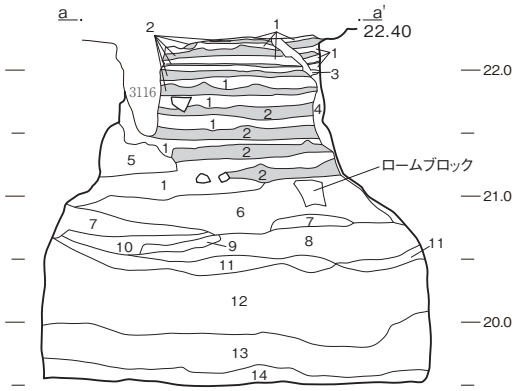
SK3141（C面）





3149・3205
1 暗褐色土（ローム粒多含、焼土粒少含、しまり極強）
2 褐色土　（ローム粒含、焼土粒・小円礫極少含）
3 黄褐色土（円礫極少含、ローム粒・ロームBで構成）
4 黄褐色土（円礫極少含、ロームBで構成）
5 赤褐色土（木の腐食したものと思われる、粘性・しまりなし）
6 黄褐色土（ローム粒・ロームBで構成）
7 暗褐色土（粘性・しまりなし）

SK3149·3205（E～）

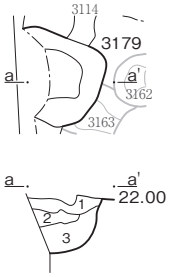


3146
1 黄褐色土（焼土粒少含、ロームで構成、しまり強）
2 赤褐色土（焼土粒極多含、円礫多含、ローム粒・炭化物少含、粘性弱、しまり強）
3 褐色土　（ローム粒・焼土粒少含、粘性弱）
4 暗褐色土（円礫含、ローム粒少含）
5 褐色土　（ロームB・ローム粒・円礫含）
6 橙褐色土（焼土粒極多含、炭化物含、ローム粒·ロームB·小円礫少含、粘性·しまり弱）
7 黄褐色土（ロームで構成、粘性弱）
8 橙褐色土（焼土粒極多含、ローム粒少含、粘性·しまり弱）
9 黄褐色土（ロームで構成、粘性弱）
10 橙褐色土（ローム粒極多含、破砕焼瓦片多含、炭化物含、灰褐色粘土少含、粘性なし、しまり弱）
11 黄褐色土（ロームで構成、炭化物少含、粘性弱）
12 橙褐色土（焼土粒極多含、破砕焼瓦含、円礫·炭化物少含、粘性·しまり弱）
13 茶褐色土（焼土粒多含、破砕焼瓦少含、粘性·しまり弱）
14 褐色土　（ローム粒少含、焼土粒極少含、粘性強）

SU3146（C面）

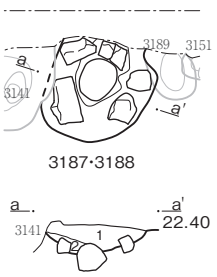
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-124図　SK3141、SU3146、SK3149·3205



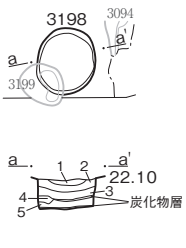
3179
1 暗褐色土　（ローム粒少含、灰褐色粘土粒・炭化物極少含）
2 暗灰褐色土（ローム粒少含、粘性強）
3 暗灰褐色土（1層よりやや明、ローム粒含、焼土粒極少含、粘性強、しまり弱）

SK3179（G面）



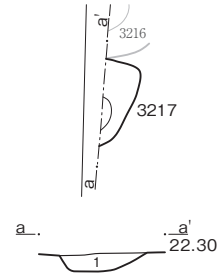
3187・3188
1 暗茶褐色土（円石含、焼壁土・ローム粒少含、粘性弱、しまり強）
2 茶褐色土　（黒褐色土少含、ローム主体、粘性弱、しまり極強）

SP3187·3188（C～D面）



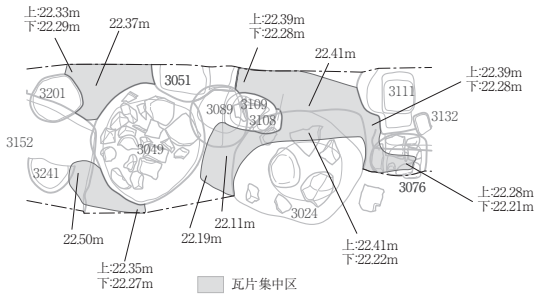
3198
1 茶褐色土　（ローム粒少含、粘性強）
2 褐色土　（ローム粒含、粘性強）
3 茶褐色土　（ローム粒少含）
4 黄褐色土　（ロームで構成、しまり弱）
5 暗茶褐色土（ローム粒少含）

SK3198（G面）

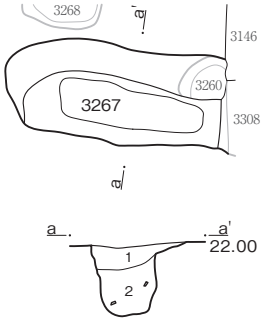


1 暗褐色土（ローム粒少含）

SK3217（F面）

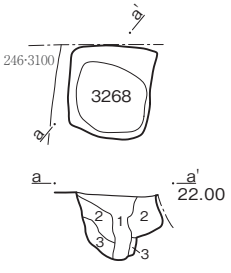


SK3242（D面）



1 暗褐色土（ローム粒・炭化物少含、焼土粒極少含）
2 記載なし

SD3267（E面）

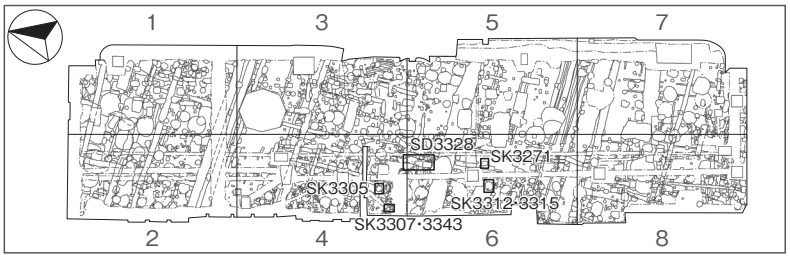


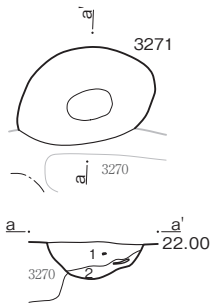
1 茶褐色土（ローム粒多含）
2 黄褐色土（ロームで構成、しまり強）
3 茶褐色土（ローム粒少含）

SK3268（E面）

0　（S=1/60）　2m

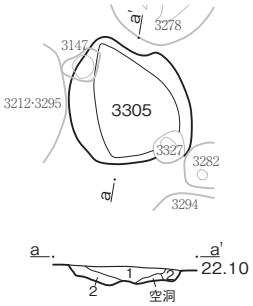
Ⅲ-125図　SK3179、SP3187·3188、SK3198、SK3217、SK3242、SD3267、SK3268





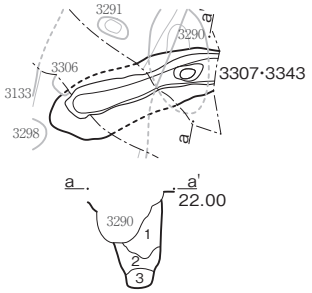
3271
1 暗褐色土（ローム粒・炭化物少含）
2 茶褐色土（ローム粒含）

SK3271（E面）



3305
1 暗褐色土（ローム粒少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
2 褐色土　（ローム粒多含、しまり強）

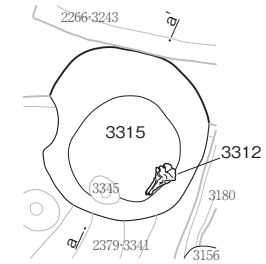
SK3305（G面）



3307・3343
1 暗茶褐色土（ローム粒含、炭化物極少含）
2 茶褐色土　（ローム粒多含、赤色スコリア少含）
3 黄褐色土　（ロームで構成、赤色スコリア・黒色スコリア極少含）

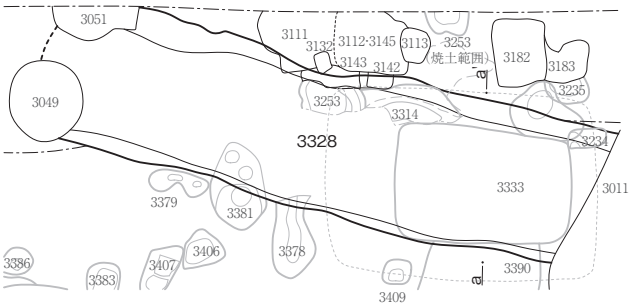
※ 事実記載は第Ⅲ章第2節

SK3307・3343（G面）



3312・3315
1 暗褐色土（ローム粒含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）
2 暗褐色土（1層よりやや暗、ローム粒・焼土粒少含）
3 褐色土　（ロームで構成）

SK3312・3315（G面）

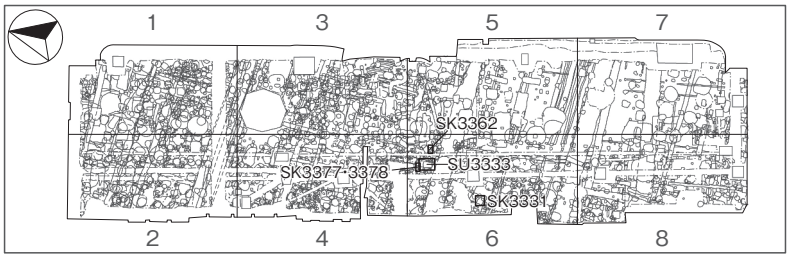


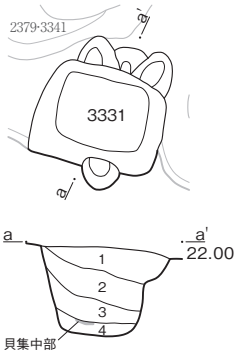
3328
1 明茶褐色土（瓦片・礫少含、焼壁土微含、粘性弱、しまり強）
2 暗茶褐色土（ロームB多含、丸礫少含、粘性弱、しまり強）
3 明茶褐色土（ローム主体、しまり強）
4 暗茶褐色土（ロームB含、礫・瓦片少含、しまり強）
5 明茶褐色土（ローム主体、粘性弱、しまり強）

SD3328（E面）

0　(S=1/60)　2m

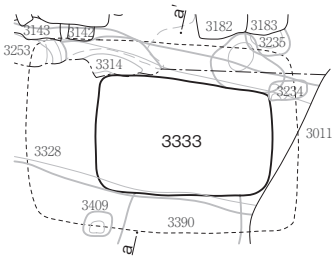
Ⅲ-126図　SK3271、SK3305、SK3307・3343、SK3312・3315、SD3328

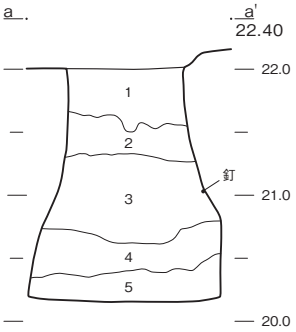




3331
1 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒極少含、しまり強）
2 暗褐色土　（1層より暗、ローム粒・炭化物極少含）
3 暗茶褐色土（ローム粒少含）
4 暗褐色土　（ローム粒含、しまり弱）

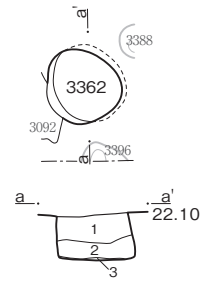
SK3331（E面）





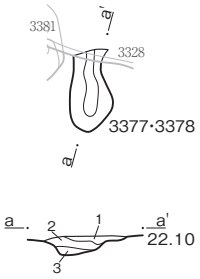
3333
1 黄褐色土　（ロームB・ローム粒主体、粘性弱、しまり強）
2 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒少含）
3 暗茶褐色土（瓦・剥離石片多含、小円礫・ローム粒少含）
4 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒少含、円礫極少含、粘性・しまり弱）
5 褐色土　　（ローム粒含、ロームB少含）

SU3333（E面）



3362
1 黒褐色土　（ロームB・ローム粒・炭化物少含、粘性弱、しまり強）
2 暗黒褐色土（ロームB・ローム粒極少含、粘性・しまり弱）
3 炭化物層

SK3362（E面）

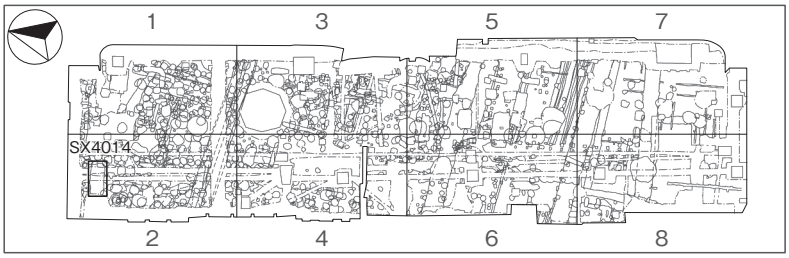


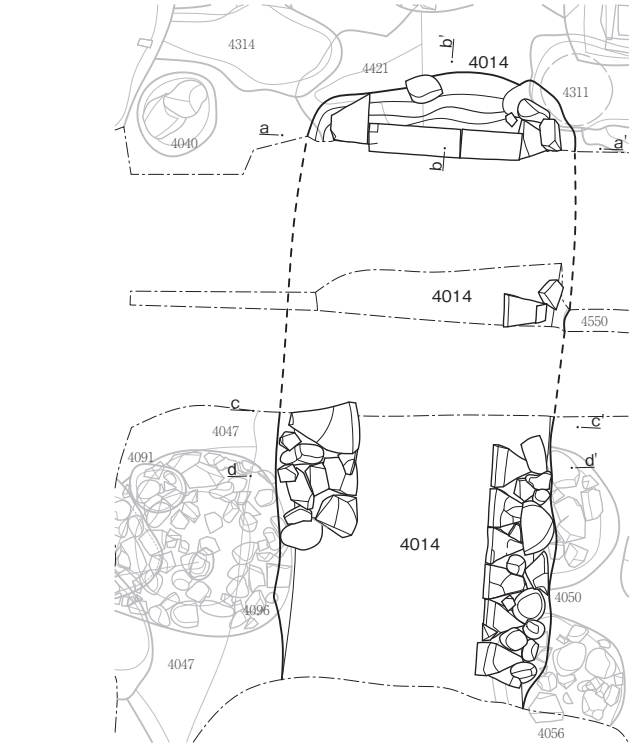
3377・3378
1 暗茶褐色土（ロームB含、黒褐色土少含、粘性弱、しまり強）
2 黒褐色土　（ロームB微含、粘性弱、しまり強）
3 暗茶褐色土（黒褐色土含、ロームB少含、粘性弱、しまり強）

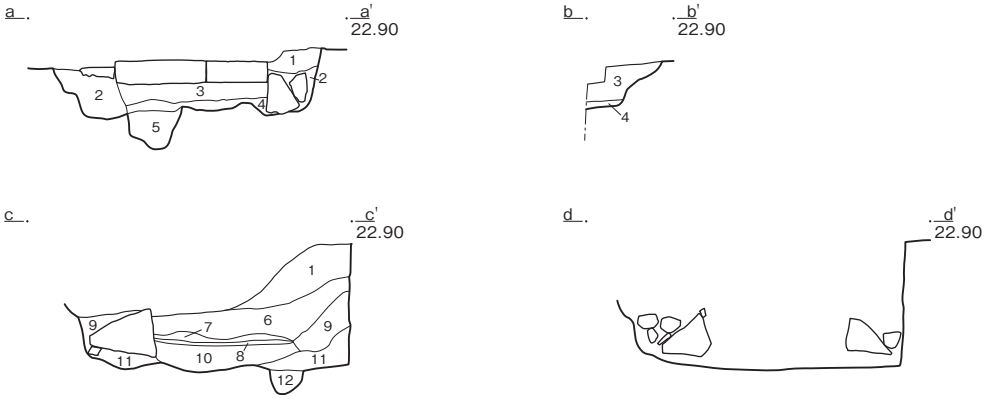
SK3377･3378（E面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-127図　SK3331、SU3333、SK3362、SK3377･3378





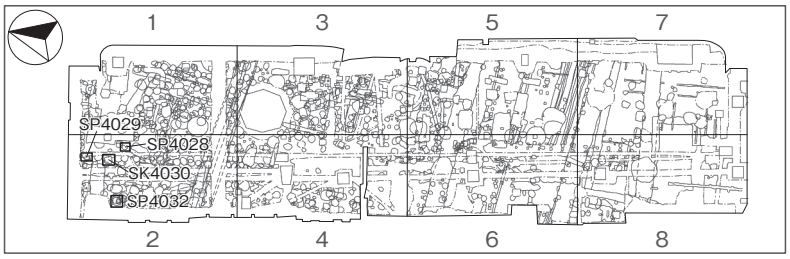


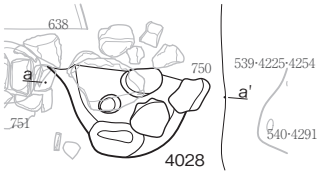
4014
1 橙褐色土　（焼土粒極多含、焼石多含、小円礫・漆喰片含、しまり弱）
2 茶褐色土　（ローム粒・灰褐色粘土粒含、ロームB・小円礫少含）
3 茶褐色土　（ローム粒・ロームB含、円礫少含）
4 明茶褐色土（ローム粒・ロームB含、炭化物・灰褐色粘土・小円礫極少含、しまり強）
5 茶褐色土　（ローム粒・ロームB・小円礫少含、しまり弱）
6 褐色土　（焼土粒・ローム粒含、しまり弱）
7 炭化物層　（破砕礫〔切石〕片多含）
8 暗褐色土　（円礫多含、ローム粒・切石片含、しまり極強、硬化面）
9 暗褐色土　（ローム粒・ロームB含）
10 茶褐色土　（ローム粒・ロームB含、小円礫少含、しまり強）
11 茶褐色土　（ローム粒少含、ロームB・小円礫極少含）
12 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）

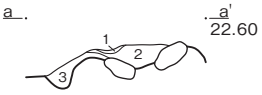
SX4014（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-128図　SX4014

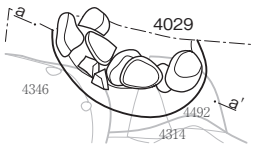


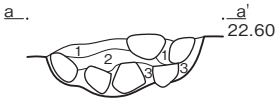




4028
1 茶褐色土（円礫・小円礫含、黄褐色土少含、しまり極強）
2 黒褐色土（小円礫極少含、火山灰か）
3 茶褐色土（ロームB多含）

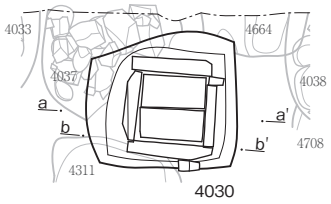
SP4028（C面）

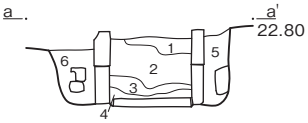


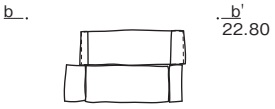


4029
1 褐色土　（黄褐色砂・ローム粒多含、小円礫含、しまり弱）
2 茶褐色土（黄褐色砂・円礫・小円礫極多含、しまり強）
3 茶褐色土（ローム粒・円礫少含、しまり強）

SP4029（C面）

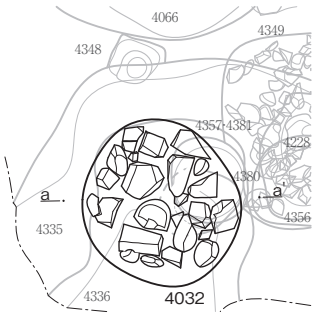






4030
1 茶褐色土　（焼土粒含、小円礫・ローム粒少含、しまり弱）
2 橙褐色土　（焼土粒極多含、焼壁・焼瓦含、円礫少含、しまり弱）
3 炭化物層　（しまり弱）
4 暗灰褐色土（ローム粒極少含、粘性強）
5 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫少含、しまり弱）

SK4030（C面）

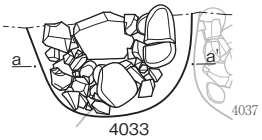


4032
1 暗茶褐色土（円礫極多含、黄褐色砂含、ローム粒極少含、しまり強）

SP4032（C面）

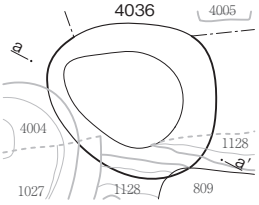
0　(S=1/60)　2m

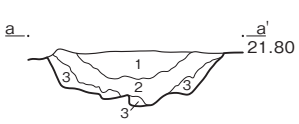
Ⅲ-129図　SP4028、SP4029、SK4030、SP4032



4033
1 茶褐色土　（ローム粒・小円礫多含、しまり強）
2 灰褐色砂礫層（小円礫多含、しまり強）
3 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、ローム粒少含、しまり強）
4 黄褐色砂　（円礫・小円礫多含、しまり極強）
5 暗褐色土　（円礫・小円礫含、しまり強）

SP4033（C面）

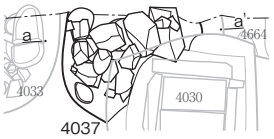


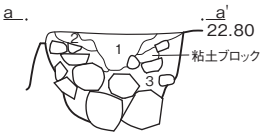


4036
1 暗褐色土　（ローム粒・黒色スコリア少含）
2 暗茶褐色土（ローム粒少含、黒色スコリア極少含）
3 茶褐色土　（ローム粒多含、黒色スコリア・赤色スコリア極少含）

※ 事実記載は第Ⅲ章第2節

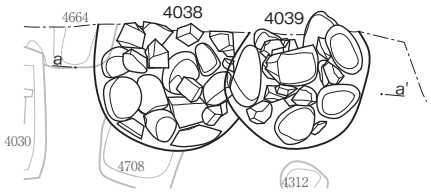
SK4036（G面）

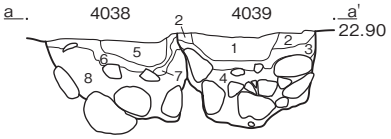




4037
1 茶褐色土　（ローム粒多含、円礫・小円礫少含、破砕瓦極少含、しまり強）
2 黄褐色砂　（円礫・小円礫極多含、しまり強）
3 暗茶褐色土（小円礫・ローム粒・黄褐色砂含、破砕瓦・炭化物極少含、しまり強）

SP4037（C面）

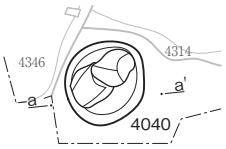


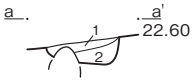


4039
1 暗茶褐色土（ローム粒・円礫少含、焼土粒極少含）
2 暗茶褐色土（円礫極多含、ローム粒少含）
3 黄褐色砂層（円礫・小円礫含、しまり極強）
4 茶褐色土　（小円礫含、ローム粒極少含、しまり強）

4038
5 暗茶褐色土（小円礫・焼土粒少含、しまり強）
6 黄褐色砂層（円礫・小円礫多含、しまり極強）
7 黒褐色土　（しまり強、砂岩系の石が粉状になったものと思われる）
8 暗褐色土　（円礫・小円礫含、焼土粒・ローム粒少含、しまり強）

SP4038、SP4039（C面）



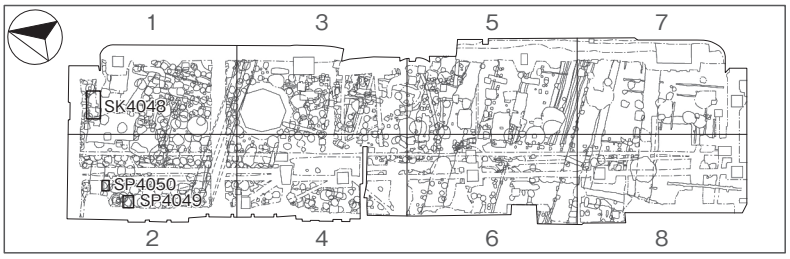


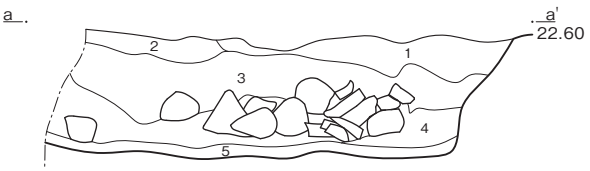
4040
1 褐色土　（円礫・小円礫極多含、黄褐色砂極少含、しまり強）
2 暗褐色土（ローム粒少含、しまり強）

SP4040（C面）

0　（S=1/60）　2m

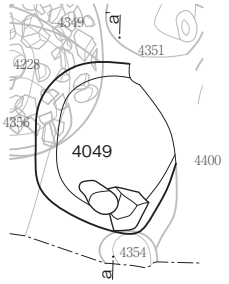
Ⅲ-130図　SP4033、SK4036、SP4037、SP4038、SP4039、SP4040

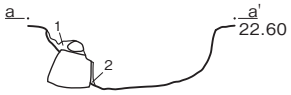




4048
1 暗褐色土　（ローム粒・円礫・小円礫含、灰褐色粘土少含）
2 褐色土　（ローム粒・ローム小B多含、円礫・小円礫少含）
3 暗灰褐色土（灰褐色粘土極多含、小円礫含、瓦片・ローム粒少含）
4 褐色土　（ローム粒多含、灰褐色粘土少含）
5 暗褐色土　（小円礫含）

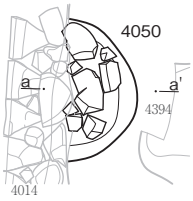
SK4048（C面）

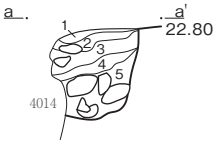




4049
1 黄褐色砂　（円礫・小円礫多含、焼土粒・炭化物極少含）
2 暗茶褐色土（しまり強）

SP4049（C面）



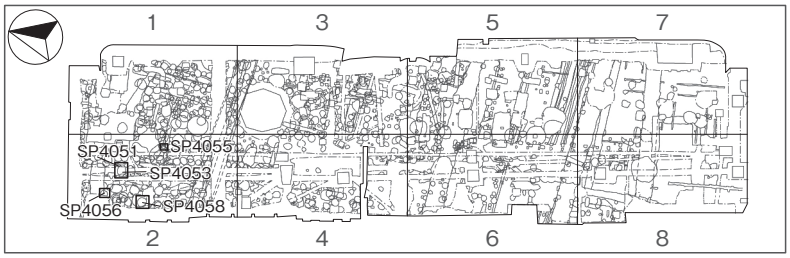


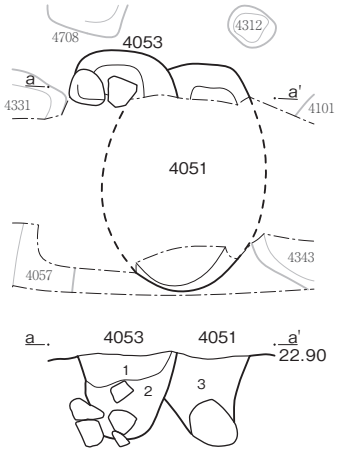
4050
1 暗茶褐色土（ローム粒・黄褐色砂・小円礫少含、しまり強）
2 黄褐色砂　（円礫・小円礫多含、しまり強）
3 暗茶褐色土（ローム粒含、黄褐色砂・円礫少含、しまり極強）
4 黄褐色砂　（円礫・小円礫少含、しまり極強）
5 暗茶褐色土（小円礫・焼土粒少含、ローム粒極少含、しまり強）

SP4050（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-131図　SK4048、SP4049、SP4050

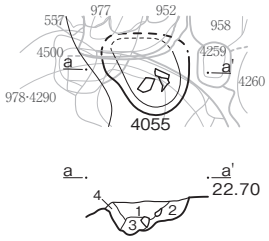




4053
1 茶褐色土　（ローム粒・円礫少含、焼土粒・炭化物極少含）
2 褐色土　（ローム粒含、焼土粒・小円礫少含、しまり強）

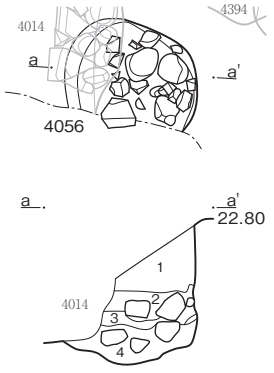
4051
3 暗茶褐色土（ローム粒・円礫含、焼土粒極少含、しまり強）

SP4051、SP4053（C面）



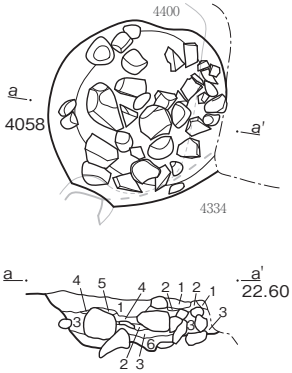
4055
1 茶褐色土　（ローム粒多含、円礫含、焼土粒少含、しまり強）
2 黄褐色土　（ほぼロームで構成、焼土粒極少含、しまり強）
3 黒色破砕石

SP4055（C面）



4056
1 茶褐色土　（ローム粒・円礫・小円礫含、焼土粒極少含）
2 褐色土　（円礫多含、ローム粒含、しまり極強）
3 灰褐色粘土（ローム粒含、小礫少含、しまり極強）
4 褐色土　（ローム粒・円礫多含、しまり極強）

SP4056（D面）

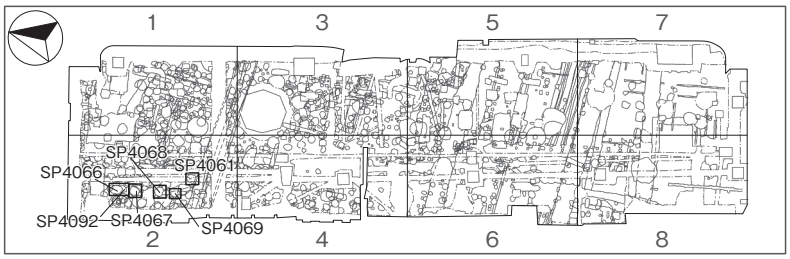


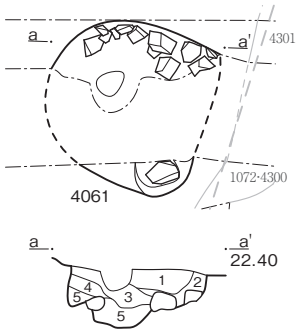
4058
1 暗茶褐色土（黄褐色砂多含、円礫含、ローム粒少含、焼土粒極少含、しまり強）
2 灰褐色粘土（しまり強）
3 茶褐色土　（円礫多含、ローム粒少含、しまり極強）
4 黒色破砕礫
5 灰褐色粘土（しまり強）
6 灰褐色粘土（ローム粒・黒色破砕礫少含、しまり強）

SP4058（C面）

0　（S=1/60）　2m

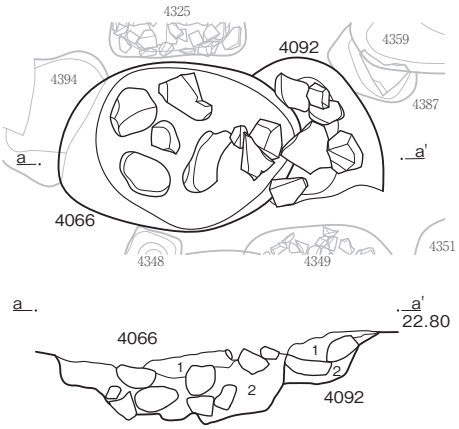
Ⅲ-132図　SP4051、SP4053、SP4055、SP4056、SP4058





4061
1 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、黄褐色砂少含、しまり強）
2 黄褐色砂　（円礫・小円礫多含、しまり極強）
3 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、黄褐色砂含、しまり強）
4 黄褐色砂　（円礫・小円礫多含、しまり強）
5 茶褐色土　（円礫・小円礫含、黄褐色砂少含、しまり強）

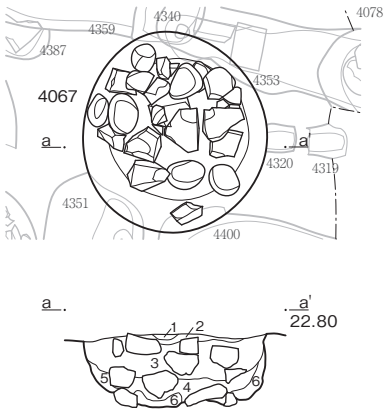
SP4061（D面）



4066
1 茶褐色土　（円礫・小円礫多含、しまり強）
2 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫少含、しまり強）

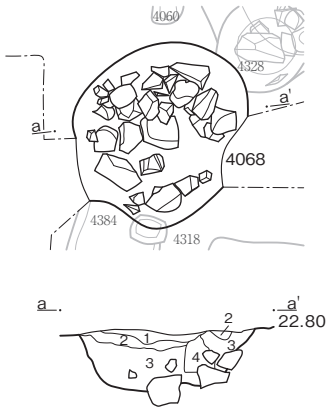
4092
1 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、ローム粒少含、しまり強）
2 褐色土　　（ローム粒・焼土粒含、小円礫少含、しまり強）

SP4066、SP4092（C面）



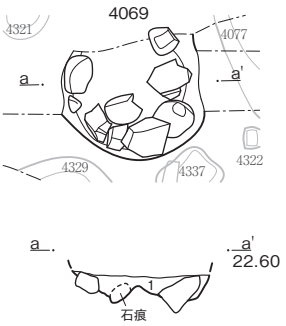
4067
1 暗茶褐色土（小円礫少含、黄褐色砂極少含）
2 黄褐色砂　（円礫・小円礫含）
3 暗茶褐色土（円礫・小円礫・黄褐色砂含）
4 暗茶褐色土（ロームB・小円礫・小角礫含、しまり強）
5 明黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B少含）
6 黒褐色土　（黒色土主体、ローム粒・ロームB含）

SP4067（C面）



4068
1 暗茶褐色土（ローム粒少含、炭化物・焼土粒極少含、しまり強）
2 黄褐色砂　（円礫・小円礫多含、しまり極強）
3 暗褐色土　（円礫・小円礫多含、焼土粒・ローム粒極少含、しまり強）
4 黒褐色土　（ローム粒多含、しまり極強）

SP4068（C面）

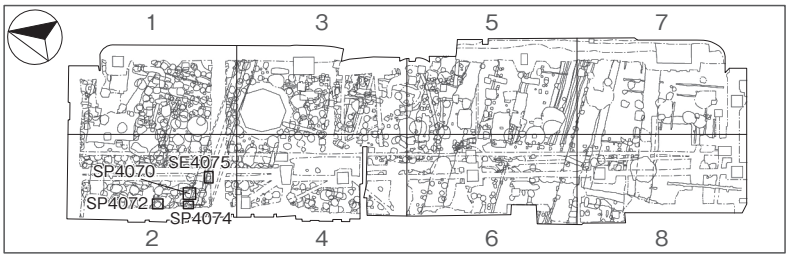


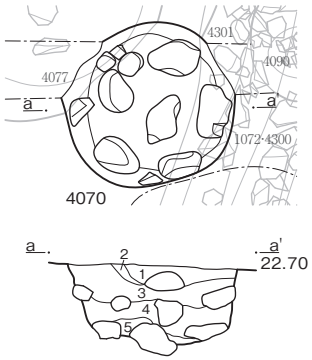
4069
1 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、ローム粒含、焼土粒少含）

SP4069（C面）

0　（S=1/60）　2m

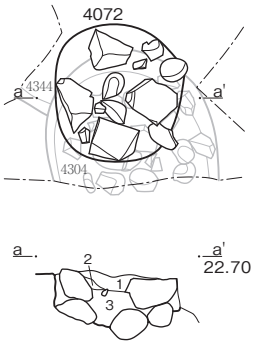
Ⅲ-133図　SP4061、SP4066、SP4067、SP4068、SP4069、SP4092





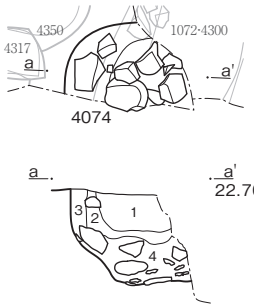
4070
1 茶褐色土（円礫・小円礫多含、黄褐色砂含、焼土粒少含、しまり強）
2 黄褐色砂（円礫・小円礫多含、しまり強）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、小円礫含、しまり強）
4 褐色土　（円礫・ローム粒多含、炭化物・焼土粒極少含、しまり極強）
5 黒褐色土（ロームと黒色土で斑状を呈す、しまり強）

SP4070（C面）



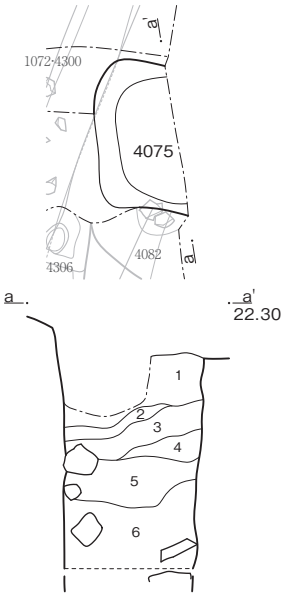
4072
1 黄褐色砂（円礫・小円礫多含、ローム粒・炭化物少含、しまり強）
2 暗褐色砂（ローム粒極少含、しまり強）
3 茶褐色土（ローム粒・焼土粒・小円礫少含、しまり強）

SP4072（C面）



4074
1 褐色土　（円礫・小円礫多含、ローム粒含、しまり極強）
2 黄褐色砂（円礫・小円礫多含、しまり極強）
3 茶褐色土（ローム粒・焼土粒少含、しまり弱）
4 褐色土　（ほぼロームで構成、焼土粒・角礫少含、しまり強）

SP4074（C面）

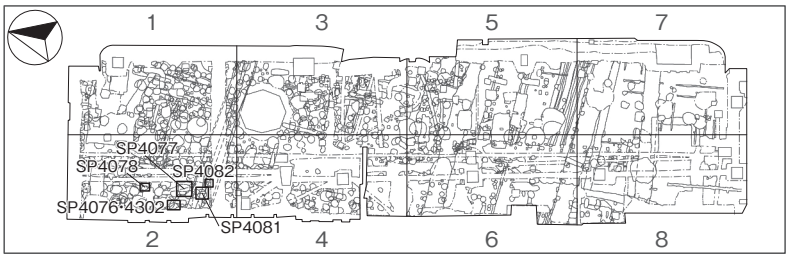


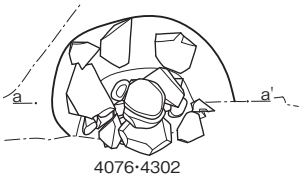
4075
1 黄褐色土（ロームB極多含、黒色土粒・焼土粒・灰色粘土B・礫少含、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB・砂礫多含、しまり弱）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、焼土粒・炭化物極少含）
4 褐色土　（砂質、ローム粒・ロームB・黒色土B・炭化物少含、しまり弱）
5 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・焼土粒・焼土B少含、粘性強）
6 褐色土　（ローム粒・ロームB・明灰色粘土B多含、角石含、焼土粒・炭化物・漆喰極少含、粘性強、しまり弱）

SE4075（C面）

0　（S=1/60）　2m

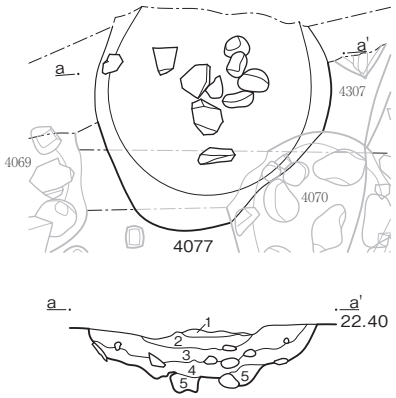
Ⅲ-134図　SP4070、SP4072、SP4074、SE4075





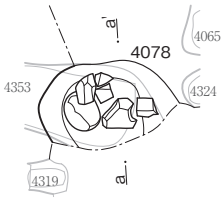
4076・4302
1 茶褐色土　（円礫・小円礫含、焼土粒・ローム粒少含）
2 黄褐色砂　（円礫・小円礫極多含、しまり強）
3 暗茶褐色土（円礫・小円礫多含、ローム粒含、焼土粒極少含、しまり強）
4 暗茶褐色土（ローム粒・小礫少含、炭化物極少含、しまり強）
5 茶褐色土　（ロームで構成、しまり強）

SP4076・4302（C面）



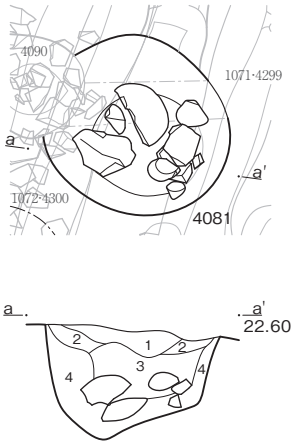
4077
1 橙褐色土（焼土粒多含、炭化物・小円礫少含）
2 礫層　（円礫層）
3 暗褐色土（ローム粒と黒色土粒で斑状を呈す、しまり強）
4 茶褐色土（円礫・小円礫極多含、ローム粒含、しまり強）
5 灰褐色土（灰褐色破砕礫多含、円礫含、しまり強）

SP4077（D面）



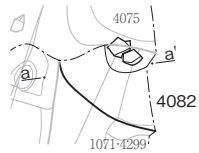
4078
1 茶褐色土（小円礫多含、円礫・焼土粒含、しまり強）
2 茶褐色土（焼土粒多含、円礫含、しまり強）

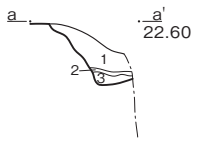
SP4078（C面）



4081
1 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり弱）
2 黄褐色土（ロームB主体、礫多含、焼土粒少含、炭化物極少含、礫層）
3 黄褐色土（ローム層主体、礫多含、黒色土粒少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
4 黄褐色土（ロームで構成）

SP4081（C面）



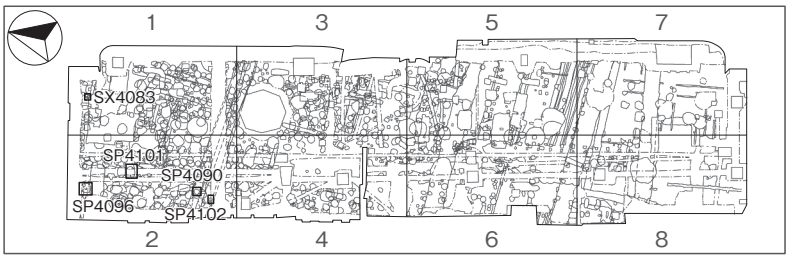


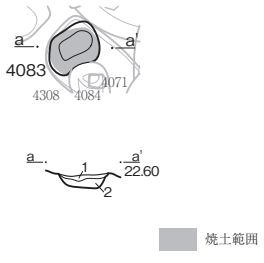
4082
1 茶褐色土（円礫・小円礫・ローム粒多含、焼土粒含、しまり強）
2 暗褐色土（焼土粒多含、ローム粒含）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、焼土粒極少含、しまり強）

SP4082（C面）

0　（S=1/60）　2m

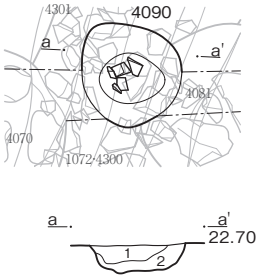
Ⅲ-135図　SP4076·4302、SP4077、SP4078、SP4081、SP4082





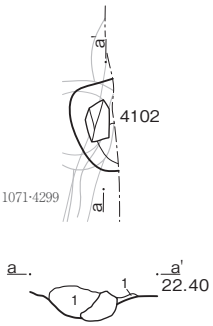
4083
1 橙褐色土（焼土粒極多含、炭化物・灰含、しまり弱）
2 炭化物層

SX4083（C面）



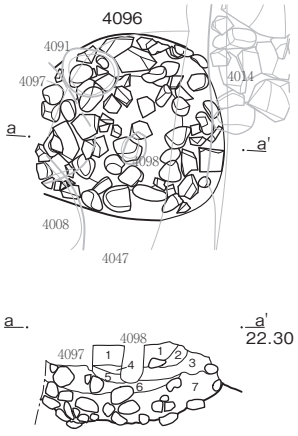
4090
1 褐色土　（ローム粒・焼土粒多含、小円礫・炭化物極少含）
2 黄褐色土（ほぼロームで構成、破砕礫含、しまり強）

SP4090（C面）



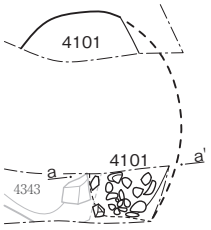
4102
1 褐色土（礫多含、ローム粒少含、しまり強）

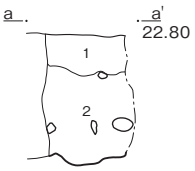
SP4102（C面）



4096
1 茶褐色土　（ローム粒多含、円礫少含）
2 黄褐色土　（ほぼロームで構成、円礫少含、しまり強）
3 暗茶褐色土（角礫極多含、ローム粒少含、しまり強）
4 茶褐色土　（2層より暗、ローム粒少含）
5 褐色土　　（ローム粒多含、焼土粒・小円礫極少含）
6 灰褐色土　（円礫・角礫極多含、しまり強）
7 茶褐色土　（ローム粒少含、しまり極強）

SP4096（C面）



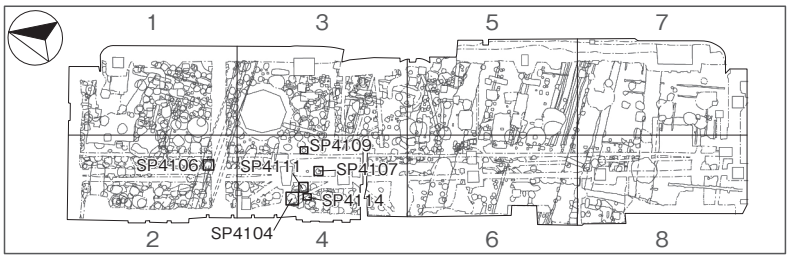


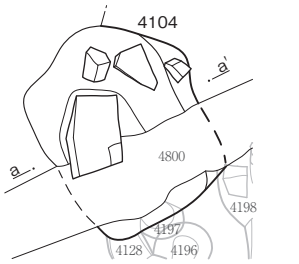
4101
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、炭化物少含、粘性・しまり強）
2 暗黄褐色土（ロームB極多含、礫多含、しまり極強）

SP4101（C面）

0　(S=1/60)　2m

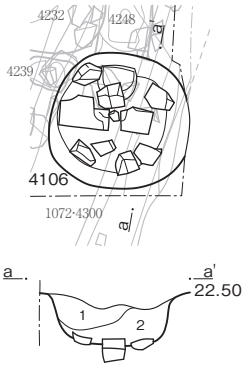
Ⅲ-136図　SX4083、SP4090、SP4096、SP4101、SP4102





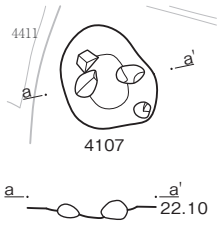
4104
1 茶褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・焼土B少含、粘性・しまり強）
2 褐色土　（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり強）

SP4104（C面）

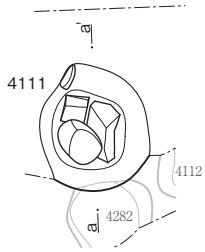


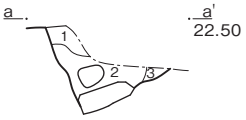
4106
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・炭化物・礫少含、しまり極強）
2 暗黄褐色土（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、焼土粒少含、しまり極強）

SP4106（C面）



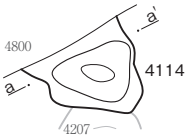
SP4107（C面）





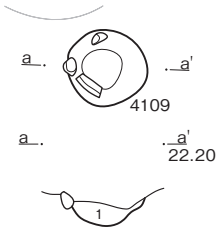
4111
1 褐色土　（ローム粒・ロームB・礫多含、しまり強）
2 褐色土　（礫多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒極少含、しまり極強）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB主体、黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・礫極少含、粘性・しまり強）

SP4111（C面）



4114
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・炭化物粒極少含、しまり極強）
2 明灰色土　（明灰色粘土主体、ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり強）

SP4114（C面）

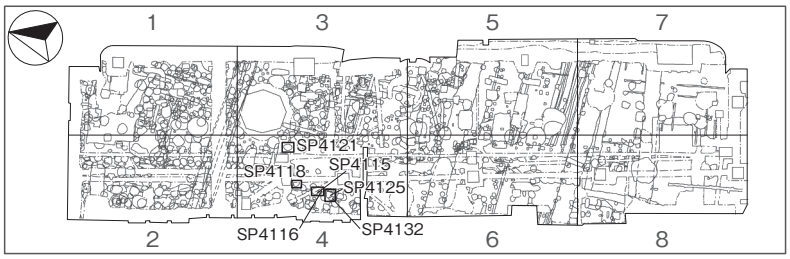


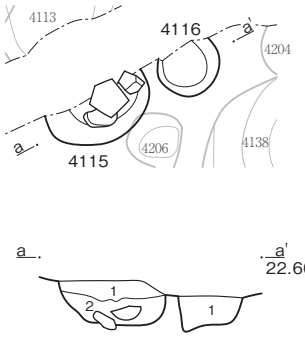
4109
1 黄褐色土（礫極多含、ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり強）

SP4109（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-137図　SP4104、SP4106、SP4107、SP4109、SP4111、SP4114

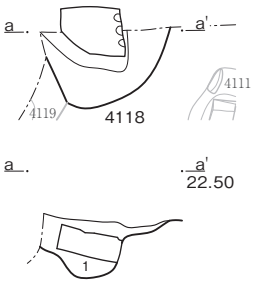




4115
1 褐色土　（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・炭化物粒少含、しまり強）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・炭化物粒・明灰色粘土B少含、粘性・しまり強）

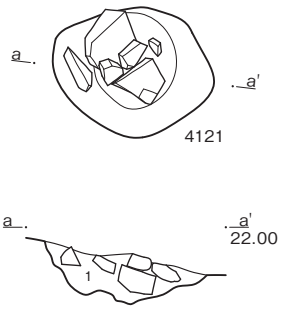
4116
1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B多含、炭化物粒・礫少含、しまり強）

SP4115、SP4116（C面）



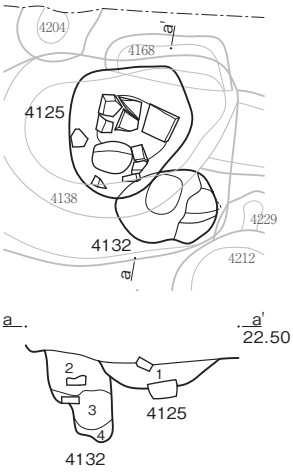
4118
1 褐色土（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、しまり極強）

SP4118（C面）



4121
1 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・焼土粒極少含、粘性強、しまり極強）

SP4121（C面）



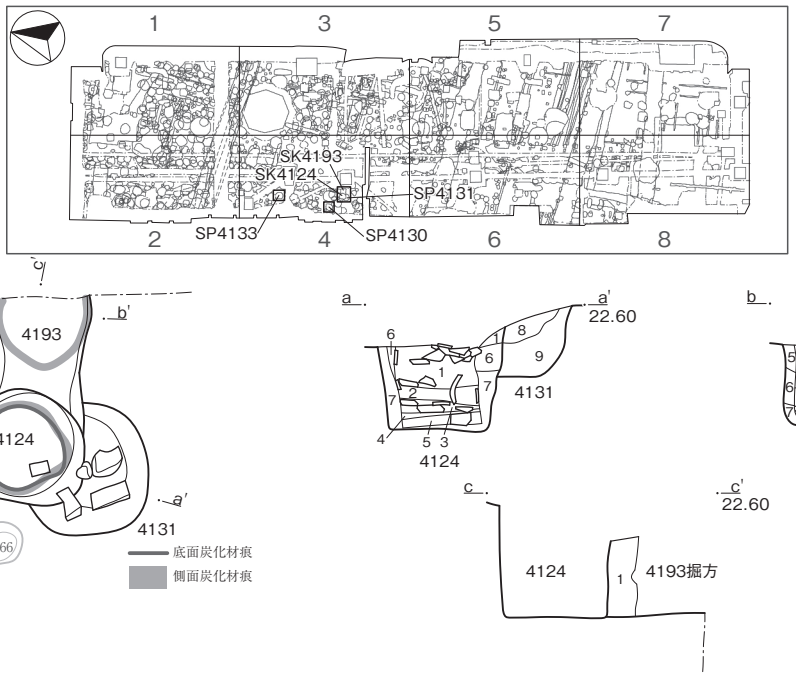
4125
1 褐色土　（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、焼土粒・炭化物粒少含、しまり強）

4132
2 褐色土　（角石多含、ローム粒・礫少含）
3 暗褐色土（ローム粒・ロームB・炭化物粒・角石・瓦片少含、しまり弱）
4 暗褐色土（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒少含）

SP4125、SP4132（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-138図　SP4115、SP4116、SP4118、SP4121、SP4125、SP4132



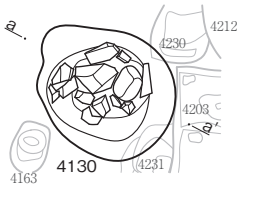
4124
1 暗灰褐色土（瓦片〔焼瓦含〕極多含、漆喰B少含、粘性なし、しまり弱）
2 灰褐色土　（ローム粒・焼土粒少含）
3 焼土層　（焼瓦多含）
4 黒色土　（炭化物主体、しまりなし）
5 灰色土　（礫多含、角石含、ローム粒・黒色土粒少含、しまり弱）
6 灰色土　（炭化材片含、しまり弱）
7 黄褐色土　（ロームB主体、黒色土B少含、しまり弱）

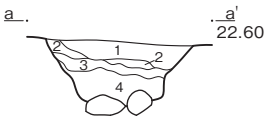
4131
8 褐色土　（ローム粒・黒色土粒・礫少含、しまり強）
9 褐色土　（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒少含、しまり強）

4193
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B・炭化材・焼瓦片多含、粘性強、しまりなし）
2 暗灰色土　（焼瓦極多含、黒色土粒・焼土粒・焼土B多含、ローム粒少含、しまりなし）
3 黒色土　（炭化物主体、焼瓦・瓦極多含、焼土粒・焼土B多含、粘性・しまりなし）
4 灰黄色土　（シルト質、明灰色土主体、ローム粒多含、粘性・しまりなし）
5 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含）
6 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、しまり弱）
7 黄褐色土　（砂質、ローム粒・黒色土粒多含、粘性・しまりなし）

4193掘方
1 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、灰白色粘土B・焼土粒極少含）

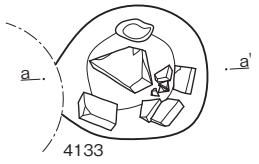
SK4124、SP4131、SK4193（C面）

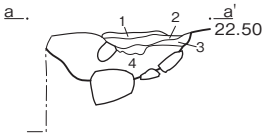




4130
1 暗褐色土　（焼土粒・焼土B・礫多含、ローム粒少含、しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、炭化物粒少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土　（ローム粒・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含、しまり強）
4 暗褐色土　（礫極多含、ローム粒多含、焼土粒・焼土B・炭化物粒少含、しまり強）

SP4130（C面）



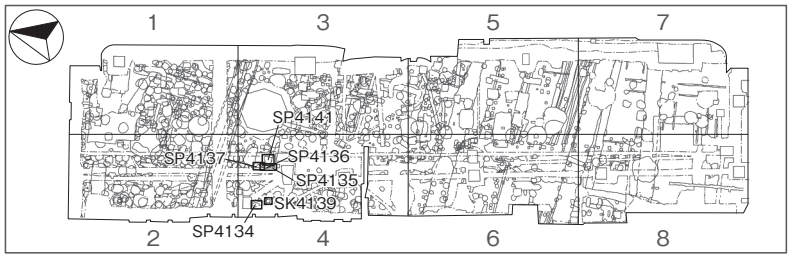


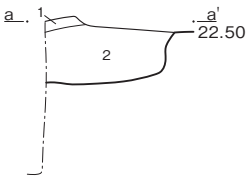
4133
1 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・礫少含）
2 褐色土　（礫極多含、しまり強）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・焼土粒少含、粘性・しまり強）
4 褐色土　（礫層、礫・破砕礫多含、ローム粒少含、しまり強）

SP4133（C面）

0　（S=1/60）　2m

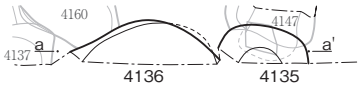
Ⅲ-139図　SK4124、SP4130、SP4131、SP4133、SK4193





4134
1 黄褐色土（ローム主体、灰白色粘土B含、焼土粒少含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土（礫主体、黒色土粒・焼土粒少含、しまり極強

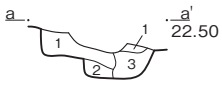
SP4134（C面）



4135
1 暗黄褐色土（ローム粒・破砕礫・礫多含、しまり強）
2 黄褐色土 （ローム粒・ロームB・礫多含、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまり強）

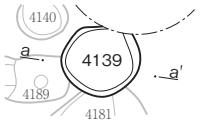
4136
1 暗黄褐色土（ローム粒・破砕礫・礫多含、しまり強）
2 黄褐色土 （ローム粒・ロームB・礫多含、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまり強）
3 黄褐色土 （礫主体、ロームが礫の間に僅かに入り込む、しまり強）

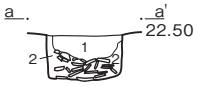
SP4135、SP4136（C面）



4137
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、焼土粒・炭化物極少含）
2 褐色土 （ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含、粘性・しまりなし）
3 暗黄褐色土（礫多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

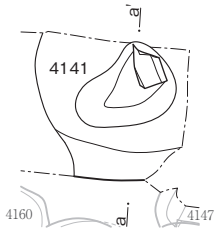
SP4137（C面）





4139
1 褐色土 （ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含、しまり弱）
2 黄褐色土（ローム主体、瓦極多含、瓦溜、粘性強）

SK4139（C面）

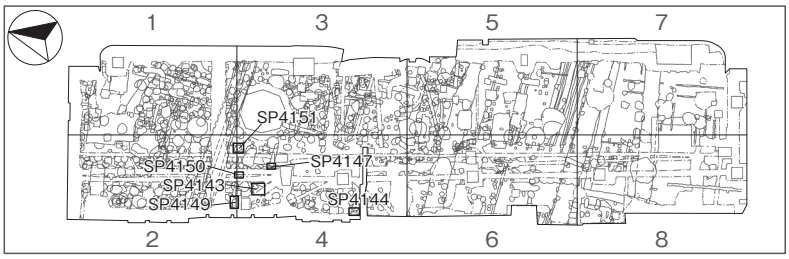


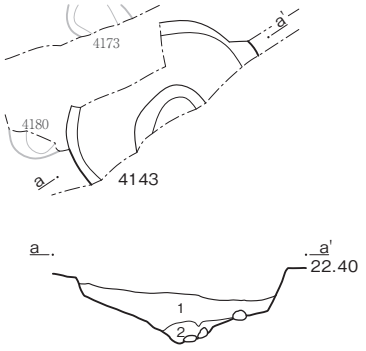
4141
1 褐色土 （ローム粒・礫少含、炭化物粒極少含）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含）

SP4141（C面）

0 (S=1/60) 2m

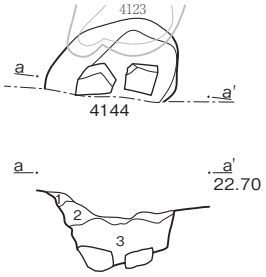
Ⅲ-140図 SP4134、SP4135、SP4136、SP4137、SK4139、SP4141





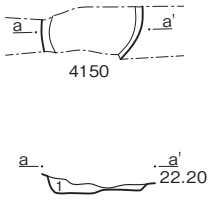
4143
1 褐色土（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、しまり強）
2 褐色土（礫多含、ローム粒・ロームB少含、しまり強）

SP4143（C面）



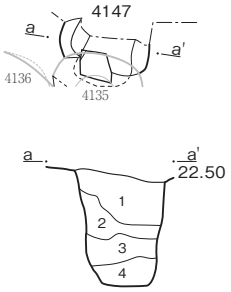
4144
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒多含、礫少含）
2 褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・礫多含、焼土粒・焼土B少含）
3 褐色土（礫極多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物粒少含）

SP4144（C面）



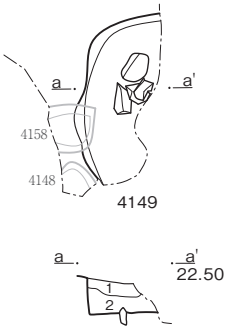
4150
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB・明灰色粘土B・礫多含、粘性強）

SP4150（C面）



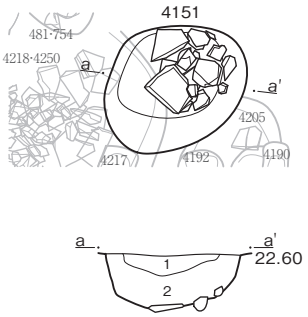
4147
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含、破砕礫少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）
2 褐色土（ローム粒・ロームB・礫少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B少含、焼土粒・炭化物極少含）
4 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・炭化物極少含）

SP4147（C面）



4149
1 黄褐色土（ローム粒主体、礫少含、黒色土粒・焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
2 褐色土（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、しまり強）

SP4149（C面）

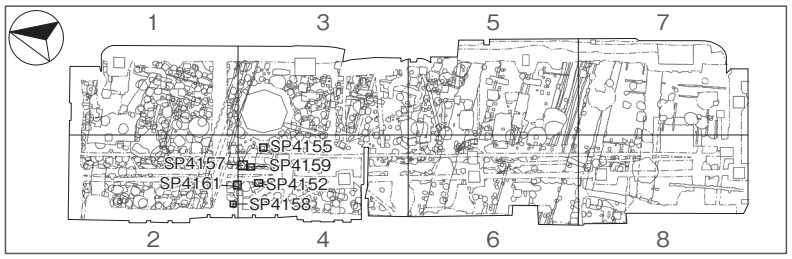


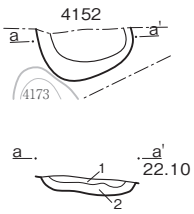
4151
1 赤褐色土（焼土・炭化物主体、ローム粒・ロームB・礫少含、しまり弱）
2 褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒極少含、しまり強）

SP4151（C面）

0　(S=1/60)　2m

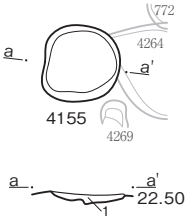
Ⅲ-141図　SP4143、SP4144、SP4147、SP4149、SP4150、SP4151





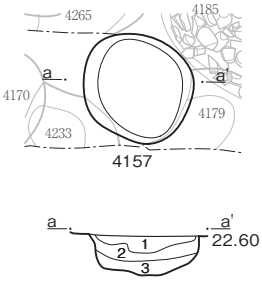
4152
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、炭化物・礫少含、焼土粒極少含）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームB主体、黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・礫極少含）

SP4152（C面）



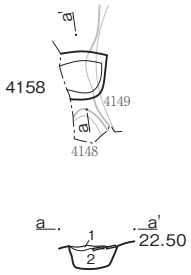
4155
1 褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、黒色土粒・黒色土B・明灰白色粘土B少含、粘性・しまり強）

SP4155（C面）



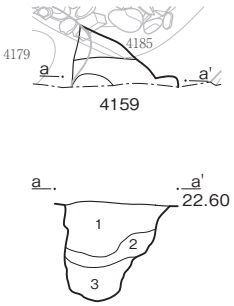
4157
1 褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、礫少含、焼土粒・宝永のテフラ？極少含、しまり弱）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B・礫少含）

SP4157（C面）



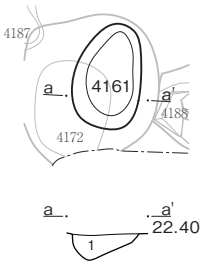
4158
1 褐色土　（黒色土粒多含、ローム粒・ロームB少含、しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B少含、焼土粒極少含）

SP4158（C面）



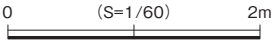
4159
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B・炭化物・礫少含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土（砂質、ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B・焼土粒・炭化物少含）
3 黄褐色土（ローム粒・ロームB主体、黒色土粒少含、焼土粒・炭化物粒極少含、しまり弱）

SP4159（C面）

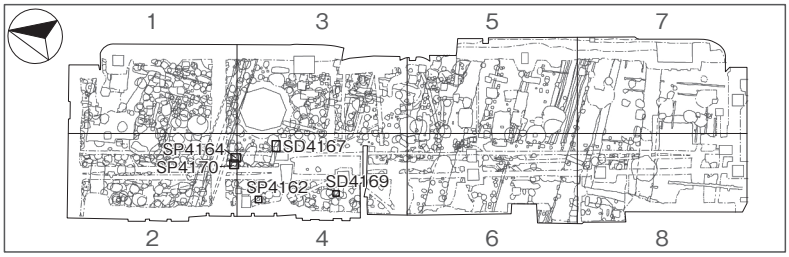


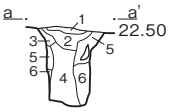
4161
1 灰色土（シルト質、灰色土主体、ローム粒少、焼土粒・炭化物極少含）

SP4161（C面）



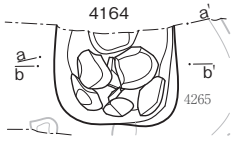
Ⅲ-142図　SP4152、SP4155、SP4157、SP4158、SP4159、SP4161

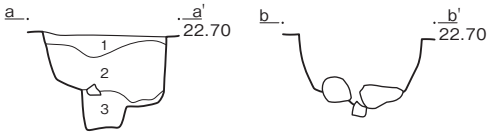




4162
1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含）
2 黒褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含）
3 黄褐色土　（ローム粒極多含、黒色土粒多含）
4 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、腐食した木片含、黒色土粒・黒色土B少含、焼土粒極少含、柱痕、粘性・しまりなし）
5 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、破砕礫含、黒色土粒・焼土粒・炭化物粒少含、粘性・しまり強）
6 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまり強）

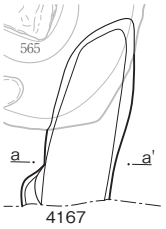
SP4162（C面）

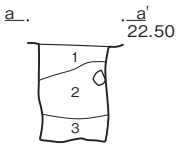




4164
1 褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、焼土粒・炭化物粒極少含）
2 褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり弱）
3 褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまりなし）

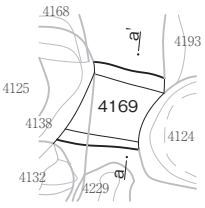
SP4164（C面）





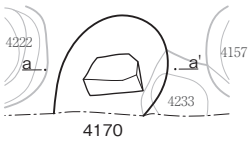
4167
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B・礫少含、しまり弱）
3 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B少含、粘性強）

SD4167（C面）



4169
1 黄褐色土（ローム主体、焼土粒・炭化物極少含、粘性強）

SD4169（C面）

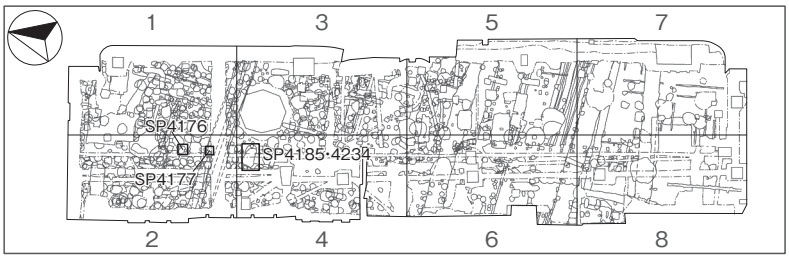


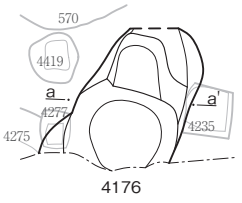
4170
1 黄褐色土（礫極多含、ローム粒多含、焼土粒極少含、しまり強）

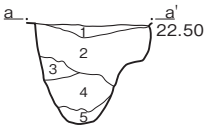
SP4170（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-143図　SP4162、SP4164、SD4167、SD4169、SP4170

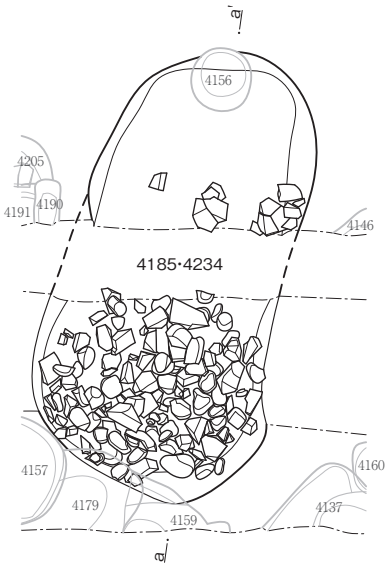


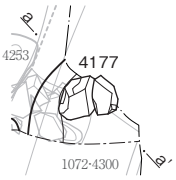


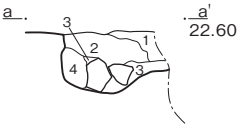


4176
1 褐色土　（砂質、黒色土粒多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・焼土粒多含、炭化物粒少含）
3 褐色土　（焼土粒多含、瓦片・角礫含、ロームB・黒色土粒少含）
4 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・焼土粒・炭化物多含、しまり弱）
5 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒多含、焼土粒極少含、しまり弱）

SP4176（D面）

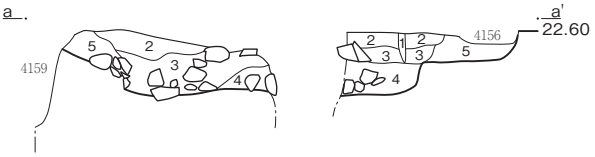






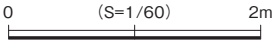
4177
1 暗褐色土　（ローム粒・礫少含、焼土粒極少含、しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、黒色土粒・黒色土B少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含、粘性強、しまり極強）
4 暗褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含、しまり弱）

SP4177（C面）

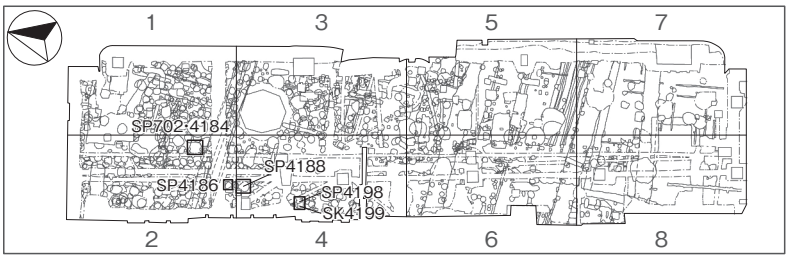


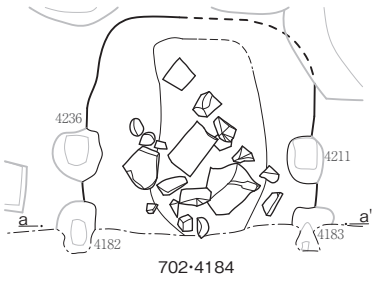
4185・4234
1 灰色土　（灰色土主体、杭穴、粘性・しまりなし）
2 黄褐色土（ローム粒主体、ロームB・礫少含、焼土粒極少含、しまり弱）
3 黄褐色土（ローム粒主体、丸石・角石多含、ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり弱）
4 黄褐色土（ロームB主体、ローム粒多含、灰色土粒・灰色土B・砂利少含）
5 黄褐色土（ロームB主体、礫少含、しまり強）

SP4185・4234（C面）

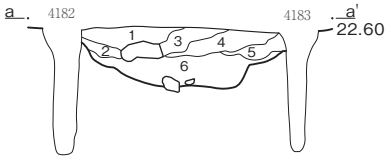


Ⅲ-144図　SP4176、SP4177、SP4185･4234





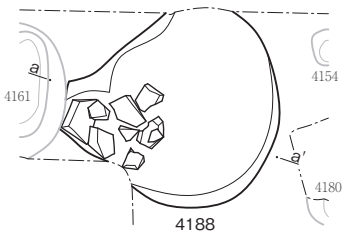
702·4184



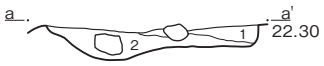
702・4184
1 褐色土　（礫極多含、ローム粒・黒色土粒少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 暗黄褐色土（ローム粒・焼土粒少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒多含、焼土粒・破砕礫少含、粘性・しまり強）
4 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・破砕礫多含、焼土粒少含、粘性・しまり強）
5 黄褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・炭化物粒・礫少含、粘性・しまり強）
6 暗褐色土　（礫・破砕礫極多含、ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性強、しまり極強）

※ 事実記載はSP702に記載している

SP702・4184（D面）

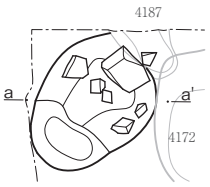


4188



4188
1 黄褐色土（ロームB主体、礫多含、黒色土粒少含、粘性強、しまり弱）
2 褐色土　（礫極多含、ローム粒・ロームB多含、焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり強）

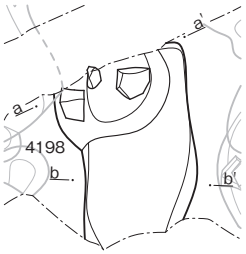
SP4188（C面）



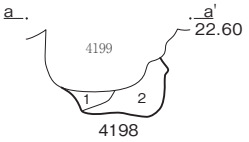
4186

4186
1 暗黄褐色土（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・礫少含、炭化物極少含）
2 暗黄褐色土（ローム粒少含、焼土粒極少含、しまりなし）
3 灰褐色土　（ローム粒・ロームB・礫多含、粘性・しまり強）

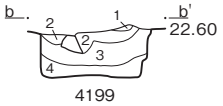
SP4186（C面）



4199



4198



4199

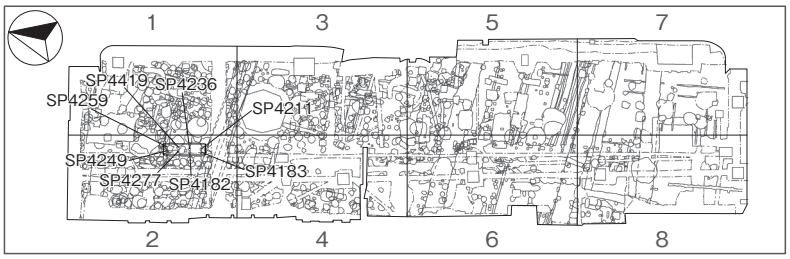
4198
1 暗黄褐色土（ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり強）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、炭化物少含、しまり弱）

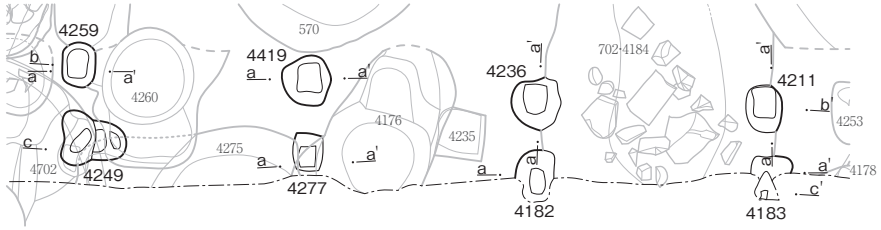
4199
1 明黄褐色土（ローム主体、黒色土少含、粘性強）
2 褐色土　（ローム粒・黒色土粒多含、礫少含、焼土粒・炭化物極少含）
3 褐色土　（礫多含、ローム粒・ロームB・黒色土粒・焼土粒・炭化物少含、しまり強）
4 褐色土　（黒色土粒・焼土粒・焼土B多含、ローム粒少含、粘性・しまり弱）

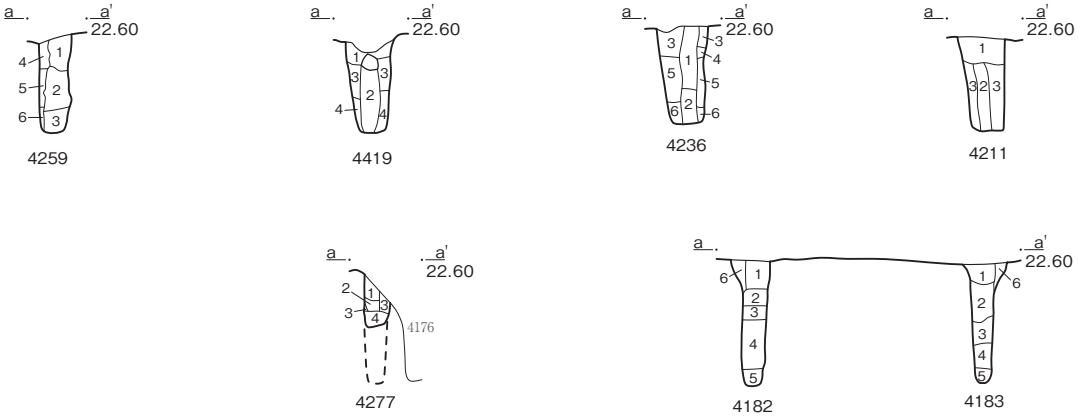
SP4198、SK4199（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-145図　SP702·4184、SP4186、SP4188、SP4198、SK4199







SP4182、SP4183、SP4211、SP4236、SP4249、SP4259、SP4277、SP4419（D面）

0 (S=1/60) 2m

Ⅲ-146図　SP4182、SP4183、SP4211、SP4236、SP4249、SP4259、SP4277、SP4419（1）

4182
1 灰褐色土　（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒・焼土B極少含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、炭化物粒極少含、しまり弱）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、しまり弱）
4 褐色土　（焼瓦片含、ローム粒・焼土粒・黒色土粒少含、粘性・しまりなし）
5 黄褐色土　（ローム主体、しまり弱）
6 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性強）

4183
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒多含、焼土粒極少含、しまり弱）
2 灰黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、焼土粒極少含、しまり弱）
3 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、しまり弱）
4 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B少含、しまり弱）
5 黄褐色土　（ローム主体、しまり弱）
6 暗褐色土　（上面に焼土・炭化物B含、ローム粒・ロームB少含）

4211
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫・瓦片少含、焼土粒極少含）
2 灰色土　（灰色土主体、ローム粒少含、粘性・しまりなし）
3 灰色土　（ローム粒・ロームB・礫少含、粘性・しまり弱）

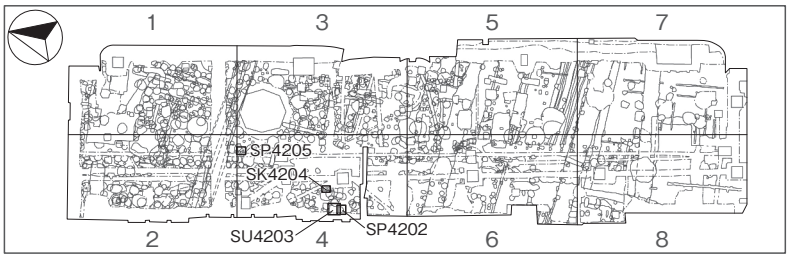
4236
1 黒褐色土　（ローム粒少含、粘性・しまりなし、柱痕）
2 黒褐色土　（粘性・しまりなし、柱痕）
3 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB・黄褐色粗砂粒・石少含、しまり弱）
4 黄褐色土　（ローム粒多含、しまり弱）
5 暗褐色土　（ローム粒・明灰色粘土B少含、しまり弱）
6 暗褐色土　（粘性・しまりなし）

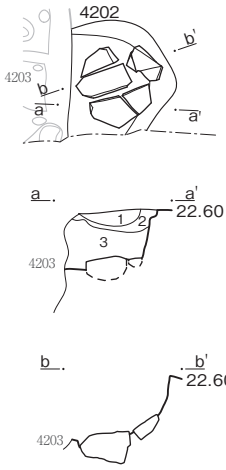
4259
1 灰色土　（灰色シルト質粘土主体、ローム粒少含、粘性強、しまり弱）
2 暗褐色土　（ローム粒・ロームB少含、明灰白色粘土B極少含、しまり弱）
3 暗褐色土　（粘性弱、しまりなし）
4 黄褐色土　（ローム粒・ロームB少含、黒色土粒極少含）
5 暗褐色土　（黒色土粒多含、ローム粒少含）
6 暗褐色土　（ 粘性弱、しまりなし）

4277
1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、明灰色粘土粒少含、焼土粒極少含）
2 灰色土　（ローム粒少含、粘性・しまり弱）
3 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、焼土粒極少含、しまり弱）
4 黄褐色土　（ローム粒・黒色土粒少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

4419
1 茶褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒少含、炭化物極少含、しまり弱）
2 灰色土　（粘性弱、しまりなし、柱痕）
3 茶褐色土　（ローム粒・礫少含、焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
4 暗灰褐色土（ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり弱）

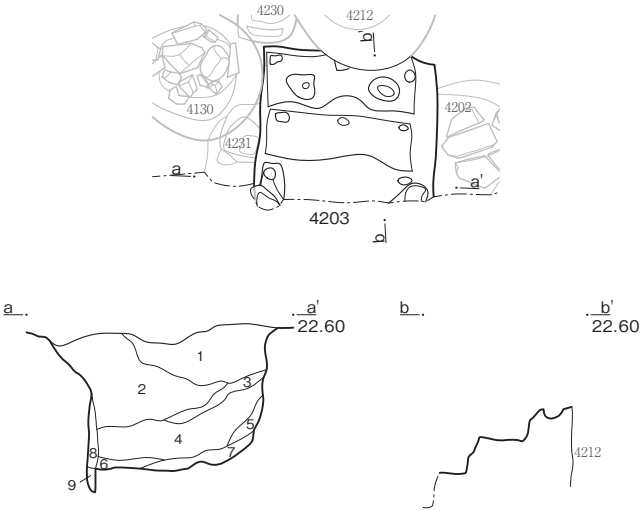
Ⅲ-147図　SP4182、SP4183、SP4211、SP4236、SP4249、SP4259、SP4277、SP4419(2)





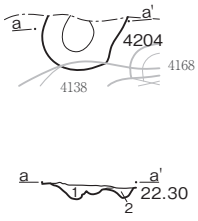
4202
1 暗赤褐色土（黒色土・焼土粒・焼土B・焼瓦多含、粘性・しまりなし）
2 暗褐色土　（砂質、ローム粒少含）
3 暗褐色土　（礫主体、ローム粒・ロームB少含、焼土粒極少含、しまり強）

SP4202（C面）



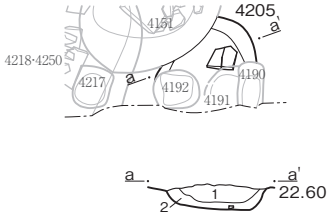
4203
1 褐色土　（砂質、礫少含、ローム粒・ロームB極少含、しまり弱）
2 褐色土　（瓦片含、ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B少含）
3 褐色土　（ローム粒・焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまりなし）
4 褐色土　（黒色土粒・ローム粒多含、破砕礫・瓦片少含、しまり弱）
5 暗褐色土　（黒色土粒多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり弱）
6 黄褐色土　（砂質、ローム粒多含、黒色土粒少含）
7 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含）
8 黒褐色土　（黒色土粒多含、ローム粒少含、粘性・しまりなし）
9 暗黄褐色土（ローム粒主体、黒色土粒少含、粘性・しまりなし）

SU4203（C面）



4204
1 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B少含、焼土粒極少含）
2 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒多含、粘性・しまり強）

SK4204（C面）

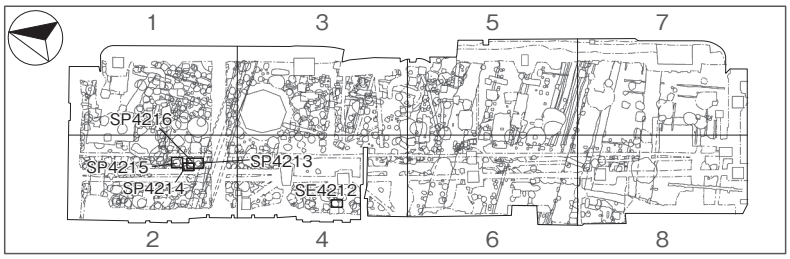


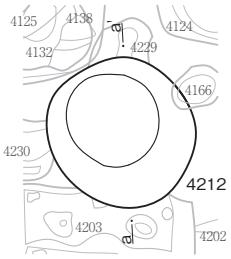
4205
1 褐色土（ローム粒・焼土粒多含、破砕礫片含、炭化物少含、粘性・しまり強）
2 褐色土（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・明灰白色粘土B・炭化物少含、粘性・しまり強）

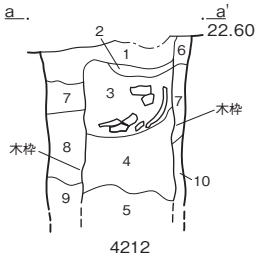
SP4205（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-148図　SP4202、SU4203、SK4204、SP4205

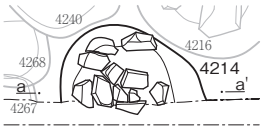


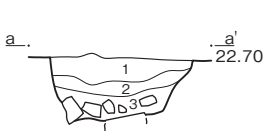




4212
1 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、焼土粒・黒色土粒極少含）
2 黄褐色土　（ロームB主体、焼土粒・炭化物少含、しまり弱）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・瓦片多含、黒色土粒少含、しまり弱）
4 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり弱）
5 褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒少含、粘性・しまり弱）
6 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒極少含）
7 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、炭化物粒少含、粘性・しまり弱）
8 褐色土　（ローム粒多含、粘性・しまり弱）
9 褐色土　（シルト質、ローム粒少含）
10 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、しまり弱）

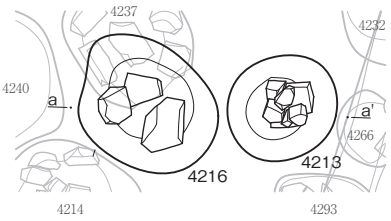
SE4212（C面）

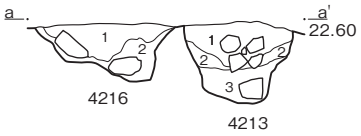




4214
1 褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・礫多含、黒色土粒少含、炭化物極少含、しまり強）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・焼土B・礫少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土　（礫多含、ローム粒・焼土粒少含、粘性・しまり強）

SP4214（C面）

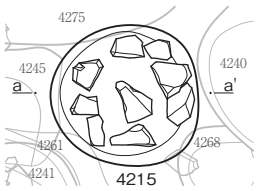


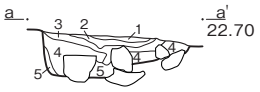


4213
1 暗褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、黒色土粒・焼土粒・炭化物少含、しまり強）
2 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒多含、しまり強）
3 黒色土　（ローム粒多含、粘性・しまり強）

4216
1 褐色土（礫極多含、ローム粒・焼土粒少含、しまり極強）
2 褐色土（ローム粒・ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）

SP4213、SP4216（C面）



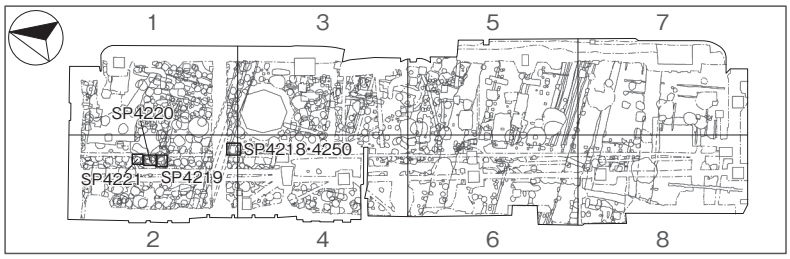


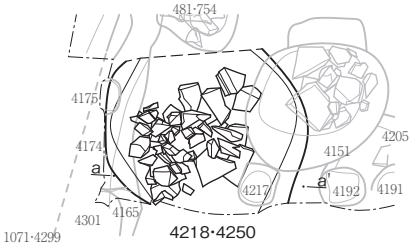
4215
1 暗褐色土　（ローム粒・焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり弱）
2 暗褐色土　（礫多含、ローム粒・焼土粒極少含、しまり強）
3 明黄褐色土（砂礫層、明黄褐色細砂・ロームB・礫多含）
4 暗褐色土　（礫多含、ローム粒・黒色土粒少含、粘性・しまり強）
5 黒色土　（黒色土主体、ローム粒多含、粘性・しまり強）

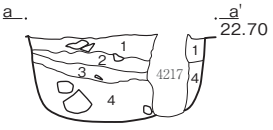
SP4215（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-149図　SE4212、SP4213、SP4214、SP4215、SP4216

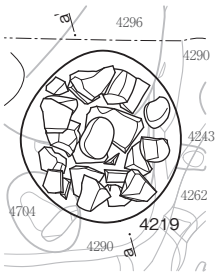


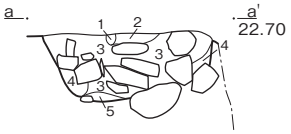




4218・4250
1 灰褐色土　（ローム粒・炭化物粒・焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、焼土粒・炭化物粒・明灰白色粘土B極少含、粘性・しまり強）
3 黄褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B多含、角礫少含、粘性・しまり強）
4 褐色土　（ローム粒主体、黒色土粒・礫少含、粘性・しまり弱）

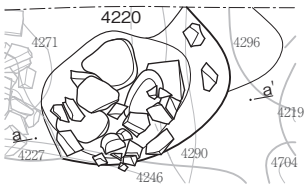
SP4218・4250（C面）

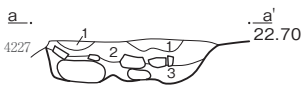




4219
1 黒褐色土（粘性・しまりなし）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含）
3 褐色土　（礫極多含、ローム粒・ロームB少含、しまり極強）
4 暗褐色土（ローム粒含、焼土粒極少含、しまり極強）
5 暗褐色土（ローム粒・ロームB・礫少含、しまり強）

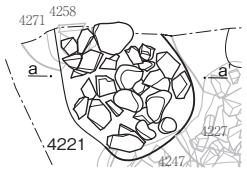
SP4219（C面）

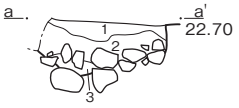




4220
1 明黄褐色土（礫極多含、明黄褐色細砂やや多含、ロームB少含、粘性なし、しまり強）
2 褐色土　（礫やや多含、ローム粒・黒色土粒少含、焼土粒極少含、しまり強）
3 褐色土　（黒色土粒やや多含、ローム粒・ロームB・礫少含、粘性・しまり強）

SP4220（C面）



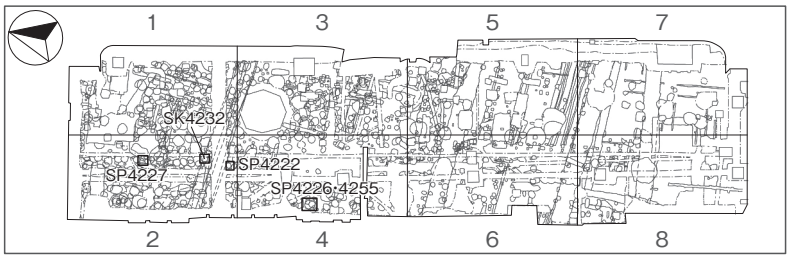


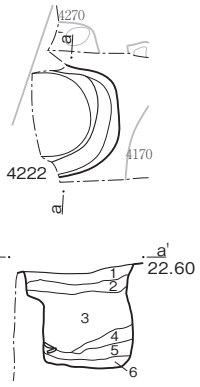
4221
1 褐色土　（礫多含、ローム粒・ロームB・焼土粒少含、粘性・しまり強）
2 明黄褐色土（明黄褐色粗砂・礫多含、ローム粒極少含、しまり強）
3 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒少含、しまり強）

SP4221（C面）

0　（S=1/60）　2m

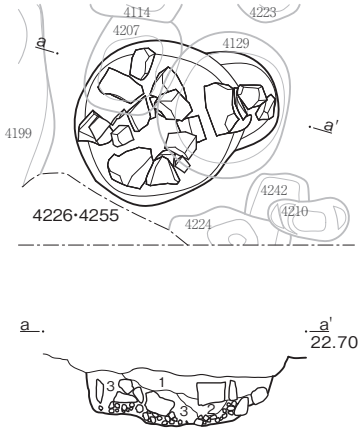
Ⅲ-150図　SP4218･4250、SP4219、SP4220、SP4221





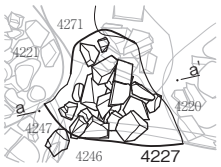
4222
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含）
2 灰褐色土　（シルト質、灰色土主体、ローム粒・ロームB少含、焼土粒極少含）
3 黄褐色土　（ローム主体、焼土粒・焼土B・炭化物多含、粘性・しまり強）
4 暗褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・炭化物少含）
5 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫・瓦片少含、炭化物極少含、しまり弱）
6 黄褐色土　（ローム主体、焼土粒極少含）

SP4222（C面）



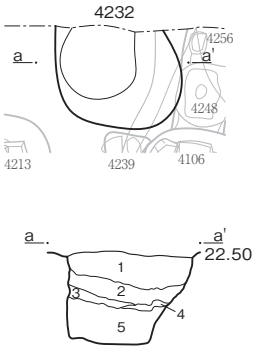
4226・4255
1 暗褐色土（礫極多含、ローム粒・焼土粒少含、しまり強）
2 青灰色土（青灰色砂岩状主体、ロームB少含、焼土粒極少含、粘性なし、しまり強）
3 黄褐色土（ローム主体、明黄褐色粗砂粒・黒色土粒少含、焼土粒極少含、しまり強）

SP4226・4255（D面）



4227
1 褐色土（ローム粒少含、粘性・しまりなし）

SP4227（C面）

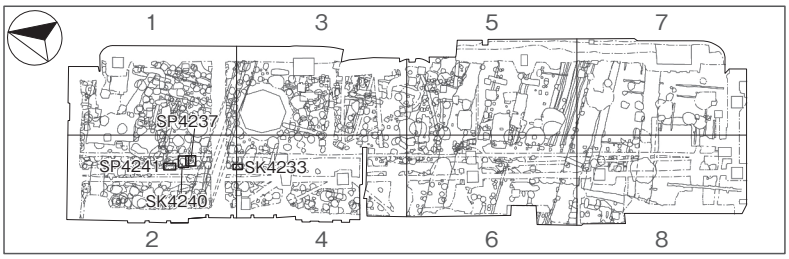


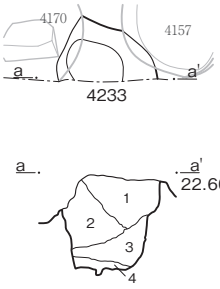
4232
1 茶褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B少含）
2 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B少含、しまり弱）
3 暗赤褐色土（砂質、焼土粒多含、ロームB・黒色土粒少含、しまり弱）
4 明灰白色土（明灰白色粘土主体、ローム粒極少含、粘性強）
5 黒褐色土　（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B少含）

SK4232（C面）

0　（S=1/60）　2m

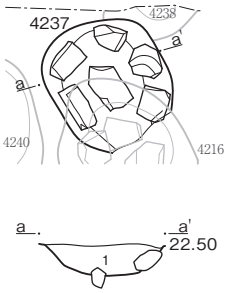
Ⅲ-151図　SP4222、SP4226·4255、SP4227、SK4232





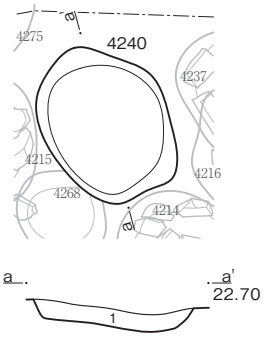
4233
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・焼土粒・焼土B少含、しまり強）
2 暗黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B多含、炭化物極少含、しまり強）
3 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B多含、黒色土粒・黒色土B少含、しまり弱）
4 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒少含、瓦片極少含）

SK4233（C面）



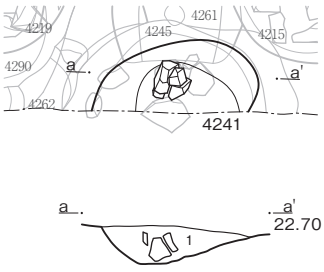
4237
1 暗褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含、焼土粒少含、炭化物極少含、しまり強）

SP4237（C面）



4240
1 暗褐色土（砂質、ローム粒・ロームB・黒色土粒・焼土粒・礫少含、しまり弱）

SK4240（C面）

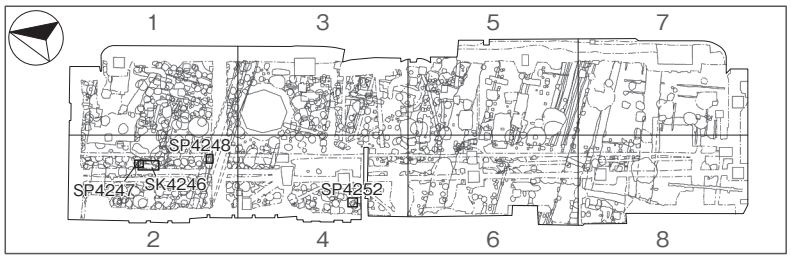


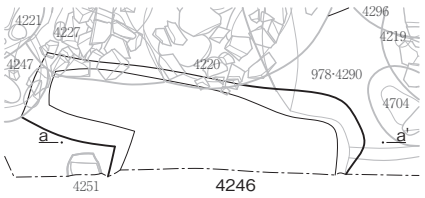
4241
1 茶褐色土（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・礫多含、炭化物少含、しまり強）

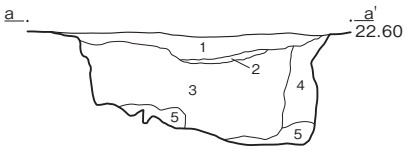
SP4241（C面）

0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-152図　SK4233、SP4237、SK4240、SP4241

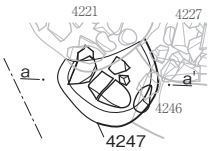






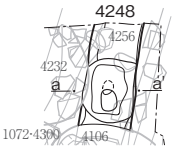
4246
1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B多含、炭化物少含、しまり強）
2 赤褐色土　（焼土主体、炭化物多含、ローム粒少含、粘性・しまりなし）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B多含、黒色土粒・礫・角石少含）
4 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・礫多含、炭化物少含、粘性・しまり強）
5 明黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・礫少含、焼土粒極少含、粘性・しまり弱）

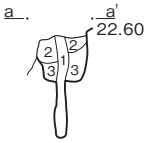
SK4246（C面）



4247
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B多含、礫少含、しまり強）
2 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・明灰白色粘土B少含、炭化物極少含、粘性・しまり強）
3 暗褐色土　（礫主体、ローム粒・焼土粒少含、炭化物極少含、しまり強）

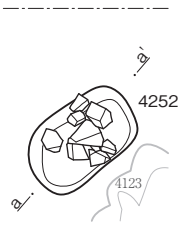
SP4247（C面）





4248
1 暗褐色土（ローム粒少含、粘性弱、しまりなし）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、礫少含、しまり弱）
3 褐色土　（礫少含、ローム粒・焼土粒微含、粘性弱、しまりなし）

SP4248（C面）

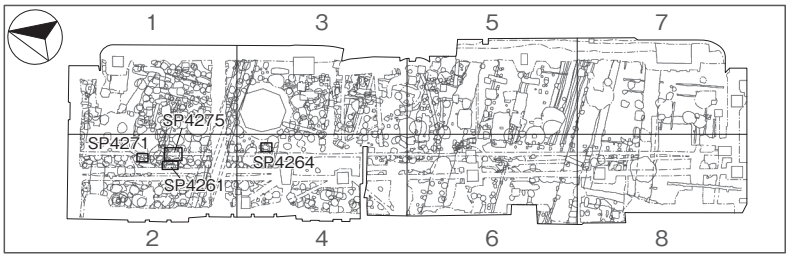


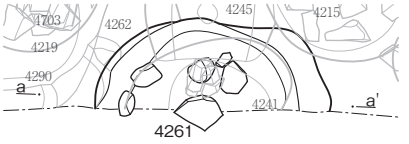
4252
1 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB・礫・破砕礫片少含、焼土粒極少含）

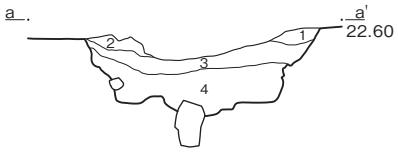
SP4252（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-153図　SK4246、SP4247、SP4248、SP4252

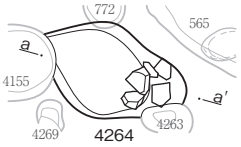


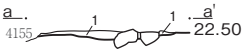




4261
1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土B少含、焼土粒・焼土B・炭化物極少含、しまり強）
2 黒褐色土　（礫多含、ローム粒・黒色土粒少含、しまり強）
3 暗黄褐色土（板状の破砕礫極多含、ローム粒・ロームB多含、焼土粒・炭化物極少含、しまり強）
4 黒褐色土　（礫極多含、ローム粒・ロームB・板状の破砕礫少含、しまり強）

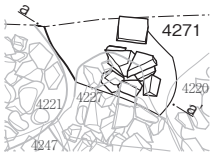
SP4261（D面）





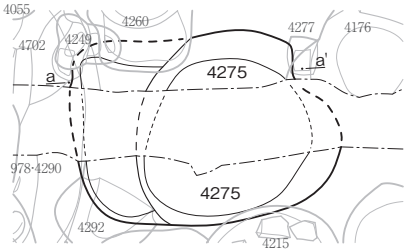
4264
1 黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B・角石多含、粘性・しまり強）

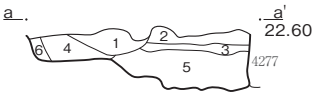
SP4264（C面）



4271
1 灰色土　　（ローム粒少含、焼土粒・焼土B・炭化物極少含、粘性・しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、瓦片・角石含、焼土粒少含、しまり強）

SP4271（C面）



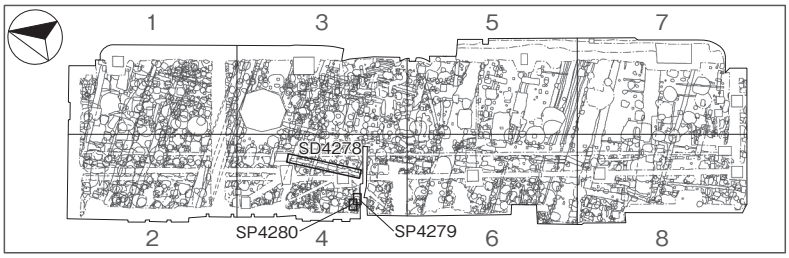


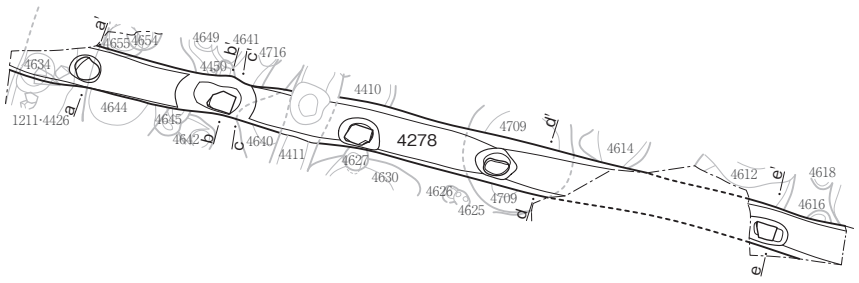
4275
1 暗褐色土　（砂質強、ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B・礫少含、粘性・しまり弱）
2 灰黄褐色土（ローム粒・ロームB・明灰白色粘土粒・明灰白色粘土B多含、焼土粒極少含、しまり強）
3 灰黄褐色土（破砕礫・ローム粒・ロームB・明灰白色粘土粒・明灰白色粘土B多含、しまり強）
4 灰黄褐色土（礫・黄白色粗砂粒多含、ローム粒極少含、しまり強）
5 黄褐色土　（丸石極多含、破砕礫・ローム粒・ロームB多含、しまり強）
6 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・礫少含、粘性・しまり強）

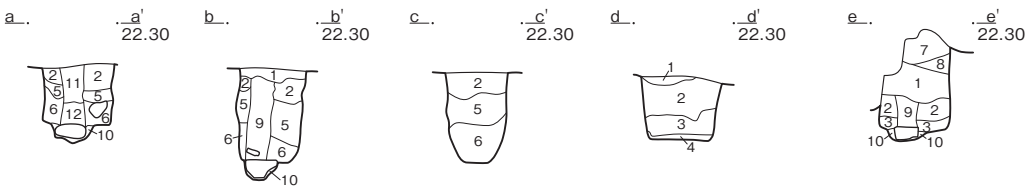
SP4275（D面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-154図　SP4261、SP4264、SP4271、SP4275

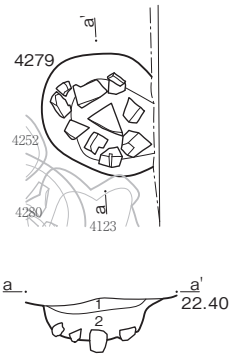






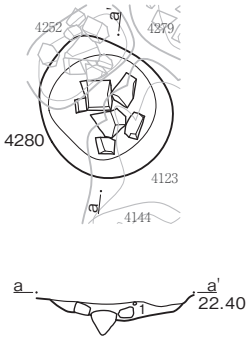
4278
1 褐色土　（ローム粒・黒色土粒・焼土粒・炭化物少含、粘性・しまり弱）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・焼土B少含、しまり強）
3 明黄褐色土（ロームB主体、黒色土粒極少含、しまり弱）
4 黒色土　（黒色土粒・黒色土B極多含、ローム粒・ロームB少含、しまり弱）
5 黒褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含）
6 黒色土　（黒色土主体、ローム粒・ロームB多含、瓦片少含）
7 茶褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒極少含）
8 黒褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、ロームと黒色土が斑状）
9 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、柱痕、粘性・しまり弱）
10 明黄褐色土（ローム主体、粘性・しまり弱）
11 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、炭化物極少含、粘性・しまり弱）
12 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含、しまり弱）

SD4278（E面）



4279
1 茶褐色土　（ローム粒多含、焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
2 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・焼土粒少含、粘性・しまり強）

SP4279（D面）

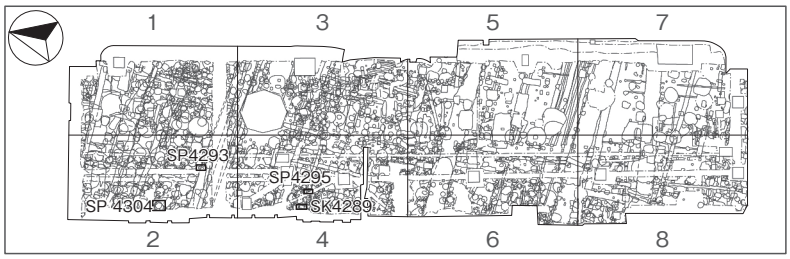


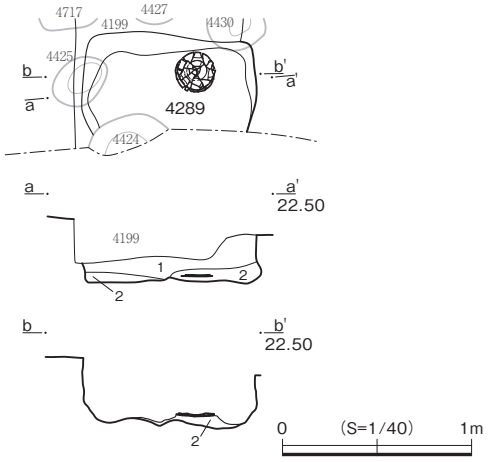
4280
1 暗茶褐色土（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）

SP4280（D面）

0　（S=1/60）　2m

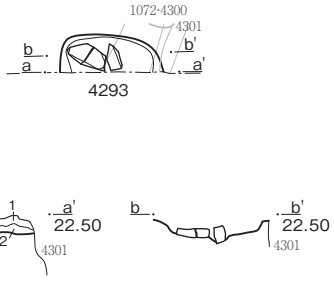
Ⅲ-155図　SD4278、SP4279、SP4280





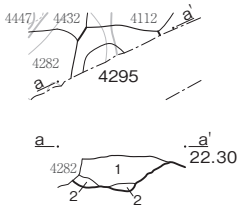
4289
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB極多含、黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・焼土B少含）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・炭化物極少含、粘性・しまり弱）

SK4289（E面）



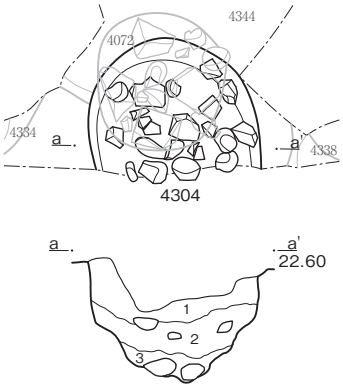
4293
1 黄褐色土（ロームで構成）
2 灰褐色土（灰褐色粘土多含、ローム粒・炭化物・破砕礫少含）

SP4293（D面）



4295
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・焼土B・礫少含、明灰白色粘土B極少含、しまり強）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・炭化物・明灰白色粘土少含、しまり弱）

SP4295（E面）

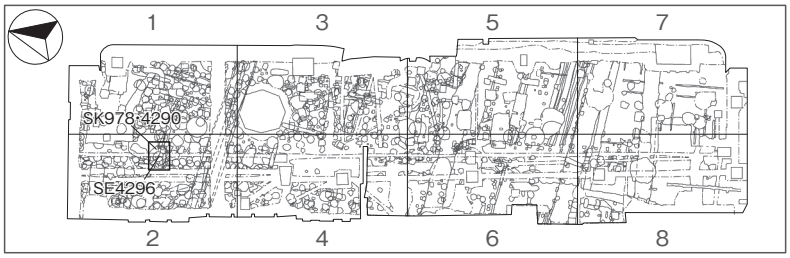


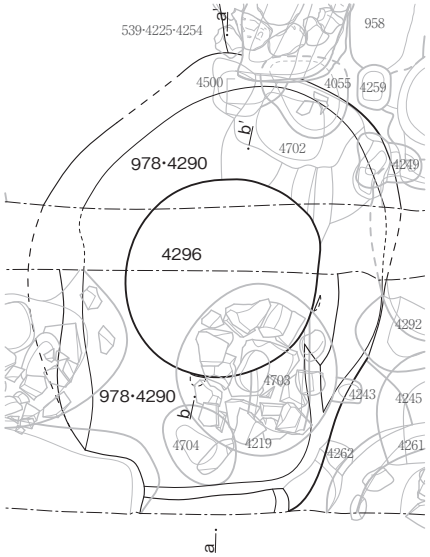
4304
1 茶褐色土（ローム粒多含、円礫・角礫少含、焼土粒極少含、しまり強）
2 暗褐色土（円礫・小円礫・角礫多含、灰褐色破砕礫含、ローム粒少含、しまり極強）
3 灰褐色土（灰褐色破砕礫極多含、しまり極強）

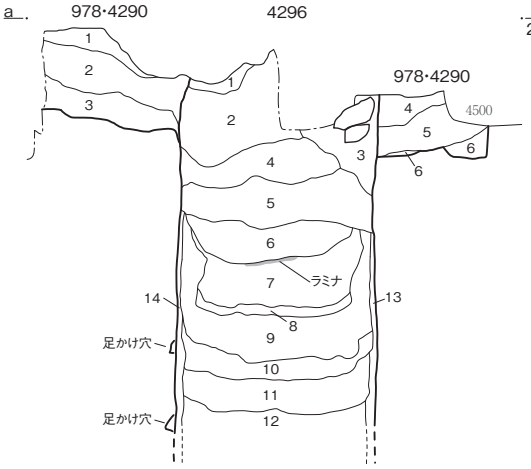
SP4304（C面）

0 (S=1/60) 2m

Ⅲ-156図　SK4289、SP4293、SP4295、SP4304







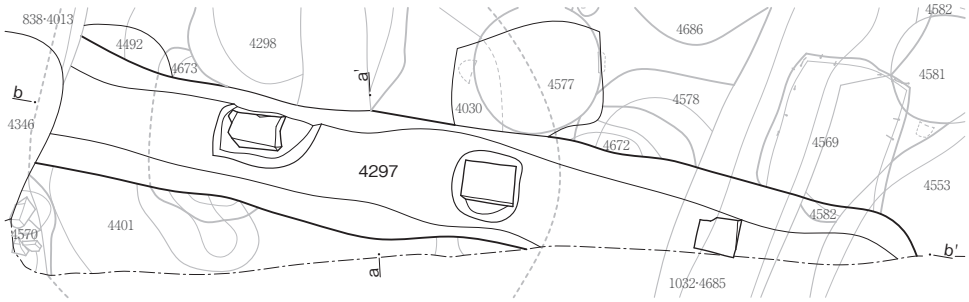
4296
- 1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、灰色土B多含、黒色土粒・瓦片少含、粘性・しまり強）
- 2 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・炭化物・大礫・大角礫少含、粘性・しまり弱）
- 3 明灰色土　（灰色土粒・灰色土B・瓦片多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物・大礫少含、しまり弱）
- 4 茶褐色土　（黒色土粒・黒色土B・大礫多含、ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物少含）
- 5 茶褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・焼土粒・焼土B・炭化物少含、粘性弱）
- 6 褐色土　（焼土粒・瓦片〔金箔含〕多含、ローム粒極少含、瓦層、しまり弱）
- 7 明黄褐色土（ローム主体、灰色土粒・灰色土B少含）
- 8 明黄褐色土（ローム主体、黒色土粒少含、しまり弱）
- 9 黒色土　（ロームB少含）
- 10 明黄褐色土（ロームB主体、黒色土粒・黒色土B少含、しまり弱）
- 11 褐色土　（砂質強、ローム粒・ロームB・大礫少含、粘性・しまり弱）
- 12 淡褐色土　（砂質強、大礫多含、ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり弱）
- 13 褐色土　（ローム粒・ロームB少含、粘性・しまりなし）
- 14 淡黄褐色土（ローム粒含、粘性・しまりなし）

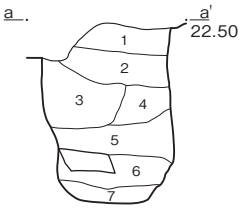
978・4290
- 1 暗褐色土　（ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B・炭化物・大礫・大角礫少含、粘性・しまり弱）
- 2 茶褐色土　（黒色土粒・黒色土B・大礫多含、ロームB含、ローム粒・焼土粒・炭化物少含）
- 3 明黄褐色土（ローム主体、黒色土B微含、しまり強）
- 4 灰色土　（ややシルト質、炭化物多含、ローム粒・ロームB少含）
- 5 灰色土　（ローム粒・ロームB・炭化物・黄褐色土粗砂粒・大礫少含、焼土粒・瓦片微含、しまり弱）
- 6 灰色土　（ローム粒・ロームB多含、炭化物・黄白色粘土粒・黄白色粘土B・礫少含、粘性・しまり弱）

SK978・4290、SE4296（D面）

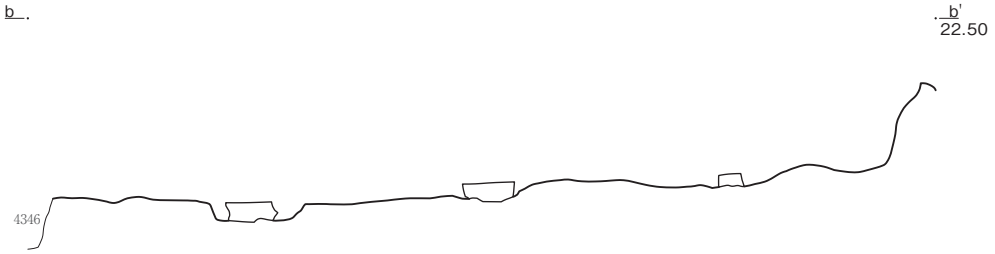
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-157図　SK978･4290、SE4296

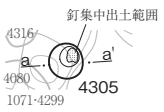


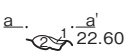


4297
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB・礫多含、焼土粒・炭化物極少含）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B・礫少含）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
4 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・礫少含粘性・しまり弱）
5 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、礫少含、黒色土粒・焼土粒極少含、粘性・しまり弱）
6 褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、焼土粒・焼土B・炭化物・礫・破砕礫少含、粘性・しまり弱）
7 黒褐色土（黒色土粒・黒色土B・ローム粒・ロームB多含、礫少含、粘性・しまり弱）



SD4297（E面）



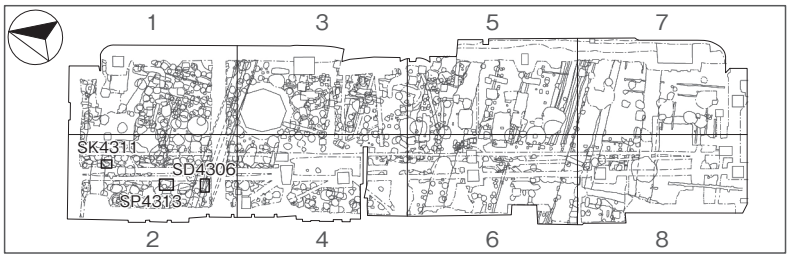


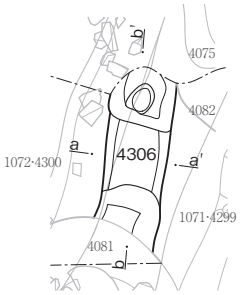
4305
1 橙褐色土（焼土粒極多含、炭化物含、しまり弱）
2 褐色土　（焼土粒含、ローム粒・炭化物少含、しまり弱）

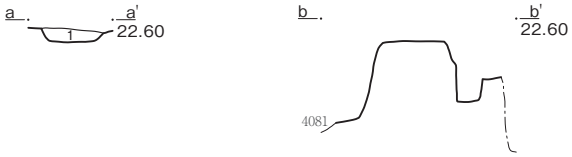
SP4305（C面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-158図　SD4297、SP4305

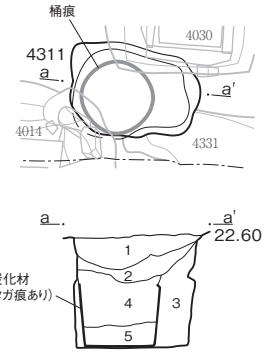






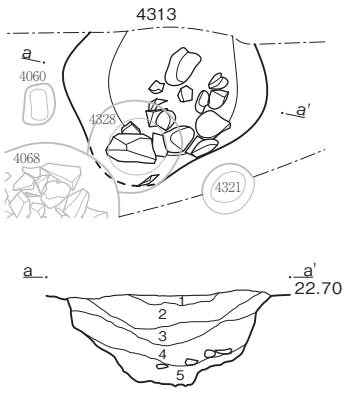
4306
1 褐色土（ローム粒多含、焼土粒・小円礫極少含）

SD4306（C面）



4311
1 茶褐色土（ローム粒含、焼土粒少含、小円礫極少含）
2 橙褐色土（焼土粒・赤化壁多含、小円礫含）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、小円礫極少含）
4 赤褐色土（純焼土層、赤化した壁土が充填される、しまり弱）
5 灰白色土（内容物は4層と同様、白色化している、しまり弱）

SK4311（D面）

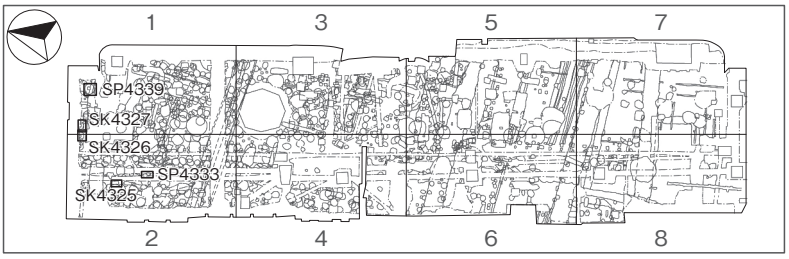


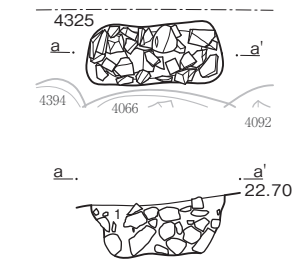
4313
1 橙褐色土　（焼土粒多含、炭化物・小円礫少含、しまり強）
2 茶褐色土　（焼土粒・円礫含、炭化物少含）
3 暗褐色土　（円礫極多含、ローム粒極少含、しまり強）
4 暗褐色土　（角礫極多含、灰褐色粘土少含、しまり極強）
5 暗茶褐色土（円礫含、ローム粒極少含、しまり強）

SP4313（D面）

0　（S=1/60）　2m

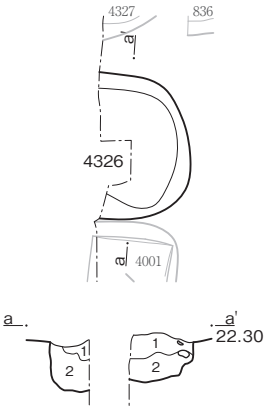
Ⅲ-159図　SD4306、SK4311、SP4313





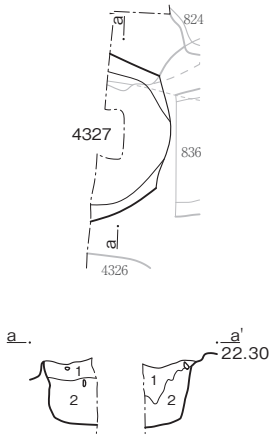
4325
1 暗茶褐色土（玉砂利多含、しまりなし）

SK4325（D面）



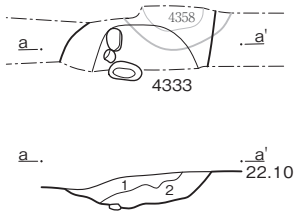
4326
1 茶褐色土（ローム粒・ロームB多含、小円礫少含）
2 茶褐色土（ローム粒・ロームB・小円礫含）

SK4326（D面）



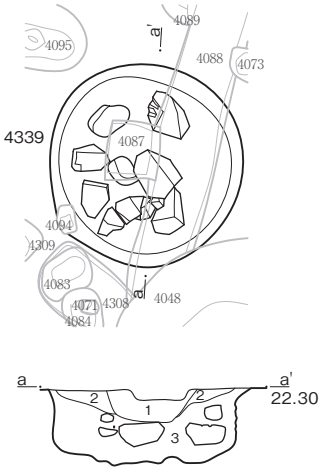
4327
1 茶褐色土（ローム粒・ロームB・小円礫含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）

SK4327（D面）



4333
1 褐色土　（ローム粒・焼土粒含、円礫少含）
2 橙褐色土（焼土粒極多含、円礫含、ローム粒少含）

SP4333（D面）

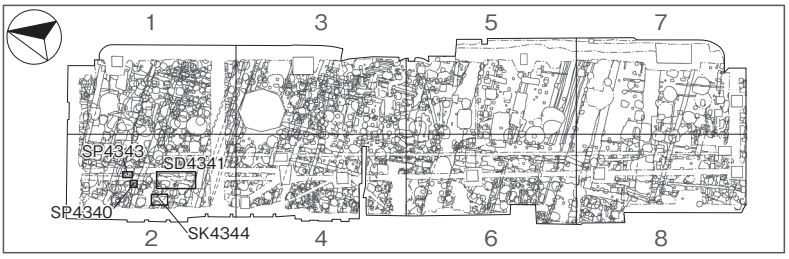


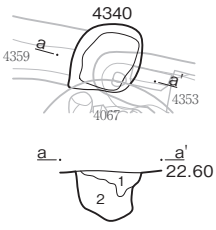
4339
1 茶褐色土　（ローム粒多含、円礫含、焼土粒少含）
2 灰白色礫層（破砕礫層）
3 褐色土　　（円礫極多含、ローム粒含、しまり強）

SP4339（D面）

0　（S=1/60）　2m

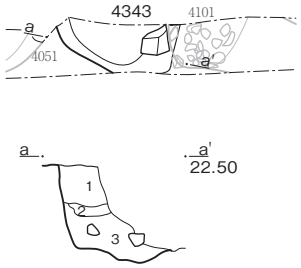
Ⅲ-160図　SK4325、SK4326、SK4327、SP4333、SP4339





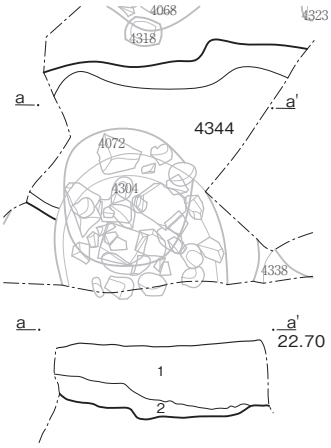
4340
1 茶褐色土　（灰褐色粘土多含、焼土粒・ローム粒少含）
2 灰褐色粘土（粘土層）

SP4340（D面）



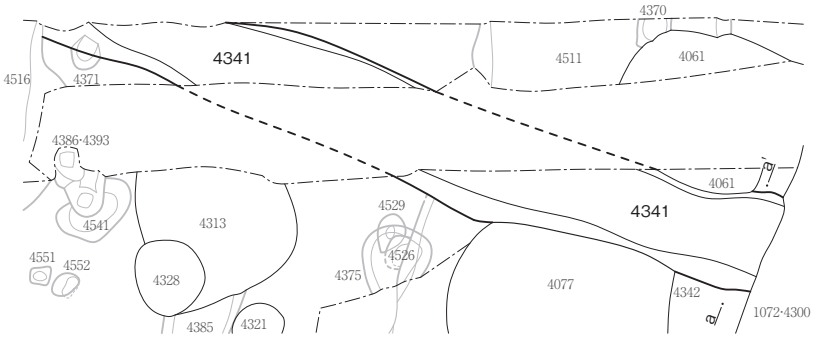
4343
1 茶褐色土（ローム粒極多含、円礫含）
2 灰褐色土（破砕礫層）
3 暗褐色土（円礫極多含、ローム粒少含）

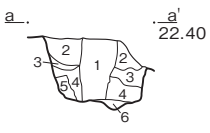
SP4343（D面）



4344
1 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫含、ロームB・焼土粒少含、炭化物極少含）
2 暗褐色土　（ローム粒含、小円礫・破砕礫少含）

SK4344（D面）



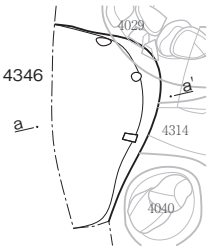


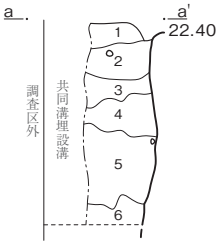
1 暗褐色土（ローム粒含、小円礫極少含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土Bで斑状を呈する）
3 黄褐色土（ほぼロームで構成、黒褐色土粒少含）
4 褐色土　（ローム粒含、円礫・黒色土粒少含）
5 黄褐色土（ロームで構成）
6 暗褐色土（ローム粒少含）

SD4341（E面）

0　（S=1/60）　2m

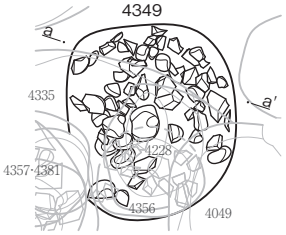
Ⅲ-161図　SP4340、SD4341、SP4343、SK4344

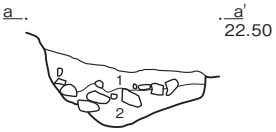




4346
1 茶褐色土 （ローム粒多含、小円礫含）
2 暗茶褐色土（ローム粒・ロームB多含、小円礫極少含）
3 褐色土 （ローム粒・ロームB多含、小円礫少含）
4 褐色土 （3層より明、ローム粒・ロームB多含、小円礫・焼土粒極少含）
5 茶褐色土 （ロームB極多含、ローム粒多含、小円礫少含、炭化物極少含）
6 黄褐色土 （ローム粒・ロームBで構成、しまり強）

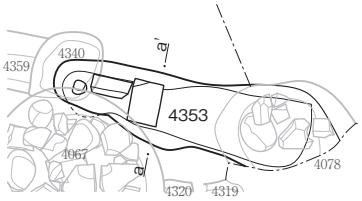
SU4346（D面）

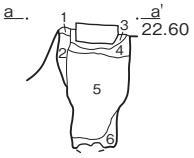




4349
1 茶褐色土（円礫・ローム粒多含、しまり強）
2 灰褐色土（灰褐色粘土極多含、ローム粒含、しまり強）

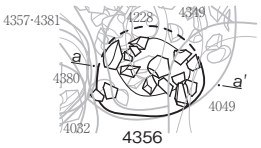
SP4349（D面）





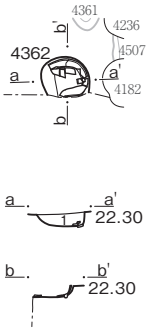
4353
1 褐色土 （ローム粒多含、焼土粒・炭化物少含、しまり強）
2 褐色土 （ローム粒多含、ロームB含、焼土粒少含、炭化物極少含、しまり強）
3 暗褐色土（ローム粒含、焼土粒少含、しまり強）
4 褐色土 （ローム粒・ロームB多含、焼土粒少含、しまり強）
5 茶褐色土（ローム粒・ロームB極多含、焼土粒少含）
6 黄褐色土（ローム粒・ロームBで構成、黒色土粒少含、しまり強）

SK4353（D面）



4356
1 茶褐色土（円礫・小円礫極多含、ローム粒含、焼土粒極少含、しまり強）
2 灰褐色土（灰褐色粘土極多含、円礫含、しまり強）

SP4356（D面）

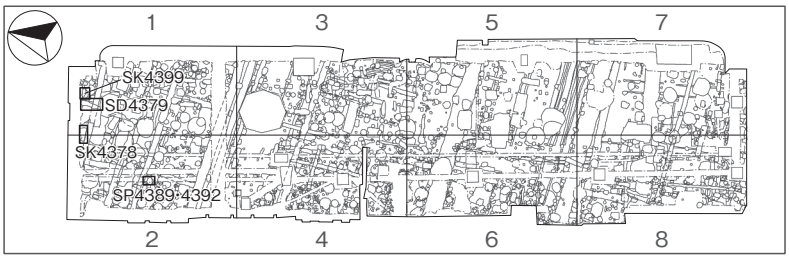


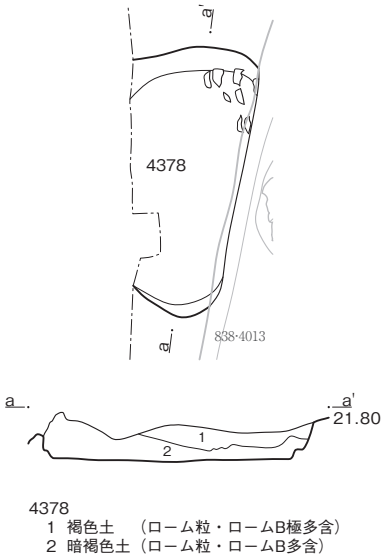
4362
1 暗褐色土（ローム粒少含、炭化物極少含）

SP4362（F面）

0 （S=1/60） 2m

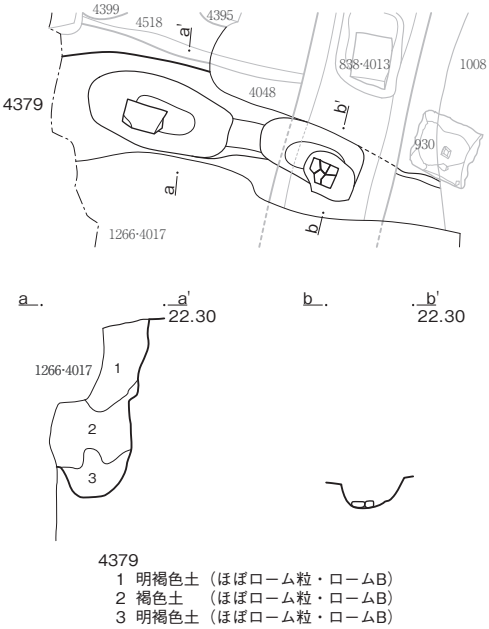
Ⅲ-162図 SU4346、SP4349、SK4353、SP4356、SP4362





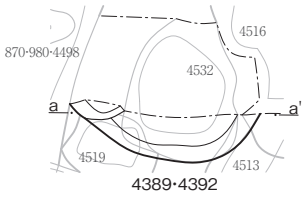
4378
1 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）
2 暗褐色土（ローム粒・ロームB多含）

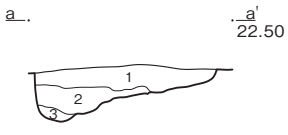
SK4378（E面）



4379
1 明褐色土（ほぼローム粒・ロームB）
2 褐色土　（ほぼローム粒・ロームB）
3 明褐色土（ほぼローム粒・ロームB）

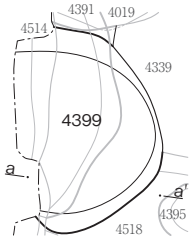
SD4379（E面）

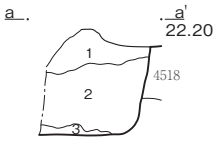




4389・4392
1 暗茶褐色土（ローム粒多含、ロームB含、小円礫・炭化物少含）
2 暗褐色土　（ローム粒・炭化物含、小円礫少含、しまり弱）
3 暗褐色土　（2層より明、灰褐色粘土粒多含、ローム粒・焼土粒・炭化物少含、小円礫少含）

SP4389・4392（F面）



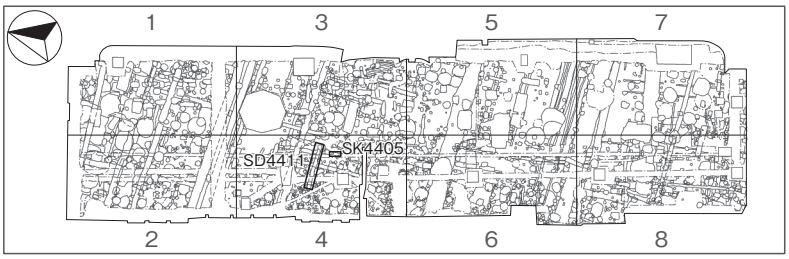


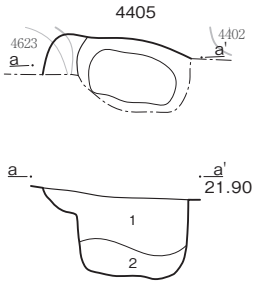
4399
1 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）
2 黄褐色土（ローム粒・ロームBで構成）
3 黒褐色土（ローム粒極少含、粘性強）

SK4399（G面）

0　（S=1/60）　2m

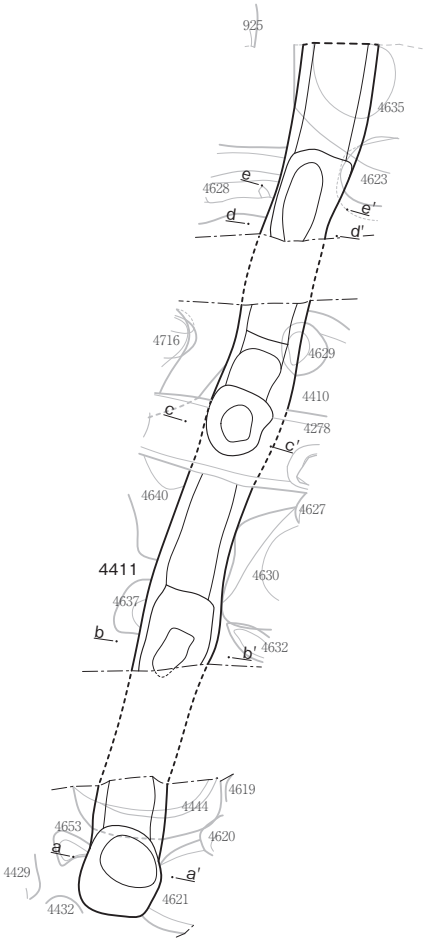
Ⅲ-163図　SK4378、SD4379、SP4389・4392、SK4399

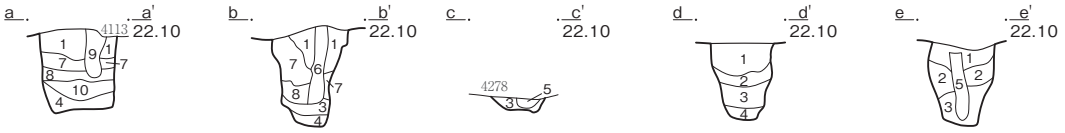




4405
1 暗灰褐色土（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB・礫少含、炭化物極少含、粘性・しまり弱）
2 黒褐色土　（黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり弱）

SK4405（G面）



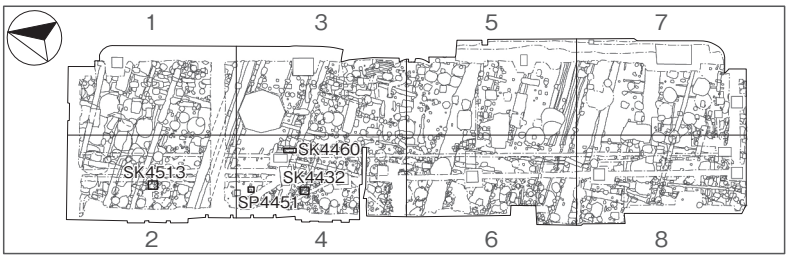


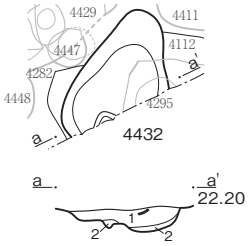
4411
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、明灰白色粘土B・礫少含、焼土粒極少含、粘性・しまり強）
2 黒褐色土　（黒色土粒・黒色土B極多含、ローム粒・ロームB多含）
3 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含）
4 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含）
5 褐色土　　（柱痕、粘性・しまりなし）
6 褐色土　　（ローム粒・ロームB・焼土粒・炭化物少含、柱痕の最下部に焼礫含、粘性・しまり弱）
7 茶褐色土　（ローム粒・ロームB・焼土粒・焼土B多含、黒色土粒・礫少含、粘性・しまり弱）
8 淡赤褐色土（焼土粒多含、ローム粒・ロームB・黒色土粒少含、粘性・しまりなし）
9 明灰白色土（シルト質、明灰白色シルト質粘土主体、ローム粒・ロームB少含）
10 暗黄褐色土（黒色土粒・黒色土B・ローム粒・ロームB多含、焼土粒・焼土B極少含、しまり弱）

SD4411（E面）

0　（S=1/60）　2m

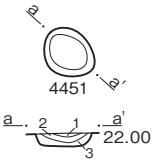
Ⅲ-164図　SK4405、SD4411





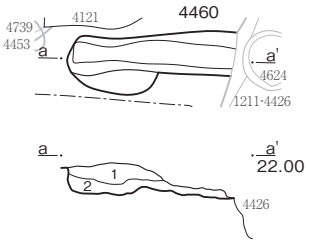
4432
1 黒褐色土　（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒・黒色土B・炭化物少含、しまり強）
2 暗黄褐色土（ロームB・黒色土B多含、焼土粒極少含）

SK4432（F面）



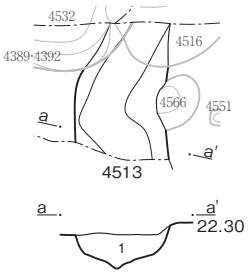
4451
1 黄褐色土（ローム主体、粘性強）
2 暗褐色土（ローム粒・明黄褐色粗砂粒・礫多含、しまり強）
3 暗褐色土（ローム粒極少含、しまり強）

SP4451（F面）



4460
1 黒褐色土（黒色土主体、ローム粒・ロームB少含、しまり強）
2 黒褐色土（黒色土B・ロームB多含、しまり強）

SK4460（F面）

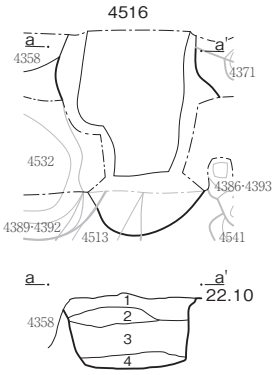


4513
1 茶褐色土（小円礫多含、ローム粒・黄褐色粘土粒含）

SK4513（F面）

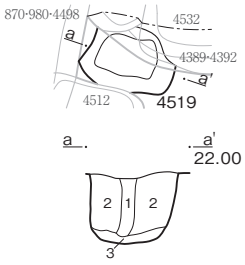
0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-165図　SK4432、SP4451、SK4460、SK4513



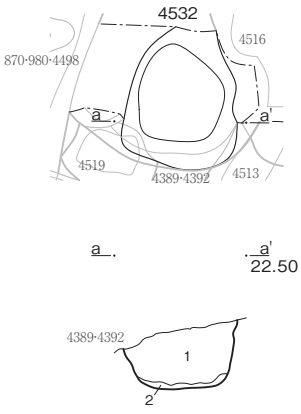
4516
1 暗褐色土（ローム粒少含、炭化物極少含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）
3 暗褐色土（灰褐色粘土多含、ローム粒・小円礫少含）
4 黒褐色土（ローム粒含）

SK4516（F面）



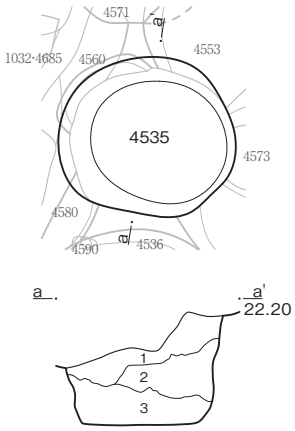
4519
1 暗茶褐色土（ローム粒少含、炭化物極少含、しまり弱）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含）
3 明褐色土　（ローム粒多含、ロームB含）

SP4519（F面）



4532
1 暗褐色土（炭化物・ローム粒・瓦片少含、粘性強）
2 暗褐色土（1層より暗い、ローム粒・炭化物極少含、粘性強）

SK4532（F面）

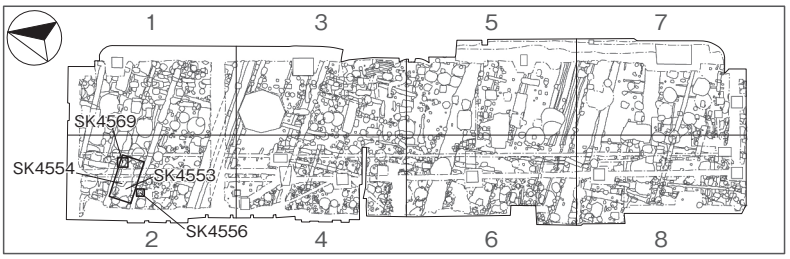


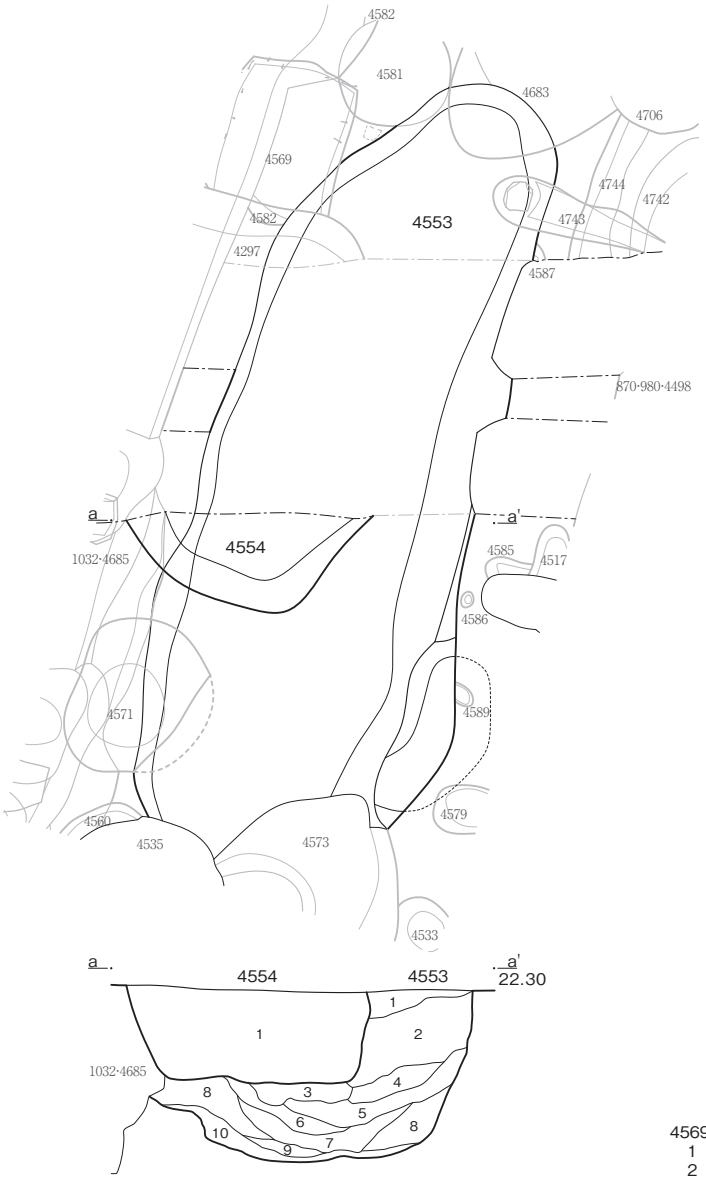
4535
1 暗褐色土（ローム粒・ロームB含、焼土B・小円礫少含、炭化物極少含、しまり強）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、円礫極少含）
3 黄褐色土（ロームで構成）

SK4535（D面）

0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-166図　SK4516、SP4519、SK4532、SK4535

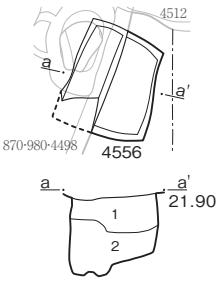




4554
1 暗茶褐色土（ローム粒多含、ロームB含、小円礫少含）

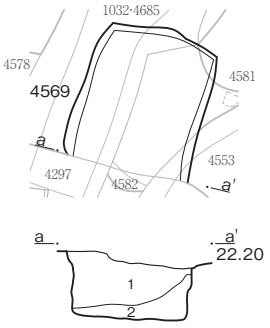
4553
1 暗茶褐色土（円礫多含、ローム粒少含）
2 褐色土　（ローム粒極多含、ロームB多含、小円礫極少含）
3 暗褐色土　（小円礫多含、ローム粒少含、しまり弱）
4 褐色土　（2層より暗、ローム粒多含、ロームB少含）
5 暗褐色土　（小円礫多含、ローム粒・黄褐色砂少含、しまり弱）
6 暗褐色土　（焼土粒・ローム粒含、炭化物・小円礫少含、しまり弱）
7 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫少含、しまり弱 ）
8 褐色土　（ほぼローム粒・ロームBで構成、小円礫少含）
9 褐色土　（ロームB・ローム粒・黄褐色粘土含）
10 黄褐色土　（ほぼロームで構成）

SK4553（F面）、SK4554（F面）



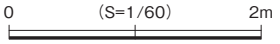
4556
1 暗茶褐色土（ローム粒・小円礫少含、炭化物・貝極少含、しまり弱）
2 暗茶褐色土（1層より明、ローム粒・炭化物少含、しまり弱）

SK4556（F面）

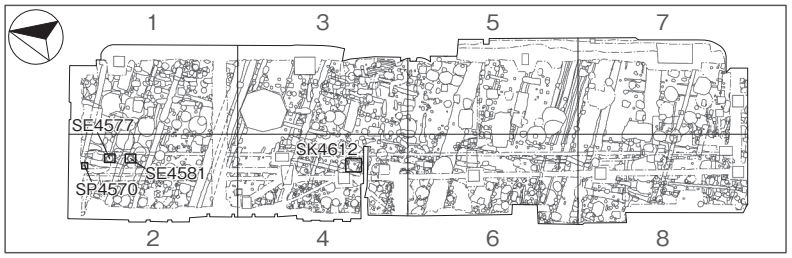


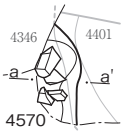
4569
1 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、円礫・小円礫含、炭化物少含）
2 茶褐色土（ローム粒・ロームB含、小円礫・炭化物極少含）

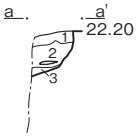
SK4569（F面）



Ⅲ-167図　SK4553、SK4554、SK4556、SK4569

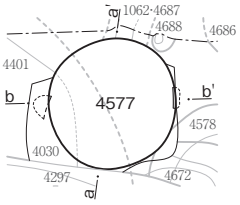


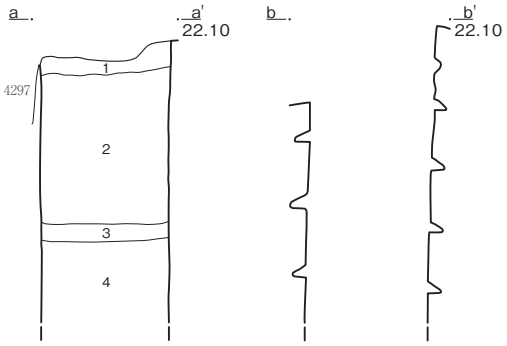




4570
1 褐色土　（ローム粒多含、ロームB含、小円礫極少含）
2 茶褐色土（小円礫多含、ローム粒少含、ロームB・灰褐色粘土極少含、しまり弱）
3 褐色土　（ローム粒・ロームB多含、しまり強）

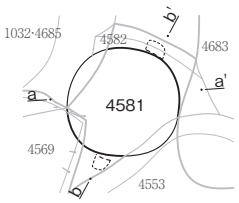
SP4570（G面）

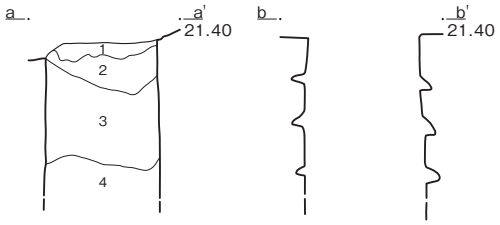




4577
1 褐色土　（ローム粒・ロームB極多含、瓦片含）
2 茶褐色土（瓦層、瓦極多含、大礫含）
3 茶褐色土（ローム粒多含、ロームB少含）
4 黄褐色土（ローム粒・ロームBで構成）

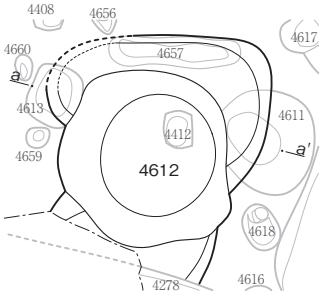
SE4577（G面）

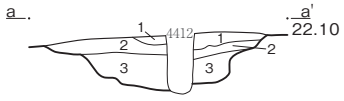




4581
1 黒褐色土（ローム粒多含）
2 黒褐色土（ローム粒極少含）
3 黄褐色土（ロームBで構成）
4 黒褐色土（ローム粒多含）

SE4581（G面）



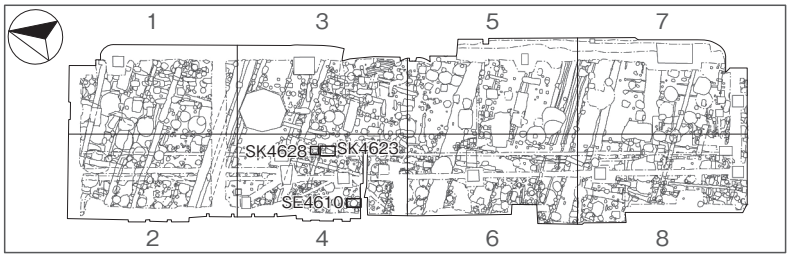


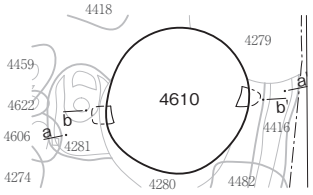
4612
1 暗灰褐色土（ローム粒・ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含）
2 暗灰褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含）
3 暗灰褐色土（貝片含、ローム粒・ロームB・炭化物少含）

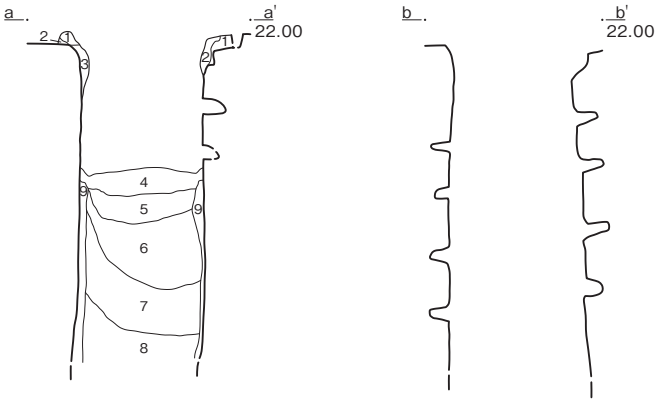
SK4612（G面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-168図　SP4570、SE4577、SE4581、SK4612

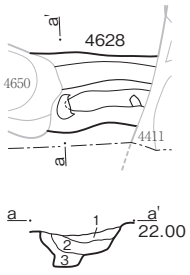






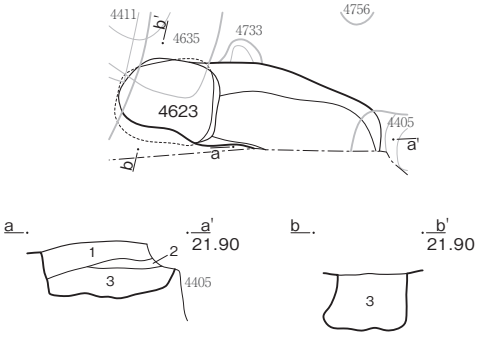
4610
1 灰色土　（ローム粒・ロームB・炭化物多含）
2 黄白色土　（黄白色粘土主体、ロームB少含）
3 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒少含）
4 黄褐色土　（ローム主体、粘性弱、しまりなし）
5 黒色土　（黒色土主体、貝殻・骨等・炭化物多含、ローム粒・ロームB少含、粘性・しまりなし）
6 灰褐色土　（砂質、黒色土粒・黒色土B多含、ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり弱）
7 褐色土　（6層より明、砂質シルト質、ローム粒・ロームB少含、灰白色粘土B極少含、粘性・しまり弱）
8 暗黄褐色土（砂質シルト質、ロームB・黒色土B多含、粘性強）
9 淡黄褐色土（ローム粒・黒色土粒多含、井戸枠痕跡、粘性・しまりなし）

SE4610（F面）



4628
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB多含、黒色土粒少含）
2 褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒少含、焼土粒極少含）
3 淡褐色土　（ローム主体、黒色土粒少含）

SK4628（G面）

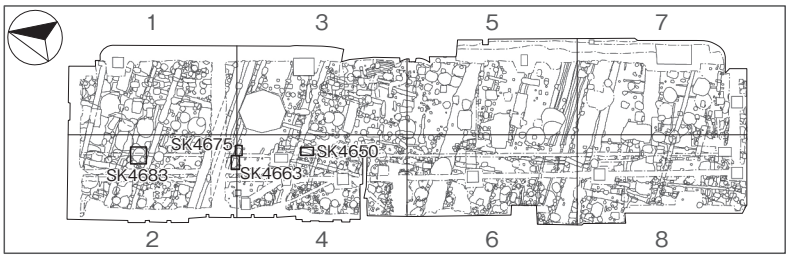


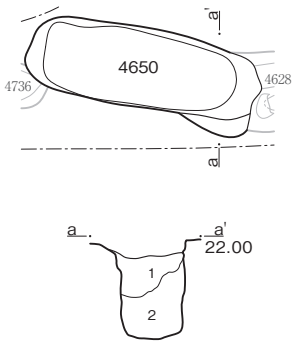
4623
1 黒褐色土　（黒色土粒・黒色土B・貝殻片〔ハマグリ？〕多含、ローム粒・ロームB・炭化物少含、粘性・しまり弱）
2 暗茶褐色土（ローム粒多含、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまり弱）
3 黒褐色土　（黒色土粒・黒色土B・ローム粒・ロームB多含、炭化物・貝少含、粘性・しまり弱）

SK4623（G面）

0　（S=1/60）　2m

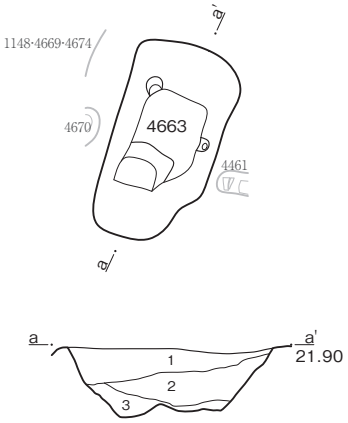
Ⅲ-169図　SE4610、SK4623、SK4628





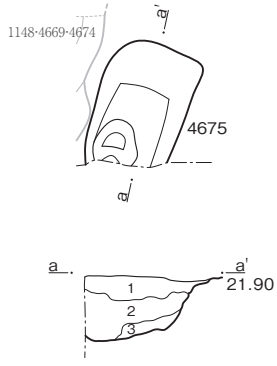
4650
1 灰黄色土（灰色土主体、ローム粒・ロームB多含、礫極少含）
2 黒褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、しまり弱）

SK4650（G面）



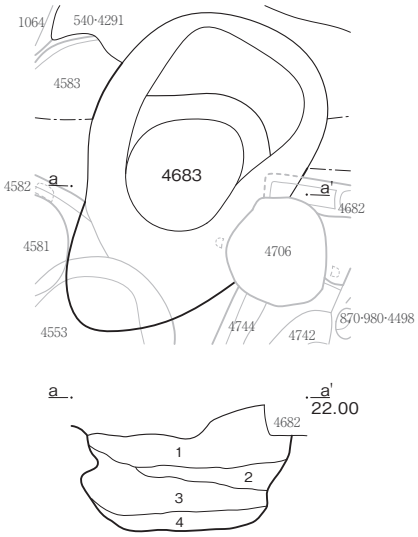
4663
1 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B・礫多含、粘性・しまり強）
2 黄褐色土　（ローム主体、黒色土粒・黒色土B極少含、粘性・しまり強）
3 黄褐色土　（ロームB・礫多含、黒色土粒・黒色土B少含、粘性・しまり強）

SK4663（G面）



4675
1 明黄褐色土（ローム主体、黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、粘性・しまり強）
2 明黄褐色土（ローム主体、黒色土B少含、礫極少含、1層よりしまり弱）
3 明黄褐色土（ローム主体、粘性強、2層よりしまり強）

SK4675（G面）

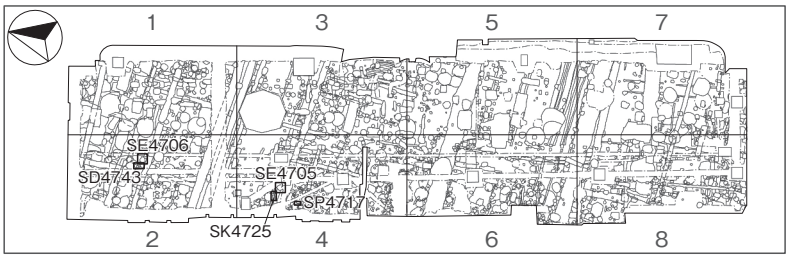


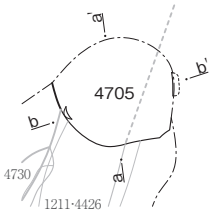
4683
1 暗褐色土（ローム粒・ロームB少含、小円礫極少含）
2 褐色土　（ほぼローム粒・ロームBで構成、小円礫少含）
3 黒褐色土（ローム粒・ロームB多含、小円礫少含）
4 褐色土　（ほぼローム粒・ロームBで構成、小円礫極少含）

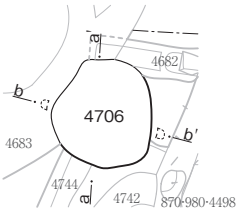
SK4683（F面）

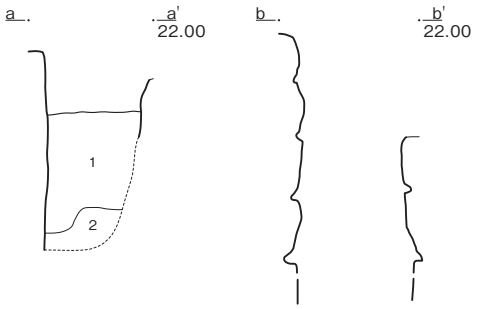
0　(S=1/60)　2m

Ⅲ-170図　SK4650、SK4663、SK4675、SK4683



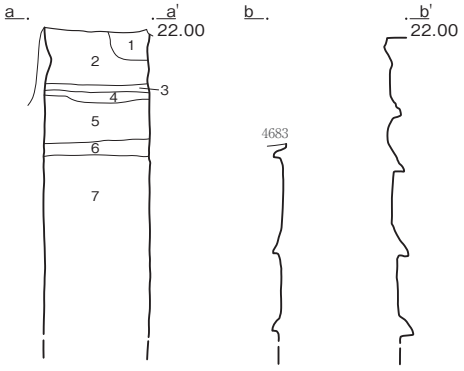






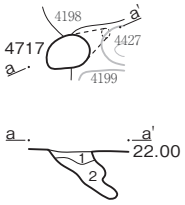
4705
1 黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性弱、しまりなし）
2 黒色土　（黒色土主体、ローム粒・ロームB少含、粘性・しまり弱）

SE4705（G面）



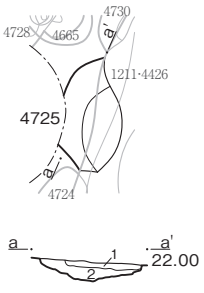
4706
1 黄褐色土　（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、礫少含、粘性・しまり弱）
2 暗褐色土　（砂利主体層、礫極多含、ローム粒少含、粘性・しまり弱）
3 明黄褐色土（明黄褐色粗砂主体、ローム粒・ロームB少含、粘性なし、しまり弱）
4 黒色土　（黒色土主体、粘性・しまりなし）
5 暗褐色土　（瓦片多含、ローム粒少含、粘性弱、しまりなし）
6 茶褐色土　（砂質強、ローム粒・ロームB・玉石・砂岩状の玉石多含、粘性弱）
7 黒色土　（瓦主体層、瓦・黒色土極多含、ローム粒・ロームB多含、粘性・しまり強）

SE4706（F面）



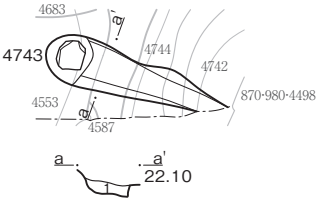
4717
1 淡褐色土（ローム粒少含、赤色スコリア粒極少含）
2 褐色土　（1層より暗、黒色土粒多含、ローム粒少含）

SP4717（G面）



4725
1 暗褐色土　（黒色土粒多含、ローム粒・ロームB少含、焼土粒・炭化物極少含）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ロームB・黒色土粒・黒色土B多含、粘性・しまり強）

SK4725（G面）



4743
1 黄褐色土（ローム粒極多含、黒色土粒多含、礫極少含、粘性・しまり弱）

SD4743（F面）

0　（S=1/60）　2m

Ⅲ-171図　SE4705、SE4706、SP4717、SK4725、SD4743

第Ⅳ章　遺物

第１節　人工遺物

本地点からは遺物収納箱総数で548箱の陶磁器・土器が出土している。本章の遺物説明で使っている陶磁器・土器の分類基準は「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)」（東京大学埋蔵文化財調査室1999）を基に作成した最新バージョン（分類Ver.4）に準拠している（東京大学埋蔵文化財調査室2016）。人形・玩具の分類基準は、「東京大学構内遺跡出土人形・玩具の分類」（安芸・小林・堀内2012）によった。また、報文中に出てくる東京大学構内遺跡の段階設定や年代などの記載は「東京大学構内の遺跡における年代的考察」（堀内1997）を基にして行っている。なお、上記分類基準は主に江戸時代の出土遺物を対象としている。近代以降の製品については基準がない、あるいは分別の困難が多く存在する。以下では判別が可能な製品についてのみ表記を行った。

埋蔵文化財調査室では、東京大学構内の各調査地点で出土した同一遺構や層の陶磁器・土器の様相の把握を行い、文化、社会、経済、年代などを復元する基礎資料としている。本地点では、調査室で便宜的に定めた推定個体数100個体以上の遺物が出土した遺構・包含層がなかったため、遺構の年代は、遺物個々の出土年代を推定した「東京大学構内遺跡出土陶磁器･土器の分類（2）」（大成2011）を参考にして行っている

SB2（遺構Ⅲ−２図、遺物Ⅳ−１図）

１、２は瀬戸・美濃系磁器である。１は腰が張り体部が直立する湯呑碗でJC-1-eに分類される。大振りである。内面口縁には雷文が巡る。２は燗徳利でJC-4に分類される。口縁は「ハ」の字状に広がる。口縁、胴部中位、下位に銅版転写で文様が付けられている。

SB3（遺構Ⅲ−３図、遺物Ⅳ−１図）

１は金属製品の引戸の把手。内金具。打ち出し文様で中央部には梅文、地文様は魚々子（ななこ）で充填されている。鍍金。

SP12（遺構Ⅲ−４図、遺物Ⅳ−１図）

１は丸瓦である。玉縁部は2.5cmと短いタイプである。縁には瓦を留めていた漆喰の跡が残る。凸面に径1cmの「○」に「一」の刻印が付けられている。凹面には布目と棒状工具痕が残る。

２は人形・玩具の碁石状土製品である。DQ_4004_Hに分類される。手捻り。径1.8cm。

SK88（遺構Ⅲ−９図、遺物Ⅳ −１図）

１は肥前系染付磁器である。碗の蓋でJB-1に分類される。肩が張り、つまみは低い。

SD130（遺構Ⅲ−13図、遺物Ⅳ−１図）

１は肥前系染付磁器である。蓋物の蓋でJB-13に分類される。橋状のつまみが付く。

SU139（遺構Ⅲ−14図、遺物Ⅳ−１、２図）

１は肥前系磁器染付皿である。量産品の粗製の四寸皿。JB-2-sに分類される。高台が低く、高台脇に砂が付着している。２、３は肥前系陶器である。２は京焼風陶器碗でTB-1-bに分類される。高台は丁寧に作られ、高台内の削り込みはあまり深くない。外面にはわずかに文様が残る。３はいわゆる呉器手碗でTB-1-aに分類される。口径が11.5cmと大振りである。４～６は土器である。４、５はかわらけでDZ-2-bに分類される。４の胎土は淡橙色で雲母を含み精緻である。底裏の糸切り痕は糸尻がやや深く右回転。外面底体間に切れ目があり、体部は内湾しながら緩やかに立ち上がる。口唇部内側に沈線があり、内部底体間に圏線がめぐる。５は口径が6.5cmと小ぶりである。胎土は淡橙色で雲母を含み精緻である。外面底体間に切れ目があり、内面底体間に圏線がめぐる。口唇部には灯火痕がみられる。６は塩壺。輪積成形で一重角枠内「天下一堺ミなと藤左衛門」の刻印有り。DZ-51-bに分類される。口唇部欠損。胎土は橙色。白色粘土、白色粒子混入。内面の成形は雑である。７、８は石製品である。７は茶臼の上臼である。３分の２は欠損している。面の径は約18cmである。挽き目は八分画で１分画の中に溝が９本あり、臼の周縁にまでは達していない。挽き手孔は菱形で、１箇所のみ確認できた。推定深さ3.6cm。８は硯である。粘板岩。４寸×２寸。陸部はすり減っておらず、ほとんど使用されていない。

SK153（遺構Ⅲ−15図、遺物Ⅳ−２図）

１、２は鉄製品。頭巻釘である。１は１寸。２は２寸。

SU161（遺構Ⅲ−15図、遺物Ⅳ−3図）

１は肥前系磁器染付碗である。高台断面が三角形を

呈する碗で JB-1-c に分類される。2 は肥前系陶器である。いわゆる呉器手碗で、TB-1-a に分類される。口径が 11.1cm と大振りである。3 は京都・信楽系陶器の長石釉鉢である。TD-5 に分類される。口縁部は平坦ではなく数箇所の凹みがあると思われる。口縁部には波状の櫛描文が施され、鉄絵が描かれている。内面にはピン痕が 3 箇所見られる。体部にはロクロ目が強く残る。

SU162（遺構Ⅲ−15 図、遺物Ⅳ−3図）

1 は肥前系磁器白磁香炉。高台状の露胎部のある香炉・火入れで JB-9-c に分類される。3 足。

SD169・2130（遺構Ⅲ−16、17 図、遺物Ⅳ−3図）

1 は瀬戸・美濃系陶器。見込みに鉄絵蘭竹文の描かれた小振りの皿で TC-2-j に分類される。見込みにピン痕が 2 箇、高台内に目跡が 3 箇残る。腰が張っている。

SK209（遺構Ⅲ−19 図、遺物Ⅳ−3、4 図）

1 は肥前系磁器染付鉢で、JB-5 に分類される。体部は型打成形で 2 段角の方形を呈する。見込み手描き五弁花。高台内銘二重角枠内渦福。青海波に花。線がはみ出すなどしているが、丁寧に施文している。底部高台は浅い碁笥底状になっている。2 は京都・信楽系陶器の灰釉碗である。TD-1 に分類される。見込みにピン痕が 3 箇所。器壁は最も薄い部分で 2mm と薄手である。体部には歪みが見られる。3 は鉄製品。頭巻釘である。長さ 2 寸 5 分。錆と木片が残る。4 〜 8 は瓦である。4 は軒平瓦で瓦当文様は大坂式である。中心飾りの橘状文様は中心部で分かれている。外側の子葉は二股に枝分かれしていない。瓦当部左側に刻印有り。「∧」「庄」「九」。5、6 は熨斗瓦で文様は 15 類に分類される。中央切込線で分割されている。6 は被熱して赤変している。7 は軒丸瓦で瓦当部のみ残存。剣梅鉢文 B に分類される。瓦当径は 16.0cm。8 は鬼瓦で梅鉢文の部分と思われる、丸い文様が付く。裏には把手の痕跡が見られる。

SU210・3095（遺構Ⅲ−20、21 図、遺物Ⅳ−5 〜 14 図）

1 〜 3 は陶磁器、他はすべて瓦である。1、2 は瀬戸・美濃系磁器である。1 は端反碗で JC-1-d。呉須はやや黒ずむ。2 は木型打込によって見込みに松竹の陰刻が施された皿で JC-2-f。蛇ノ目凹形高台である。3 は瀬戸・美濃系陶器の五合徳利で TC-10-d。釘書きは点刻されたものであるが、欠損部分にあたり判読できない。

4、30 は桟瓦である。4 は凹面に 2 次穿孔が 1 箇所確認される。30 は桟部、平部両方の切り込み部分が確認できる。小口上下方は面取りされ、中央には「〇」に「清」の刻印が確認される。5、6 は丸瓦である。ともに凸面に縦位のナデが、凹面には布目痕が残るが、5 の布目痕は凹面玉縁付近と縁端付近に、6 は凹面全体に残る。なお 6 の凹面には布目痕の上に棒状工具痕も確認される。7、8 は軒丸瓦である。瓦当文様は 7 が巴文と連珠の間に圏線が無いもので連珠三つ巴文 C、8 が梅鉢の花弁断面がドーム形を呈す剣梅鉢文 C である。ともに 2 次的な火熱を受けるが、8 は全体が赤化し、やや膨張している。9 〜 14、18 〜 21、23 〜 26 は軒桟瓦で、9 と 27 以外すべて 2 次的な火熱を受ける。16 と 27 は軒丸部が完全に欠損しており、軒平瓦の可能性もある。9 〜 14 は軒丸部のみで軒平部の接合の痕跡が残る。瓦当文様は 9 〜 12 は連珠三つ巴文 C。9 の珠文は大きく盛り上がり、11 の周縁は広いものである。13、14 は巴文の周囲に圏線がないもので三つ巴文 C。14 の巴は大きく、尾まで明瞭なものである。19、23 は軒平部のみで軒丸部の接合の痕跡が残る。瓦当文様はともに江戸式で、19 はⅠ Kj、23 はⅢ Lk に分類される。23 の唐草、子葉は肥大している。16 の軒平部瓦当文様は中心飾りに樹枝および点珠からなる花文、その両脇に唐草 2 対が配される東海式の特徴を有す。凹面に断面 V 字形、深さ 5cm ほどの分割線を有す。18、25、26 の軒丸部瓦当文様は三つ巴文 C、軒平部瓦当文様は 18 はⅠ Hg、25 はⅢ Lj、26 はⅣ Fk に分類される。18 の桟部には幅 3cm の縦位のケズリ調整痕が残る。全体に赤化し、熱により膨張している。25 の軒丸部周辺は広く、巴文が太い。20、21、24 の軒丸部瓦当文様は連珠三つ巴文 C、軒平部瓦当文様は 20、21 はⅡ Kj、24 はⅢ Kj に分類される。21 の軒平部瓦燈文様は全体的に扁平なものである。15、17、22 は軒平瓦で、瓦当文様は 15 はⅠ Li、17 はⅠ Ai、22 はⅢ Ki に分類される。15、22 は 2 次的な火熱を受ける。15 は左側に約 3.6cm の袖垂れを有す。28 〜 30 は桟瓦である。28､29 は小口に「〇」に「庄」の刻印を有す。45 〜 53 は平瓦である。45 〜 53 はすべて完形である。46 の凸面には横位のナデが顕著に認められる。47 〜 53 には凸面にアーチ形あるいは鉤形の焼成前の線状の凹みが認められる。位置や本数など規則性はなく、その形状などから焼成前の重ね積み痕跡と推測される。31 〜 37、40、41 は熨斗瓦である。側面文様から分類され、31 は 19 類、32 〜 34 は 16 類、35、37 は 15 類、40、41 は 18 類、36 は欠損のため判然としないが 17 類か？分割線が見られるものが比較的多く、31、32、34、37、41 は凸面と割れ口、35、40 は割れ口、36 は凹面と割れ口に分割線が残る。

特に 31、32、37、40、41 は分割線が深さ 5mm に及ぶ。31 ～ 33、35、36、40 は 2 次的な火熱を受ける。38、39 は前田家家文である梅鉢文をモチーフとした鬼瓦である。38 は欠損が著しいが中央に梅鉢文、その両脇に雲水を配したものであろう。39 も中央に剣鉢文を配したものである。背面には帯状の把手（龍頭）が貼付られている。42 ～ 44 は海鼠瓦で、42 と 43 は 2 次的な火熱を受ける。いずれにも四隅に釘穴が 3 ないし 4 箇所、片面に漆喰塗布を規定する朱線と線彫りが確認される。釘穴は方形で、斜めに穿たれた痕跡が残る。43 に 1 本だけ鉄釘が残存している。

SX211（遺構Ⅲ− 22 図、遺物Ⅳ－14 図）

1、2 は金属製品である。1 はキセルの吸口である。肩はない。2 はキセルの雁首である。肩付きで脂返しの湾曲は小さい。火皿は器高の低い碗形を呈し、首部との接合部はやや太い。繋ぎ目は上である。内部にはラウが残る。1、2 は径の太さが異なるため別個体と思われる。

SK212（遺構Ⅲ− 22 図、遺物Ⅳ－14 図）

1 はかわらけで DZ-2-a に分類される。胎土は橙褐色である。底径は大きく、離糸切り右回転。外面底体間にはわずかに段差が確認される。体部は緩やかに立ち上がり、内面底体間に圏線がめぐる。

SD233・2160（遺構Ⅲ− 27 図、遺物Ⅳ－15 図）

1 は瀬戸･美濃系染付端反碗で、JC-1-d に分類される。文様は瀬戸・美濃の地呉須を使用して描かれている。2 は瀬戸・美濃系染付碗で、JC-1-e に分類される。胎土には輝性が確認され、呉須は淡青色を呈する関西系と称される製品である。3 は瀬戸・美濃系灰釉鉄釉掛分碗で、TC-1-u に分類される。いわゆる腰錆碗である。

SD236・2095・3021（遺構Ⅲ−29 図、遺物Ⅳ－15 図）

1、2 は瀬戸・美濃系陶器皿。1 は長石釉の小皿で TC-2-c に分類される。碁笥底。2 は見込みに鉄絵蘭竹文の描かれた小振りの皿で TC-2-j に分類される。見込みにピン痕が 3 箇所残る。腰が張っている。見込み、口唇部に圏線は巡らない。3 は土器で塩壺である。板作成形で小枠に「泉州麻生」の刻印がある。DZ-51-h に分類される。内面に布目痕あり。本遺跡からの出土はあまり多くない。4、5 は熨斗瓦で文様は残存部が少ないが 15 類と思われる。凹面の割れ口には分割線が残る。4 は凹面には 4 本 1 条の条線が 3 条刻まれている。5 は凹面には 4 本 1 条の条線が 2 条刻まれている。6、7 は金属製品でキセルの雁首である。6 は肩付きで脂返しの湾曲は大きい。火皿は器高の高い碗形を呈し、補強帯を有する首部の長いものである。繋ぎ目は左である。内部にはラウが残る。7 は緩やかな肩付きで脂返しの湾曲は小さい。火皿は器高の低い碗形を呈し、補強帯を有する。繋ぎ目は左である。火皿は潰れている。

SD236･2095･3012、SK2210

（遺構Ⅲ−29 図、遺物Ⅳ－15 図）

1 は粘板岩製の石製品である。厚さ 8mm の石板の切断を行っている際に欠損などをして廃棄されたものと思われる。上側面は鋸で切断痕が観察され、右側面、左側面も同様の痕跡が確認されているが、右側面は表裏両側から、左側面は表面一方向からのみであった。石板は完全には鋸によって切断される前に、折れたあるいは折った状態であった。資料はほぼ中心で切断する途中の状態であるが、切断ライン左側は 4.2cm、右側が 4.5cm で同一規格ではない。

SD246･3100（遺構Ⅲ−30、31 図、遺物Ⅳ－15 ～ 21 図）

1 ～ 30 は肥前系磁器。いずれも被熱している。1 は高台断面が三角形を呈する染付鉢で JB-5-f に分類される。腰が張り、口縁部は外反している。高台内銘「宣明年製」。2 は高台断面が三角形で高台径が大きい皿である。JB-2-c に分類される。青磁。口唇部口銹。3 は高台断面がシャープな「U」字状で南川原窯の製品と推察される。JB-5-b に分類される。型打成形された乳白手白磁の鉢である。口縁は輪花に成形されている。口唇部口銹。4 は碗の蓋で、同様の文様で体部が丸形を呈する碗の身の破片が出土しており、その蓋か。染付。桐、下がり藤、沢瀉（おもだか）の文様が付けられている。5 は染付の瓶で JB-10 に分類される。文様は 4 の碗と揃いである。6 ～ 19 は壺・甕で JB-15 に分類される。6 は染付で最大径は肩部にある。高台脇に膨らみを持つ。7 ～ 19 は白磁。高台内施釉。11 は器高が 16.5cm と小振りで、他は 20cm 前後である。8､10､17､18 は肩よりやや下がったところに最大径がくる。他は胴部最大径は肩にある。高台脇は特徴的で、胴部から真っ直ぐに下がり、底部を削り込んだものが 8、9、13、17。高台脇が張り出しているが平らに下がっていくものが 16、19。高台脇が張り出して丸みを帯びるものが 7、14、15、18。20 ～ 30 は蓋である。つまみが付く。22、28 はつまみ上面角の面取りが小さく、あまり丸みを帯びていない。他は上面角が面取りされ丸みを帯びている。25 は丸みを帯び器高が高い。31 ～ 34 は陶器でいずれも被熱している。

31 は肥前系陶器灰釉碗で、TB-1 に分類される。高台は高く無釉である。体部は丸みを帯び口縁部はわずかに外反している。灰釉。32 は瀬戸・美濃系陶器鉄釉丸碗で TC-1-ag に分類される。高台内施釉。釉は 2 次的な被熱により溶けている。見込み灰釉を流し掛け。33 は瀬戸・美濃系陶器徳利で、TC-10 に分類される。肩が張り高台に向けすぼまっている。鉄釉灰釉流し掛け。高台畳付に目跡が 2 箇所ある。34 は備前系蓋物か。蓋受が付いている。おそらく水指として使われたものであろう。被熱により表面が部分的に剥落している。35 ～ 44 は瓦である。被熱している。36、38、39 は被熱により全体が赤変しており、39 は変形している。その他の瓦は部分的に被熱により赤変している。35 ～ 38 は軒平瓦の瓦当部で 35 はいわゆる江戸式でⅣ L1 に分類される。36 は子葉の形がやや異なるが 17 世紀中葉にみられる平瓦 36 類に類似。37 は軒平 58 類に分類される。38 はいわゆる江戸式でⅠ Da に分類される。39 は平瓦。小口に刻印有り。「○」「一」。40 は熨斗瓦。凸面の割れ口には分割線が残る。41、42 は丸瓦。41 は凸面はヘラ削りで整形されヘラの痕跡が強く残る。凹面は布目痕が残る。玉縁は長さ 3.7cm。42 は釘孔あり。凸面はヘラ削りで整形されている。凹面は布目がしっかりと残り、棒状工具痕は見られない。玉縁は長さ 4.6cm。43、44 は軒丸瓦の瓦当部。他欠損。43 は瓦当文様は梅鉢文 B に分類される。瓦当径 16.0cm。44 は瓦当文様は剣梅鉢文に分類される。瓦当推定径 15.0cm。45 ～ 52 は金属製品である。49 は鉄製品。頭巻釘である。頭巻釘は角釘の頭を平にして巻いたものである。1 寸 5 分。45 ～ 47 は鋲である。45 は 2 寸。46 は 1 寸 5 分。48 は釘。50 は飾金具。木部を覆うようにつけられていた物と思われる。釘孔が 2 箇所みられる。周縁は折り込まれている。三つ巴文。線彫りされ地文様は魚々子（ななこ）で充填されている。鍍金。51 は和鏡である。被熱して、折れ曲がっている。松、鶴、亀と「天下一金益」の文字が見られる。天和 2（1682）年に「天下一」の使用禁止令が出されるので、それ以前に作られた鏡である。52 は刀装具。切羽。

刀子の内寸は、2.6㎝程度であることから、脇差しなどの刀に使用するものと推定される。53 は石製の印鑑。滑石。文字は篆刻によって上下 2 面に彫られている。下面は円形に印刻で「山」「青」。上面は隅丸方形に陽刻で「封」の字が彫られるが、上下面の印は 90° 振れている。

SB250（遺構Ⅲ− 33 ～ 35 図、遺物Ⅳ −21、22 図）

1 ～ 7 は肥前系染付磁器である。被熱している。1 は高台断面が三角形の碗で JB-1-c に分類される。高台脇、高台内二重圏線。2 は高台断面がシャープな「U」字状の碗で JB-1 に分類される。見込み二重圏線。口縁部を巡る文様は墨弾きで描かれている。3、5 は皿である。3 は量産品の四寸皿。粗製。JB-2-s に分類される。高台が低く、高台脇に砂が付着している。 5 は高台断面三角形の皿 で JB-2-c に分類される。型打成形。口縁は鍔状になっている。見込み二重圏線。口縁にかけて牡丹唐草文。外面は輪郭線のある梅花唐草文。4 は高台断面がシャープな「U」字状で、JB-5-b に分類される。型打成形された乳白手白磁の鉢である。口縁は輪花に成形されている。口唇部口銹。6、7 は口縁が外反する坏で JB-6-b に分類される。高台内銘は 6 は「宣化化製」、7 は「宣徳年製」。8 ～ 10 は陶器。8、9 は被熱している。8 は京都・信楽系の灰釉型皿で TD-2 に分類される。鍔状の口縁部には瓢箪の透かしが四方にはいる。見込みにピン痕が残る。4 枚以上の揃いが確認されている。高台断面は三角である。9 は京都・信楽系の水滴でカボチャを模している。TD-19 に分類される。灰釉、鉄絵。3 足。10 は瀬戸・美濃系鉄釉蓋。TC に分類される。つまみはない。壺・甕の蓋か。裏面糸切り痕あり。11 はかわらけで DZ-2-a に分類される。胎土は淡橙色で赤色粒子と雲母を含む。底径は大きく器高が高い。体部は外反気味に立ち上がり、内面底体間に浅い圏線がめぐる。口唇部には灯火痕がみられる。12 は砥石である。粘板岩。褐色。縁は面取りされている。あまり使用されていない。被熱している。

SD269・2315（遺構Ⅲ− 37 図、遺物Ⅳ −22 図）

1 は金属製品。キセル吸口。肩はなだらかである。

SU279（遺構Ⅲ− 38 図、遺物Ⅳ −22、23 図）

1、3 は肥前系磁器 。1 は高台断面三角形の碗で、JB-1-c に分類される。高台脇、高台内二重圏線。口唇部口銹。丸の中に墨弾きによる逆鉾文様が描かれている。3 は染付皿で高台断面の先端は両端から削られ、尖っている。JB-2-c に分類される。高台は高く 17mm ある。見込み文様は鹿と富士。外文様は輪郭線のある唐草文。高台内角枠銘あり。2 は景徳鎮窯系青花皿で JA1-2 に分類される。口縁部は輪花に成形。口唇部は平らに切られ口銹が施されている。高台内カンナ削り痕。高台内銘「□□成化年製」。明末～清初。4 ～ 11 は陶器。4 は肥前系のいわゆる呉器手碗で TB-1-a に分類される。口径は 9.5cm と小振りである。胎土は淡黄色。5 は京都・信楽系の碗で、TD-1 に分類される。腰の張り大振り。灰釉銹絵染付。文様の部分には凹みが見られる。高台畳付面

取り。高台内中央にある浅い円刻は小さくその脇に「清閑寺」が刻印されている。6～8は瀬戸･美濃系皿である。6は小振りな灰釉輪禿皿でTC-2-mに分類される。鍔皿。見込みに凸帯をもち凸帯部分が無釉である。中央に印花文が施される。高台無釉。7は灰釉端反皿でTC-2-yに分類される。見込みピン痕3箇有り。高台内目跡3箇有り。高台断面は三角形を呈す。高台無釉。胎土は､灰白色。8は菊皿で外面にしのぎがある。TC-2-kに分類される。見込み型打成形。外面にはわずかに布目が残る。高台以外は黄瀬戸釉が施釉され、口縁部付近には緑釉が散らされている。高台断面は方形を呈す。10は肥前系皿・平鉢でTB-2に分類される。高台内施釉。胎土灰白色。9、11は香炉・火入れである。9は京都・信楽系灰釉香炉でTD-9に分類される。口縁部は内側に折られ、口唇部平、体部は袴腰に成形されている。高台無釉。高台畳付に砂目が3箇残る。底部中央には膨らみを持つ。胎土は淡黄色。11は瀬戸・美濃系鉄釉香炉・火入れでTC-9-bに分類される。底部は輪高台。見込みには目跡が3箇残る。

12、13は土器である。12は瓦質の置灯籠。体部は筒状になっており、窓が開けられている。笠部分は波状になって中央にはつまみが付けられている。笠部上面全面に回転文が施されている。13はかわらけでDZ-2-aに分類される。胎土は橙色で赤色粒子と雲母を含む。底径は大きく、体部は内湾気味に緩やかに立ち上がる。内面底体間に浅い圏線がめぐる。口唇部には灯火痕がみられる。14は瓦である。中心文様が無剣梅鉢文Aの滴垂瓦である。唐草は巻き込みが深く、一部が三重線になっている。15は銭で寛永通宝である。背面に「文」の字がある新寛永文銭。中字背文型。遺存状態は余り良好ではない。

SU280（遺構Ⅲ－38図、遺物Ⅳ－24、25図）

1は肥前系磁器で底部が輪高台状の猪口。JB-7-bに分類される。口唇部口銹。体部が外側へ大きく開き口縁部にかけて丸みを帯びて立ち上がっている。底径と口径の差が大きい。2～5は上製かわらけでDZ-2-dに分類される。胎土は橙色で非常に精緻、赤色粒子と雲母を含む。器厚は薄く、底部は平滑で、内湾しながら緩やかに立ち上がる。口唇部は尖る。内面底部に3箇所円形に黒色部がみられる。いわゆる「くもかわらけ」。2は口径10.8㎝、器厚は底部中央2㎜、口唇部2㎜。3は口径12.6㎝、器厚は底部中央2.5㎜、口唇部2㎜。4は口径11.5㎝、器厚は底部中央3㎜、口唇部2㎜。5は口径11.2㎝、器厚は底部中央3㎜、口唇部2㎜。6～10は瓦である。6は軒平瓦。いわゆる江戸式で分類ⅠＥｇに分類される。7は軒丸瓦の瓦当部で剣梅鉢文Ｃである。径は16.2cm。8は丸瓦。玉縁部は3.2cmと短い。外面はヘラ削りで整形され、内面には布目痕と棒状痕が5本みられる。9、10は熨斗瓦。15類に分類される。9は分割線で割られている。10は分割線は引かれているがそのまま使われている。11､12は金属製品。11はキセルの雁首である。肩はない。脂返しの湾曲は小さい。火皿は器高の低い碗形を呈し、補強帯は無い。繋ぎ目は上である。12はキセルの吸口である。

SU281（遺構Ⅲ－39図、遺物Ⅳ－25、26図）

1は肥前系磁器白磁鉢である。高台断面三角形の鉢で、JB-5-fに分類される。輪花状に型打ちされた鉢である。6弁。薄手。2～9は陶器である。2は肥前系のいわゆる呉器手碗でTB-1-aに分類される。胎土は緻密な白色である。3は瀬戸・美濃系碗。内外面鉄釉灰釉流し掛けTC-1-agに分類される。底部無釉。胎土は淡黄色。4は肥前系のいわゆる呉器手碗に類似した胎土釉調を示す皿でTB-2-iに分類される。胎土はやや褐色がかっている。口縁が外反する。底部施釉。5～7は瀬戸・美濃系小振りな灰釉輪禿皿でTC-2-mに分類される。口縁は外反する。見込みにわずかに凸帯をもち凸帯部分が釉剥ぎされているが、いずれもその周辺部に重ね焼きの際の溶着痕がみられる。高台無釉。8は肥前系の刷毛目の施された大平鉢でTB-3-aに分類される。鍔状の口縁。灰釉。緑釉黄釉流し掛け。見込み目跡5箇、高台畳付に6箇。高台断面は台形で高台内は深く削られている。9は丹波系擂鉢でTK-29に分類される。口縁部は有段。櫛目は4本1条で隙間無く引かれている。内面下方に陶片痕が3箇所に見られる。見込み中央部欠損。見込み擂目に外周圏線はない。外面指頭圧痕。底部際から工具による整形痕が残る。10、11はかわらけである。10はDZ-2-aに分類される。胎土は橙色で雲母を含む。底径は大きく、底部はやや突出している。体部は内湾気味に緩やかに立ち上がり、口唇部はやや角張る。11の胎土は橙色で金雲母、白色粒子を含む。口径は6㎝と小ぶりで、糸切り痕は左回転、糸尻がやや深い。内面底体間に浅い圏線がめぐる。DZ-2。12～14は銭で寛永通寶である。12は古寛永。正足宝型。「寛」の字が潰れてしまっている。13は古寛永。広足寛型。14は古寛永。大字型（称鳥越式）。残存状態は悪い。15は金属製品。キセルの雁首である。肩付き。脂返しの湾曲は大きい。火皿欠損。繋ぎ目は左である。

SU288（遺構Ⅲ− 39 図、遺物Ⅳ −27 図）

1、2 は陶器である。1 は京都・信楽系陶器碗。TD-1 に分類される。釉はやや白濁している。胎土は浅黄橙色。部分的に淡橙色に発色している。高台の内側は丸みを帯びている。2 は肥前系京焼風陶器碗で外面に主文様を持つ。TB-1-b に分類される。腰が張り大振りである。高台内中央にある浅い円刻は大きくその中に刻印「寶」が押されている。

SP356（遺構Ⅲ− 43 図、遺物Ⅳ −27 図）

1 は銭である。 新寛永通宝。文銭。正字背文型。遺存状態は良い。

SP395（遺構Ⅲ− 45 図、遺物Ⅳ −27 図）

1 は金属製品。キセルの雁首である。肩はない。脂返しの湾曲は小さい。火皿は器高の低い碗形を呈し、補強帯は無い。繋ぎ目は左である。

SK430（遺構Ⅲ− 46 図、遺物Ⅳ −27 図）

1 は瀬戸・美濃系磁器端反碗である。JC-1-d に分類される。内面口縁部圏線。

SP437（遺構Ⅲ− 45 図、遺物Ⅳ −27 図）

1 は肥前系磁器である。高台断面三角形で高台径の大きい染付皿で JB-2-c に分類される。高台内ハリ支え 3 箇残る。裏文様は線書きで画かれたつる草文である。見込みは紅葉と流水文。

SP443（遺構Ⅲ− 45 図、遺物Ⅳ −27 図）

1 は金属製品。キセルの吸口である。途中に段を持ち丸みを帯びている。中に羅宇が残る。

SK464（遺構Ⅲ− 47 図、遺物Ⅳ −27 図）

1 は銭である。古寛永通寶。狭足寛型。

SK465（遺構Ⅲ− 47 図、遺物Ⅳ −27 ～ 32 図）

1 ～ 28、35、38、42 は磁器である。1 ～ 8、10 は瀬戸・美濃系碗。1 は端反碗で JC-1-d に分類される。帆の形が墨弾きで描かれダミが掛けられている。2 は丸碗で JC-1-a に分類される。輸入コバルト手描き。3 ～ 7 は飯碗で JC-1-f に分類される。3 は手描き。高台内銘。4 は薄いクロム青磁に輸入コバルトによる手描き。高台内銘「楠製」。5、6 は吹絵と手描き。5 は高台内銘「乾山」。6 は高台内銘「白玉圓製」。7 は銅版転写。8、10 は湯呑碗で JC-1-e に分類される。8 は上絵。金、赤、青、黒。おかめの面と扇。10 は外面銅版転写。内面口縁部帯文手描き。高台内銘。9 は九谷系碗で JN-1 に分類される。上絵。金彩。腰が張り体部が直立する湯呑碗。口唇部口銹。高台内銘朱色「九谷」。11 ～ 20 は皿である。11 ～ 14 は瀬戸・美濃系である。11 は蛇ノ目凹形高台で高台高が高い皿で JC-2-a に分類される。型打成形。菊花に成形。口唇部口銹。12 は輪高台皿で JC-2-b に分類される。手描き。口唇部口銹。高台内銘。13 は蛇ノ目凹形高台で高台高が低い皿。JC-2-a に分類される。型紙摺。輪花に成形。14 は輪高台皿で JC-2-b に分類される。表面は型紙摺で部分的に手描き。裏文様は手描き。高台内に目跡 4 箇有り。15 は肥前系鍋島様式の皿で、JB-2-n に分類される。染付、色絵万年青文。幕末頃多く作られた製品で、藩窯ではなくなった明治期にも引き継がれている。色は 2 色であるが、それぞれ濃淡をつけることで、万年青の葉や、赤い実の立体感を出している。裏文様の葉の数は片側 11 枚。櫛高台は線書きだけで描かれている。16 ～ 18 は瀬戸・美濃系輪高台皿で JC-2-b に分類される。16 は手描き。輪花に成形された小皿。裏銘「玩」。17 は銅版転写。輪花に成形。口唇部口銹。18 は緑色で銅版転写の後花の部分にダミ。19 は中央部分に凹みを有するソーサーディッシュである。口唇部は釉剥ぎをしており伏せ焼きであったと思われる。畳付施釉。口唇部、高台脇圏線、高台内マークを赤で入れた後、口唇部、高台内マークを金彩。見込みは上絵で鮎が描かれている。20 は硬質陶器型皿。輪花。日本硬質陶器製、裏は篆書体で「行啓紀念」「THE IRONSTONE CHINA」「NipponKoshitutoki coltd」「Kanazawa」とマーク。21、22 は鉢である。21 は肥前系染付色絵鉢で高台が高い。JB-5 に分類される。染付顔料は輸入コバルト、金、赤、で上絵付されている。22 は瀬戸・美濃系鉢で JC-5 に分類される。銅版転写。23 は仏飯器である。JC-8 に分類される。外面輸入コバルト。底部に墨書「三〇」。24 は蓋物である。JC-13 に分類される。文様は内外面口縁部にコバルトを用いて帯状に入る。高台内銘「峯月」。25 は土瓶である。JC-34 に分類される。文様はコバルトを用いて手描きで施されている。ロクロ目が残る。26 ～ 28 は燗徳利で、JC-4 に分類される。26 は口縁部欠損。文様は銅版転写で黒。文様の太陽は吹き絵で灰赤、「真砂町　近江屋　下電三六七七」は輸入コバルトで絵付されている。27、28 は口縁、胴部中位、下位に銅版転写で文様が付けられている。27 は口縁は直立する。高台内「ハコ製」。28 は口縁が開く。二色刷で輸入コバルトの上に黒。高台内銘「玉宝舎製」。35 は瀬戸・美濃系白磁御神酒徳利で JC-11-a に分類される。大振り。底

部面取り。頸部より少し下に細い沈線が入り、その下に幅 7mm ほどの沈線が巡る。38 は急須で JZ-16 に分類される。コバルト、クロム、鉄絵具で草花文が描かれる。イッチン掛け。把手には花の透かしが入っている。茶こし穴は 41 箇。密に開けられている。42 は白磁の碍子。29 ～ 34、36、37、39 ～ 41 は陶器である。29 は器面に白土象眼、内面は刷毛目が施される坏で、TZ-6 に分類される。高台内は渦巻高台に成形される。胎土は灰褐色。30 は灰釉型皿。鉄絵で花文が描かれる。TZ-2 に分類される。31 は灰釉刷毛目燗徳利で、TZ-4 に分類される。底部脇は面取りされている。胎土は鈍い橙色。32 は片口鉢で TZ-23 に分類される。見込みの目跡は 5mm ほどの円筒上の焼台を何回か置き替えたような痕跡が認められる。胎土は黄灰色。笠間・益子系と推測される。33 は瀬戸・美濃系擂鉢で、TC-29 に分類される。鉄釉。胎土は白色。櫛目は 35 本 1 条で見込みの擂目とは分かれておらず連続している。高台が付く。34 は瀬戸・美濃系植木鉢で TC-21 に分類される。胎土は淡黄色で平面形は楕円形を呈している。底部に 2 箇所丸い穴が開いている。4 足。長石釉が施され、全面に貫入が見られる。36 はおろし皿で TZ-39 に分類される。胎土は灰白色。型作りで、裏面には布目が残る。内面のみ柿釉が掛けられている。双方向に擦れるよう目が立てられている。擦目は使用によりすり減っている。中央部分はやや盛り上がっている。37、39 は大堀・相馬系の土瓶である。TJ-34 に分類される。胴部上半は、白土の上に鉄絵、下半と蓋は鮫釉。底部輪高台。左向きの馬が表裏面に描かれている。蓋の内側に図のような墨書が認められる。40 は万古系で TI に分類される。急須の蓋。胎土は黒褐色で、薄く硬質である。上絵で、富士と鶴の絵が描かれている。41 は行平鍋の蓋。TM-42 に分類される。笠間・益子系と推測される。白土を施した上から鉄絵で草文が描かれている。胎土は黄灰色を呈する。43 ～ 46 は土器である。43 は口縁が丸形を呈する硬質瓦質の七輪である。高台と漏斗状の内部構造が付く。下方には長方形の窓が開けられており、開閉式になっていたと思われる。文様は浮文になっており、左右に獅子頭が貼り付けられている。頬の部分は孔が開けられており、環がはめられていた可能性もある。孔の中央は貫通していない。44 は丸底焙烙で DZ-47-a に分類される。口縁部の立ち上がりは低く、内耳は無い。底裏は縮緬状を呈する。45 は瓦質の植木鉢で DZ-21-b に分類される。口縁部は幅広になっている。46 は土師質植木鉢で DZ-21-a に分類される。上方に圏線が巡る。47 ～ 51 はガラスである。47 はおはじきである。色調は青色透明で、気泡が入る。48、50 はビン。色調は無色透明。頸部内面はスリケシ。49 はインク瓶。色調は無色透明。中央部分には紙を貼るスペースが作られている。左右に成形の型痕が見られる。型痕は胴部から口部前までである。口縁部はガラスが回りきっておらず、変形している。51 は「味の素」の瓶。色調は無色透明。底面は 8 角形。エンボスで「味の素」と浮文される。左右に成形の型痕が見られる。型痕は胴部から口部前までである。薬品用の瓶から転用されたとされている創業当時の瓶で 1909 年から 1926 年ごろまで使用されていたようである。正面と裏面の平らな部分には紙のラベルが付けられていた。52、53 は櫛。劣化が激しく明瞭では無いが、おそらく 52 はセルロイド、より劣化が激しい 53 は自然素材と思われ、べっ甲ではないかと推測される。

SK468（遺構Ⅲ− 48 図、遺物Ⅳ −32 図）

1、2、4、5 は磁器である。1、2 は瀬戸・美濃系磁器碗である。1 は端反碗で、JC-1-d に分類される。手描き山水文。高台内銘「香山精製」。2 は体部が「ハ」の字状に開く飯碗で JC-1-f に分類される。銅版転写。見込みに文様あり。高台内銘有り。3 は陶器坏。TZ-6 に分類される。高台内刻印「犬山」とあり、おそらく犬山焼と思われる。犬山焼きは、犬山藩のお庭焼きとして発展した焼物の流れをくんでいる。胎土は灰白色。文様は白土掛けの上に輸入コバルトで染付られている。高台内無釉。4、5 は瀬戸・美濃系磁器蓋物で JC-13 に分類される。銅版転写。方形。6 は行平鍋の身と蓋で TZ-42 に分類される。把手付き。灰釉鉄絵。7 は骨角製品。鹿角。裁縫用のヘラ。先端欠損。8 ～ 13 はガラスである。8 ～ 12 は瓶である。8 は薬瓶で目盛が付いている。左右に成形の型痕が見られる。型痕は胴部から口部前までである。色調は無色透明で気泡が見られる。口縁部にゆがみがみられる。9、10 はコルク栓が伴うものである。色調は無色透明。頸部内面はスリケシ。11 はスクリュウ栓。色調は無色透明。劣化をあまり気にしない文具用か。底部にエンボスで「5178. B」。12 は左右に成形の型痕が見られる。色調は白色不透明。化粧クリームや軟膏などが入れられていたと考えられる。13 は目薬瓶についている点眼用のスポイト。ゴムを付けて使用する。

SP475（遺構Ⅲ− 49 図、遺物Ⅳ −33 図）

1 は金属製品の釘である。2cm。

SP485（遺構Ⅲ− 48 図、遺物Ⅳ −33 図）

1 は銭である。天聖元宝（真書）。渡来銭。北宋銭。

初鋳は1023年である。

SK518・519（遺構Ⅲ− 51図、遺物Ⅳ−33図）

1は軒桟瓦である。釘穴有り。軒丸部文様は連珠三つ巴文C。軒平部文様はいわゆる江戸式Ⅲ Lh ？。桟部切り込み8cm。熱を受けて赤変している。2 〜 5は鉄製品である。2 〜 4は頭巻釘である。2は3寸5分。3は3寸。4は2寸。5は目鎹（めかす）釘。天井や床板を横木に固定するための、かぎ型の釘。

SK539・4225・4254（遺構Ⅲ− 55図、遺物Ⅳ−33図）

1は、硬質瓦質火鉢である。器高の高い筒形で、DZ-31-jに分類される。胴部と口縁部にスリケシ帯が入り間は回転押し形文による文様が付けられている。底部外周面取り。

SK539・4225・4254、SK540・4291
（遺構Ⅲ− 55図、遺物Ⅳ−33図）

1は鉄製品である。3寸の釘である。2は座金。

SP554（遺構Ⅲ− 54図、遺物Ⅳ−34図）

1は瀬戸・美濃系染付磁器端反碗。JC-1-dに分類される。見込み花文。2は人形･玩具の碁石状土製品である。DQ_4004_Hに分類される。手捻り。径2cm。

SX555・4059（遺構Ⅲ− 56、57図、遺物Ⅳ−34図）

1は瀬戸・美濃系染付磁器のいわゆる広東碗でJC-1-cに分類される。見込み舟文。2は、鉄製品である。頭を折っている一寸の皆折釘。壁板の打ち付けなどに用いられる。3は石製品。輝石安山岩。1辺25cmの方形で中央部分に隅丸方形の穴が開いている。側面は工具痕がきれいに残る。中央穴部分は熱を受け部分的に変色している。

SK585（遺構Ⅲ− 60図、遺物Ⅳ−34図）

1は瀬戸・美濃系染付磁器端反碗。JC-1-dに分類される。口縁部の反りは小さく､釉には気泡が多く見られる。

SX605（遺構Ⅲ− 63図、遺物Ⅳ−34図）

1はかわらけでDZ-2-aに分類される。胎土は橙色で金雲母、白色粒子を含む。底部はやや突出しており、左回転の離し糸切り痕がみられる。体部は内湾気味に立ち上がり、内面底体間には浅い圏線がめぐる。

SK609、SP660（遺構Ⅲ− 63図、遺物Ⅳ−35図）

1は陶器で腰折れの三彩盤である。福建・広東系でTA9-2に分類される。いわゆる華南三彩である。緑釉は表裏面に施釉され、部分的に黄釉が見られる。外面底部際はヘラ削りが施されている。底部高台脇は面取りされ釉が切られている。胎土は鈍い黄褐色。口縁は輪花に成形されていたと考えられる。

SP699（遺構Ⅲ− 69図、遺物Ⅳ−34図）

1は、入院棟A地点C2層（天和2（1682）年の火災に伴う焼土層）出土遺物629と接合した。肥前系染付磁器で高台断面の形状が三角形を呈し､高台径が大きい皿。JB-2-cに分類される。口縁部外反。2次的に被熱している。

SK769、SP4695（遺構Ⅲ− 73図、遺物Ⅳ−35図）

1は、本遺跡の別地点である入院棟A地点C2層（天和2（1682）年の火災に伴う焼土層）出土遺物733と同一器種と推定される。鍋島様式の染付小鉢である。胴部中央にくびれを持ち､くびれ部分には七宝繋ぎ文を持つ。その上部には筍文と推定される文様が描かれる。本地点の2遺構から出土している。

SP824・4064（遺構Ⅲ− 75図、遺物Ⅳ−35図）

1は肥前系磁器で半球形の白磁碗。JB-1-fに分類される。腰が張っていることで、同類ではやや古い製品と思われる。

SP826（遺構Ⅲ− 75図、遺物Ⅳ−35図）

1 〜 5は金属製の鋲である。2cm前後。断面方形。

SK865（遺構Ⅲ− 78図、遺物Ⅳ−35図）

1は瀬戸･美濃系陶器型皿。TC-2-xに分類される。灰釉。胎土は灰白色。呉須で文字が書かれている。「白短」「無」などが読めるが漢詩か。台形の脚が2箇残存。

SK871（遺構Ⅲ− 80図、遺物Ⅳ−35 〜 37図）

1は肥前系陶器である。いわゆる呉器手碗でTB-1-aに分類される。胎土は灰白色。高台は高めで「ハ」の字状に開く。2 〜 18は土器である。2 〜 17はかわらけでDZ-2-aに分類される。2、3、5、7、9、10、11、12の胎土は淡橙色で金雲母、白色粒子、赤色粒子を含んでいる。4､6､8の胎土は桃色がかった橙色で金雲母、白色粒子、赤色粒子を含んでいる。全体的に底径は口径に比して大きく､体部は内湾気味に緩やかに立ち上がり、口唇部は角張っている。2、4、5、9は外面底体間に段差を持たない。3、6、7、8、10、11、12は底部がわ

ずかに突出しているか、外面底体間に切れ目がみられる。いずれも内面底体間には浅い圏線がめぐり、口唇部に灯火痕がみられる。糸切り痕は12が右回転、それ以外は左回転である。18は平底の焙烙でDZ-47-bに分類される。体部は開き気味に立ち上がる。団子状の内耳が1個残存しており、その周囲はナデ調整される。内耳は棒状工具で穴を通している。底部立ち上がり際は底部と体部を付けるために丁寧に整形されている。胎土は淡黄色。外面は全面にスス付着。19は軒丸瓦である。瓦当部のみ遺存。文様は無剣梅鉢文Bである。瓦当径は18.8cmである。本地点から出土している他の無剣梅鉢文軒丸瓦と比較して大振りである。20～23は鉄製の釘である。遺構の構造物である木枠を留めていたと思われる。20は頭巻釘で、長さ2.5寸。22は頭の大きい頭巻釘で、長さ4.5寸。20、22とも錆などの腐食が見られず残存状況は良好である。21、23は錆とともに木片が周辺部に付着しているため、釘の種類は不明。21は先端欠損。23は5.5寸。

SK882（遺構Ⅲ－81図、遺物Ⅳ－38図）

1は鉄製の鑿か。先端欠損。断面の形状は方形。

SK889（遺構Ⅲ－81図、遺物Ⅳ－38図）

1はかわらけである。手びねり成形でDZ-2-gに分類される。胎土は明るい淡黄色である。底部は丸みをおびており、器高は低く、外面体部には指頭圧痕がみられる。口唇部は内湾気味で、内面底体間には圏線がめぐる。内面はナデ調整されている。

SP891（遺構Ⅲ－82図、遺物Ⅳ－38図）

1、2は陶器である。1は瀬戸・美濃系陶器鉄絵灰釉皿でTC-2-jに分類される。見込みにピン痕、高台内に目跡有り。2は肥前系鉄釉香炉・火入れでTB-9に分類される。口縁が内側に折り返される。内面と高台は無釉。輪高台で高台断面は逆台形を呈する。3は軒平瓦である。瓦当文様は中心飾り上端に天珠を持つ平瓦15類に分類される。右側に刻印有り。被熱により赤変。4は鉄製の釘である。先端頭端欠損のため釘の種類は不明。断面の形状は方形。木片が錆とともに周辺部に付着している。

SB895（遺構Ⅲ－82図、遺物Ⅳ－38図）

1、2は、瀬戸・美濃系陶器である。1はいわゆる煙硝摺でTC-64に分類される。口縁が内側に折り返されている。ロクロ目が残る。内面立ち上がりは緩やかで丸みを帯びる。内面および胴下半から底部に掛けて無釉である。底部は削り出し高台。畳付は滑らかである。口縁部は敲打痕が全周している。2は灰釉の香炉・火入れである。TC-9-aに分類される。内面にも釉が掛けられている。底部には脚の欠落した跡がわずかに残る。

SK918（遺構Ⅲ－82図、遺物Ⅳ－38図）

1は銭で寛永通宝である。古寛永。放永型。「通」の文字が潰れてしまっている。

SK933（遺構Ⅲ－83図、遺物Ⅳ－38図）

1は瀬戸・美濃系陶器鉄釉茶入れ。TC-26に分類される。肩衝。胎土は薄手で硬質。内面にわずかに火ぶくれが見られる。2は銭で寛永通宝である。古寛永。狭永型。残存状態は良くない。

SK938（遺構Ⅲ－83図、遺物Ⅳ－39図）

1は肥前系磁器白磁碗でJB-1に分類される。外面上半にはロクロ目が残る。見込みには擦痕が見られる。茶筅痕と推定される。2は陶器である。丹波系擂鉢でTK-29に分類される。櫛目は7本が1条。間隔を開けて引かれている。外面には指頭圧痕が付く。胎土赤褐色。小石や白色粒子を含む。3～5はかわらけである。3はDZ-2-aに分類される。胎土は赤褐色で精緻。体部は開き気味に立ち上がる。4の胎土は灰色で粗い。糸切り痕は右回転、底部は突出しており、直立気味に立ち上がる。器形の歪みがひどく、器壁は厚めである。DZ-2-kに分類される。5の胎土は淡黄褐色で白色粒子、赤色粒子を含み粗い。糸切り痕は粗い左回転。底部と底体間が厚く、器高は低い。外面体部に段を持つ。DZ-2-kに分類される。6、7は金箔瓦である。6は軒丸瓦である。瓦当部のみ残存。文様は無剣梅鉢文Aである。径は14.5cmである。7は飾り瓦である。表面と文様の側面に金箔が貼られている。内面は内側に入っていくように伸びており、かなり大型の立体的な瓦の部分であると推測できる。鯱瓦かもしれない。

SK940・941（遺構Ⅲ－83図、遺物Ⅳ－39、40図）

1、2は肥前系染付磁器。1はいわゆる初期伊万里の碗で、JB-1-aに分類される。口唇部口銹。内面口縁部に帯文が描かれている。畳付け外側は面取りされ、内側には砂が付着している。2は平碗で、JB-1に分類される。内外面とも部分的に釉が飛んでいる。見込みには灰振りが見られる。3～5は瀬戸・美濃系陶器である。3は灰釉が施釉された丸皿でTC-2-aに分類される。見込みにはピン痕、高台内には目跡が残る。4はヒダ皿でTC-

2-n に分類される。長石釉で全面に貫入が見られる。高台内施釉。5 は小振りな灰釉輪禿皿で TC-2-m に分類される。6、7 はかわらけで DZ-2-a に分類される。6 の胎土は鈍い橙色で金雲母を含む。底径は大きく、糸切り痕は右回転、開き気味に立ち上がる。口唇部はやや角張っている。内面底体間に浅い圏線が廻る。全体にタール状の煤が付着しており、底部は火を受けたように縮れがみられる。7 の胎土は鈍い橙色で精緻で、わずかに金雲母を含む。底径は大きく、糸切り痕は右回転。開き気味に立ち上がる。口唇部は角張っている。8 は軒丸瓦である。金箔瓦である。瓦当部のみ遺存。文様は無剣梅鉢文 B である。9 は銭である。古寛永通宝。太細型。

SK940・941、SK961（遺構Ⅲ− 83 図、遺物Ⅳ −40 図）

1 は金箔が施された鯱瓦である。鱗は線描され、古い段階の特徴とされている。突起状になっている部分は、胸ビレを差し込むための孔か。先端部分には金箔は貼られていない。他の凸面全面には金箔が貼られている。裏面には指による成形痕が残る。

SK950（遺構Ⅲ− 84 図、遺物Ⅳ −40 図）

1 は銭である。古寛永通宝。短足宝型。

SD952（遺構Ⅲ− 85 図、遺物Ⅳ −40 図）

1 はかわらけで DZ-2-a に分類される。胎土は橙色で白色粒子、金雲母を含む。底径は大きく、糸切り痕は左回転、糸尻がめだつ。外面体部に段をもち、開き気味に立ち上がる。器高は低い。口唇部は角張っており、灯火痕がみられる。見込みは凹凸があり、底体間には圏線がめぐる。

SK954（遺構Ⅲ− 85 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 は瀬戸・美濃系灰釉皿で、TC-2-a に分類される。やや深めで､口縁は外側から押して輪花に成形している。見込みにはピン痕が 2 箇所確認される。外面体部下半、底部は露胎している。2 は金箔が施された梅鉢文の軒丸瓦（無剣梅鉢文 A）である。金箔はほとんどが剥落しているが､梅鉢文と外周などの凸部に痕跡が確認できる。

SK955･4671（遺構Ⅲ− 85 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 は上製かわらけで DZ-2-d に分類される。胎土は淡橙色で赤色粒子と雲母を含み、非常に精緻である。底部は平滑で、内湾しながら緩やかに立ち上り、口唇部は薄いが、尖らず角張っている。内面底部に円形の黒色部が数箇所みられる。いわゆる「くもかわらけ」。口径 12.4cm、器厚は底部中央 5㎜、口唇部 3㎜。

SK961（遺構Ⅲ− 83 図、遺物Ⅳ −40 図）

1 は軒丸瓦である。金箔瓦である。瓦当部のみ遺存。文様は無剣梅鉢文 B である。

SK978･4290（遺構Ⅲ− 157 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 は金箔が施された梅鉢文の軒丸瓦（無剣梅鉢文 A）である。金箔は大きく剥落しているが、梅鉢文と外周などの凸部に痕跡が確認できる。2 は金箔軒平瓦（軒平瓦 9 類）である。金箔は大きく剥落しているが、外縁部と中心飾り、唐草などの凸部に痕跡が確認できる。3 は渡来銭で、元豊通宝と行書で書かれている。

SK984（遺構Ⅲ− 86 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 は､菊花装飾が施された銅製の鋲である。頭部分は、装飾された円盤に曲物の様に金属板を巻き付けている。打ち込む鋲部分は角釘状に断面方形に作られている。

SE990（遺構Ⅲ− 87 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 ～ 4 はかわらけである。1 の胎土は白っぽい橙色で白色粒子と金雲母を含む。形状は浅い皿状で、歪みが激しい。口径は 4.4cmと小さく、糸切り痕は右回転である。DZ-2。2 の胎土は橙色で金雲母、白色粒子、赤色粒子を含む。糸切り痕は離し糸切り右回転、直立気味に立ち上がり、口縁部は外反する。内面底部は凹凸があり、歪みがはげしい。DZ-2。3 は DZ-2-k に分類される。胎土は赤褐色で金雲母、小礫を含む。器高は低く、器壁は厚い。4 は DZ-2-a に分類される。胎土は赤褐色で金雲母、赤色粒子、白色粒子を含む。糸切り痕は左回転、外面体部は段を持って立ち上がる。

SP1006（遺構Ⅲ− 87 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 は泥岩製の砥石である。表裏とも砥面として利用している。

SK1007（遺構Ⅲ− 87 図、遺物Ⅳ −41 図）

1 は古寛永である。遺存は良好である。

SK1008（遺構Ⅲ− 87 図、遺物Ⅳ −42 図）

1 は肥前系青磁皿・平鉢で、JB-2-a に分類される。釉調は透明感のある青白色で、細かい片ヘラ彫で植物文が施文されている。器形、釉調の特徴から波佐見の三ノ股窯の製品と推定される。断面の一部に漆継ぎの痕跡が確認される。

SP1026（遺構Ⅲ− 88 図、遺物Ⅳ −42 図）

1 は滴垂形の金箔軒平瓦（軒平瓦 2 類）である。金箔は大きく剥落しているが、外縁部と梅鉢文、唐草などの凸部に痕跡が確認できる。

SP1043（遺構Ⅲ− 90 図、遺物Ⅳ −42 図）

1 はかわらけで DZ-2-a に分類される。胎土は橙色で白色粒子、金雲母を含む。糸切り痕は右回転、体部は内湾しながら立ち上がる。内面底体間には浅い圏線がめぐる。

SK1050（遺構Ⅲ− 90 図、遺物Ⅳ −42 図）

1 は瀬戸・美濃系灰釉丸皿で、TC-2-b に分類される。外面体部下半、底部は露胎しており、見込みには円圏の溶着痕が明瞭に観察できる。。

SK1063（遺構Ⅲ− 91 図、遺物Ⅳ −42 図）

1 は藁灰釉が施された陶器碗である。体部には 4 条の横位の沈線が施され、底部、高台脇は露胎している。胎土は鉄分を含む灰色を呈し、底部は付高台である。これらの特徴から高取内ヶ磯窯あたりの製品と推定される。TZ-1。2 は丹波系の焼締擂鉢で、TK-29 に分類される。全体的な色調は、橙褐色を呈し、やや焼きが甘い。内面体部下端には窯詰みの際の陶片の痕跡が確認される。内面擂目は 6 条で 1 単位である。3、5 は古寛永、4 は渡来銭で紹聖元豊である。

SK1070（遺構Ⅲ− 91 図、遺物Ⅳ −43 図）

1 は底部無釉の肥前系青磁染付碗で、JB-1-b に分類される。内外面とも口縁部付近に青磁釉が濃く施されている。2 は頁岩製の砥石である。表裏面および一側面を砥面として利用している。

SD1071･4299（遺構Ⅲ− 92、93 図、遺物Ⅳ −43 図）

1、2 はかわらけである。1 は手びねりで DZ-2-g に分類される。胎土は白色系の明るい淡黄色。底部は大きく筵状圧痕がみられ､内湾気味に立ち上がる。器高は低く、外面体部には指頭圧痕がみられる。内面はナデ調整の痕跡がみられる。2 の胎土は淡黄色で赤色粒子、白色粒子を含み粗い。糸切り痕は粗い右回転で、体部は内湾気味に立ち上がる。外面体部は凹凸があり段を持つ。DZ-2-k に分類される。3 は平瓦（平瓦 1 類）である。両側縁中央に整形痕が確認される。4 は丸瓦で玉縁付近の側縁面取りが明瞭に観察される。また、内面の布袋痕の網目痕は観察できない。5、6 は軒平瓦（5 は不明、6 は 29 類）である。5 は胎土に金雲母が多量に含まれている。7 ～ 9 は軒丸瓦（7 は無剣梅鉢文 B、8 は無剣梅鉢文 A、9 は連珠三つ巴文 B）である。7 の外周内外縁は面取りされてる。8 は梅鉢文中央が抉れるように欠損している。9 は外周外縁を面取りしている。胎土に金雲母が多量に含まれている。

SD1072･4300（遺構Ⅲ− 92、93 図、遺物Ⅳ −44 図）

1 は丹波系の焼締め擂鉢で、TK-29 に分類される。表面は茶褐色を呈し、よく焼け締まっている。内面口唇部縁帯直下には、棒状工具によって○の中に点の刻書が確認される。

SK1091（遺構Ⅲ− 91 図、遺物Ⅳ −44 図）

1 は金箔軒平瓦（軒平瓦 11 類）である。金箔は剥落している部分が多いが、外縁部と唐草などの凸部には赤漆が塗布された痕跡が明瞭に確認できる。2 ～ 5 は梅鉢文の軒丸瓦（2 は無剣梅鉢文 A、3、4 は無剣梅鉢文 B、5 は無剣梅鉢文 C）である。2 は梅鉢文様が非常に明瞭で、中心、花弁、中央と花弁を繋ぐ軸も断面形が箱形をしている。外周内外縁は面取りされてる。3 の文様も明瞭に型抜きされているものの、中心、花弁の角はやや丸みを帯び、軸も断面形は半円形を呈している。外周内外縁は面取りされてる。丸部の穿孔に錆びた釘が貫通している。4 も梅鉢文の型は、3 に類似して中心、花弁の角はやや丸みを帯び、軸も断面形は半円形を呈している。外周内外縁は面取りされてる。5 の中心や花弁の断面形が饅頭形、軸の断面形は隅丸三角形を呈している。

SK1104（遺構Ⅲ− 91 図、遺物Ⅳ −45 図）

1 は肥前系、いわゆる初期伊万里の染付皿で、JB-2-a に分類される。2 は備前系焼締め徳利で、TE-10 に分類される。全体的な色調は橙褐色を呈し、焼きは甘い。表面には泥が塗布された痕跡が認められ、いわゆる伊部手へ変化する段階であろうと考えられる。3、4 はかわらけである。3 の胎土は淡い橙色で白色粒子、金雲母を含む。糸切り痕は左回転で外面底体間には切れ目がみられる。外反気味に立ち上がり、内面底体間には圏線がめぐる。口唇部は全体に煤が付着している。DZ-2-b。4 の胎土は橙色である。底径は大きく、糸切り痕は右回転、外反気味に立ち上がる。内面底体間には浅く圏線が廻る。口唇部には全体に煤が付着している。DZ-2-a。

SK1134（遺構Ⅲ− 94 図、遺物Ⅳ −45 図）

1 は瀬戸･美濃系長石釉鍔皿で、TC-2-c に分類される。底部は無釉で、高台際にトチの痕跡が確認される。見込みにはやや薄い茶褐色の付着物が確認できる。

SP1135（遺構Ⅲ− 94 図、遺物Ⅳ −45 図）

1 は肥前系、やや大振りの初期伊万里の染付碗で、JB-1-a に分類される。全体的にやや焼成は不良である。底部には「太明」の銘が染め付けられている。

SD1211･4426（遺構Ⅲ− 96 図、遺物Ⅳ −45 図）

1 は肥前系、いわゆる初期伊万里の染付皿で、JB-2-a に分類される。口縁部は鍔状の段が設けられている。呉須の発色は濃青色を呈する。

SE2001（遺構Ⅲ− 97 図、遺物Ⅳ −45、46 図）

1 は肥前系、染付網目文壺で、JB-15 に分類される。染付や高台削りからいわゆる初期伊万里と推定できる。2 ～ 5 はかわらけで DZ-2-a に分類される。胎土の色調は異なるが、すべて白色粒子、大きめの赤色粒子、金雲母を含む。2 の胎土は鈍い橙色で、糸切り痕は左回転で底部はわずかに突出する。外面体部は段をもつ。口唇部は角張り、内面底体間には浅い圏線がめぐる。3 の胎土は白っぽい橙色である。糸切り痕は左回転で底部はわずかに突出する。口唇部下に段をもち、口唇部は角張る。内面底体間には浅い圏線がめぐる。4 の胎土は橙色である。糸切り痕は右回転、体部は外反気味に立ち上がる。口唇部は角張り、内面底体間には浅い圏線がめぐり内面底部中央は窪む。5 の胎土は鈍い橙色である。糸切り痕は離し糸切り右回転。外面体部は段をもつ。口唇部は角張り、内面底体間には浅い圏線がめぐる。

SK2014（遺構Ⅲ− 98 図、遺物Ⅳ −46 図）

1 は肥前系染付碗で、JB-1-l に分類される。見込みはコンニャク判五弁花である。2 は瀬戸・美濃系鉄釉油受け皿で、TC-40-c に分類される。受け部の切り込みは 2 アクションである。

SK2027（遺構Ⅲ− 99 図、遺物Ⅳ −46 図）

1 はかわらけである。DZ-2-b に分類される。胎土は鈍い橙色､糸切り痕は左回転で底部は一部切れ目がある。外反気味に立ち上がり、内面底体間には浅い圏線がめぐる。

SK2031（遺構Ⅲ− 99 図、遺物Ⅳ −46 図）

1 は瀬戸・美濃系鉄釉壺で、TC-15 に分類される。外面は濃い褐釉、底部無釉、内面には褐釉が化粧掛けされている。上部が欠損しているので詳細は不明であるが、あるいは水指などの可能性も考えられる。2 は土師質角火鉢で DZ-31-e に分類される。底部には脚が 4 箇所に貼り付けられている。3、4 は粘板岩製の砥石である。共に 1 面のみ砥面である。4 は四側面が研磨され、四隅すべて面取りがされていることから完形であると思われるが、3 は面取りされている隅が 1 箇所のみで、欠損品と考えられる。

SK2034（遺構Ⅲ− 100 図、遺物Ⅳ −46 図）

1 は瀬戸・美濃系灰釉皿で、TC-2-b に分類される。外面体部下半、底部は無釉である。見込みには円圏状の溶着痕が認められる。

SK2045（遺構Ⅲ− 100 図、遺物Ⅳ −46、47 図）

1 はいわゆる初期伊万里の白磁皿で、JB-2-a に分類される。ロクロ成形後、型によって輪花にしている。口唇部には、明瞭ではないが鉄で口銹がされている。また、口唇部には灯火痕が確認され、灯火具として利用されていたと判断される。2 は肥前系青磁平鉢で JB-2-a に分類される。見込み全体に尖った工具によって蔓草文が彫られている。3、4 はかわらけで DZ-2-a に分類される。全体的に黒っぽく変色しており、胎土は不明瞭である。糸切り痕は右回転、外反気味に立ち上がる。器高は比較的高く、外面体部には段を持ち、口唇部は角張る。

SK2049（遺構Ⅲ− 100 図、遺物Ⅳ −47 図）

1、2 はかわらけである。1 の胎土は淡橙色で赤褐色粒子を含み粗い。口径 4.5㎝と小形で、形状は皿状で歪みが目立つ。糸切り痕は左回転。DZ-2 に分類される。2 の胎土は鈍い橙色で、白色粒子、大きめの赤色粒子、金雲母を含む。糸切り痕は右回転で糸尻が深い。底部に切れ目がみられる。内湾気味に立ち上がり、口唇部には平坦部がみられる。内面底体間には浅い圏線がめぐる。DZ-2-b に分類される。

SU2052（遺構Ⅲ− 101 図、遺物Ⅳ −47 図）

1 は底部無釉の肥前系初期伊万里碗で JB-1-b に分類される。畳付外側を薄く削り､調整されている。2 は瀬戸･美濃系陶器灰釉輪禿皿で、TC-2-m に分類される。見込みに凸帯を有し中央に印花文を有すなど、初現的な本類の特徴を有し、釉は雑に拭き取られている。3 は砥石である。石材は粘板岩である。実測図右下の欠損部や上部

先端が斜めに削られたような状況が確認されるが、使用痕か？

SD2058（遺構Ⅲ− 102 図、遺物Ⅳ −48 図）

1 は肥前系磁器初期伊万里皿で JB-2-a に分類される。型打皿で口縁部は細かな輪花にされている。2 次的な火熱を受ける。2、3 は石製品である。2 は石組の敷石に転用されていた石臼の下臼部分である。石材ははんれい岩。周縁の張り出しが僅かに残る。挽き目は 8 分画と思われ、1 分画に溝が 10 ～ 11 本確認される。面はフラットであり、芯棒孔の周囲に円周状の擦痕が多数残る。3 は火山礫凝灰岩の長方形の切石で、全体に工具痕が顕著に残る。ただし幅広面の一方はフラットに整形され、その上に丸に分銅の刻印が 2 個彫られ、その反対面は長辺と短辺をカギ形に全体より低くフラットになるように削り、受け状の加工が施されてる。SD2058 に使用された間知石の上に刻印面を下にして載せられていたことから、SD2058 の蓋石として 2 次利用されたものか。2 次的な火熱を受けている。

SD2061（遺構Ⅲ− 101 図、遺物Ⅳ −48 図）

1 は鉄製の頭巻釘である。炭化材などと一緒に出土しており、木枠組に使用されていたものか。

SD2062･2085･3012（遺構Ⅲ− 103 図、遺物Ⅳ −49 図）

1 は銅製の切羽である。刀孔の内寸が 2.4cm 程度であることから、短刀に使用するものと推定される。

SP2093･3086（遺構Ⅲ− 103 図、遺物Ⅳ −49 図）

1 は寛永通宝一文銭である。

SD2096（遺構Ⅲ− 104 図、遺物Ⅳ −49 図）

1 ～ 6 は銭である。1 ～ 5 は渡来・模鋳銭で、1 は景祐元宝、2 は皇宋通宝、3 は淳熙元寶、5 は紹熙元寶である。4 はいわゆる加治木銭で、銭文は洪武通宝、背文字は「治」。加治木銭の鋳造時期は慶長 20（1615）年以前の可能性が高いとされる（兵庫埋蔵銭調査会 1996）。6 は寛永通宝で古寛永である。

SK2097･3082（遺構Ⅲ− 103 図、遺物Ⅳ −49 図）

1 は蘭竹文が描かれる瀬戸・美濃系鉄絵皿で、TC-2-j に分類される。見込み、高台内には 3 箇所のピン痕が認められる。施釉された長石釉は、やや透明感がある。2 は瀬戸・美濃系長石釉鍔皿で、TC-2-c に分類される。外面体部下半から底部は無釉で、高台際にトチの痕跡が確認される。3 は軟質瓦質の丸火鉢で、DZ-31-b に分類される。脚はやや高く、古い様相を呈している。口唇部には敲打痕が顕著で、火入れ、灰落としに利用されたことが確認できる。4、5 はかわらけである。4 の胎土は淡い鈍い橙色で白色粒子、金雲母を含む。糸切り痕は右回転で糸尻が深い。外面体部には段を持ち、外反気味に立ち上がる。口唇部は角張る。DZ-2-a。5 の胎土は明るい橙色で小礫を含み、やや粗い。底部は突出しており、器壁は厚く、外面体部に段を持つ。内面底部は渦巻き状のろくろ目が顕著である。DZ-2-k。

SK2121（遺構Ⅲ− 105 図、遺物Ⅳ −50 図）

1 は肥前系染付皿で、JB-2-e に分類される。やや深手の皿で、高台内にはハリ支え痕が 1 箇所確認できる。2 は肥前系色絵鉢で、JB-5 に分類される。高高台で、体部外面は棒状工具で圏線と縦方向の沈線が彫られている。口縁部は外折し、上面には連続渦巻文が赤、緑の絵具を用いて上絵付されている。3 は肥前系陶器いわゆる呉器手碗で、TB-1-a に分類される。4 は肥前系刷毛目陶器鉢、いわゆる二彩唐津で、TB-5-a に分類される。見込みには砂胎土目が 7 箇所確認される。見込みには刷毛目が施された後、緑釉と褐釉が流し掛けられている。高台外縁部の削りは認められず、17 世紀後半の製品であろうと考えられる。

SK2143（遺構Ⅲ− 105 図、遺物Ⅳ −50 図）

1 は古寛永の一文銭である。

SD2152（遺構Ⅲ− 105 図、遺物Ⅳ −51 図）

1 ～ 3 はかわらけで DZ-2-a に分類される。胎土は鈍い橙色、白色粒子、大きめの赤色粒子、金雲母を含む。糸切り痕は右回転、器高は低く内湾気味に立ち上がる。器壁はやや厚く、外面体部に弱い段を持ち、口唇部は角張る。いずれも煤の付着がみられる。1 は底部がやや突出している。4 は丸底の焙烙で、DZ-47-a に分類される。体部は内傾し、底体間には削りはない。底部にはススが付着している。

SK2174（遺構Ⅲ− 105 図、遺物Ⅳ −51 図）

1 は底部無釉の初期伊万里染付碗で、JB-1-b に分類される。

SU2190（遺構Ⅲ− 106 図、遺物Ⅳ −51 図）

1 は初期伊万里染付皿で、JB-2-a に分類される。ロクロ成形の後、型打ち成形で菊皿風にしている。2 は長石

釉の水注あるいは壺の蓋である。釉は片側に重点的に施され、やや緑色がかっている。3 ～ 7 はかわらけである。3 ～ 5 は DZ-2-a に分類される。口径は 7㎝前後と小ぶり、胎土は鈍い橙色、白色粒子、大きめの赤色粒子、金雲母を含み、比較的精緻である。内湾気味に立ち上がる。口唇部には煤の付着がみられる。糸切り痕は 3、4 は不明瞭、5 は右回転。6 は DZ-2-a に分類される。胎土は鈍い橙色。白色粒子、大きめの赤色粒子、金雲母を含む。底部は大きめで、糸切り痕は左回転、器高は低い。口唇部には煤が付着している。内面底体間に浅い圏線がめぐる。7 は上製かわらけで DZ-2-d に分類される。胎土は橙色で、白色粒子、赤色粒子と金雲母を含み、非常に精緻である。底部は平滑で、内湾しながら緩やかに立ち上り、口唇部は尖る。内面底部に円形の黒色部が数箇所みられる。いわゆる「くもかわらけ」。口径 12.6㎝、器厚は底部中央 2㎜、口唇部 2㎜。8 ～ 22 は円形に再調整された陶磁器製円盤である。8、9 は肥前系色絵磁器、10 は肥前系染付碗、11 ～ 15 は肥前系染付皿、16 は肥前系白磁、17、19 ～ 21 は瀬戸･美濃系鉄釉天目茶碗、18 は備前系灯火具、22 は瀬戸・美濃系鉄釉擂鉢を利用したものである。この陶磁器製円盤には明確な敲打痕が観察できないことから、おはじきのようなぶつけて遊ぶ道具として利用されていなかったと推定される。23、24 は銭である。23 は古寛永の小字型、24 は古寛永の低寛型である。

SK2192（遺構Ⅲ− 107 図、遺物Ⅳ −52 図）

1 は肥前系染付碗で、JB-1-c に分類される。やや腰が張った器形で、底部には円圏内に福？の字銘が付けられている。高台の成形は、いわゆる初期伊万里より細く、と次の段階の中間的な形態を呈している。2 は瀬戸・美濃系鉄釉擂鉢で、TC-29。口縁部の形態から 17 世紀後半の製品であると推定される。内面体部下半は、擂り粉木による使用が想定される、摩耗が観察されるが、見込み外周には明確ではないが擂り粉木とは別のもので擦られたと思われる使用痕が確認される。

SK2251（遺構Ⅲ− 113 図、遺物Ⅳ −52 図）

1 は瀬戸・美濃系陶器のいわゆる煙硝摺で TC-64。高台は削り出し高台で碁笥底状を呈し、底部や内面以外には鉄釉が施釉される。内側に折り返された口縁部には敲打痕が観察される。

SD2260（遺構Ⅲ− 113 図、遺物Ⅳ −52 図）

いずれも皿である。1 は瀬戸・美濃系灰釉皿で TC-2。底部は削り出し高台で碁笥底状を呈す。体部には横位の削りが顕著に認められる。2、3 は底裏に離し糸切り痕が残るかわらけで DZ-2-a に分類される。2 の内面 1/2 ほどにタール状のススが付着する。

SK2266･3243（遺構Ⅲ− 114 図、遺物Ⅳ −52 図）

1 は瀬戸・美濃系総織部皿で、TC-2-r に分類される。見込み外周には 2 条の円圏があり、大きく外反する口縁部は外側から持ち上げられるように 5 単位の凹みがつけられ、輪花状になっている。見込み、外面口縁部には緑釉、外面下半には灰釉が薄く化粧掛けされている。見込みには 3 箇所の小さいピン痕が確認できる。2 は瀬戸・美濃系黄瀬戸皿で、TC-2 に分類される。口縁部は鍔皿状に成形され、口唇部は若干つまみ上げている。高台は付高台で、内側には段を付けるように削り出している。見込みには灰釉（黄瀬戸釉）に緑釉流し、外面上半には灰釉、下半と底部は無釉である。重ね積みの痕跡はない。3 はかわらけで DZ-2-k に分類される。胎土は明るい橙色で白色粒子、大きめの赤色粒子、金雲母を含み粗い。糸切り痕は粗い右回転。底部はやや突出し、外面体部は内湾気味に立ち上がる。器高は厚い。口唇間に煤が付着している。

SK2288（遺構Ⅲ− 114 図、遺物Ⅳ −53 図）

1 ～ 3 は瀬戸・美濃系陶器。1、2 は灰釉皿で、1 は TC-2-a、2 は TC-2 に分類される。1 は灰釉が総掛けされた後、高台内中央のみ拭き取られる。見込みと高台内に 2 箇所のピン痕跡が残る。2 の口縁はゆるやかな鍔状を呈す。釉は総掛けされ、畳付のみ拭き取られる。高台内側に団子状の目跡が 3 箇所残るが、配置から本来は 4 箇所あったものと推測される。3 は鉄釉擂鉢で TC-29。擂目は 13 条 /1 単位で、見込みから口縁に向かって引かれている。注口部には内外に指圧痕が 1 箇所ずつ確認される。内側面に団子状の粗い砂目痕が 1 箇所認められる。4、5 はかわらけで、4 は DZ-2-k、5 は DZ-2-a に分類される。4 の胎土は淡橙褐色を呈し、白色砂粒を含みやや粗い。見込みには灰色の下地のようなものに白土を塗った痕跡が僅かに残る。5 の胎土はにぶい橙褐色土を呈し、やや粗い。体部がハの字状に開き、底裏には右回転糸切り痕跡が観察される。6、7 は金属製品である。6 は上下で幅の異なる短冊状のものを途中で折り曲げたような形態を呈し、性格不明。7 は平らな把手のようなものを覆っていた飾金具か。途中 1 箇所、直径 1mm 強の穿孔があり、この部分で本体に止められていたと推測される。8 は大形ほ乳類四肢骨製のかんざしである。

SP2373（遺構Ⅲ− 115 図、遺物Ⅳ −53 図）

1 は渡来・模鋳銭で北宋の紹聖元寶。背文字は認められない。

SK2381（遺構Ⅲ− 116 図、遺物Ⅳ −53 図）

1 は渡来・模鋳銭で、腐食のため銭文がやや潰れるが北宋の皇宗通寶か。

SK2416･3097（遺構Ⅲ− 116 図、遺物Ⅳ −54 図）

1 は瀬戸・美濃系灰釉端反坏で、TC-6 に分類される。高台脇と底部は無釉である。2 は瀬戸･美濃系鉄釉香炉･火入れで、TC-9-b に分類される。器面体部は不透明な黒色の鉄釉、内面は薄い錆釉が施され、底部無釉である。口唇部は釉が剥がされているが、蓋が伴うかは不明である。口唇部に敲打痕が確認されることで、灰落としにも使用されていたと判断される。3 は瀬戸・美濃系灰釉皿で、TC-2 に分類される。底部は碁笥底風に成形されている。口唇部には灯火痕が観察されることから、灯火具として利用されていたと考えられる。4 は脚付きの瀬戸･美濃系鉄釉香炉・火入れで、TC-9-b に分類される。体部外面と内面口縁部以外は無釉である。口唇部内周には敲打痕が確認され、灰落としにも利用されていたと判断できる。5 〜 9 はかわらけである。5 は DZ-2-a に分類される。胎土は鈍い橙色で粗い。底径は大きく体部は段をもち内湾気味に立ち上がる。内部に煤が付着している。6 は DZ-2-k に分類される。胎土は赤褐色。底部、器壁とも厚く内湾気味に立ち上がる。内部には全面に煤が付着している。7 は DZ-2 に分類される。胎土は橙色である。底部は突出しており、歪みがひどい。口唇部に煤が付着している。8 は DZ-2-a に分類される。胎土は鈍い橙色。底径は大きく、器壁が厚い。体部は緩やかに立ち上がり，口縁部で外反する。9 は手づくねかわらけで DZ-2-g に分類される。胎土は赤みがかった淡黄色である。外面底部には筵痕、外面体部下部には指頭圧痕がみられる。内面底体間には圏線がめぐり、内面底部は板目状の工具でなで調整されている。SK4513 の 2 〜 11、SK4553 の 7 〜 11 と成形及び調整の技法が同じだが、胎土が異なるものである。

SK2419（遺構Ⅲ− 117 図、遺物Ⅳ −54 図）

1 は肥前系染付碗で、JB-1 に分類される。器形がいわゆる小丸碗と類似するが、文様、高台の形態から 17 世紀後半の製品であろうと推定される。2 は瀬戸・美濃系灰釉皿で、TC-2-b に分類される。高台脇、底部は無釉である。見込みには積み重ね時の輪状の熔着痕が確認される。

SK2425（遺構Ⅲ− 117 図、遺物Ⅳ −54 図）

1 は軟質瓦質の丸火鉢で、DZ-31-b に分類される。やや高い脚が付けられ、体部外面は丁寧に研磨されている。口唇部内周は全周に敲打痕が確認され、灰落としにも利用されたと考えられる。

SK2472（遺構Ⅲ− 117 図、遺物Ⅳ −54、55 図）

1 は肥前系染付碗で、JB-1-c に分類される。「大明成化年製」銘が染付られている。2 は肥前系青磁鉢で、JB-3-d に分類される。高台は蛇ノ目凹形高台で、青磁施釉後に釉剥ぎ部に鉄を施している。チャツの痕跡が認められる。3 は肥前系染付大皿で、JB-3-d に分類される。一重角枠内に崩した福字が染付られている。4、5 は丹波系焼締め擂鉢で、TK-29 に分類される。共に縁帯が発達している。6 は輪積成形の塩壺で、DZ-51-c に分類される。体部には二重枠内「天下一堺ミなと藤左衛門」の刻印が押されている。7 〜 10 はかわらけである。7 の胎土は鈍い橙色で白色粒子、赤色粒子、金雲母を含む。口径は 7.4cmと小形で、形状は皿状、器高は低く、器厚はやや厚い。糸切り痕は左回転、底部はやや突出する。DZ-2。8、9 は DZ-2-a に分類される。胎土は鈍い橙色で白色粒子、赤色粒子、金雲母を含み、比較的精緻である。糸切り痕は左回転、8 は離し糸切り。外反気味に立ち上がり、口唇部は角張る。内面底体間には浅く圏線がめぐる。9 の口唇部には煤が付着している。10 は上製かわらけで DZ-2-c に分類される。内外面に金泥の痕跡が残る。胎土は鈍い橙色で非常に精緻である。底部には渦巻状沈線が施されている。器壁は非常に薄く、内湾しながら緩やかに立ち上り、口唇部はわずかな平坦部をもつ。口径 13.8cm、器厚は底部中央 2㎜、口唇部 2㎜。

SK2486（遺構Ⅲ− 117 図、遺物Ⅳ −55 図）

1 は瀬戸・美濃系のいわゆる志野皿で、TC-2-c に分類される。高台内、見込みにピン痕が認められる。

SK2496（遺構Ⅲ− 118 図、遺物Ⅳ −55 図）

1 はキセル雁首である。脂返しは細く、補強体が付くことから古泉分類のⅢ類に相当する（古泉 1987）。

SK3014･3072（遺構Ⅲ− 118 図、遺物Ⅳ −56 図）

1、2 は瀬戸・美濃系染付碗である。共に輸入コバルトで絵付けされている。2 は緑、黄が釉裏に施されてい

る。3は瀬戸・美濃系染付坏である。底部には楕円内に「眉山」の刻印が押されている。4は土師質植木鉢である。底部中央には亀裂が入っているが、中央部に穿孔をする際に入ったものと思われる。5は陶器製の焼締め植木鉢である。ロクロ成形で、器面は丁寧にミガキ整形されている。底部は体部と連続し、1箇所半円状の抉り込みが付けられている。生産地は不明である。6は瀬戸・美濃系色絵人形で布袋。JC_1105に分類される。前後2枚型合わせ成形、底部は無釉で中心やや背面よりに小穴が1個開いている。右手に芭蕉扇を持つ。法衣は黄色、袴は緑、目、扇の線は黒で彩色されている。7は型吹き技法による透明なガラス瓶である。胴部上位には、「E.R.DURKEE&Co. NEW YORK」、底部には、「BOTTLE PATENTED」、「APLIL 1877」とイギリスのBritish Patent Office]が発行するいわゆるダイアモンドマークがエンボスで記されている。E.R.DURKEE&Co.は、創始者のEugene R. Durkeeが1858年にニューヨークで立ち上げたスパイス会社で、1877年にサラダドレッシングボトルの特許を得ている。ダイアモンドマーク上の「Ⅲ」はグラス、右の「L」は1882年、下の「R」は10月、左の「10」は10日を表している。8は型吹技法による透明なガラス瓶である。用途は不明。口縁部はスクリューが切ってあり、金属製の蓋が伴うと判断される。胴部下半にへたりが観察される。9は型吹技法による透明なガラス瓶である。胴部には「下ノ関名産　雲丹」、「下ノ関市赤間町（屋号）尼安本店製」、底部には「登録商標」に挟まれて屋号がエンボスされている。10は透明なガラス化粧瓶の蓋である。側面は身とのすり合わせでマットに加工してある。11は型吹技法による透明な円形ガラス瓶である。胴部には目盛りがエンボスされており、薬瓶として利用していたと考えられる。12は型吹技法による白色不透明なガラス瓶である。金属製の蓋が伴っている。蓋に上部中央には女性の横顔が浮文され、女性用のクリーム瓶と推定される。13は型吹技法による白色不透明なガラス瓶である。底部には資生堂の花椿のマークがエンボスされるが、資生堂ホームページでは1915年から使用されていると公表されている（https://www.shiseido.co.jp/gb/brand/camellia/）。クリームあるいはポマード瓶である。14は型吹技法による白色不透明なガラス瓶である。金属製の蓋が伴っている。底部には3つの「ホ」？が円になるようなエンブレムがエンボスされている。化粧瓶と思われる。15はつり下げ型ランプの傘である。色被せ状に2層のガラス間に白色ガラスを挟み、上部から花模様を削り出している。

SK3045（遺構Ⅲ− 120図、遺物Ⅳ−57図）

1は寛永通宝四文銭である。背十一波である。2は寛永通宝四文銭である。背二十一波である。

SK3046（遺構Ⅲ− 120図、遺物Ⅳ−57図）

1は瀬戸・美濃系長石釉坏で、TC-6に分類される。底部無釉である。2は瀬戸・美濃系長石釉皿で、TC-2-cに分類される。表面はくすんでおり、2次的な火熱を受けたと推定される。3〜6はかわらけでDZ-2-aに分類される。胎土は鈍い橙色で白色粒子、赤色粒子、金雲母を含む。3は口径7.8㎝と小形で、器高は低く、器厚はやや厚い。糸切り痕は右回転。4の糸切り痕は右回転、外反気味に立ち上がる。5、6は底径が大きく、外反気味に立ち上がり、口唇部は角張る。5の底裏には2重の糸切り痕が確認される。上面は離し糸切り左回転。6は離し糸切り左回転。

SK3120（遺構Ⅲ− 122図、遺物Ⅳ−57図）

1はキセルの吸口である。2は切羽である。刀孔の内寸が2.6cm程度であることから、脇差し程度の刀に使用するものと推定される。

SK3141（遺構Ⅲ− 124図、遺物Ⅳ−57図）

1は軒平瓦である。遺物は褐色から橙褐色を呈することから2次的な火熱を受けている。瓦当部端に○に「サ」の刻印が押されている。

SU3146（遺構Ⅲ− 124図、遺物Ⅳ−57、58図）

1は瀬戸・美濃系灰釉染付碗、いわゆる御室碗で、TC-1-dに分類される。底部は無釉である。2は肥前系陶胎染付碗で、TB-1-fに分類される。表面はややくすんでおり、2次的な火熱を受けたと考えられる。3は丸底の焙烙で、DZ-47-aに分類される。表面は明るい橙褐色を呈し、2次的な火熱を受けたと考えられる。底部のススの付着はわずかである。4はかわらけでDZ-2-aに分類される。胎土は鈍い橙色で白色粒子、赤色粒子、金雲母を含む。口径は16.8㎝と大形である。糸切り痕は離し糸切り右回転、外面底体間に切れ目がある。体部は外反気味に立ち上がる。内面底体間には圏線がめぐる。口唇部全周に煤が付着している。5は桟瓦である。端部には○に「ト」？の刻印が押されている。

SK3149·3205（遺構Ⅲ− 124図、遺物Ⅳ−58図）

1は鉄製の頭巻釘である。資料は錆が顕著でその上には木っ端が張り付いており、全体の様子は復元できない。

遺構の箱形木組みを留めていた釘である。

SK3179（遺構Ⅲ− 125 図、遺物Ⅳ −58 図）
1 は瀬戸・美濃系長石釉皿、いわゆる志野皿で、TC-2-c に分類される。見込みには 3 箇所のピン痕が確認される。

SK3217（遺構Ⅲ− 125 図、遺物Ⅳ −58 図）
1 は渡来銭、元□通宝（行書）である。表面は劣化が著しい。

SK3242（遺構Ⅲ− 125 図、遺物Ⅳ −58 図）
1 は平瓦である。遺物は橙褐色を呈することから 2 次的な火熱を受けている。端部に○に「−」の刻印が押されている。

SP3267（遺構Ⅲ− 125 図、遺物Ⅳ −58 図）
1 はいわゆる初期伊万里の肥前系染付碗で、JB-1-a に分類される。見込みには焼成時の降灰が確認される。

SK3271（遺構Ⅲ− 126 図、遺物Ⅳ −58 図）
1 は瀬戸・美濃系印花灰釉輪禿皿で、TC-2-m に分類される。口縁部は鍔状に外反し、釉は蛇ノ目状に剥がしてある。輪禿げ部分はまわりより一段盛り上がっている。体部外面下半から底部にかけて無釉である。底部にはススが多く付着している。2、3 はかわらけである。2 の胎土は鈍い橙色で白色粒子、赤色粒子、金雲母を含む。口径は 6.8㎝と小形で、糸切り痕は右回転。器高は低く、器壁は厚く、口唇部に煤が付着している。DZ-2。3 は DZ-2-a に分類される。胎土は橙色で、底部が赤化している。糸切り痕は右回転で糸尻が深い。底径が大きく、口唇部は角張っている。

SK3305（遺構Ⅲ− 126 図、遺物Ⅳ −58 図）
1 は梅鉢文の軒丸瓦（無剣梅鉢文 A）である。梅鉢文様は比較的明瞭で、中心、花弁、中央と花弁を繋ぐ軸も断面形がやや丸味を持つが箱形をしている。外周内外縁は面取りされてる。外周には○に「−」の刻印が押されている。

SK3331（遺構Ⅲ− 127 図、遺物Ⅳ −59 図）
1 は肥前系染付瓶で、JB-10 に分類される。底部は平底で、無釉である。2 は瀬戸・美濃系鉄釉碗で、TC-1 に分類される。体部下半は鉄釉を化粧掛けしている。3 は瀬戸・美濃系鉄釉坏で、TC-6 に分類される。体部下半稜以下、底部は無釉である。口唇は平縁でやや肥厚する。

SU3333（遺構Ⅲ− 127 図、遺物Ⅳ −59 図）
1、2 はほぼ同じ規格の海鼠瓦である。各角の約 1.5 × 1.5cm 内側に釘穴が穿たれているが、貫通しているものとしていないものがある。また、各辺から 2 ～ 3.5cm 内側には細い沈線が確認されるが、引かれた位置はそれほど厳密ではない。また、沈線を境に両側表面の状況が大きく変わっていることから、使用時に漆喰に覆われていた部分と外に露出していた部分との違いと推定できる。

SK3377・3378（遺構Ⅲ− 127 図、遺物Ⅳ −59 図）
1 は渡来銭であろうが、表面の摩耗が著しく銭種の確認ができなかった。

SX4014（遺構Ⅲ− 128 図、遺物Ⅳ −59 図）
1 ～ 8 は金属製品であるが、いずれも遺存状況が良好である。1 は板状製品の一端を鉤状にしたものに、2 本の頭巻釘が埋め込まれた状態で出土したものである。目滓釘か。2 ～ 6 は寸法は異なるがすべて頭巻釘である。7 は表面に緑青が認められる鋲である。頭部分には僅かに凹凸が認められる。8 は両端が尖った合釘である。

SK4030（遺構Ⅲ− 129 図、遺物Ⅳ −60 図）
1 ～ 3 は金属製品である。1 の表面には緑青、2、3 は錆が確認されるが、遺存状況はいずれも比較的良好である。1 は円盤状の頭部を有す鋲である。頭部表面には薄い十字状の凸線が看取される。2 は頭巻釘である。3 はドーム型の頭部を有す角釘か。

SE4075（遺構Ⅲ− 134 図、遺物Ⅳ −60 図）
1 は硬質陶器タイルである。胎土は緻密で白色を呈す。側面および平滑な面には透明釉が施釉され、無釉の面には陽刻の方形区画と、菱形区画に「DK」とその傍らに小さな楕円の刻印が認められる。この刻印は兵庫県淡路の淡陶社製と考えられるものである。淡陶社は淡路眠平焼を継承する会社として明治 18（1885）年に設立された会社で、社史からは明治 25（1892）年以降にタイル生産を開始し、明治 34（1901）年に硬質陶器タイルを試作したとされている（兵庫県教育委員会 2005）。本品もこれ以降に生産されたものであろう。

SK4124（遺構Ⅲ− 139 図、遺物Ⅳ −60 図）

本遺構はほぼ土と瓦で埋まっていた遺構であり、その中の 2 点を取り上げたものである。1 は桟瓦である。ほぼ完形で、小口に「四菱」の刻印を有す。2 は軒桟瓦であり、瓦当面に「∧庄」の刻印を有す。2 次的な火熱を受けており、他の遺物などの様相からは慶應 4（1868）年の火災によるものと推定される。

SU4203（遺構Ⅲ− 148 図、遺物Ⅳ −60、61 図）

1 ～ 3 は京都・信楽系陶器である。1 が平碗で TD-1-h、2 が半筒碗で TD-1-i に分類される。ともに鉄で施文される。2 の見込みには目痕が 3 箇所残る。3 は透明釉が施釉された水滴で TD-19。6 つのパーツを組み合わせ箱形を作成、内面にはその際の上下にナデ調整した痕跡が残る。注口や箱にかけられた紐、半菊状の把手などは更に別に貼り付けられている上、把手の直上に沈線が一本刻まれ、このラインから上位を箱の蓋に見立てている凝った作りのものである。ただし凝った作りの水滴を何かに転用したのか、把手がついた面以外は 2 次的に穿孔した痕跡が確認される。4 は丸瓦で、凹面には縦位の布目痕と、これを切るような横位の沈線が二本看取される。凸面には「○」に「一」の刻印が押されている。5 は金属製の釘である。6、7 は銭。寛永通寶で古寛永である。

SE4212（遺構Ⅲ− 149 図、遺物Ⅳ −61 図）

1 は瀬戸・美濃系磁器染付端反碗で JC-1-d に分類される。染付は地呉須によるもので、実測面と相対する面には漢詩が染付されている。2 はロクロ成形された急須の蓋である。

SK4232（遺構Ⅲ− 151 図、遺物Ⅳ −61 図）

1 はキセルの吸口で、わずかにラウの木質部が残存している。

SK4246（遺構Ⅲ− 153 図、遺物Ⅳ −62 図）

1 は肥前系陶器灰釉皿で、TB-2 に分類される。見込みには 2 条の刻みを入れた円圏浮文が施文されている。胎土の特徴から嬉野の内野山窯の製品であろうと思われる。

SK4289（遺構Ⅲ− 155 図、遺物Ⅳ −61 図）

ともに直径 20cm 弱の大型のかわらけで DZ-2-b に分類される。胎土は橙褐色土を呈し、底裏には離し糸切り痕跡が残る。調査時には 1 と 2 が上下合わせ口状態で出土（Ⅲ − 61 図）したことから、いわゆる胞衣皿と推定されたが、胞衣自体は検出されなかった。

SP4295（遺構Ⅲ− 156 図、遺物Ⅳ −62 図）

1 は道具瓦で瓦当文様は無剣梅鉢文 A で、梅鉢の花弁断面の稜線が台形状を呈す。文様のある背面はナデ調整、上下端部は横方向に強くケズリ調整される。梅鉢文を挟んで相対する位置に釘穴が 2 つ穿たれている。

SE4296（遺構Ⅲ− 157 図、遺物Ⅳ −62 図）

1、2 は肥前系磁器で、ともに染付が施される。1 は底部無釉碗で JB-1-b に分類される。体部は外側にハの字状に大きく開き、畳付は内外からシャープにケズリ調整されている。肥前の百間窯の製品と考えられる。2 は鍋島様式の七寸皿と推定されるもので JB-2-n に分類される。2 次的な火熱を受けている。見込みは 2 本の帯状に縁取られた区画内を唐草で埋め、薄いダミで塗りつぶしている。裏文様には唐草を巡らし、高台には雷文が描かれている。なお本品と同一と推定されるものが入院棟 A 地点の C2 層（図版 No.677。天和 2（1682）年の火災に伴う焼土層出土遺物）から推定残存個体数で 3 個体出土している。3 ～ 5 は瓦で、3 は軒平瓦、4 は軒丸瓦、5 は道具瓦である。3 の瓦当文様は中心飾り、唐草上 1 反転、子葉で構成される。8 類。4 と 5 には金箔が施されており、5 は金より下地の漆の方が顕著に残る。瓦当文様はともに無剣梅鉢文Ａで、梅鉢の花弁断面の稜線が台形状を呈す。4 の中心部は隅丸の五角形が配される。5 には 1 箇所釘穴が穿たれ、貫通した状態の釘が残る。

SD4301（遺構Ⅲ− 92、93 図、遺物Ⅳ −63、64 図）

1 ～ 15 は瓦である。1 ～ 5 は平瓦である。5 は切断面に多数の擦痕が確認されるもので、平瓦の長辺を途中で切断したものであろう。6 ～ 8 は軒平瓦で、6 は中心飾り、唐草下上 2 反転で構成されるもので 12 類。御殿下記念館地点では瓦Ⅰ期（17 世紀中葉頃）を中心に金箔が貼られたものが出土している。7 は中心飾りは 36 類と同様であるが、唐草の展開が異なる。9 は丸瓦。凸面に縦位のケズリ、凹面玉縁付近に布袋痕が認められる。10 ～ 13 は軒丸瓦。13 は金箔瓦である。瓦当文様は無剣梅鉢文であるが、花弁中央が押され凹レンズ状を呈す。10、11 は瓦当文様は無剣梅鉢文 A で、梅鉢の花弁断面の稜線が台形状を呈す。10 の凸面には釘穴が 1 箇所確認される。11 の瓦頭文様は非常に浅い。凸面の縦位のケズリが比較的顕著である。14、15 は熨斗瓦。14 はつぼみ状の中央飾りと上下 2 つの唐草が確認される熨斗瓦 4 類と思われる。非常に厚い。御殿下記念館地点で

は瓦Ⅰ期（17 世紀中葉頃）で確認される。15 はＳ字状の唐草と上上２つの唐草が確認される熨斗瓦８類と思われる。16 は砥石で、石材質は流紋岩である。17 は古寛永通宝で、濶字型。18 はキセルで、表面には緑青が認められる。火皿下には補強帯と脂返しを有す。ラウが残存している。

SP4305（遺構Ⅲ− 158 図、遺物Ⅳ −65 図）

１は金属製品である。ほぼ鉄錆で覆われているが、厚さ 2mm ほどの先端が鉤形を呈す板状のものが８枚束ねられ、それを１本の釘あるいは鋲留めたものである。8 枚は扇形に開閉が可能である。

SK4311（遺構Ⅲ− 159 図、遺物Ⅳ −65 図）

１は金属製品で、表面には緑青が認められる。形状から引き手金具と推定される。

SD4341（遺構Ⅲ− 161 図、遺物Ⅳ −65 図）

１はカマボコ形を呈す石製品である。石材質は軽石で、側面に小さな円孔が１箇所貫通している。温石か。

SK4344（遺構Ⅲ− 161 図、遺物Ⅳ −65 図）

１は古寛永通宝である。不草点型。

SK4405（遺構Ⅲ− 164 図、遺物Ⅳ −65 図）

１は瀬戸・美濃系陶器灰釉皿で TC-2 に分類される。底部は碁笥底状に削り込まれる。２は DZ-2-k。胎土はやや粗く、橙褐色を呈す。底部は少し突出し、粗い右回転糸切り痕跡が残る。口縁部ほぼ全体に灯火痕が確認される。

SK4432（遺構Ⅲ− 165 図、遺物Ⅳ −65 図）

１は瀬戸・美濃系陶器灰釉輪禿皿で TC-2-m。削り出し高台である。口縁部外側に溶着痕が残る。釉剥ぎを隠すためか、見込みの釉剥ぎ部分に白色のものが塗布され、部分的にそれが剥離したような状況が看取される。

SK4460（遺構Ⅲ− 165 図、遺物Ⅳ −65 図）

１は瀬戸・美濃系陶器灰釉袴腰香炉・火入れで TC-9-f に分類される。高台は凸形に削り出し、平らな外周部分三方に足が貼り付けられている。足の接地面は平らにされ、側面はナデ調整される。口唇部に目跡が２箇所と内底部に直径 4cm ほどの輪状の溶着痕が認められる。なお体部には３つの突帯を有すが、その表面が不規則に削れた状態となっていたり、口縁部には敲打痕が残る。

SK4513（遺構Ⅲ− 165 図、遺物Ⅳ −66 図）

１～ 11 はすべてかわらけである。１は手づくねのかわらけで DZ-2-g。胎土は白色で、均質。体部は底部からほぼ垂直に立ち上がり、底部はわずかに丸味を帯びる。内面から口縁部はナデ、底部は外周を若干削った後、ナデ調整を施している。２～ 11 は白色系胎土の手づくねかわらけで DZ-2-g に分類される。胎土は淡黄色で白色粒子、小礫を含む。口径は 14 ～ 15㎝である。いずれも底部の中心に、底径より一回り小さく円を描くように凹みや工具痕がみられる。２～６、８、11 は、底径が大きく、器高が低い。外面体部は指頭圧痕が顕著で、口唇部はつまみだすように内湾し、口唇部外周は１段ナデがめぐる。２～６、８の底裏には薄く筵状圧痕が確認され、11 の底裏は少し目の粗い板目状圧痕が確認される。内面底部は不定方向からナデ調整が加えられており、中央は何度もナデられるため、薄くなっている。特に 11 の内面中央は非常に薄く、内側に一部粘土を貼り足している部分がみられる。内面底体間には明確な圏線がめぐる。７、９、10 は、２～６、８、11 に比べ底径はやや小さく、口唇部外周のナデ、内面底体間の圏線がめだたない。底裏は筵状圧痕が、底部から底体間にかけて確認される。内面底部は一定方向のナデ調整、内面体部には口縁部方向へのナデが観察される。

SK4516（遺構Ⅲ− 166 図、遺物Ⅳ −66 図）

１～３すべて土器である。１、３は手づくねのかわらけで DZ-2-g。１の胎土はにぶい橙色を呈し、白色砂粒などやや多く含む。内面から口縁部にナデ調整痕、底部には繊維状の痕跡が残る。３の胎土もにぶい橙色を呈し、均質である。底部はナデ、底部脇には指頭圧痕が僅かに残る。金箔は内面から口縁部にかけて認められる。２は輪積成形、袋状を呈す塩壺で DZ-51-ah。胎土は白色を呈し、均質である。

SK4532（遺構Ⅲ− 166 図、遺物Ⅳ −66 図）

１は瀬戸・美濃系陶器長石釉鉄絵皿で TC-2-j。釉を全体に施釉後、高台内のみ拭き取っている。高台内には団子状トチ痕が３箇所、見込みには２箇所残る。

SK4535（遺構Ⅲ− 166 図、遺物Ⅳ −66 図）

１は金箔軒丸瓦である。金箔は瓦当と周縁に僅かに残る。瓦当文様は無剣梅鉢紋Ｂで、梅鉢の花弁断面の稜線がなだらかな台形状を呈すものである。

SK4553（遺構Ⅲ− 167 図、遺物Ⅳ −67、68 図）

1、2、4 は瀬戸・美濃系陶器である。1 は灰釉端反碗で TC-1-aa である。見込みには焼成時の降灰が認められる。2 は長石釉丸皿で TC-2-c である。高台内のみ釉が拭き取られる。見込みと高台内にピン痕が各 1 箇所残るが、体部外面には重ね積み焼成した際の破片が付着している。4 は擂鉢で TC-29。擂目は粗く、口縁直下に突帯を有す。本業焼編年で擂鉢Ⅰ類の B2 類に分類されるものと思われる（瀬戸市史編纂委員会 1998）。見込みと底部は使用による摩滅が著しく、露胎している。3 は丹波系焼締め鉢で TK-5。口唇部には敲打痕が看取される。5 ～ 13 は土器である。5 は輪積成形、二重角枠「ミなと藤左衛門」の刻印を有す塩壺で DZ-51-a。頸部付近に指頭圧痕、胴部には横位の細かなケズリ調整痕が観察される。6 ～ 13 はかわらけで、6 ～ 9、12、13 には灯火痕が認められる。6 は DZ-2-k。胎土は比較的緻密である。底部にはやや粗い右回転糸切り痕、また底部から体部に横位の強いナデが確認される。口縁部灯火痕は厚めに残り、全体的に赤化している。7 ～ 11 は白色系胎土の手づくねかわらけで DZ-2-g に分類される。7 ～ 9 の胎土は淡黄色で白色粒子、小礫を多く含む。口径は約 12㎝、底部は大きく器高は低い。底部裏に筵状圧痕がみられ、外面体部は指頭圧痕が顕著で、口縁部は内湾し、煤が付着している。10、11 は口径が 14 ～ 15㎝である。10 の胎土は明るい淡黄色で比較的精緻である。底径が大きく、器高は低い。外面体部は指頭圧痕が顕著である。口縁部は内側へつまみ出すように内湾し、口唇部外周には 1 段ナデがめぐる。内面底部は一定方向のナデがみられ、内面底体間の圏線は明瞭ではない。11 の胎土は 10 より若干暗い淡黄色で、小礫を含む。底裏には板目状圧痕がみられる。内面見込みには一定方向のナデ、内面体部は口縁部へ向かってのナデがみられる。内面底体間の圏線は薄い。12、13 は底部に粗い右回転糸切り痕跡が確認されるもので DZ-2-a。胎土は橙色を呈すが、12 のそれは少し粗い。12 の底部脇には水挽きした痕跡が残る。底部には「寛十四 / 丑九月廿日 / 申時 / 三度入」という細い線彫りが認められるが、寛文は十二年までしかないことから「寛十四」は寛永 14（1637）年と判断され、同年は丁丑であり、二行目冒頭の「丑」は「丁丑」を指すものであろう。よって線彫りは「寛永 14 年 / 丁丑九月二十日 / 午後四時 / 三度入」と判読できる。なお「三度入」はかわらけの意。本品は見込みに灯火痕が観察されることから、灯火皿に利用されたものか。13 の胎土は比較的緻密で、底部脇には 12 同様、水挽きした痕跡が残る。14 ～ 20 は瓦で、16、20 以外はすべて金箔瓦である。金箔はいずれも周縁と瓦頭文様部のみに施される。14 は鬼瓦である。瓦当文様は梅鉢文か。背面には幅広把手の接合部のみ残る。15 は瓦当が三角形を呈す滴垂瓦。中心飾りと唐草下下下 3 反転で構成されるもので軒平 1 類。凹面側の周縁部が部分的に V 字形に削り込まれた状況が窺える。16 は熨斗瓦。中心飾りおよび下上下の 3 つの唐草、上向きの子葉で構成される熨斗瓦 1 類の破片と推定される。中心飾りは星梅鉢文。17、18、20 は軒丸瓦。17、18 は瓦当文様が無剣梅鉢、花弁断面がなだらかな台形を呈す梅鉢文 B である。17 は厚が薄い。20 は瓦当文様が連珠三つ巴文で、圏線がない C。珠文と巴文は大きく盛り上がり、周縁が面取りされる。19 は菊丸瓦である。21 は金属製品である。棒状の一方にリング状のものがはめ込まれている。全長 17cm と長く、重さ 35g とやや重い。煙管の吸口か。22 ～ 24 は銭である。22、23 は古寛永通宝である。22 は正永型（称仙台式）、23 は二草点型である。24 は渡来銭で、銭種は皇宗通宝である。

SK4569（遺構Ⅲ− 167 図、遺物Ⅳ −69 図）

1 は景徳鎮窯系青花皿・平鉢で JA1-2 である。型打成形で体部がごく緩やかな輪花状を呈す。2 は肥前系磁器白磁鉢で JB-5-f。型打成形で口縁内側に陽刻が認められる。3 は肥前系陶器鉄釉片口鉢で TB-23 である。口縁直下 1 箇所に円孔を設け、その外側に注口を貼り付けている。見込みにはピン痕が 3 箇所残る。4、5 は金属製品で、皆折釘である。

SE4577（遺構Ⅲ− 168 図、遺物Ⅳ −69、70 図）

すべて瓦で、2、7、9 は金箔が認められる。1 は丸瓦で、玉縁付近凹面は粗い布目が顕著である。また玉縁凸面先端付近には横位の圧痕が残る。2 は軒平瓦で、瓦頭文様は中心飾り、唐草上 1 反転、子葉 2 で構成される 8 類。御殿下地点の瓦 1 期 17 世紀中葉頃で同笵型の金箔瓦が出土している。金箔は文様部と周縁に残る。3 ～ 7 は軒丸瓦。瓦頭が残る 3、4 は巴の頭部と珠文が摩滅しフラットになっている。瓦当文様は 3 が巴文と連珠の間に圏線が無いもので連珠三つ巴文 C、4 が巴文と連珠の間に圏線があるもので連珠三つ巴文 A である。5 は周縁のみ残存し、円刻が 1 つ認められる。6、7 は梅鉢の花弁断面が台形を呈す剣梅鉢文 A である。6 の筒部凸面に縦位ナデが残る。7 の金箔は周縁と文様部に僅かに残る。8、9 は道具瓦の無剣梅鉢文飾り板瓦である。長方形の瓦中央の梅鉢文を囲むように釘穴を 4 箇所有す。8 は釘穴 2 つに角釘が残る。9 の金箔は文様部にごく僅か認め

られる。10 は平面形が三角形を呈し、厚さ約 4cm と非常に厚い。表面は丁寧に調整され平滑だが、背面は各頂点付近以外は不規則なナデが残る。割れ口付近に釘穴状の痕跡が確認されることから海鼠瓦の可能性もある。

SE4610（遺構Ⅲ− 169 図、遺物Ⅳ −70 図）

1 は肥前系染付磁器碗で JB-1-a。いわゆる初期伊万里で、畳付には粗い砂粒が付着する。2 はかわらけで DZ-2-a。底部脇には括れを有し、底裏には離し糸切り痕が残る。見込みには墨書（「大」か）と 2 次穿孔が看取される。

SK4612（遺構Ⅲ− 168 図、遺物Ⅳ −70 図）

1、2 はかわらけで DZ-2-a。ともに底部裏には粗い右回転の糸切り痕跡が残る。1 の胎土は比較的密で、橙褐色土を呈す。2 の胎土も比較的密であり、還元焼成ため全体に黒色化している。内側面および底部裏は表面の剥離が著しい。なお口縁部に灯火痕が認められないが、底裏にはわずかにタール状の痕跡が認められる。

SD4628（遺構Ⅲ− 169 図、遺物Ⅳ −70 図）

1 は肥前系染付磁器碗で JB-1-c。高台径に比して器高が低い腰が張った碗である。薄作りで、呉須の発色も比較的良好である。底裏には圏線と銘が看取されるが、銘の「宣」の次の文字が判読できない。「宣徳年製」か。2、3 は金属製品である。2 はキセルの雁首で、火皿と頸部の境に補強帯を有す。中央上面には敲打による凹みが認められる。3 は切羽である。地金はいわゆる赤銅色を呈す。

SE4705（遺構Ⅲ− 171 図、遺物Ⅳ −70 図）

1 は瀬戸・美濃系陶器灰釉皿で TC-2-b である。削り出し高台を有し、口縁部は僅かに外反する。見込みには輪状の溶着痕が残る。2 はかわらけで DZ-2-k。胎土は粗く、にぶい橙褐色を呈す。体部中程に括れを有し、比較的器高の高いものである。底部には粗い左回転糸切り痕跡が残る。

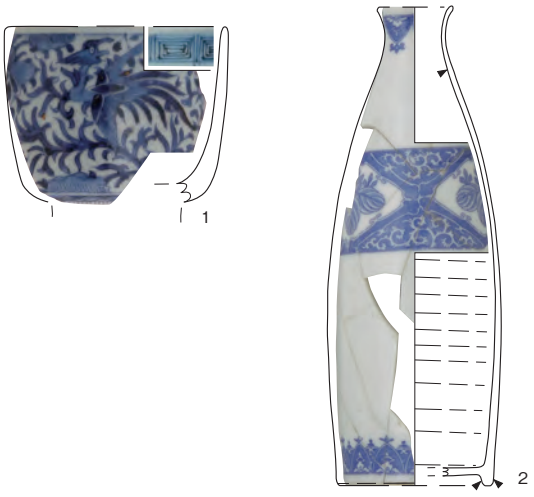
SE4706（遺構Ⅲ− 171 図、遺物Ⅳ −71 図）

すべて本瓦で、1 は平瓦、2、3 は丸瓦、4 は軒平瓦、5 は軒丸瓦である。1 は平面形が台形を呈す。両側面および広端部は面取りが雑に施される。2､3 の玉縁､側縁、木口は面取りされる。2 は側面に近い部分と玉縁裏側の凹面には縦位の細かい布目痕が残る。凹面中央付近には幅 2 ～ 3mm の縦位の紐状の痕跡が 2 本残る。凸面の縦位のミガキ調整が比較的均一に認められる。なお後端部に近い玉縁の凸面にはごく細い沈線が認められる。3 の凹面全体には粗い縦位の布目痕､縁側付近に棒状の圧痕、木口から 10cm ほど上位に横位の刺し縫い痕が残る。凸面の縦位のミガキ調整は 2 ほど顕著でなく、やや不規則である。4 はいわゆる滴垂瓦で、中央には梅鉢の花弁断面が明瞭な台形状を呈す無剣梅鉢文 A が配されている。背面外周に沿うようにナデ調整される。5 の瓦当文様も 4 と同じく無剣梅鉢文 A であるが、瓦当面全体が黒く変色しており、この黒色は金箔が貼られていた下地漆の痕跡の可能もある。玉縁、縁側は面取り、凹面特に玉縁付近では縦位のやや粗い布目痕が顕著である。また瓦当面近くには横位の刺し縫い痕が、縁側近くには幅 2 ～ 3mm の縦位の紐状の痕跡が 1 本残る。凸面 1 箇所には焼成前穿孔が 1 箇所ある。

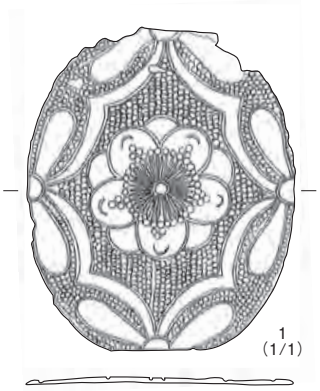
遺構外（遺物Ⅳ −72 ～ 74 図）

1 は肥前系染付磁器皿で JB-2-s に分類される。畳付に白色砂粒が付着する。2 ～ 5 は瀬戸･美濃系陶器である。2、4 は皿・平鉢で、2 はいわゆる菊皿で TC-2-k、4 は鉄釉丸皿で TC-2-z に分類される。2 は外面の縦位のしのぎが顕著で、見込みにピン痕、高台内には輪トチ痕が残る。4 は畳付と高台内の釉が拭き取られる。見込みにピン痕が 1 箇所､高台内に団子状の目跡が残る｡3 は大皿･大平鉢で TC-3。見込みと高台内には板トチ痕が円周状に 3 箇所残る。灰釉と鉄釉が掛け分けされ、内面の灰釉部分には鉄絵が施される。5 は錆釉が施釉された油受け皿で TC-40-c。底部外面の釉は拭き取られる、輪状の重ね積みした痕跡が認められる。6 ～ 9 は土製の人形・玩具類である。6 は「金」の文字が描かれた型作りの江戸在地系泥面子・芥子面で DQ_4006_M。7 は産地不明の碁石状土製品で DZ_4004_H。裏表面とも丁寧にナデ調整され、器厚が薄い。8 はビスク人形である。素焼きの西洋人形で、手足が可動式の「四ツ活人形」。頭部と胴部は一体で手足は別作り、背面には「NIPPON」の刻印がある。胴部下部は V 字に成形しており、手足は欠損している。手足の付け根には径約 2㎜の小穴が明けられており､手の付け根の穴には金属製の棒が残存している。胎土の色調は淡いピンク、髪と眉は栗色、目は黒色、唇はオレンジ色、リボンは青色で彩色している。大正期に瀬戸で輸出用に製作された瀬戸ノベルティ。9 は都鳥である。DQ_1200_H。淡黄色の胎土の上に全体を白土を塗り、目と尾を黒で彩色している。底部には楕円形の刻印と小穴がある。刻印は「春みだ　川□（百カ）花　屋□（起カ）」（すみだがわ　ひゃっか　やき）。都鳥は今戸焼や隅田川焼の主要なモチーフであり、香合、向付け

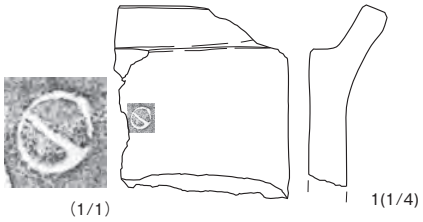
などが作られている。10、11 は鬼瓦である。10 の瓦当文様は梅鉢の花弁断面の稜線が台形状を呈す剣梅鉢紋である。11 の残存する瓦頭文様は、丸紋を 4 つと、その周囲を沈線でとり囲むものである。12 ～ 20 は金属で、12 ～ 16、19、20 は表面に緑青が、17、18 には白錆が確認される。12 は円盤状製品である。外周が小さく曲げられていることから何かの被せ蓋として利用されたものか。片面にはごく細い目盛り状の線彫りが刻まれている。13 は匙。14 ～ 16 はキセルで、14、15 は雁首、16 は吸口である。14 は火皿のみが残る。15 の火皿は欠損しているが、脂返しはわずがに湾曲し、肩を有す。17、18 は厚が均一ではなく、手づくねと思われるが性格は不明。19 はこはぜと思われる。薄造りで、幅広の端部には小さな穿孔を 2 箇所有す。片面のみに「精良」の文字が認められる。品質が精良であるということを強調したものか。20 は飾金具か。各花びらの表面が丸味を帯びるように、背面中央付近のみを押し窪めている。中央には方形の穴を有すことから角釘で留められたものか。21 ～ 39 は銭である。21 ～ 24 は渡来銭で、銭種は 21 は元祐通宝、22 は淳熙元宝、23 は元豊通宝、24 は永楽通宝である。25 ～ 28、33 ～ 38 は古寛永通宝である。25 は正永型（称仙台式）、26 は長通型、27、33 は不草点型、28 は湾柱永型、34 は低寛型、35 は斜宝型、36 は力永型、37 は俯永型、38 は二草点型である。29 ～ 32 はいわゆる文銭で新寛永通宝である。29、31、32 は正字背文型、30 は中字背文型である。39 は 1873 年初鋳の半銭銅貨である。

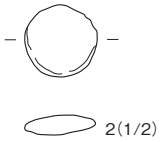


SB2



SB3

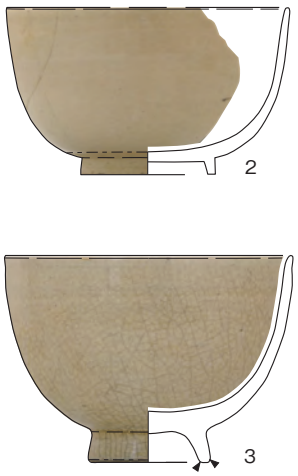




SP12

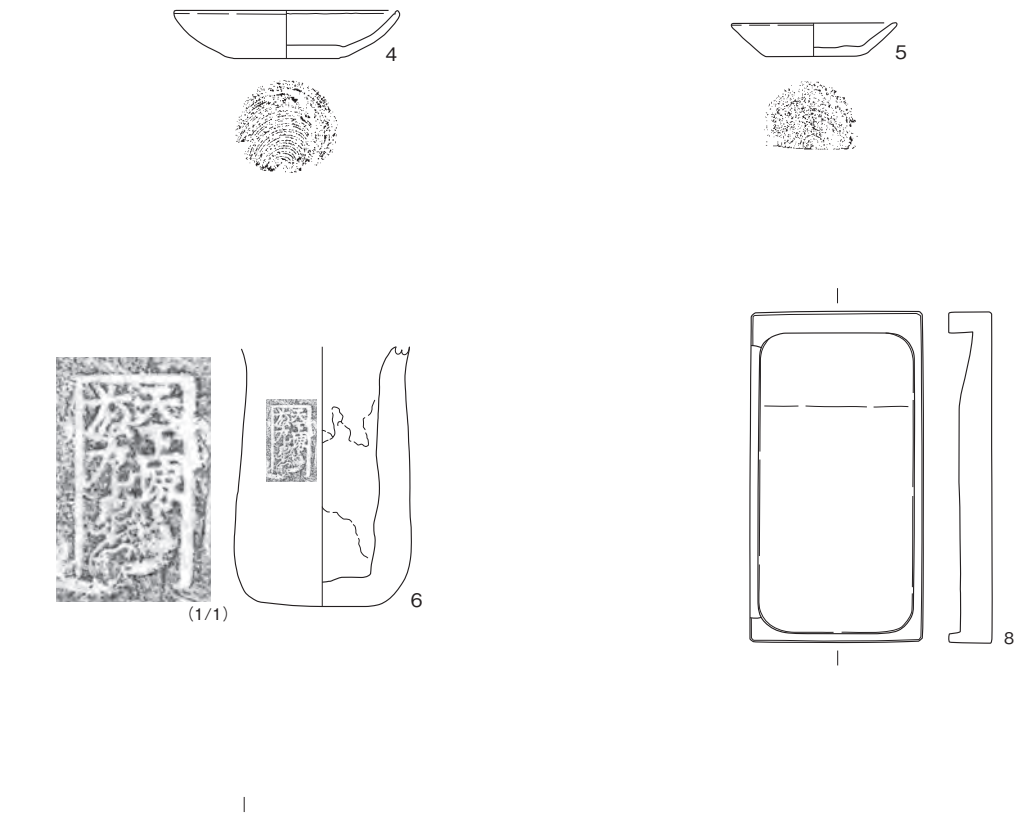
SK88

SD130

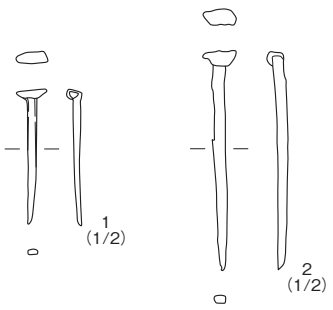


SU139(1)

Ⅳ-1図　SB2、SB3、SP12、SK88、SD130、SU139(1)

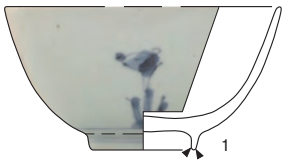


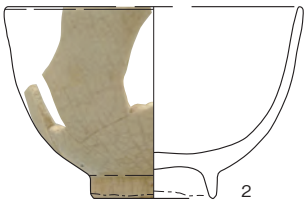
SU139(2)

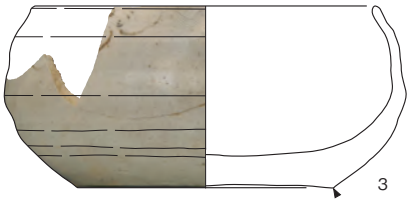


SK153

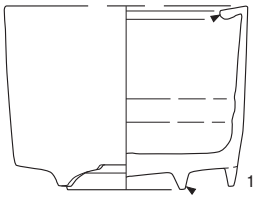
Ⅳ-2図　SU139(2)、SK153



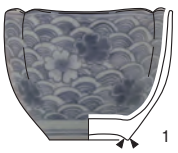


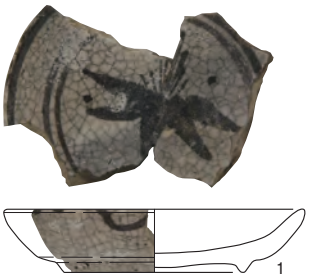


SU161

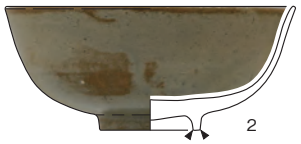


SU162



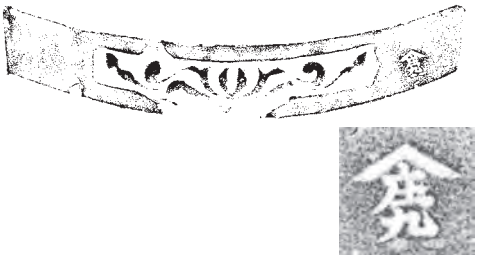


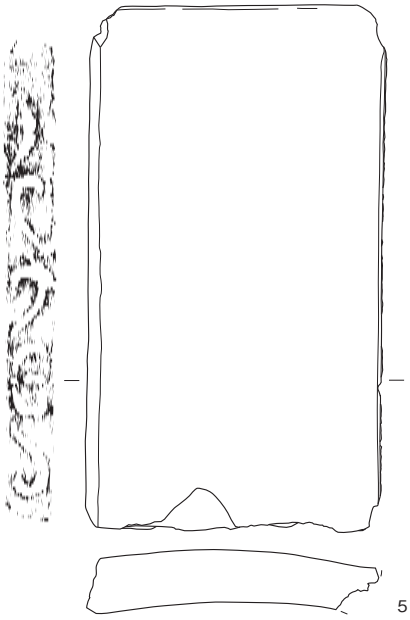
SD169･2130

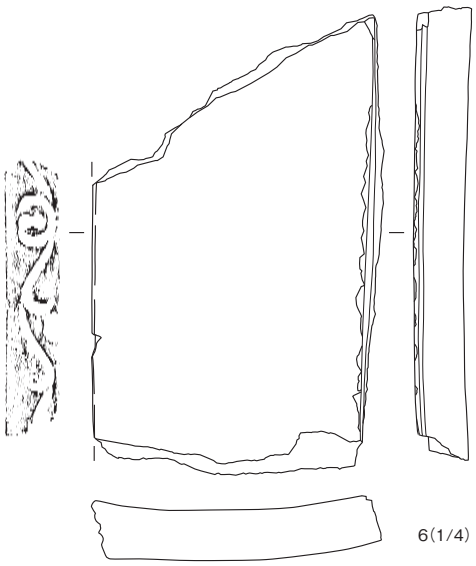


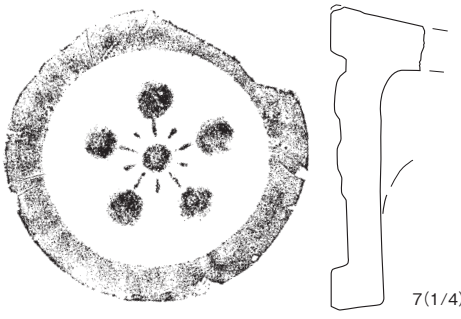
SK209(1)

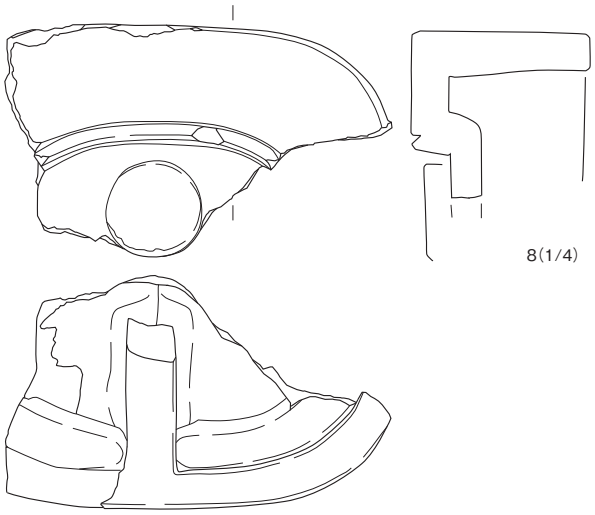
Ⅳ-3図　SU161、SU162、SD169･2130、SK209(1)





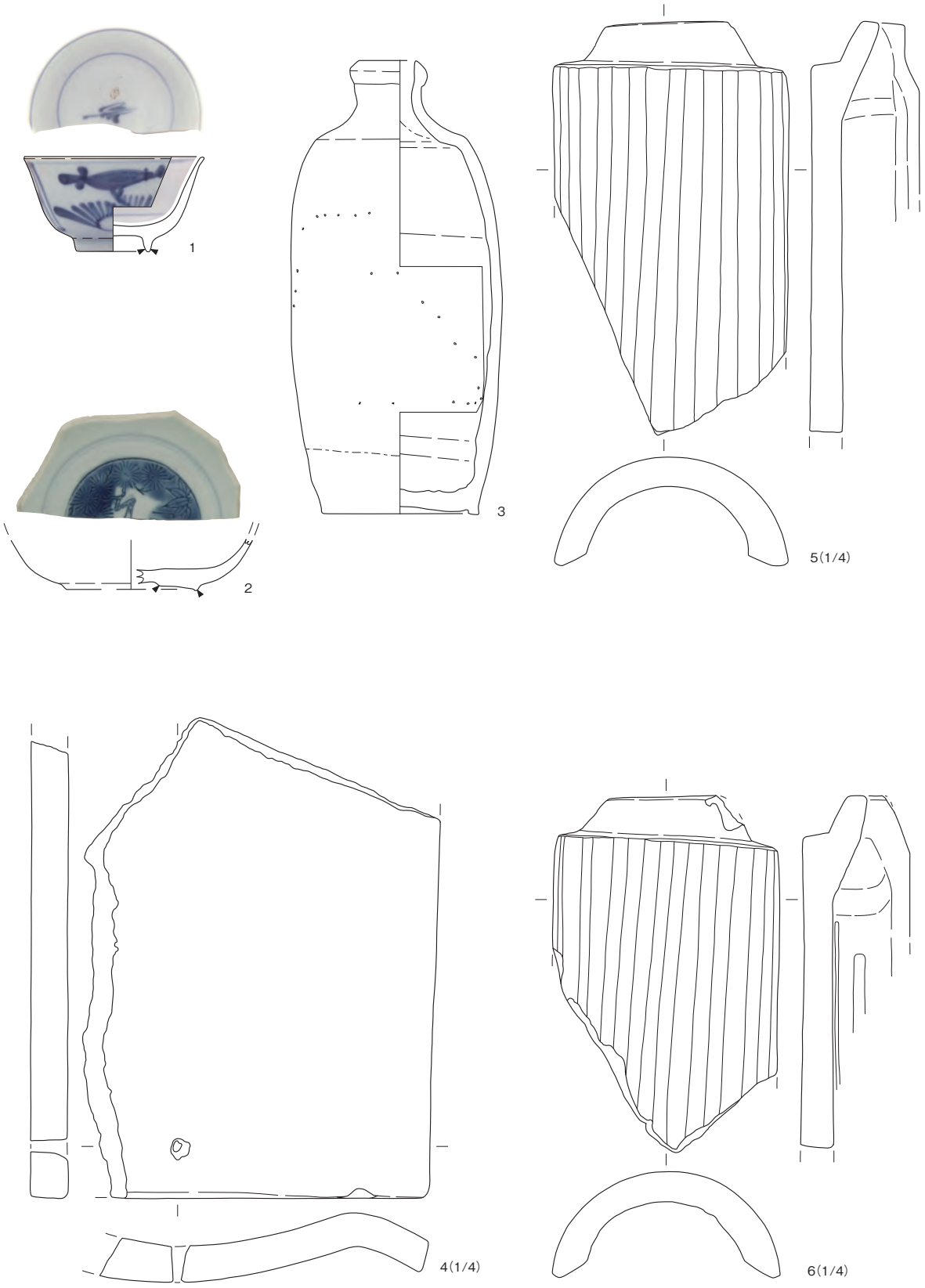






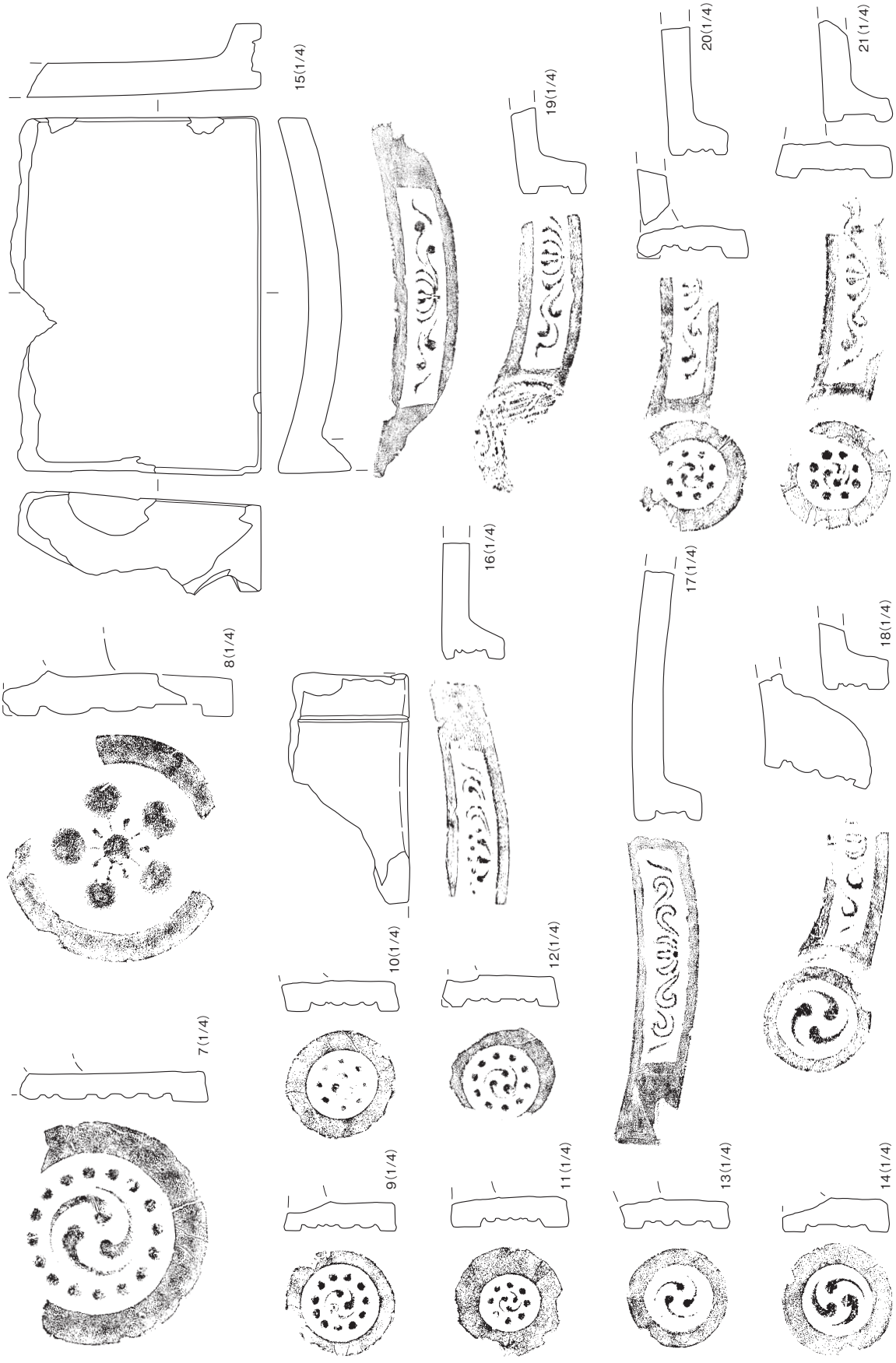
SK209(2)

Ⅳ-4図　SK209(2)

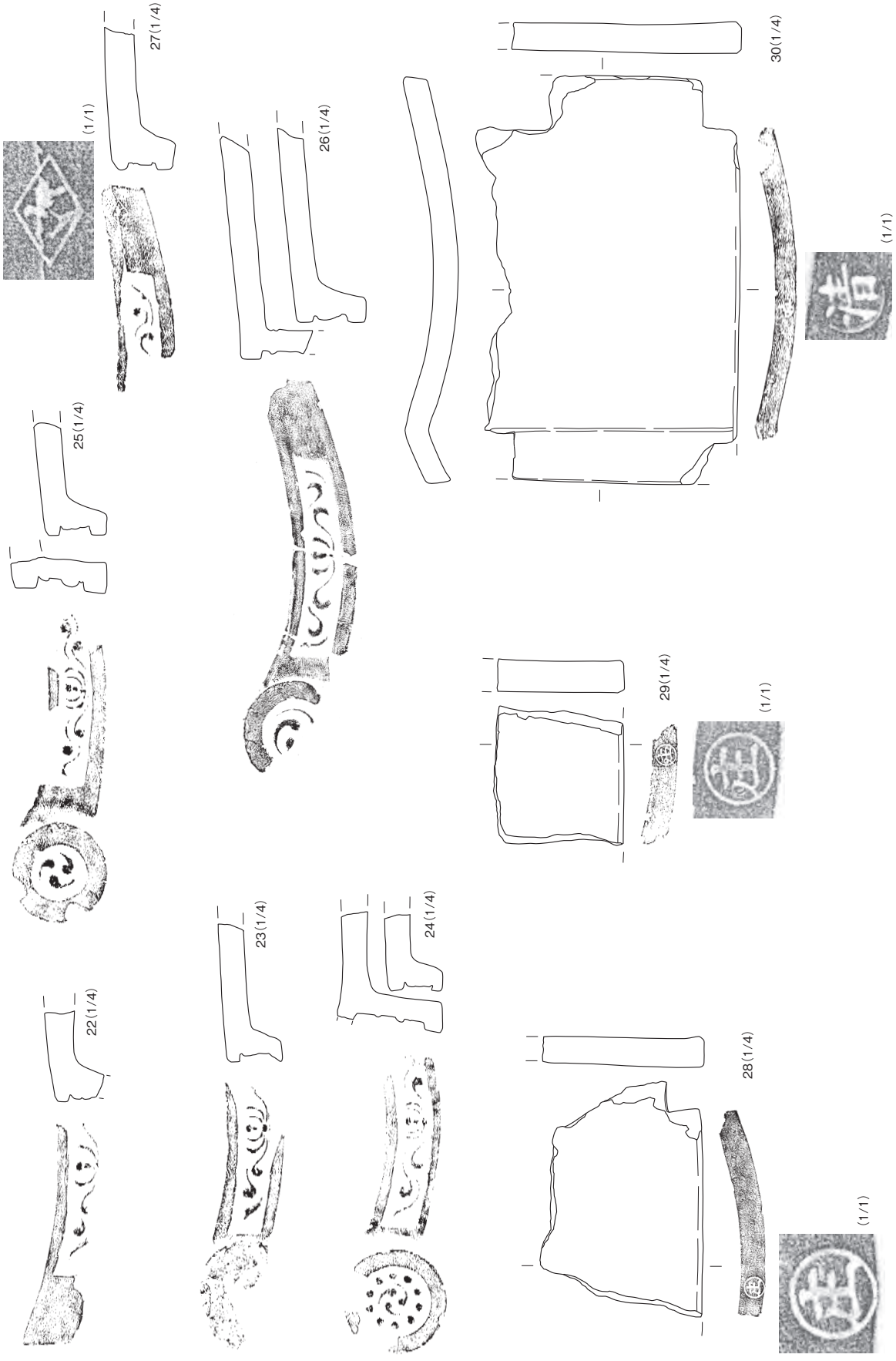


SU210･3095(1)

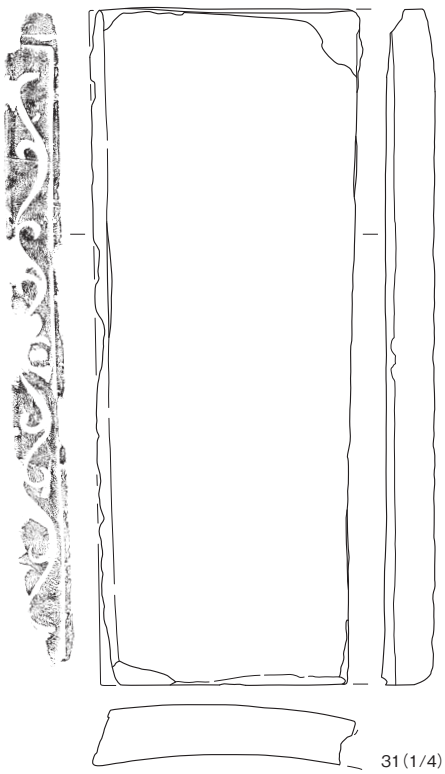
Ⅳ-5図　SU210･3095(1)

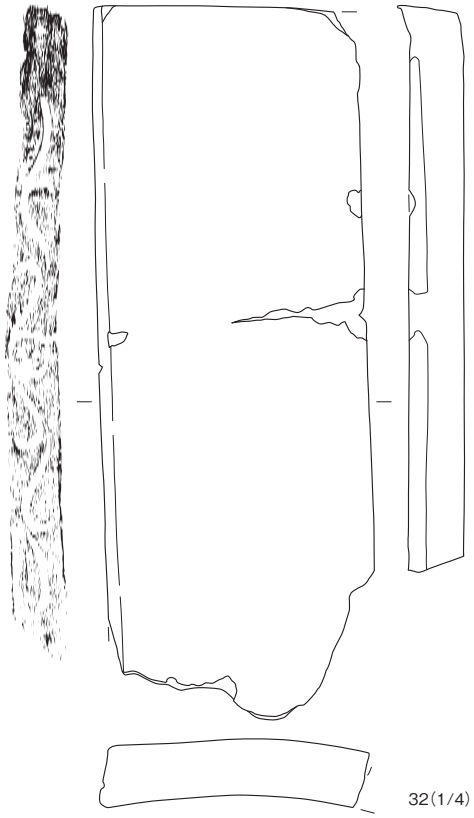


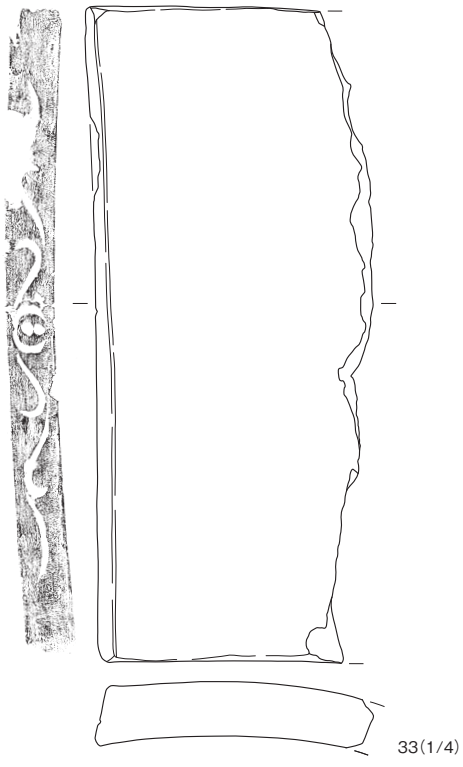
Ⅳ-6図　SU210・3095(2)

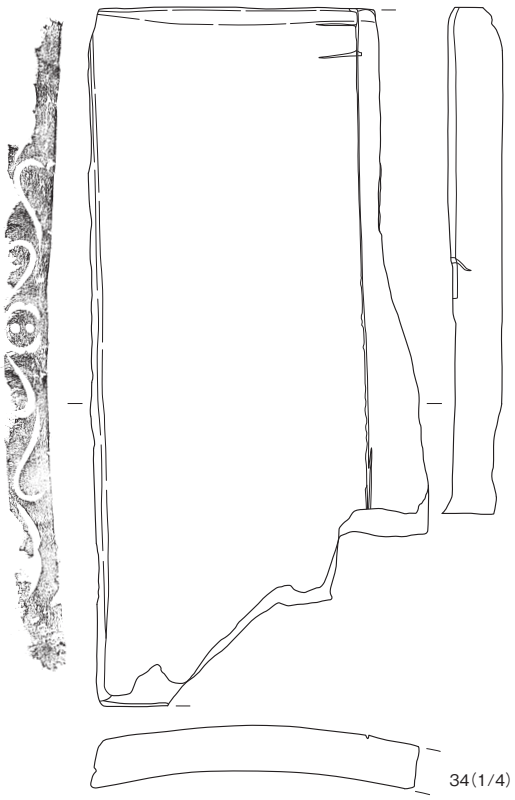


Ⅳ-7図　SU210・3095(3)

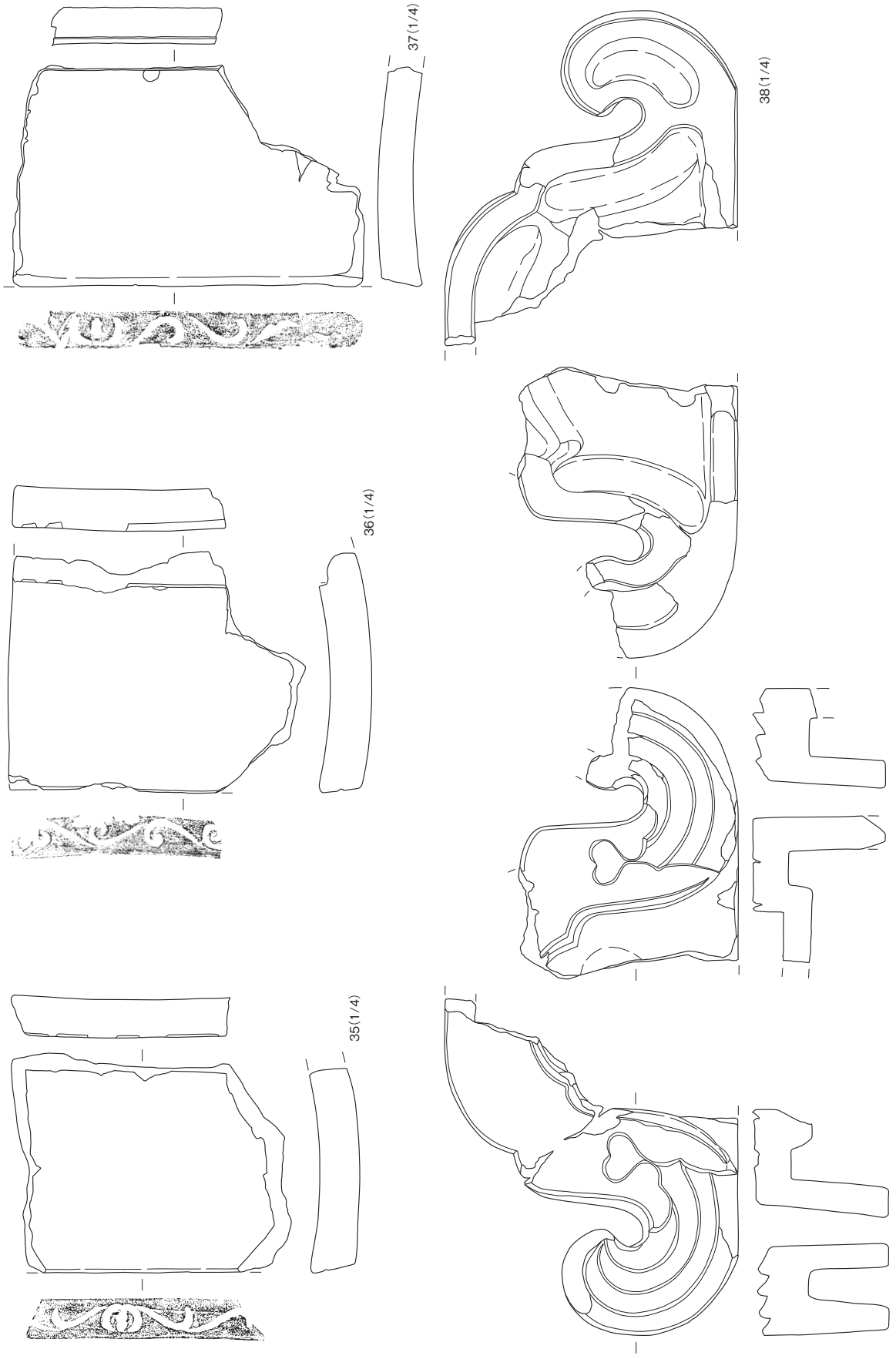




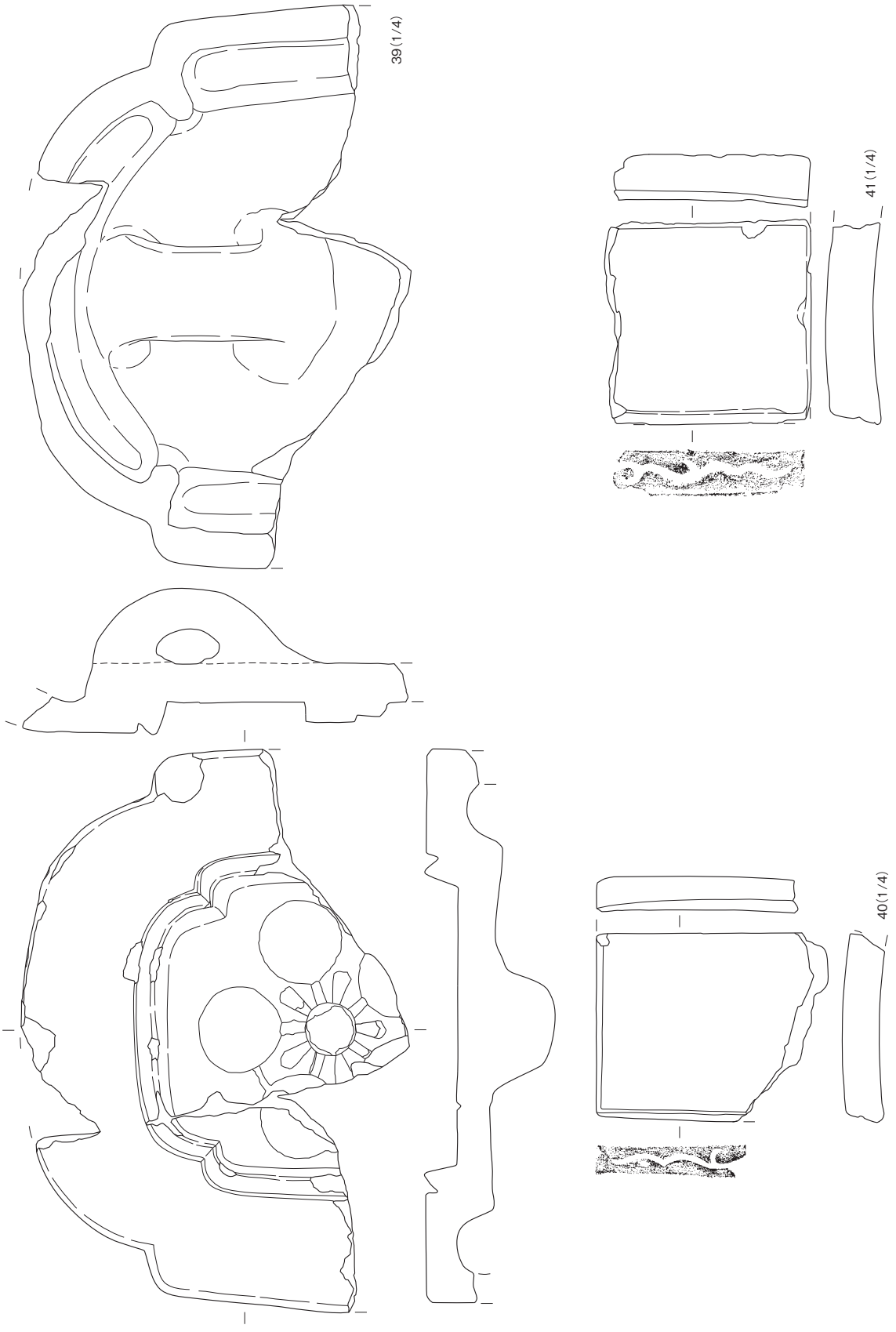




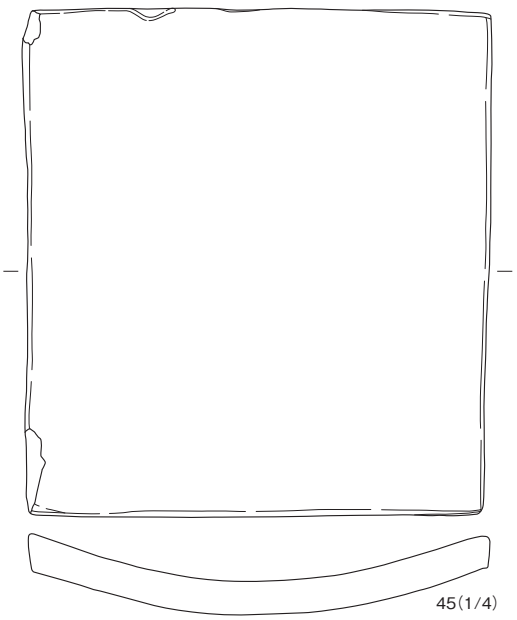
Ⅳ-8図　SU210･3095(4)



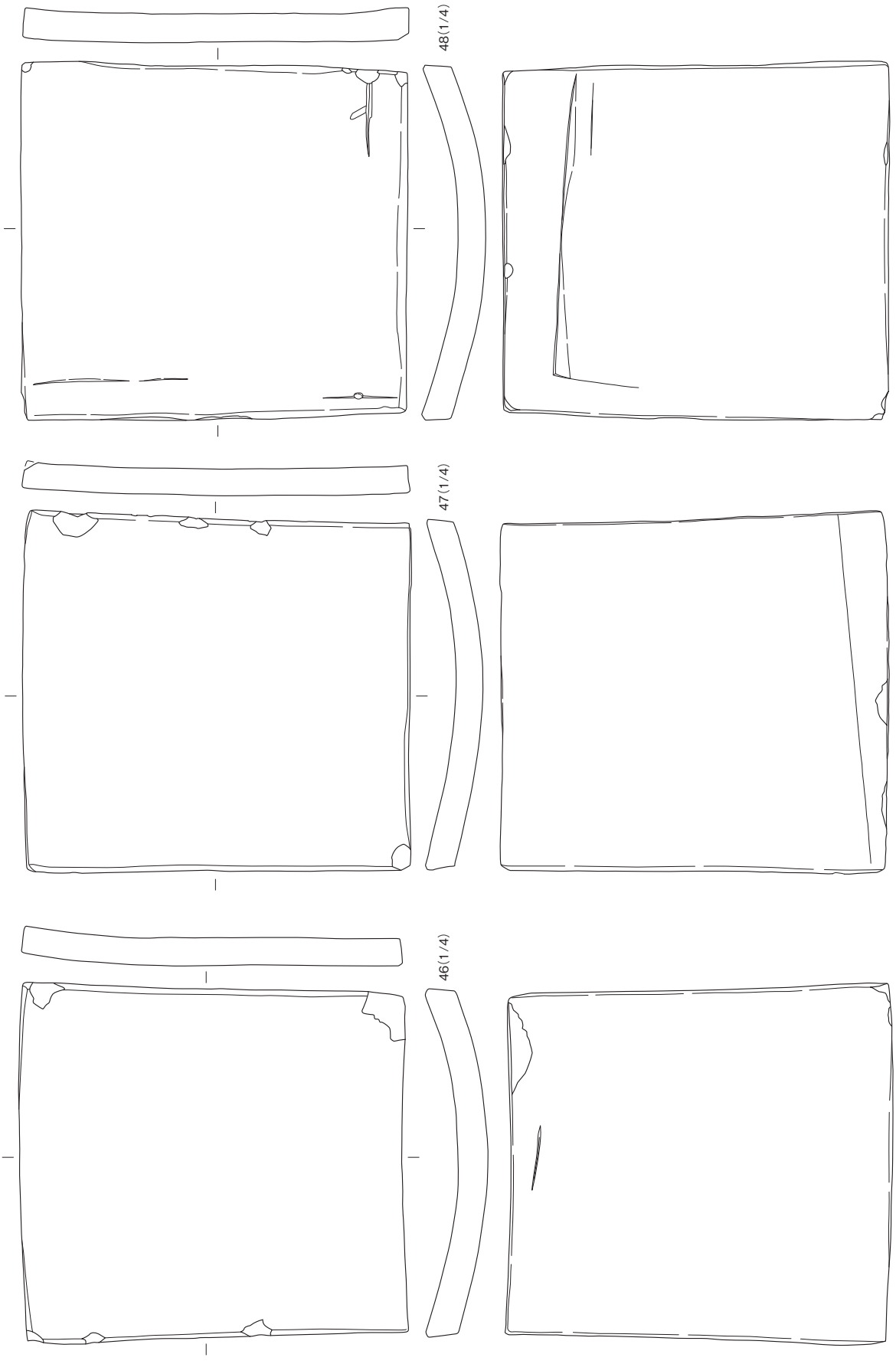
Ⅳ-9図　SU210・3095(5)



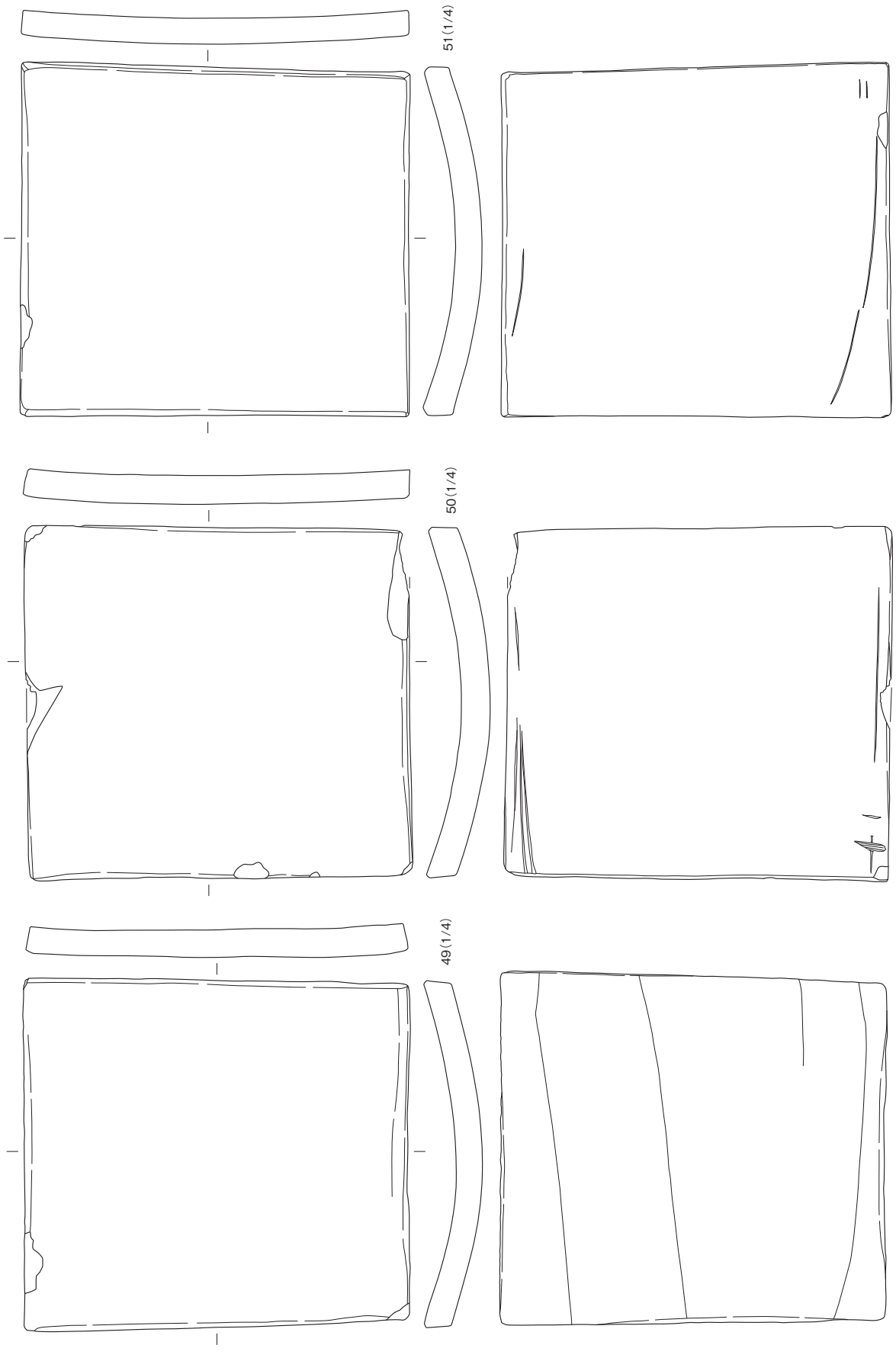
Ⅳ-10図　SU210・3095(6)



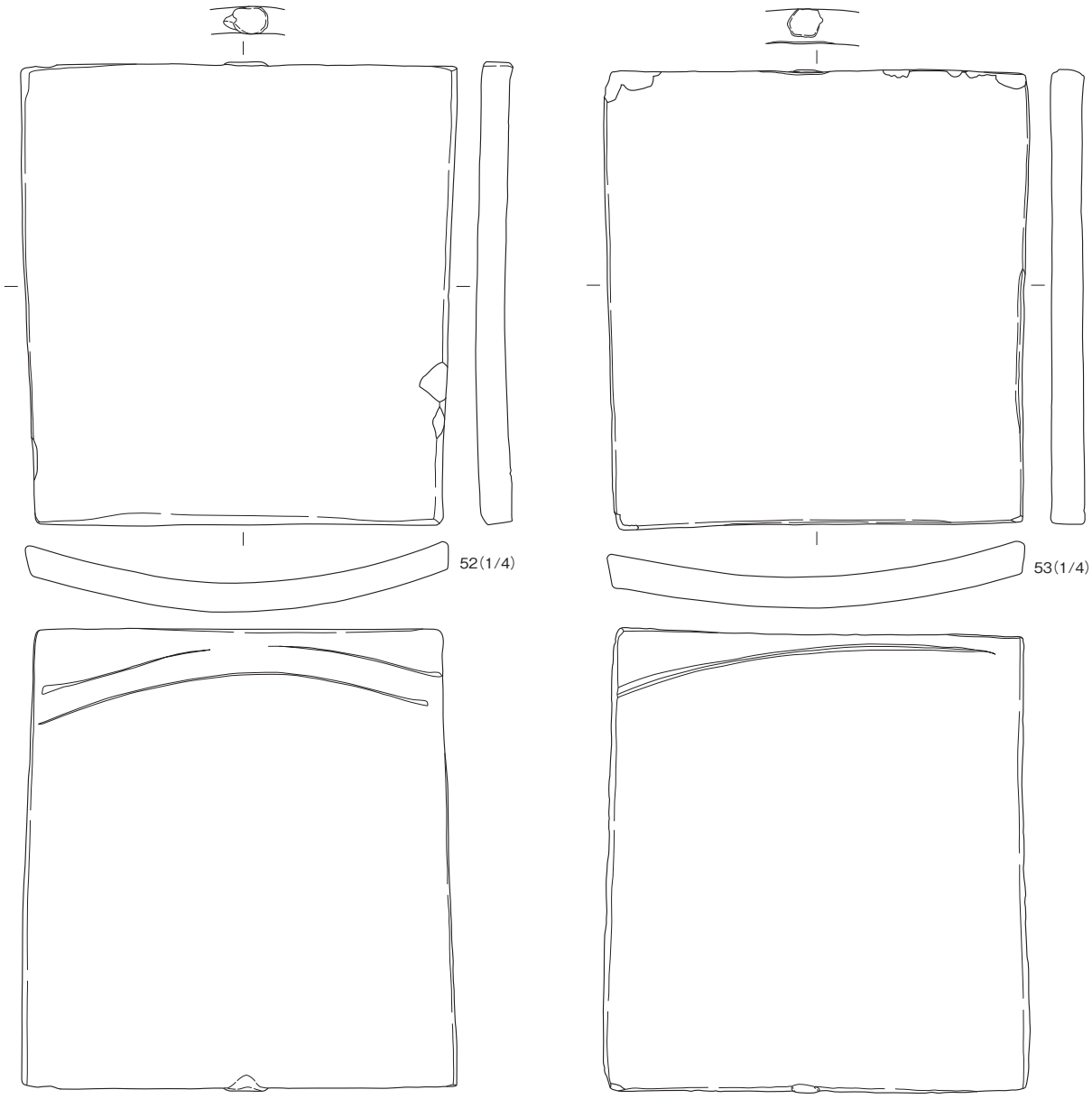
Ⅳ-11図　SU210･3095(7)



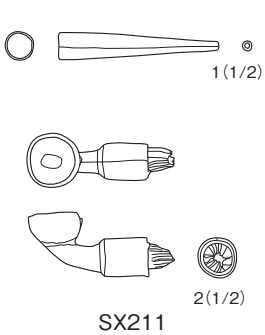
Ⅳ-12図　SU210・3095(8)



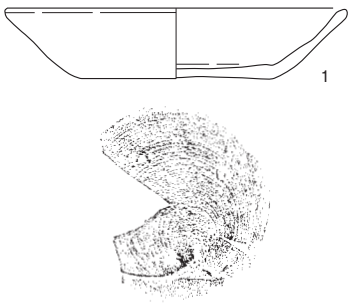
Ⅳ-13図　SU210・3095(9)



SU210･3095(10)

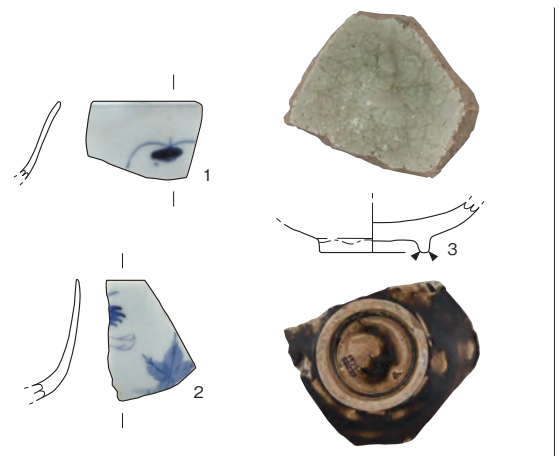


SX211

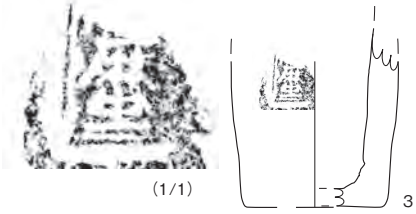


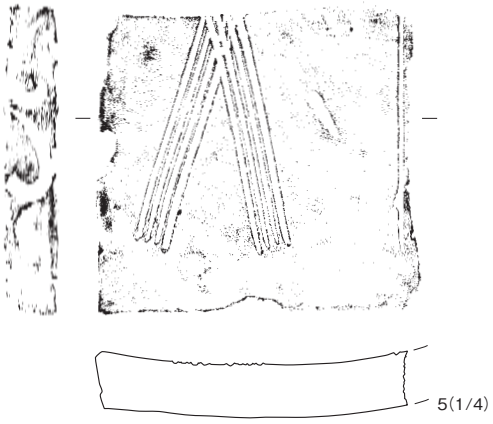
SK212

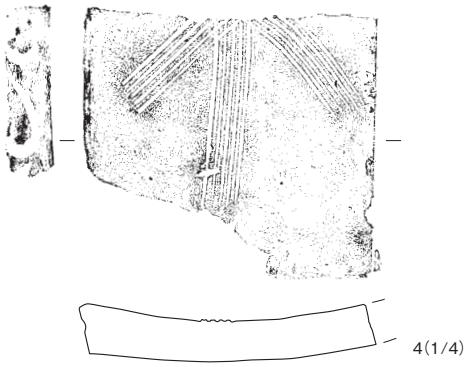
Ⅳ-14図　SU210･3095(10)、SX211、SK212

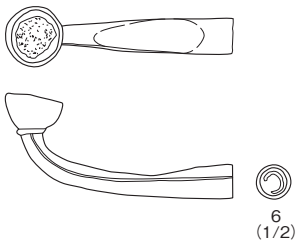


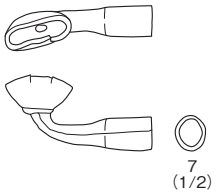
SD233･2160



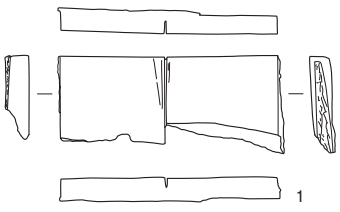




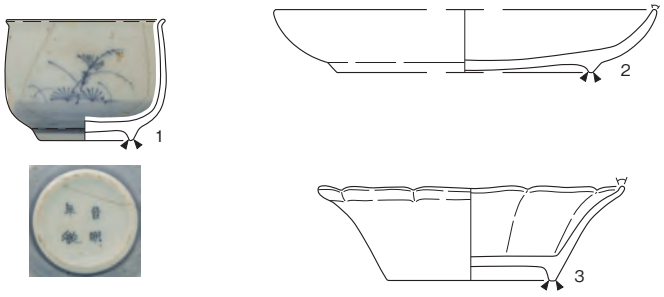




SD236･2095･3021

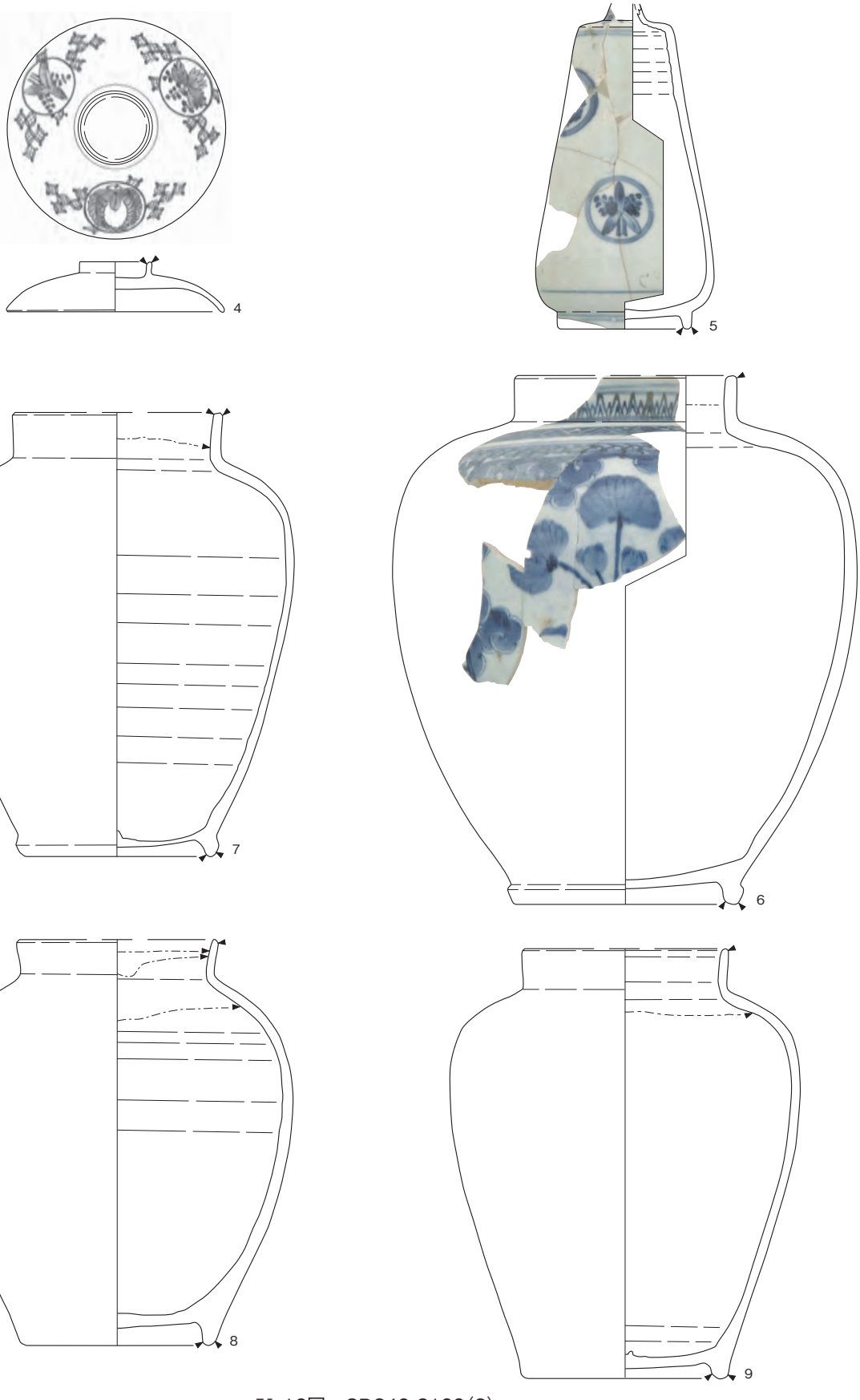


SD236･2095･3021、SK2210

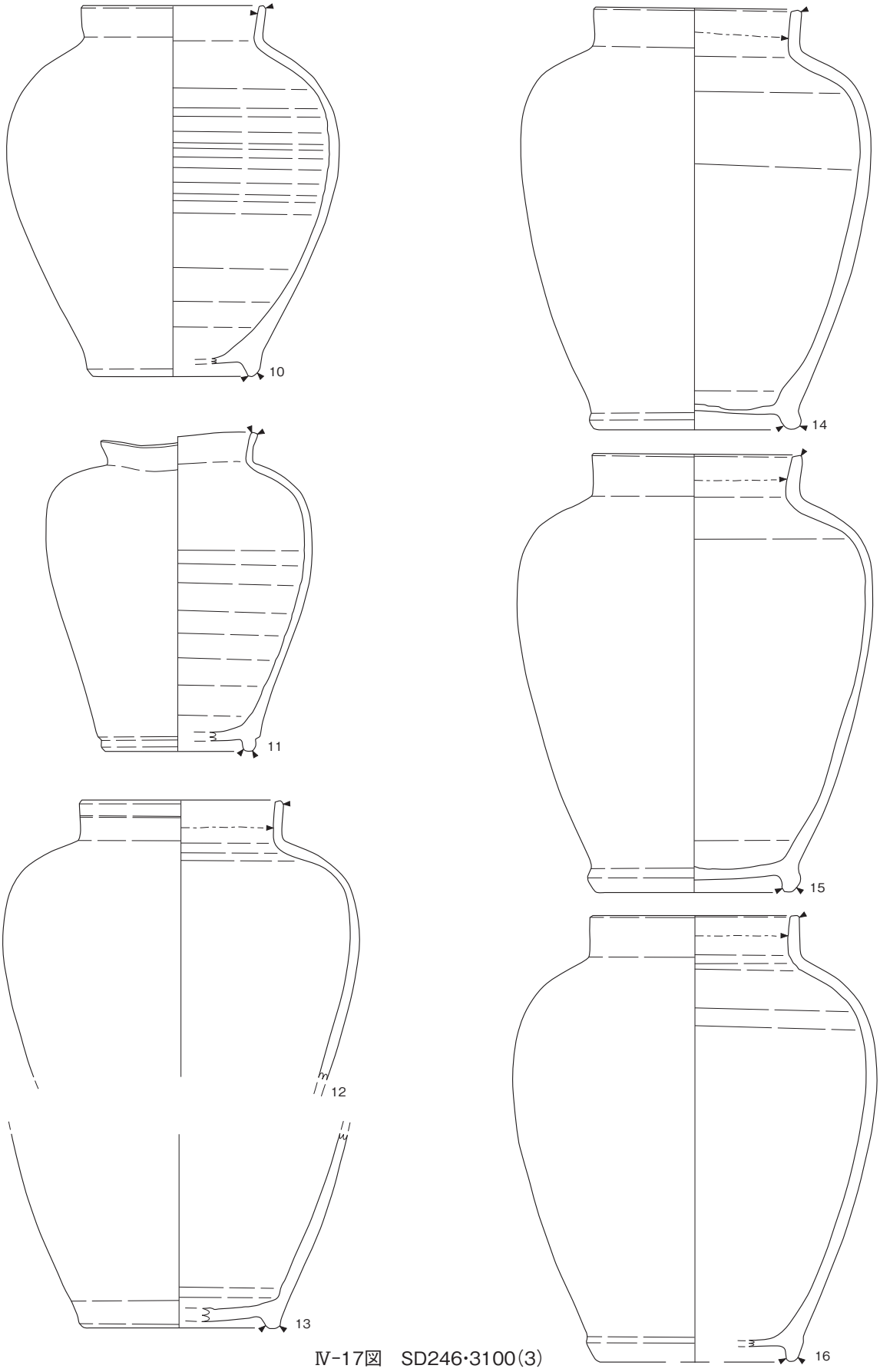


SD246･3100(1)

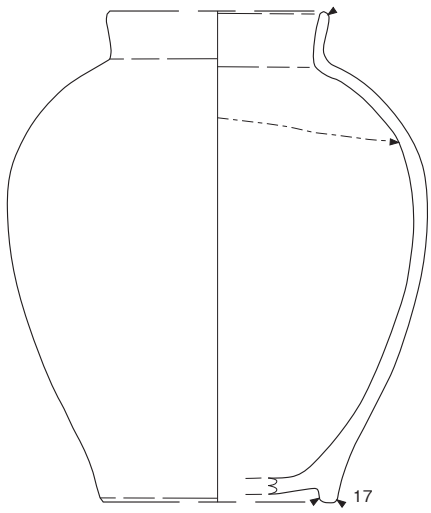
Ⅳ-15図　SD233･2160、SD236･2095･3021、
SD236･2095･3021、SK2210、SD246･3100(1)

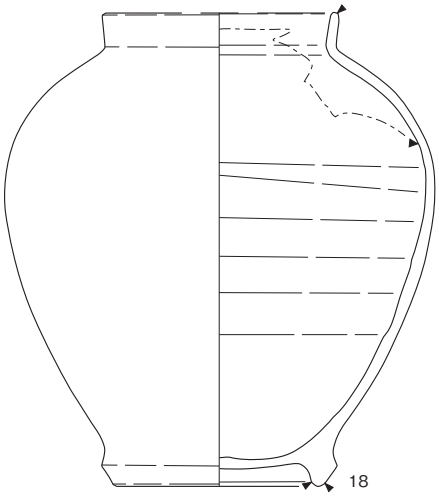


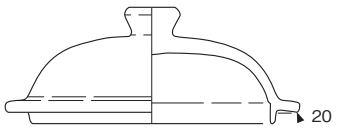
Ⅳ-16図　SD246･3100(2)

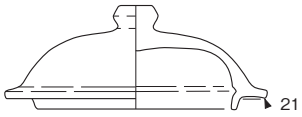


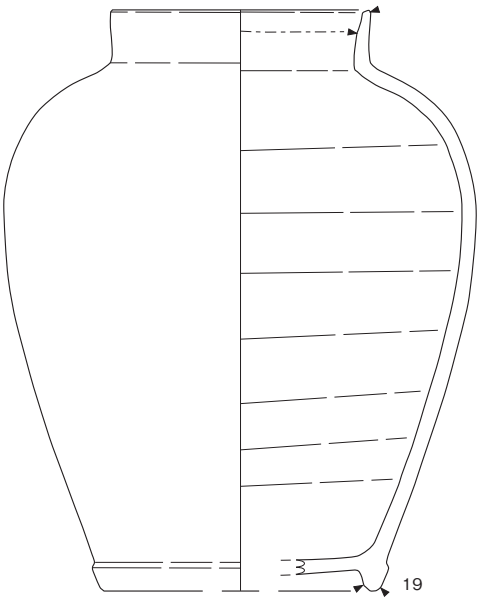
Ⅳ-17図　SD246･3100(3)

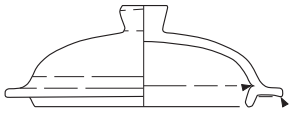


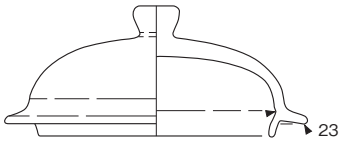


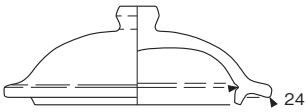


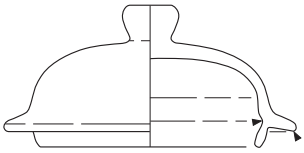


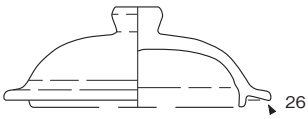


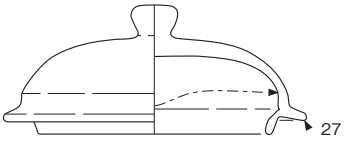


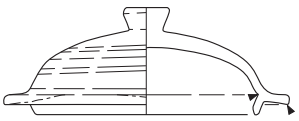


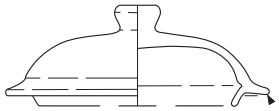


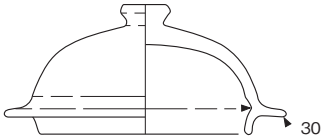




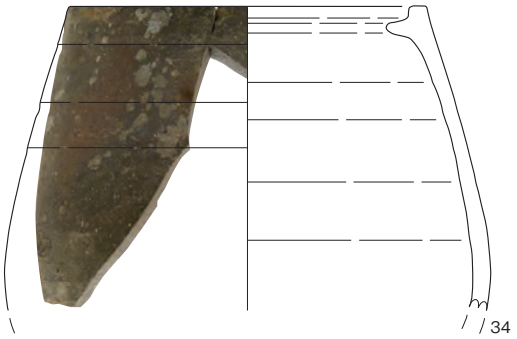


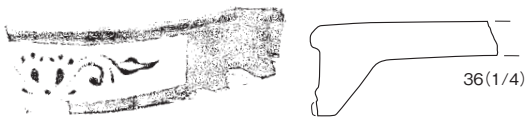


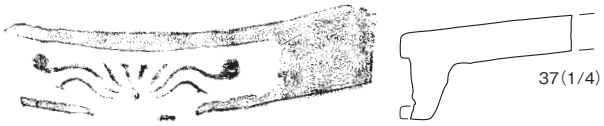




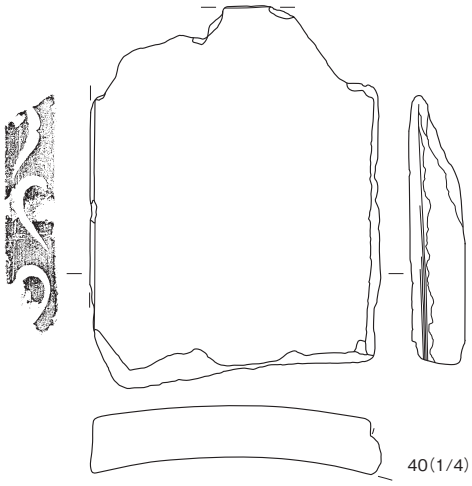
Ⅳ-18図　SD246･3100(4)

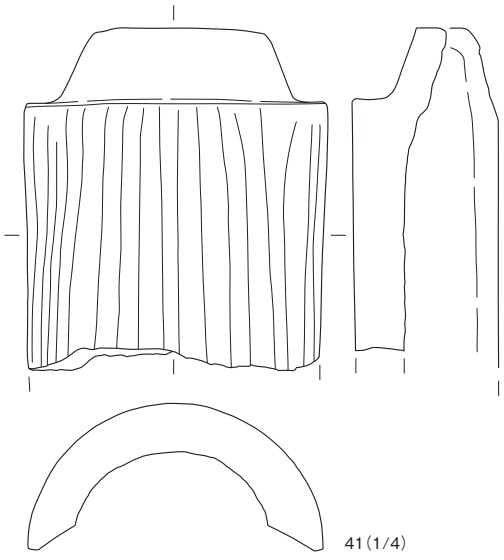


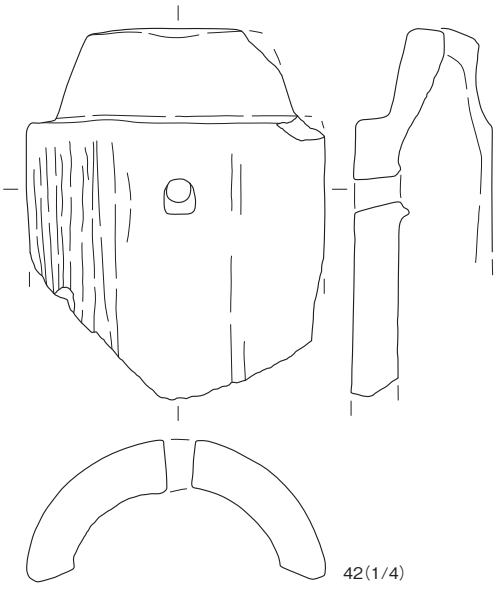


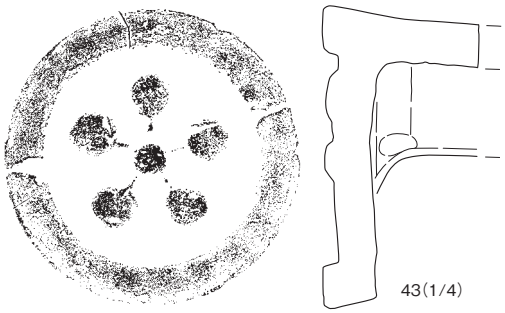


Ⅳ-19図　SD246･3100(5)

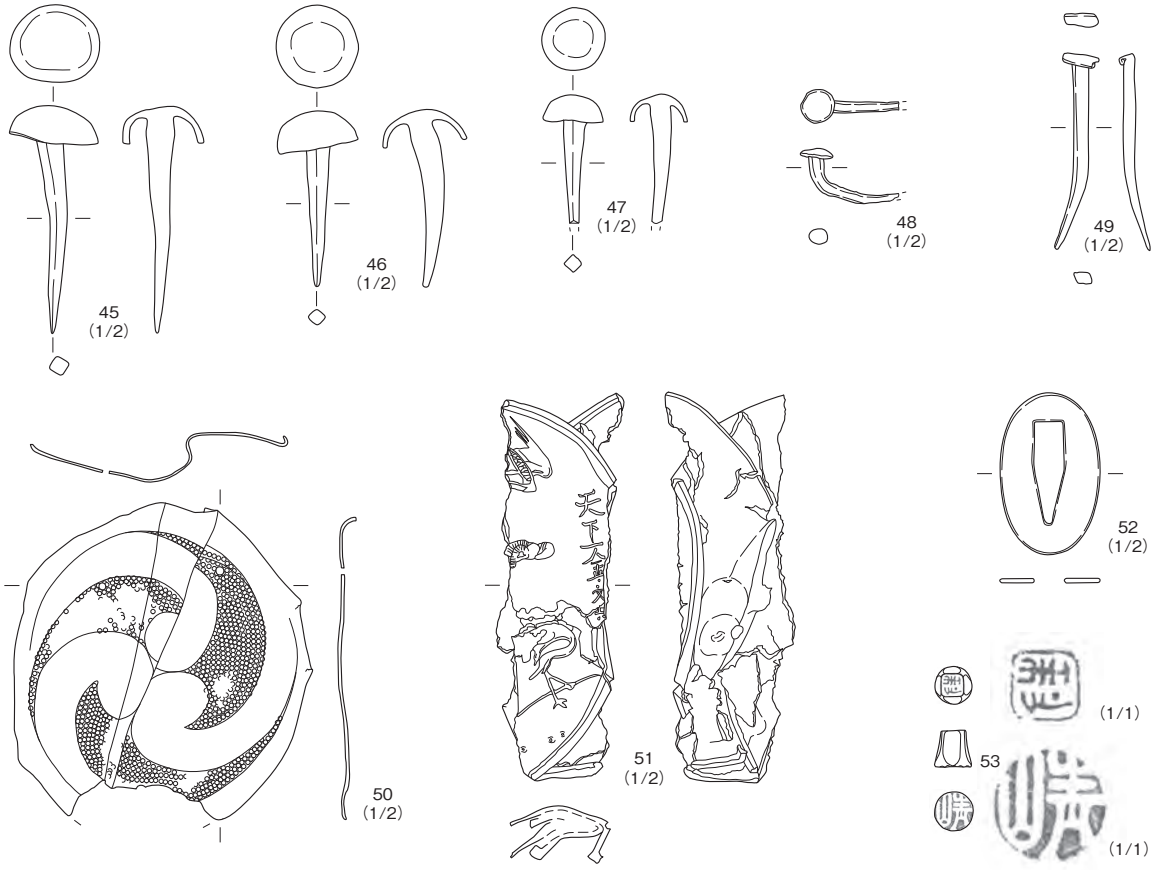




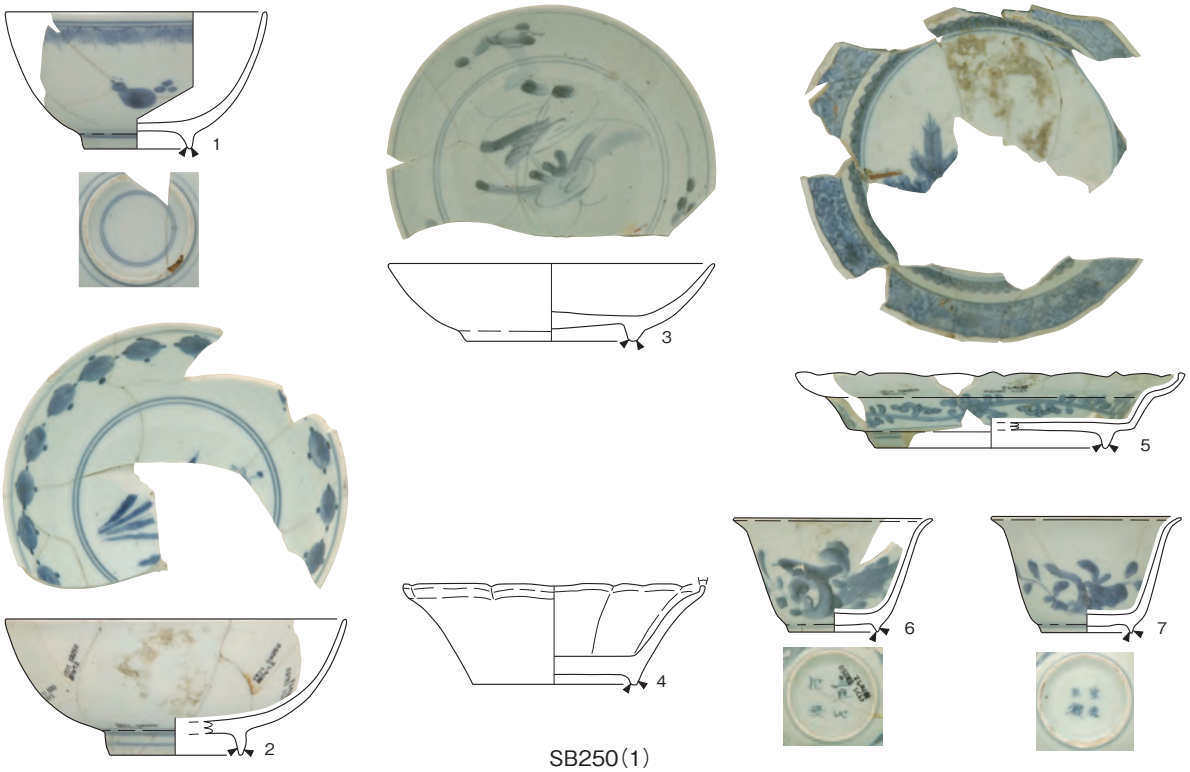




Ⅳ-20図　SD246･3100(6)

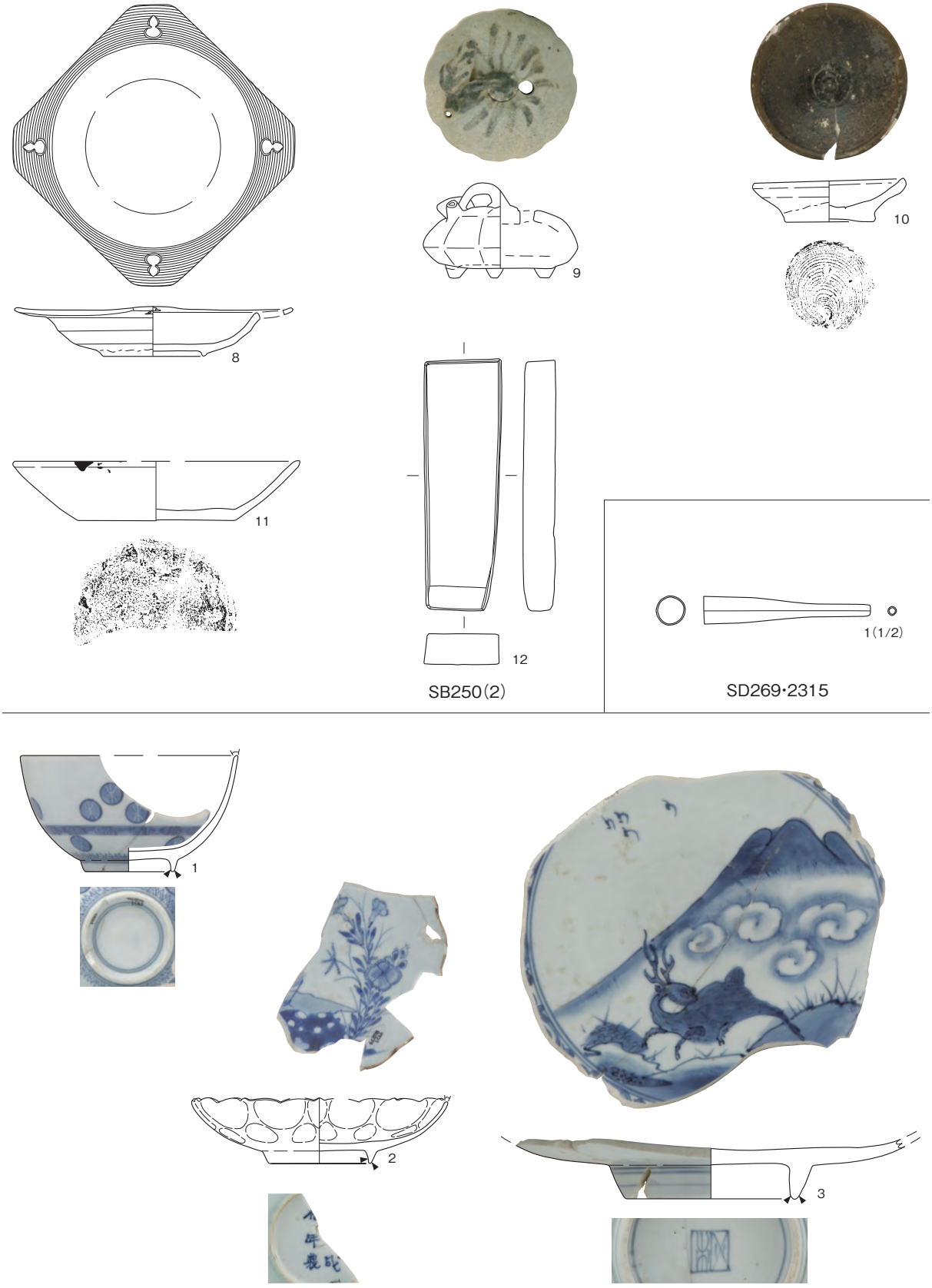


SD246･3100(7)



SB250(1)

Ⅳ-21図　SD246･3100(7)、SB250(1)

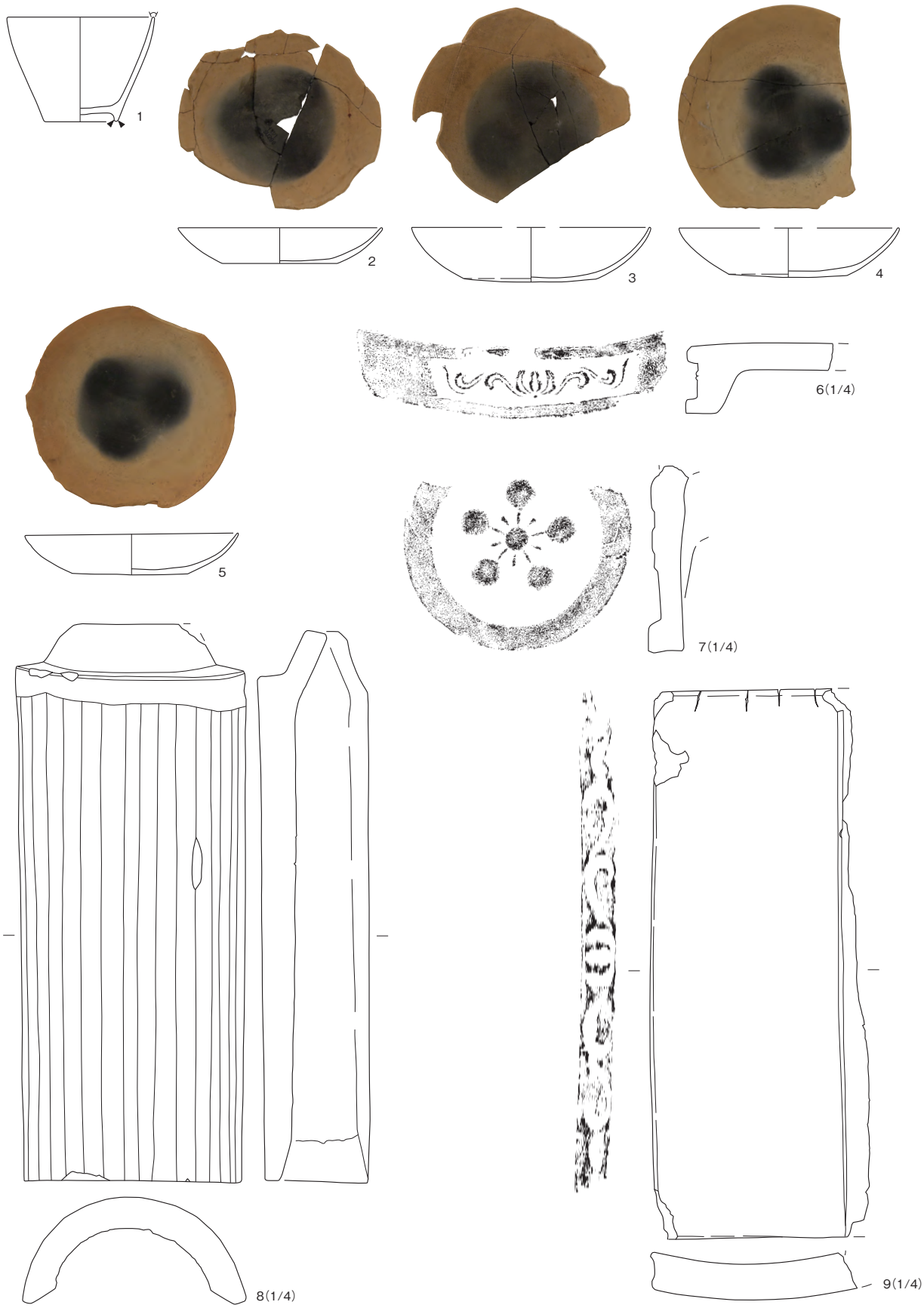


SB250(2)　SD269・2315

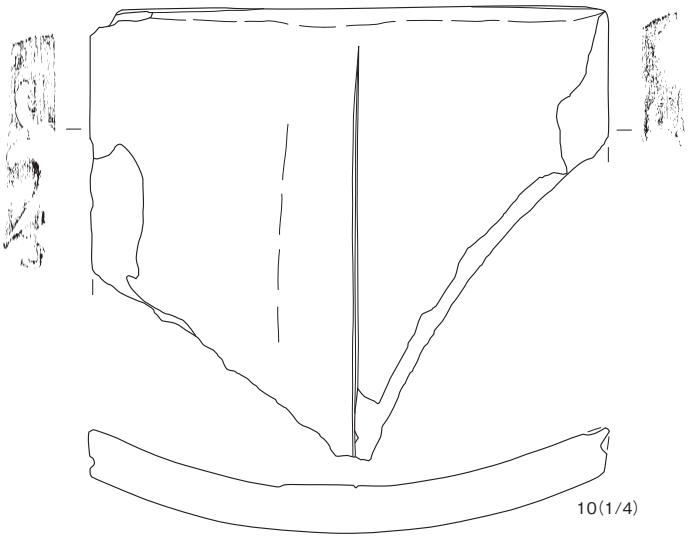
SU279(1)

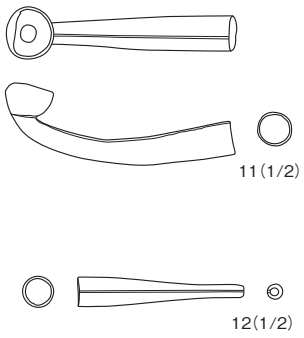
Ⅳ-22図　SB250(2)、SD269・2315、SU279(1)

Ⅳ-23図　SU279(2)

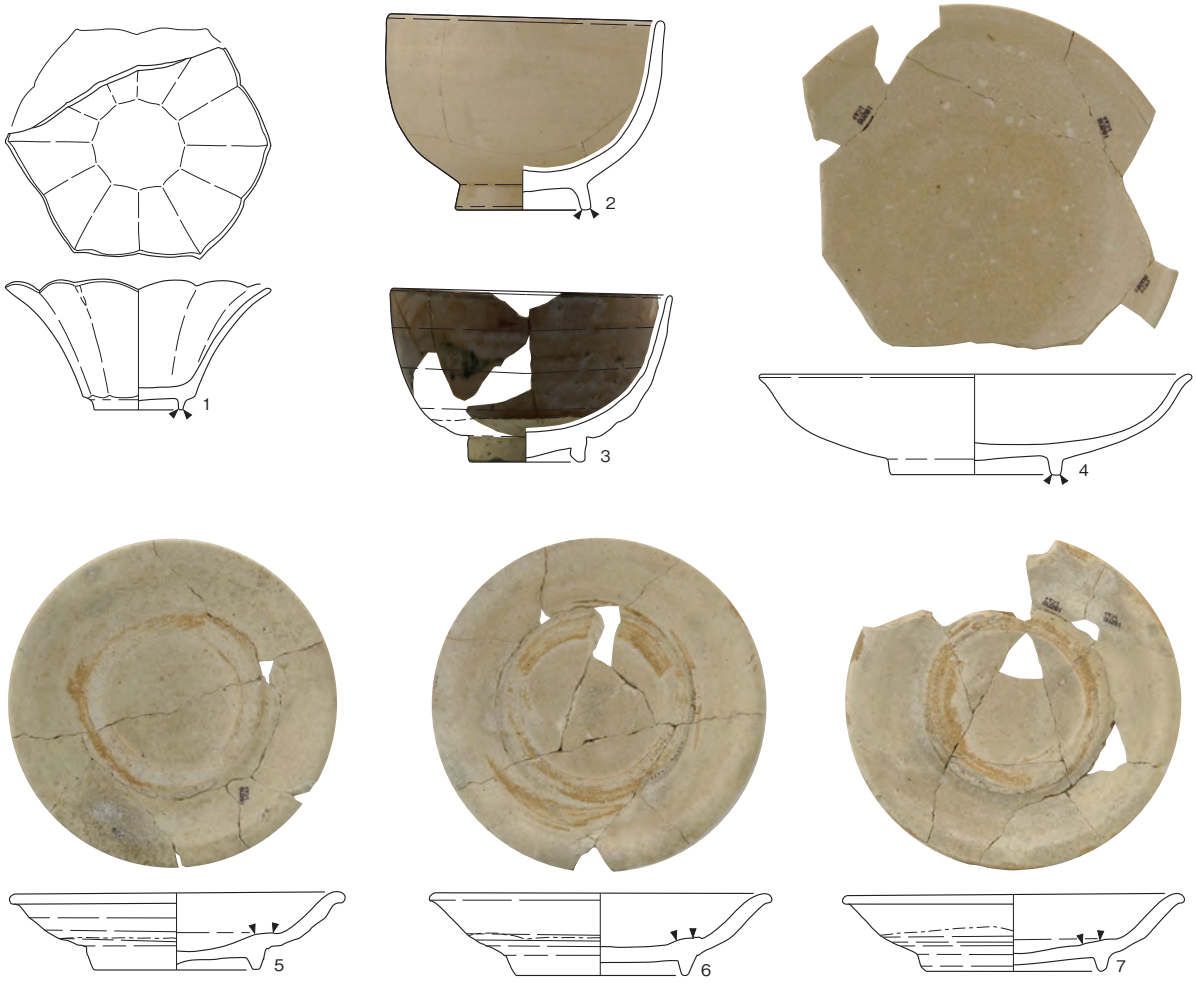


Ⅳ-24図　SU280(1)



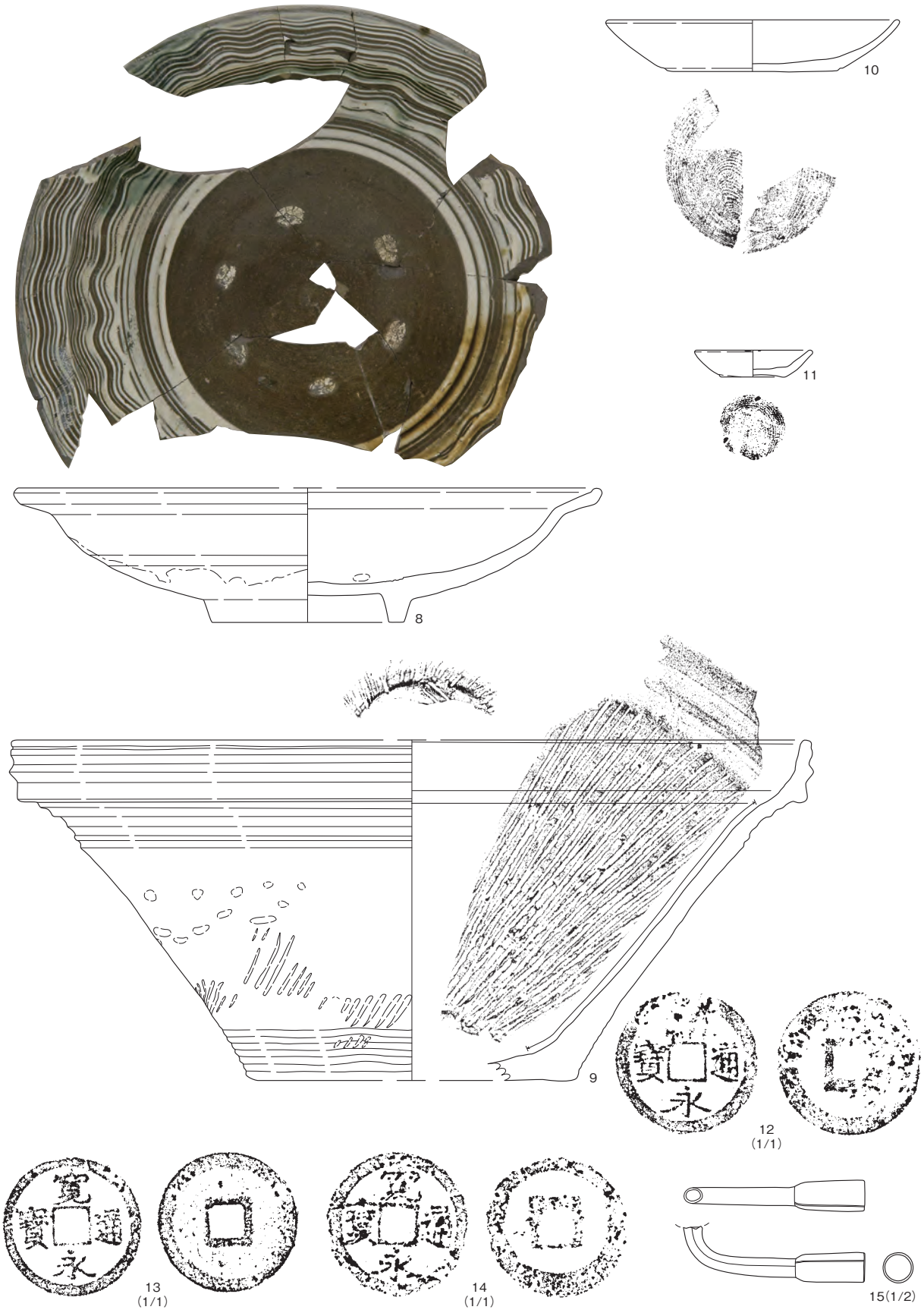


SU280(2)

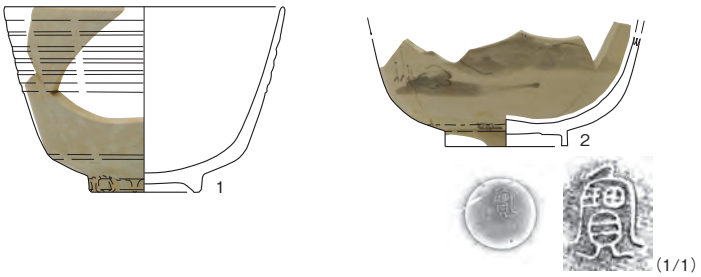


SU281(1)

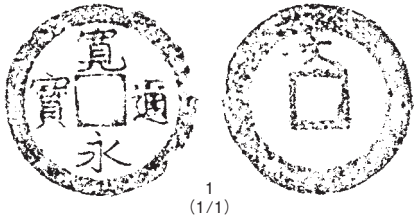
Ⅳ-25図　SU280(2)、SU281(1)



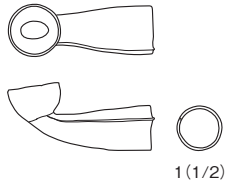
Ⅳ-26図　SU281(2)



SU288



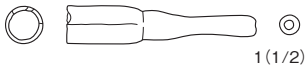
SP356



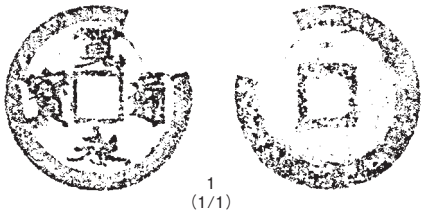
SP395

SK430

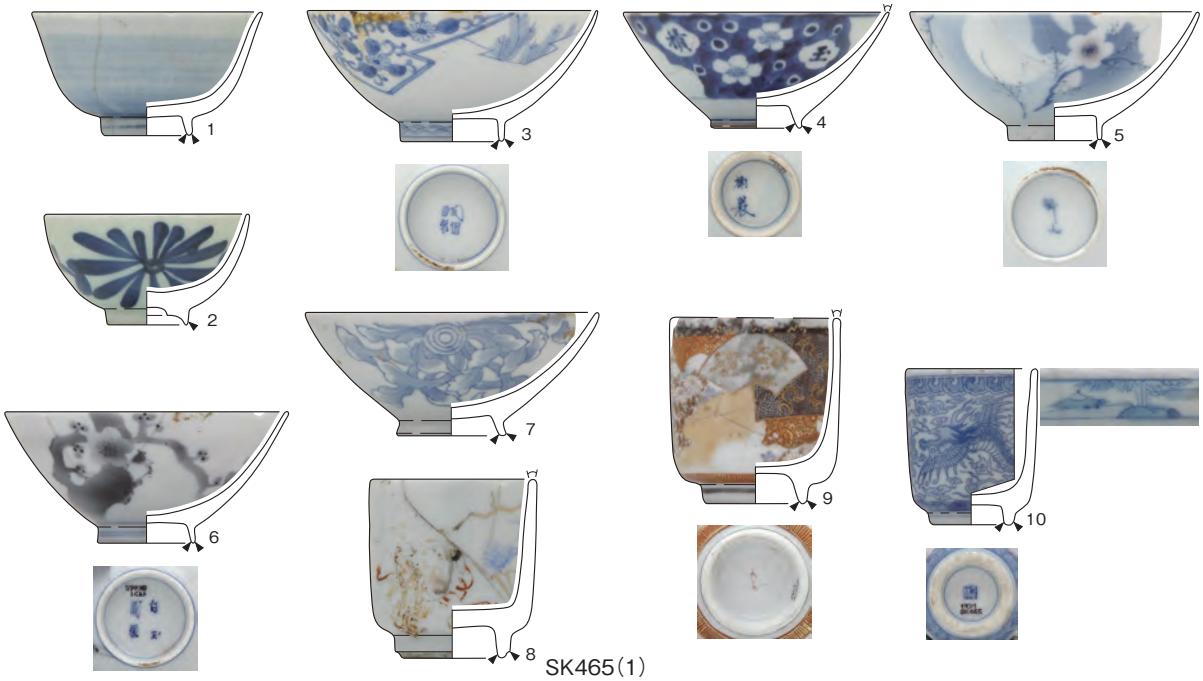
SP437



SP443



SK464



SK465(1)

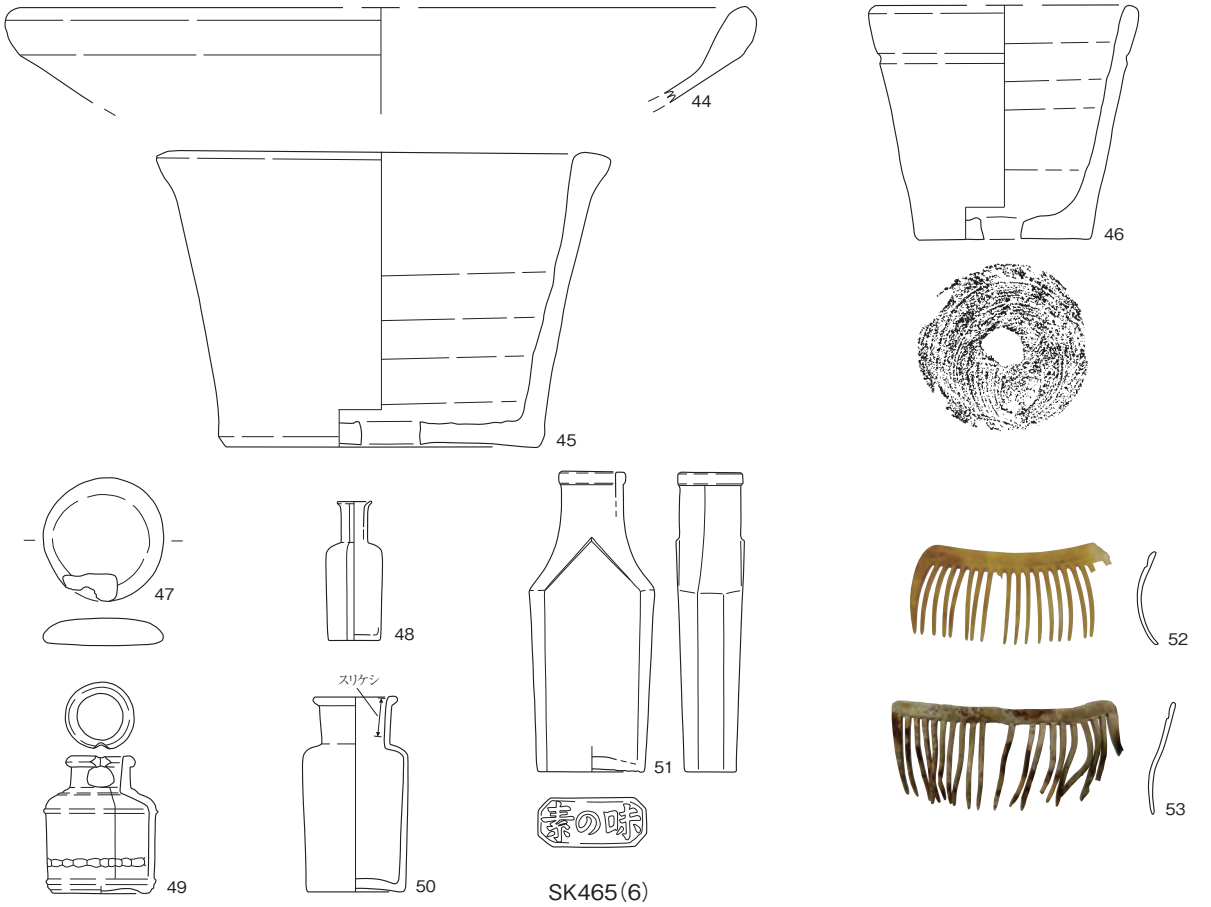
Ⅳ-27図　SU288、SP356、SP395、SK430、SP437、SP443、SK464、SK465(1)

Ⅳ-28図　SK465(2)

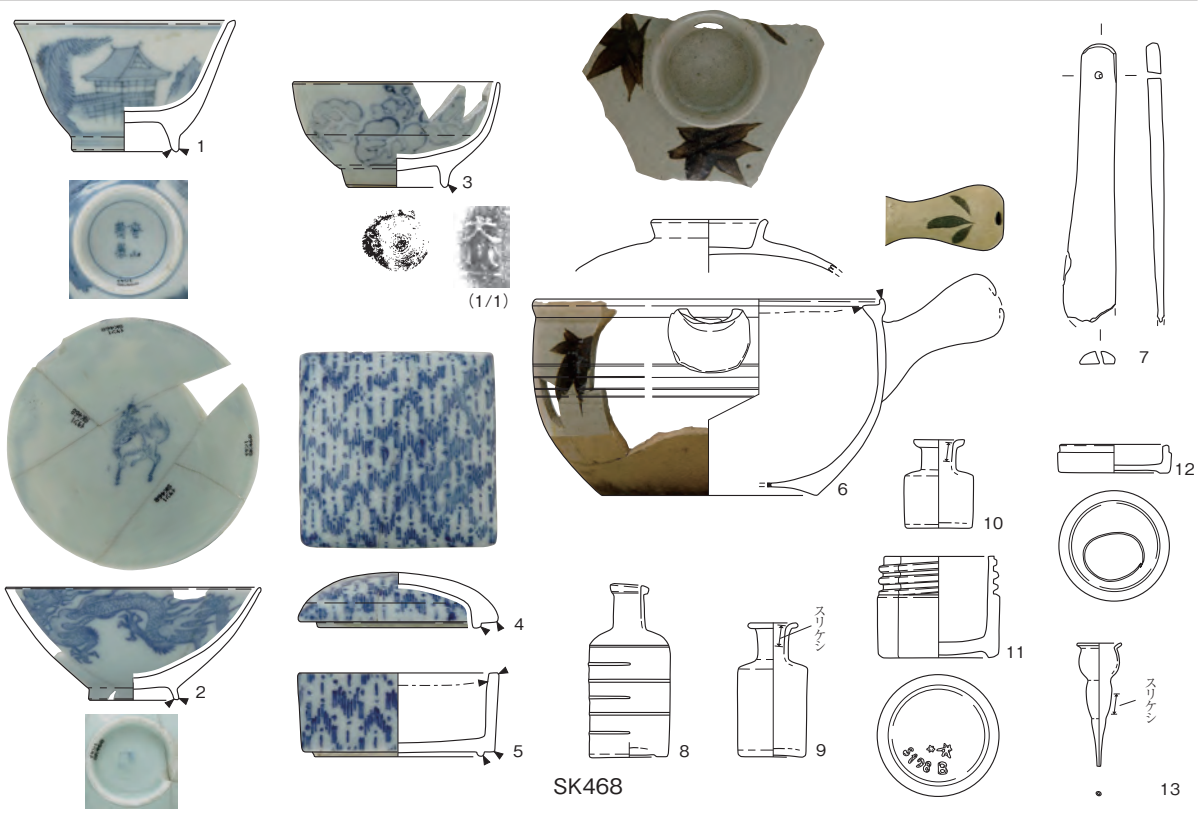
Ⅳ-29図　SK465(3)

Ⅳ-30図　SK465(4)

Ⅳ-31図　SK465(5)

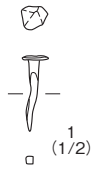


SK465(6)

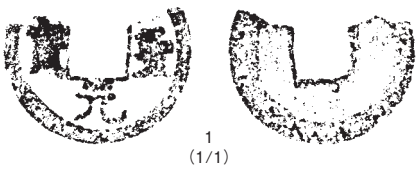


SK468

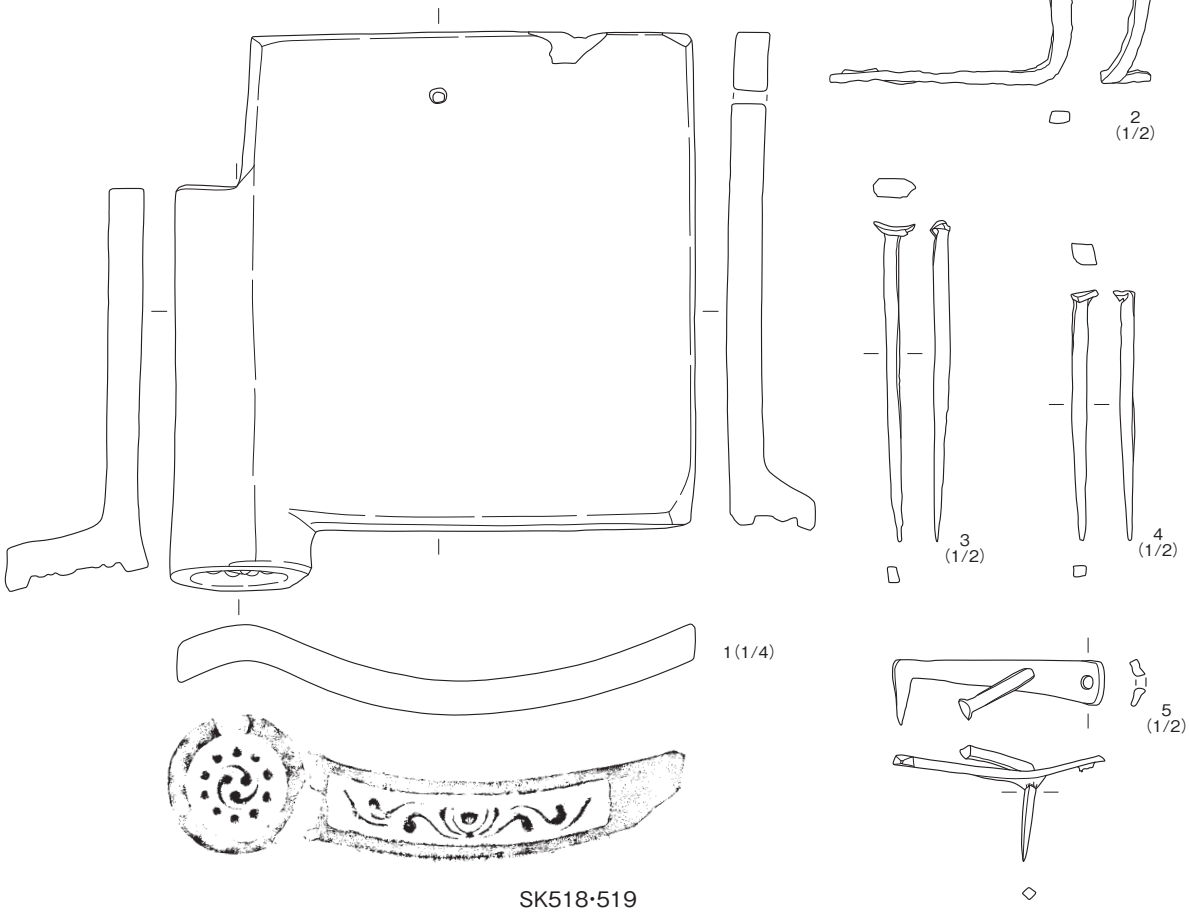
Ⅳ-32図　SK465(6)、SK468



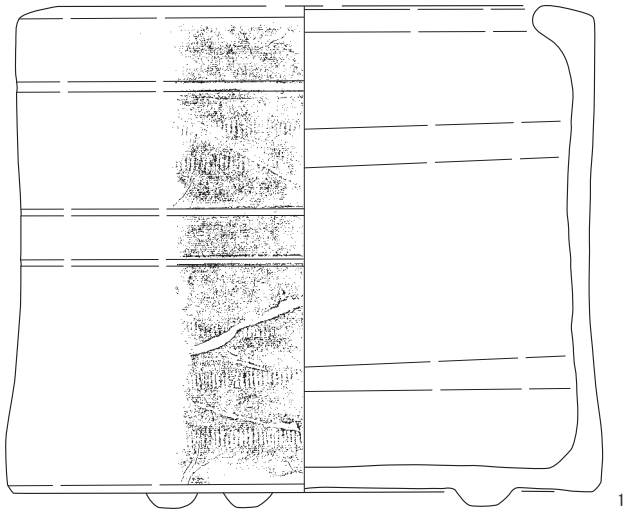
SP475



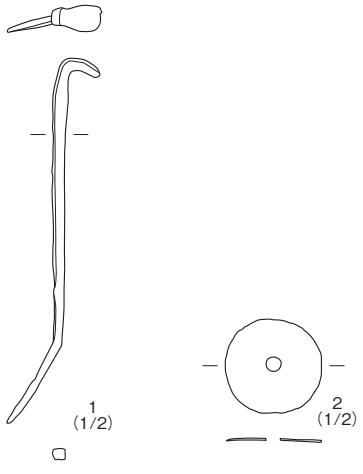
SP485



SK518･519

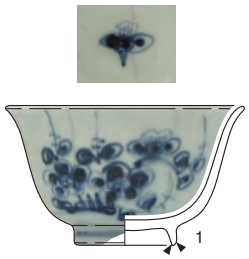


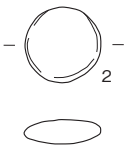
SK539･4225･4254



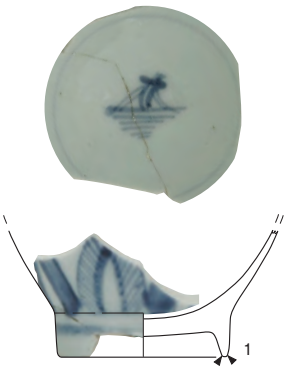
SK539･4225･4254、SK540･4291

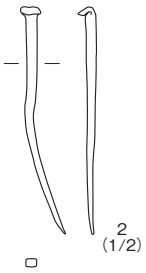
Ⅳ-33図　SP475、SP485、SK518･519、SK539･4225･4254、SK540･4291

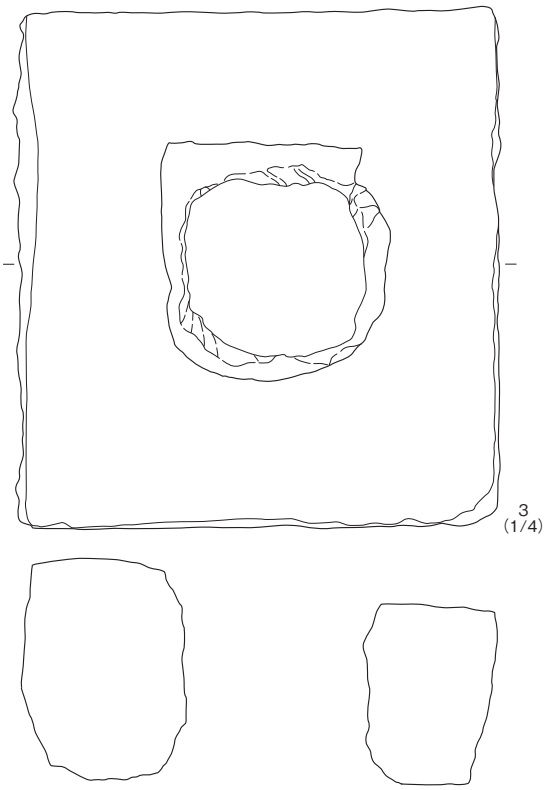




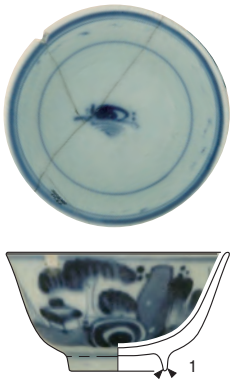
SK554



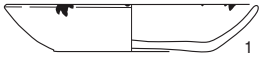




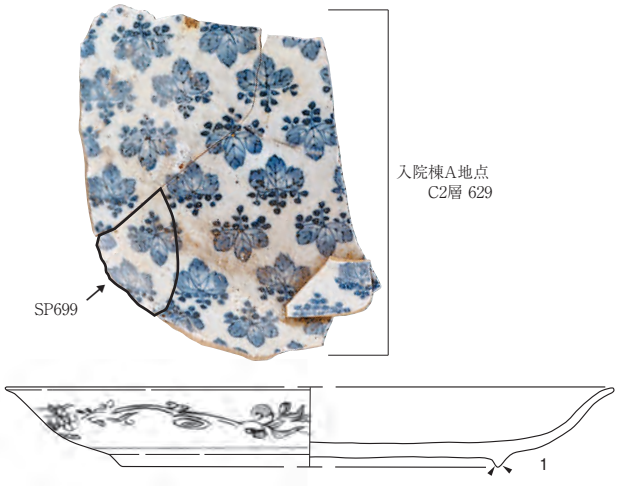
SX555·4059



SK585

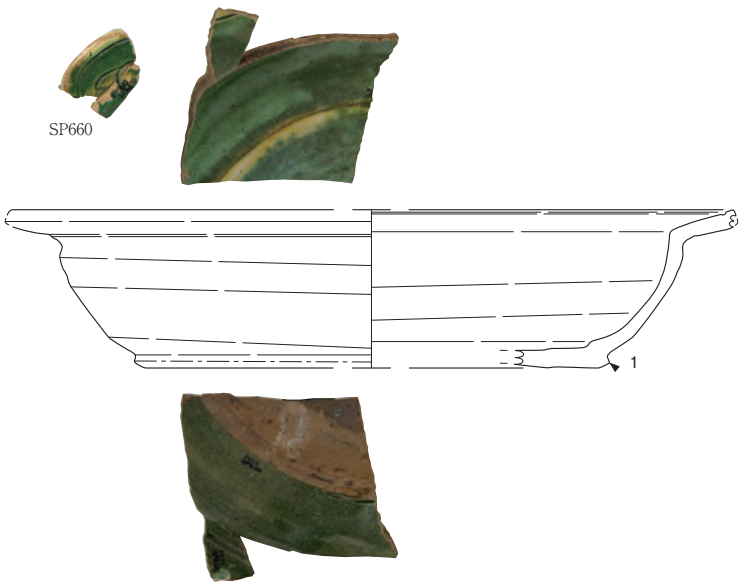


SX605



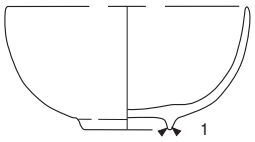
SP699

Ⅳ-34図　SK554、SX555·4059、SK585、SX605、SP699

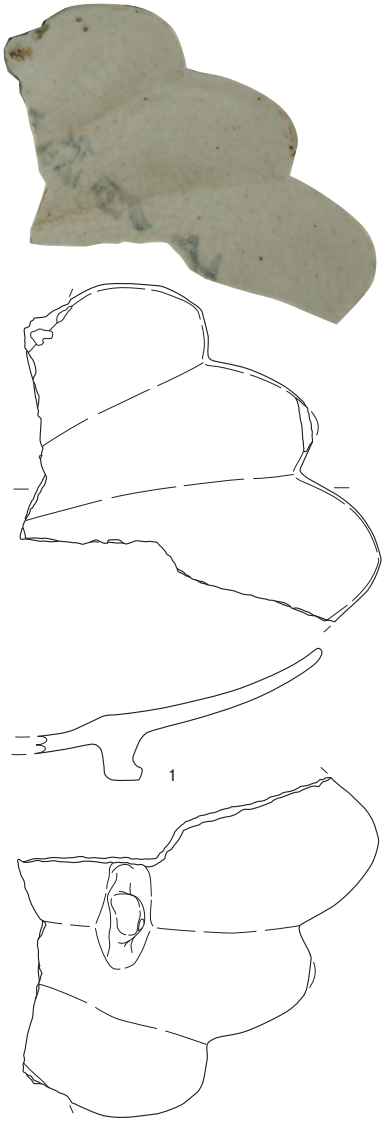


SK609、SP660

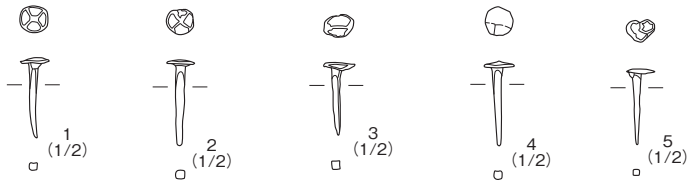
SK769、SP4695



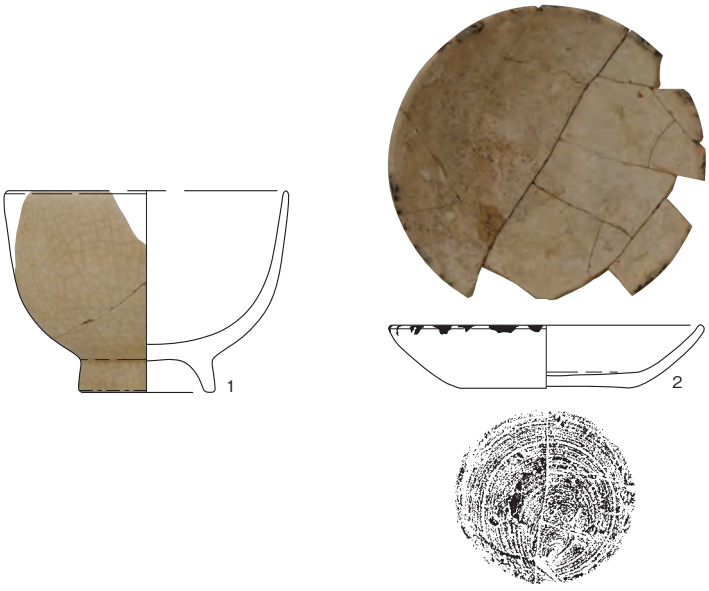
SP824･4064



SK865

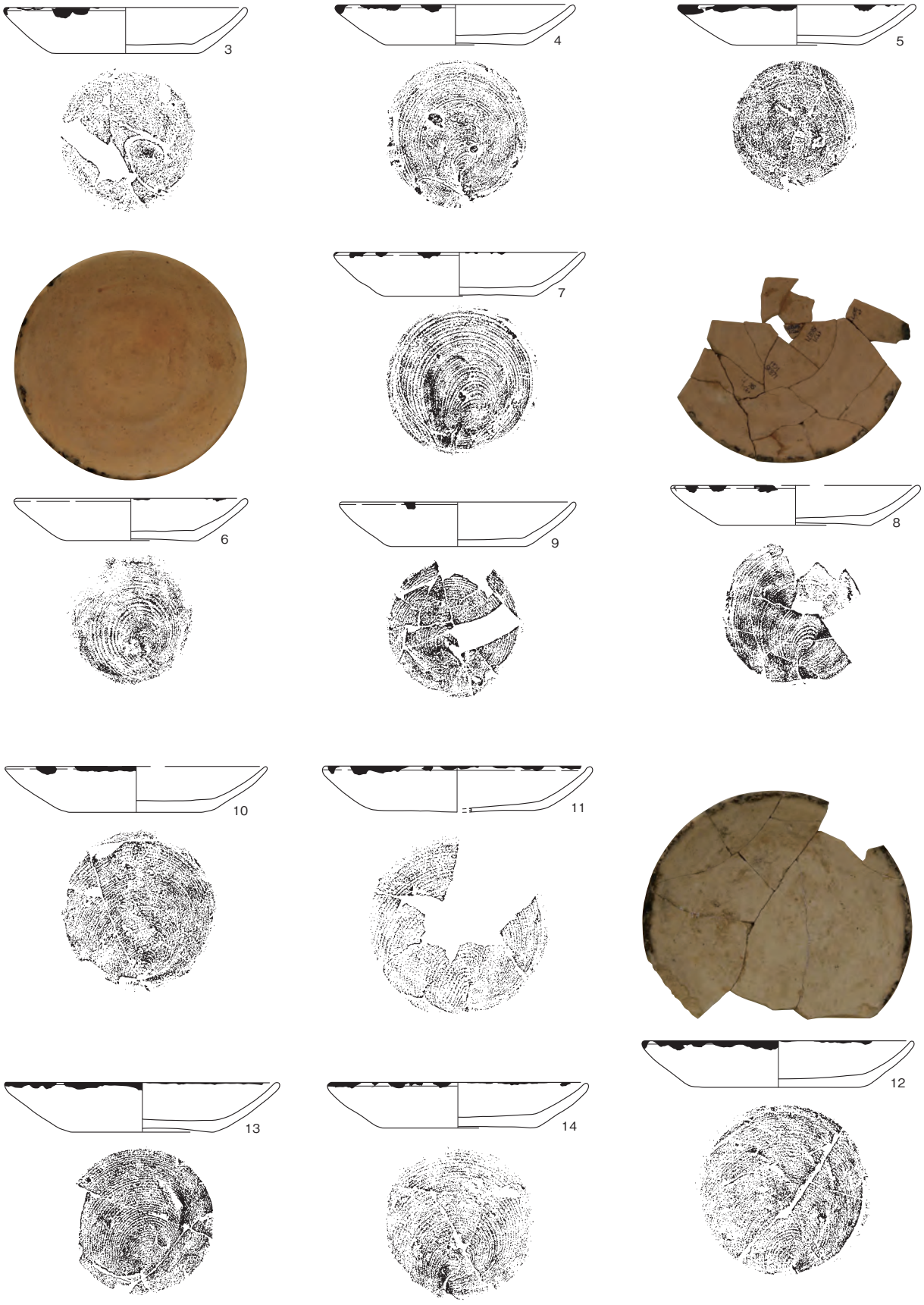


SP826

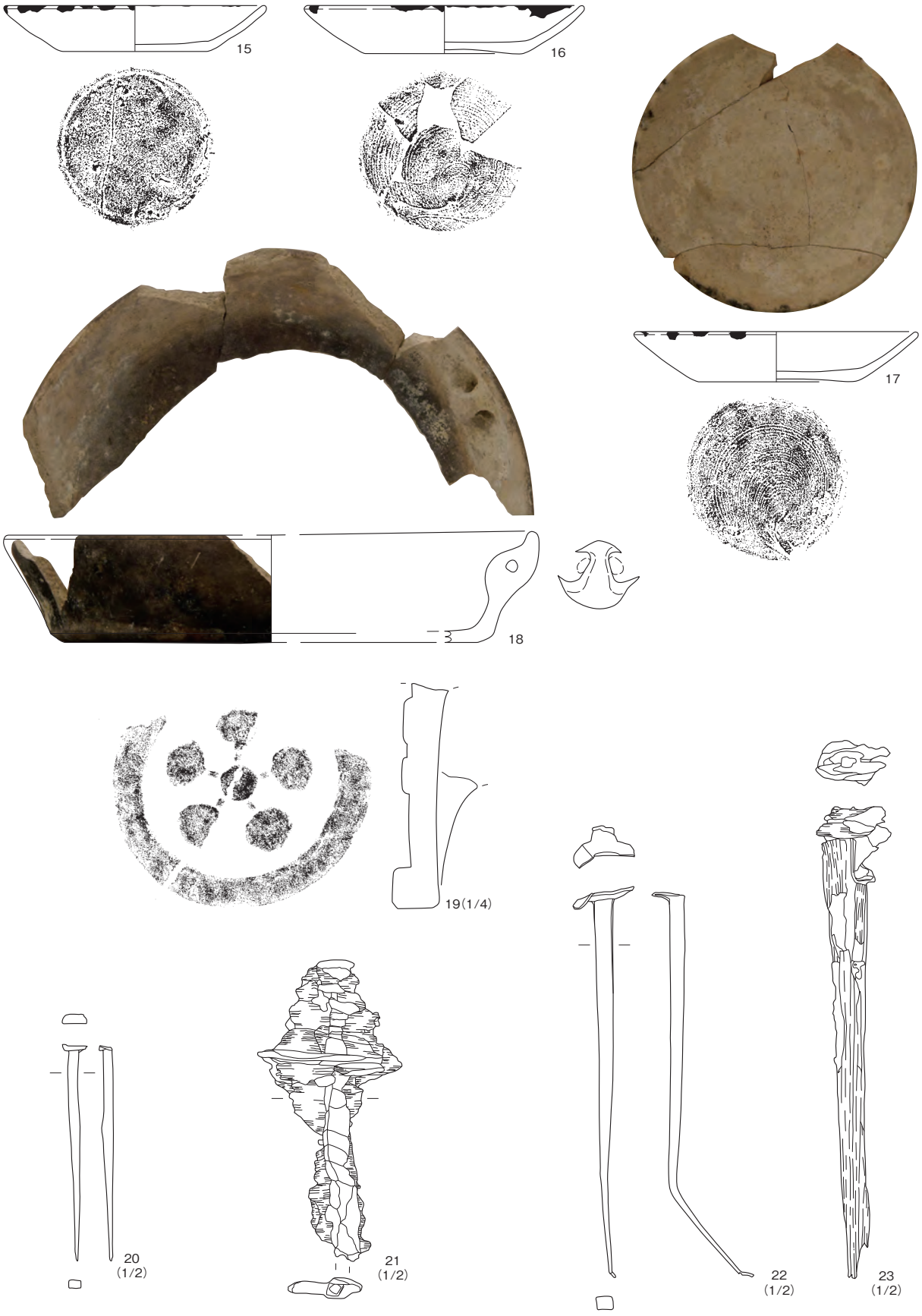


SK871(1)

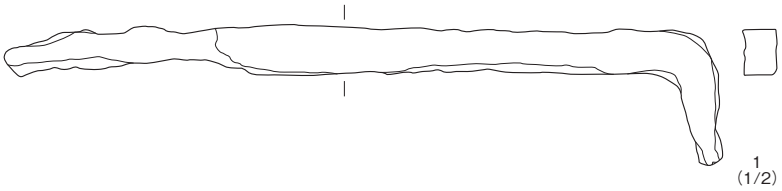
Ⅳ-35図　SK609、SP660、SK769、SP824･4064、SP826、SK865、SK871、SP4695(1)



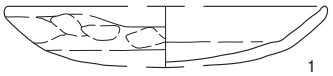
Ⅳ-36図　SK871(2)



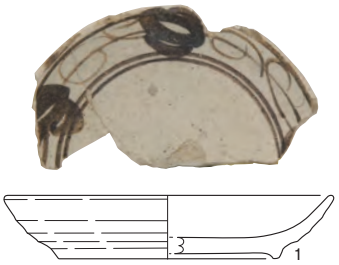
Ⅳ-37図　SK871(3)

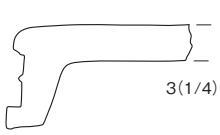


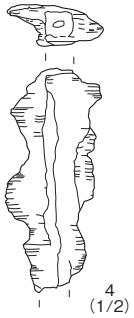
SK882



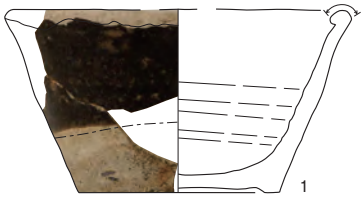
SK889



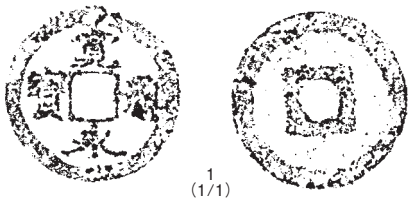




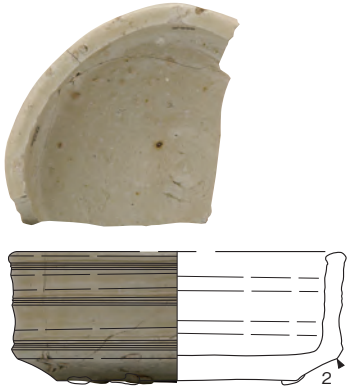
SP891

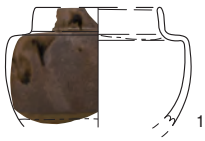


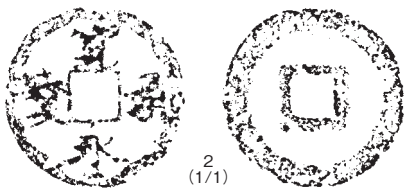
SP895



SP918

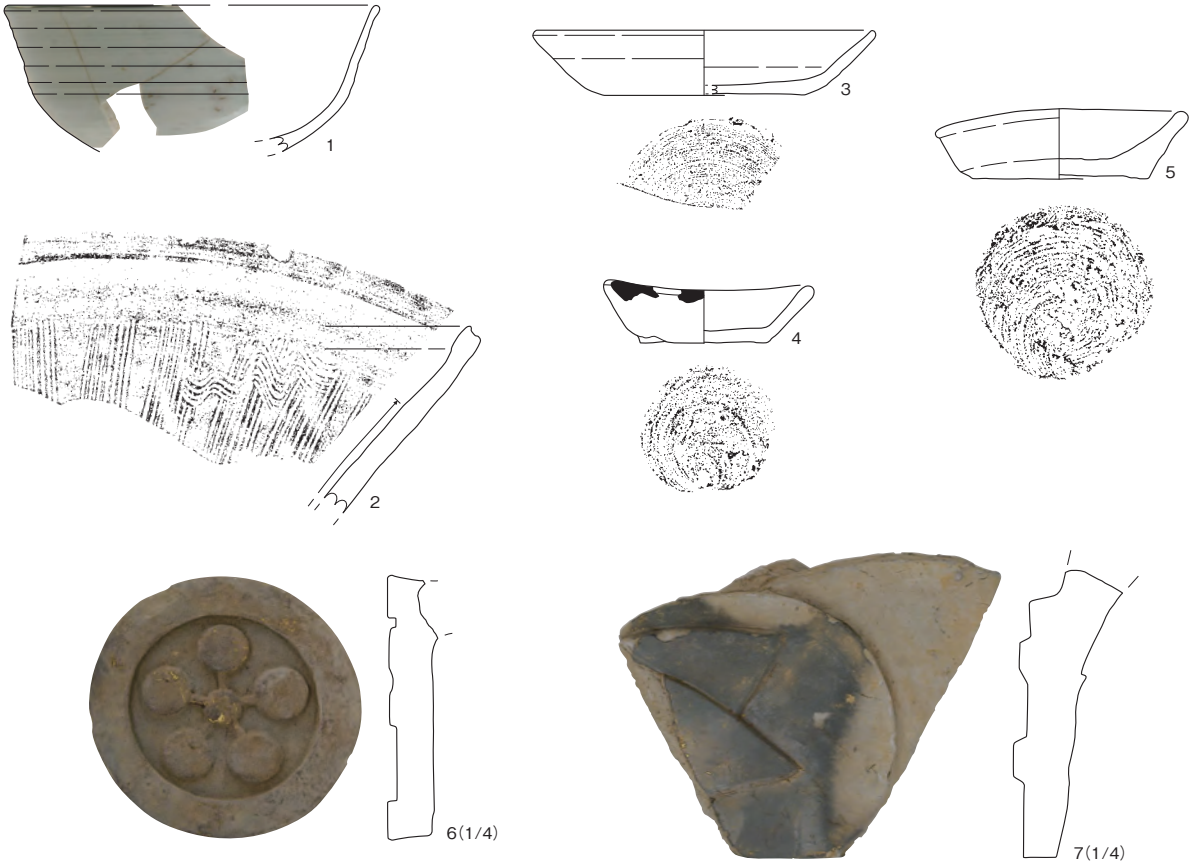




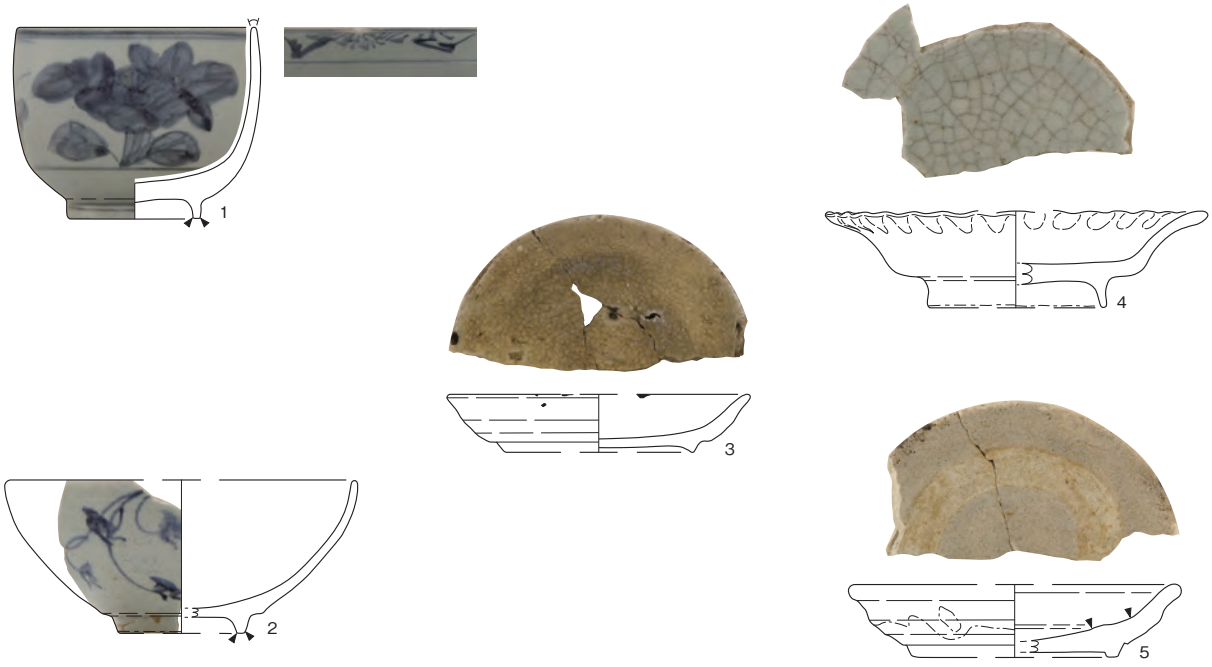


SK933

Ⅳ-38図　SK882、SK889、SP891、SP895、SK918、SK933

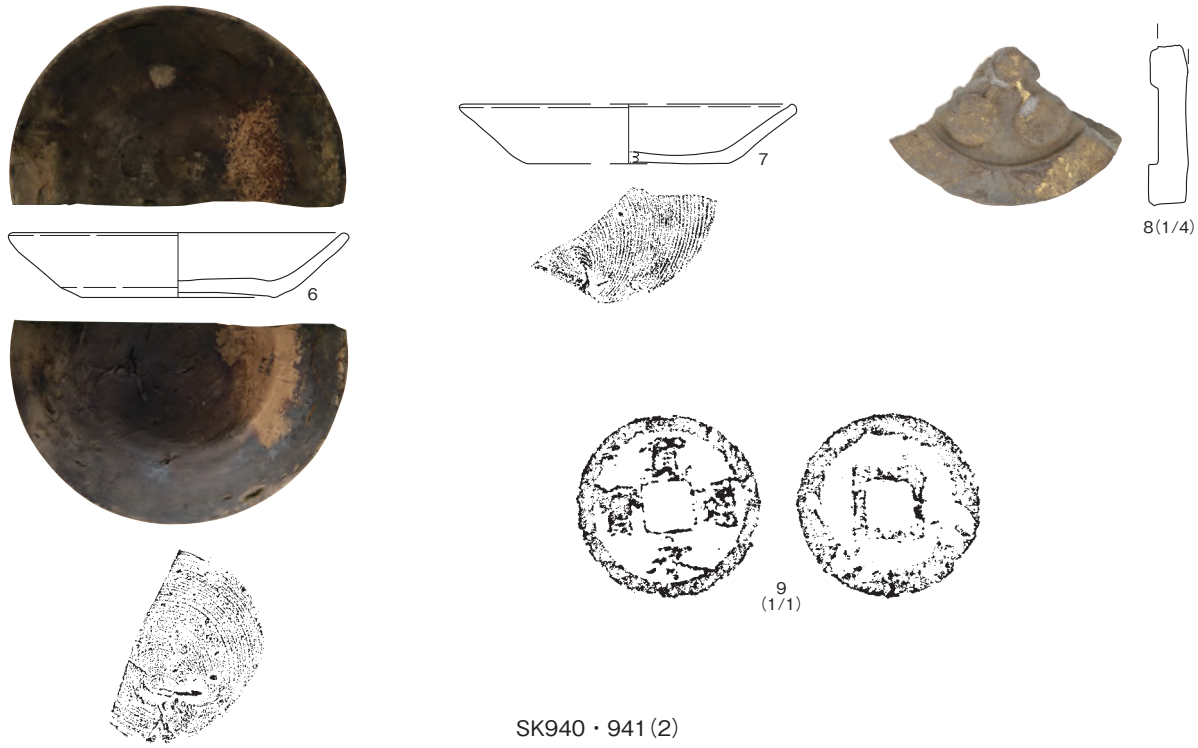


SK938



SK940･941(1)

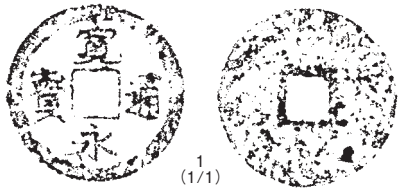
Ⅳ-39図　SK938、SK940･941(1)



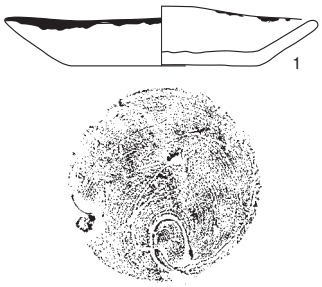
SK940・941(2)

SK940・941、SK961

SK961

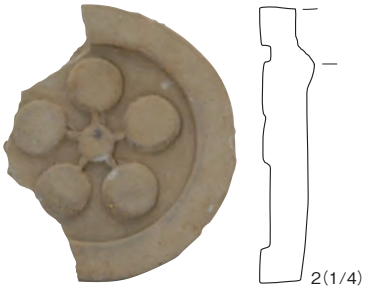


SK950

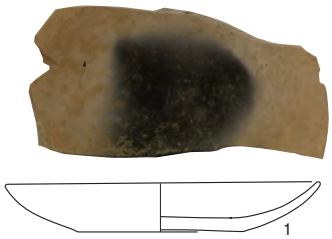


SD952

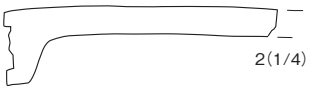
Ⅳ-40図　SK940·941(2)、SK961、SK950、SD952

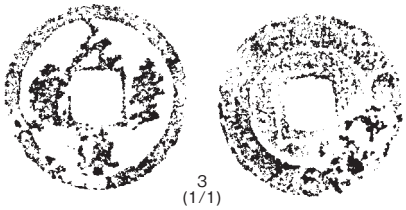


SK954

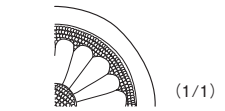


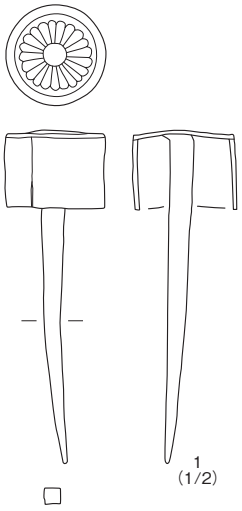
SK955･4671





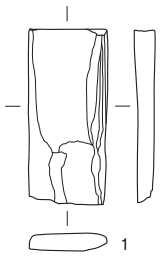
SK978･4290



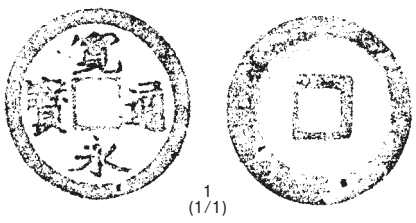


SK984

SE990

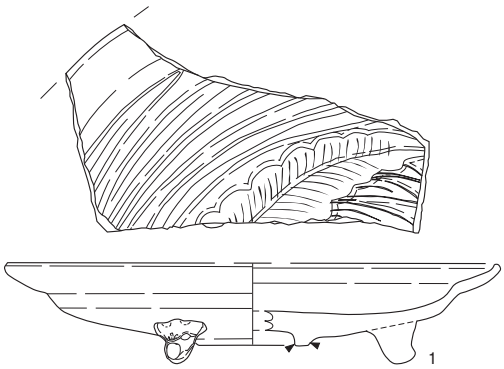


SP1006



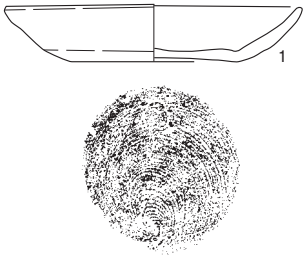
SK1007

Ⅳ-41図　SK954、SK955･4671、SK978･4290、SK984、SE990、SP1006、SK1007

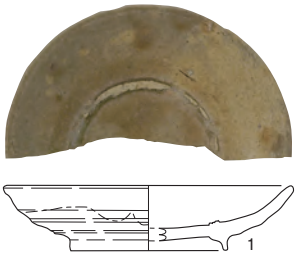


SK1008

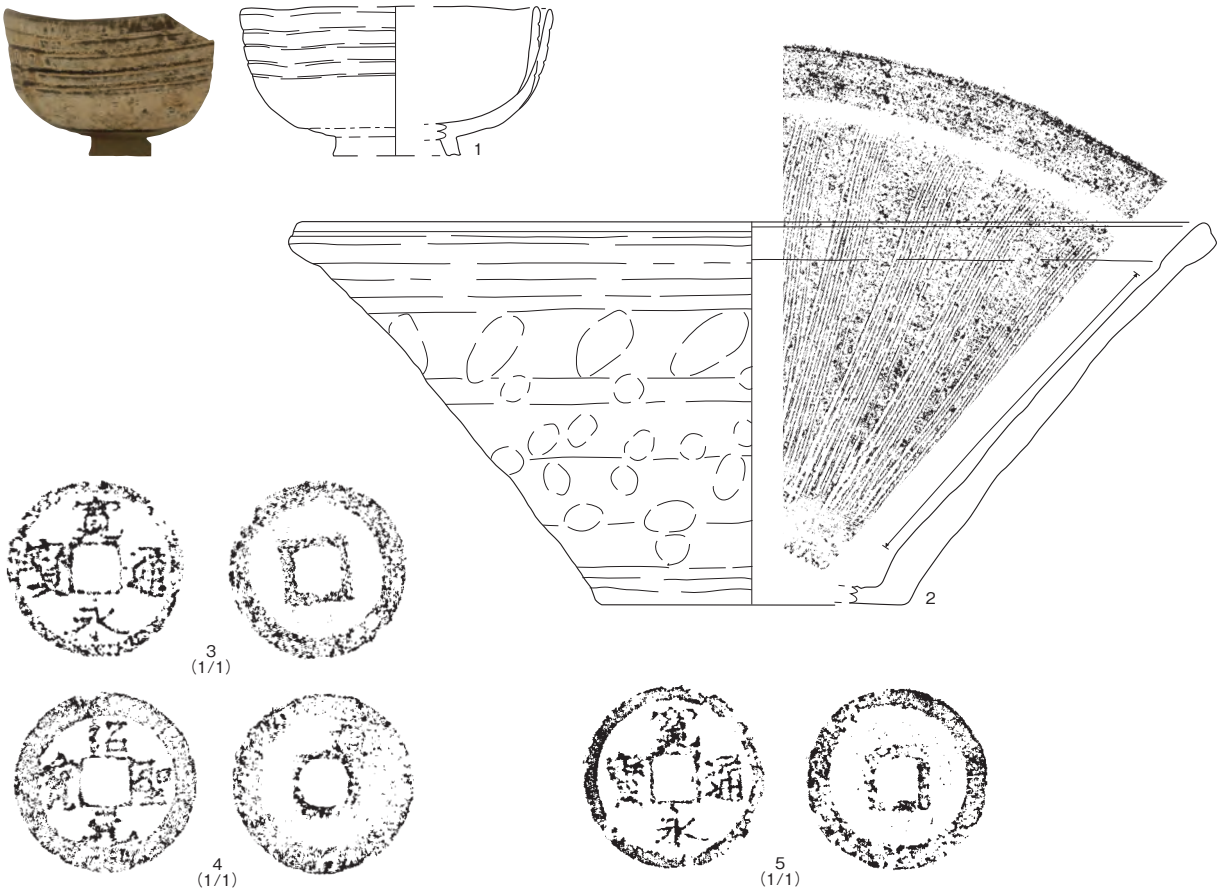
SP1026



SP1043

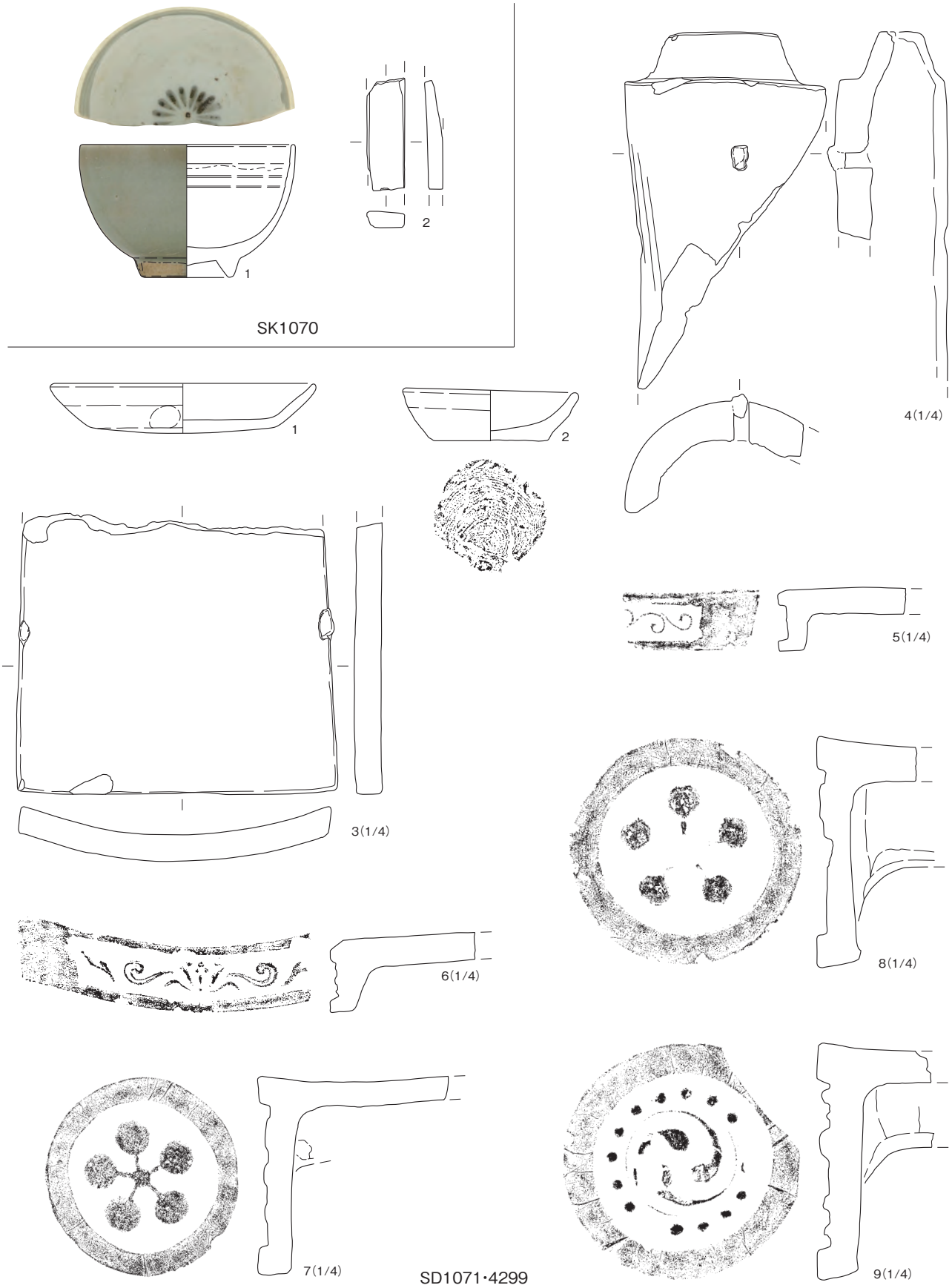


SK1050

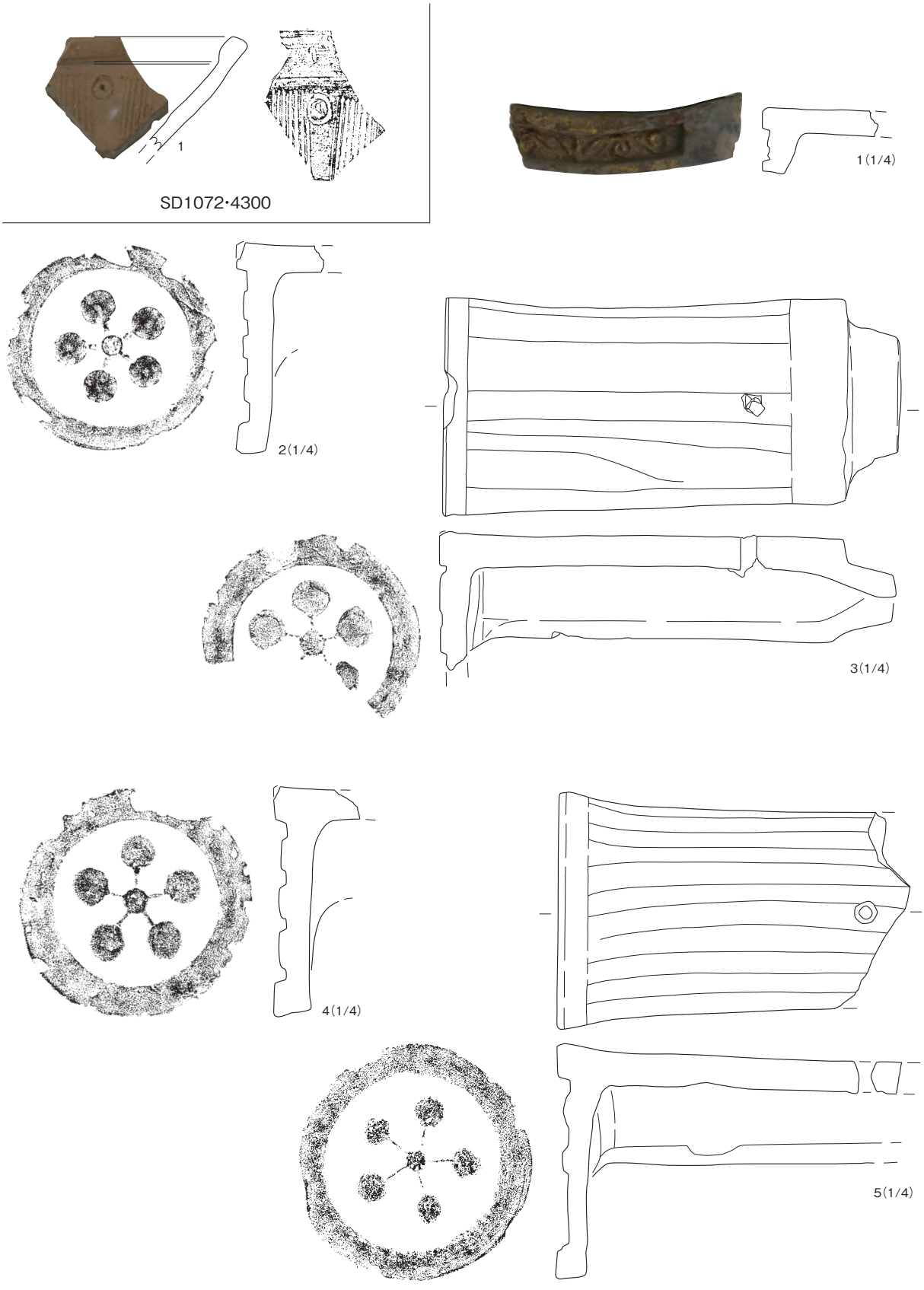


SK1063

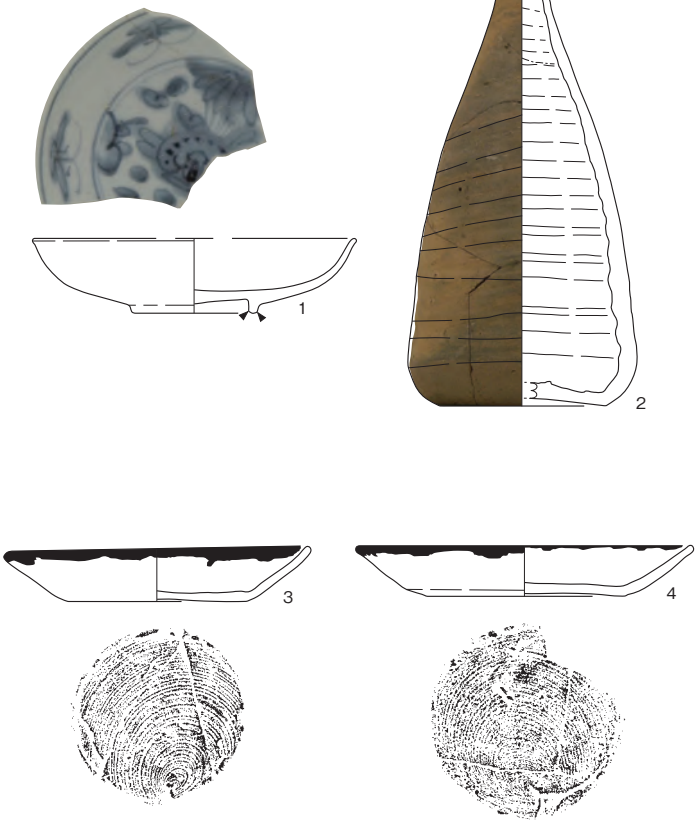
Ⅳ-42図　SK1008、SP1026、SP1043、SK1050、SK1063



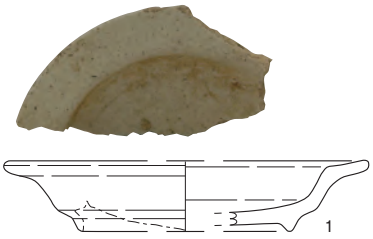
Ⅳ-43図　SK1070、SD1071・4299



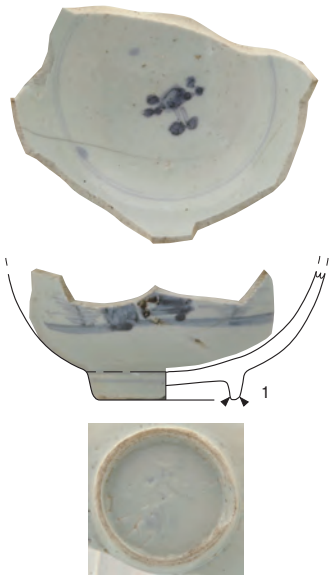
Ⅳ-44図　SD1072・4300、SK1091



SK1104

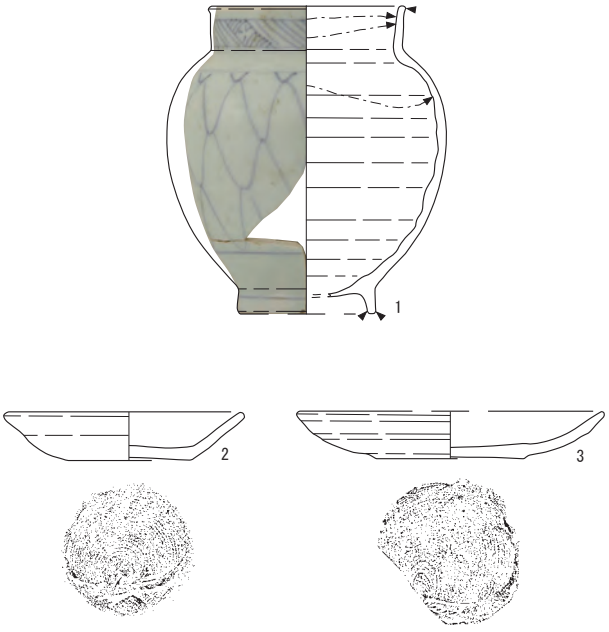


SK1134



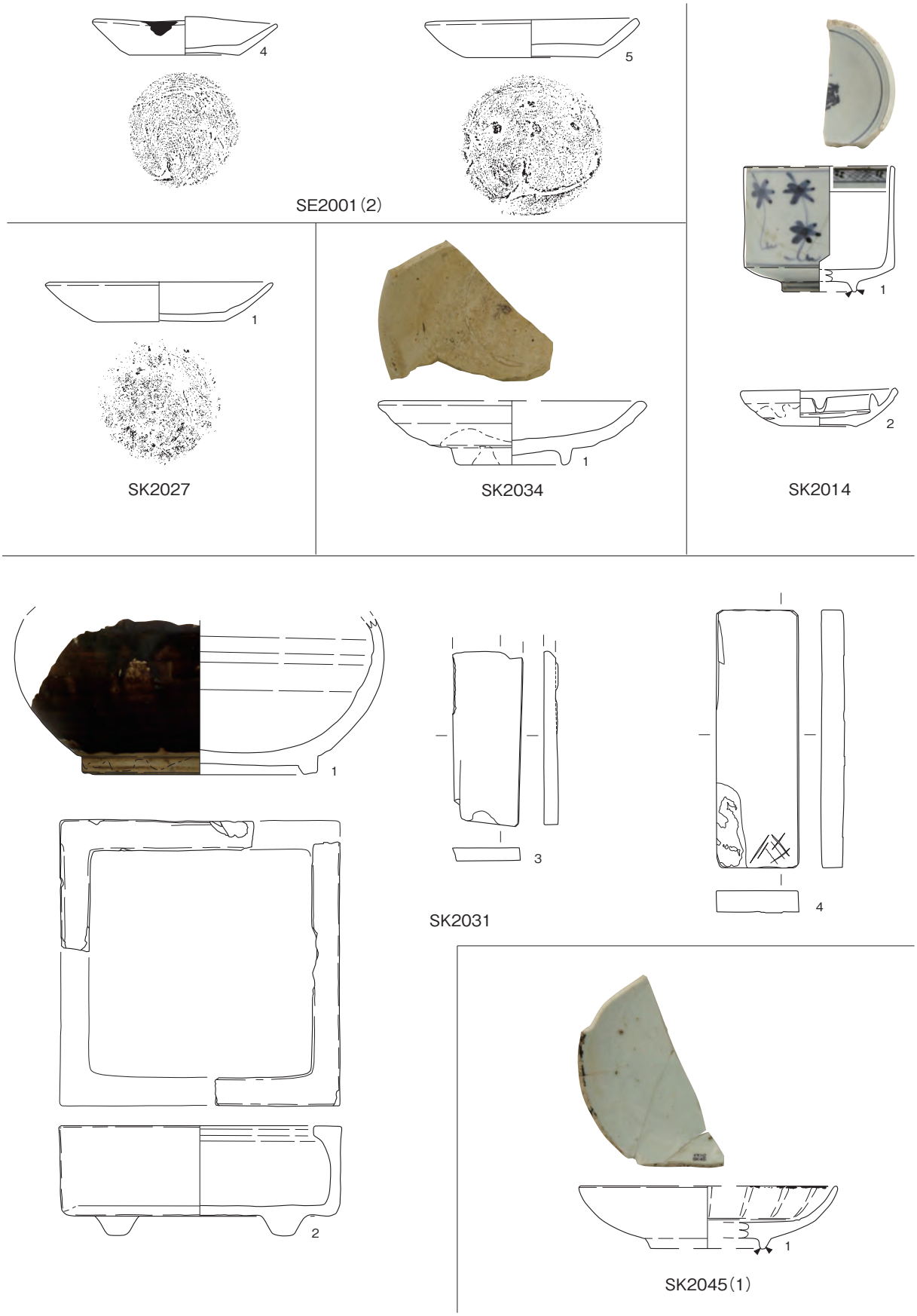
SP1135

SD1211･4426

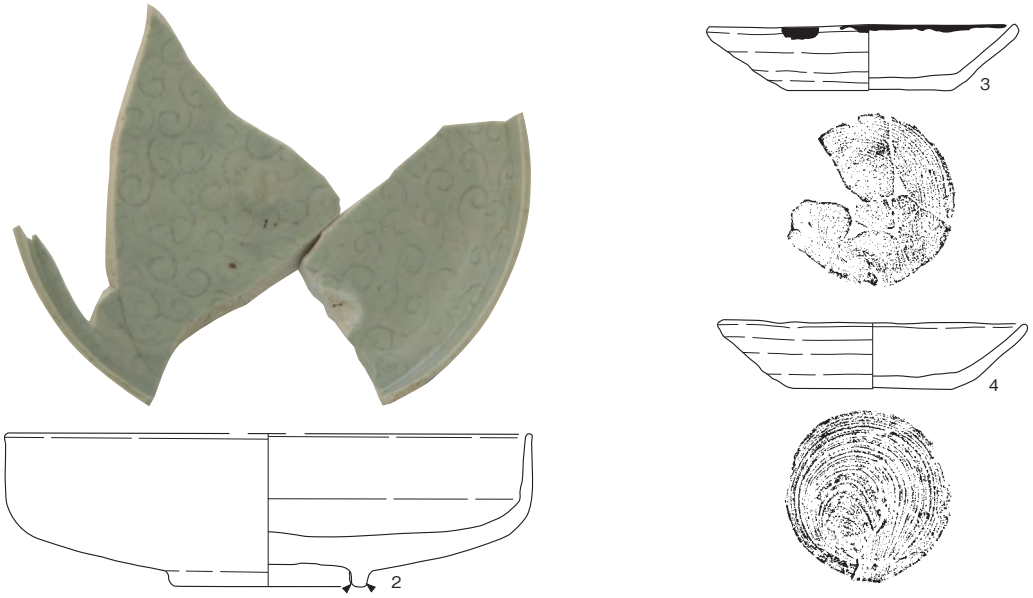


SE2001（1）

Ⅳ-45図　SK1104、SK1134、SP1135、SD1211･4426、SE2001（1）

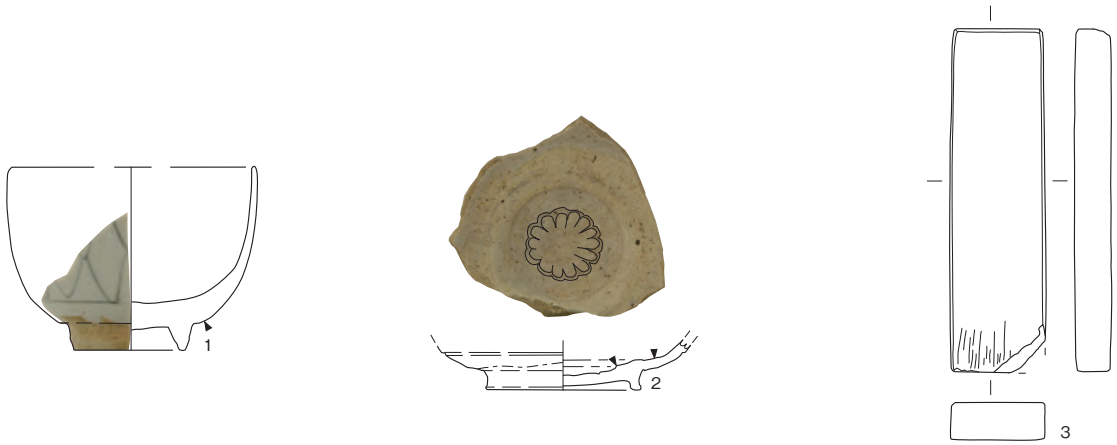


Ⅳ-46図　SE2001(2)、SK2014、SK2027、SK2031、SK2034、SK2045(1)



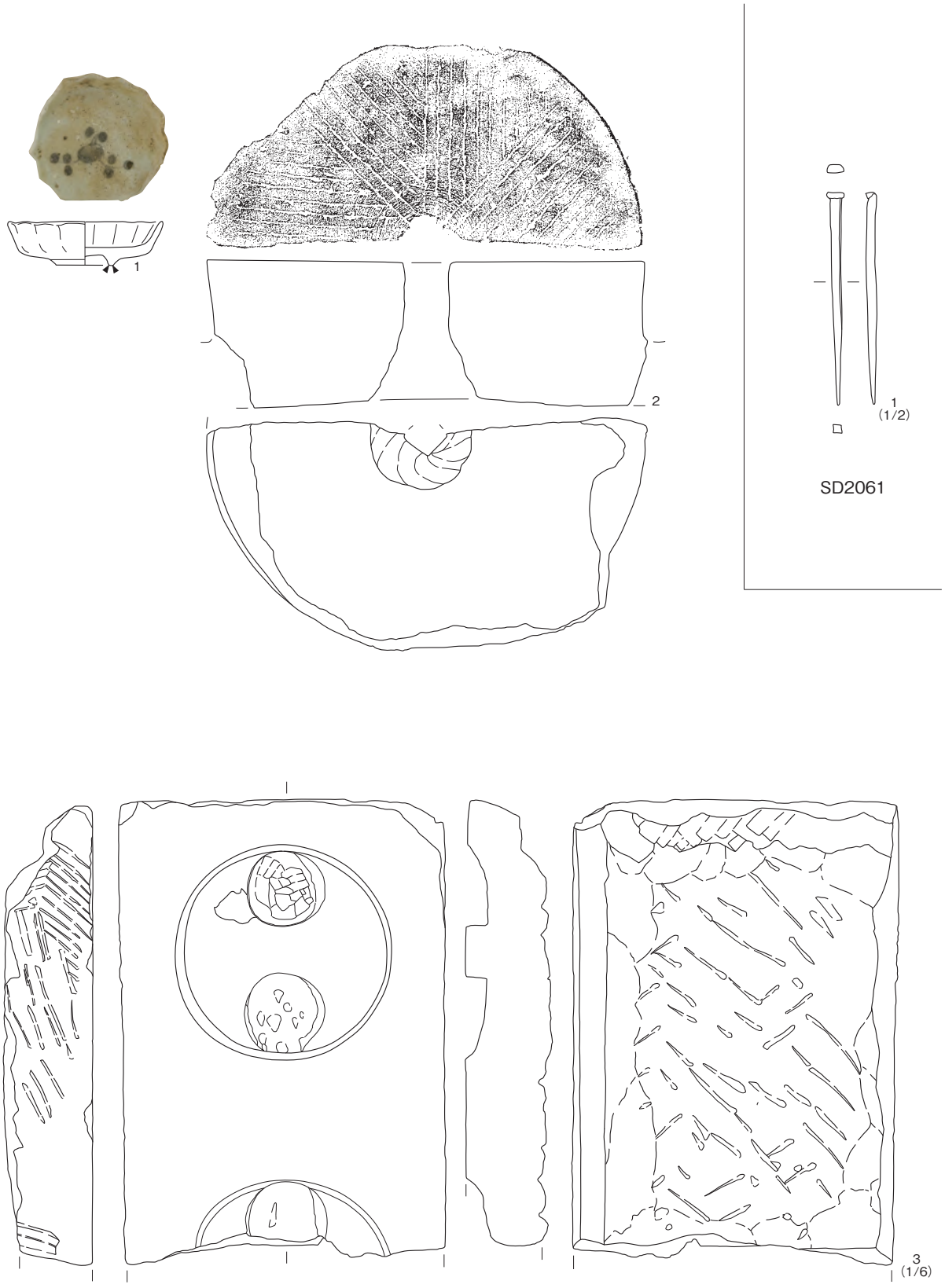
SK2045(2)

SK2049

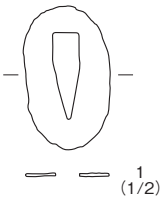


SU2052

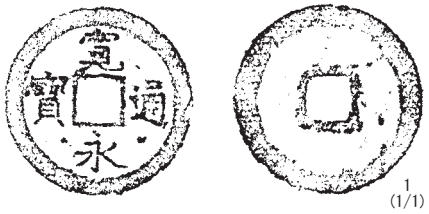
Ⅳ-47図　SK2045(2)、SK2049、SU2052



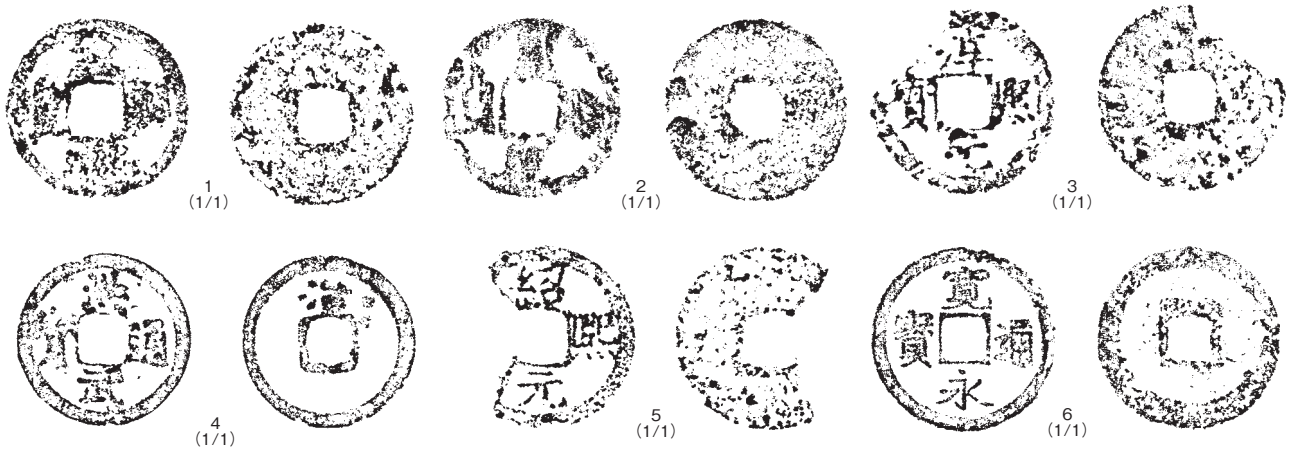
Ⅳ-48図　SD2058、SD2061



SD2062･2085
･3012



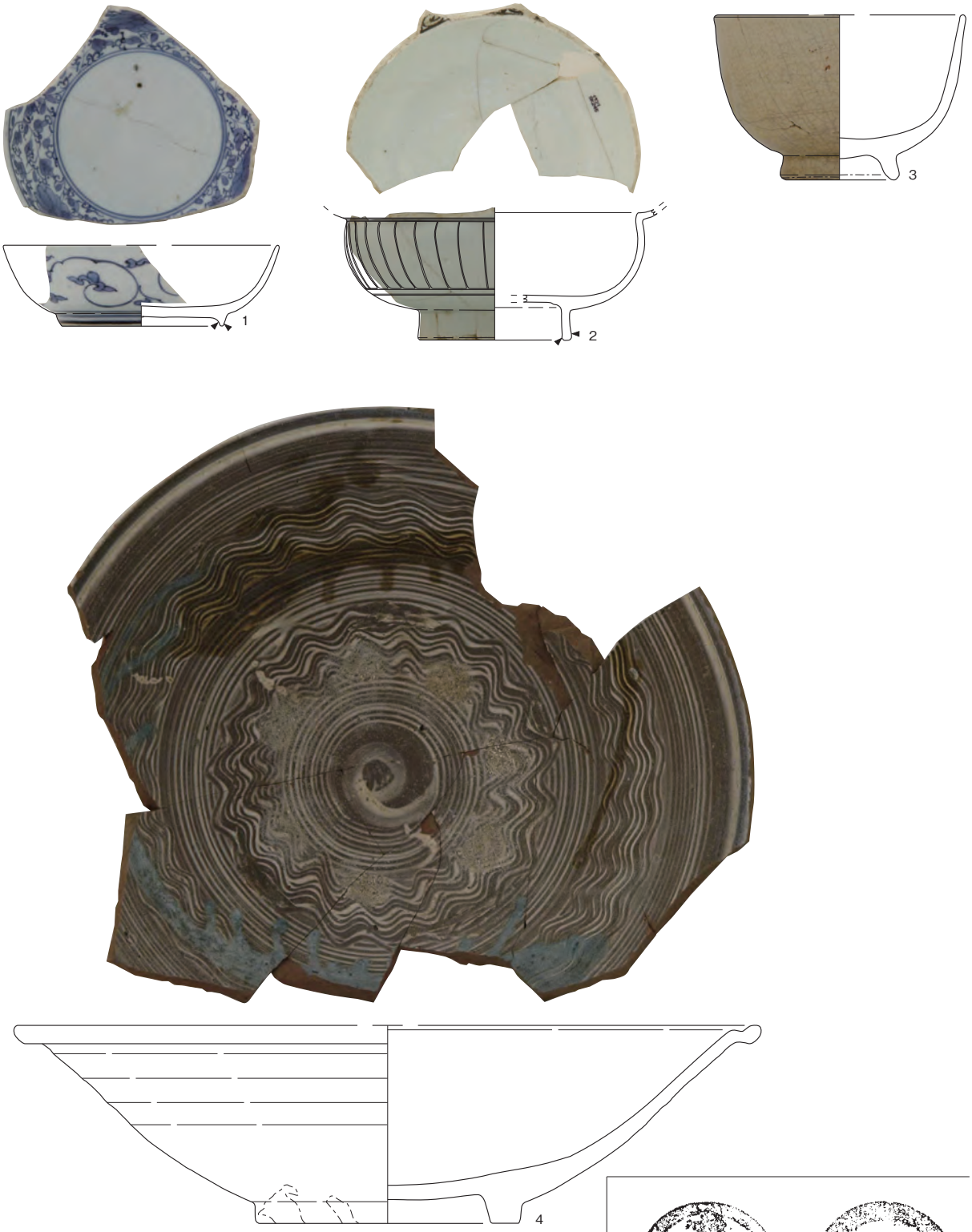
SP2093･3086



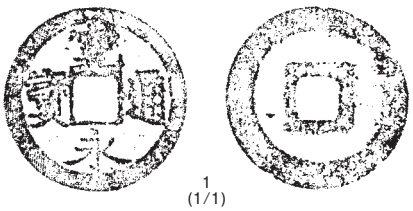
SD2096

SK2097･3082

Ⅳ-49図　SD2062･2085･3012、SP2093･3086、SD2096、SK2097･3082

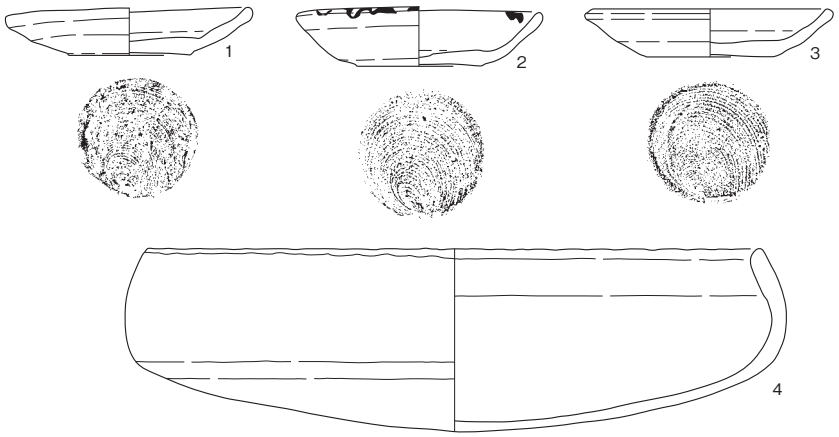


SK2121

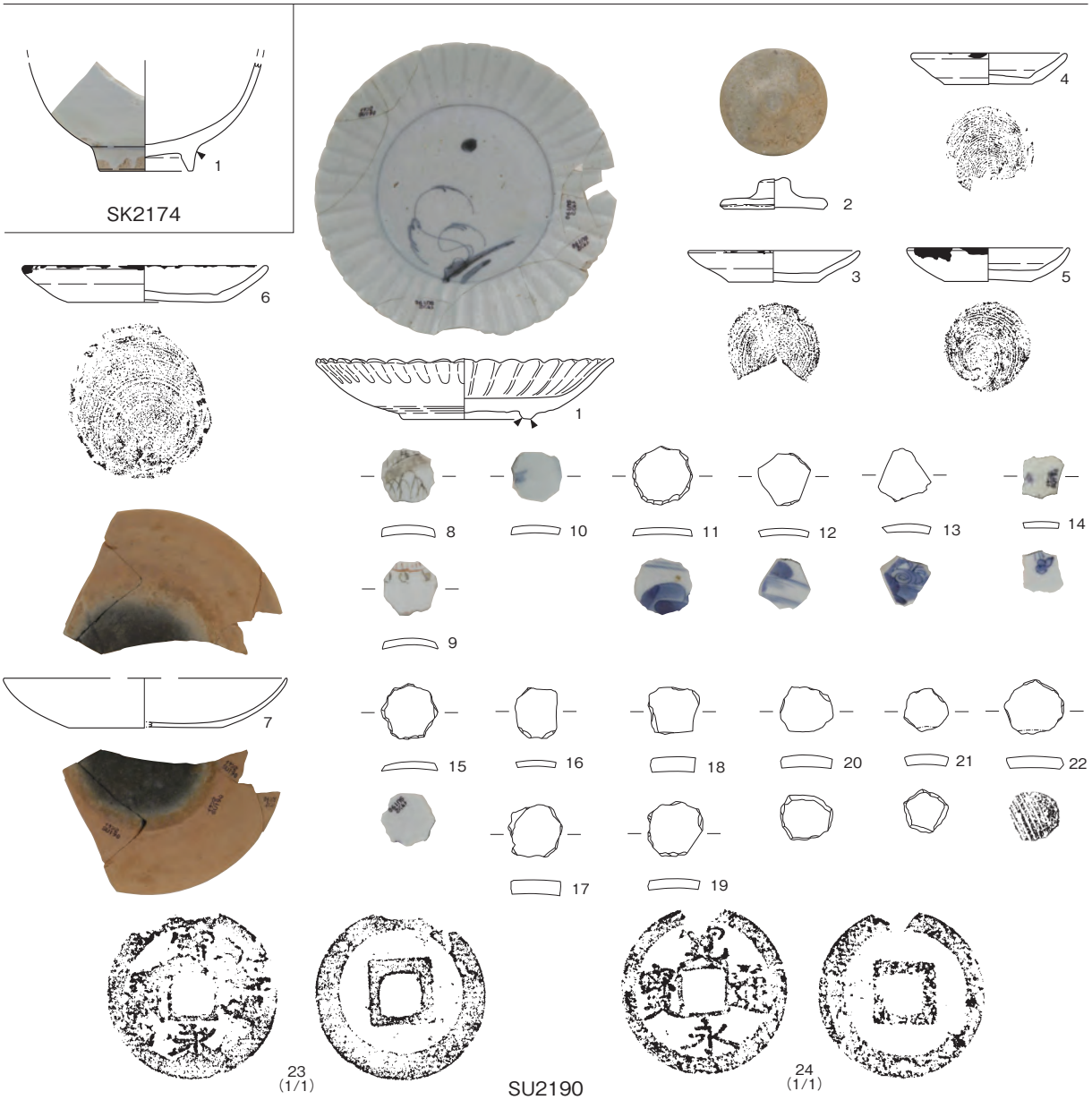


1
(1/1)
SK2143

Ⅳ-50図　SK2121、SK2143

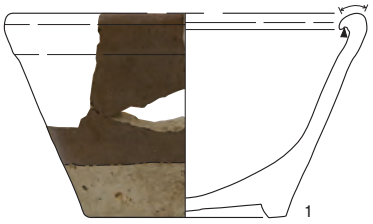


SD2152

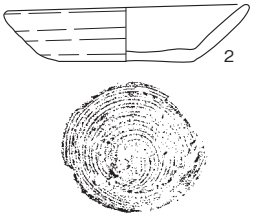


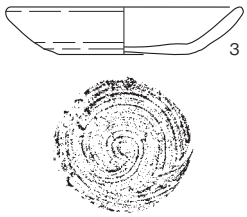
SU2190

Ⅳ-51図　SD2152、SK2174、SU2190

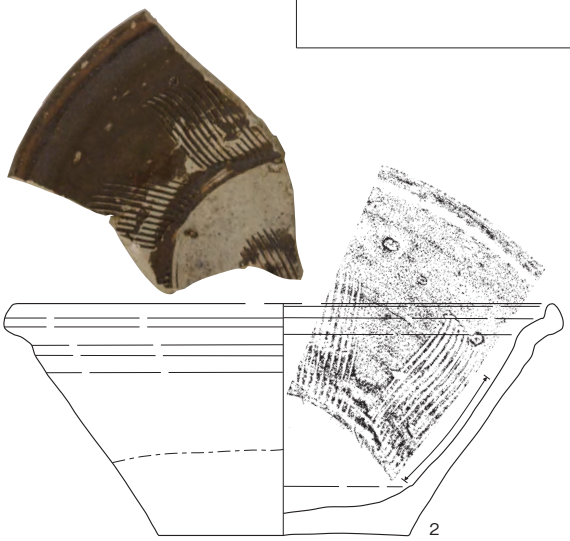


SK2251

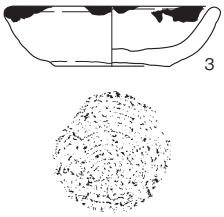




SD2260

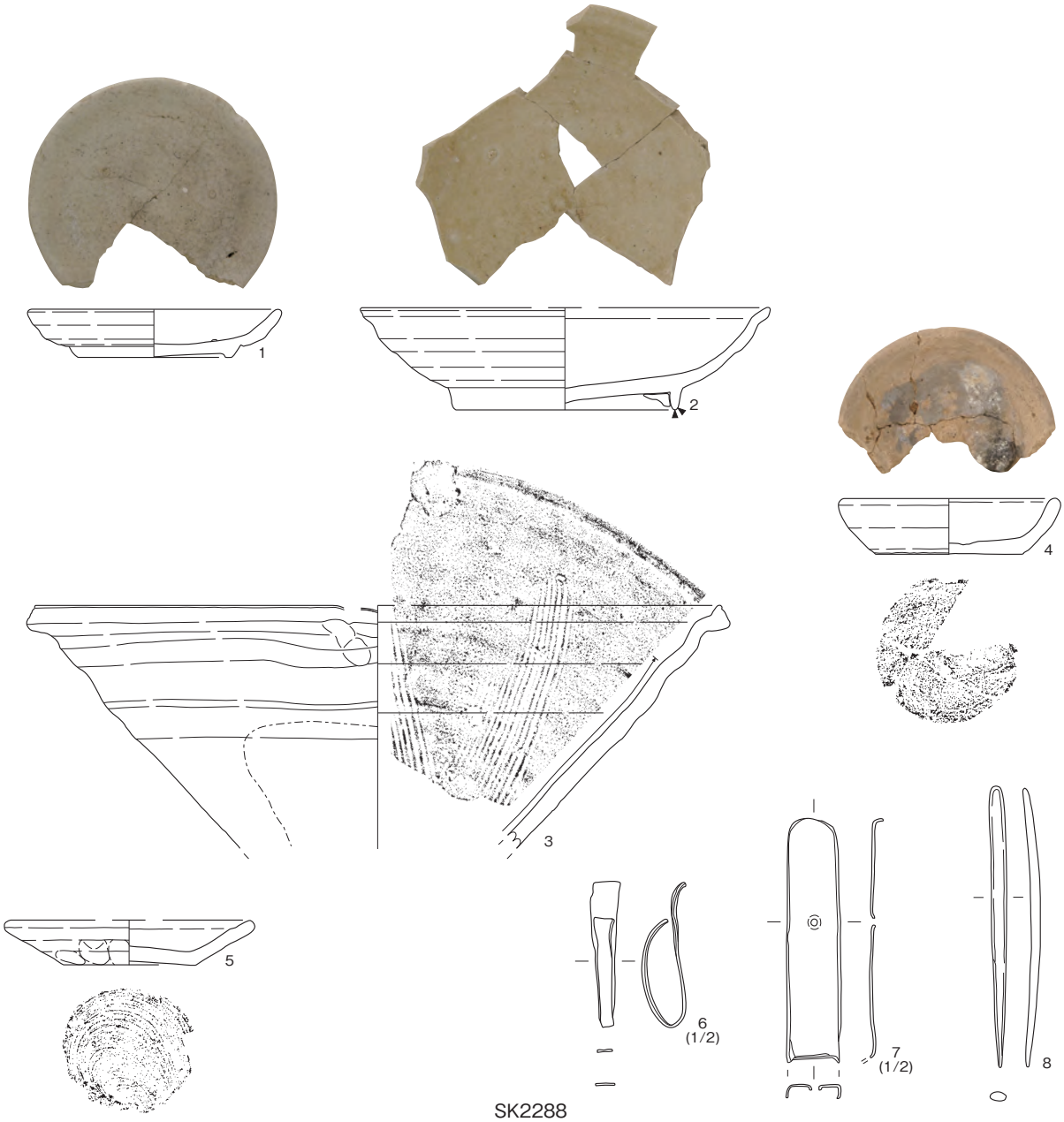


SK2192

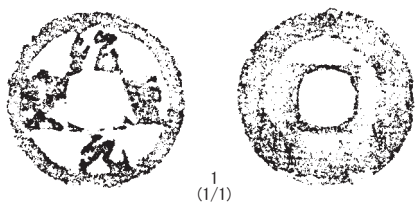


SK2266･3243

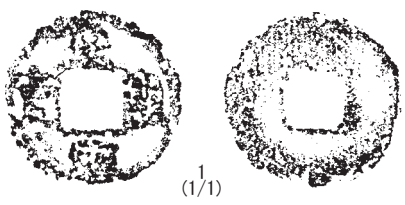
Ⅳ-52図　SK2192、SK2251、SD2260、SK2266･3243



SK2288

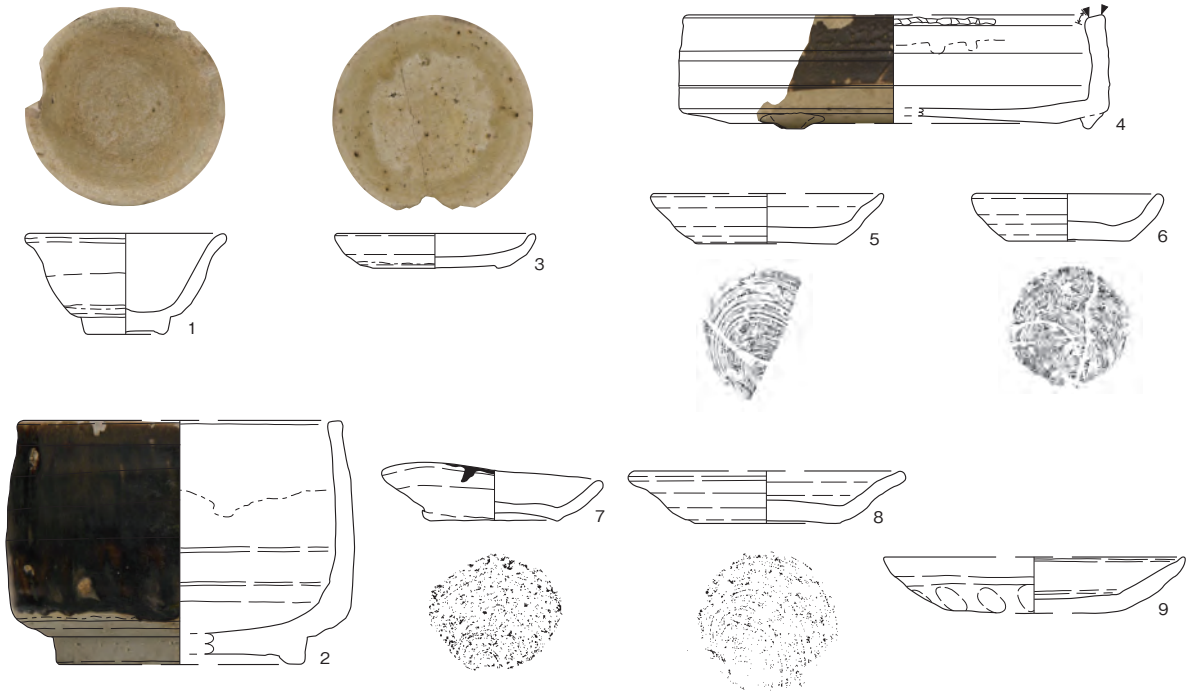


SP2373

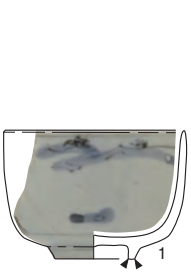


SK2381

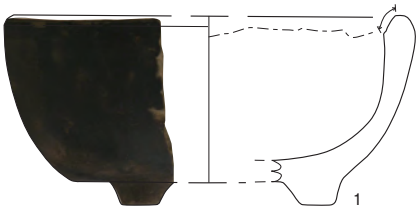
Ⅳ-53図　SK2288、SP2373、SK2381



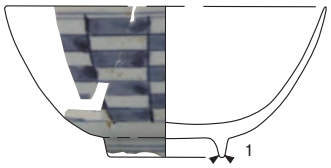
SK2416･3097

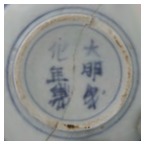


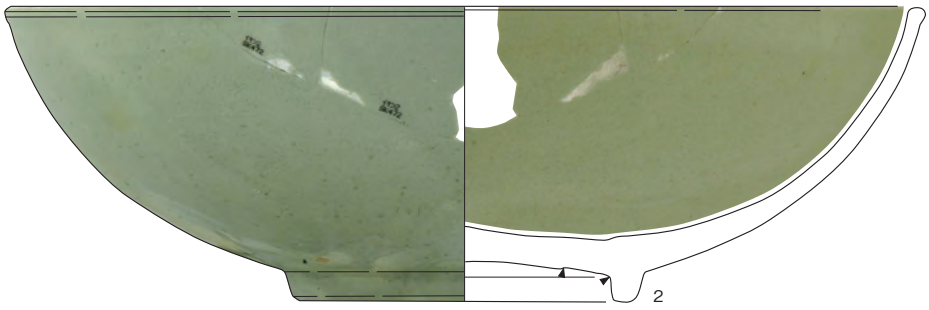
SK2419



SK2425

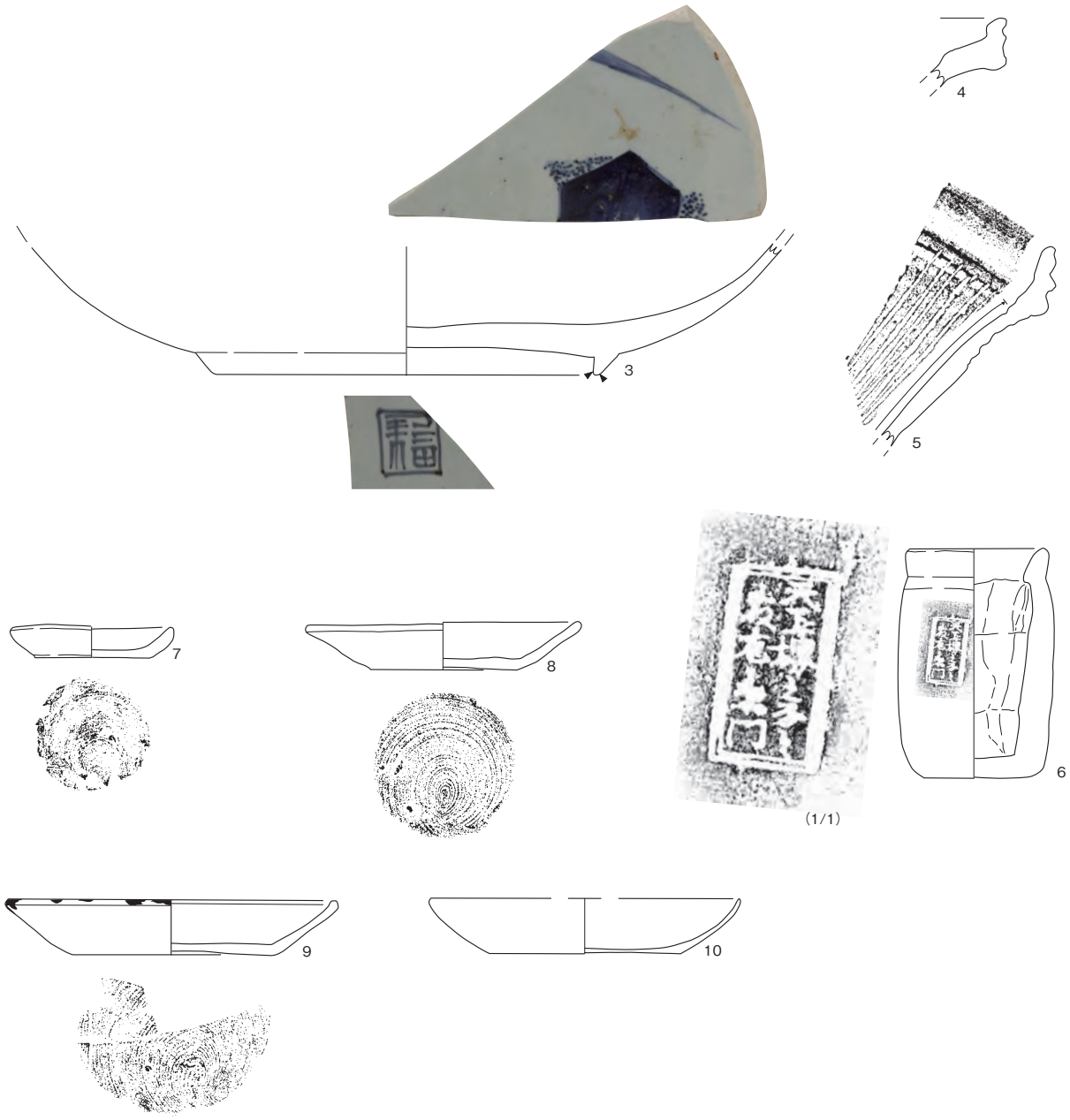






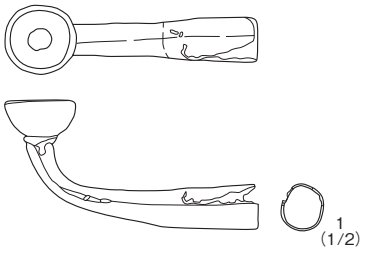
SK2472(1)

Ⅳ-54図　SK2416･3097、SK2419、SK2425、2472(1)



SK2472(2)

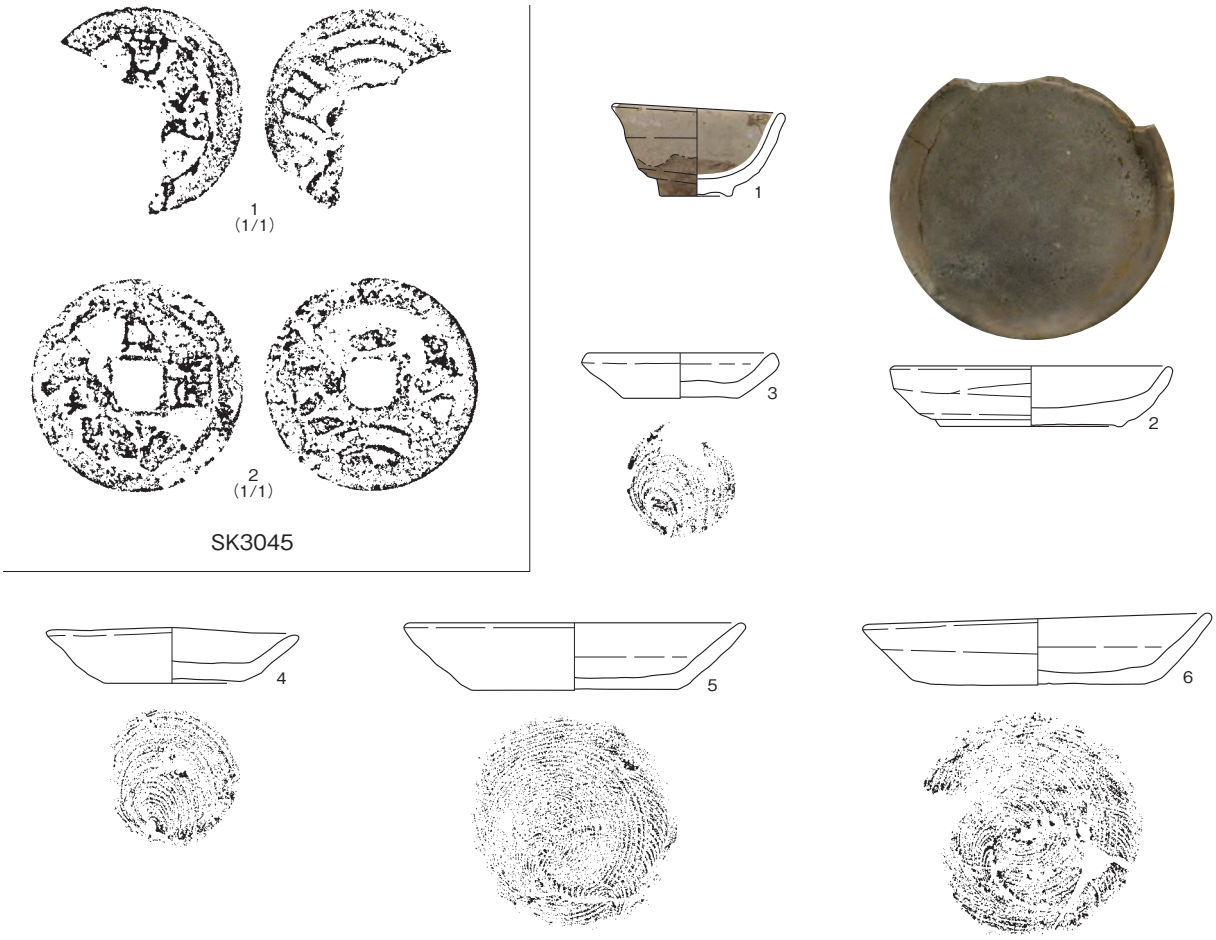
SK2486



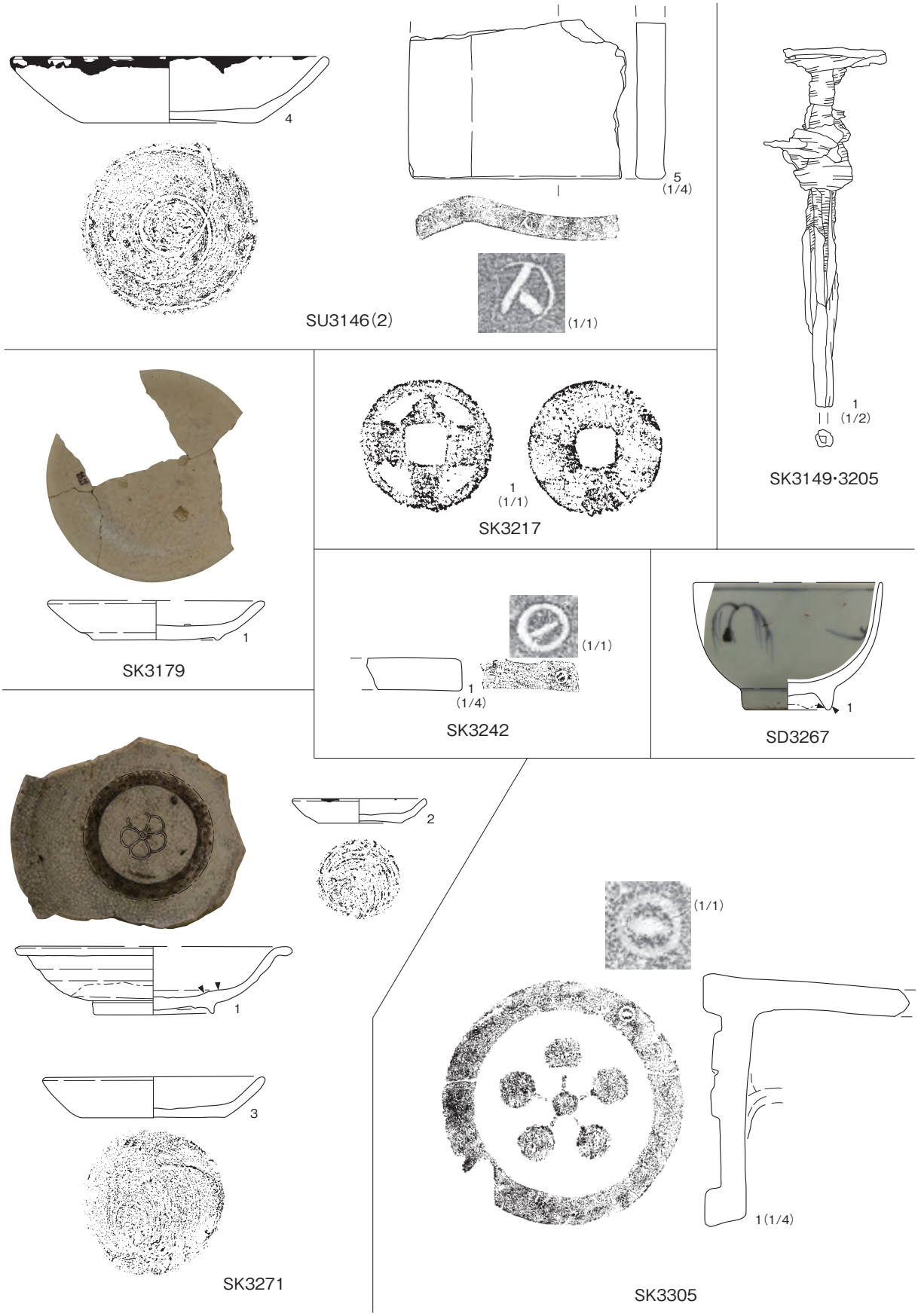
SD2496

Ⅳ-55図　SK2472(2)、SK2486、SD2496

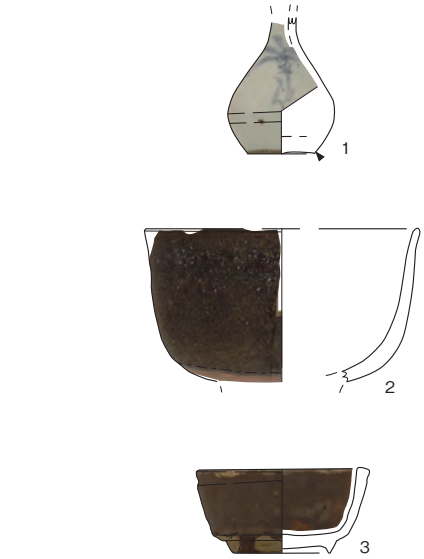
Ⅳ-56図　SK3014･3072



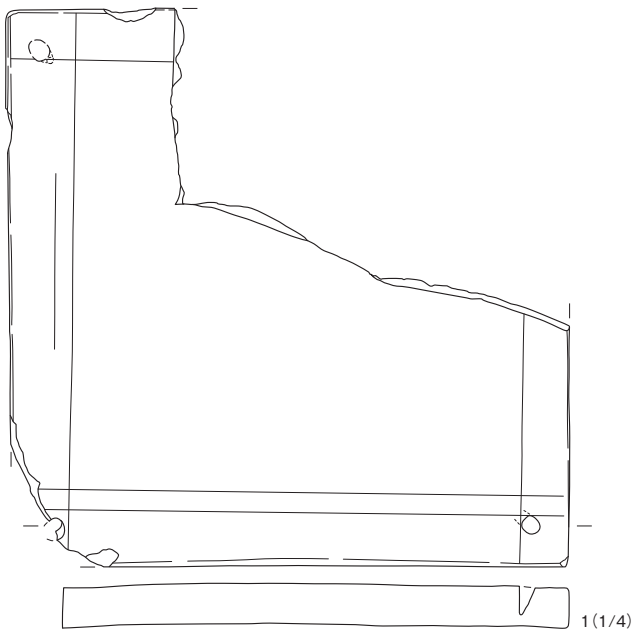
Ⅳ-57図　SK3045、SK3046、SK3120、SK3141、SU3146(1)

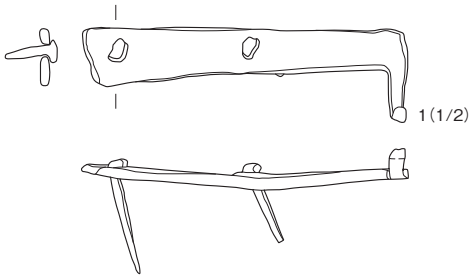


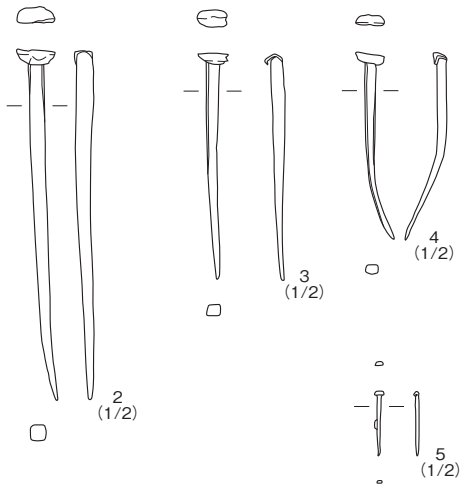
Ⅳ-58図　SU3146(2)、SK3149·3205、SK3179、SK3217、SK3242、SD3267、SK3271、SK3305

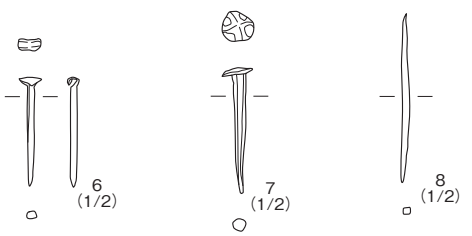


SK3331

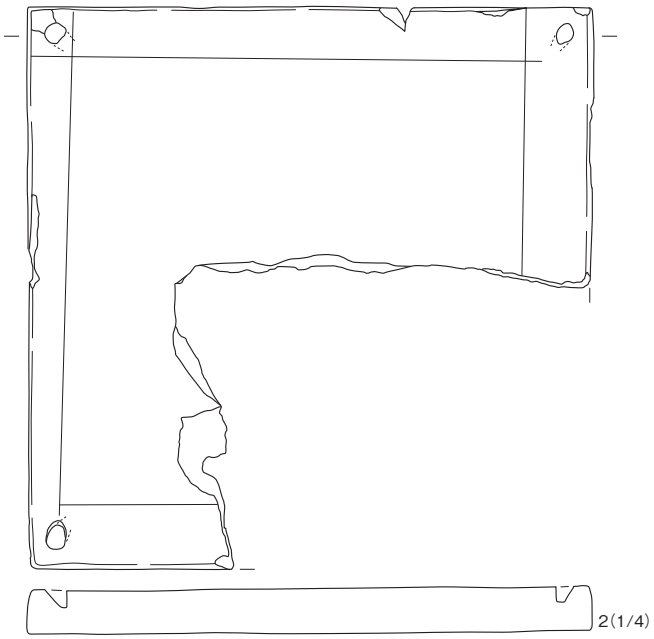




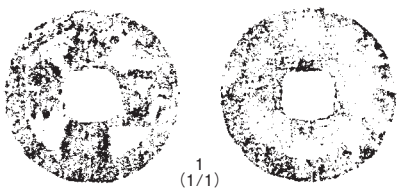




SX4014

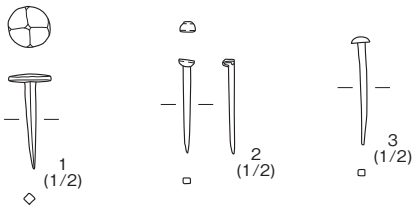


SU3333

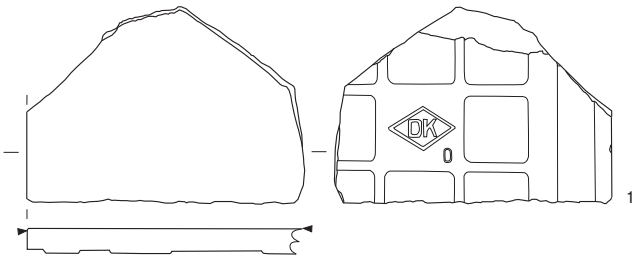


SK3377･3378

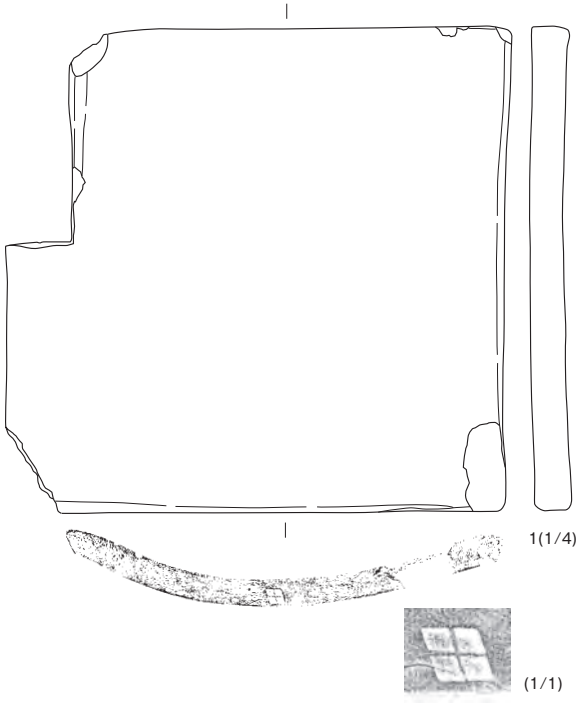
Ⅳ-59図　SK3331、SU3333、SK3377･3378、SX4014

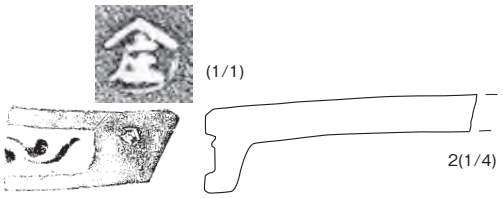


SK4030

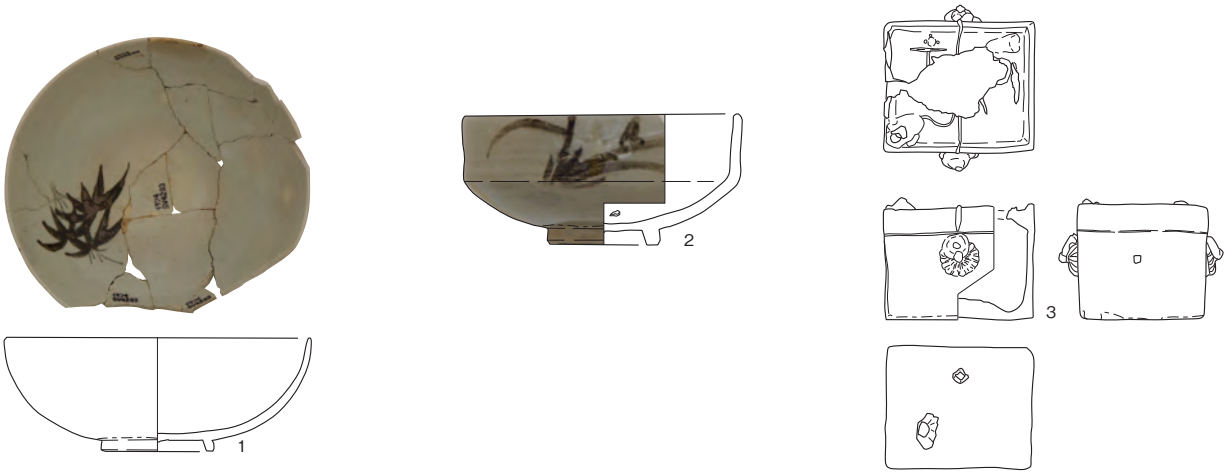


SE4075



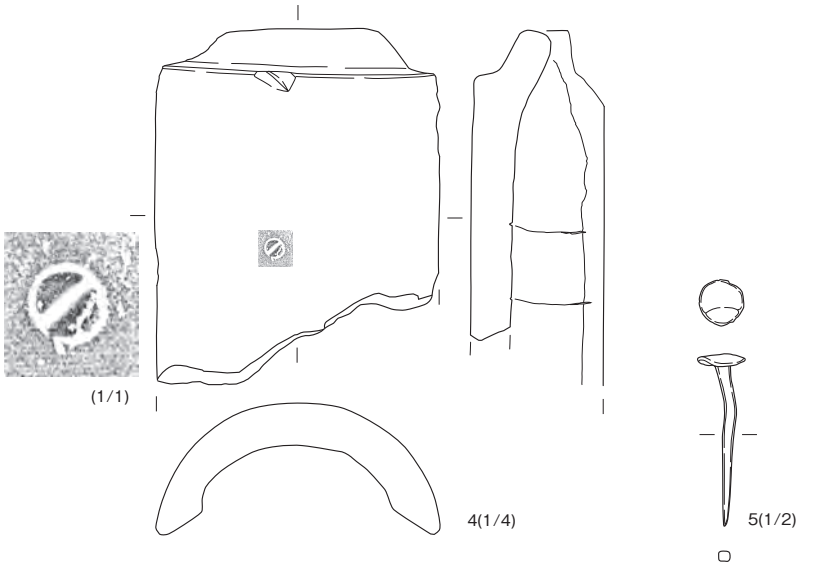


SK4124



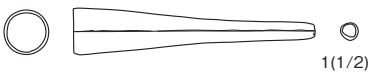
SU4203(1)

Ⅳ-60図　SK4030、SE4075、SK4124、SU4203(1)

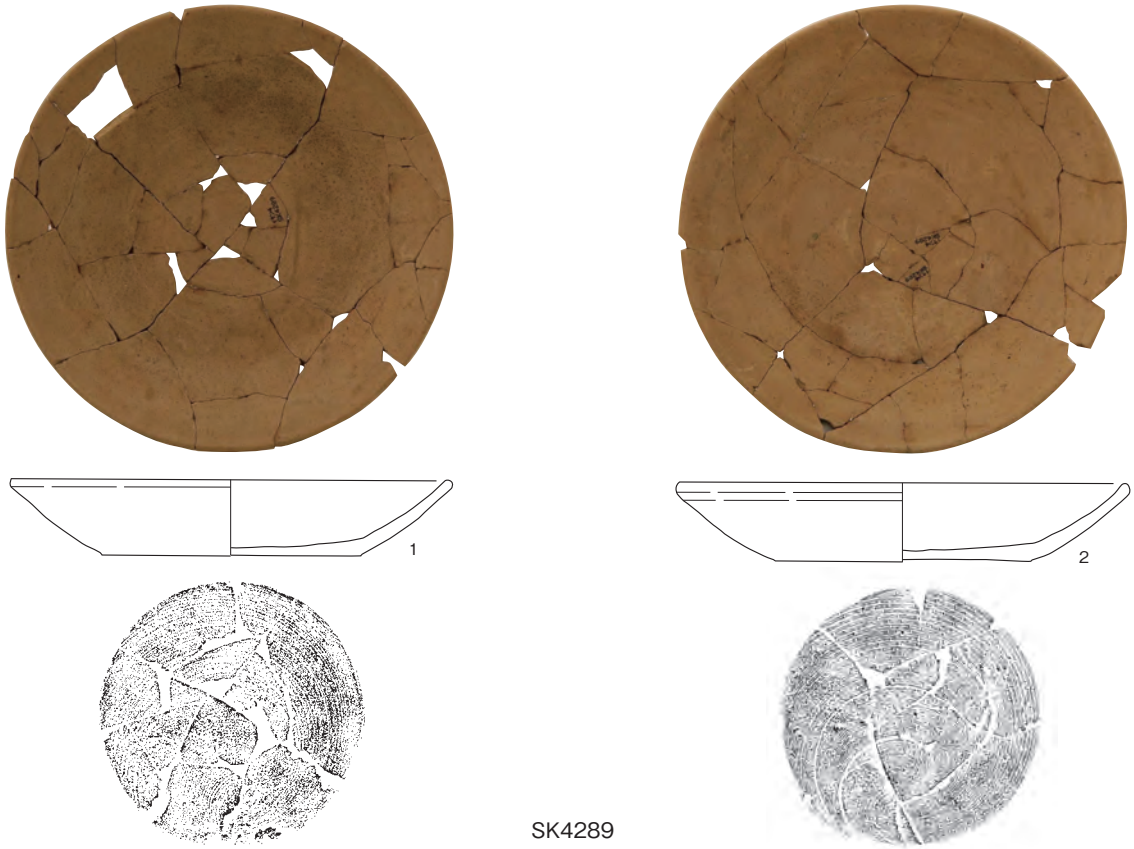


SU4203(2)

SE4212

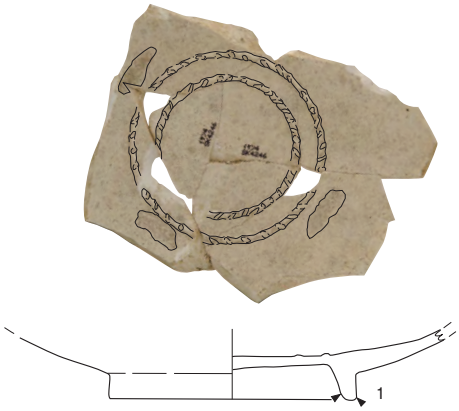


SK4232

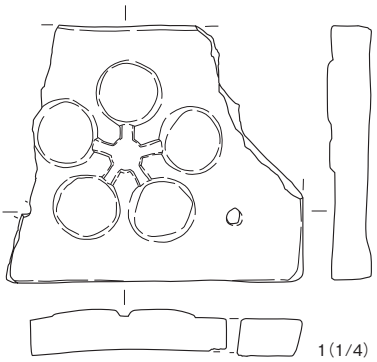


SK4289

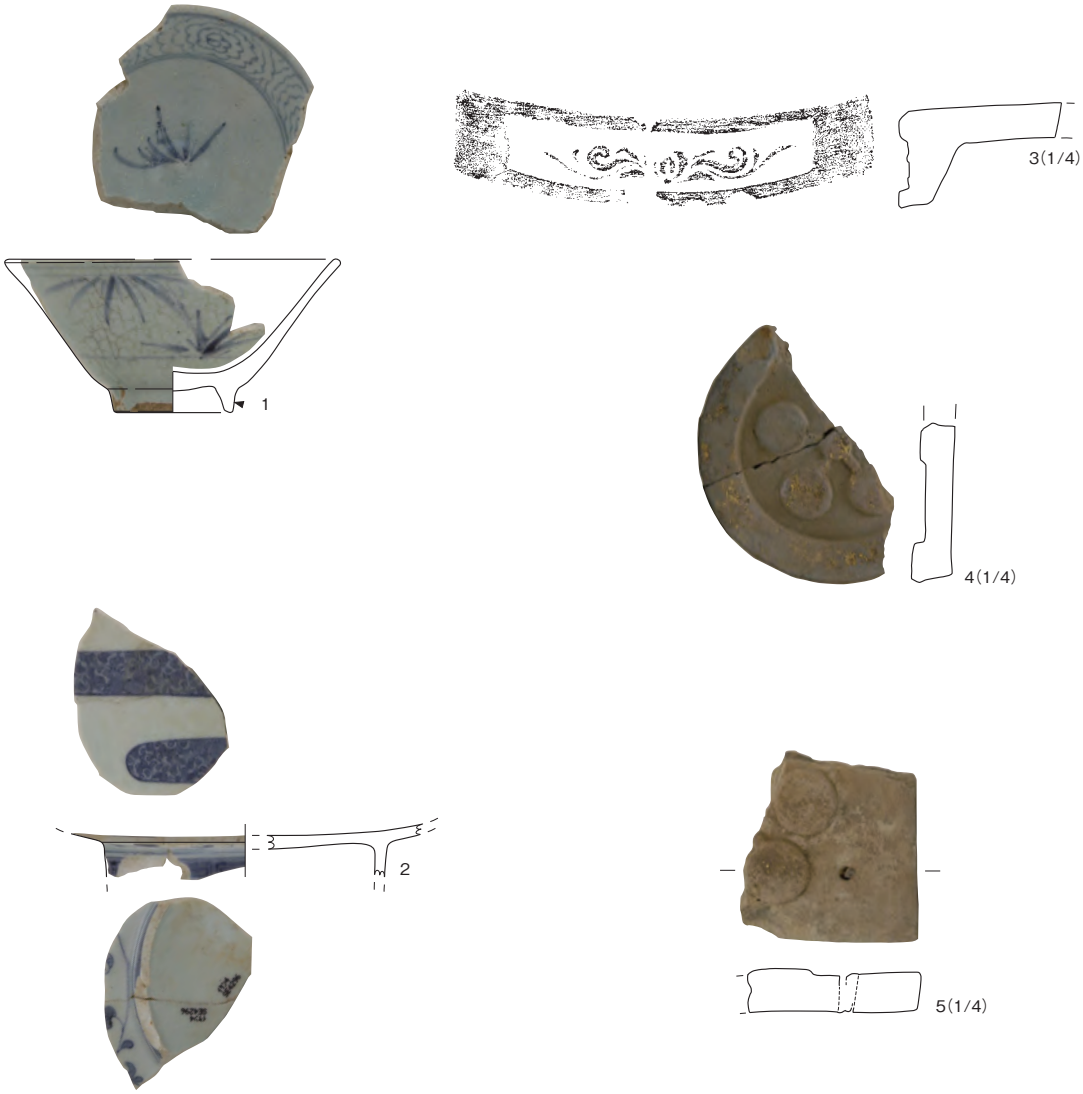
Ⅳ-61図　SU4203(2)、SE4212、SK4232、SK4289



SK4246

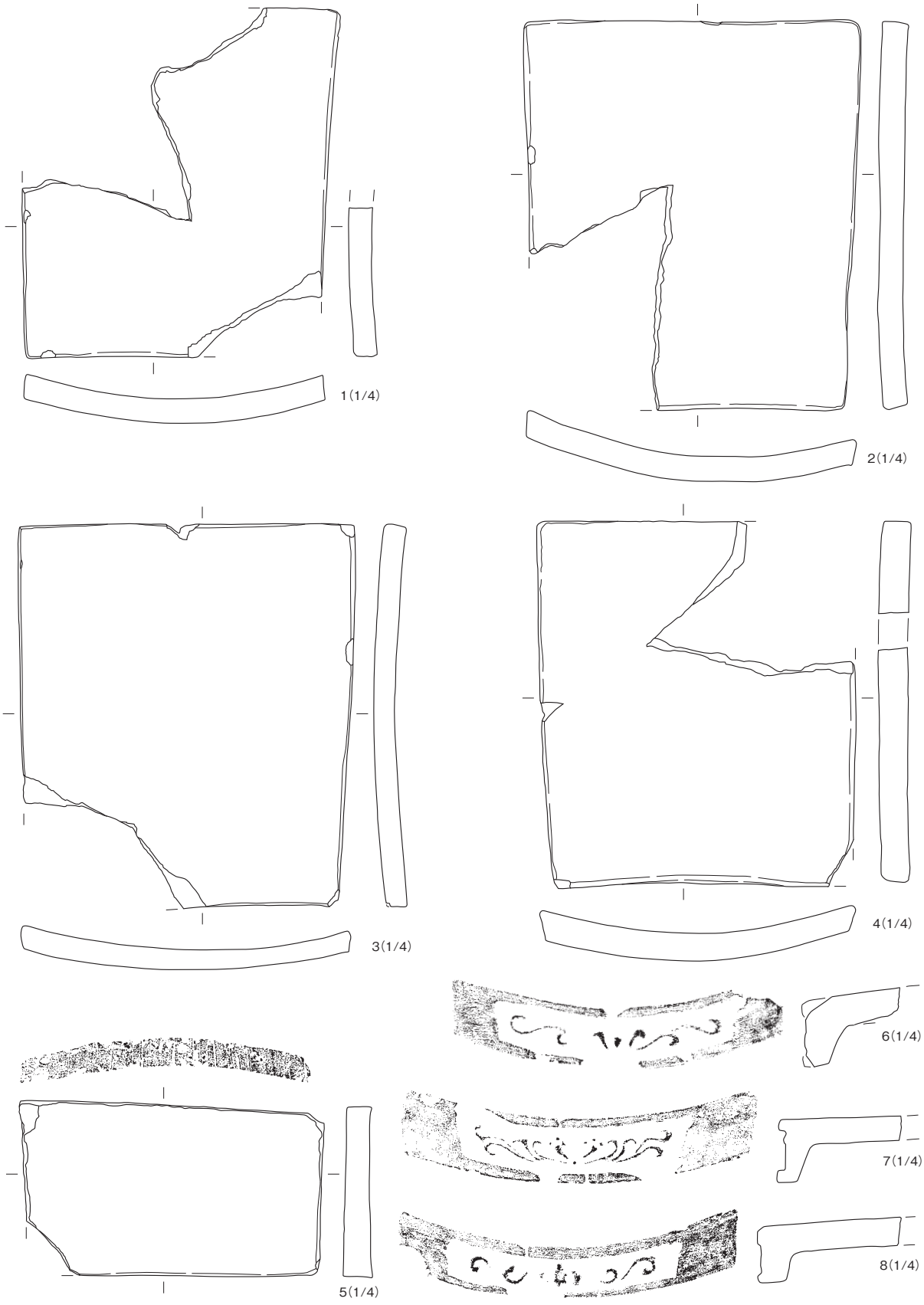


SP4295



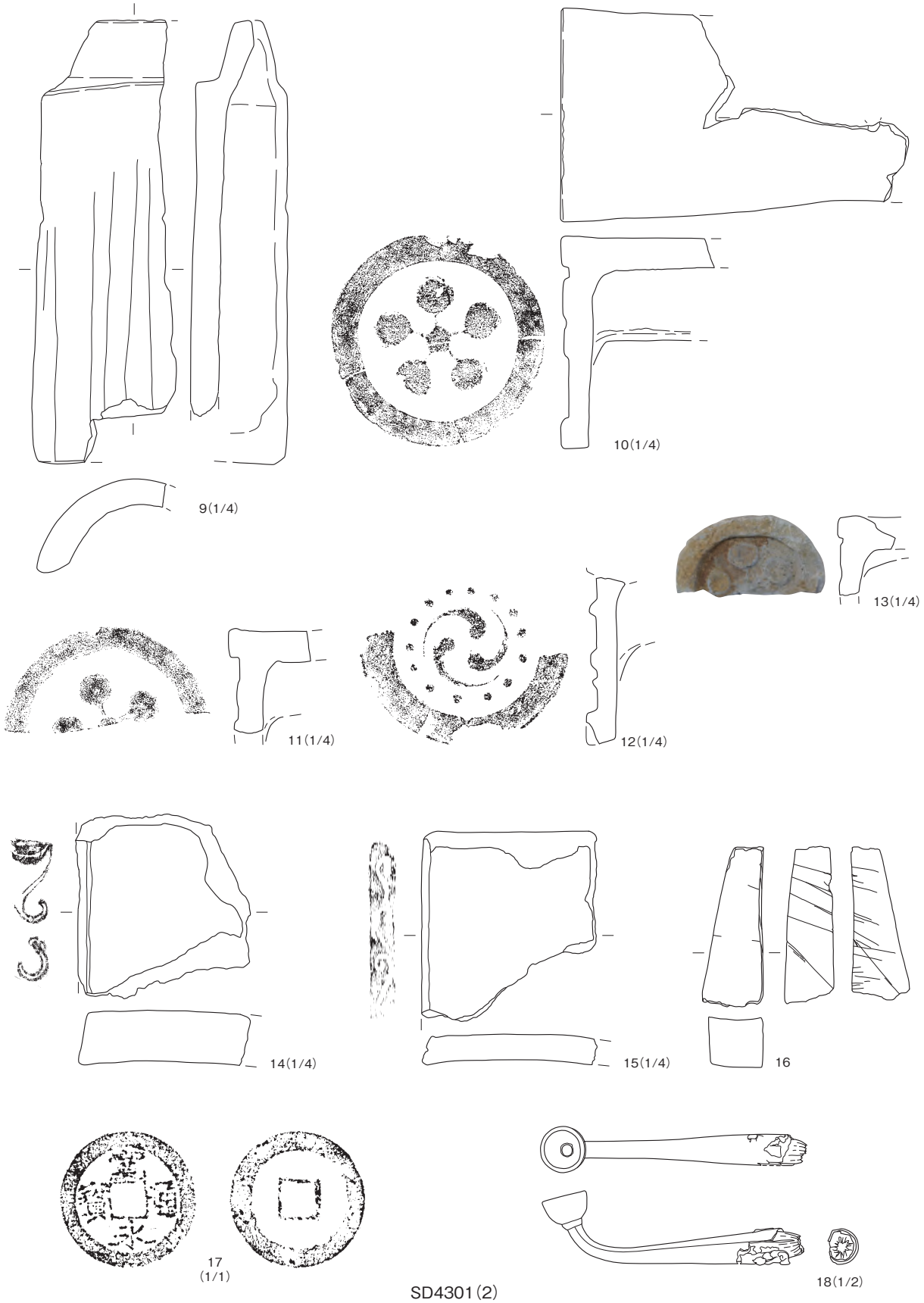
SE4296

Ⅳ-62図　SK4246、SP4295、SE4296



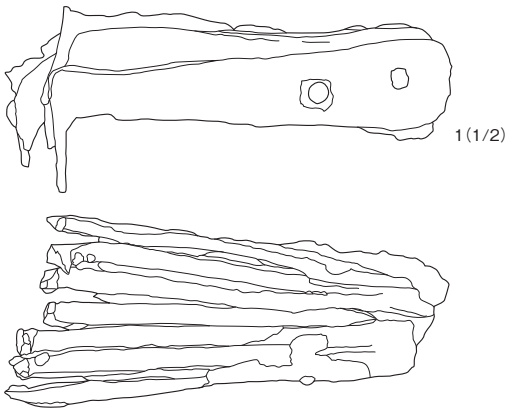
SD4301(1)

Ⅳ-63図　SD4301(1)

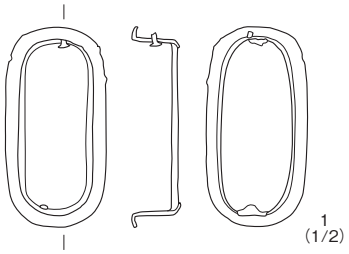


SD4301(2)

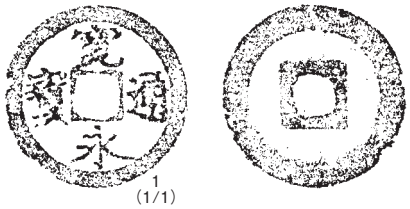
Ⅳ-64図　SD4301(2)



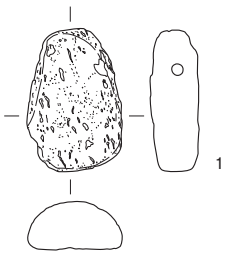
SP4305



SK4311



SK4344



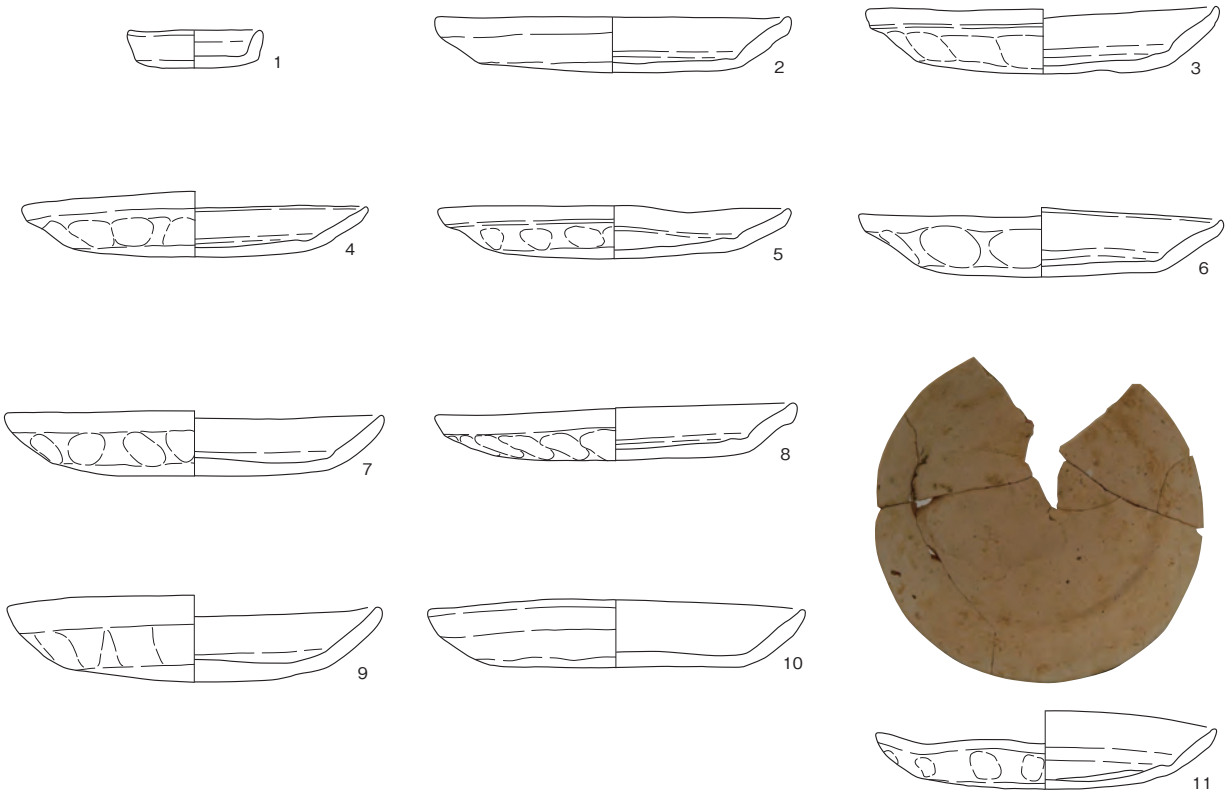
SD4341

SK4405

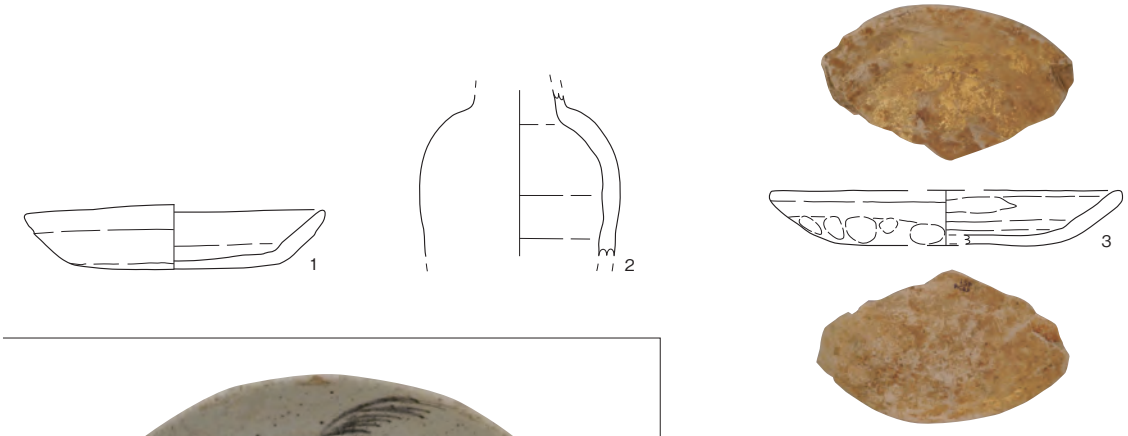
SK4432

SK4460

Ⅳ-65図　SP4305、SK4311、SD4341、SK4344、SK4405、SK4432、SK4460



SK4513

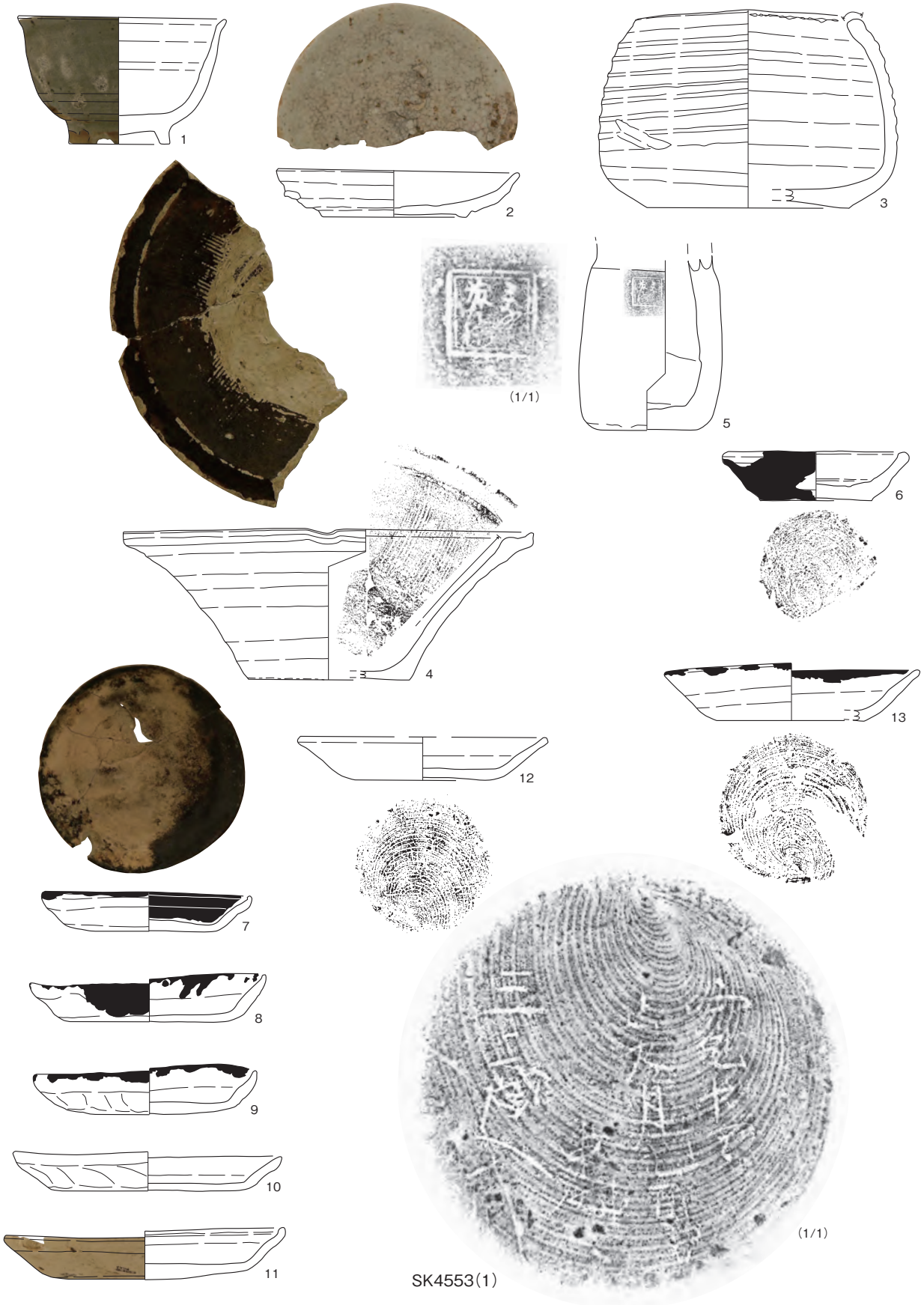


SK4516

SK4532

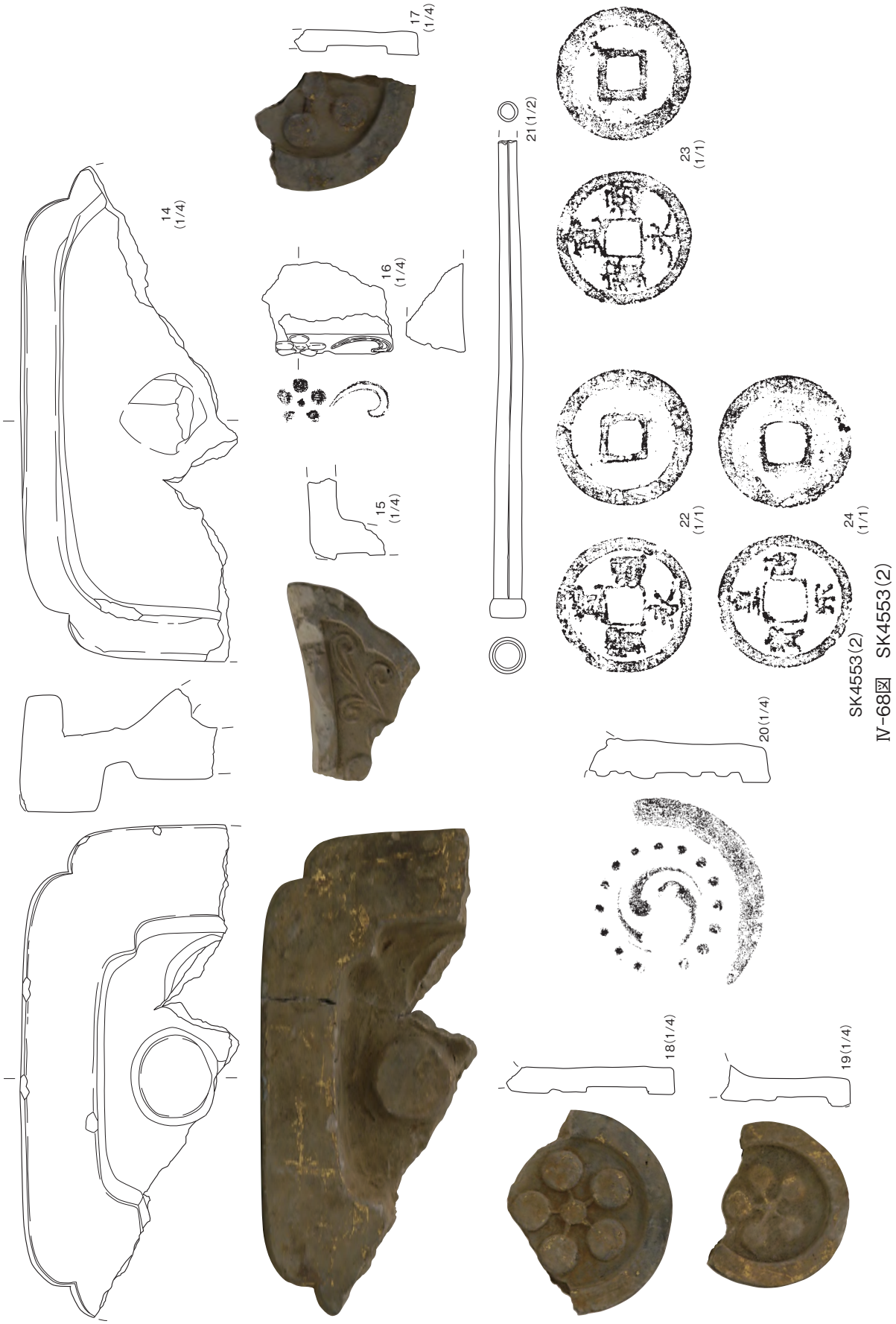
SK4535

Ⅳ-66図　SK4513、SK4516、SK4532、SK4535

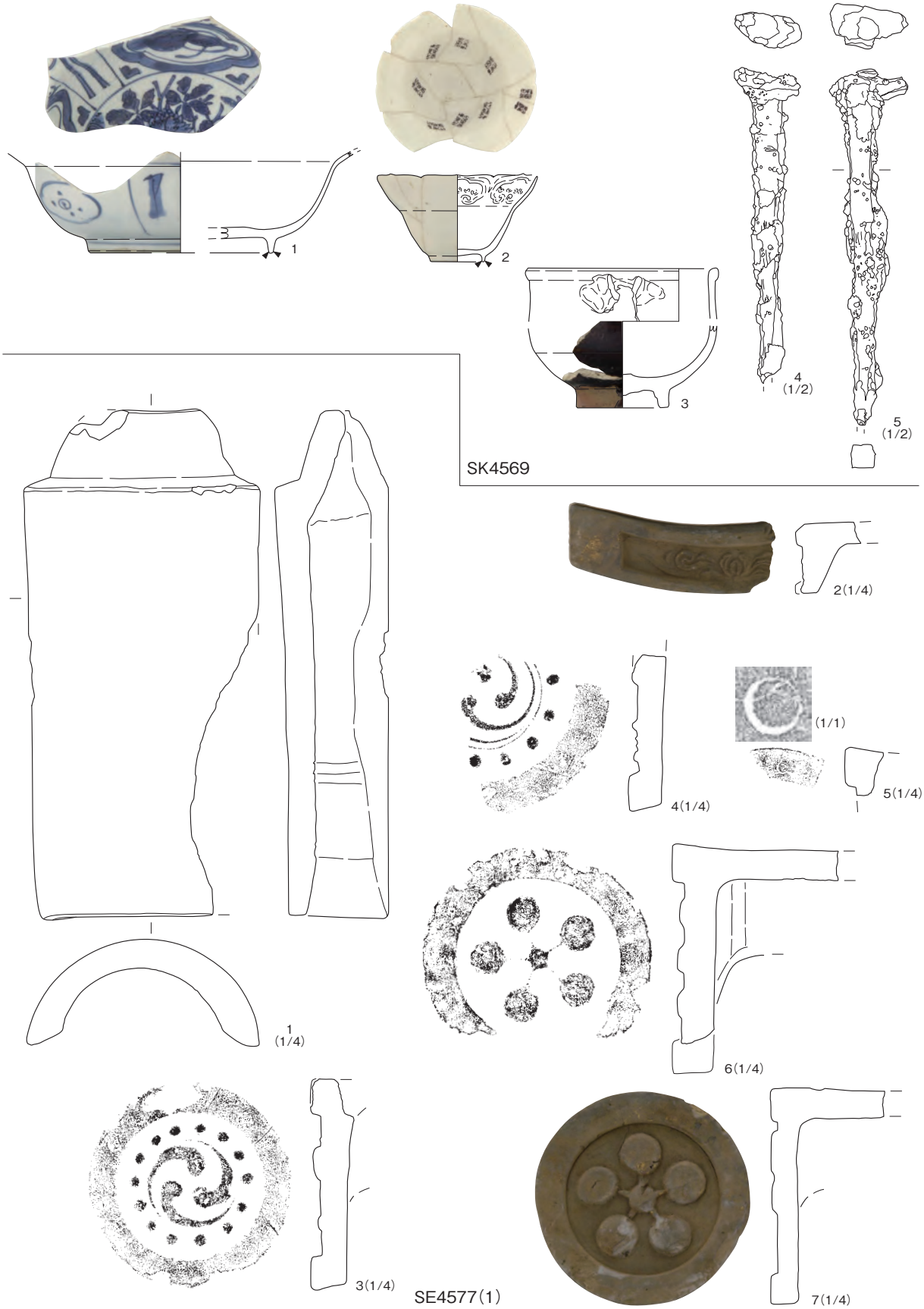


SK4553(1)

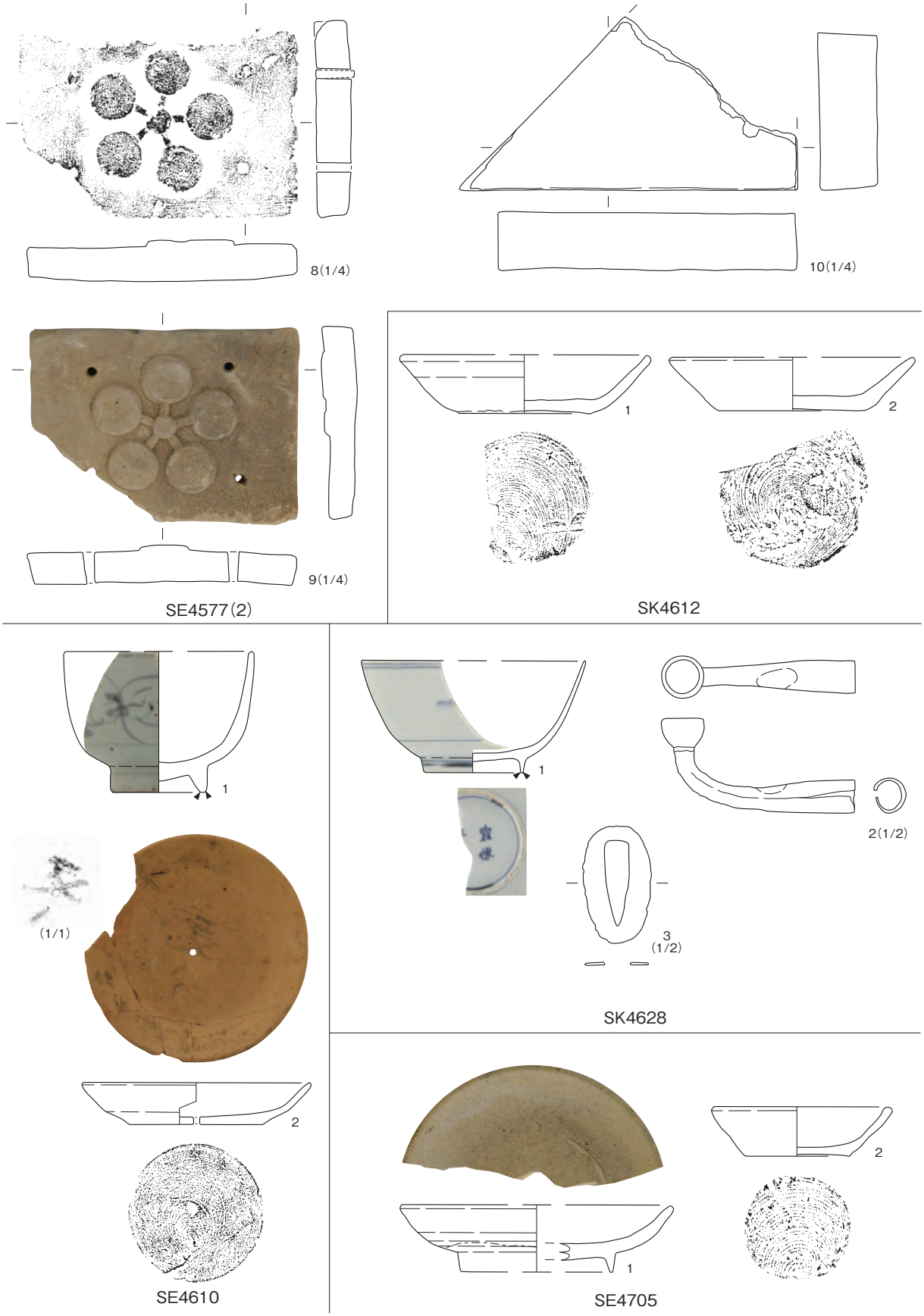
Ⅳ-67図　SK4553(1)



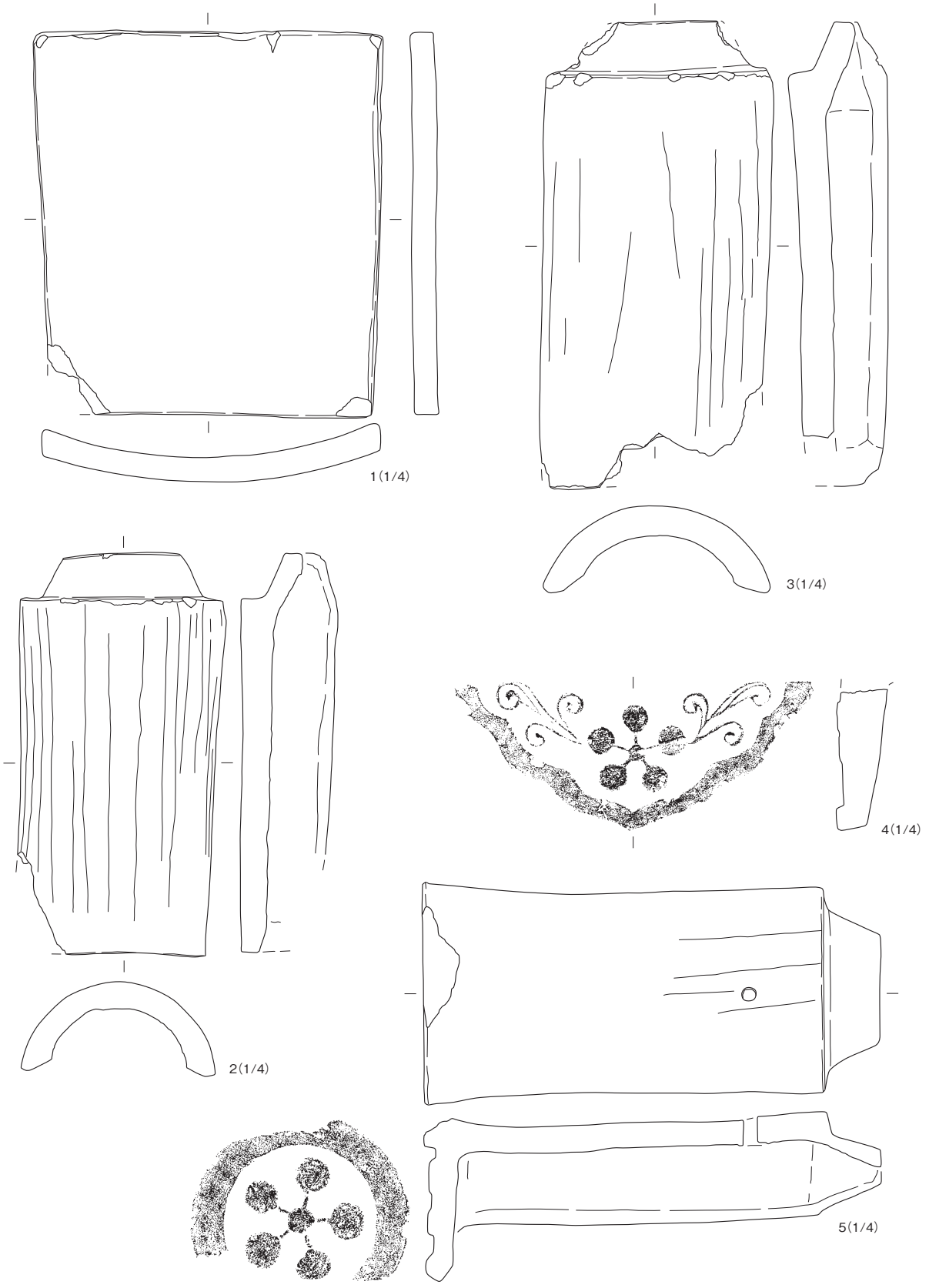
SK4553(2)
Ⅳ-68図　SK4553(2)



Ⅳ-69図　SK4569、SE4577(1)



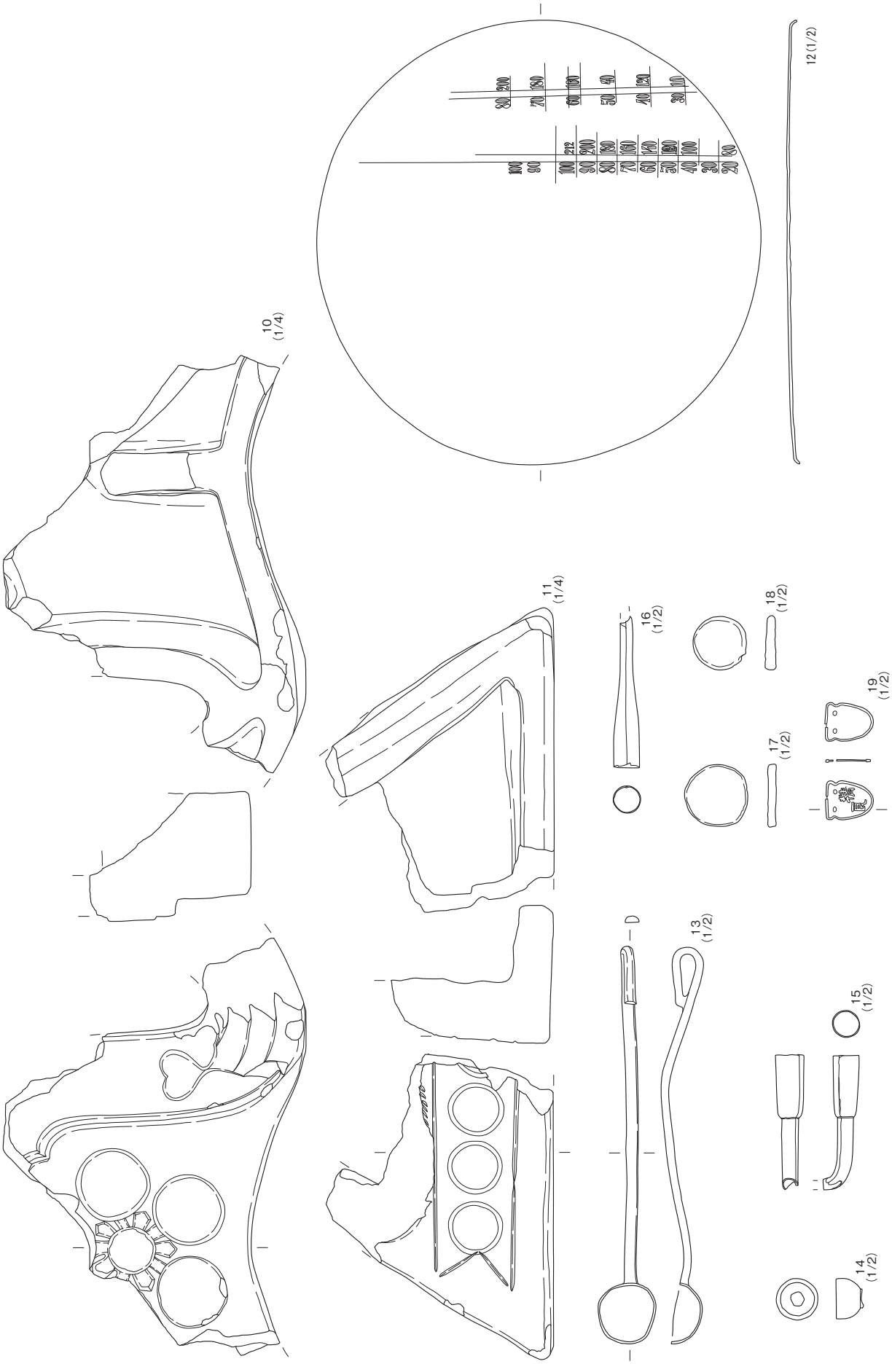
Ⅳ-70図　SE4577(2)、SE4610、SK4612、SK4628、SE4705



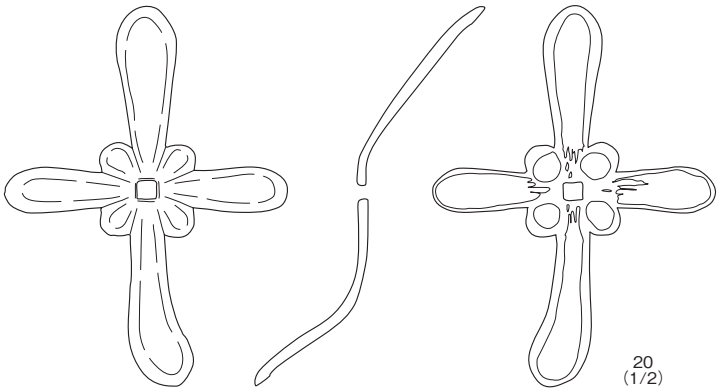
SE4706

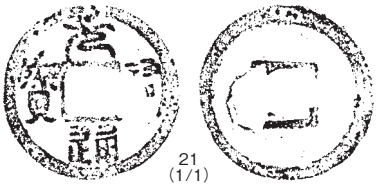
Ⅳ-71図　SE4706

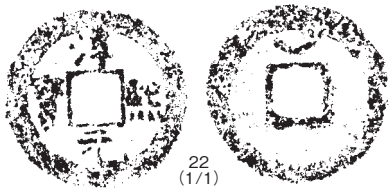
Ⅳ-72図　遺構外(1)

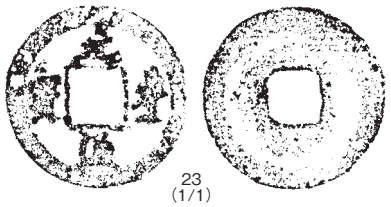


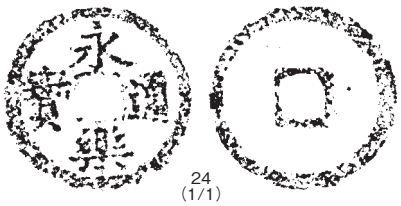
Ⅳ-73図　遺構外(2)

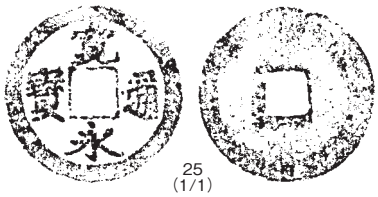

20 (1/2)

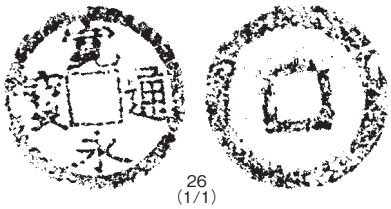

21 (1/1)

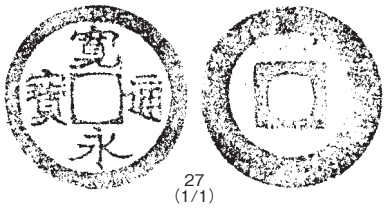

22 (1/1)

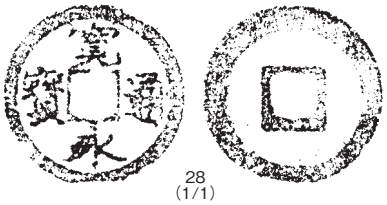

23 (1/1)

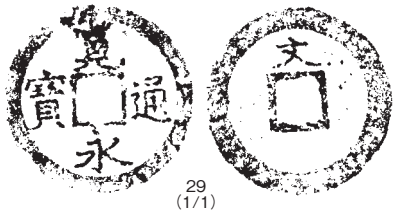

24 (1/1)

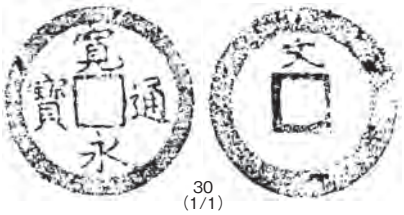

25 (1/1)

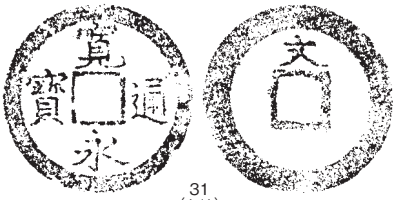

26 (1/1)

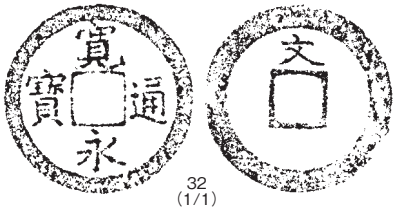

27 (1/1)

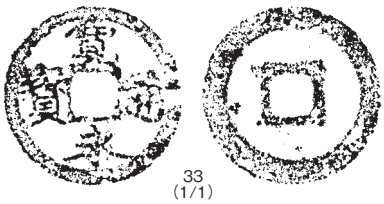

28 (1/1)


29 (1/1)

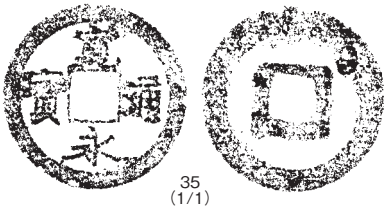

30 (1/1)


31 (1/1)

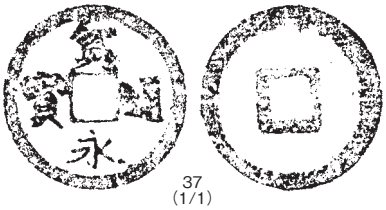

32 (1/1)


33 (1/1)

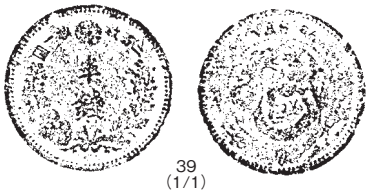
34 (1/1)


35 (1/1)

36 (1/1)


37 (1/1)

38 (1/1)


39 (1/1)

Ⅳ-74図　遺構外(3)

第Ⅴ章　おわりに

この調査の成果は、江戸大名藩邸機能の中心であった御殿空間に対して初めて広域に考古学的調査を行ったことであろう。

山上会館・御殿下記念館の発掘調査とその藩邸研究の中で、大名藩邸内における階層性と構造について、吉田伸之は加賀藩本郷邸の空間構成の分析から、大名藩邸を政治的な場と藩主並びにその家族の居住空間である「御殿空間」、家臣や中間、小者の活動・居住する空間である「詰人空間」という空間から構成され、城下町は武家地、寺町、町人地など異種的な社会が複合・分節的に共在すると提唱した（吉田 1988、1992）。また、金行信輔は御殿空間を藩主とその家族の生活空間である「殿舎空間」と家臣、奥女中などの使用人などが居住する「家政空間」とで構成されることを指摘した（金行 1995）。こうした流れ中で、宮崎勝美は発掘調査の実際に言及し、「遺構・遺物の階層性に注意を向ける役割を果たした」とする一方で、「御殿空間」、「詰人空間」といった二元的な構成は、加賀藩といった「最大の外様大名の、九万坪に近い非常に広大な邸宅であり、数百に及びその他の江戸屋敷と比べるならばむしろ特殊な事例である」と安易に普遍化することに対して注意を喚起している（宮崎 1994）。また、遺物の方でも加賀藩本郷邸御殿内にある馬屋関連の役場で出土した陶磁器類から、御殿空間が種々の機能が内包される空間であることを指摘した（堀内 2016）。

藩邸の本格的な考古学的調査は、1984 年からスタートするが、その嚆矢が山上会館・御殿下記念館地点の発掘調査であり（東京大学埋蔵文化財調査室 1990）、御殿空間内の調査であった。山上会館地点は、当時「育徳園」と称された藩邸御殿内の庭園、御殿下記念館地点は、残っている屋敷絵図から少なくとも 17 世紀末以降御殿空間ではあったものの、殿舎が存在した期間は、19 世紀初頭の「梅之御殿」と称された藩主婦人の隠居所として機能していた短期間のみであった。しかし、殿舎から距離があったことで、御殿で保管・利用された道具類の廃棄の場として利用されたことが、貿易陶磁器などの上質な陶磁器が数多く出土したことにもなっている。

本地点は、出土した遺構や遺物から、藩邸として拝領し、機能し始めた寛永年間（1624 ～ 45）から江戸時代を通して藩邸の中心的な場所であったと推定される。こうした場所の大きな調査はその後も行われておらず、現時点での調査成果である。調査区内の成果とは別に、これまで埋蔵文化財調査室で行った加賀藩邸の発掘調査は、加賀藩の詰人空間－理学部 7 号館地点（東京大学遺跡調査室 1989）、法学部 4 号館地点・文学部 3 号館地点（東京大学遺跡調査室 1990a）、山上会館龍岡門別館地点（東京大学埋蔵文化財調査室 2004）、総合研究博物館新館地点（東京大学埋蔵文化財調査室 2012a）、医学部附属病院受変電設備施設地点（東京大学埋蔵文化財調査室 2012b）など－、支藩である大聖寺藩や富山藩の調査－特に病院地区を中心とした医学部附属病院中央診療棟地点（東京大学遺跡調査室 1990b）、医学部附属病院外来診療棟地点（東京大学埋蔵文化財調査室 2005）、医学部附属病院入院棟 A 地点（東京大学埋蔵文化財調査室 2016）など－が中心であり、これらとの対比は本藩と支藩、御殿空間と詰人空間との相違を議論する上で重要な視点であり、今後深めていく必要があろう。

本調査では、広域に確認された整地・生活面はおおむね調査対象にした近代前期からローム面まで 7 枚確認されたが、場所によって層厚や遺存状況に違いが認められ、また、部分的な硬化面や遺構の切り込みは各所に見られ、有機的な復元が困難であった。特に理解を困難にしたのは、少なからず存在した土地の段差であった。面縁辺に存在したの土留をした間知石などが抜去された場合などは、面や遺構の同時期性の判断が難しく、そうした意味で欠落した情報も多かったことは事実であり、斜面地の都市遺跡の調査の難しさでもあると思われる。しかし、遺跡としての遺存状態は一部で帝国大学から現在までの撹乱によって削平されていたもののおおむね良好であり、御殿の状態や土地利用の変遷などが明らかにできたと考えている。

加賀藩は、江戸時代日本最大の石高、高位の家格を有する大名であり、これは当時の社会的、経済的地位から考えるなら、武士という身分に所属している人が持つ共通の生活様式（精神的共通性、人生儀礼や生活様式）を、典型的に保持していた可能性が強い。こうした象徴的な場における考古学的情報は、歴史を復元する具体的かつ重要な資料として位置づけられる。歴史考古学として歴史を文字以外の史料からみた場合や文字史料のみならず建築史、民俗、文化資源など広範な資料を用いての歴史復元にとっても有用なものとなろう。

本地点の発掘調査は4次にわたって行われたが、Ⅳ次調査が終了して17年の歳月が経過しての報告書の刊行は、誠に忸怩たる思いがある。関係各位にもお詫び申し上げたい。また、Ⅰ次調査時には普及していなかったデジタル測距技術を利用しての電子平板測量をⅣ次調査時に導入できたことは非常に大きかった。これによって御殿空間の調査に必要な遺構の正確な位置情報が得られたことで絵図面との照射、調査区と離れた他地点との関係など広域の対比が可能になった。

最後に本地点の発掘調査にさいして、本書冒頭にお名前をあげさせていただいた方以外にも、多くの方々に発掘調査、整理の中でご協力、ご助言をいただくなどお世話になった。改めて感謝する次第である。

【引用・参考文献】

安芸毬子・小林照子・堀内秀樹　2012 「東京大学構内遺跡出土人形・玩具の分類」『東京大学構内遺跡調査研究年報 8』東京大学埋蔵文化財調査室

石川県図書館協会　1938 「東邸沿革図譜」『景周先生小著集』

江戸文化資料刊行会　1970　万治年間江戸測量図

大成可乃　2011 「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(2)」『東京大学構内遺跡調査研究年報 7』

加藤晃・金子智　1990 「御殿下記念館・山上会館地点検出の瓦について」『山上会館・御殿下記念館地点　第 3 分冊』東京大学埋蔵文化財調査室

香取祐一　2004 「加賀藩本郷邸表長屋の変遷」『東京大学構内遺跡調査研究年報 4』東京大学埋蔵文化財調査室

金行信輔　2007 『寛永江戸全図』之潮

続群書類従完成会　1964 『新訂　寛政重修諸家譜』

古板江戸図集成刊行会　1958 『古板江戸図集成』

鈴木正章　1989 「遺跡の層序と地質学的調査・分析」『理学部 7 号館地点』東京大学遺跡調査室

瀬戸市史編纂委員会　1998 『瀬戸市史陶磁史篇六』

地図資料編纂会　1988 『江戸 - 東京市街地図集成』柏書房

東京大学遺跡調査室　1989 『理学部 7 号館地点』

東京大学遺跡調査室　1990a 『法学部 4 号館・文学部 3 号館建設地遺跡』

東京大学遺跡調査室　1990b 『医学部附属病院地点』

東京大学事務局庶務部庶務課　1982 『懐徳館の由来』

東京大学総合研究博物館　2000 『加賀殿再訪』

東京大学総合研究博物館　2011 『弥生誌－向岡記碑をめぐって－』

東京大学総合研究博物館・東京大学埋蔵文化財調査室　2017 『赤門－溶姫御殿から東京大学へ－』

東京大学埋蔵文化財調査室　1997 『東京大学構内遺跡調査研究年報 1』

東京大学埋蔵文化財調査室　1999 『東京大学構内遺跡調査研究年報 2』

東京大学埋蔵文化財調査室　2002 『東京大学構内遺跡調査研究年報 3』

東京大学埋蔵文化財調査室　2004 『東京大学構内遺跡調査研究年報 4』

東京大学埋蔵文化財調査室　2005a 『医学部附属病院外来診療棟地点』

東京大学埋蔵文化財調査室　2005b 『工学部 1 号館地点』

東京大学埋蔵文化財調査室　2006a 『工学部 14 号館地点』

東京大学埋蔵文化財調査室　2006b 『東京大学構内遺跡調査研究年報 5』

東京大学埋蔵文化財調査室　2008 『東京大学構内遺跡調査研究年報 6』

東京大学埋蔵文化財調査室　2009 『浅野地区Ⅰ』

東京大学埋蔵文化財調査室　2011a 『教育学部教育研究棟地点・IML 地点』

東京大学埋蔵文化財調査室　2011b 『東京大学構内遺跡調査研究年報 7』

東京大学埋蔵文化財調査室　2012a 『東京大学構内遺跡調査研究年報 8』

東京大学埋蔵文化財調査室　2012b 『総合研究博物館新館地点』

東京大学埋蔵文化財調査室　2016 『医学部附属病院入院棟 A 地点』

東京大学埋蔵文化財調査室　2017 『東京大学構内遺跡調査研究年報 10』

東京帝国大学庶務課　1935 『懐徳館の由来』

東京都教育委員会　1985 『都心部の遺跡』

成瀬晃司　2008 「Ⅲ章　白山御殿の惣囲いについて」『東京大学構内遺跡調査研究年報 6』東京大学埋蔵文化財調査室』

日本建築学会　1908 「巻末附図説明　前田侯爵邸建築工事概要」『建築雑誌』263

橋本真紀夫　2009 「東京大学浅野地区の方形周溝墓における土壌分析」『浅野地区Ⅰ』東京大学埋蔵文化財調査室

兵庫県教育委員会　2005 『南あわじ市珉平焼窯跡』

藤井恵介　1994 「本郷前田侯爵邸と東京大学」『東京大学総合研究資料館ニュース』32 東京大学総合研究資料館

堀内秀樹　1994 「総合研究資料館増築に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要」『東京大学総合研究資料館ニュース』32 東京大学総合研究資料館

堀内秀樹　1997 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」『東京大学構内遺跡調査研究年報 1』東京大学埋蔵文化財調査室

本郷區役所　1937 『本郷區史』

報告書抄録

ふりがな	とうきょうだいがくほんごうこうないのいせき　いがくぶきょういくけんきゅうとうちてん　ほうこくへん
書名	東京大学本郷構内の遺跡　医学部教育研究棟地点　報告編
副書名	
巻次	
シリーズ名	東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書
シリーズ番号	14
編著者名	堀内秀樹（編）、大成可乃、大貫浩子、小林照子（編）
編集機関	東京大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒153-8904　東京都目黒区駒場4-6-1 駒場リサーチキャンパス内　　03-5452-5103
発行年月日	平成31年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
トウキョウダイガクホンゴウコウナイ イセキ 東京大学本郷構内の遺跡 ホンゴウダイセキグン （本郷台遺跡群） イガクブキョウイクケンキュウトウチテン 医学部教育研究棟地点	トウキョウトブンキョウク 東京都文京区 ホンゴウチョウメ バン 本郷7丁目3番1 ゴウ 号	13105	47	北緯35度42分35秒	東経139度45分44秒	Ⅰ次：1994年11月17日～1995年4月28日 Ⅱ次：1997年3月10日～4月25日 Ⅲ次：1998年11月2日～12月25日 Ⅳ次：2002年9月3日～12月25日	2,901㎡	医学部教育研究棟新営に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東京大学本郷構内の遺跡 （本郷台遺跡群） 医学部教育研究棟地点	包蔵地、集落、大名屋敷	縄文、近世、近代	縄文：陥穴 近世：井戸、能舞台、厠、礎石建物、地下室、植栽痕、塀、道路、盛土、溝、石敷、畝状遺構 近代：土蔵、塀、排水路、井戸	近世・近代：磁器、陶器、土器、瓦、金属製品、石製品、ガラス製品、木製品、骨角製品、動物遺体	

要約	加賀藩下屋敷（～1682年）、幕臣地（～1657年）、加賀藩上屋敷（1683～1871年）、前田侯爵邸（1871～1928年）の調査。上屋敷時代は、御殿空間として機能。御殿の強固な礎石建物基礎、瓦積みの地下室、能舞台など大名屋敷の遺跡として象徴的な遺構が確認。 天和2（1682）年の火災に伴う資料が注目される。支藩である大聖寺藩邸の造成土出土のものと接合したことから火災後の藩邸造成の一様相が復元される。

東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 14

東京大学本郷構内の遺跡

医学部教育研究棟地点
報告編

2019 年 3 月 31 日発行
編集・発行　東京大学埋蔵文化財調査室
東京都目黒区駒場 4 － 6 － 1
http://www.aru.u-tokyo.ac.jp
印　刷　　能登印刷株式会社